

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄							備考
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホジシキョウリンガクエン 学校法人 杏林学園							
フリガナ大学の名称	キョウリンダいがく 杏林大学 (Kyorin University)							
大学本部の位置	東京都三鷹市新川六丁目20番2号							
大学の目的	本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、かつ建学の精神に基づいて、崇高な人類愛と高度の科学精神を基盤とするすぐれた人材の育成を目的とし、もって広く人類の福祉に貢献することを使命とする。							
新設学部等の目的	保健学部リハビリテーション学科は、理学療法学専攻、作業療法学専攻そして言語聴覚療法学専攻の3専攻を配し、同一学科において理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を養成する。医療人としての高い倫理観に裏づけされた豊かな人間性とリハビリテーションに関する高度な知識、技術を備え、様々な障害に対する機能回復だけでなく、地域医療や福祉の場における健康の維持増進など幅広い領域において貢献できる人材を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	保健学部 リハビリテーション学科 (Department of Rehabilitation)	年	人	年次人	人		年月 第年次	
	理学療法学専攻 (Physical Therapy Major)	4	140	—	560	学士 (理学療法学) 【Bachelor of Physical Therapy】	令和5年4月 第1年次	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号
	作業療法学専攻 (Occupational Therapy Major)	4	65	—	260	学士 (作業療法学) 【Bachelor of Occupational Therapy】	令和5年4月 第1年次	同上
	言語聴覚療法学専攻 (Speech-Language-Hearing Therapy Major)	4	50	—	200	学士 (言語聴覚療法学) 【Bachelor of Speech-Language-Hearing Therapy】	令和5年4月 第1年次	同上
計		4	25	—	100		令和5年4月 第1年次	同上
計			140	—	560			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	保健学部 理学療法学科（廃止）（△56） ※令和5年4月学生募集停止 作業療法学科（廃止）（△54） ※令和5年4月学生募集停止							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	保健学部 リハビリテーション学科							
	理学療法学専攻	77科目	20科目	16科目	113科目	125単位		
	作業療法学専攻	90科目	11科目	15科目	116科目	125単位		
言語聴覚療法学専攻	83科目	12科目	7科目	102科目	125単位			

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	人
新 設 分			人	人	人	人	人	人	人
新 設 分	保健学部	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	4 (4)	7 (7)	3 (3)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	128 (128)
		リハビリテーション学科 作業療法学専攻	5 (5)	2 (2)	1 (1)	8 (8)	16 (16)	0 (0)	129 (129)
		リハビリテーション学科 言語聴覚療法学専攻	4 (4)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	129 (129)
		計	13 (13)	11 (11)	5 (5)	11 (11)	40 (40)	0 (0)	— (—)
既 設	医学部	医学科	85 (85)	35 (35)	54 (54)	146 (146)	320 (320)	0 (0)	169 (169)
	保健学部	臨床検査技術学科	9 (9)	11 (11)	9 (9)	8 (8)	37 (37)	0 (0)	92 (92)
		健康福祉学科	5 (5)	5 (5)	3 (3)	6 (6)	19 (19)	0 (0)	94 (94)
		看護学科 看護学専攻	9 (9)	8 (8)	14 (14)	13 (13)	44 (44)	0 (0)	87 (87)
		看護学科 看護養護教育学専攻	7 (7)	3 (3)	6 (6)	11 (11)	27 (27)	0 (0)	84 (84)
		臨床工学科	6 (6)	1 (1)	4 (4)	4 (4)	15 (15)	0 (0)	80 (80)
		救急救命学科	4 (4)	4 (4)	6 (6)	3 (3)	17 (17)	0 (0)	31 (31)
		診療放射線技術学科	6 (6)	3 (3)	2 (2)	6 (6)	17 (17)	0 (0)	79 (79)
		臨床心理学科	5 (5)	2 (2)	9 (9)	2 (2)	18 (18)	0 (0)	37 (37)
		総合政策学部 総合政策学科	10 (10)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	70 (70)
概 要		企業経営学科	7 (7)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	77 (77)
	外国語学部	英語学科	7 (7)	3 (3)	5 (5)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	61 (61)
		中国語学科	4 (4)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	52 (52)
		観光交流文化学科	8 (8)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	63 (63)
		計	172 (172)	90 (90)	119 (119)	199 (199)	580 (580)	0 (0)	— (—)
	合 計	185 (185)	101 (101)	124 (124)	210 (210)	620 (620)	0 (0)	— (—)	
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		人 257 (257)		人 349 (349)		人 606 (606)		
	技 術 職 員		1842 (1842)		137 (137)		1979 (1979)		
	図 書 館 専 門 職 員		9 (9)		0 (0)		9 (9)		
	そ の 他 の 職 員		1 (1)		1 (1)		2 (2)		
計		2109 (2109)		487 (487)		2596 (2596)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	221,276.82㎡	0㎡		0㎡		221,276.82㎡		
	運 動 場 用 地	14,570.00㎡	0㎡		0㎡		14,570.00㎡		
	小 計	235,846.82㎡	0㎡		0㎡		235,846.82㎡		
	そ の 他	2,301.09㎡	0㎡		0㎡		2,301.09㎡		
合 計	238,147.91㎡	0㎡		0㎡		238,147.91㎡			

校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計							
		130,705.84㎡ (130,748.82㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	130,705.84㎡ (130,748.82㎡)							
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体					
	111室	139室	62室	8室 (補助職員0人)	3室 (補助職員0人)							
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数							
		保健学部 リハビリテーション学科			12室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特 定不能なため、 大学全体の数				
	保健学部 リハビリテーショ ン	262,733 [46,063] (241,533 [44,863])	207,385 [128,569] (207,385 [128,569])	16,918 [15,408] (16,918 [15,408])	10,852 (10,852)	34,259 (34,259)	476 (476)					
	計	262,733 [46,063] (241,533 [44,863])	207,385 [128,569] (207,385 [128,569])	16,918 [15,408] (16,918 [15,408])	10852 (10,852)	34259 (34,259)	476 (476)					
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体					
		6,898.30㎡		808	463,000							
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体				
		17,743.11㎡		野球場1面 テニスコート6面 弓道場1 アーチェリー練習場1								
経 費 の 積 立 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		教員1人当り研究費等		534千円	534千円	534千円	534千円	－千円	－千円			
		共同研究費等		9,000千円	9,000千円	9,000千円	9,000千円	－千円	－千円			
		図書購入費	30,370千円	30,170千円	31,969千円	33,948千円	36,125千円	－千円	－千円			
	設備購入費	9,911千円	9,911千円	9,911千円	9,911千円	9,911千円	－千円	－千円				
	学生1人当り納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		医学部		9,500千円	5,500千円	5,500千円	5,500千円	5,500千円	5,500千円			
		保健学部 (健福、心理)		1,650千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	－千円	－千円			
		保健学部 (上記以外)		1,900千円	1,650千円	1,650千円	1,650千円	－千円	－千円			
		総合政策学部		1,170千円	920千円	920千円	920千円	－千円	－千円			
外国語学部		1,170千円	920千円	920千円	920千円	－千円	－千円					
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金等収入、手数料収入等									
大 学 の 名 称		杏林大学										
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地		※令和4年度入学定 員減 (△9人)	
医学研究科 (博士課程)		年	人	年次 人	人	博士 (医学)	0.35	昭和51年度	東京都三鷹市新川 六丁目20番2号			
保健学研究科							博士前期 0.88 博士後期 0.41					
保健学専攻 (博士前期課程)		2	7	－	14	修士 (保健学)	1.06	昭和59年度	東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号			
看護学専攻 (博士前期課程)		2	2	－	9	修士 (看護学)	0.14	平成20年度	東京都三鷹市新川 六丁目20番2号 東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号			※令和4年度入学定 員減 (△5人)
臨床心理学専攻 (博士前期課程)		2	25	－	25	修士 (臨床心理学)	1.04	令和4年度	東京都三鷹市新川 六丁目20番2号			※令和4年度開設
保健学専攻 (博士後期課程)		3	4	－	12	博士 (保健学)	0.58	昭和61年度	東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号			
看護学専攻 (博士後期課程)		3	1	－	5	博士 (看護学)	0.00	平成22年度	東京都三鷹市新川 六丁目20番2号 東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号		※令和4年度入学定 員減 (△1人)	
国際協力研究科							博士前期 0.52 博士後期 0.33					

既設大学等の状況	国際開発専攻 (博士前期課程)	2	6	—	16	修士 (開発学)	0.41	平成5年度	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号	※令和4年度入学生定員減(△4人)
	国際医療協力専攻 (博士前期課程)	2	4	—	10	修士 (国際医療協力)	0.33	平成16年度	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号 東京都三鷹市新川六丁目20番2号	※令和4年度入学生定員減(△2人)
	グローバル・コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2	10	—	34	修士 (学術)	0.67	平成31年度	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号	※令和4年度入学生定員減(△14人)
	開発問題専攻 (博士後期課程)	3	5	—	25	博士 (学術)	0.33	平成7年度	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号	※令和4年度入学生定員減(△5人)
	医学部						1.00			
	医学科	6	117	—	698	学士 (医学)	1.00	昭和45年度	東京都三鷹市新川六丁目20番2号	※令和4年度入学生定員増(2人) ※令和5年度入学生定員減(△12人)
	保健学部						1.03			
	臨床検査技術学科	4	120	—	480	学士 (保健衛生学)	1.01	昭和54年度	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号	
	健康福祉学科	4	120	—	270	学士 (保健衛生学)	1.02	昭和54年度	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号 東京都八王子市宮下町476	※令和4年度入学生定員増(70人)
	看護学科	4	150	—	600	学士 (看護学)	1.03			
	(看護学専攻)	(4)	(100)	(—)	(400)		(1.02)	平成6年度	東京都三鷹市新川六丁目20番2号	
	(看護養護教育学専攻)	(4)	(50)	(—)	(200)		(1.05)	平成24年度	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号	
	臨床工学科	4	60	—	240	学士 (臨床工学)	1.02	平成18年度	同上	
	救急救命学科	4	50	—	200	学士 (救急救命学)	1.06	平成19年度	同上	
	理学療法学科	4	56	—	224	学士 (理学療法学)	1.05	平成21年度	同上	※令和5年度より学生募集停止
	作業療法学科	4	54	—	216	学士 (作業療法学)	1.00	平成23年度	同上	※令和5年度より学生募集停止
	診療放射線技術学科	4	66	—	264	学士 (診療放射線学)	1.03	平成25年度	同上	
	臨床心理学科	4	80	—	320	学士 (臨床心理学)	1.07	平成30年度	同上	
	総合政策学部						1.08			
	総合政策学科	4	150	3年次 4	607	学士 (総合政策学)	1.07	昭和59年度 平成10年度	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号 東京都八王子市宮下町476	※令和4年度3年次編入学生定員増(1人)
	企業経営学科	4	80	3年次 2	325	学士 (企業経営学)	1.10	平成18年度 平成20年度	同上	※令和4年度3年次編入学生定員減(△1人)
外国語学部						1.05				
英語学科	4	130	3年次 4	528	学士 (文学)	1.10	平成18年度 平成20年度	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号		
中国語学科	4	32	3年次 2	129	学士 (中国語コミュニケーション学)	1.05	平成23年度 平成25年度	同上	※令和4年度入学生定員増(2人) ※令和4年度3年次編入学生定員減(△3人)	
観光交流文化学科	4	90	3年次 2	365	学士 (観光交流文化学)	0.98	平成22年度 平成24年度	同上	※令和4年度3年次編入学生定員減(△1人)	

附属施設の概要	名称：杏林大学医学部附属病院 目的：診療、教育、研究 所在地：東京都三鷹市新川六丁目20番2号 設置年月：昭和45年8月 規模等：土地27,857.65㎡，建物117,651.16㎡	
---------	---	--

学校法人杏林学園 収容定員変更に係る認可申請等の組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	→	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更事由
杏林大学					杏林大学				
医学部					医学部				
医学科	117	-	698	→	医学科	105	-	686	
保健学部					保健学部				
臨床検査技術学科	120	-	480	→	臨床検査技術学科	120	-	480	
健康福祉学科	120	-	480	→	健康福祉学科	120	-	480	
看護学科	150	-	600	→	看護学科	150	-	600	
看護学専攻	(100)	-	(400)		看護学専攻	(100)	-	(400)	
看護養護教育学専攻	(50)	-	(200)		看護養護教育学専攻	(50)	-	(200)	
臨床工学科	60	-	240	→	臨床工学科	60	-	240	
救急救命学科	50	-	200	→	救急救命学科	50	-	200	
理学療法学科	56	-	224	→	理学療法学科	0	-	0	令和5年度学生募集停止
作業療法学科	54	-	216	→	作業療法学科	0	-	0	令和5年度学生募集停止
診療放射線技術学科	66	-	264	→	診療放射線技術学科	66	-	264	
臨床心理学科	80	-	320	→	臨床心理学科	80	-	320	
					リハビリテーション学科	140	-	560	令和5年4月設置予定
					理学療法学専攻	(65)	-	(260)	(令和5年4月設置予定)
					作業療法学専攻	(50)	-	(200)	(令和5年4月設置予定)
					言語聴覚療法学専攻	(25)	-	(100)	(令和5年4月設置予定)
外国語学部					外国語学部				
英語学科	130	3年次 4	528	→	英語学科	130	3年次 4	528	
中国語学科	32	3年次 2	132	→	中国語学科	32	3年次 2	132	
観光交流文化学科	90	3年次 2	364	→	観光交流文化学科	90	3年次 2	364	
総合政策学部					総合政策学部				
総合政策学科	150	3年次 4	608	→	総合政策学科	150	3年次 4	608	
企業経営学科	80	3年次 2	324	→	企業経営学科	80	3年次 2	324	
	1355	3年次 14	5678			1373	3年次 14	5786	
杏林大学大学院					杏林大学大学院				
医学研究科					医学研究科				
医学専攻 (博士課程)	25	-	100	→	医学専攻 (博士課程)	25	-	100	
保健学研究科					保健学研究科				
保健学専攻 (博士前期課程)	7	-	14	→	保健学専攻 (博士前期課程)	7	-	14	
看護学専攻 (博士前期課程)	2	-	4	→	看護学専攻 (博士前期課程)	2	-	4	
臨床心理学専攻 (博士前期課程)	25	-	50		臨床心理学専攻 (博士前期課程)	25	-	50	
保健学専攻 (博士後期課程)	4	-	12	→	保健学専攻 (博士後期課程)	4	-	12	
看護学専攻 (博士後期課程)	1	-	3	→	看護学専攻 (博士後期課程)	1	-	3	
国際協力研究科					国際協力研究科				
国際開発専攻 (博士前期課程)	6	-	12	→	国際開発専攻 (博士前期課程)	6	-	12	
国際医療協力専攻 (博士前期課程)	4	-	8	→	国際医療協力専攻 (博士前期課程)	4	-	8	
グローバル・コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	10	-	20	→	グローバル・コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	10	-	20	
開発問題専攻 (博士後期課程)	5	-	15	→	開発問題専攻 (博士後期課程)	5	-	15	
計	89	-	238		計	89	-	238	

教育課程等の概要

(杏林大学保健学部リハビリテーション学科理学療法専攻)

科目区分	授業科目の名称	開講年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎分野	心理学	1前		2		○									兼1	オムニバス
	生命倫理学	1後		2		○									兼1	
	芸術	1前・後		2		○									兼1	
	社会福祉学	1後		2		○									兼3	
	発達心理学	1後		2		○									兼1	
	職業適性論	1後		2		○					1				兼9	
	日本国憲法	1後		2		○									兼1	
	日本語学	1前・後		2		○									兼1	
	ことばと社会	1前・後		2		○									兼1	
	保健・医療の現状と未来Ⅰ	1前		2		○									兼15	
	保健・医療の現状と未来Ⅱ	1前		2		○									兼14	
	社会と大学Ⅰ	1前		2		○									兼14	
	社会と大学Ⅱ	1前		2		○									兼13	
社会と大学Ⅲ	1前		2		○									兼12		
自然科学系	数学	1前		2		○									兼1	
	統計学	1後		2		○									兼1	
	情報処理論	1前	2			○					1					
	基礎物理学	1前		1		○									兼1	
	基礎化学	1前		1		○									兼1	
	生化学概論	1後		2		○									兼3	
	基礎生物学	1前		1		○									兼1	
生命科学概論	1前		2		○									兼1		
語学系	英語プレゼンテーション	1前	2			○									兼1	
	英語読解	1後	2			○									兼1	
	保健医療英語	2前		2		○									兼1	
	英会話	1前・後		2		○									兼2	
	医学英語	2後		2		○									兼1	
	日本語表現法	1後	2			○									兼1	
小計(28科目)			—	8	45	0	—			0	0	1	0	0	兼99	
専門基礎分野	解剖学	1前		2		○									兼3	
	リハビリテーション学	1後		1		○				1						
	解剖学実習	1後		1				○							兼3	
	リハビリテーション学実習	2前		1				○			1					
	生理学Ⅰ	1前		2		○									兼2	
	生理学Ⅱ	1後		1		○									兼2	
	生理学実習	2前		1				○							兼4	
	リハビリテーション基礎医学	1後		2		○				1						
	リハビリテーション基礎医学演習	2前		1				○			1					
	病理学概論	2前		1		○									兼2	
	人間発達学	2後		2		○				1	1					
臨床心理学	2前		1		○									兼1		
精神医学	2前		2		○									兼1		

専門基礎分野	内 科 学 I	2前	2		○		1					兼2
	内 科 学 II	2後		2	○							兼1
	小 児 科 学	2後	1		○							兼1
	神 経 内 科 学	2後	2		○							兼1
	外 科 学	2後		1	○							兼1
	整 形 外 科 学	2前	2		○							兼5
	脳 神 経 外 科 学	2後	1		○							兼1
	感 染 症 ・ 免 疫 学	2後		2	○							兼1
	薬 理 学	2前		1	○							兼1
	栄 養 学	2前		1	○							兼1
	リハビリテーション概論	1後	1		○		1					
リハビリテーション医学	2後	1		○							兼2	
保健学・衛生学系	公 衆 衛 生 学 I	2前	2		○							兼1
	公 衆 衛 生 学 II	2後		2	○							兼5
	産 業 保 健 学	2前		2	○							兼2
	環 境 衛 生 工 学	2前		2	○							兼1
	救 命 救 助 法	1前・後		1	○							兼1
	労 働 衛 生 法 規 I	2前		2	○							兼2
	労 働 衛 生 法 規 II	2前		2	○							兼1
小計(32科目)		—	30	18	0	—	2	2	1	0	0	兼36
専門分野	基礎理学療法学系	理 学 療 法 概 論	1前	1		○		1	2	1		
		理 学 療 法 用 語 論	2前		1	○			2			
		運 動 学	1前・後	2		○			1			
		運 動 学 演 習	1後	1		○				1		
		運 動 学 実 習	2前	1			○	1	2	1		
		病 態 運 動 学 演 習	3前		1	○		1	1			
	理学療法評価学系	運 動 解 剖 学 演 習	2後	1		○		1		1	1	
		理 学 療 法 評 価 学 概 論	1後	1		○		1	1			
		理 学 療 法 評 価 学 演 習 I	2前	1		○			1			
		理 学 療 法 評 価 学 演 習 II	2後	1		○		2	4	2		
		理 学 療 法 評 価 学 実 習	2後	1			○		4		1	
		動 作 分 析 学 演 習	2後	1		○				1	1	
	理学療法治療学系	高 次 脳 機 能 障 害 学	3後	1		○		1	1			
		理 学 療 法 治 療 学 総 論	3前		1	○			1	2		
		運 動 療 法 学	2後	1		○		1	1			
		運 動 療 法 学 実 習	3前	1			○	1	3	1		
		物 理 療 法 学	1後	1		○			1			
		物 理 療 法 学 実 習	2前	1			○		4			
		義 肢 装 具 学	3前	1		○		1				
		義 肢 装 具 学 実 習	3後	1			○	1	1		1	
日 常 生 活 技 術 学		2後	1		○			1				
日 常 生 活 技 術 学 実 習		3前	1			○		4				
運 動 器 障 害 系 理 学 療 法 学	3前	2		○		1						
運 動 器 障 害 系 理 学 療 法 学 演 習	3後	1			○	1	1	1				

理学療法治療学系	神経障害系理学療法学	3前	2			○		1	1						
	神経障害系理学療法学演習	3後	1			○		1	1						
	内部障害系理学療法学	3前	2			○		1	1						
	内部障害系理学療法学演習	3後	1			○		1	1						
	小児理学療法学	3前	2			○		1	1						
	小児理学療法学演習	3後	1			○			1						
	高齢者理学療法学演習	3後	1			○		1	1						
	急性期理学療法学	3後		1		○			1						
	スポーツ障害理学療法学	3前		1		○			1						
	徒手理学療法学演習	4後		1		○				1					
	臨床理学療法学実習	3通	2				○	4	7	3	2				
	臨床理学療法推論学演習	4後		1			○	1							
療域法理学系	理学療法管理学	4後	2			○			1						
	地域理学療法学	3後	2			○			1						
	生活環境学	3前	1			○			1						
臨床実習系	理学療法国際事情	4後		1		○		1	1						
	見学実習	1前	1				○	4	7	3	2				
	評価実習Ⅰ	2後	2				○	4	7	3	2				
	評価実習Ⅱ	3後	4				○	4	7	3	2				
	地域理学療法実習	3後	1				○	4	7	3	2				
総合領域	総合臨床実習	4前	14				○	4	7	3	2				
	障害者スポーツ演習	1前		1		○		1	1	1	1				
	理学療法統計学演習	3前		1		○		1							
	理学療法研究法	4後		1		○		1							
	理学療法解析手法演習	4後		1		○			1						
	応用理学療法学演習	4後	1			○		1	6	1	1				
	基礎理学療法学演習Ⅰ	3通	2			○		4	7	3	2				
基礎理学療法学演習Ⅱ	4後	2			○		1								
卒業研究	4通	2				○	4	7	3	2					
小計(53科目)		—	69	12	0	—	4	7	3	2	0	0			
計		—	107	75	0	—	4	7	3	2	0	兼128			
学位又は称号		学士(理学療法学)		学位又は学科の分野		保健衛生学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
必修107単位、基礎分野の選択科目から6単位以上、医学系の選択科目から3単位以上、保健・衛生学系の選択科目から2単位以上、専門分野の選択科目から7単位以上を修得し、125単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：49単位(年間))							1学年の学期区分		2学期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(杏林大学保健学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)

科目区分	授業科目の名称	開講年次/学期	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	単位数	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人間科学系	心 理 学	1前	2			○									兼1
	生 命 倫 理 学	1後		2		○									兼1
	芸 術	1前・後		2		○									兼1
	社 会 福 祉 学	1後		2		○									兼3
	発 達 心 理 学	1後		2		○									兼1
	職 業 適 性 論	1後		2		○				1					兼9 オムニバス
	日 本 国 憲 法	1前		2		○									兼1
	日 本 語 学	1後		2		○									兼1
	こ と ば と 社 会	1前・後		2		○									兼1
	保 健・医 療 の 現 状 と 未 来 I	1前		2		○									兼14 オムニバス
	保 健・医 療 の 現 状 と 未 来 II	1前		2		○									兼15 オムニバス
	社 会 と 大 学 I	1前		2		○									兼14 オムニバス
	社 会 と 大 学 II	1前		2		○									兼13 オムニバス
	社 会 と 大 学 III	1前		2		○									兼12 オムニバス
基礎分野	自然科学系	数 学	1前		2		○								兼1
		統 計 学	1後		2		○								兼1
		情 報 処 理 論	1前	2			○			1			1		
		基 礎 物 理 学	1前		1		○								兼1
		物 理 学 概 論	1後		2		○								兼1
		基 礎 化 学	1前		1		○								兼1
		生 化 学 概 論	1後		2		○								兼3
		基 礎 生 物 学	1前		1		○								兼1
		生 命 科 学 概 論	1前		2		○								兼1
		分 子 生 物 学	1後		2		○								兼1
		人 類 遺 伝 学	1前		2		○								兼1
語学系	英 語 プレゼンテーション	1前	2			○								兼1	
	英 語 読 解	1後	2			○								兼1	
	保 健 医 療 英 語	2前		2		○								兼1	
	英 会 話	2前・後		2		○								兼2	
	医 学 英 語	2後		2		○								兼1	
	日 本 語 表 現 法	1前		2		○								兼1	
小計(31科目)		—	8	51	0	—			1	1	0	1	0	兼98	

専門基礎分野	医学系	解剖学	1前	2			○							兼3	
		リハビリテーション解剖学	1前	1			○					1			
		解剖学実習	1後	1				○							兼3
		リハビリテーション解剖学実習	1後	1				○	1				2		
		生理学 I	1前	2				○							兼2
		生理学 II	1後	1				○							兼2
		生理学実習	2前	1					○						兼4
		運動学	2前	2				○		1					
		運動学実習	2後	1					○	1			1		
		病態運動学実習	3前		1				○	1			1		
		病理学	2前	1				○							兼2
		人間発達学	1後	1				○				1			
		リハビリテーション概論	1後	1				○		1					
		臨床心理学概論	2前	1				○							兼1
		精神医学	2前	2				○							兼1
		内科学 I	2前	2				○							兼3
		内科学 II	2後		2			○							兼1
		小児科学	2後		1			○							兼1
		神経内科学	2後	2				○							兼1
		外科	2後	1				○							兼1
		整形外科	2前	2				○							兼5
	脳神経外科学	2後	1				○							兼1	
	リハビリテーション医学	2後	1				○							兼2	
	感染症・免疫学	2後		2			○							兼1	
	薬理学	1前	1				○							兼1	
	栄養学	1前	1				○							兼1	
	保健学・衛生学系	産業保健学	2前		2		○								兼2
		公衆衛生学 I	2前	2			○								兼1
		公衆衛生学 II	2後		2		○								兼5
		環境衛生工学	2前		2		○								兼1
		救命救助法	1前	1			○								兼1
		労働衛生法規 I	2前		2		○								兼2
		労働衛生法規 II	2前		2		○								兼1
小計(33科目)	—	32	16	0		—		2	0	1	2	0	兼36		

専門分野	基礎作業療法学系	作業療法学概論	1前	1			○			2	1		1			
		基礎作業学概論	1後	1			○			1						
		基礎作業学実習	1後	1					○			1	1	1		
		作業分析学	1後	1				○		1						
		作業分析学演習	1後	1					○	1	1					
		作業療法諸理論	1後		1			○		1						
	作業療法評価学系	作業療法評価学Ⅰ(総論)	1後	1				○		1				1		
		作業療法評価学Ⅱ(疾患別)	2前	1				○		1			1	1		
		作業療法評価学実習Ⅰ(中枢神経障害)	2後	1					○	1				2		
		作業療法評価学実習Ⅱ(発達、精神障害)	2後	1					○		1	1	1	1		
		作業療法評価学実習Ⅲ(老年期障害)	2後	1					○	1				2		
		認知機能評価法	2前		1			○				1		1		
	作業療法治療学系	身体障害作業療法学Ⅰ	3前	1				○		2	1			1		
		身体障害作業療法学Ⅱ	3前	1				○						2		
		身体障害作業療法学演習	3前	1					○			1		3		
		高次脳機能障害作業療法学	2後	1				○			1					
		精神障害作業療法学Ⅰ	3前	1				○		1						
		精神障害作業療法学Ⅱ	3前	1				○		1						
		精神障害作業療法学演習	3後	1					○			1				
		発達障害作業療法学Ⅰ	3前	1				○						1		
		発達障害作業療法学Ⅱ	3前	1				○						1		
		発達障害作業療法学演習	3後	1					○					1		
		老年期障害作業療法学	3前	1				○		1						
		認知障害作業療法学	3後	1				○							1	
		職業関連作業療法学	3後	1				○		1			1	1		
		高次機能代償学	3前		1			○				1				
		義肢装具学	3後	1				○		1				1		
		義肢装具学実習	3後	1					○	1				1		
		福祉用具適応学	2後	1				○							1	
日常生活活動学Ⅰ(総論)		2前	1				○							2		
日常生活活動学Ⅱ(疾患別)		2前	1				○							2		
バリアフリー概論		3前		1			○						1			
レクリエーション概論	3前		1			○		1								
クリニカルリーズニング	3前		1			○				1			2			
ハンドセラピー概論	3前	1				○							1			

専門分野	作業療法学系	作業療法管理学	4後	2			○			1							
	地域法作業系	地域生活作業療法学	3前	1			○			1							
		地域ケアシステム学	3前	1			○			1							
		住環境整備学	3後	1			○					1					
		地域生活作業療法学演習	3後	1				○		1							
		作業療法国際事情	3後		1			○		1							
	臨床実習系	見学実習	1前	1					○	5	2	1	8				
		評価実習Ⅰ	2後	1					○	5	2	1	8				
		評価実習Ⅱ	3後	4					○	5	2	1	8				
		総合臨床実習	4前	16					○	5	2	1	8				
		地域・訪問実習	4後	1					○	5	2	1	8				
	総合領域	作業療法学演習Ⅰ	2後	1				○		5	2	1	8				
		作業療法学演習Ⅱ	3前	1				○		5	2	1	8				
		作業療法学演習Ⅲ	3後	1				○		5	2	1	8				
		作業療法学演習Ⅳ	4後	2				○		5	2	1	8				
		卒業研究Ⅰ	3後	1				○		5	2	1	8				
		卒業研究Ⅱ	4通	3				○		5	2	1	8				
	小計(52科目)			—	67	7	0	—		5	2	1	8	0			
	計			—	107	74	0	—		5	2	1	8	0			兼129
	学位又は称号			学士(作業療法学)				学位又は学科の分野			保健衛生学関係						
	卒業要件及び履修方法									授業期間等							
必修107単位、人間科学系の選択科目から4単位以上、自然科学系の選択科目から6単位以上、語学系の選択科目から4単位以上、医学系の選択科目から1単位以上、保健・衛生学系の選択科目から2単位以上、専門分野の選択科目から1単位以上を修得し、125単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：49単位(年間))									1学年の学期区分				2学期				
									1学期の授業期間				15週				
									1時限の授業時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要

(杏林大学保健学部リハビリテーション学科言語聴覚療法専攻)

科目 区分	授業科目の名称	開講年次/学期	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考		
			必修	選択	自由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
人文・ 社会科学系	生 命 倫 理 学	1後		2		○									兼1	オムニバス
	芸 術	1前・後		2		○									兼1	
	職 業 適 性 論	1後		2		○									兼10	
	こ と ば と 社 会	1前・後		2		○									兼1	
	日 本 国 憲 法	1前		2		○									兼1	
	教 育 学	1後	2			○									兼1	
	保 健・医 療 の 現 状 と 未 来 I	1前		2		○			1						兼14	
	保 健・医 療 の 現 状 と 未 来 II	1前		2		○									兼15	
	社 会 と 大 学 I	1前		2		○									兼14	
	社 会 と 大 学 II	1前		2		○									兼13	
社 会 と 大 学 III	1前		2		○									兼12		
基礎分野	自然科学系	数 学	1前		2		○			1						
		統 計 学	1後	2			○								兼1	
		情 報 処 理 論	1前	2			○								兼1	
		基 礎 物 理 学	1前		1		○								兼1	
		物 理 学 概 論	1後		2		○								兼1	
		基 礎 化 学	1前		1		○								兼1	
		生 化 学 概 論	1後		2		○								兼3	
		基 礎 生 物 学	1前		1		○								兼1	
		生 命 科 学 概 論	1前		2		○								兼1	
		人 類 遺 伝 学	1前		2		○								兼1	
語学系	英 語 プレゼンテーション	1前	2			○								兼1		
	英 語 読 解	1後	2			○								兼1		
	保 健 医 療 英 語	2前		2		○								兼1		
	英 会 話	2前・後		2		○								兼2		
	医 学 英 語	2後		2		○								兼1		
小計(26科目)		—	10	39	0		—		2	0	0	0	0	兼93		
専門基礎分野	言語聴覚基礎系	言 語 の 表 現 法	1前	2			○								兼1	
		言 語 学	1後	2			○								兼1	
		音 声 学	1前	2			○								兼1	
		音 響 学 ・ 聴 覚 心 理 学	2前	2			○								兼1	
		言 語 発 達 学	1後	2			○				1					
		心 理 言 語 学	1後	2			○				1					

基礎医学系	医学総論	1前	1			○											兼1	
	解剖学	1前	2			○											兼3	
	解剖学実習	1後	1					○									兼3	
	生理学 I	1前	2			○											兼2	
	生理学 II	1後		1		○											兼2	
	生理学実習	2前		1				○									兼4	
	病理学	2前		2		○											兼1	
	人間発達学	1後		1		○											兼1	
	運動学	2前		2		○											兼1	
	運動学実習	2後		1				○									兼1	
	病態運動学実習	3前		1				○									兼1	
	衛生学 I	2前	2			○											兼1	
	衛生学 II	2後		2		○											兼5	
	臨床医学系	精神医学	2前	2			○											兼1
		臨床神経学	3前	1			○											兼1
内科学 I		2前	2			○											兼3	
内科学 II		2後		2		○											兼1	
小児科学		2後	1			○			1									
神経内科学		2後	2			○											兼1	
外科		2後		1		○											兼1	
耳鼻咽喉科学		3前	2			○											兼1	
形成外科学		3前	1			○											兼1	
臨床歯科医学		3前	1			○											兼1	
口腔外科学		3前	1			○											兼1	
脳神経外科学		2後	1			○											兼1	
リハビリテーション医学		2後	1			○			1								兼1	
感染症・免疫学		2後		2		○											兼1	
薬理学		1前		1		○											兼1	
栄養学		1前		1		○											兼1	
救命救助法		1前	1					○									兼1	
音声・言語・聴覚医学	呼吸発声発語系の構造・機能・病態	1後	1			○						1						
	聴覚系の構造・機能・病態	1前	1			○						1						
	神経系の構造・機能・病態	1前・後	2			○						1						
心理学系	臨床心理学概論	2前	2			○											兼1	
	学習・言語心理学	1後	2			○											兼1	
	生涯発達心理学	1前	2			○											兼1	
	心理的アセスメント	3前	2			○											兼1	
地域包括支援・社会福祉・教育系	社会福祉学	1後	2			○											兼3	
	リハビリテーション概論	1後	1			○											兼1	
小計(45科目)		—	51	18	0	—			1	2	1	1	0				兼40	

専門分野	言語聴覚基礎系	言語聴覚障害学概論	1前	1			○			1	1	1	1			
		言語聴覚障害診断学	3後	1			○			1						
	言語聴覚障害の評価診断・治療		高次脳機能障害学	1後	2			○				1				
			失語・高次脳機能障害学Ⅰ	2前	2			○				1				
			失語・高次脳機能障害学演習Ⅰ	3前	1				○			1				
			失語・高次脳機能障害学Ⅱ	2後	2			○				1				
			失語・高次脳機能障害学演習Ⅱ	3後	1				○			1				
			言語発達障害学Ⅰ	2前	2			○					1			
			言語発達障害学演習Ⅰ	2後	1				○					1		
			言語発達障害学Ⅱ	2後	2			○						1		
			言語発達障害学演習Ⅱ	3前	1				○					1		
			音声障害学	3前	2			○			1					
			構音障害学Ⅰ	2前	2			○						1		
			構音障害学Ⅱ	2後	2			○			1					
			構音障害学演習	3前	1				○		1			1		
			吃音学	2前	1			○			1					
			摂食嚥下障害学	3前	2			○						1		
			摂食嚥下障害学演習	3後	1				○					1		
			聴覚障害学Ⅰ(成人・重複障害含む)	2前	2			○				1				
		聴覚障害学演習Ⅰ	2後	1				○		1	1	1	1			
		聴覚障害学Ⅱ(小児)	2後	2			○						1			
		聴覚障害学演習Ⅱ	3前	1				○		1	1	1	1			
		聴覚補償論(補聴器・人工内耳)	3後	1			○						1			
	言語聴覚療法マネジメント		言語聴覚療法管理学	3後	2			○			1					
	臨床実習系		見学実習	1前	1				○		4	2	1	1		
			評価実習	3後	4				○		4	2	1	1		
			総合実習	4前	10				○		4	2	1	1		
総合領域		臨床言語聴覚療法演習	3後	1				○		1	1	1	1			
		総合言語聴覚療法演習	4後	1				○		1	1	1	1			
		言語聴覚学研究法	3後	1				○		1	1	1	1			
		卒業研究	4通	3				○		4	2	1	1			
小計(31科目)			—	57	0	0	—		4	2	1	1	0	0		
計			—	118	57	0	—		4	2	1	1	0	兼129		
学位又は称号			学士(言語聴覚療法学)				学位又は学科の分野			保健衛生学関係						
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
必修118単位、基礎分野の選択科目から3単位以上、専門基礎分野の選択科目から4単位以上を修得し、125単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：49単位(年間))									1学年の学期区分			2学期				
									1学期の授業期間			15週				
									1時限の授業時間			90分				

理学療法学科 2023年度学則(令和5年度学則) 配当表

●：学科必修 ○：選択

科目区分	科目番号	授業科目の名称	開講年次/学期	授業形態			単位数			授業形態			1単位当たりの時間数	配当学年								備考			
				講義	演習	実験・実習	必修	選択	単位数	講義	演習	実験・実習		1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後				
人間科学系	101	心理学	1前					2					15	○										複数開講 (1つを選択)	
	102	生命倫理学	1後					2					15		○										
	103	芸術	1前・後					2					15	○	○										
	104	社会福祉学	1後					2					15		○										
	105	発達心理学	1後					2					15		○										
	106	職業適性論	1後					2					15		○										
	107	日本国憲法	1後					2					15		○										
	108	日本語学	1前・後					2					15	○	○										
	109	ことばと社会	1前・後					2					15	○	○										
	110	地域と大学	1前					1					15	●											
基礎分野 自然科学系	111	数学	1前					2					15	○										「基礎分野」より 必修9単位を含めて14単位以上	
	112	統計学	1後					2					15		○										
	113	情報処理論	1前					2					15	●											
	114	基礎物理学	1前					1					15	○											
	115	基礎化学	1前					1					15	○											
	116	生化学概論	1後					2					15		○										
	117	基礎生物学	1前					1					15	○											
	118	生命科学概論	1前					2					15	○											
語学系	119	英語 I	1前					2					15	●										複数開講 (1つを選択)	
	120	英語 II	1後					2					15		●										
	121	英語 III	2前					2					15			○									
	122	英語 IV	2後					2					15				○								
	123	英会話	1前・後					2					15	○	○										
	124	医学英語	2後					2					15				○								
	125	日本語表現法	1後					2					15		●										
専門基礎分野 医学系	201	解剖学	1前					2					15	●										「医学系」より 必修28単位を含めて 31単位以上	
	202	リハビリテーション学	1後					1					15		●										
	203	解剖学実習	1後					1					30		●										
	204	リハビリテーション学実習	2前					1					30			●									
	205	生理学 I	1前					2					15	●											
	206	生理学 II	1後					1					15		●										
	207	生理学実習	2前					1					30			●									
	208	リハビリテーション基礎医学	1後					2					15		●										
	209	リハビリテーション基礎医学演習	2前					1					30			●									
	210	病理学概論	2前					1					15			●									
	211	人間発達学	2後					2					15				●								
	212	臨床心理学	2前					1					15			●									
	213	精神医学	2前					2					15			●									
	214	内科学 I	2前					2					15			●									

科目区分	科目番号	授業科目の名称	開講年次/学期	授業形態			単位数			授業形態			1単位当たりの時間数	配当学年								備考						
				講義	演習	実験・実習	必修	選択	単位数	講義	演習	実験・実習		1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後							
専門基礎分野	215	内科学 II	2後					2					15			○												
	216	小児科学	2後					1					15			●												
	217	神経内科学	2後					2					15			●												
	218	外科学	2後					1					15			○												
	219	整形外科	2前					2					15		●													
	220	脳神経外科学	2後					1					15			●												
	221	感染症・免疫学	2後					2					15			○												
	222	薬理学	2前					1					15			○												
	223	栄養学	2前					1					15			○												
	224	リハビリテーション概論	1後					1					15		●													
225	リハビリテーション医学	2後					1					15				●												
保健学・衛生学系	226	公衆衛生学 I	2前					2					15		●													
	227	公衆衛生学 II	2後					2					15			○										「保健学・衛生学系」より必修2単位を含めて4単位以上		
	228	産業保健学	2前					2					15			○												
	229	環境衛生工学	2前					2					15			○												
	230	救命救助法	1前・後					1					30	○												集中		
	231	労働衛生法規 I	2前					2					15			○												
232	労働衛生法規 II	2前					2					15			○													
専門分野	基礎理学療法学系	301	理学療法概論	1前				1					15	●														
		302	理学療法用語論	2前				1						15			○											
		303	運動学	1前・後				2						15	●													
		304	運動学演習	1後				1						30		●												
		305	運動学実習	2前				1						45			●											
		306	病態運動学演習	3前				1						30					○									
		307	運動解剖学演習	2後				1						30				●										
	理学療法評価学系	308	理学療法評価学概論	1後				1						15		●												
		309	理学療法評価学演習 I	2前				1						30			●											
		310	理学療法評価学演習 II	2後				1						30				●									「専門分野」より必修69単位を含めて76単位以上	
		311	理学療法評価学実習	2後				1						45				●										
		312	動作分析学演習	2後				1						30				●										
		313	高次脳機能障害学	3後				1						15							●							
	理学療法治療学系	314	理学療法治療学総論	3前				1						15						○								
		315	運動療法学	2後				1						15				●										
		316	運動療法学実習	3前				1						45					●									
		317	物理療法学	1後				1						15		●												
		318	物理療法学実習	2前				1						45			●											
		319	義肢装具学	3前				1						15					●									
		320	義肢装具学実習	3後				1						45								●						
		321	日常生活技術学	2後				1						15				●										
		322	日常生活技術学実習	3前				1						45							●							
		323	運動器障害系理学療法学	3前				2						15							●							
		324	運動器障害系理学療法学演習	3後				1						30								●						
		理学療法治療学系	325	神経障害系理学療法学	3前				2						15						●							
			326	神経障害系理学療法学演習	3後				1						30								●					
	327		内部障害系理学療法学	3前				2						15						●								
	328		内部障害系理学療法学演習	3後				1						30								●						
	329		小児理学療法学	3前				2						15							●							
	330		小児理学療法学演習	3後				1						30								●						
	331		高齢者理学療法学演習	3後				1						30								●						
	332		急性期理学療法学	3後				1						15								○						
	333		スポーツ障害理学療法学	3前				1						15								○						
	334		徒手理学療法学演習	4後				1						15												○		
	335		臨床理学療法学実習	3通				2						45								●						
	336		臨床理学療法推論学演習	4後				1						15												○		

科目 区分	科目番号	授業科目の名称	開講年次/学期	授業形態			単位数			授業形態			1単位 当たりの 時間数	配当学年								備 考		
				講 義	演 習	実 験・ 実 習	必 修	選 択	単 位 数	講 義	演 習	実 験・ 実 習		1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後			
門 分 野	療 地 域 理 学 系 学	337	理 学 療 法 管 理 学	4後				2					15									●		
		338	地 域 理 学 療 法 学	3後				2						15									●	
		339	生 活 環 境 学	3前				1						15									●	
		340	理 学 療 法 国 際 事 情	4後					1					15										○
	臨 床 実 習 系	341	見 学 実 習	1前				1					45	●										
		342	評 価 実 習 I	2後				2					45				●							
		343	評 価 実 習 II	3後				4					45										●	
		344	地 域 理 学 療 法 実 習	3後				1					45										●	
		345	総 合 臨 床 実 習	4前				14					45											●
	総 合 領 域	346	障 害 者 ス ポ ー ツ 演 習	1前					1				15	○										
		347	理 学 療 法 統 計 学 演 習	3前					1				30										○	
		348	理 学 療 法 研 究 法	4後					1				15											○
		349	理 学 療 法 解 析 手 法 演 習	4後					1				15											○
		350	応 用 理 学 療 法 学 演 習	4後					1				30											●
351		基 礎 理 学 療 法 学 演 習 I	3通					2				30										●		
352		基 礎 理 学 療 法 学 演 習 II	4後					2				30											●	
353	卒 業 研 究	4通					2				45											●		
計						108	67																125単位以上	

作業療法学科 2023年度学則(令和5年度学則) 配当表

科目区分	科目番号	授業科目の名称	開講年次/学期	授業形態			単位数			授業形態			配当学年								備考								
				講義	演習	実験・実習	必修	選択	単位数	講義	演習	実験・実習	1単位当たりの時間数	1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前		4後							
人間科学系	101	心理学	1前				2						15	●										「人間科学系」より必修3単位を含めて7単位以上	複数開講 (1つを選択)				
	102	生命倫理学	1後					2					15		○														
	103	芸術	1前・後						2				15	○	○														
	104	社会福祉学	1後						2				15		○														
	105	発達心理学	1後						2				15		○														
	106	職業適性論	1後						2				15		○														
	107	日本国憲法	1前						2				15		○														
	108	日本語学	1後						2				15			○													
	109	ことばと社会	1前・後							2			15	○	○														
	110	地域と大学	1前				1						15	●															
基礎分野	自然科学系	111	数学	1前					2				15	○											「自然科学系」より必修2単位を含めて7単位以上				
		112	統計学	1後						2			15		○														
		113	情報処理論	1前				2			○		15	●															
		114	基礎物理学	1前					1				15	○															
		115	物理学概論	1後					2				15		○														
		116	基礎化学	1前					1				15	○															
		117	生化学概論	1後					2				15		○														
		118	基礎生物学	1前					1				15	○															
		119	生命科学概論	1前					2				15	○															
		120	分子生物学	1後					2				15		○														
		121	人類遺伝学	1前					2				15	○															
語学系	122	英語 I	1前				2					15	●											「語学系」より必修4単位を含めて8単位以上	複数開講 (1つを選択)				
	123	英語 II	1後				2					15		●															
	124	英語 III	2前					2				15			○														
	125	英語 IV	2後					2				15				○													
	126	英会話	2前・後						2			15	○	○															
	127	医学英語	2後					2				15					○												
	128	日本語表現法	1前					2				15	○																
専門基礎分野	医学系	201	解剖学	1前				2					15	●										「医学系」より必修29単位を含めて30単位以上					
		202	リハビリテーション解剖学	1前				1			○		15	●															
		203	解剖学実習	1後				1					30		●														
		204	リハビリテーション解剖学実習	1後				1				○	30		●														
		205	生理学 I	1前				2					15	●															
		206	生理学 II	1後				1					15		●														
		207	生理学実習	2前				1					30			●													
		208	運動学	2前				2			○		15				●												
		209	運動学実習	2後				1				○	30					●											
		210	病態運動学実習	3前					1			○	30						○										
		211	病理学	2前				1					15			●													
		212	人間発達学	1後				1			○		15		●														
		213	リハビリテーション概論	1後				1			○		15		●														
		214	臨床心理学概論	2前				1					15			●													
		215	精神医学	2前				2					15			●													
		216	内科学 I	2前				2					15			●													
		217	内科学 II	2後					2				15					○											
218	小児科学	2後					1				15					○													
219	神経内科学	2後					2				15					●													

科目 区分	科目番号	授業科目の名称	開講年次/学期	授業形態			単位数			授業形態			配当学年								備 考			
				講 義	演 習	実 験・ 実 習	必 修	選 択	単 位 数	講 義	演 習	実 験・ 実 習	1 単 位 当 た り の 時 間 数	1	2	3	4	1	2	3		4		
														前	後	前	後	前	後	前		後		
専門基礎分野	医学系	220	外 科 学	2後				1					15				●							
		221	整 形 外 科 学	2前				2					15				●							
		222	脳 神 経 外 科 学	2後				1					15					●						
		223	リハビリテーション医学	2後				1					15					●						
		224	感 染 症 ・ 免 疫 学	2後					2				15					○						
		225	薬 理 学	1前				1					15	●										
	226	栄 養 学	1前				1					15	●											
	保健学・衛生学系	227	産 業 保 健 学	2前					2				15				○						「保健学・衛生学系」より 必修3単位を含めて 5単位以上	
		228	公 衆 衛 生 学 I	2前				2					15				●							
		229	公 衆 衛 生 学 II	2後					2				15					○						
		230	環 境 衛 生 工 学	2前					2				15				○							
		231	救 命 救 助 法	1前				1					30	●										
232		労 働 衛 生 法 規 I	2前					2				15					○							
233	労 働 衛 生 法 規 II	2前					2				15					○								
専門分野	基礎作業療法学系	301	作 業 療 法 学 概 論	1前				1			○		15	●									「専門分野」より 必修67単位を含めて 68単位以上	
		302	基 礎 作 業 学 概 論	1後				1			○		15		●									
		303	基 礎 作 業 学 実 習	1後				1				○	45		●									
		304	作 業 分 析 学	1後				1			○		15		●									
		305	作 業 分 析 学 演 習	1後				1				○	30		●									
		306	作 業 療 法 諸 理 論	1後					1		○		15				○							
	作業療法評価学系	307	作 業 療 法 評 価 学 I (総 論)	1後				1		○	○		15		●									
		308	作 業 療 法 評 価 学 II (疾 患 別)	2前				1			○		15			●								
		309	作 業 療 法 評 価 学 実 習 I (中 枢 神 経 障 害)	2後				1				○	45					●						
		310	作 業 療 法 評 価 学 実 習 II (発 達 、 精 神 障 害)	2後				1				○	45					●						
		311	作 業 療 法 評 価 学 実 習 III (老 年 期 障 害)	2後				1				○	45					●						
		312	認 知 機 能 評 価 法	2前					1		○		15				○							
	作業療法治療学系	313	身 体 障 害 作 業 療 法 学 I	3前				1			○		30						●					
		314	身 体 障 害 作 業 療 法 学 II	3前				1			○		30						●					
		315	身 体 障 害 作 業 療 法 学 演 習	3前				1				○	30						●					
		316	高 次 脳 機 能 障 害 作 業 療 法 学	2後				1			○		30					●						
		317	精 神 障 害 作 業 療 法 学 I	3前				1			○		30						●					
		318	精 神 障 害 作 業 療 法 学 II	3前				1			○		30						●					
		319	精 神 障 害 作 業 療 法 学 演 習	3後				1				○	30							●				
		320	発 達 障 害 作 業 療 法 学 I	3前				1			○		30						●					
		321	発 達 障 害 作 業 療 法 学 II	3前				1			○		30						●					
		322	発 達 障 害 作 業 療 法 学 演 習	3後				1				○	30							●				
		323	老 年 期 障 害 作 業 療 法 学	3前				1			○		30						●					
		324	認 知 障 害 作 業 療 法 学	3後				1			○		15							●				
		325	職 業 関 連 作 業 療 法 学	3後				1			○		15							●				
		326	高 次 機 能 代 償 学	3前					1		○		15					○						
		327	義 肢 装 具 学	3後				1			○		15							●				
		328	義 肢 装 具 学 実 習	3後				1				○	45							●				
		329	福 祉 用 具 適 応 学	2後				1			○		15						●					
		330	日 常 生 活 活 動 学 I (総 論)	2前				1			○		30					●						
		331	日 常 生 活 活 動 学 II (疾 患 別)	2前				1			○		30					●						
	332	パ リ ア フ リ ー 概 論	3前					1		○		15						○						
	333	レ ク リ エ ー シ ョ ン 概 論	3前					1		○		15						○						
	334	ク リ ニ カ ル リ ー ズ ニ ン グ	3前					1		○		15						○						
	335	ハ ン ド セ ラ ピ ー 概 論	3前				1			○		15						●						

科目区分	科目番号	授業科目の名称	開講年次/学期	授業形態			単位数			授業形態			1単位当たりの時間数	配当学年								備考							
				講義	演習	実験・実習	必修	選択	単位数	講義	演習	実験・実習		1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後								
専門分野	管理療法学系	336	作業療法管理学	4後				2				○			15													●	
	地域療法学系	337	地域生活作業療法学	3前				1					○			15							●						
		338	地域ケアシステム学	3前				1					○			15							●						
		339	住環境整備学	3後				1					○			15								●					
		340	地域生活作業療法学演習	3後				1					○			30								●					
		341	作業療法国際事情	3後					1				○			15									○				
	臨床実習系	342	見学実習	1前				1					○			45	●												
		343	評価実習 I	2後				1					○			45				●									
		344	評価実習 II	3後				4					○			45								●					
		345	総合臨床実習	4前				16					○			45										●			
		346	地域・訪問実習	4後				1					○			45												●	
	総合領域	347	作業療法学演習 I	2後				1					○			30							●						
		348	作業療法学演習 II	3前				1					○			30								●					
		349	作業療法学演習 III	3後				1					○			30									●				
		350	作業療法学演習 IV	4後				2					○			30											●		
		351	卒業研究 I	3後				1					○			30									●				
		352	卒業研究 II	4通				3					○			30												●	
		計					108	66																					125単位以上

「専門分野」より
必修67単位を含めて
68単位以上

授 業 科 目 の 概 要			
(杏林大学保健学部リハビリテーション学科理学療法専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野 人間科学系	心理学	本講義では、人間への理解を深めるとともに、心理学が日常生活や支援面でどのように活用されるのかを理解することを目的とする。大学で初めて心理学を学ぶ人にもわかりやすいように、心理学の基本的な考え方や技法を紹介する。	
	生命倫理学	本講義は「生命倫理学」の基本的な概念や考え方を修得することを目指す。「私」にとってもただひとつきわめて明らかなのは、「私」がいつかは死ぬ、という単純きわまりない「事実」である。人間の生が、すべて死に向けて集約されていくとなみであることに思いを馳せるとき、「生命倫理学」の「危うさ」「奇妙さ」「いかがわしさ」もまた浮かびあがってくる。これらの正体と所以とを考えてみるのが、本講義のもうひとつの狙いである。	
	芸術	この講義では金管楽器と木管楽器を扱い、楽器の特性や演奏技術の発展、現代の楽器との相違点、楽器が作曲家に与えた影響などに注目する。そして、当時の工業技術の状況や政治、経済的な側面も含めた幅広い分野の時代様相も考慮に入れる。そこから作曲家が用いた楽器の選択方法や表現方法も含めた音楽作品自体に加え、音楽受容や社会状況をも通して、楽器や音楽をより深く知る手がかりを示していく。	
	社会福祉学	一人の人間を総合的に支えるには、保健、医療、福祉の連携が必要不可欠である。当然、それに伴う社会保障や社会福祉の多岐にわたる制度について知識を深めておくことも必要となる。したがって、本講では連携をキーワードの一つとしながら、社会福祉の歴史を概観し、社会保障や社会福祉の制度に関する知識を身につけていく。	
	発達心理学	人は生まれた時から社会的な存在である。本講義では、社会の中で人間がどのように発達していくのか理解することを目的とする。前半では特に乳幼児期を中心に解説する。子どもの世界を身近なものとして感じてもらいたい。後半では青年期から老年期までの発達を中心に解説し、人生の最後に必ず訪れる「死」について考える。	
	職業適性論	本講では専攻と異なる多数の職業から自分の状況認識をもとに、自分自身の価値観・職業適性等についての内省が促されるとともに、個人特性、多様性を生かした職場運営についての考察が深められる。 (オムニバス形式:全15回) 1-2. 職業観と資格・技能・自立するために (福長) 3. 将来就職したのちに心豊かで充実した職業人になるために、働く意味について認識を深める。 4. リハビリテーションにおける職業適性 (門馬) 5. 将来設計を行う過程における学習の意味と意義 (須田) 6. 放射線を利用する産業とその動向 (岡田) 7. 職場における感染症の予防法 (蔵田) 8. 就業活動における職業適性 (関) 9. 職業性疾患とその予防 (岡本) 10. リスクのアセスメント、マネージメント (関) 11. 医療産業の現状と今後 (岡村) 12. 労働負荷と心身の変化(労働による人体の機能の変化を含む) (岡本) 13. 放射線の利用と安全性 (岡田) 14. 作業療法士の職業適性 (早坂) 15. 教育分野における職業適性 (大嶺)	
	日本国憲法	立憲主義思想を概観した上で、憲法一般について理解を深める。次に、様々な基本的人権に関する理論について、事例を通じて学習し、社会生活を営む上で必要とされる憲法知識の獲得を目的とする。さらに、現代社会が抱える諸問題につき、日本国憲法を軸としてその基本的な理解を得ることができるようにする。	
	日本語学	言葉の形の面を中心に、日本語が諸言語と比べてどのような特性を持っているのか講義する。言葉としての日本語を考えると、言葉とは何かを明らかにしなければならない。そこから始まり、言葉の音がどのような仕組みを持ち、どのような構成で出来上がっているか、日本語の文字はどのように考えたらいいのか、音の組み合わせで出来上がる語彙が、どのようなものであるか、その分類と構成、造語法などに触れ、最後に文法的な見方から、日本語の文の構造を明らかにする。	
ことばと社会	社会のグローバル化が進んでいる現在、日本には多様な人々が生活している。一方、言葉に目を転じると、私たちが使っている日本語も日々変化している。英語から生まれたカタカナ語が増え、多くの場面で使われている。また、スマホやSNSの普及などで、書き言葉、話し言葉などにも変化が生じている。 この授業では、そのような社会の諸相について分析、考察し、多文化共生のために自らはどう行動するのかを考える。		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野 人間科学系	保健・医療の現状と未来 I	<p>日本の医療を支える大学病院の役割は重要であるが、どのような診療科で構成され、どのような医療が提供されているかについては、よく知られていない。当該授業では特定機能病院である杏林大学病院の各診療科について紹介し、その重要性を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器疾患の現状と未来(副島京子) 循環器疾患に関する診断や最先端治療、今後の診断に役立つデジタル医療に関して概説する。 2. 子宮のしくみ(小林陽一) 生命をはぐくむ臓器であり「小さな宇宙」ともいえる子宮のしくみ、機能と、子宮を取り巻く疾患について概説する。 3. 皮膚学の醍醐味(大山 学) アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、水疱症、悪性黒色腫などを例に皮膚学のエッセンスにふれる。 4. うつとストレスについて学ぶ(渡邊衛一郎) うつ、そしてその原因となるストレスについて対処法を含め概説する。 5. 耳・鼻・のどの病気(齋藤康一郎) 耳・鼻・のどと多岐にわたる多様性を特徴とし、繊細さとダイナミックさの両面をもつ耳鼻咽喉科の魅力をお伝えする。 6. 救急蘇生の最新知識(山口芳裕) 最新のガイドラインに沿って、BLS (Basic Life Support) を中心に救急蘇生に必要な知識を講義する。 7. 乳がんの最新治療(井本 滋) 乳がんの手術・薬物・放射線を組み合わせた集学的治療について、基礎知識から最先端まで紹介する。 8. 障害の視点とリハビリテーションの考え方(岡島康友) 横断的な診療を行い、患者の将来の生活の質(QOL)を念頭に置いた新しい医療領域である、リハビリの基本的な考え方と重要性を示す。 9. 医療と生命倫理(平形明人) 医療の歴史を振り返り、医師と患者の関係、求められている医療、生命倫理の諸問題を取り上げ、共に考える。 10. 麻酔の基本(萬 知子) 麻酔について、入門的な概念や総論について、わかりやすく解説する。 11. 前立腺癌治療の現在と未来(福原 浩) 前立腺癌の検査と治療、特にロボット手術及び将来の治療について紹介する。 12. 肺癌の基礎(近藤晴彦) 肺癌発生のメカニズムと治療法について入門的な解説を行う。 13. 腸管の不思議(久松理一) 腸管の複雑な機能、腸内細菌との共存のメカニズムなど、腸管の不思議を、現代人で増加している疾患を交えて解説する。 14. 危険な頭痛：クモ膜下出血(塩川芳昭) 生命の危険すら伴うクモ膜下出血をテーマに、手術ビデオや最先端の知見を交え講義する。 15. 脳梗塞の新たな診断・治療戦略(平野照之) この数年で大きく様変わりした脳梗塞の診断治療に関して、知っておきたい初期症状、新たな治療の実際、社会に及ぼす影響などを概説する。 <p>副島京子：1回 小林陽一：1回 大山学：1回 渡邊衛一郎：1回 齋藤康一郎：1回 山口芳裕：1回 井本滋：1回 岡島康友：1回 平形明人：1回 萬知子：1回 福原浩：1回 近藤晴彦：1回 久松理一：1回 塩川芳昭：1回 平野照之：1回</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野 人間科学系	保健・医療の現状と未来II	<p>日本の医療を支える大学病院の役割は重要であるが、どのような診療科で構成され、どのような医療が提供されているかについては、よく知られていない。当該授業では特定機能病院である杏林大学病院の各診療科について紹介し、その重要性を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. がんの臨床(古瀬純司) がんはなぜ起きるのか、がんの予防と治療はどうするか、がんの告知、がん患者の生活のサポートなどについて概説する。 2. “ものづくり”としての形成外科(多久嶋亮彦) 癌や外傷によって欠損した臓器を機能的・整容的に修復することによって患者さんが元の(あるいは新しい)生活に戻ることを手助けする、形成外科学を紹介する。 3. 隠れた司令塔：腎臓は何をしているのか？(要 伸也) 複雑な構造を持ち、多彩な機能を担う、隠れた司令塔としての腎臓の重要性と腎臓病学の奥深さを紹介する。 4. 心臓血管外科の進歩と未来(窪田 博) 人工心肺を用いた開心術が始まってから60年以上が経過した、心臓血管外科の進歩を紹介し、さらに未来の治療法を予想してみたい。 5. 消化器外科の低侵襲治療の現況(阿部展次) 「治療による負担をいかに減らして、患者の健康を改善・維持することができるか」を目標に日々進化する外科医療を紹介する。 6. 肺とタバコについて(石井晴之) 受動喫煙も含め、社会全体に与える損失が大きいタバコの害と、関連する肺の病気について講義する。 7. 現代医療における画像診断の役割(横山健一) さまざまな画像診断装置の仕組みや発展の歴史、およびそれらを用いて体内を見ながら行う画像下治療について紹介する。 8. 歳をとるとは？(神崎恒一) 老化は年齢で決まるのか？歳をとることと病気の関係は？など老化のしくみについて紹介し、老化に対して医療ができる事について考えてみたい。 9. 眼科診療とQOV(井上 真) 眼科診療はQOV(quality of vision: 視覚の質)を向上させるためにどのように貢献しているか、実臨床例から解説する。 10. 朝ごはんって必要ですか？(大久朋子) 突然ですが、皆さんは朝ごはんを食べていますか。国民健康・栄養調査の結果(平成29年)によると、20代男性の30.6%、20代女性の23.6%が朝ごはんを食べないそうです。これほどの割合で食べない人がいる「朝ごはん」は必要なのでしょうか。この疑問について科学的に考えます。 11. 運動器外科の現状と未来(市村正一) 脊椎、四肢の関節、筋肉、腱等の運動器、および脳からの伝達を担う神経に関する治療を行い、QOLの改善を目的とする整形外科の現状と未来を熱く語る。 12. 救急救命士の仕事とは？(樽井武彦) 病院前救護(プレホスピタルケア)を担う救急救命士の仕事を理解し、その重要性を学ぶ。 13. 臨床工学士の仕事とは？(福長一義) 医療における医療機器管理の重要性と臨床工学士の仕事を学ぶ。 14. 保健福祉の仕事とは？(加藤雅江) 保健福祉における社会福祉士、精神保健福祉士の仕事を学ぶ。 15. 健康とスポーツについて(平澤愛) 現代の健康問題について取り上げ、その予防と対策について学び、運動による健康づくりの重要性について理解を深める。 <p>古瀬純司：1回 多久嶋亮彦：1回 要伸也：1回 窪田博：1回 阿部展次：1回 石井晴之：1回 横山健一：1回 神崎恒一：1回 井上真：1回 大久朋子：1回 市村正一：1回 樽井武彦：1回 福長一義：1回 加藤雅江：1回 平澤愛：1回</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野 人間科学系	社会と大学 I	<p>私たちがこれから生きていく現代社会は、非常に複雑な社会である。様々な分野の知識や情報が複雑に絡み合って社会を構成しているといっても過言ではない。したがって、それぞれの学部・学科・コースで学ぶ専門科目に加えて、様々な分野の基礎知識、その分野では当たり前な知識であっても、他の分野では学ぶことがなく、かつ現代社会では重要な知識も存在する。これらの知識や教養は、現代社会を生き抜いていく上で重要な武器となっていくであろう。以上のような考えに立脚し、本授業では、法律、政治、国際関係、福祉政策の観点から、現代社会を生き抜いていく上で必要な基礎知識を明らかにし、学生たちの武器を増やしていくことを考えている。</p> <p>1. 教養としての法律 (1) (伊藤敦司) 商法、会社法の規制の中での教養としての知識について明らかにする 2. 教養としての法律 (2) (藤原究) 民法、不動産法の規制の中での教養としての知識について明らかにする 3. 教養としての法律 (3) (北田真理) 民法、家族法の規制の中での教養としての知識について明らかにする 4. 教養としての法律 (4) (尾崎愛美) 刑法、刑事訴訟法の規制の中での教養としての知識について明らかにする 5. 教養としての法律 (5) (大西健司) 憲法、行政法の規制の中での教養としての知識について明らかにする 6. 教養としての法律 (6) (尾崎愛美) 憲法、情報法制の規制の中での教養としての知識について明らかにする 7. 教養としての国際関係 (1) (渡辺剛) 国際政治、中国政治の中での教養としての知識について明らかにする 8. 教養としての国際関係 (2) (劉迪) 比較政治学の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>9. 教養としての国際関係 (3) (島村直幸) 外交政策、ヨーロッパ政治の中での教養としての知識について明らかにする 10. 教養としての国際関係 (4) (川村真理) 国際法の中での教養としての知識について明らかにする 11. 教養としての福祉政策 (1) (岡村裕) 社会福祉の中での教養としての知識について明らかにする 12. 教養としての福祉政策 (2) (松井孝太) 社会保障政策の中での教養としての知識について明らかにする 13. 教養としての政治 (1) (進邦徹夫) 行政学、地方政治の中での教養としての知識について明らかにする 14. 教養としての政治 (2) (木暮健太郎) 公共選択、現代政治の中での教養としての知識について明らかにする 15. 教養としての政治 (3) (半田英俊) 政治史、政治心理学の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>伊藤敦司：1回 藤原究：1回 北田真理：1回 大西健司：1回 尾崎愛美：2回 渡辺剛：1回 劉迪：1回 島村直幸：1回 川村真理：1回 岡村裕：1回 松井孝太：1回 進邦徹夫：1回 木暮健太郎：1回 半田英俊：1回</p>	オムニバス

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 分野	人間 科学 系 社会と大学Ⅱ	<p>私たちがこれから生きていく現代社会は、非常に複雑な社会である。様々な分野の知識や情報が複雑に絡み合っ社会を構成しているといっても過言ではない。したがって、それぞれの学部・学科・コースで学ぶ専門科目に加えて、様々な分野の基礎知識、その分野では当たり前の知識であっても、他の分野では学ぶことがなく、かつ現代社会では重要な知識も存在する。これらの知識や教養は、現代社会を生き抜いていく上で重要な武器となっていくであろう。以上のような考えに立脚し、本授業では、経済、経営、会計の視点から、現代社会を生き抜いていく上で必要な基礎知識を明らかにし、学生たちの武器を増やしていくことを考えている。</p> <p>授業計画</p> <p>1. 教養としての会計（1）（内藤高雄） 商業実務、会計学の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>2. 教養としての会計（2）（原田奈々子） 簿記理論、簿記実務の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>3. 教養としての会計（3）（高田京子） 会計監査、管理会計の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>4. 教養としての租税（1）（知原信良） 租税法の規制の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>5. 教養としての経営（1）（田中信弘） 経営管理、財務管理の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>6. 教養としての経営（2）（糟谷崇） 経営戦略論の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>7. 教養としての経営（3）（加藤拓） マーケティングの中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>8. 教養としての経営（4）（糟谷崇） 経営組織論の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>9. 教養としての経営（5）（長谷部弘道） 産業社会学の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>10. 教養としての経済学（1）（西孝） マクロ経済学、経済原論の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>11. 教養としての経済学（2）（小田信之） 経済統計、金融論の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>12. 教養としての経済学（3）（西孝） 開発経済学、アジア経済の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>13. 教養としての経済学（4）（北島勉） 医療経済学、健康科学の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>14. 教養としての経済学（5）（齊藤崇） 環境経済学の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>15. 教養としての経済学（6）（三浦秀之） 国際政治経済学の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>内藤高雄：1回 原田奈々子：1回 高田京子：1回 知原信良：1回 田中信弘：1回 糟谷崇：2回 加藤拓：1回 長谷部弘道：1回 西孝：2回 小田信之：1回 北島勉：1回 齊藤崇：1回 三浦秀之：1回</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	人間科学系	<p>地域内での英語圏・中国語圏の人たちとのコミュニケーションは、今後も拡大していくことが予想される。本科目は、その場面においてことばが果たす役割を理解し、必要な異文化理解の基礎となる力を身につけることを目的とする。その上で、主に「観光・ホスピタリティ」の視点から、地域の魅力発見・魅力づくりの過程で必要とされる知識や具体的技法を学んでいく。</p> <p>第1回 インTRODakション (八木橋宏勇) 第2回 自身のふるさとの特徴を英語で考えてみよう (坂本ロビン) 第3回 日常生活を題材にした英語コミュニケーション Part.1 (八木橋宏勇) 第4回 日常生活を題材にした英語コミュニケーション Part.2 (倉林秀男) 第5回 通訳・翻訳の視点から見た適切な英語表現とは? (岩本和良) 第6回 日常生活を題材にした中国語コミュニケーション Part.1 (池田尚広) 第7回 日常生活を題材にした中国語コミュニケーション Part.2 (池田尚広) 第8回 観光で訪れた中国人に話しかけてみよう Part.1 (千野万里子) 第9回 観光で訪れた中国人に話しかけてみよう Part.2 (藤田由香利) 第10回 中国人から見た日本 (宮首弘子) 第11回 観光によるまちづくりの手法: 合意形成 (古本泰之) 第12回 観光によるまちづくりの手法: 地域の国際化 (安江枝里子) 第13回 インバウンド時代のホスピタリティ (志村良浩) 第14回 Post/Withコロナ時代のホスピタリティ (西山桂子) 第15回 グローバルな視点から地域の在り方を考える (古本泰之)</p> <p>八木橋宏勇: 2回 坂本ロビン: 1回 倉林秀男: 1回 岩本和良: 1回 池田尚広: 2回 千野万里子: 1回 藤田由香利: 1回 宮首弘子: 1回 古本泰之: 2回 安江恵理子: 1回 志村良浩: 1回 西山桂子: 1回</p>	オムニバス
	自然科学系	<p>数学</p> <p>数学の知識や考え方は、科学を学ぶために必要不可欠である。そこで、本講義では数学の基礎的事項から始めて、微分積分学を学習する。また、微分積分学がどのように利用されるかについて紹介する。</p> <p>統計学</p> <p>現在、統計学は、調査資料や実験データの解析など、様々な方面に応用されている。この講義では、いろいろな事例への応用を紹介しながら、統計学を基礎から学ぶ。</p> <p>情報処理論</p> <p>医療専門職を目指す大学生として、基礎となる「情報の収集(検索)」と「発信(レポートやプレゼンテーション)」についての方法を学ぶ。</p> <p>基礎物理学</p> <p>自然科学は日常現象を体系的に整理し、一定の法則を見出そうとする学問である。物理学はこのような自然科学の一分野であるばかりでなく、あらゆる学問の基礎となる学問であり、物理学的なものの見方、考え方はあらゆる学問に通じるものである。そこで、この科目では考え方に重点を置き、日常的な現象について概説し、基礎となる考え方、法則などについて学ぶ。</p> <p>基礎化学</p> <p>本講義は大学の化学系専門科目に講義についていけないかどうか不安に思っている学生を対象としている。高校教科書レベルの基礎的な化学の内容を教授する。</p> <p>生化学概論</p> <p>本講義では、生体の構成する基本物質の化学的に理解する。そして体外から摂取した物質が生体内でどのように分解(異化)されて合成(同化)されるのか、そしてその反応に関与するエネルギー代謝や情報代謝について化学の視点で学ぶ。 (オムニバス形式:全15回) 【八巻明子/5回】 糖質代謝と脂質代謝について講義する。 【村田麻喜子/5回】 アミノ酸・タンパク質・酵素・ビタミンについて講義する。また、核酸代謝と遺伝子発現についても講義する。 【石井さなえ/5回】 糖質・脂質・体液・ホルモンについて講義する。</p> <p>基礎生物学</p> <p>ヒトは、他の生物にはない独自の社会を形成し生活を営んでいる。しかし、生物種としてみれば、地球環境に生活するその他の動物、植物、細菌などと同様に共通のしくみを持っている。本科目は、多くの生物が行っている生命活動の共通する基本的なしくみを解説する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	自然科学系	生命科学概論	生命科学は生命体に関わる物質や現象を理解し、これらの知識をヒトを中心とした生物にとって望ましい方法で応用することを目指す学問である。本科目では、体を構成する基本単位である細胞の機能とこれを支える構造、遺伝と環境が生命現象に及ぼす影響、発生や分化の基本的なしくみ、および近年著しい発展をみせる医療技術や遺伝情報に関連した倫理的問題、生命科学に関する情報との関わり方などについて学習する。
	英語学系	英語プレゼンテーション	本授業では、健康・医療をテーマとした教材を使用し、語彙や文の構造を整理しながら正確に情報を理解することを重要視する。同時に、扱ったテーマに関する活発な議論を奨励しながら進めてゆく。
		英語読解	本授業では、健康・医療をテーマとした教材を使用し、語彙や文の構造を整理しながら正確に情報を理解することを重要視する。同時に、扱ったテーマに関する活発な議論を奨励しながら進めてゆく。
		保健医療英語	本授業では、医療や健康問題をテーマに取り上げた英語のビデオ教材(米国のニュースクリップ)を用いて、医療や健康問題に関する情報を正確に収集し、理解する能力を養う。さらに、扱ったテーマに関する活発な議論を奨励しながら進めてゆく。
	語学系	英会話	基本的な会話練習に加え、ディスカッション技術を学ぶ。具体的には、英語力向上のため、2人1組での演習、グループワークを行う。さらに、プレゼンテーション方法についても紹介をし、練習する。
		医学英語	リハビリテーションに必要な英語を学び、外国人患者(外来を含む)への対応をスムーズに行えるようにする。また、リハビリテーション上必要な単語も覚え、理学療法士・作業療法士として日々使える英語を身につけるよう講義する。
		日本語表現法	「話しことば」としての日本語表現を実践的に学べるよう解説する。また、ことばのしくみや日本語の理解を深めるために、音声学や言語学等の基礎的知識を解説する。
専門基礎分野	医学系	解剖学	解剖学は、医学やコメディカル(医学と協業する専門職)分野における最も基礎的な学問である。正常な体の形態や構造を学び、理解することは、将来遭遇する医療や研究などの現場において、体の機能やその異常を見極めることや適切にヒトの体を扱うための基礎を私たちに提供してくれる。 本講義では、系統解剖学の体系に沿って、主として肉眼解剖学レベルの知見を中心に体の各器官系を構成する器官の形態や位置、その機能的意義などについて解説する。(オムニバス形式:全15回) 【瀧上周/5回】 細胞と組織、骨格系、筋系、神経系、感覚器系、皮膚、脈管系について講義する。 【堀口幸太郎/7回】 内分泌系、生殖器系、消化器系、血液と骨髄、リンパ性器官について講義する。 【長谷川瑠美/3回】 循環器系、呼吸器系、泌尿器系について講義する。
		リハビリテーション解剖学	筋骨格系の機能解剖は理学療法における各専門分野において基盤となる重要な知識である。本講座では、運動器の機能解剖を中心とした解説に加え、理学療法における実践的知識もあわせて紹介する。
		解剖学実習	系統解剖学の体系に沿って解剖学で学ぶ人体の構造のうち、本実習ではとくに骨格系の詳細な構造について3次元的理解を深める。全身骨格模型や各部位を構成する骨の模型を実際に手にとって観察を行う。観察結果はスケッチによって記録し、筋や神経の詳細な構造を理解するための土台となる骨格系の基礎知識を充実させる。
		リハビリテーション解剖学実習	解剖学で修得した正常な体の形態や構造について、テキスト、タブレット端末、X線画像等を用いて実習を行う。理学療法の基本技術の基礎となる体の構造について、実習やグループワークを通してその基礎知識とその役割を学習する。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎分野 医学系	生理学Ⅰ	生理学は、生命活動を個々の構成要素が、いつ、どこでどのように働くかを研究し、調和のとれた生命活動を知る学問である。生理学Ⅰでは、ヒトの器官系の機能全般を解説する。 (オムニバス形式:全15回) 【小林博子/7回】 ニューロンの活動、血液と体液、呼吸、腎臓と排出、内分泌器官、消化吸収について講義する。 【瀬野晋一郎/8回】 興奮性細胞の性質、末梢神経、中枢神経、感覚と生理、心臓と循環について講義する。	
	生理学Ⅱ	人体機能を理解するための動物性機能について主に説明する。生体の内部環境は外部環境の変化によって大きくかわることなく恒常性を保つように制御されている。脳・脊髄の中枢神経系とこれに出入りする末梢神経系、筋、感覚器の機能および内分泌などの液性調節についても説明する。 (オムニバス形式:全15回) 【小林博子/4回】 代謝と内分泌、体温調節について講義する。 【瀬野晋一郎/11回】 細胞膜電位、筋収縮のメカニズム、中枢神経、末梢神経について講義する。	
	生理学実習	講義で学んだ知識をより実際的に身につけるため、生体機能がどのように測定され、変化するかをいくつかの例で実際に臨床の場で用いられている機器や方法により実習を行う。心臓の電気現象を体外から把握するための心電図計測や血圧測定、および呼吸機能の分析など実践的に取り扱えるように技術的な内容と、皮膚感覚を対象として知覚に対する評価方法を理解する。	
	リハビリテーション基礎医学	1) 健康から疾病に至るには幾つかの段階がある。疾病の発症のメカニズムを理解し、予防の重要性を理解する。更に運動療法と栄養療法の重要性についての理解を深める。 2) 生活習慣病に関連した疾患の予防と発症・治療、回復過程に関する知識を習得する。 3) 有病率の高い疾患に対する、画像診断、臨床薬理、救命救急対応についての知識を深める。	「栄養、薬理、救急救命、医用画像、予防の基礎」に関する知識を教育内容に含む。
	リハビリテーション基礎医学演習	リハビリテーション基礎医学で習得した知識(栄養、薬理、医用画像、救急救命、予防医学)を更に深める。また実際の症例に応用することで、実践的な考え方を習得する。	「栄養、薬理、救急救命、医用画像、予防の基礎」に関する知識を教育内容に含む。
	病理学概論	疾病はその成り立ちから、先天異常、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍などの大きなカテゴリーに分類される。これらの疾病カテゴリーに属する主だった疾患について、疾患を引き起こす原因、各疾患に生じる臓器・組織・細胞レベルの形態変化とその経過、さらには、疾患がたどる転帰を総合的にとらえるように学習する。 (オムニバス形式:全15回) 【島田厚良/8回】 細胞・組織の傷害と再生、代謝異常、循環障害、免疫について講義する。 【水谷奈津子/7回】 炎症、感染症、腫瘍、先天異常について講義する。	
	人間発達学	人間発達学は、人間が生涯を通してどのように発達していくかを学ぶ学問である。人間を社会的存在として、また各発達領域(身体、運動、認知、心理、社会性、パーソナリティ等)が統合された存在として理解する。胎児期から新生児期、乳児期、幼児期、学童期から青年期、老年期に至るまでの、身体的、精神的、社会的発達について、その量的・質的变化に注目し学習する。 (オムニバス形式:全15回) 【鳥山亜紀/14回】 胎児期、新生児、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期の発達について講義する。 【柴田茂貴/1回】 高齢期の発達について講義する。	
	臨床心理学	臨床心理の知見は医療や関連分野で働く際に多に助けとなるものである。この授業では自身のセルフケアにも活かせる知識も交えつつ臨床心理の基本的概要を学び、心理的支援への理解を深めていく。	
	精神医学	精神医学全般にわたり基本的な事柄を概説する。具体的には、脳器質性精神障害、症状性精神障害、てんかん、統合失調症、気分障害などについて学ぶ。	
内科学Ⅰ	主要な内科系疾患である循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、感染症、腎臓疾患、内分泌疾患の病因、病態、徴候、診断、治療などについてリハビリテーションに必要な事項を解説する。 (オムニバス形式:全15回) 【四倉正之/6回】 心不全、不整脈、虚血性心疾患、呼吸器疾患などについて講義する。 【岸野智則/5回】 消化器疾患、感染症などについて講義する。 【岩橋桜子/4回】 腎泌尿器系、内分泌系などについて講義する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎分野	医学系	内科学Ⅱ	食習慣などの生活習慣の悪化は動脈硬化の因子であることが広く知られている。生活習慣の改善によって動脈硬化を改善させ、虚血性心疾患等の生活習慣病による死亡率が低下するとされている。当該科目は、このような概念に基づく生活習慣病(いわゆるメタボリックシンドローム)について講義する。	
		小児科学	「子どもはおとなのミニチュアではない」といわれる。小児科学が通常扱う0歳から15歳(疾患によっては20歳やそれ以上の場合も)という期間は、80歳を越える一生から見たら短い、この間に子どもは、身長は3倍以上、体重は20倍近くに劇的に成長する。各器官の発達や病気については子どもに特有のものがある。新生児から思春期にわたる小児の身体的特徴と、代表的な諸疾患についての基本的な知識を解説する。	
		神経内科学	医療の現場で働く上で必要な、神経内科疾患の様々な神経症状の成り立ちを講義する。	
		外科学	外科学全般にわたり基本的な事柄を概説する。具体的には、呼吸器外科、肺がん、甲状腺がん、心臓血管外科、乳腺外科と乳がん、吐血と食道・胃疾患などについて講義する。	
		整形外科	整形外科系疾患の病因、病態生理、症状、悪化防止、生命の危険回避をするために必要な救急処置の知識・技能、観察の方法と意義(重症度、全身・局所の観察、各種病状の観察)、検査(各種病態に関する検査)等について講義する。 (オムニバス形式:全15回) 【小寺正純/5回】 先天性骨・関節疾患、骨・軟部腫瘍について講義する。 【佐藤行紀/5回】 整形外科的治療法、関節外傷性疾患について講義する。 【井上功三朗/5回】 循環障害と壊死性疾患、炎症性疾患について講義する。 【坂倉健吾/5回】 腱・靭帯外傷性疾患、スポーツ障害について講義する。 【稲田成作/5回】 体幹の骨折、末梢神経の外傷性疾患について講義する。	
		脳神経外科学	脳神経外科学全般にわたり基本的な事柄を概説する。具体的には、中枢神経系の解剖・生理、意識障害、脳梗塞、脳出血、脳腫瘍、頭部外傷などについて講義する。	
		感染症・免疫学	本講義では、代表的な病原微生物の分類、病原性と感染のメカニズム、感染症の治療と予防などについて学び、リハビリテーションの現場における感染制御の重要性を理解する。	
		薬理学	薬理学とは、薬物が生体に対してどのように影響して治療効果が現れるのかを追求する学問である。本講義では、日常生活および臨床現場において使用される薬物を理解するとともに、その体内動態、治療効果を発揮するメカニズム、安全性と有効性、主作用・副作用の発現機序などについて学習する。	
		栄養学	生体を構成し生命を維持する物質の性質、代謝の仕組みを理解し、対象者の栄養評価および臨床栄養に応用するための基本的な知識を学ぶ。	
			リハビリテーション概論	保健医療福祉の各領域におよぶリハビリテーションの理念について総論的に学ぶ。とくに、医学的・教育的リハビリテーションでは自立支援・就労支援に向けた理学療法士の役割や他職種連携について、職業的・社会的リハビリテーションでは社会保障や地域包括ケアシステムとリハビリテーションとの関わりについて、を中心に学習し、地域における関係機関との調整および教育的役割を担う能力を培う。
	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学は、病態生理、画像診断、神経生理学、薬物療法、理学・作業、あるいは言語聴覚療法などを包括して、運動・行為の障害、つまり“dysmobility”を科学する。リハビリテーションに従事する療法士は、基本的な医学知識の上に、適切なリスク管理を行いながらリハビリテーションを進めることが求められている。その基本的視点を培うのが本講義の目的で、総論として基本的知識を習得し、また疾患別に病態を理解して、リハビリテーションに関連する各論的知識を身につける。 (オムニバス形式:全8回) 【岡島康友/6回】 リハビリテーションにおける病態生理とリスク管理、運動器疾患、心疾患などについて講義する。 【山田深/2回】 脳卒中、脳外傷、脳性麻痺などについて講義する。	「医用画像の基礎」を教育内容に含む。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎分野 保健学・衛生学系	公衆衛生学Ⅰ	公衆衛生学とは「社会における組織的な働きかけにより、疾病を予防し、寿命を延ばし、身体的・精神的機能を増進させる科学であり技術である」と、定義されている。公衆衛生学の領域は多岐にわたっているが、本講Ⅰでは保健学の出発点ともいえる公衆衛生学の基本的技術論、方法論を中心として解説し、年齢階層や、社会的機能集団の各次元で、それぞれの特徴に合わせた取り組みについて、実践的な視点からの解説も行う。	「予防の基礎」を教育内容に含む。
	公衆衛生学Ⅱ	公衆衛生学の領域は多岐にわたっているが、本講では、年齢階層や、社会的機能集団の各次元で、それぞれの特徴に合わせた取り組みについて、実践的な視点からの解説を中心として行い、公衆衛生学の基本的技術論、方法論についても触れる。 (オムニバス形式:全15回) 【照屋浩司/4回】 公衆衛生学概論、疫学、成人保健について講義する。 【岡本博照/6回】 感染症、食品保健、産業保健などについて講義する。 【石野晶子/1回】 保健福祉論について講義する。 【井上敦/1回】 保健福祉論について講義する。 【平澤愛/1回】 健康教育について講義する。 【関澤浩一/1回】 生命倫理について講義する。 【楠田美奈/1回】 環境保健について講義する。	
	産業保健学	総論においては歴史的経緯を踏まえた現行諸制度を概括し、現代の労働環境を取り巻く諸問題を整理する。各論においては職業起因性の様々な有害因子を順次取り上げ、それぞれが誘発しうる疾病、障害とその予防策について解説する。 (オムニバス形式:全15回) 【関健介/8回】 産業保健の現状・労働安全衛生組織、安全衛生管理、騒音、振動・気圧、非電離放射線、電離放射線などについて講義する。 【岡本博照/7回】 労務管理、職場のメンタルヘルス、化学的因子、職場の健康診断などについて講義する。	
	環境衛生工学	環境因子の発生機序や測定・評価方法及び人体への影響、健康被害の防御に関して解説する。第一種衛生管理者の必修科目でもあるので、これらの内容が中心となるが、公害防止や環境計量など幅広く講義を行う。	
	救命救助法	大規模災害時や海、山での事故に備え、救命救助法を身につけておくことは、保健学部にも学ぶ者の責務である。本実習では東京消防庁の救助隊の活動を実際に見て、これらの活動の実際と救急救助体制などについて学ぶとともに、救命救助法の技能を修得する。最終試験に合格した者には、東京消防庁より「上級救命技能認定証」が交付される。	
	労働衛生法規Ⅰ	本講義では労働災害や職業性疾患の発生機序と招来要因を学びつつ、それらを制御するために定められた法的規制、安全・衛生管理体制の実際について学ぶ。各法令について、とくに基本的な語句や概念の定義に関わる部分では、正確な語句の確認が不可避であり、逐条的な解説を伴う。 (オムニバス形式:全15回) 【岡本博照/9回】 THP、事務所衛生基準規則、高気圧作業安全衛生規則などについて講義する。 【関健介/6回】 労働安全衛生法、作業環境測定法、電離放射線障害防止規則などについて講義する。	
	労働衛生法規Ⅱ	本講義では、労働基準法、労働災害の法的救済について触れ、さらにそれを制御するために定められた法的規制、安全・衛生管理体制について学ぶ。働く者の生活を守る具体的な法令は、労働基準法と、これより分化・独立した諸法律を中心に構築されている。本講義は、労基法の意義と内容、最近の労基法の傾向と新たに解決されるべき諸問題を取り上げ、さらに労災保険法や労働安全衛生法の概要と諸手続きについて解説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎理学療法学系 専門分野	理学療法概論	理学療法は疾病により何らかの損傷、障害を有する人に対して、その運動機能や基本的動作能力の回復、改善に向けた治療を提供するリハビリテーション活動の一専門分野である。本講義では、理学療法の医学的リハビリテーションにおける位置づけおよび理学療法の概要について学習する。 (オムニバス形式:全15回) 【鳥山亜紀/4回】 理学療法の定義と歴史、主な領域と治療手段について講義する。 【柴田茂貴/4回】 理学療法の教育と学問的体系化、理学療法学研究、理学療法部門における管理について講義する。 【榎本雪絵/4回】 関連法規、保険制度、理学療法組織・活動について講義する。 【門馬博/3回】 理学療法士の新たな職域、グローバル社会における理学療法士の活動について講義する。	
	理学療法用語論	理学療法に関する医学用語およびその略語を理解し用いることができるように学習する。また、理学療法に関する英文献の読み方について学習する。 (オムニバス形式:全15回) 【木村雅彦/7回】 医学用語、英文献の読み方について講義する。 【村松憲/8回】 リハビリテーション用語について講義する。	
	運動学	運動学とは人体の身体運動の仕組みに関する学問であり、その領域は極めて広い。筋骨格系の構造・機能との関係、関節運動や力学原理に基づく運動、歩行動作などの身体運動の発現と制御機構、運動技能を獲得するための運動学習など解剖学・生理学・力学的な見地から、身体運動メカニズムに関して講義する。	
	運動学演習	本科目では運動学で学んだ知識をもとに、身体運動に関する知識の定着を目的とする。座学として蓄えた知識について、より理解を深めるために関節運動、歩行、運動学習などを演習を交えながら学習し、これらについて運動学的用語を用いて表現できることを到達目標とする。	
	運動学実習	運動学で学んだ知識をより深く理解するために、グループ学習や演習課題を通して学習する。理学療法の基礎として身体運動の仕組みや構造を様々な手法や機器を使用して計測する。適切な計測方法を実施し、その結果を運動学的・生理学的に考察し、解釈してまとめる。	
	病態運動学演習	理学療法において、人の運動を詳細に評価し、運動と病態の因果関係を追及することは非常に重要な手続きの一つである。解剖学は動きのない状態を学ぶ。運動学は病態のない状態を学ぶ。一方、病態運動学では動きと病態のある状態を学ぶこととなる。より詳細な構造や機能を学び、病態を有した際の構造や機能の変化、それに伴う身体運動の破綻について学び、必要な評価項目についても学ぶ。	
	運動解剖学演習	すでに学習した解剖学、運動学の知識をさらに深め、理学療法に不可欠である主な骨指標、筋、神経の触診方法について解説し、演習を実施する。	
	理学療法評価学概論	代表的疾患の理学療法を実施する上で必要な理学療法評価の目的、具体的な評価過程について学ぶ。また、理学療法における測定から評価および治療の流れについて理解し、基本的な検査・測定方法の意義や手技を修得する。さらに、医学的リハビリテーションの視点から患者の問題を考える指標となる障害モデルについて学ぶ。 (オムニバス形式:全15回) 【八並光信/8回】 理学療法評価の意義、目的、対象、評価計画について学ぶ。また、情報収集として、バイタルサイン、血算、X-P・CT・MRI画像の原理、心電図、スパイロメーター、オキシメーターなどの基本的な操作方法と解釈についても学ぶ。 【橋立博幸/7回】 医療面接、評価に用いる検査・測定法（ROMテスト、MMT感覚テスト、反射テスト、その他の身体機能テスト）および評価結果の解釈、評価の記録について学ぶ。	「医用画像の評価」を教育内容に含む。
	理学療法評価学演習Ⅰ	理学療法で用いられる基本的な理学療法評価過程における疾患非特異的な主な検査・測定の目的・方法・結果の解釈（医用画像の評価を含む）についての学習を演習形式を含めて行う。	「医用画像の評価」を教育内容に含む。
	理学療法評価学演習Ⅱ	理学療法における評価の位置づけを明確にし、評価を行うために必要な知識と技術を整理した上で演習を含めて学ぶ。理学療法評価学概論、理学療法評価学演習Ⅰにおいて修得した知識に加え、神経系、運動器系、呼吸器系、循環系、内分泌・代謝系における疾患別評価について演習を通じて学ぶ。	「医用画像の評価」を教育内容に含む。
	理学療法評価学実習	理学療法評価に用いられる代表的な検査測定に関する実習を行う。主に、関節可動域検査、徒手筋力検査、反射検査、感覚検査、筋緊張検査といった代表的な基礎評価を実践的に学習する。また、神経障害、運動器障害、呼吸・循環器障害などの各疾患に応じた代表的な理学療法評価の方法と結果の解釈について実践的に学ぶ。	「医用画像の評価」を教育内容に含む。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	動作分析学演習	動作分析は臨床での問題解決において最善のプロセスの一つである。本演習では、観察・記述方法の基本から正常動作のチェックポイントまで順を追って解説し、異常動作のメカニズム、各疾患の動作の解釈方法について実際の動画を用いて分析方法を演習形式を含めて学ぶ。	
理学療法評価学系	高次脳機能障害学	本講座では、脳の構造と機能を中心として、高次脳機能の全体性と機能局財政を開設し、その上で脳血管障害における医用画像を用いた評価を含み、高次脳機能障害の病態・評価・理学療法について講義する。各論として、脳卒中・頭部外傷・脳腫瘍などが原因で多様な症状を呈する高次脳機能障害について、失語症・失行症・失認症・半側空間無視・注意障害・記憶障害等を中心に、病態、理学療法評価、ADL評価および訓練の実際について講義する。 【オムニバス形式:全15回】 【跡見友章/11回】 脳の構造と機能、脳血管障害の画像所見と高次脳機能障害、高次脳機能障害の病態・評価・理学療法の実際について講義する。 【榎本雪絵/4回】 高次脳機能障害におけるADL訓練の実際について講義する。	「医用画像の評価」を教育内容に含む。
専門分野	理学療法治療学総論	“理学療法”は「治療」であり、“リハビリテーション”は「理念」である。このように本来意味の異なる2つの言語であるが、現代においては混同して使用されている感はない。理学療法士とは文字通り“理学療法”、すなわち治療を提供し、対象者のリハビリテーションの実現を支援する職種である。本科目はリハビリテーション医学・医療の中で、理学療法士が提供する「治療」としての理学療法を広く学び、各論へつなげる足掛かりとして位置付けている。 (オムニバス形式:全15回) 【門馬博/12回】 コンディショニングのための手段、関節可動域制限・筋機能障害・協調運動障害・基本動作・歩行障害・内部障害に対する理学療法、全身持久力改善のための理学療法について講義する。 【木村雅彦/2回】 熱傷に対する理学療法について講義する。 【松村将司/1回】 感覚障害に対する理学療法について講義する。	
	運動療法学	運動療法の作用機序の背景にある解剖学・生理学・運動学について学習する。また、運動療法実施の原理原則について学習しながら、基本的な運動療法であるROM練習・筋力増強練習や持久力練習の方法論、負荷方法などについて学習し、各種疾患への運動療法の適応について学ぶ。 (オムニバス形式:全15回) 【村松憲/8回】 トレーニングと内分泌、運動器障害・代謝障害・中枢神経障害・高齢者に対する運動療法について講義する。 【八並光信/7回】 骨格筋の機能と構造、関節可動域訓練、レジスタンストレーニング、持久力トレーニング、トレーニングと免疫について講義する。	
	運動療法学実習	本実習では、これまでに学習してきた運動療法学の知識をもとに、理学療法士が用いる基本的かつ共通的な手法について、あるいは実際に各種の疾患や病態を想定した手法について、運動療法の作用機序と適応禁忌を理解し、安全かつ効果的に実践できるように学習する。	
	物理療法学	物理療法学は理学療法士の関わる各種疾患、外傷の治療に適した物理療法機器の選定や使用方法、生理学的効果について学ぶ。講義を通じて、温熱・寒冷療法、電磁波療法、超音波療法、電気刺激療法、水治療法、牽引療法・マッサージ療法などについて解説し、物理療法で用いる各機器の利点と欠点および適応と禁忌についての講義やディスカッションを行う。また、物理療法を使用する臨床場面についても紹介をする。	
	物理療法学実習	物理療法学実習では、物理療法学の講義で学んだ療法について、実際の物理療法機器を用いて実習を行う。物理療法機器の適切な使用方法や適応、禁忌、リスク管理、ポジショニングなどを体験にて学び、電気、温熱、超音波などの物理的刺激に対する生体反応の体験実習を行う。さらに、物理療法と運動療法などを組み合わせた治療システムを指導する。	
	義肢装具学	装具の役割や目的を理解し、運動障害や使用場面別の装具についてその種類と構造を学ぶ。加えて各装具の適合と効果を理解する。また義肢の種類と名称、パーツ(部品)とその構造と使用目的を習得する。そして切断者が社会復帰できるよう、理学療法士が取り組む役割と位置づけを理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
理学療法治療学系 専門分野	義肢装具学実習	装具の名称と構造を理解し、装具療法での使用目的を学ぶ。理学療法の中で、装具を適切に目的に合わせて使用できるよう、装具の処方、適合判定を学習する。切断者の理学療法技術を実習で学ぶ。切断者の治療や、社会復帰(家庭・教育・就労等)の取り組みを理解する。切断者の生活に適切な義肢を選択し、適合して使用できるよう技術を修得する。義足の調整方法を学ぶ。	
	日常生活技術学	日常生活技術学では、日常生活活動(Activity of daily living:ADL)の概念や分類、その評価方法について学ぶ。日常生活を行うための諸動作や生活行為、生活行為をより安全・円滑に行うための、車椅子や杖を含めた補助具の処方やその使用方法について学習する。さらに、代表的な疾患における日常生活動作や有効な生活補助具について学習する。	
	日常生活技術学実習	日常生活技術学実習では、「日常生活技術学」で学んだ知識に基づいて、日常生活を行うための基本動作、更衣や排泄、入浴動作などの生活行為を体験学習する。また、日常生活に必要な諸動作の指導や、生活行為をより安全・円滑に行うための車椅子や杖を含めた補助具の処方、その使用方法の指導などについて実践を行う。	
	運動器障害系理学療法学	理学療法の重要な目的は疾患や障害などにより低下した運動機能の維持・改善であることから、運動器障害の理学療法に関する知識・技能は理学療法士の専門性における基盤となる。本講座では、①運動器障害の理学療法に必要な筋骨格系および神経系に関する機能解剖学、②主な対象疾患である骨・関節性疾患、筋・軟部組織性疾患、末梢神経性疾患、脊髄・脊椎性疾患を中心に、退行性変性疾患および外傷における病態の相違、③保存的治療および観血的治療の適応と禁忌、④①～③に対する医用画像の利用を含めた理学療法評価および理学療法の実際、上記①～④を中心として講義を行う。	「医用画像の評価」を教育内容に含む。
	運動器障害系理学療法学演習	運動器障害系理学療法学で学んだ疾患特異的な留意事項を踏まえながら、関節可動域制限、筋力低下、疼痛、バランス障害、姿勢障害、動作障害などに対する理学療法評価および治療手技について、実技を中心として演習形式にて授業を行う。	「医用画像の評価」を教育内容に含む。
	神経障害系理学療法学	理学療法の対象となる各種の神経障害系疾患における病態と患者の障害像ならびにそれらに対する理学療法の論理的な構築を学ぶとともに、基本的な理学療法評価と介入について学習する。 【オムニバス形式:全15回】 【石井博之/8回】 脳損傷、脳血管障害、脳血管障害者に対する理学療法について、医用画像を利用した評価を含めて講義する。 【橋立博幸/7回】 神経疾患患者・神経筋疾患患者・末梢神経疾患患者に対する理学療法について、医用画像を利用した評価を含めて講義する。	「医用画像の評価」を教育内容に含む。
	神経障害系理学療法学演習	神経障害系理学療法学で学んだ神経障害に伴う病態と患者の障害像ならびにそれらに対する理学療法の論理的な構築に対する知識を基に、姿勢や動作障害の特徴と、それに対する評価や治療手技を、実技を中心とした演習形式にて習得する。	「医用画像の評価」を教育内容に含む。
	内部障害系理学療法学	本講義では、代謝性疾患、がん、呼吸循環器疾患に関する病態および医学的治療、理学療法について学習する。近年、呼吸循環器疾患、代謝性疾患、がん領域の挑戦的な理学療法が行われており、その動向も含めた内部疾患系の理学療法について、医用画像を用いた評価を含めて説明する。 【オムニバス形式:全15回】 【八並光信/6回】 糖尿病の診断・検査・治療・理学療法、造血器の理学療法などについて講義する。 【木村雅彦/9回】 呼吸理学療法および循環器理学療法について講義する。	「医用画像の評価」を教育内容に含む。
内部障害系理学療法学演習	バイタルサインの中でも、血圧・心拍数・呼吸数の測定方法を学ぶ。血圧計、心電図モニター、パルスオキシメーターを、運動の前・中・後でモニタリングして、呼吸循環器系疾患・代謝性疾患・がん患者を想定して、運動強度の設定やリスク管理ができるようにする。また、感染症・嚥下障害・意識障害等によって喀痰困難となった場合の喀痰吸引法(シミュレーターを用いる)や体位排痰法を学ぶ。感染症管理についても学ぶ。授業は演習形式を含むものとする。	「医用画像の評価」「喀痰等の吸引」を教育内容に含む。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門分野	理学療法治療学系	小児理学療法学	小児理学療法学は、出生時あるいは発達段階の初期から障害を有する児への理学療法である。成人に対する理学療法と異なり、小児特有の知識や考え方が必要である事がある。小児理学療法学の授業では、まず小児領域における理学療法の基本について、医用画像を用いた評価を含めて学習する。小児期の特徴と正常発達を理解し、代表的な小児疾患に対する理学療法の評価と治療の基礎を学ぶ。 (オムニバス形式:全15回) 【烏山亜紀/13回】 正常発達、脳性麻痺の理学療法、低出生体重児・ハイリスク児・重症心身障害児の理学療法、発達障害の理学療法などについて講義する。 【石井博之/2回】 二分脊椎の理学療法について講義する。	「医用画像の評価」を教育内容に含む。
		小児理学療法学演習	小児理学療法学の講義において習得した基本知識を基に、代表的な小児疾患に対する評価と治療の実践について学習する。特に主要疾患である脳性麻痺、低出生体重児・ハイリスク児、発達遅滞や発達障害児に対する評価と治療の考え方や基本的アプローチについて、実技演習を通して学ぶ。	「医用画像の評価」を教育内容に含む。
		高齢者理学療法学演習	高齢者の心身機能における加齢変化や高齢者に特徴的な症候について学ぶとともに、高齢者理学療法における代表的な生活機能（機能・活動・参加）の評価および理学療法介入についてを演習形式を含めて行う。	
		急性期理学療法学	今日における急性期の理学療法介入は、呼吸循環代謝運動神経の各器官と系における合併症を予防するために、発症後早期に介入し、特に離床を促進することによってADLの自立とQOLを向上させることで、生存退院のみならず良好な機能予後を再獲得することが目標である。しかし、侵襲下にある生体の予備能は低く、理学療法は適応と禁忌を判断し、生体情報と管理状況を確認しつつ進行する必要がある。本講座では、情報の収集と統合ならびに理学療法戦略の立案と実施およびその効果判定について多角的に教授する。	
		スポーツ障害理学療法学	理学療法を学ぶ動機として、スポーツに関わりたいたいと考えている学生が多いように感じられる。しかしながら、アスレティックリハビリテーションのことを良く知らないままであることが多い。本講義では、スポーツ外傷について、代表的な疾患の病態、評価、観血術、理学療法を説明するとともに、より高い競技レベルにおいて必要なことがらを説明しながら進めていく予定である。	
		徒手理学療法学演習	骨関節・神経系に起因する疼痛や可動域障害に対する徒手理学療法(マニュアルセラピー)について概要を解説し、代表的な関節を例に演習形式を含めて行う。	
		臨床理学療法学実習	理学療法士という医療専門職に必要な知識と技術を臨床で活用するための実践能力を養うことを目的とする。複数の病態を想定した模擬症例に対する理学療法評価(前期)および治療(後期)の演習ならびにOSCE(Objective Structured Clinical Examination)に類した実技試験を実施して知識と実技を統合して、臨床実習(評価実習Ⅱおよび総合臨床実習)に対する十分な準備を行う実習内容とする。	「医用画像の評価」を教育内容に含む。
	臨床理学療法推論学演習	近年、理学療法分野においても、EBPT(Evidence Based Physical Therapy)が提唱され、根拠に基づいた理学療法を提供する必要性が高まっている。理学療法の適応となる分野は医療から介護まで多岐にわたっているが、いずれの分野においても理学療法士の重要な専門性は、身体機能の検査・分析を中心とした客観的評価に基づいて対象者のADLおよびQOLを向上させ得る方法論を立案し提供することである。本講座では、理学療法分野におけるクリニカルリーズニング(臨床推論)の概念と、理学療法評価の構造的な理解により妥当な推論を構築する能力を高めるための方策について解説する。		
	理学療法管理学系	理学療法を社会のシステムとして効率よく安全に活用するために必要な知識として、医療保険制度、介護保険制度その他の社会保障の枠組みを理解する。また、生命科学の倫理および卒後の職場管理として求められる職業倫理ならびに医療安全や理学療法教育ならびに労務管理を含む内容についても網羅的に学ぶ。さらに、臨床教育や臨床研究を実践するうえで必要となる倫理指針と実践ならびに研究と教育の方策についても理解を深める。		
	地域理学療法学系	地域理学療法学では、「その地域で生活する」ということの意義やそのための様々な支援、理学療法士の役割について学ぶ。医療・保健・福祉システムに関する知識と、地域社会を基盤として行われる理学療法について症例別に学習する。また、様々な地域場面で提供される生活機能の維持・改善(獲得)、さらに予防や健康増進を目的とした理学療法について学習する。		
生活環境学	生活環境学では、リハビリテーション対象者が身体的、精神的、経済的、社会的に豊かな生活を営むために、理学療法士として必要な生活環境および法的制度などに関する知識を学習する。住宅改修を中心に福祉用具の利用も併せて、生活環境調整のための評価と実際を学ぶ。			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域理学療法学系	理学療法国際事情	グローバル社会において、理学療法分野においてもグローバルな視点は必要不可欠である。本講義では海外や国際学会において活動した経験を持つ理学療法士がその経験を元に、日本の理学療法士が海外ならびに国際的にできること、すべきことについて理解を深める。また諸外国との関係の中でより質の高い理学療法を実践するための方策について学ぶ。 【オムニバス形式: 全15回】 【一場友実/9回】 海外留学・研修、各国の理学療法事情、国際的な学術活動としての理学療法、災害支援を含む国際支援としての理学療法などについて講義する。 【石井博之/6回】 マレーシア、アフリカ、ベトナム、中国などにおける理学療法活動について講義する。	
	見学実習	杏林大学医学部付属病院リハビリテーション科および学外の医療または福祉施設において、施設概要やチーム医療におけるリハビリテーション医学の実際を見学する。理学療法士の社会的役割について学ぶ。実習終了後は、学生、個々の総括として報告会を実施する。	
臨床実習系	評価実習 I	本実習では、病院・施設において、教員の監督・指導のもと理学療法の実施場面の見学を行い、必要に応じて理学療法評価学演習 I・II を中心として習得した専門技術を用いて、基本的な検査測定を実施する。また、対象者の情報に関する適切な情報収集や、検査結果に対するアセスメントを行い、理学療法評価における基本的手法を学ぶ。学内実習として、実習前後には全体およびゼミ形式の事前学習会ならびに実習報告会を実施する。	
	評価実習 II	医療機関等の臨床実習場面で、指導者の監督指導のもと、実際の理学療法場面を見学する。指導者の指示により既習の知識や技術である理学療法検査・測定や評価の一部を実施し、その結果をまとめる。結果を報告し、指導者に、検査・測定や評価技術への助言、指導をうけ、学習内容の定着を図る。この過程を通して、理学療法について理解を深める。	
	地域理学療法実習	地域理学療法学で学んだ、患者及び障がい者、障がい児、高齢者の地域における生活を支援していくためのリハビリテーション支援における知識・技術を訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションの実際場面において実習する。その過程を通じて地域生活支援での理学療法士の役割や技術・知識を習得する。	
	総合臨床実習	臨床実習のなかで既習の知識・技術を駆使して、対象者の抱える問題点を把握し、適切な理学療法プログラムを立て、実施する。なお、実習で学んだ内容の習得状況を確認するため、実習前後に評価を実施する。	「臨床実習前の及び臨床実習後の評価」を教育内容に含む。
		障害者スポーツ演習	障がいの理解、障がい者スポーツの意義や理念について理解する。また障がい者スポーツの歴史、種目、障がい区分等について学ぶとともに、障がい者スポーツであるボッチャや車いすバスケットボールなどの実際の演習も行う。障がい者スポーツへの理解を深め、ルールや技術、指導法についても実技を交え学ぶ。
総合領域	理学療法統計学演習	EBM (evidence-based medicine) に必要な知識として、データ解析に必要な統計学的手法と解釈について学ぶ。主に記述統計学と推測統計学の基礎を学ぶ。統計ソフトSPSSを用いて、サンプルデータの入力・加工・分析の作業を、一人で行い、帰無仮説の棄却または採択ができる事を目標に演習を行う。また、医学論文の読解にあたり、論文の構成や図表の見方に関して学ぶ。	
	理学療法研究法	理学療法士にとって臨床研究は、理学療法の発展にとって重要な責務である。本講座では、将来、臨床現場で研究を行う際の手順やデータ収集方法、解析方法、解釈上の諸注意について学習する。特にバイアスやサンプリングに関する問題とよく用いられる統計解析手法を中心に解説する。また、大学院で必要な知識についても説明する。	
	理学療法解析手法演習	理学療法の臨床・研究において、はかることは今後のEvidenceを構築していく中で、極めて重要な要素となる。正しくはかり、正しく解析を行うことは、正確な解釈を得るために必要である。事象や事実の相互関係・因果関係は、正しいEvidenceのもと作り出される必要がある。本科目では、はかる対象の例をあげながら、はかる方法や解析の選択・手順などについて演習形式にて行っていくものとする。	
	応用理学療法学演習	本科目では、1年次より学んできた理学療法学の集大成として知識の整理をするとともに、より実際の臨床において理学療法士が用いている様々な専門領域の理論や治療技術の概念、さらに基本的手技、最新の治療技術について学ぶ。	
専門分野			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	総合領域	基礎理学療法学演習Ⅰ	前期は、主に1年生・2年生で学習した基礎科目（解剖学・生理学・運動学等）の復習と整理するため、授業内小テストを行い、誤答した問題に関して復習する演習形式で行う。後期は、理学療法の専門領域で学んだ知識を基盤として、ゼミナールとして特定領域の学習を通して科学的思考を深める。また、卒業研究の準備として、文献検索・研究テーマの選定・研究計画書や倫理申請書の作成と手続きを行う。
		基礎理学療法学演習Ⅱ	基礎医学（解剖学、生理学、運動学、人間発達学等）、臨床医学（精神医学、整形外科学、神経内科学、脳神経外科学、内科学、外科学、小児科学等）、ならびに、基礎理学療法学、理学療法評価学、理学療法治療学、地域理学療法学等、カリキュラムにて学習した幅広い専門知識について、演習形式にて整理・再統合する。加えて、関連領域における新たな知見を補充し、理学療法に必要とされる全般的知識の確実な修得を図る。
		卒業研究	卒業研究には、1年次から3年次までに修得した基礎知識および専門科目の総合的知識が不可欠である。研究に関しては、指導教員からアドバイスを受けながら、研究計画・遂行・論文作成を行っていく。同時に、研究および既習の知識の再学習を同時進行で行っていく。

授 業 科 目 の 概 要				
(杏林大学保健学部リハビリテーション学科作業療法専攻)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎分野	人間科学系	心理学	本講義では人間への理解を深めるとともに、心理学が日常生活や支援場面でどのように活用されるのかを理解することを目的とする。大学で初めて心理学を学ぶ人にもわかりやすいように、心理学の基本的な考え方や、人間関係論・コミュニケーション論等の対人援助にかかるテーマなどを概説する。	「人間関係論・コミュニケーション論等を含む社会の理解」に関する知識を教育内容に含む。
		生命倫理学	本講義は「生命倫理学」の基本的な概念や考え方を修得することをめざす。人間の生が、すべて死に向けて集約されていくこととなり、生命の尊厳に思いを馳せるとき、「生命倫理学」の「危うさ」「奇妙さ」「いかがわしさ」もまた浮かびあがってくる。これらの正体と所以とを考えてみるのが、本講義のもうひとつの狙いである。	
		芸術	この講義では金管楽器と木管楽器を扱い、楽器の特性や演奏技術の発展、現代の楽器との相違点、楽器が作曲家に与えた影響などに注目する。そして、当時の工業技術の状況や政治、経済的な側面も含めた幅広い分野の時代様相も考慮に入れる。そこから作曲家が用いた楽器の選択方法や表現方法も含めた音楽作品自体に加え、音楽受容や社会状況をも通して、楽器や音楽をより深く知る手がかりを示していく。	
		社会福祉学	一人の人間を総合的に支えるには、保健、医療、福祉の連携が必要不可欠である。当然、それに伴う社会保障や社会福祉の多岐にわたる制度(例えば、介護保険・医療保険・年金保険といった社会保険制度、成年後見制度等)について知識を深めておくことも必要となる。したがって、本講では連携をキーワードの一つとしながら、社会福祉の歴史を概観し、社会保障や社会福祉の制度に関する知識を身につけていく。	
		発達心理学	人は生まれた時から社会的な存在である。本講義では、社会の中で人間がどのように発達していくのか理解することを目的とする。前半では特に乳幼児期を中心に解説する。子どもの世界を身近なものとして感じてもらいたい。後半では青年期から老年期までの発達を中心に解説し、人生の最後に必ず訪れる「死」について考える。	
		職業適性論	本講では専門を異にする多数の教員から各分野の現状認識がもたらされ、広い視野から自分自身の価値観・職業適性等についての内省が促されるとともに、個人特性、多様性を生かした職場運営についての考察が深められる。 (オムニバス形式:全15回) 1-2. 職業観と資格・技能?自立するために (福長) 将来就職したのちに心豊かで充実した職業人になるために、働く意味について認識を深める。 3. リハビリテーションにおける職業適性 (門馬) 4. 将来設計を行う過程における学習の意味と意義 (須田) 5. 放射線を利用する産業とその動向 (岡田) 6. 職場における感染症の予防法 (藏田) 7. 就職活動における職業適性 (関) 8-9. 職業性疾患とその予防 (岡本) 10. リスクのアセスメント、マネージメント (関) 11. 医療産業の現状と今後 (岡村) 12. 労働負荷と心身の変化(労働による人体の機能の変化を含む)(岡本) 13. 放射線の利用と安全性 (岡田) 14. 作業療法士の職業適性 (早坂) 15. 教育分野における職業適性 (大嶺)	
		日本国憲法	立憲主義思想を概観した上で、憲法一般について理解を深める。次に、様々な基本的な人権に関する理論について、事例を通じて学習し、社会生活を営む上で必要とされる憲法知識の獲得を目的とする。さらに、現代社会が抱える諸問題につき、日本国憲法を軸としてその基本的な理解を得ることができるようにする。	
		日本語学	言葉の形や面を中心に、日本語が諸言語と比べてどのような特徴を持っているのか講義する。言葉としての日本語を考えるとき、言葉とは何かを明らかにしなければならない。そこから始まり、言葉の音がどのような仕組みを持ち、どのような構成で出来上がっているか、日本語の文字はどのように考えたらよいのか、音の組み合わせで出来上がる語彙が、どのようなものであるか、その分類と構成、造語法などに触れ、最後に文法的な見方から、日本語の文の構造を明らかにする。	
		ことばと社会	社会のグローバル化が進んでいる現在、日本には多様な人々が生活している。一方、言葉に目を転じると、私たちが使っている日本語も日々変化している。英語から生まれたカタカナ語が増え、多くの場面で使われている。また、スマホやSNSの普及などで、書き言葉、話し言葉などにも変化が生じている。 この授業では、そのような社会の諸相について分析、考察し、多文化共生のために自らがどう行動するのかを考える。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	人間科学系 保健・医療の現状と未来 I	<p>日本の医療を支える大学病院の役割は重要であるが、どのような診療科で構成され、どのような医療が提供されているかについては、よく知られていない。当該授業では特定機能病院である杏林大学病院の各診療科について紹介し、その重要性を理解する。</p> <p>1. 循環器疾患の現状と未来(副島京子) 循環器疾患に関する診断や最先端治療、今後の診断に役立つデジタル医療に関して概説する。</p> <p>2. 子宮のしくみ(小林陽一) 生命をはぐくむ臓器であり「小さな宇宙」ともいえる子宮のしくみ、機能と、子宮を取り巻く疾患について概説する。</p> <p>3. 皮膚学の醍醐味(大山 学) アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、水疱症、悪性黒色腫などを例に皮膚学のエッセンスにふれる。</p> <p>4. うつとストレスについて学ぶ(渡邊衡一郎) うつ、そしてその原因となるストレスについて対処法を含め概説する。</p> <p>5. 耳・鼻・のどの病気(齋藤康一郎) 耳・鼻・のどと多岐にわたる多様性を特徴とし、繊細さとダイナミックさの両面をもつ耳鼻咽喉科の魅力をお伝えする。</p> <p>6. 救急蘇生の最新知識(山口芳裕) 最新のガイドラインに沿って、BLS (Basic Life Support) を中心に救急蘇生に必要な知識を講義する。</p> <p>7. 乳がんの最新治療(井本 滋) 乳がんの手術・薬物・放射線を組み合わせた集学的治療について、基礎知識から最先端まで紹介する。</p> <p>8. 障害の視点とリハビリテーションの考え方(岡島康友) 横断的な診療を行い、患者の将来の生活の質(QOL)を念頭に置いた新しい医療領域である、リハビリの基本的な考え方と重要性を示す。</p> <p>9. 医療と生命倫理(平形明人) 医療の歴史を振り返り、医師と患者の関係、求められている医療、生命倫理の諸問題を取り上げ、共に考える。</p> <p>10. 麻酔の基本(萬 知子) 麻酔について、入門的な概念や総論について、わかりやすく解説する。</p> <p>11. 前立腺癌治療の現在と未来(福原 浩) 前立腺癌の検査と治療、特にロボット手術及び将来の治療について紹介する。</p> <p>12. 肺癌の基礎(近藤晴彦) 肺癌発生のメカニズムと治療法について入門的な解説を行う。</p> <p>13. 腸管の不思議(久松理一) 腸管の複雑な機能、腸内細菌との共存のメカニズムなど、腸管の不思議を、現代人で増加している疾患を交えて解説する。</p> <p>14. 危険な頭痛：クモ膜下出血(塩川芳昭) 生命の危険すら伴うクモ膜下出血をテーマに、手術ビデオや最先端の知見を交え講義する。</p> <p>15. 脳梗塞の新たな診断・治療戦略(平野照之) この数年で大きく様変わりした脳梗塞の診断治療に関して、知っておきたい初期症状、新たな治療の実際、社会に及ぼす影響などを概説する。</p> <p>副島京子：1回 小林陽一：1回 大山学：1回 渡邊衡一郎：1回 齋藤康一郎：1回 山口芳裕：1回 井本滋：1回 岡島康友：1回 平形明人：1回 萬知子：1回 福原浩：1回 近藤晴彦：1回 久松理一：1回 塩川芳昭：1回 平野照之：1回</p>	オムニバス

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	人間科学系 保健・医療の現状と未来Ⅱ	<p>日本の医療を支える大学病院の役割は重要であるが、どのような診療科で構成され、どのような医療が提供されているかについては、よく知られていない。当該授業では特定機能病院である杏林大学病院の各診療科について紹介し、その重要性を理解する。</p> <p>1. がんの臨床(古瀬純司) がんはなぜ起きるのか、がんの予防と治療はどうするか、がんの告知、がん患者の生活のサポートなどについて概説する。</p> <p>2. “ものづくり”としての形成外科(多久嶋亮彦) 癌や外傷によって欠損した臓器を機能的・整容的に修復することによって患者さんが元の(あるいは新しい)生活に戻ることを手助けする、形成外科学を紹介する。</p> <p>3. 隠れた司令塔：腎臓は何をしているのか?(要 伸也) 複雑な構造を持ち、多彩な機能を担う、隠れた司令塔としての腎臓の重要性と腎臓病学の奥深さを紹介する。</p> <p>4. 心臓血管外科の進歩と未来(窪田 博) 人工心肺を用いた開心術が始まってから60年以上が経過した、心臓血管外科の進歩を紹介し、さらに未来の治療法を予想してみたい。</p> <p>5. 消化器外科の低侵襲治療の現況(阿部展次) 「治療による負担をいかに減らして、患者の健康を改善・維持することができるか」を目標に日々進化する外科医療を紹介しする。</p> <p>6. 肺とタバコについて(石井晴之) 受動喫煙も含め、社会全体に与える損失が大きいタバコの害と、関連する肺の病気について講義する。</p> <p>7. 現代医療における画像診断の役割(横山健一) さまざまな画像診断装置の仕組みや発展の歴史、およびそれらを用いて体内を見ながら行う画像下治療について紹介する。</p> <p>8. 歳をとるとは?(神崎恒一) 老化は年齢で決まるのか?歳をとることと病気の関係は?など老化のしくみについて紹介し、老化に対して医療ができる事について考えてみたい。</p> <p>9. 眼科診療とQOV(井上 真) 眼科診療はQOV(quality of vision: 視覚の質)を向上させるためにどのように貢献しているか、実臨床例から解説する。</p> <p>10. 朝ごはんって必要ですか?(大久朋子) 突然ですが、皆さんは朝ごはんを食べていますか。国民健康・栄養調査の結果(平成29年)によると、20代男性の30.6%、20代女性の23.6%が朝ごはんを食べないそうです。これほどの割合で食べない人がいる「朝ごはん」は必要なのでしょうか。この疑問について科学的に考えます。</p> <p>11. 運動器外科の現状と未来(市村正一) 脊椎、四肢の関節、筋肉、腱等の運動器、および脳からの伝達を担う神経に関する治療を行い、QOLの改善を目的とする整形外科の現状と未来を熱く語る。</p> <p>12. 救急救命士の仕事とは?(樽井武彦) 病院前救護(プレホスピタルケア)を担う救急救命士の仕事を理解し、その重要性を学ぶ。</p> <p>13. 臨床工学士の仕事とは?(福長一義) 医療における医療機器管理の重要性と臨床工学士の仕事を学ぶ。</p> <p>14. 保健福祉の仕事とは?(加藤雅江) 保健福祉における社会福祉士、精神保健福祉士の仕事を学ぶ。</p> <p>15. 健康とスポーツについて(平澤愛) 現代の健康問題について取り上げ、その予防と対策について学び、運動による健康づくりの重要性について理解を深める。</p> <p>古瀬純司：1回 多久嶋亮彦：1回 要伸也：1回 窪田博：1回 阿部展次：1回 石井晴之：1回 横山健一：1回 神崎恒一：1回 井上真：1回 大久朋子：1回 市村正一：1回 樽井武彦：1回 福長一義：1回 加藤雅江：1回 平澤愛：1回</p>	オムニバス

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	人間科学系 社会と大学 I	<p>私たちがこれから生きていく現代社会は、非常に複雑な社会である。様々な分野の知識や情報が複雑に絡み合っ社会を構成しているといっても過言ではない。したがって、それぞれの学部・学科・コースで学ぶ専門科目に加えて、様々な分野の基礎知識、その分野では当たり前の知識であっても、他の分野では学ぶことがなく、かつ現代社会では重要な知識も存在する。これらの知識や教養は、現代社会を生き抜いていく上で重要な武器となっていくであろう。以上のような考えに立脚し、本授業では、法律、政治、国際関係、福祉政策の視点から、現代社会を生き抜いていく上で必要な基礎知識を明らかにし、学生たちの武器を増やしていくことを考えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養としての法律（1）(伊藤敦司) 商法、会社法の規制の中での教養としての知識について明らかにする 2. 教養としての法律（2）(藤原究) 民法、不動産法の規制の中での教養としての知識について明らかにする 3. 教養としての法律（3）(北田真理) 民法、家族法の規制の中での教養としての知識について明らかにする 4. 教養としての法律（4）(尾崎愛実) 刑法、刑事訴訟法の規制の中での教養としての知識について明らかにする 5. 教養としての法律（5）(大西健司) 憲法、行政法の規制の中での教養としての知識について明らかにする 6. 教養としての法律（6）(尾崎愛美) 憲法、情報法制の規制の中での教養としての知識について明らかにする 7. 教養としての国際関係（1）(渡辺剛) 国際政治、中国政治の中での教養としての知識について明らかにする 8. 教養としての国際関係（2）(劉迪) 比較政治学の中での教養としての知識について明らかにする 10. 教養としての国際関係（4）(川村真理) 国際法の中での教養としての知識について明らかにする 11. 教養としての福祉政策（1）(岡村裕) 社会福祉の中での教養としての知識について明らかにする 12. 教養としての福祉政策（2）(松井孝太) 社会保障政策の中での教養としての知識について明らかにする 13. 教養としての政治（1）(進邦徹夫) 行政学、地方政治の中での教養としての知識について明らかにする 14. 教養としての政治（2）(木暮健太郎) 公共選択、現代政治の中での教養としての知識について明らかにする 15. 教養としての政治（3）(半田英俊) 政治史、政治心理学の中での教養としての知識について明らかにする <p>伊藤敦司：1回 藤原究：1回 北田真理：1回 大西健司：1回 尾崎愛実：2回 渡辺剛：1回 劉迪：1回 島村直幸：1回 川村真理：1回 岡村裕：1回 松井孝太：1回 進邦徹夫：1回 木暮健太郎：1回 半田英俊：1回</p>	オムニバス

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	人間科学系	<p>社会と大学Ⅱ</p> <p>私たちがこれから生きていく現代社会は、非常に複雑な社会である。様々な分野の知識や情報が複雑に絡み合って社会を構成しているといっても過言ではない。したがって、それぞれの学部・学科・コースで学ぶ専門科目に加えて、様々な分野の基礎知識、その分野では当たり前の知識であっても、他の分野では学ぶことがなく、かつ現代社会では重要な知識も存在する。これらの知識や教養は、現代社会を生き抜いていく上で重要な武器となっていくであろう。以上のような考えに立脚し、本授業では、経済、経営、会計の視点から、現代社会を生き抜いていく上で必要な基礎知識を明らかにし、学生たちの武器を増やしていくことを考えている。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養としての会計（1）（内藤高雄） 商業実務、会計学の中での教養としての知識について明らかにする 2. 教養としての会計（2）（原田奈々子） 簿記理論、簿記実務の中での教養としての知識について明らかにする 3. 教養としての会計（3）（高田京子） 会計監査、管理会計の中での教養としての知識について明らかにする 4. 教養としての租税（1）（知原信良） 租税法の規制の中での教養としての知識について明らかにする 5. 教養としての経営（1）（田中信弘） 経営管理、財務管理の中での教養としての知識について明らかにする 6. 教養としての経営（2）（糟谷崇） 経営戦略論の中での教養としての知識について明らかにする 7. 教養としての経営（3）（加藤拓） マーケティングの中での教養としての知識について明らかにする 8. 教養としての経営（4）（糟谷崇） 経営組織論の中での教養としての知識について明らかにする 9. 教養としての経営（5）（長谷部弘道） 10. 教養としての経済学（1）（西孝） マクロ経済学、経済原論の中での教養としての知識について明らかにする 11. 教養としての経済学（2）（小田信之） 経済統計、金融論の中での教養としての知識について明らかにする 12. 教養としての経済学（3）（西孝） 開発経済学、アジア経済の中での教養としての知識について明らかにする 13. 教養としての経済学（4）（北島勉） 医療経済学、健康科学の中での教養としての知識について明らかにする 14. 教養としての経済学（5）（斉藤崇） 環境経済学の中での教養としての知識について明らかにする 15. 教養としての経済学（6）（三浦秀之） 国際政治経済学の中での教養としての知識について明らかにする <p>内藤高雄：1回 原田奈々子：1回 高田京子：1回 知原信良：1回 田中信弘：1回 糟谷崇：2回 加藤拓：1回 長谷部弘道：1回 西孝：2回 小田信之：1回 北島勉：1回 斉藤崇：1回 三浦秀之：1回</p>	オムニバス

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎分野	人間科学系	<p>地域内での英語圏・中国語圏の人たちとのコミュニケーションは、今後も拡大していくことが予想される。本科目は、その場面においてことばが果たす役割を理解し、必要な異文化理解の基礎となる力を身につけることを目的とする。その上で、主に「観光・ホスピタリティ」の視点から、地域の魅力発見・魅力づくりの過程で必要とされる知識や具体的技法を学んでいく。</p> <p>第1回 インTRODクシヨン (八木橋宏勇) 第2回 自身のふるさとの特徴を英語で考えてみよう (坂本ロビン) 第3回 日常生活を題材にした英語コミュニケーション Part.1 (八木橋宏勇) 第4回 日常生活を題材にした英語コミュニケーション Part.2 (倉林秀男) 第5回 通訳・翻訳の視点から見た適切な英語表現とは? (岩本和良) 第6回 日常生活を題材にした中国語コミュニケーション Part.1 (池田尚広) 第7回 日常生活を題材にした中国語コミュニケーション Part.2 (池田尚広) 第8回 観光で訪れた中国人に話しかけてみよう Part.1 (千野万里子) 第9回 観光で訪れた中国人に話しかけてみよう Part.2 (藤田由香利) 第10回 中国人から見た日本 (宮首弘子) 第11回 観光によるまちづくりの手法: 合意形成 (古本泰之) 第12回 観光によるまちづくりの手法: 地域の国際化 (安江枝里子) 第13回 インバウンド時代のホスピタリティ (志村良浩) 第14回 Post/Withコロナ時代のホスピタリティ (西山桂子) 第15回 グローバルな視点から地域の在り方を考える (古本泰之)</p> <p>八木橋宏勇: 2回 坂本ロビン: 1回 倉林秀男: 1回 岩本和良: 1回 池田尚広: 2回 千野万里子: 1回 藤田由香利: 1回 宮首弘子: 1回 古本泰之: 2回 安江恵理子: 1回 志村良浩: 1回 西山桂子: 1回</p>	オムニバス	
	社会科学系	社会と大学Ⅲ		
	自然科学系	数学	<p>数学の知識や考え方は、科学を学ぶために必要不可欠である。そこで、本講義では数学の基礎的事項から始めて、微分積分学を学習する。また、微分積分学がどのように利用されるかについて紹介する。</p>	
	自然科学系	統計学	<p>現在、統計学は、調査資料や実験データの解析など、様々な方面に応用されている。この講義では、いろいろな事例への応用を紹介しながら、統計学を基礎から学ぶ。</p>	
	自然科学系	情報処理論	<p>医療分野においてもコンピュータによる資料整理やインターネットによる情報収集が欠かせない。社会に出てからはもちろん、在学中においてもこれらの知識は実習や卒業研究などで必要になる。ここでは、実際にコンピュータを使用しながら情報を収集、整理ならびに伝達するのに必要な基本的技術を修得することを目指す。 (オムニバス形式: 全15回) 【望月秀樹/8回】 情報処理における基礎を学ぶ。 【矢倉義久/7回】 臨床分野における情報処理の応用方法について学ぶ。</p>	
自然科学系	基礎物理学	<p>自然科学は日常現象を体系的に整理し、一定の法則を見出そうとする学問である。物理学はこのような自然科学の一分野であるばかりでなく、あらゆる学問の基礎となる学問であり、物理学的なものの方、考え方はあらゆる学問に通じるものである。そこで、この科目では考え方に重点を置き、日常的な現象について概説し、基礎となる考え方、法則などについて学ぶ。</p>		
自然科学系	物理学概論	<p>自然科学は日常現象を体系的に整理し、一定の法則を見出そうとする学問である。物理学はこのような自然科学の一分野であるばかりでなく、あらゆる学問の基礎となる学問でもあり、物理学的なものの方、考え方はあらゆる学問に通じるものである。そこで、本科目では、日常的に経験するであろう現象や事柄を取り上げ、それらの解説をする。その際、数学的手法を使うことになるが、考え方に重点を置く。</p>		

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	自然科学系	基礎化学	本講義は大学の化学系専門科目に講義についていけるかどうか不安に思っている学生を対象としている。高校教科書レベルの基礎的な化学の内容を教授する。
		生化学概論	本講義では、生体の構成する基本物質の化学的に理解する。そして体外から摂取した物質が生体内でどのように分解(異化)されて合成(同化)されるのか、そしてその反応に関与するエネルギー代謝や情報代謝について化学の視点で学ぶ。 (オムニバス形式:全15回) 【八巻明子/5回】 糖質代謝と脂質代謝について講義する。 【村田麻喜子/5回】 アミノ酸・タンパク質・酵素・ビタミンについて講義する。また、核酸代謝と遺伝子発現についても講義する。 【石井さなえ/5回】 糖質・脂質・体液・ホルモンについて講義する。
		基礎生物学	ヒトは、他の生物にはない独自の社会を形成し生活を営んでいる。しかし、生物種としてみれば、地球環境に生活するその他の動物、植物、細菌などと同様に共通のしくみを持っている。本科目では、多くの生物が行っている生命活動の共通する基本的なしくみを解説する。
		生命科学概論	生命科学は生命体に関わる物質や現象を理解し、これらの知識をヒトを中心とした生物にとって望ましい方法で応用することを目指す学問である。本科目では、体を構成する基本単位である細胞の機能とこれを支える構造、遺伝と環境が生命現象に及ぼす影響、発生や分化の基本的なしくみ、および近年著しい発展をみせる医療技術や遺伝情報に関連した倫理的問題、生命科学に関する情報との関わり方などについて学習する。
		分子生物学	本講義では、分子生物学の基礎である遺伝子の複製する際に起こる現象やその調節、塩基配列からタンパク質が合成される、転写や翻訳現象とその調節機構など基礎知識を確認しつつ、脳および神経で生じる情報ネットワークの分子機構を分子レベルで学ぶ。また、分子生物学の解析を用いた応用例を交えながら学習する。本講義では分子生物学の視点から疾患の原因や治療方法について発表を通して分子生物学の理解を深める。
		人類遺伝学	近年、生活の様々な場面で遺伝に関連する染色体、ゲノム、DNA、遺伝子などの言葉が頻繁に使われている。これらの言葉について知ることは、私たちの生活や将来について考えるヒントにもなる。遺伝子とは生命を作るための「レシピ」でもある。ここではヒトの遺伝に関する基礎的知識を通して、ヒトがどのように作られていくのかについて学ぶ。さらに、遺伝が関与する最先端医療技術がもたらす生命倫理的な問題についても考え、自分自身のいのちと生活について振り返る時間としたい。
	語学系	英語プレゼンテーション	本授業では、健康・医療をテーマとした教材を使用し、語彙や文の構造を整理しながら正確に情報を理解することを重要視する。同時に、扱ったテーマに関する活発な議論を奨励しながら進めてゆく。
		英語読解	本授業では、健康・医療をテーマとした教材を使用し、語彙や文の構造を整理しながら正確に情報を理解することを重要視する。同時に、扱ったテーマに関する活発な議論を奨励しながら進めてゆく。
		保健医療英語	本授業では、医療や健康問題をテーマに取り上げた英語のビデオ教材(米国のニュースクリップ)を用いて、医療や健康問題に関する情報を正確に収集し、理解する能力を養う。さらに、扱ったテーマに関する活発な議論を奨励しながら進めてゆく。

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	語学系	英会話	基本的な会話練習に加え、ディスカッション技術を学ぶ。具体的には、英語力向上のため、2人1組での演習、グループワークを行う。さらに、プレゼンテーション方法についても紹介をし、練習する。
		医学英語	リハビリテーションに必要な英語を学び、外国人患者(外来を含む)への対応をスムーズに行えるようにする。また、リハビリテーション上必要な単語も覚え、理学療法士・作業療法士として日々使える英語を身につけるよう講義する。
		日本語表現法	「話しことば」としての日本語表現を実践的に学べるよう解説する。また、ことばのしくみや日本語の理解を深めるために、音声学や言語学等の基礎的知識を解説する。
専門基礎分野	医学系	解剖学	解剖学は、医学やコメディカル(医学と協業する専門職)分野における最も基礎的な学問である。正常な体の形態や構造を学び、理解することは、将来遭遇する医療や研究などの現場において、体の機能やその異常を見極めることや適切にヒトの体を扱うための基礎を私たちに提供してくれる。 本講義では、系統解剖学の体系に沿って、主として肉眼解剖学レベルの知見を中心に体の各器官系を構成する器官の形態や位置、その機能的意義などについて解説する。 (オムニバス形式:全15回) 【瀧上周/5回】 細胞と組織、骨格系、筋系、神経系、感覚器系、皮膚、脈管系について講義する。 【堀口幸太郎/7回】 内分泌系、生殖器系、消化器系、血液と骨髄、リンパ性器官について講義する。 【長谷川瑠美/3回】 循環器系、呼吸器系、泌尿器系について講義する。
		リハビリテーション解剖学	リハビリテーションを学ぶ者にとって、人体の構造を理解することは必要不可欠である。人体で運動機能に関係する組織は、筋、骨、関節、神経など様々あるが、運動を実際に起こすのは筋である。筋は骨に付着しているため、筋と骨の両方の知識を学ぶことは運動を理解するために重要である。このため、本講義では運動を起こす土台となる筋骨格系といった解剖学の基礎を教授する。
		解剖学実習	系統解剖学の体系に沿って解剖学で学ぶ人体の構造のうち、本実習ではとくに骨格系の詳細な構造について3次元的な理解を深める。全身骨格模型や各部位を構成する骨の模型を実際に手にとって観察を行う。観察結果はスケッチによって記録し、筋や神経の詳細な構造を理解するための土台となる骨格系の基礎知識を充実させる。
		リハビリテーション解剖学実習	リハビリテーションを学ぶ者にとって、人体の構造を理解することは必要不可欠である。人体で運動機能に関係する組織は、筋、骨、関節、神経など様々あるが、運動を実際に起こすのは筋である。筋は骨に付着しているため、筋と骨の両方の知識を学ぶことは運動を理解するために重要である。このため、本講義ではリハビリテーション解剖学で学んだ知識をもとに、運動を起こす土台となる筋骨格系を、標本等を用いて立体的かつ実際に解剖学の基礎を教授する。
		生理学Ⅰ	生理学は、生命活動を個々の構成要素が、いつ、どこでどのように働くかを研究し、調和のとれた生命活動を知る学問である。生理学Ⅰでは、ヒトの器官系の機能全般を解説する。 (オムニバス形式:全15回) 【小林博子/7回】 ニューロンの活動、血液と体液、呼吸、腎臓と排出、内分泌器官、消化吸収について講義する。 【瀬野晋一郎/8回】 興奮性細胞の性質、末梢神経、中枢神経、感覚と生理、心臓と循環について講義する。
		生理学Ⅱ	人体機能を理解するための動物性機能について主に説明する。生体の内部環境は外部環境の変化によって大きくかわることなく恒常性を保つように制御されている。脳・脊髄の中枢神経系とこれに出入りする末梢神経系、筋、感覚器の機能および内分泌などの液性調節についても説明する。 (オムニバス形式:全15回) 【小林博子/4回】 代謝と内分泌、体温調節について講義する。 【瀬野晋一郎/11回】 細胞膜電位、筋収縮のメカニズム、中枢神経、末梢神経について講義する。

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎分野	医学系	生理学実習	講義で学んだ知識をより実際的に身につけるため、生体機能がどのように測定され、変化するかをいくつかの例で実際に臨床の場で用いられている機器や方法により実習を行う。心臓の電気現象を体外から把握するための心電図計測や血圧測定、および呼吸機能の分析など実践的に取り扱えるように技術的な内容と、皮膚感覚を対象として知覚に対する評価方法を理解する。	
		運動学	人間の運動の科学である運動学は多様な学問領域の統合のうえに成り立つ応用的な学問である。このため、本講義では、力学、解剖学、生理学といったさまざまな側面から人間の運動を理解する基礎を教授する。	
		運動学実習	生理学・解剖学・運動学の基礎医学の知識をもとに、人体の構造と機能及び人間の運動のメカニズムについて、実習を通して理論的に分析しながら学習する。身体運動を観察し、記録・測定したデータを処理して、レポートにまとめることによって報告文書作成について学ぶ。	
		病態運動学実習	運動学で人間の正常運動に関するもの、特に四肢の運動について学習した。本授業では、それらの基礎的な知識を土台として、筋電図、心電図、活動分析、バランス評価、認知などを様々な器具を使って分析することを教授する。それらを何らかの疾患によって生ずる運動機能障害との特徴を踏まえながら考察する。	
		病理学	疾病はその成り立ちから、先天異常、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍などの大きなカテゴリーに分類される。これらの疾病カテゴリーに属する主だった疾患について、疾患を引き起こす原因、各疾患に生じる臓器・組織・細胞レベルの形態変化とその経過、さらには、疾患がたどる転帰を総合的にとらえるように学習する。 【オムニバス形式:全15回】 【島田厚良/8回】 細胞・組織の傷害と再生、代謝異常、循環障害、免疫について講義する。 【水谷奈津子/7回】 炎症、感染症、腫瘍、先天異常について講義する。	
		人間発達学	人は、生まれてから亡くなるまで、子どもから大人そして老人へと変化する存在である。これらは心身の発達および退化という見方もあるが、現代は(老化も含めて)生涯発達しているという解釈が一般的である。本講義ではその人間の各時期・年齢に応じた変化・発達の概要を教授する。具体的には、発達の原理、発達段階、発達課題、運動発達、知的発達、社会性の発達、等について学ぶ。	
		リハビリテーション概論	リハビリテーションとは、障害を持つ人を全体として捉え、その人が再び(人間らしく生きられる)ようになること、すなわち、“全人的復権”を究極的な目標とするものである。QOL(生活の質)は、AD、経済生活、文化活動も包括する概念であるが、リハビリテーションの目指すべきところは、QOLの向上である。そのためには、ICFモデルを活用し、対象者の生きることの全体像を把握していくことが重要である。作業療法士は、チーム医療の中で、リハビリテーションの一翼を担っており、高い倫理性と専門性を身に付け、そこに加わるようにする。	「リハビリテーションの理念・多職種連携」に関する知識を教育内容に含む。
		臨床心理学概論	臨床心理の知見は医療や関連分野で働く際に多に助けとなるものである。この授業では自身のセルフケアにも活かせる知識も交えつつ臨床心理の基本の概要を学び、心理的支援への理解を深めていく。	
精神医学	精神医学全般にわたり基本的な事柄を概説する。具体的には、脳器質性精神障害、症状性精神障害、てんかん、統合失調症、気分障害などについて学ぶ。			

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎分野	医学系	内科学Ⅰ	<p>主要な内科系疾患である循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、感染症、腎臓疾患、内分泌疾患の病因、病態、徴候、診断、治療などについてリハビリテーションに必要な事項を解説する。 (オムニバス形式:全15回) 【四倉正之/6回】 心不全、不整脈、虚血性心疾患、呼吸器疾患などについて講義する。 【岸野智則/5回】 消化器疾患、感染症などについて講義する。 【岩橋桜子/4回】 腎泌尿器系、内分泌系などについて講義する。</p>	
		内科学Ⅱ	<p>食習慣などの生活習慣の悪化は動脈硬化の因子であることが広く知られている。生活習慣の改善によって動脈硬化を改善させ、虚血性心疾患等の生活習慣病による死亡率が低下するとされている。当該科目は、このような概念に基づく生活習慣病(いわゆるメタボリックシンドローム)について講義する。</p>	
		小児科学	<p>「子どもはおとなのミニチュアではない」といわれる。小児科学が通常扱う0歳から15歳(疾患によっては20歳やそれ以上の場合も)という期間は、80歳を越える一生から見たら短い、この間に子どもは、身長は3倍以上、体重は20倍近くに劇的に成長する。各器官の発達や病気については子どもに特有のものがある。新生児から思春期にわたる小児の身体的特徴と、代表的な諸疾患についての基本的な知識を解説する。</p>	
		神経内科学	<p>医療の現場で働く上で必要な、神経内科疾患の様々な神経症状の成り立ちを講義する。</p>	
		外科学	<p>外科学全般にわたり基本的な事柄を概説する。具体的には、呼吸器外科、肺がん、甲状腺がん、心臓血管外科、乳腺外科と乳がん、吐血と食道・胃疾患などについて講義する。</p>	
		整形外科	<p>整形外科系疾患の病因、病態生理、症状、悪化防止、生命の危険回避をするために必要な救急処置の知識・技能、観察の方法と意義(重症度、全身・局所の観察、各種病状の観察)、検査〔各種病態に関する検査〕等について講義する。 (オムニバス形式:全15回) 【小寺正純/5回】 先天性骨・関節疾患、骨・軟部腫瘍について講義する。 【佐藤行紀/5回】 整形外科の治療法、関節外傷性疾患について講義する。 【井上功三朗/5回】 循環障害と壊死性疾患、炎症性疾患について講義する。 【坂倉健吾/5回】 腱・靭帯外傷性疾患、スポーツ障害について講義する。 【稲田成作/5回】 体幹の骨折、末梢神経の外傷性疾患について講義する。</p>	
		脳神経外科学	<p>脳神経外科学全般にわたり基本的な事柄を概説する。具体的には、中枢神経系の解剖・生理、意識障害、脳梗塞、脳出血、脳腫瘍、頭部外傷などについて講義する。</p>	
		リハビリテーション医学	<p>リハビリテーション医学は、病態生理、画像診断、神経生理学、薬物療法、理学・作業、あるいは言語聴覚療法などを包括して、運動・行為の障害、つまり"dysmobility"を科学する。リハビリテーションに従事する療法士は、基本的な医学知識の上に、適切なリスク管理を行いながらリハビリテーションを進めることが求められている。その基本的視点を培うのが本講義の目的で、総論として基本的知識を習得し、また疾患別に病態を理解して、リハビリテーションに関連する各論的知識を身につける。 (オムニバス形式:全8回) 【岡島康友/6回】 リハビリテーションにおける病態生理とリスク管理、運動器疾患、心疾患などについて講義する。 【山田深/2回】 脳卒中、脳外傷、脳性麻痺などについて講義する。</p>	「画像の基礎」に関する知識を教育内容に含む。
		感染症・免疫学	<p>本講義では、代表的な病原微生物の分類、病原性と感染のメカニズム、感染症の治療と予防などについて学び、リハビリテーションの現場における感染制御の重要性を理解する。</p>	
		薬理学	<p>薬理学とは、薬物が生体に対してどのように影響して治療効果が現れるのかを追求する学問である。本講義では、日常生活および臨床現場において使用される薬物を理解するとともに、その体内動態、治療効果を発揮するメカニズム、安全性と有効性、主作用・副作用の発現機序などについて学習する。</p>	「薬理の基礎」に関する知識を教育内容に含む。

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎分野	医学系	栄養学	生体を構成し生命を維持する物質の性質、代謝の仕組みを理解し、対象者の栄養評価および臨床栄養に応用するための基本的な知識を学ぶ。	「栄養の基礎」に関する知識を教育内容に含む。
	保健学・衛生学系	産業保健学	総論においては歴史的経緯を踏まえた現行諸制度を概括し、現代の労働環境を取り巻く諸問題を整理する。各論においては職業起因性の様々な有害因子を順次取り上げ、それぞれが誘発しうる疾病、障害とその予防策について解説する。 (オムニバス形式:全15回) 【関健介/8回】 産業保健の現状・労働安全衛生組織、安全衛生管理、騒音、振動・気圧、非電離放射線、電離放射線などについて講義する。 【岡本博照/7回】 労務管理、職場のメンタルヘルス、化学的因子、職場の健康診断などについて講義する。	
		公衆衛生学 I	公衆衛生学とは「社会における組織的な働きかけにより、疾病を予防し、寿命を延ばし、身体的・精神的機能を増進させる科学であり技術である」と、定義されている。公衆衛生学の領域は多岐にわたっているが、本講 I では保健学の出発点ともいえる公衆衛生学の基本的技術論、方法論を中心として解説し、年齢階層や、社会的機能集団の各次元で、それぞれの特質に合わせた取り組みについて、実践的な視点からの解説も行う。社会保障論・地域包括ケアシステムの理解についても学ぶ。	「予防の基礎、社会保障論・地域包括ケアシステム」に関する知識を教育内容に含む。
		公衆衛生学 II	公衆衛生学の領域は多岐にわたっているが、本講では、年齢階層や、社会的機能集団の各次元で、それぞれの特質に合わせた取り組みについて、実践的な視点からの解説を中心として行い、公衆衛生学の基本的技術論、方法論についても触れる。 (オムニバス形式:全15回) 【照屋浩司/4回】 公衆衛生学概論、疫学、成人保健について講義する。 【岡本博照/6回】 感染症、食品保健、産業保健などについて講義する。 【石野晶子/1回】 保健福祉論について講義する。 【井上敦/1回】 保健福祉論について講義する。 【平澤愛/1回】 健康教育について講義する。 【関澤浩一/1回】 生命倫理について講義する。 【楠田美奈/1回】 環境保健について講義する。	
		環境衛生工学	環境因子の発生機序や測定・評価方法及び人体への影響、健康被害の防御に関して解説する。第一種衛生管理者の必修科目でもあるので、これらの内容が中心となるが、公害防止や環境計量など幅広く講義を行う。	
		救命救助法	大規模災害時や海、山での事故に備え、救命救助法を身につけておくことは、保健学部に学ぶ者の責務である。本実習では東京消防庁の救助隊の活動を実際に見て、これらの活動の実際と救急救助体制などについて学ぶとともに、救命救助法の技能を修得する。最終試験に合格した者には、東京消防庁より「上級救命技能認定証」が交付される。	「救急救命の基礎」に関する知識を教育内容に含む。
		労働衛生法規 I	本講義では労働災害や職業性疾患の発生機序と招来要因を学びつつ、それらを制御するために定められた法的規制、安全・衛生管理体制の実際について学ぶ。各法令について、とくに基本的な語句や概念の定義に関わる部分では、正確な語句の確認が不可避であり、逐条的な解説を伴う。 (オムニバス形式:全15回) 【岡本博照/9回】 THP、事務所衛生基準規則、高気圧作業安全衛生規則などについて講義する。 【関健介/6回】 労働安全衛生法、作業環境測定法、電離放射線障害防止規則などについて講義する。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎分野	保健学・衛生学系 労働衛生法規Ⅱ	本講義では、労働基準法、労働災害の法的救済について触れ、さらにそれを制御するために定められた法的規制、安全・衛生管理体制について学ぶ。働く者の生活を守る具体的な法令は、労働基準法と、これより分化・独立した諸法律を中心に構築されている。本講義は、労基法の意義と内容、最近の労基法の傾向と新たに解決されるべき諸問題を取り上げ、さらに労災保険法や労働安全衛生法の概要と諸手続きについて解説する。	
専門分野	基礎作業療法学系 作業療法学概論	作業療法士はリハビリテーションを行う専門職である。小児から高齢者までのすべての年齢層を対象とし、身体障害・精神障害・老年期障害・発達障害といったすべての障害領域を扱うだけでなく、家庭生活・地域生活・学校生活・職業生活といったすべての生活領域で支援を提供する。本講義では作業療法の歴史、概要、そして実際に教授する。 (オムニバス形式:全15回) 【望月秀樹/7回】 専門職としての作業療法士、作業療法の過程・実際などについて講義する。 【長谷川利夫/4回】 精神科領域の作業療法について講義する。 【早坂友成/2回】 精神科治療における作業療法の役割について講義する。 【原田祐輔/2回】 身体障害領域における作業療法について講義する。	
	基礎作業学概論	作業療法においては、作業活動を用いて治療、指導、援助を行う。作業、作業活動、活動の関係を把握し、社会、文化的背景をふまえた作業の理解をすることが重要であり、作業の構造的理解が必要である。自己の作業を分析、考察できるようにし、作業を通じて健康に影響を与え、対象者にとって意味のある作業を行えるようにする作業の役割について理解できるようにする。	
専門分野	基礎作業療法学系 基礎作業学実習	作業療法士が、治療・指導・援助の際に用いる「作業」に関する知識・技術・応用力を身につけることは大切である。基礎作業学実習では、種々の作業活動体験を通し、それぞれの作業活動の特性や適応する対象者等を考察する。作業活動種目は、革細工、籐細工、紙細工、マクラメ、陶芸、木工、グループ活動を予定する。これらの作業と身体(からだ)、精神(こころ)の関係を認識し、作業療法士が作業を用いて療法とする理由を理解する。また同時に、これらの機会を通して、作業の工程、工程に必要な動作、動作を構成している運動といったように分析的にとらえる視点についても教授する。	
	作業分析学	人と作業の関係、作業の意味、形態、機能について学び、人について作業的視点を持って理解することを養う。	
	作業分析学演習	作業療法士にとって不可欠な「作業」を分析し、治療に応用するための基礎知識を、自分自身および身近な人を用いて養う。	
	作業療法諸理論	作業療法およびその関連領域における理論およびモデル、理論と臨床の関連について学ぶ。具体的には、生体力学的モデル、運動コントロールモデル、感覚統合理論、人間作業モデル、カナダ作業遂行モデルについて、自ら調べ、他者に伝えることを通し学習する。また、作業療法の基礎学問として認められつつある作業科学について知り、作業療法にとっての作業について再考する。	
作業療法評価学系 作業療法評価学Ⅰ (総論)	作業療法評価は、大きく構成的評価と非構成的評価に分かれる。本講義では、作業療法評価で使用する構成的評価と非構成的評価を概観し、それぞれの基本的知識について教授する。 (オムニバス形式:全15回) 【長谷川利夫/7回】 構成的評価と非構成的評価、4条件メソッドにおける暗黙の前提、作業遂行障害と作業遂行の関係などについて講義する。 【大城直美/8回】 評価の基礎、実際について講義する。		

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	作業療法評価学Ⅱ (疾患別)	<p>作業療法評価とは、個人にとって価値のある、あるいは必要な日常生活活動、仕事、レジャーなどの活動を行うための能力がどのようなレベルにあるか、その機能状態について計画的に情報収集と解釈を行い、および文書化することである。本講義では、疾患や障害特性をふまえた作業療法評価の基本を教授する。 (オムニバス形式:全15回) 【長谷川利夫/5回】 精神障害、気分障害、神経症圏障害、パーソナリティ障害、摂食障害の評価について講義する。 【鈴木健太郎/5回】 発達障害領域における、運動機能障害、感覚統合障害、認知・社会性機能障害関連の評価について講義する。 【前田直/5回】 脳血管障害、脊髄損傷、末梢神経障害、関節リウマチの評価、医用画像の評価について講義する。</p>	「画像評価」に関する知識を教育内容に含む。
	作業療法評価学実習Ⅰ (中枢神経障害)	<p>身体の機能評価につき、その理論、概念および具体的方法について学習する。解剖学、生理学、運動学等の基礎を踏まえ評価の意味・目的等を学び、学生同士による実習を通して実際の技術を学ぶ。</p>	
	作業療法評価学実習Ⅱ (発達、精神障害)	<p>作業療法評価学Ⅰ・Ⅱで修得した知識をもとに、各疾患と各障害に対する面接、観察、各種の検査や測定の手技を学生間で体験学習することにより、発達障害領域、精神障害領域で用いられる評価技術を修得する。合わせて、対象者に実施する際の留意点やリスク管理についても学ぶ。</p>	
	作業療法評価学実習Ⅲ (老年期障害)	<p>作業療法評価学Ⅰ、Ⅱで修得した知識を基に、面接、観察、各種検査や測定の手技を学生間で体験学習することにより、老年期障害領域で用いられる評価技術を修得すると共に、対象者に実施する際のリスク管理や注意点も学ぶ。そのため講義では、高齢者の心身機能を理解し、身体障害一般に必要な評価に基づき、評価技術を実習する。</p>	
	認知機能評価法	<p>本講義では、認知機能障害が社会生活の活動と参加に与える制限と制約について学び、講義および演習を通して、精神障害と身体障害における具体的な評価の方法と手順について教授する。 (オムニバス形式:全15回) 【早坂友成/9回】 精神科障害作業療法、統合失調症、気分障害、不安障害の評価について講義する。 【津曲優子/6回】 認知症の症状・評価・評価尺度について講義する。</p>	
作業療法治療学系	身体障害作業療法学Ⅰ	<p>本講義では、内科系疾患や内部障害における疾患、整形外科疾患、脊髄損傷などの障害の特性毎における作業療法実践(評価、治療・援助計画、作業療法実施)を教授する。各疾患を持つ対象者に対する評価、作業療法計画立案および作業療法介入の実際について教授する。また、喀痰吸引の知識と技術の習得する。 (オムニバス形式:全15回) 【望月秀樹/4回】 悪性腫瘍、代謝障害患者に対する作業療法の実際などについて学ぶ。また、文献事例検討を行う。 【原田祐輔/4回】 循環器疾患患者、呼吸器疾患患者に対する作業療法について学ぶ。喀痰吸引の知識と技術を習得する。 【近藤知子/4回】 身体障害領域(骨折・末梢神経損傷・腱損傷など)、RAなどの作業療法について学ぶ。 【岩崎也生子/3回】 頸髄損傷の作業療法について学ぶ。</p>	「喀痰吸引の知識と技術」に関する知識を教育内容に含む。
	身体障害作業療法学Ⅱ	<p>本講義では、進行性疾患・障害の特性毎における作業療法実践(評価、治療・援助計画、作業療法実施)について学習する。また、脳血管障害の特性毎における作業療法実践(評価、治療・援助計画、作業療法実施)について、脳血管障害患者の基本動作と介入方法について教授する。 (オムニバス形式:全15回) 【原田祐輔/8回】 パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、ギランバレー症候群、多発性硬化症、筋ジストロフィーについて講義する。 【鈴木優喜子/7回】 脳血管障害について学ぶ。脳血管障害患者の基本動作と介入方法について学ぶ。</p>	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	身体障害作業療法学演習	本演習では、身体障害領域で遭遇することの多い対象を想定した事例検討を行い、作業療法プロセス（情報収集、作業療法評価、作業療法プログラムの立案）を演習する。	
	高次脳機能障害作業療法学	高次脳機能障害の作業療法実践に必要な、脳機能（脳の局在や神経ネットワーク）や画像診断について学習し、高次脳機能障害の症状と損傷部位との関連、症状に対する評価を学ぶ。また、高次脳機能障害の評価に用いられることが多い、神経心理学的検査について、知識と検査技術を習得し、学外実習場面での実践を想定した技術確認を行う。	
	精神障害作業療法学Ⅰ	精神医療およびその中における作業療法の歴史を学び、精神障害作業療法の視点、治療構造を把握する。精神障害に関する法の変遷と地域移行に至る精神障害者の処遇の歴史も学習する。チーム医療の中での作業療法士の役割を学び、これからの精神障害作業療法を展望する。	
	精神障害作業療法学Ⅱ	「正常」と「異常」についての捉え方によってどのような問題が起きるかについて考えていく。それを踏まえて、作業療法として様々な精神疾患をもった方に対して、どのような実践が有り得るかについて教授する。	
	精神障害作業療法学演習	統合失調症、気分障害、神経症などの事例をもとに、評価結果の内容から事例の解釈を行う。演習はグループで行い、精神科作業療法の治療構造を踏まえた作業療法実施計画立案についても検討を行う。	
	発達障害作業療法学Ⅰ	本講義では、発達障害領域の作業療法を実践するにあたって必要な知識や考え方を教授する。具体的には、発達障害領域の作業療法の歴史や考え方、正常発達に関する知識、子どもの発達を取り巻く環境、等を予定する。	
	発達障害作業療法学Ⅱ	本講義では、発達障害領域の代表的な疾患・障害における作業療法実践（評価、治療・援助計画立案、作業療法実施）を教授する。具体的には、脳性麻痺、重症心身障害、精神発達遅滞、発達障害、等のある対象児の発達段階・発達課題に応じた評価、作業療法計画立案、作業療法介入の実際、等について学ぶ。	
	発達障害作業療法学演習	脳性麻痺、発達障害、等の提示した事例を基に、評価のまとめと作業療法計画の立案を、小グループで取り組む。	
	老年期障害作業療法学	老年期の作業療法を実施する際に必要な知識、すなわち、高齢者の心身の特徴・障害の理解や日本の高齢社会の特徴と高齢者を取り巻く現状の理解等を通して老年期障害作業療法の基礎知識・技術を学ぶ。	
認知障害作業療法学	本講義では、認知症の特性毎における作業療法実践（評価、治療・援助計画、作業療法実施）を教授する。		

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野 作業療法治療学系	職業関連作業療法学	<p>人にとっての職業の意義を理解し、障害者の就労について学ぶ。また障害者の就労支援体制について知り、職業リハビリテーションにおける作業療法の意義について学ぶ。 (オムニバス形式:全15回) 【長谷川利夫/5回】 職業の意味、障害者と職業、IPSモデルの理念について講義する。 【鈴木健太郎/5回】 職業リハビリテーションとアセスメントツール、地域における職業リハビリテーションなどについて講義する。 【白石めぐみ/5回】 身体障害領域での事例を中心に脳卒中症例・脊髄損傷症例などの復職支援について講義する。また、症例検討を行う。</p>	
	高次機能代償学	<p>高次脳機能障害の作業療法実践(評価、治療・援助計画、作業療法実施)について、講義および論文抄読を通して、臨床および実際の研究の分野で推奨されている実践方法を学ぶ。文献検索・文献抄読・発表の流れを経験する中で、問題解決能力を養う。</p>	
	義肢装具学	<p>義肢は四肢切断者にとってその機能および形態の代償・補填に重要な役割を持っている。特に上肢切断者への義手の適用、訓練については作業療法において重要なアプローチとなる。また、近年の高齢化に伴い循環障害による下肢切断者も増加の傾向にあり、その生活の援助を行う機会も増えることが予想される。これら対象者に適切な義肢の適用・訓練が行えるように、義肢の歴史、種類、適合そして訓練について学習する。また、後半では、装具およびスプリントについて学習する。対象者の具体像を想像しながら、スプリントの必要性の判断および目的に応じたスプリントの選択について、グループ学習を基盤として、自ら考え、調べながら学ぶ。 (オムニバス形式:全15回) 【前田直/8回】 上肢切断と義手、下肢切断と義足などについて学ぶ。 【近藤知子/7回】 頸髄損傷、末梢神経損傷、RA、熱傷などについて学ぶ。</p>	
	義肢装具学実習	<p>義肢・装具はこれを必要とする人には、生活において健康に作業を行う上で、または行うために、欠くことのできない福祉用具であり、作業療法士はその適合、取り扱いについて熟知する必要がある。また、その中でもスプリントは、作業療法士が実際に製作に携わる。本講義では義手・義足・装具の装着、義手の適合、スプリント製作および適合、生活上で必要となる関連機器の操作を、実習を通して体験する。</p>	
	福祉用具適応学	<p>自助具や福祉用具の適用は、作業療法における重要な援助技術の一つである。技術革新が目覚ましい分野でもあり、最新の知識や用具を当事者に提供することが作業療法士に求められている。そのため、国内最大規模の福祉機器展やユニバーサルデザインの現場を見学することで最新の知識を得て、その知識をまとめ、伝え合うというactive learningによって知識の定着をはかる。また、福祉用具の使用や自助具の制作を通して、当事者の特性による適用方法について検討する。</p>	
	日常生活活動学 I (総論)	<p>疾病や機能障害を持つ対象者に対する「その疾病・機能障害を持ちながらも日常生活活動能力の向上を目指す」技術は、作業療法の中核をなすものの1つである。本講義では、作業療法におけるその技術の基本的事項を教授する。具体的には、リハビリテーションにおける生活の位置づけ、日常生活活動の概念と作業療法の役割・援助の視点、日常生活活動の評価および学内実習を通して日常生活活動の介助法について教授する。</p>	
	日常生活活動学 II (疾患別)	<p>日常生活活動学 I (総論)で修得した知識・技術を踏まえ、本講義では、障害を持つ対象者に対する日常生活活動の指導・援助の実際を教授する。具体的には、疾患別にみた日常生活活動の指導・援助に関する知識および学内実習を通して日常生活活動の指導・援助法について教授する。</p>	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門分野	作業療法治療学系	バリアフリー概論	高齢者・障がい者の特性に応じた居住・生活環境を円滑なものにするためには、住環境・道路・公共建築・交通機関等の環境の整備が重要になってくる。本講義では、バリアフリーの歴史・法整備、環境整備の考え方、バリアフリーとユニバーサルデザインの特徴、ユニバーサルデザインの具体的事例、等について学ぶ。	
		レクリエーション概論	作業療法におけるレクリエーションの意義についての理解を深め、対象者に応じたレクリエーションを考案し、実施方法について学ぶ。また、レクリエーションとは何か、歴史、レクリエーション支援の構造などについて講義する。	
		クリニカルリーズニング	クリニカルリーズニングとは、対象者の評価および介入選択において、臨床における情報から導いた仮説を基とした推論を重ねることにより、より適切な選択をするための一連の思考過程を指す。本講義では、クリニカルリーズニングの概念やその実際について教授する。 (オムニバス形式:全15回) 【早坂友成/7回】 クリニカルリーズニングの概念、発達障害作業療法におけるクリニカルリーズニングについて講義する。 【長島泉/4回】 精神障害、障害者の住宅改修におけるクリニカルリーズニングについて講義する。 【鈴木優喜子/4回】 身体障害作業療法、老年期障害作業療法におけるクリニカルリーズニングについて講義する。	
		ハンドセラピー概論	手の損傷に対する機能の再建はマイクロ・サージェリーの発展とともに著しい進歩を遂げている。ハンドセラピーは作業療法の中でも専門性の高い分野であり、「傷ついた手」をuseful handへ方向付けていくために評価・治療を行う。本講義では上肢の機能を理解するとともに、ハンドセラピーの実際を学ぶ。	
	作業療法管理学系	作業療法士が勤務する、病院、施設等を取り巻く状況を理解し、法人内にまた社会で必要とされる管理、運営の知識、技術を修得する。医療保険制度・介護保険制度の理解、職場管理、職業倫理などについて学ぶ。	「医療保険制度・介護保険制度の理解、職場管理、職業倫理」に関する知識を教育内容に含む。	
	地域作業療法学系	地域生活作業療法学	地域での作業療法士の取り組みについて学習し、作業療法士が医療だけでなく、保健・福祉分野で活躍することが重要であることを理解する。地域で生活している障害者、高齢者の生活の自立支援に向けて、作業療法士の立場から支援していくために必要な知識・評価・実施方法を学ぶ。	
		地域ケアシステム学	「地域ケアシステムとは何か」について、歴史的な背景や事例に基づき、理解を深める。また、地域ケアシステムを理解するために必要な制度や法令を学ぶ。	
		住環境整備学	住環境とは、ひとが「すまう」「くらす」ための空間である。障害や病の有無に関わらず、「すまう」「くらす」ための「かたち」「おおきさ」は多様である。その多様性を理解し、作業療法士としての職能に求められる知識と技術をもって、適切な「かたち」「おおきさ」を提案するための考え方と方法について、講義と演習により学ぶ。	
		地域生活作業療法学演習	地域での作業療法士の取り組みについて学習し、作業療法士が医療だけでなく、保健・福祉分野で活躍することが重要であることを理解する。地域で生活している障害者、高齢者の生活の自立支援に向けて、作業療法士の立場から支援していくための技術を修得する。	
	地域作業療法学系	作業療法国際事情	本授業では、英文で書かれた世界の作業療法の動向を読み解きながら、自らが作業療法士として社会に向けてできること、なすべきことについて考える機会を提供する。また、世界における日本の作業療法の立ち位置を知り、日本の作業療法の方向性を考える力を身につける。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	見学実習	作業療法士の働く場所は、障害特性(身体障害・老年期障害・発達障害・精神障害など)や病期(急性期・回復期・維持期など)により様々な組織、形態がある。実際に作業療法やリハビリテーションが行われている病院・施設を見学することで、その実際や役割を知り、作業療法士として働くことの意義を学ぶ。	
	評価実習Ⅰ	杏林大学付属病院および学外病院、施設において、教員・臨床実習指導者の指導のもと、2年次に学んだ各領域の評価の知識・技術を臨床の場で経験する。作業療法士が実際の患者、対象者に評価を実施している場面を見学し、指導のもと評価の一部を実施する。実習前(実習前の学生の技術の確認、総合的知識及び基本的技能・態度)と後(経験した知識の確認)の評価を行う。	「臨床実習前の及び臨床実習後の評価」を教育内容に含む。
	評価実習Ⅱ	杏林大学付属病院および学外病院、施設において、教員・臨床実習指導者の指導のもと、2年次に学んだ各領域の評価の知識・技術に加え、3年次前期に学んだ各領域の治療学の知識をもとに臨床の場で作業療法評価の実際を経験する。作業療法士が実際の患者、対象者に評価を実施している場面において、臨床実習指導のもと作業療法評価を実施する。実習前(実習前の学生の技術の確認、総合的知識及び基本的技能・態度)と後(経験した知識の確認)の評価を行う。	「臨床実習前の及び臨床実習後の評価」を教育内容に含む。
	総合臨床実習	杏林大学付属病院および学外病院、施設において、教員・臨床実習指導者の指導のもと、3年次までに学んだ各領域の作業療法評価学および作業療法治療学の知識をもとに臨床の場で作業療法の実際を経験する。作業療法士が実際の患者、対象者に作業療法を実施している場面において、指導のもと作業療法の評価および治療・訓練・支援を実施する。実習前(実習前の学生の技術の確認、総合的知識及び基本的技能・態度)と後(経験した知識の確認)の評価を行う。	「臨床実習前の及び臨床実習後の評価」を教育内容に含む。
	地域・訪問実習	通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション施設において、教員・臨床実習指導者の指導のもと、地域生活の場で行われている作業療法の実際を経験する。指導者の指導のもと、地域で支援を必要としている方やその家族の支援に必要な知識・視点・支援方法を学び、実践能力を身につける。また、チームの一員として連携の方法を習得し、責任と自覚を培う。実習前(実習前の学生の技術の確認、総合的知識及び基本的技能・態度)と後(経験した知識の確認)の評価を行う。	「臨床実習前の及び臨床実習後の評価」を教育内容に含む。
総合領域	作業療法学演習Ⅰ	これまでに学習した解剖学・運動学・生理学分野の学習内容を復習し、作業療法と関連付けて整理・統合するとともに、問題解決の思考過程を学ぶ。授業は小グループ学習を基盤として行う。グループで課題を進めることを通し、膨大な知識を効率よく効果的に再学習するとともに、医療現場で求められるチーム連携の姿勢を磨く。	
	作業療法学演習Ⅱ	これまでに学習した臨床医学分野の学習内容を復習し、作業療法と関連付けて整理・統合するとともに、問題解決の思考過程を学ぶ。授業は小グループ学習を基盤として行う。グループで課題を進めることを通し、膨大な知識を効率よく効果的に再学習するとともに、医療現場で求められるチーム連携の姿勢を磨く。	
	作業療法学演習Ⅲ	これまで学んできた作業療法に関する知識と技術を整理し、理解を深めることを目的に、小グループで学習を進める。グループで学習することを通し、作業療法の理解を深めるだけでなく、他者に説明する、他者の意見を聞く、問題解決を共同で行うなど、チームで連携しながら課題に取り組んで行く姿勢を身につける。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門分野	総合領域	作業療法学演習Ⅳ	これまで学んできた作業療法に関わるすべての知識を基礎医学的視点に立ち戻り、知識を整理していく。授業は小グループ学習を基盤として行う。グループで課題を進めることを通し、膨大な知識を効率よく効果的に再学習するとともに、医療現場で求められるチーム連携の姿勢を磨く。また、定期的に試験を行い、知識の定着度について確かめる。	
		卒業研究Ⅰ	各教員の指導のもとに、ゼミナール形式で行う。研究テーマの絞り方、文献検索の方法、研究の方法、研究計画の作成の方法等について、個人またはグループで各教員から具体的な指導を受ける。	
		卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰで立てた研究計画をもとに、それに沿って研究を進める。研究計画の変更(必要に応じて)、データの収集と解析、結果のまとめ、考察という一連の研究の流れを学習する。その成果を発表会にて報告する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(杏林大学保健学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野 人文・社会学系	生命倫理学	本講義は「生命倫理学」の基本的な概念や考え方を修得することをめざす。人間の生が、すべて死に向けて集約されていくいとなみであることに思いを馳せるとき、「生命倫理学」の「危うさ」「奇妙さ」「いかがわしさ」もまた浮かびあがってくる。これらの正体と所以とを考へてみることに、本講義のもうひとつの狙いである。	
	芸術	この講義では金管楽器と木管楽器を扱い、楽器の特性や演奏技術の発展、現代の楽器との相違点、楽器が作曲家に与えた影響などに注目する。そして、当時の工業技術の状況や政治、経済的な側面も含めた幅広い分野の時代様相も考慮に入れる。そこから作曲家が用いた楽器の選択方法や表現方法も含めた音楽作品自体に加え、音楽受容や社会状況をも通して、楽器や音楽をより深く知る手がかりを示していく。	
	職業適性論	本講では専門を異にする多数の教員から各分野の現状認識がもたらされ、広い視野から自分自身の価値観・職業適性等についての内省が促されるとともに、個人特性、多様性を生かした職場運営についての考察が深められる。 (オムニバス形式:全15回) 1-2. 職業観と資格・技能?自立するために (福長) 将来就職したのちに心豊かで充実した職業人になるために、働く意味について認識を深める。 3. リハビリテーションにおける職業適性 (門馬) 4. 将来設計を行う過程における学習の意味と意義 (須田) 5. 放射線を利用する産業とその動向 (岡田) 6. 職場における感染症の予防法 (蔵田) 7. 就職活動における職業適性 (関) 8-9. 職業性疾患とその予防 (岡本) 10. リスクのアセスメント、マネージメント (関) 11. 医療産業の現状と今後 (岡村) 12. 労働負荷と心身の変化(労働による人体の機能の変化を含む) (岡本) 13. 放射線の利用と安全性 (岡田) 14. 作業療法士の職業適性 (早坂) 15. 教育分野における職業適性 (大嶺)	
	ことばと社会	社会のグローバル化が進んでいる現在、日本には多様な人々が生活している。一方、言葉に目を転じると、私たちが使っている日本語も日々変化している。英語から生まれたカタカナ語が増え、多くの場面で使われている。また、スマホやSNSの普及などで、書き言葉、話し言葉などにも変化が生じている。 この授業では、そのような社会の諸相について分析、考察し、多文化共生のために自らがどう行動するのかを考へる。	
	日本国憲法	立憲主義思想を概観した上で、憲法一般について理解を深める。次に、様々な基本的人権に関する理論について、事例を通じて学習し、社会生活を営む上で必要とされる憲法知識の獲得を目的とする。さらに、現代社会が抱える諸問題につき、日本国憲法を軸としてその基本的な理解を得ることができるようになる。	
	教育学	本科目は、大きく二つの領域を学習することを目的とする。第一は、教育の理念・歴史・思想に関する領域であり、第二は教育課程およびカリキュラム・マネジメントに関する領域である。以上の目的を果たすために本授業は、(1)教育の理念や基本的概念を学ぶパート、(2)教育や学校についての歴史と思想を学ぶパート、(3)教育課程の意義や編成方法、ならびにカリキュラム・マネジメントを学ぶパートの大きく3つに分かれる。 近代最大の哲学者イマヌエル・カントは、「人間は教育されなければならない唯一の被造物である」と言った。そうだとすれば、教育の本質を考へることは、そのまま人間の本質を考へることにもつながるはずである。そして教師が人間を育てる職業である以上、教育と人間の本質を根本的に考へることは、教師としての各人の〈核〉を形成するにあたって不可欠な学びとなる。本授業の(1)と(2)は、主としてそのためになされる。 また教師になれば、日々の教育実践を遂行するために、教育課程の編成に参与しなければならない。なぜなら、教師各人が理想とする教育も、それ具体化しようとするれば、教科等の教育内容を媒介にする必要があるからである。その意味で、教育課程の理解はきわめて重要である。本授業の(3)は、主としてその点を主題とする。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	人文・社会学系	保健・医療の現状と未来 I	オムニバス
		<p>どのような医療が提供されているかについては、よく知られていない。当該授業では特定機能病院である杏林大学病院の各診療科について紹介し、その重要性を理解する。</p> <p>1. 循環器疾患の現状と未来(副島京子) 循環器疾患に関する診断や最先端治療、今後の診断に役立つデジタル医療に関して概説する。</p> <p>2. 子宮のしくみ(小林陽一) 生命をはぐくむ臓器であり「小さな宇宙」ともいえる子宮のしくみ、機能と、子宮を取り巻く疾患について概説する。</p> <p>3. 皮膚学の醍醐味(大山 学) アトピー性皮膚炎、薬疹、水疱症、悪性黒色腫などを例に皮膚学のエッセンスにふれる。</p> <p>4. うつとストレスについて学ぶ(渡邊衡一郎) うつ、そしてその原因となるストレスについて対処法を含め概説する。</p> <p>5. 耳・鼻・のどの病気(齋藤康一郎) 耳・鼻・のどと多岐にわたる多様性を特徴とし、繊細さとダイナミックさの両面をもつ耳鼻咽喉科の魅力をお伝えする。</p> <p>6. 救急蘇生の最新知識(山口芳裕) 最新のガイドラインに沿って、BLS (Basic Life Support) を中心に救急蘇生に必要な知識を講義する。</p> <p>7. 乳がんの最新治療(井本 滋) 乳がんの手術・薬物・放射線を組み合わせた集学的治療について、基礎知識から最先端まで紹介する。</p> <p>8. 障害の視点とリハビリテーションの考え方(岡島康友) 横断的な診療を行い、患者の将来的な生活の質(QOL)を念頭に置いた新しい医療領域である、リハビリの基本的な考え方と重要性を示す</p> <p>9. 医療と生命倫理(平形明人) 医療の歴史を振り返り、医師と患者の関係、求められている医療、生命倫理の諸問題を取り上げ、共に考える。</p> <p>10. 麻酔の基本(萬 知子) 麻酔について、入門的な概念や総論について、わかりやすく解説する。</p> <p>11. 前立腺癌治療の現在と未来(福原 浩) 前立腺癌の検査と治療、特にロボット手術及び将来の治療について紹介する。</p> <p>12. 肺癌の基礎(近藤晴彦) 肺癌発生のメカニズムと治療法について入門的な解説を行う。</p> <p>13. 腸管の不思議(久松理一) 腸管の複雑な機能、腸内細菌との共存のメカニズムなど、腸管の不思議を、現代人で増加している疾患を交えて解説する。</p> <p>14. 危険な頭痛：クモ膜下出血(塩川芳昭) 生命の危険すら伴うクモ膜下出血をテーマに、手術ビデオや最先端の知見を交え講義する。</p> <p>15. 脳梗塞の新たな診断・治療戦略(平野照之) この数年で大きく様変わりした脳梗塞の診断治療に関して、知っておきたい初期症状、新たな治療の実際、社会に及ぼす影響などを概説する。</p> <p>副島京子：1回 小林陽一：1回 大山学：1回 渡邊衡一郎：1回 齋藤康一郎：1回 山口芳裕：1回 井本滋：1回 岡島康友：1回 平形明人：1回 萬知子：1回 福原浩：1回 近藤晴彦：1回 久松理一：1回 塩川芳昭：1回 平野照之：1回</p>	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	人文・社会学系	保健・医療の現状と未来Ⅱ	オムニバス
		<p>日本の医療を支える大学病院の役割は重要であるが、どのような診療科で構成され、どのような医療が提供されているかについては、よく知られていない。当該授業では特定機能病院である杏林大学病院の各診療科について紹介し、その重要性を理解する。</p> <p>1. がんの臨床(古瀬純司) がんはなぜ起きるのか、がんの予防と治療はどうするか、がんの告知、がん患者の生活のサポートなどについて概説する。</p> <p>2. “ものづくり”としての形成外科(多久嶋亮彦) 癌や外傷によって欠損した臓器を機能的・整容的に修復することによって患者さんが元の(あるいは新しい)生活に戻ることを手助けする、形成外科学を紹介する。</p> <p>3. 隠れた司令塔：腎臓は何をしているのか?(要 伸也) 複雑な構造を持ち、多彩な機能を担う、隠れた司令塔としての腎臓の重要性と腎臓病学の奥深さを紹介する。</p> <p>4. 心臓血管外科の進歩と未来(窪田 博) 人工心肺を用いた開心術が始まってから60年以上が経過した、心臓血管外科の進歩を紹介し、さらに未来の治療法を予想してみたい。</p> <p>5. 消化器外科の低侵襲治療の現況(阿部展次) 「治療による負担をいかに減らして、患者の健康を改善・維持することができるか」を目標に日々進化する外科医療を紹介しする。</p> <p>6. 肺とタバコについて(石井晴之) 受動喫煙も含め、社会全体に与える損失が大きいタバコの害と、関連する肺の病気について講義する。</p> <p>7. 現代医療における画像診断の役割(横山健一) さまざまな画像診断装置の仕組みや発展の歴史、およびそれらを用いて体内を見ながら行う画像下治療について紹介する。</p> <p>8. 歳をとるとは?(神崎恒一) 老化は年齢で決まるのか?歳をとることと病気の関係は?など老化のしくみについて紹介し、老化に対して医療ができる事について考えてみたい。</p> <p>9. 眼科診療とQOV(井上 真) 眼科診療はQOV(quality of vision: 視覚の質)を向上させるためにどのように貢献しているか、実臨床例から解説する。</p> <p>10. 朝ごはんって必要ですか?(大久朋子) 突然ですが、皆さんは朝ごはんを食べていますか。国民健康・栄養調査の結果(平成29年)によると、20代男性の30.6%、20代女性の23.6%が朝ごはんを食べないそうです。これほどの割合で食べない人がいる「朝ごはん」は必要なのでしょうか。この疑問について科学的に考えます。</p> <p>11. 運動器外科の現状と未来(市村正一) 脊椎、四肢の関節、筋肉、腱等の運動器、および脳からの伝達を担う神経に関する治療を行い、QOLの改善を目的とする整形外科の現状と未来を熱く語る。</p> <p>12. 救急救命士の仕事とは?(樽井武彦) 病院前救護(プレホスピタルケア)を担う救急救命士の仕事を理解し、その重要性を学ぶ。</p> <p>13. 臨床工学士の仕事とは?(福長一義) 医療における医療機器管理の重要性と臨床工学士の仕事を学ぶ。</p> <p>14. 保健福祉の仕事とは?(加藤雅江) 保健福祉における社会福祉士、精神保健福祉士の仕事を学ぶ。</p> <p>15. 健康とスポーツについて(平澤愛) 現代の健康問題について取り上げ、その予防と対策について学び、運動による健康づくりの重要性について理解を深める。</p> <p>古瀬純司：1回 多久嶋亮彦：1回 要伸也：1回 窪田博：1回 阿部展次：1回 石井晴之：1回 横山健一：1回 神崎恒一：1回 井上真：1回 大久朋子：1回 市村正一：1回 樽井武彦：1回 福長一義：1回 加藤雅江：1回 平澤愛：1回</p>	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	人文・社会学系	社会と大学 I	オムニバス
		<p>私たちがこれから生きていく現代社会は、非常に複雑な社会である。様々な分野の知識や情報が複雑に絡み合って社会を構成しているといっても過言ではない。したがって、それぞれの学部・学科・コースで学ぶ専門科目に加えて、様々な分野の基礎知識、その分野では当たり前の知識であっても、他の分野では学ぶことがなく、かつ現代社会では重要な知識も存在する。これらの知識や教養は、現代社会を生き抜いていく上で重要な武器となっていくであろう。以上のような考えに立脚し、本授業では、法律、政治、国際関係、福祉政策の視点から、現代社会を生き抜いていく上で必要な基礎知識を明らかにし、学生たちの武器を増やしていくことを考えている。</p> <p>1. 教養としての法律（1）（伊藤敦司） 商法、会社法の規制の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>2. 教養としての法律（2）（藤原究） 民法、不動産法の規制の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>3. 教養としての法律（3）（北田真理） 民法、家族法の規制の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>4. 教養としての法律（4）（尾崎愛実） 刑法、刑事訴訟法の規制の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>5. 教養としての法律（5）（大西健司） 憲法、行政法の規制の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>6. 教養としての法律（6）（尾崎愛美） 憲法、情報法制の規制の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>7. 教養としての国際関係（1）（渡辺剛） 国際政治、中国政治の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>8. 教養としての国際関係（2）（劉迪） 比較政治学の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>9. 教養としての国際関係（3）（島村直幸） 外交政策、ヨーロッパ政治の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>10. 教養としての国際関係（4）（川村真理） 国際法の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>11. 教養としての福祉政策（1）（岡村裕） 社会福祉の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>12. 教養としての福祉政策（2）（松井孝太） 社会保障政策の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>13. 教養としての政治（1）（進邦徹夫） 行政学、地方政治の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>14. 教養としての政治（2）（木暮健太郎） 公共選択、現代政治の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>15. 教養としての政治（3）（半田英俊） 政治史、政治心理学の中での教養としての知識について明らかにする</p> <p>伊藤敦司：1回 藤原究：1回 北田真理：1回 大西健司：1回 尾崎愛実：2回 渡辺剛：1回 劉迪：1回 島村直幸：1回 川村真理：1回 岡村裕：1回 松井孝太：1回 進邦徹夫：1回 木暮健太郎：1回 半田英俊：1回</p>	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	人文・社会学系	社会と大学Ⅱ	オムニバス
		<p>私たちがこれから生きていく現代社会は、非常に複雑な社会である。様々な分野の知識や情報が複雑に絡み合っ社会を構成しているといっても過言ではない。したがって、それぞれの学部・学科・コースで学ぶ専門科目に加えて、様々な分野の基礎知識、その分野では当たり前の知識であっても、他の分野では学ぶことがなく、かつ現代社会では重要な知識も存在する。これらの知識や教養は、現代社会を生き抜いていく上で重要な武器となっていくであろう。以上のような考えに立脚し、本授業では、経済、経営、会計の視点から、現代社会を生き抜いていく上で必要な基礎知識を明らかにし、学生たちの武器を増やしていくことを考えている。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養としての会計（1）（内藤高雄） 商業実務、会計学の中での教養としての知識について明らかにする 2. 教養としての会計（2）（原田奈々子） 簿記理論、簿記実務の中での教養としての知識について明らかにする 3. 教養としての会計（3）（高田京子） 会計監査、管理会計の中での教養としての知識について明らかにする 4. 教養としての租税（1）（知原信良） 租税法の規制の中での教養としての知識について明らかにする 5. 教養としての経営（1）（田中信弘） 経営管理、財務管理の中での教養としての知識について明らかにする 6. 教養としての経営（2）（糟谷崇） 経営戦略論の中での教養としての知識について明らかにする 7. 教養としての経営（3）（加藤拓） マーケティングの中での教養としての知識について明らかにする 8. 教養としての経営（4）（糟谷崇） 経営組織論の中での教養としての知識について明らかにする 9. 教養としての経営（5）（長谷部弘道） 産業社会学の中での教養としての知識について明らかにする 10. 教養としての経済学（1）（西孝） マクロ経済学、経済原論の中での教養としての知識について明らかにする 11. 教養としての経済学（2）（小田信之） 経済統計、金融論の中での教養としての知識について明らかにする 12. 教養としての経済学（3）（西孝） 開発経済学、アジア経済の中での教養としての知識について明らかにする 13. 教養としての経済学（4）（北島勉） 医療経済学、健康科学の中での教養としての知識について明らかにする 14. 教養としての経済学（5）（斉藤崇） 環境経済学の中での教養としての知識について明らかにする 15. 教養としての経済学（6）（三浦秀之） 国際政治経済学の中での教養としての知識について明らかにする <p>内藤高雄：1回 原田奈々子：1回 高田京子：1回 知原信良：1回 田中信弘：1回 糟谷崇：2回 加藤拓：1回 長谷部弘道：1回 西孝：2回 小田信之：1回 北島勉：1回 斉藤崇：1回 三浦秀之：1回</p>	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	人文・社会学系	<p>地域内での英語圏・中国語圏の人たちとのコミュニケーションは、今後も拡大していくことが予想される。本科目は、その場面においてことばが果たす役割を理解し、必要な異文化理解の基礎となる力を身につけることを目的とする。その上で、主に「観光・ホスピタリティ」の視点から、地域の魅力発見・魅力づくりの過程で必要とされる知識や具体的技法を学んでいく。</p> <p>第1回 インTRODクシヨン (八木橋宏勇) 第2回 自身のふるさとの特徴を英語で考えてみよう (坂本ロビン) 第3回 日常生活を題材にした英語コミュニケーション Part.1 (八木橋宏勇) 第4回 日常生活を題材にした英語コミュニケーション Part.2 (倉林秀男) 第5回 通訳・翻訳の視点から見た適切な英語表現とは? (岩本和良) 第6回 日常生活を題材にした中国語コミュニケーション Part.1 (池田尚広) 第7回 日常生活を題材にした中国語コミュニケーション Part.2 (池田尚広) 第8回 観光で訪れた中国人に話しかけてみよう Part.1 (千野万里子) 第9回 観光で訪れた中国人に話しかけてみよう Part.2 (藤田由香利) 第10回 中国人から見た日本 (宮首弘子) 第11回 観光によるまちづくりの手法: 合意形成 (古本泰之) 第12回 観光によるまちづくりの手法: 地域の国際化 (安江枝里子) 第13回 インバウンド時代のホスピタリティ (志村良浩) 第14回 Post/Withコロナ時代のホスピタリティ (西山桂子) 第15回 グローバルな視点から地域の在り方を考える (古本泰之)</p> <p>八木橋宏勇: 2回 坂本ロビン: 1回 倉林秀男: 1回 岩本和良: 1回 池田尚広: 2回 千野万里子: 1回 藤田由香利: 1回 宮首弘子: 1回 古本泰之: 2回 安江恵理子: 1回 志村良浩: 1回 西山桂子: 1回</p>	オムニバス
		<p>数学</p> <p>数学の知識や考え方は、科学を学ぶために必要不可欠である。そこで、本講義では数学の基礎的事項から始めて、微分積分学を学習する。また、微分積分学がどのように利用されるかについて紹介する。</p>	
		<p>統計学</p> <p>現在、統計学は調査資料や実験データの解析など様々な方面に応用されている。この講義では、いろいろな事例への応用を紹介しながら統計学を基礎から学ぶ。</p>	
	自然科学	<p>情報処理論</p> <p>医療分野においてもコンピュータによる資料整理やインターネットによる情報収集が欠かせない。社会に出てからはもちろん、在学中においてもこれらの知識は実習や卒業研究などで必要になる。ここでは、実際にコンピュータを使用しながら情報を収集、整理ならびに伝達するのに必要な基本的技術を修得することを目指す。</p> <p>1-8. 情報処理における基礎を学ぶ。 9-15. 臨床分野における情報処理の応用方法について学ぶ。</p>	
		<p>基礎物理学</p> <p>自然科学は日常現象を体系的に整理し、一定の法則を見出そうとする学問である。物理学はこのような自然科学の一分野であるばかりでなく、あらゆる学問の基礎となる学問であり、物理学的なものの方、考え方はあらゆる学問に通じるものである。そこで、この科目では考え方に重点を置き、日常的な現象について概説し、基礎となる考え方、法則などについて学ぶ。</p>	
		<p>物理学概論</p> <p>自然科学は日常現象を体系的に整理し、一定の法則を見出そうとする科学である。物理学はこのような自然科学の一分野であるばかりでなく、あらゆる学問の基礎となる学問でもあり、物理学的なものの方、考え方はあらゆる学問に通じるものである。そこで、本科目では、日常的に経験するであろう現象や事柄を取り上げ、それらの解説をする。その際、数学的手法を使うことになるが、考え方に重点を置く。</p>	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	自然科学	基礎化学	本講義は大学の化学系専門科目の講義についていけるかどうか不安に思っている学生を対象としている。高校教科書レベルの基礎的な化学の内容を教授する。
		生化学概論	本講義では、生体の構成する基本物を化学的に理解する。そして体外から摂取した物質が生体内でどのように分解(異化)されて合成(同化)されるのか、そしてその反応に関与するエネルギー代謝や情報代謝について化学の視点で学ぶ。 (オムニバス形式:全15回) 1-5.糖質代謝と脂質代謝について講義する。 6-10.アミノ酸・タンパク質・酵素・ビタミンについて講義する。また、核酸代謝と遺伝子発現についても講義する。 11-15.糖質・脂質・体液・ホルモンについて講義する。
		基礎生物学	ヒトは、他の生物にはない独自の社会を形成し生活を営んでいる。しかし、生物種としてみれば、地球環境に生活するその他の動物、植物、細菌などと同様に共通のしくみを持っている。本科目では、多くの生物が行っている生命活動に共通する基本的なしくみを解説する。
		生命科学概論	生命科学は生命体に関わる物質や現象を理解し、これらの知識をヒトを中心とした生物にとって望ましい方法で応用することを目指す学問である。本科目では、体を構成する基本単位である細胞の機能とこれを支える構造、遺伝と環境が生命現象に及ぼす影響、発生や分化の基本的なしくみ、および近年著しい発展をみせる医療技術や遺伝情報に関連した倫理的問題、生命科学に関する情報との関わり方などについて学習する。
		人類遺伝学	近年、生活の様々な場面で遺伝に関連する染色体、ゲノム、DNA、遺伝子などの言葉が頻繁に使われている。これらの言葉について知ることは、私たちの生活や将来について考えるヒントにもなる。遺伝子とは生命を作るための「レシピ」でもある。ここではヒトの遺伝に関する基礎的知識を通して、ヒトがどのように作られていくのかについて学ぶ。さらに、遺伝が関与する最先端医療技術がもたらす生命倫理的な問題についても考え、自分自身のいのちと生活について振り返る時間としたい。
	語学系	英語プレゼンテーション	本授業では、健康・医療をテーマとした教材を使用し、語彙や文の構造を整理しながら正確に情報を理解することを重要視する。同時に、扱ったテーマに関する活発な議論を奨励しながら進めてゆく。
		英語読解	本授業では、健康・医療をテーマとした教材を使用し、語彙や文の構造を整理しながら正確に情報を理解することを重要視する。同時に、扱ったテーマに関する活発な議論を奨励しながら進めてゆく。
		保健医療英語	本授業では、医療や健康問題をテーマに取り上げた英語のビデオ教材(米国のニュースクリップ)を用いて、医療や健康問題に関する情報を正確に収集し、理解する能力を養う。さらに、扱ったテーマに関する活発な議論を奨励しながら進めてゆく。
		英会話	基本的な会話練習に加え、ディスカッション技術を学ぶ。具体的には、英語力向上のため、2人1組での演習、グループワークを行う。さらに、プレゼンテーション方法についても紹介をし、練習する。
		医学英語	リハビリテーションに必要な英語を学び、外国人患者(外来を含む)への対応をスムーズに行えるようにする。また、リハビリテーション上必要な単語も覚え、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士として日々使える英語を身につけるよう講義する。
専門基礎分野	言語聴覚基礎系	言語の表現法	「話しことば」としての日本語表現を実践的に学べるよう解説する。また、ことばのしくみや日本語の理解を深めるために、音声学や言語学等の基礎的知識を解説する。
		言語学	形態論、統語論、意味論、音韻論など言語の基礎をなす分野の理解を目指す。その枠組みの中で日本語特有の音韻、語彙、統語、文字に関する特徴を把握する。更に、文章の理解と談話能力、言語と思考、言語獲得と言語教育、読み書き能力と認知の関係など言語心理学分野の知識を広く学び、言語障害へのアプローチがどのような背景からなされているのかを理解する。
		音声学	人のコミュニケーション手段としての音声について、調音音声学と聴覚音声学の立場から体系的に理解し、その分類・記述に必要な技法を習得し、専門科目で学ぶ構音障害の評価と治療の基礎を築くことを目的とする。発声・発音器官の解剖、各器官の動態、音声の音響学的特徴、およびIPA(The International Phonetic Alphabet: 国際音声字母)を用いた分類・記述について学ぶ。音声の聞き取りとIPAに基づく分類・記述、およびIPAに対応した音声の出し分けについては実技を行う。

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
言語聴覚基礎系	音響学・聴覚心理学	音響学では、聴覚医学、音声言語学に必要な音響学の基礎的な事項を学習する。音の物理学、音波の性質、音響用語と単位、母音・子音の生成とその音響特徴、音響分析の手法、音声言語の知覚などについて解説する。聴覚心理学では、聴覚機能や聴覚検査を理解するために必要な聴覚の成り立ち、音の情報の符号化、聴感覚（大きさ、高さ、時間の弁別など）の性質、生活環境と聴覚などについて学習する。	
	言語発達学	子供が運動、感覚、情動、認知、実行機能、社会性の発達を背景にどのように言語を獲得するかを学ぶ。母国語の聴覚認知、語彙や構文の発達、文字の習得と共に前言語コミュニケーションや談話等のコミュニケーション能力の発達という視点で言語発達を学ぶ。また、主な言語獲得理論を理解する。	
	心理言語学	脳内においてどのように言語が処理され、理解し、産出できるのかについて、脳内の言語処理に関する理論を学ぶ。言語知識の構造と心的辞書、概念化と意味、単語の認知、文法と構文ネットワーク、文章の理解、発話産生、読み書き、思考と言語、言語の神経学的基盤と脳活動について解説する。	
専門基礎分野	医学総論	医学の発展とともに医療の役割は分化し、様々な医療職が誕生し協働している。そこでは役割は違っても医学全般についての共通認識がなければならない。本講義では人間の生命が医学においていかに扱われるべきかについて科学と倫理の両面から解説する。	
	解剖学	解剖学は、医学やコメディカル(医学と協業する専門職)分野における最も基礎的な学問である。正常な体の形態や構造を学び、理解することは、将来遭遇する医療や研究などの現場において、体の機能やその異常を見極めることや適切にヒトの体を扱うための基礎を私たちに提供してくれる。 本講義では、系統解剖学の体系に沿って、主として肉眼解剖学レベルの知見を中心に体の各器官系を構成する器官の形態や位置、その機能的意義などについて解説する。 【瀧上周/5回】 細胞と組織、骨格系、筋系、神経系、感覚器系、皮膚、脈管系について講義する。 【堀口幸太郎/7回】 内分泌系、生殖器系、消化器系、血液と骨髄、リンパ性器官について講義する。 【長谷川瑠美/3回】 循環器系、呼吸器系、泌尿器系について講義する。	
	解剖学実習	系統解剖学の体系に沿って解剖学で学ぶ人体の構造のうち、本実習ではとくに骨格系の詳細な構造について3次元的な理解を深める。全身骨格模型や各部位を構成する骨の模型を実際に手にとって観察を行う。観察結果はスケッチによって記録し、筋や神経の詳細な構造を理解するための土台となる骨格系の基礎知識を充実させる。	
	生理学 I	生理学は、生命活動を個々の構成要素が、いつ、どこでどのように働くかを研究し、調和のとれた生命活動を知る学問である。生理学 I では、ヒトの器官系の機能全般を解説する。 (オムニバス形式:全15回) 1-7.ニューロンの活動、血液と体液、呼吸、腎臓と排出、内分泌器官、消化吸収について講義する。 8-15.興奮性細胞の性質、末梢神経、中枢神経、感覚と生理、心臓と循環について講義する。	
	生理学 II	人体機能を理解するための動物性機能について主に説明する。生体の内部環境は外部環境の変化によって大きくかわることなく恒常性を保つように制御されている。脳・脊髄の中枢神経系とこれに出入りする末梢神経系、筋、感覚器の機能および内分泌などの液性調節についても説明する。 (オムニバス形式:全15回) 1-4.代謝と内分泌、体温調節について講義する。 5-15.細胞膜電位、筋収縮のメカニズム、中枢神経、末梢神経について講義する。	
	生理学実習	講義で学んだ知識をより実際的に身につけるため、生体機能がどのように測定され、変化するかをいくつかの例で実際に臨床の場で用いられている機器や方法により実習を行う。心臓の電気現象を体外から把握するための心電図計測や血圧測定、および呼吸機能の分析など実践的に取り扱えるように技術的な内容と、皮膚感覚を対象として知覚に対する評価方法を理解する。	
	病理学	疾病はその成り立ちから、先天異常、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍などの大きなカテゴリーに分類される。これらの疾病カテゴリーに属する主だった疾患について、疾患を引き起こす原因、各疾患に生じる臓器・組織・細胞レベルの形態変化とその経過、さらには、疾患がたどる転帰を総合的にとらえるように学習する。 (オムニバス形式:全15回) 1-8.細胞・組織の傷害と再生、代謝異常、循環障害、免疫について講義する。 9-15.炎症、感染症、腫瘍、先天異常について講義する。	
	人間発達学	人は、生まれてから亡くなるまで、子どもから大人そして老人へと変化する存在である。これらは心身の発達および退化という見方もあるが、現代は(老化も含めて)生涯発達しているという解釈が一般的である。本講義ではその人間の各時期・年齢に応じた変化・発達の概要を教授する。具体的には、発達の原理、発達段階、発達課題、運動発達、知的発達、社会性の発達、等について学ぶ。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎分野	基礎医学系	運動学	人間の運動の科学である運動学は多様な学問領域の統合のうえに成り立つ応用的な学問である。このため、本講義では、力学、解剖学、生理学といったさまざまな側面から人間の運動を理解する基礎を教授する。	
		運動学実習	生理学・解剖学・運動学の基礎医学の知識をもとに、人体の構造と機能及び人間の運動のメカニズムについて、実習を通して理論的に分析しながら学習する。身体運動を観察し、記録・測定したデータを処理して、レポートにまとめることによって報告文書作成について学ぶ。	
		病態運動学実習	運動学で人間の正常運動に関するもの、特に四肢の運動について学習した。本授業では、それらの基礎的な知識を土台として、筋電図、心電図、活動分析、バランス評価、認知などを様々な器具を使って分析することを教授する。それらを何らかの疾患によって生ずる運動機能障害との特徴を踏まえながら考察する。	
		衛生学Ⅰ	公衆衛生学とは「社会における組織的な働きかけにより、疾病を予防し、寿命を延ばし、身体的・精神的機能を増進させる科学であり技術である」と、定義されている。公衆衛生学の領域は多岐にわたっているが、本講Ⅰでは保健学の出発点ともいえる公衆衛生学の基本的技術論、方法論を中心として解説し、年齢階層や、社会的機能集団の各次元で、それぞれの特質に合わせた取り組みについて、実践的な視点からの解説も行う。社会保障論・地域包括ケアシステムの理解についても学ぶ。	「予防の基礎、社会保障論・地域包括ケアシステム」に関する知識を教育内容に含む。
	衛生学Ⅱ	公衆衛生学の領域は多岐にわたっているが、本講では、年齢階層や、社会的機能集団の各次元で、それぞれの特質に合わせた取り組みについて、実践的な視点からの解説を中心として行い、公衆衛生学の基本的技術論、方法論についても触れる。 (オムニバス形式:全15回) 【照屋浩司/4回】 公衆衛生学概論、疫学、成人保健について講義する。 【岡本博照/6回】 感染症、食品保健、産業保健などについて講義する。 【石野晶子/1回】 保健福祉論について講義する。 【井上敦/1回】 保健福祉論について講義する。 【平澤愛/1回】 健康教育について講義する。 【関澤浩一/1回】 生命倫理について講義する。 【楠田美奈/1回】 環境保健について講義する。		
	臨床医学系	精神医学	精神医学全般にわたり基本的な事柄を概説する。具体的には、脳器質性精神障害、症状性精神障害、てんかん、統合失調症、気分障害などについて学ぶ。	
		臨床神経学	神経疾患の診断と治療について学ぶ。神経疾患は、発症機転からは急性疾患と慢性疾患に分けられ、病因・病理は血管障害、外傷、変性、代謝障害、炎症、腫瘍などで、他の臓器系の疾病の場合と同じである。神経症候は、責任病巣の局在によって決まり、脱落症状(陰性徴候)と解放現象(陽性徴候)の2側面から捉えられる。治療は、原因疾患の根治療法と、症候の対症療法からなる。機能の回復は、神経系の可塑性に負うところが大きい。	
		内科学Ⅰ	主要な内科系疾患である循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、感染症、腎臓疾患、内分泌疾患の病因、病態、徴候、診断、治療などについてリハビリテーションに必要な事項を解説する。 (オムニバス形式:全15回) 1-8. 心不全、不整脈、虚血性心疾患、呼吸器疾患などについて講義する。 9-15. 消化器疾患、感染症などについて講義する。	
		内科学Ⅱ	食習慣などの生活習慣の悪化は動脈硬化の因子であることが広く知られている。生活習慣の改善によって動脈硬化を改善させ、虚血性心疾患等の生活習慣病による死亡率が低下するとされている。当該科目は、このような概念に基づく生活習慣病(いわゆるメタボリックシンドローム)について講義する。	
	小児科学	「子どもはおとなのミニチュアではない」といわれる。小児科学が通常扱う0歳から15歳(疾患によっては20歳やそれ以上の場合も)という期間は、80歳を越える一生から見たら短い、この間に子どもは、身長は3倍以上、体重は20倍近くに劇的に成長する。各器官の発達や病気については子どもに特有のものがある。新生児から思春期にわたる小児の身体的特徴と、代表的な諸疾患についての基本的な知識を解説する。		

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎分野	臨床医学系	神経内科学	医療の現場で働く上で必要な、神経内科疾患の様々な神経症状の成り立ちを講義する。	
		外科学	外科学全般にわたり基本的な事柄を概説する。具体的には、呼吸器外科、肺がん、甲状腺がん、心臓血管外科、乳腺外科と乳がん、吐血と食道・胃疾患などについて講義する。	
		耳鼻咽喉科学	耳鼻咽喉科学は言語・聴覚・嚥下機能に関わる基礎であることから耳鼻咽喉科領域の解剖、生理、機能を学修する。主として言語および聴覚機能に関係のある外耳・中耳・内耳疾患、鼻・副鼻腔疾患、口腔・咽頭疾患、喉頭疾患、気管・食道疾患の病態、検査法、診断および治療法を学修する。	
		形成外科学	形成外科学の基礎、創傷治癒と瘢痕・ケロイド熱傷、褥瘡について学ぶ。また特に言語聴覚学に関係の深い口唇・顎・口蓋裂、顔面奇形については多くの臨床経験をもつ講師による授業を行う。	
		臨床歯科医学	摂食・嚥下機能において歯は重要な役割を担っている。言語聴覚士として必要な歯の構造と機能、歯・歯周組織の疾患および歯科医学的処置等の基本知識を身に付ける。	
		口腔外科学	口唇から軟口蓋までの舌を含む顎・口腔は、人間として生きていく上で必要不可欠な言語音の生成と摂食・嚥下・咀嚼を担う重要な器官である。そのため、顎関節を含む口腔・顎・顔面の構造・機能・病態、その発生と疾患および先天的・後天的な顎・顔面・口腔の形態異常による言語・構音・摂食・嚥下・咀嚼障害の診断とその治療法に関して、それらの基礎的知識のみならず、臨床的な知識も含めて将来の医療現場で実践可能となるよう教授する。	
		脳神経外科学	脳神経外科学全般にわたり基本的な事柄を概説する。具体的には、中枢神経系の解剖・生理、意識障害、脳梗塞、脳出血、脳腫瘍、頭部外傷などについて講義する。	
		リハビリテーション医学	リハビリテーション医学は、病態生理、画像診断、神経生理学、薬物療法、理学・作業、あるいは言語聴覚療法などを包括して、運動・行為の障害、つまり“dysmobility”を科学する。リハビリテーションに従事する療法士は、基本的な医学知識の上に、適切なリスク管理を行いながらリハビリテーションを進めることが求められる。その基本的視点を培うのが本講義の目的で、総論として基本的知識を習得し、また疾患別に病態を理解して、リハビリテーションに関連する各論的知識を身につける。 (オムニバス形式:全8回) 【岡島康友/6回】 リハビリテーションにおける病態生理とリスク管理、運動器疾患、心疾患などについて講義する。 【山田深/2回】 脳卒中、脳外傷、脳性麻痺などについて講義する。	「画像の基礎」に関する知識を教育内容に含む。
		感染症・免疫学	本講義では、代表的な病原微生物の分類、病原性と感染のメカニズム、感染症の治療と予防などについて学び、リハビリテーションの現場における感染制御の重要性を理解する。	
		薬理学	薬理学とは、薬物が生体に対してどのように影響して治療効果が現れるのかを追求する学問である。本講義では、日常生活および臨床現場において使用される薬物を理解するとともに、その体内動態、治療効果を発揮するメカニズム、安全性と有効性、主作用・副作用の発現機序などについて学習する。	「薬理の基礎」に関する知識を教育内容に含む。
		栄養学	生体を構成し生命を維持する物質の性質、代謝の仕組みを理解し、対象者の栄養評価および臨床栄養に応用するための基本的な知識を学ぶ。	「栄養の基礎」に関する知識を教育内容に含む。
		救命救助法	大規模災害時や海、山での事故に備え、救命救助法を身につけておくことは、保健学部学ぶ者の責務である。本実習では東京消防庁の救助隊の活動を実際に見て、これらの活動の実際と救急救助体制などについて学ぶとともに、救命救助法の技能を修得する。最終試験に合格した者には、東京消防庁より「上級救命技能認定証」が交付される。	「救急救命の基礎」に関する知識を教育内容に含む。
		音声・言語・聴覚医学系	呼吸発声発語系の構造・機能・病態	呼吸器官、発声器官および構音器官の基本的な構造・機能・病態・検査法について解説する。さらに専門科目を学ぶ前の段階として基本的な用語の意味、構造と機能の関わり、呼吸器・発声・構音のシステムとしての運動について解説する。また、医学用画像の基礎的知識と評価を学ぶ。
聴覚系の構造・機能・病態	外耳、中耳、内耳、聴覚伝導路、聴皮質の構造と機能について学び、聴覚言語機能障害をきたす原因疾患の病態を理解する。また、蝸牛とともに内耳の中に存在し臨床的にも聴覚障害と関連の深い前庭器の構造、機能、病態についても解説する。また、医学用画像の基礎的知識と評価を学ぶ。			
神経系の構造・機能・病態	神経系について、神経組織、脳と脊髄の中枢神経、脳神経と脊髄神経の末梢神経（体性神経と自律神経）の構造と機能を学ぶ。神経機能検査、脳波、画像などの補助診断法について解説し、正常と病的状態（症状と徴候）について学ぶ。			

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎分野	心理系	臨床心理学概論	臨床心理の知見は医療や関連分野で働く際に多に助けとなるものである。この授業では自身のセルフケアにも活かせる知識も交えつつ臨床心理の基本の概要を学び、心理的支援への理解を深めていく。
		学習・言語心理学	私たちは日常生活において様々なことを学んでいる。本講義の前半では、行動主義の枠組みから学習のしくみと働きについて学ぶ。後半では、言語の獲得過程と言語力の育成について学ぶ。
		生涯発達心理学	人は生まれた時から社会的な存在である。本講義では、社会の中で人間がどのように発達していくのか理解することを目的とする。前半では特に乳幼児期を中心に解説する。子どもの世界を身近なものとして感じてもらいたい。後半では青年期から老年期までの発達を中心に解説し、人生の最後に必ず訪れる「死」について考える。
		心理的アセスメント	心理状態の観察及び結果の分析において、心理的アセスメントに有用な情報を集める手法について理解し、結果の統合と包括的な解釈を修得することを目的とする。広義のアセスメント(成育歴や家族の状況など)を把握し分析する手法を学ぶ。更に狭義のアセスメント(心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義、限界を踏まえた理解)について修得する。
	地域包括支援系・社会福祉・教育	医療福祉学	一人の人間を総合的に支えるには、保健、医療、福祉の連携が必要不可欠である。当然、それに伴う社会保障や社会福祉の多岐にわたる制度(例えば、介護保険・医療保険・年金保険といった社会保険制度、成年後見制度等)について知識を深めておくことも必要となる。したがって、本講では連携をキーワードの一つとしながら、社会福祉の歴史を概観し、社会保障や社会福祉の制度に関する知識を身につけていく。
リハビリテーション概論		リハビリテーションとは、障害を持つ人を全体として捉え、その人が再び(人間らしく生きられる)ようになること、すなわち、“全人間的復権”を究極的な目標とするものである。QOL(生活の質)は、ADL、経済活動、文化活動も包括する概念であるが、リハビリテーションの目指すべきところは、QOLの向上である。そのためには、ICFモデルを活用し、対象者の生きることの全体像を把握していくことが重要である。言語聴覚士はチーム医療の中でリハビリテーションの一翼を担うことから、高い倫理性と専門性を身につけ、そこに加われるようにする。	「リハビリテーションの理念・多職種連携」に関する知識を教育内容に含む。
専門分野	言語聴覚基礎系	言語聴覚障害学概論	言語聴覚障害学および言語聴覚療法の概略を理解し、今後行われる専門科目の基礎を築く。はじめに言語聴覚障害学の基本概念と特徴、言語聴覚士の職務内容、わが国における関連法整備の歴史と現状、および医療分野との連携について学ぶ。さらに、言語聴覚障害学を構成する各論、すなわち発達ならびに発達障害学、失語症学、音声障害学、構音障害学、摂食・嚥下障害学、聴覚障害学および高次脳機能障害学について、基本概念、理論的背景および臨床業務の概略を学ぶ。授業はオムニバス形式で行う。
		言語聴覚障害診断学	言語聴覚障害児・者への適切な訓練・指導・援助を行う上で不可欠な評価・診断の流れを理解し、一連の過程に含まれるデータ収集(面接、観察、検査)と収集したデータの解釈、言語聴覚障害の同定、訓練目標の設定、訓練プログラム立案を学ぶ。
	言語聴覚障害の評価診断・治療	高次脳機能障害学	脳損傷によって生じる高次脳機能障害について概説する。注意、記憶、遂行、視覚認知、視空間認知、聴覚認知、触覚認知、身体意識・病態認知、行為などの様々な高次脳機能障害の特徴、病態と発現機序、日常生活面における影響について学修する。
		失語・高次脳機能障害学Ⅰ	脳損傷によって生じる言語・コミュニケーション障害(失語症および右半球損傷・認知症・頭部外傷などによるコミュニケーション障害)の特徴や鑑別の方法を理解する。さらに、失語症や高次脳機能障害のある人々のおかれている心理面、社会面の問題についても理解する。
		失語・高次脳機能障害学演習Ⅰ	失語症や高次脳機能障害を的確に判断し、その家族やリハビリテーションチームの他の専門家に情報を提供するために、検査・評価法、面接法などを習得する。さらに、評価結果を簡潔にまとめて報告できるようにする。
		失語・高次脳機能障害学Ⅱ	脳損傷者のリハビリテーションにおけるチームアプローチに専門職として参加するため、失語症、高次脳機能障害のセラピーの方法について理解する。セラピー理論やコミュニケーション、高次脳機能面の改善に向けて行うさまざまなアプローチを学修し、他の専門職との連携のあり方について認識を深める。
		失語・高次脳機能障害学演習Ⅱ	失語・高次脳機能障害学演習Ⅰで習得した検査・評価法、面接法を的確に実施し、評価結果をまとめて報告し、適切な訓練目的・計画を立案できるようにする。さらに、訓練技法を立案・実施するための評価結果の解釈と訓練技法を演習する。
言語発達障害学Ⅰ	特異的言語発達障害、自閉スペクトラム症、知的能力障害、脳性まひ、限局性学習症等に伴う言語・コミュニケーション障害の定義や特徴を理解する。		

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	言語発達障害学Ⅱ	ことばの遅れやコミュニケーション障害の評価として初回面接、行動観察、発達検査、知能検査、言語検査、高次脳機能検査などについて学ぶ。また、言語・コミュニケーション障害のタイプ別の訓練法について学ぶ。	

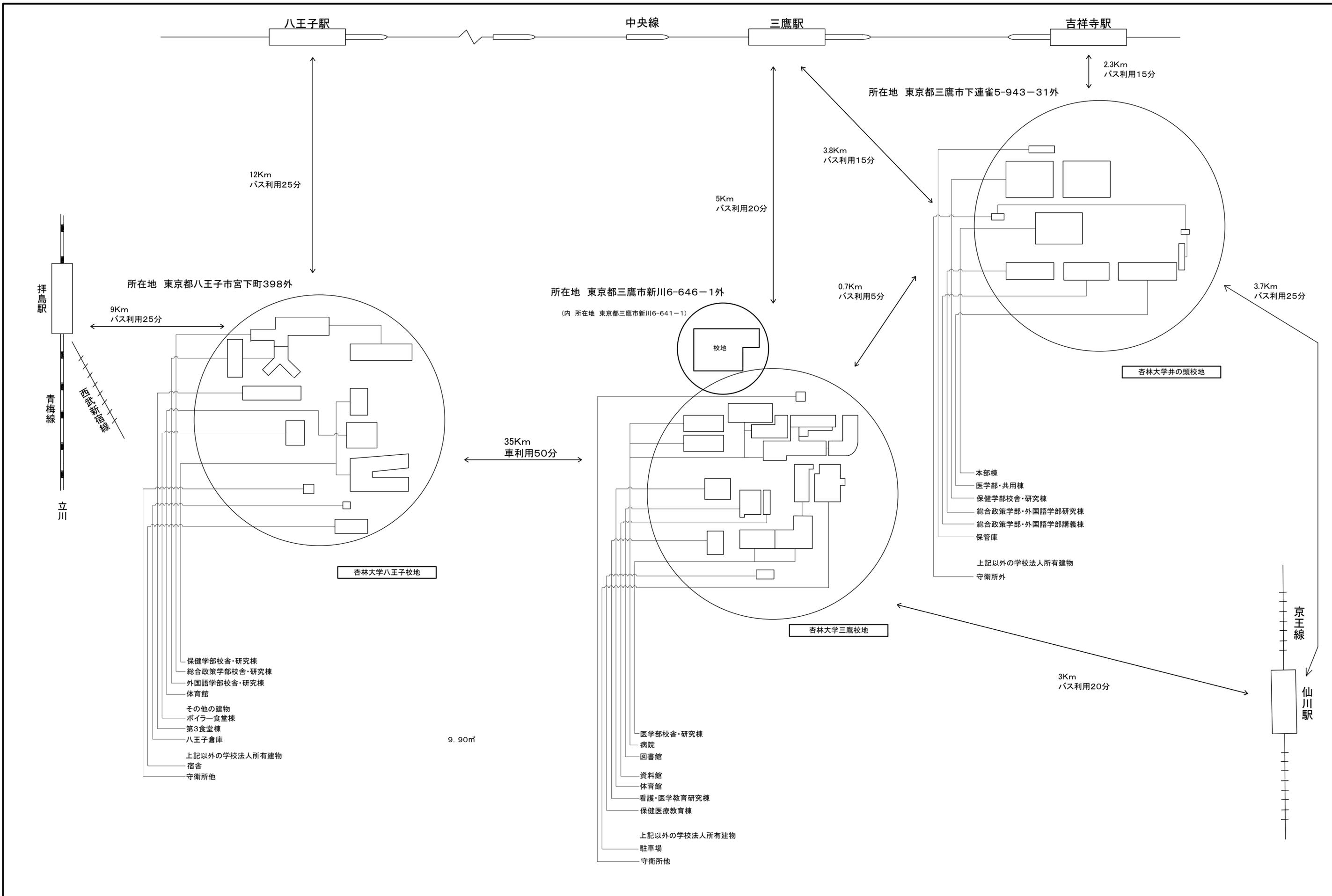
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	言語聴覚障害の 評価診断・治療	言語発達障害学演習Ⅰ	特異的言語発達障害、自閉スペクトラム症、知的能力障害、脳性まひ、限局性学習症等に伴う言語・コミュニケーション障害を事例を通して具体的に学ぶ。
		言語発達障害学演習Ⅱ	言語発達障害の評価に必要な各種検査の実施法について具体的に学ぶ。また、特異的言語発達障害、自閉スペクトラム症、知的能力障害、脳性まひ、限局性学習症等の支援・訓練法を事例を通して学ぶ。
		音声障害学	音声および音声障害の特徴、病態、治療およびリハビリテーション、さらに音声障害の臨床における言語聴覚士の役割について理解することを目的とする。発声・発語器官の解剖、発声・発語運動の動態、音声障害の発生機序、原因疾患、検査の技法と結果の解釈、治療（外科的治療、薬物治療、音声治療など）について学ぶ。
		吃音学	吃音の特徴、病態、原因、治療および支援の方法、さらに吃音の臨床における言語聴覚士の役割と望ましい態度について理解することを目的とする。吃音の症状、原因と病態に関する理論と最近の知見、言語および心理・社会的側面に関する検査の技法と結果の解釈、吃音のある人に対する治療および支援の方法、周囲の人たちへの支援、教育および啓蒙について学ぶ。
		構音障害学Ⅰ	成人領域の構音障害である運動障害性構音障害と器質性構音障害（舌・中咽頭癌術後等）について学ぶ。構音障害の発生メカニズム、発話特徴、原因疾患別の病態、検査、評価、訓練および医学的治療について概説するとともに、代償的アプローチ法や心理的サポートについても学ぶ。
		構音障害学Ⅱ	小児領域の構音障害である機能性構音障害と器質性構音障害（口蓋裂等による）について学ぶ。構音の特徴、検査、評価および訓練について学ぶとともに、器質性構音障害では病態および器質的異常と構音および共鳴の異常との関連を理解し、医学的治療との連携についても学ぶ。
		構音障害学演習	構音障害学Ⅰ・Ⅱと音声学で学んだ知識をもとに正常および異常構音の聞き取りと音声記号を用いた記録の取り方を演習形式で学ぶ。さらに「新版構音検査」をはじめとする系統的検査法、代表的な訓練方法、臨床の流れ（問診と情報収集・検査・報告書の作成など）についても演習を行い、構音障害に対し言語聴覚士として基本的な対応ができるよう知識と技術を定着させる。
		摂食嚥下障害学	摂食・嚥下機能にかかわる神経・筋系の構造と機能を知るとともにその障害による病態と症候について理解する。また、発達や加齢に伴う嚥下機能の変化、さまざまな原因で起こる嚥下障害の評価・検査法、手術を含めた治療や機能回復訓練法、栄養管理、関連職種との連携などについて学ぶ。
		摂食嚥下障害学演習	さまざまな疾患によって起こる嚥下障害の特徴を理解し、各種評価法と機能回復を含む様々なリハビリテーション技法について学ぶ。評価法では代表的なスクリーニング検査と嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査などの実施方法について理解するとともに、その結果の解釈について学ぶ。リハビリテーション技法については間接・直接・代償の各アプローチにおける訓練技法や対処法の習得を目指す。さらに臨床において欠かせない吸引技法について学ぶ。
		聴覚障害学Ⅰ（成人・重複障害含む）	聴覚障害の原因、種類および特性を理解した上で、成人聴覚障害の診断・評価を行うための情報収集方法、各種聴覚検査の選択実施と結果の解釈について学ぶ。また聴覚障害を補償する手段として補聴器、人工内耳などの感覚補償機器の適応の検討および個別訓練プログラムの立案方法などを学修し、成人聴覚障害の臨床における言語聴覚士の役割および聴覚障害のリハビリテーションの流れを理解する。
聴覚障害学演習Ⅰ	聴覚障害学Ⅰ（成人・重複障害含む）で学んだ知識を基に、成人聴覚障害に対する各種聴覚検査の実施法や総合的評価法について演習を行う。さらに、検査結果の分析と統合、関連障害との鑑別について学ぶ。		
言語聴覚障害の 評価診断・治療	聴覚障害学Ⅱ（小児）	聴覚障害が聴覚のみならず言語・構音・コミュニケーションの発達に及ぼす様々な影響について概説し、小児期聴覚障害の早期発見・鑑別に必要な検査法の選択や結果の解釈について学ぶ。また聴覚障害児への補聴器・人工内耳などの聴覚補償手段の適応に関する知識を修得する。指導・訓練の実施にあたっては聴覚刺激と視覚刺激の併用訓練などアプローチの多様性を理解する。	
	聴覚障害学演習Ⅱ	聴覚障害学Ⅱ（小児）で学んだ知識を基に、主に乳幼児聴覚検査法について演習を行う。また、聴覚補償論（補聴器・人工内耳）で学んだ知識をもとに補聴器・人工内耳の適応・適合検査の演習も行う。	
	聴覚補償論（補聴器・人工内耳）	聴覚補償手段としての補聴器と人工内耳について学ぶ。補聴器では、感音難聴者の聞こえの特徴、補聴器の種類について概説し、補聴器の基本構造、機能、特性およびその測定方法を学ぶ。また補聴器の処方、調整、装用効果の評価、装用指導、聴覚管理について学ぶ。人工内耳では、人工内耳のしくみ、適応基準、補聴器との違い、術前・術後のリハビリテーション方法について学ぶ。	
マ ネ ジ メ ン ト 法	言語聴覚療法におけるマネジメントの基本概念とともに、言語聴覚士としての職業倫理、職場環境の管理、生涯学習、法的責任、多職種連携、労務・精神衛生管理、安全衛生について学ぶ。		

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門分野	臨床実習系	見学実習	杏林大学医学部附属病院もしくは学外の医療または福祉施設において、施設概要、医療・福祉現場におけるリハビリテーションおよびチーム医療を見学する。言語聴覚士の社会的役割について学ぶ。実習終了後は実習報告会を行い各学生が見学および学修した内容を発表する。	
		評価実習	これまでに学修してきた専門知識や技術を臨床の現場で再確認、再統合する機会とする。具体的には、実習施設において、実習指導者の指導の下、実際の症例をとおして言語聴覚障害（摂食嚥下障害含む）の評価・診断・目標設定等に関し、以下について学ぶ。①観察・情報収集 ②適切な検査の選択と実施 ③検査結果の解釈と問題点の抽出 ④鑑別診断 ⑤訓練目標の設定と訓練プログラムの立案 ⑥報告書作成を行う。また、臨床の場におけるチームアプローチを体験するとともに、専門職の一員としての協調性や独自性を養う。実習終了後は実習報告会を行い各学生が学修した内容を発表する。	
		総合実習	評価実習での学修をふまえて、言語聴覚障害（摂食嚥下障害含む）の評価・診断に加え、これに基づく訓練・指導・援助等言語聴覚療法の全体像を学ぶ。具体的には実習施設において実習指導者の指導の下、症例を通して以下について学ぶ。①観察・情報収集 ②適切な検査の選択と実施 ③検査結果の解釈と問題点の抽出 ④鑑別診断 ⑤訓練目標の設定と訓練プログラムの立案 ⑥訓練の実践 ⑦報告書作成を行う。また、評価実習と同様に臨床の場におけるチームアプローチを体験するとともに、専門職の一員としての協調性や独自性を養う。さらに、障害像や取り組みの多様性についても学ぶ。実習終了後は実習報告会を行い各学生が見学および学修した内容を発表する。	
	総合領域	臨床言語聴覚療法演習	言語聴覚士に必要な基礎的臨床能力（態度、知識、技術）について講義と演習を通して学ぶ。症例の資料（動画、音声、診療記録）をもとに記録をまとめ、評価を行い、訓練・指導方法を考察しレポートにまとめる。小児と成人の領域別に模擬患者を対象として検査、評価、訓練・指導の実技およびその試験を行う。	
		総合言語聴覚療法演習	4年次までに学んだすべての専門基礎科目および専門科目の内容を総合的に確認し復習する。各科目内容の理解度・習得度を定期試験と個別の成績表によりフィードバックし各学生にとって最適な学習方法を検討する。国家試験合格に必要な内容については講義形式での復習と計画的な再学習を行う。これまで学んだ内容を科目を横断して統合し、卒業後に言語聴覚士として活用できるよう定着させる。	
		言語聴覚学研究法	4年次の卒業研究や卒業後に言語聴覚士として行う臨床研究を視野に科学論文作成の基礎を学ぶ。科学論文とは何か、科学論文の種類と形式、テーマの選定、文献検索、データ収集、結果の分析・解釈等について講義と演習形式で学ぶ。	
		卒業研究	1年次から3年次までに学修した基礎および専門知識を統合し論文作成を行う。指導教員のアドバイスを受けて言語聴覚障害領域からテーマを設定し、研究計画を立て、データの収集、結果の集計・分析・解釈、考察を行い論文を完成させる。論文作成を通して臨床研究の基本的な方法を学び、科学的な視点を養う。	
	(注)			
	1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。			
	2 保健師・助産師・看護師学校の指定を受ける課程において、指定規則上の複数の別表の教育内容を含む科目がある場合は、備考欄にその			

都道府県内における位置関係を示す図面

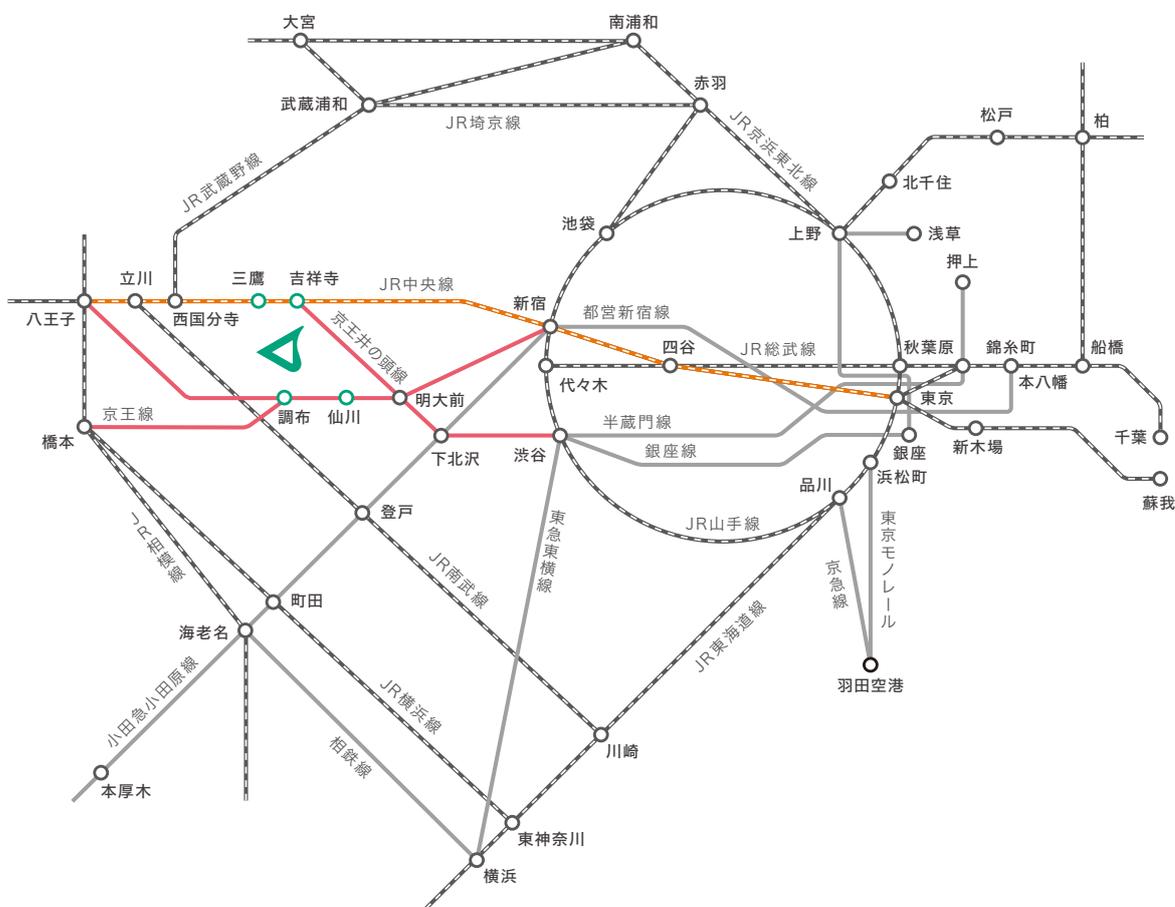


学校の位置及び校地、校舎の配置図の概要



BY TRAIN

最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面

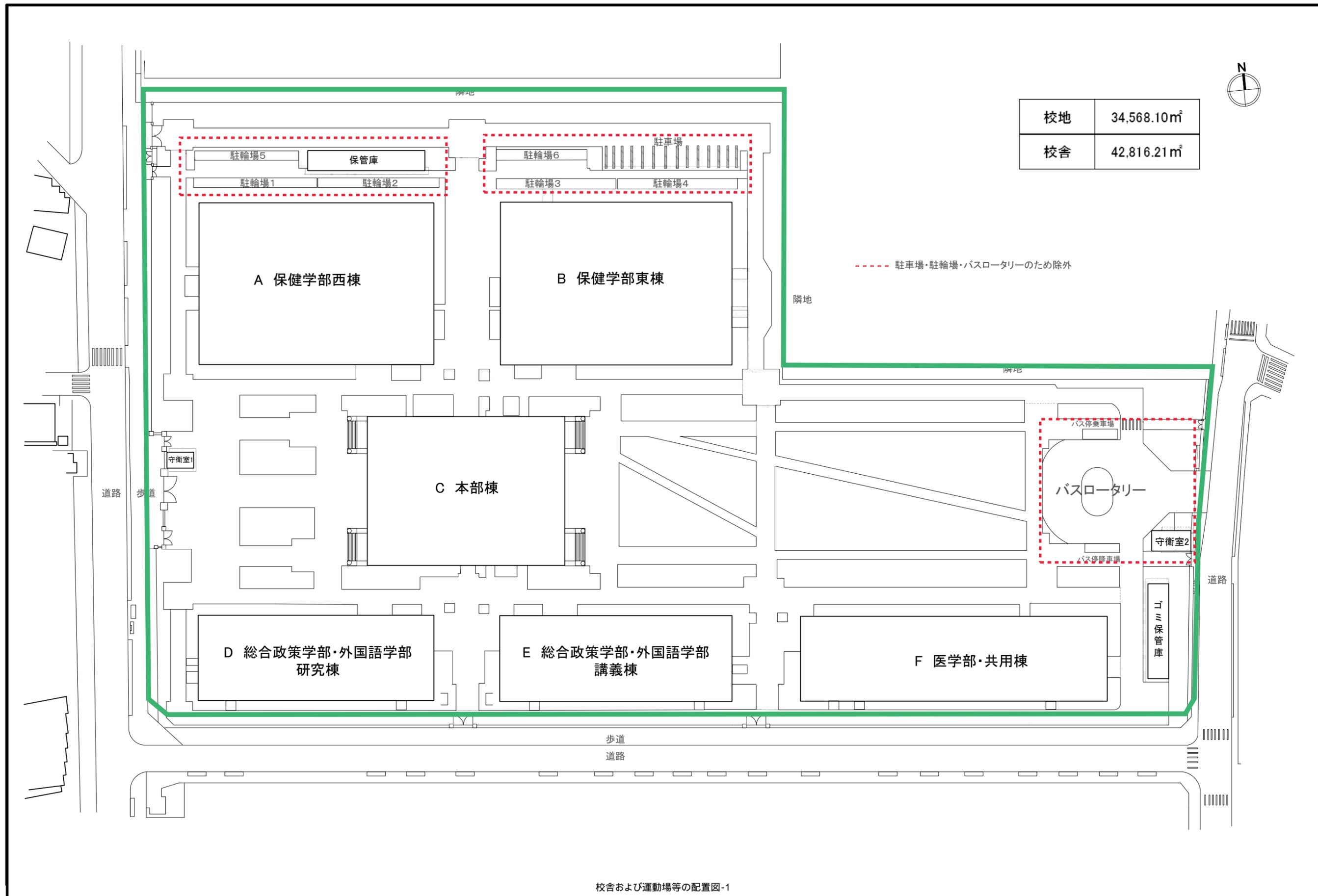


 <http://www.kyorin-u.ac.jp>

 杏林大学 Kyorin University

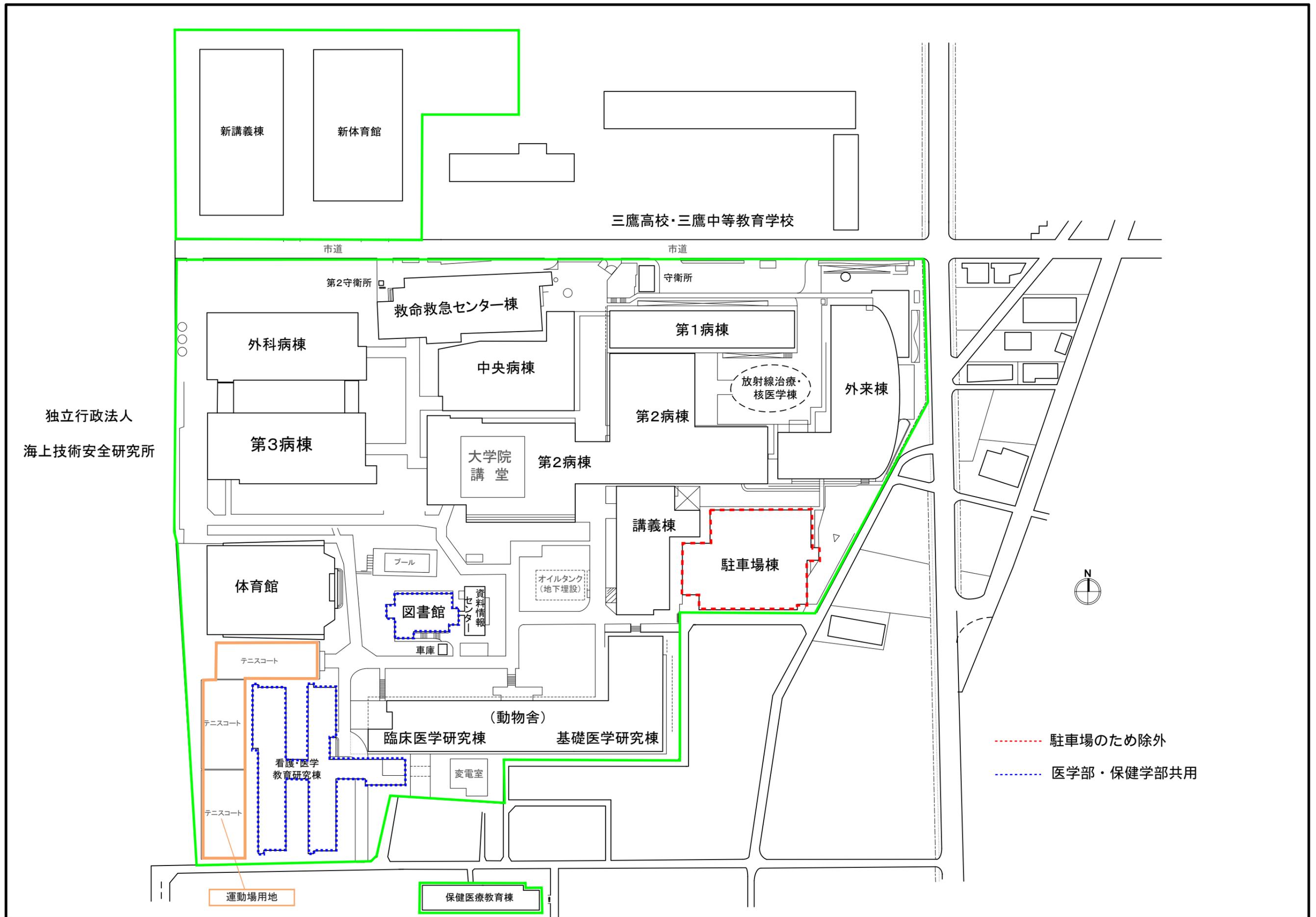
 @kyorin_univ

井の頭キャンパス 校舎及び運動場等の配置図



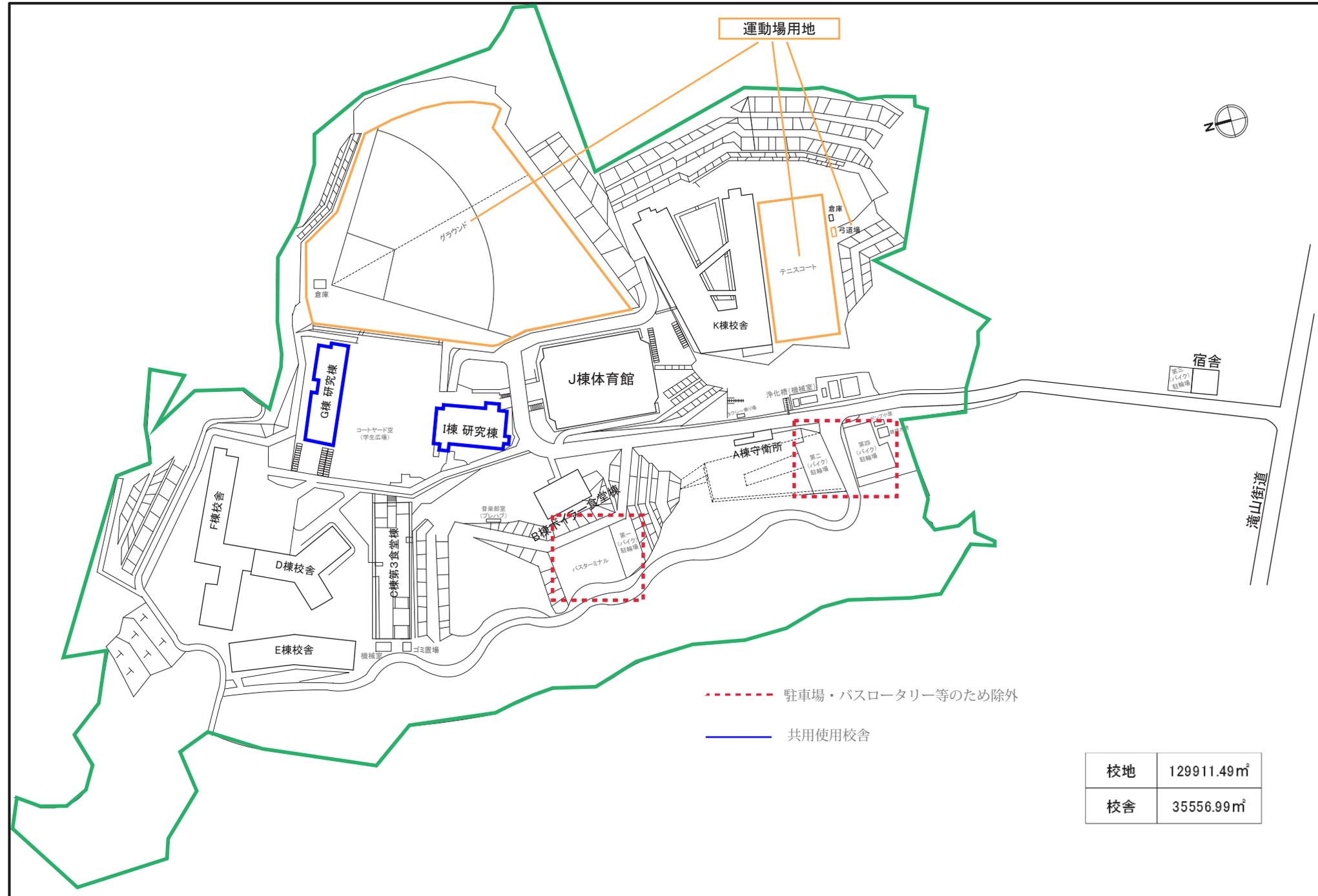
三鷹校地及び建物配置図

三鷹市新川6丁目646番1外
73,053.42㎡(敷地)



校舎および運動場等の配置図-2

八王子キャンパス 校舎及び運動場等の配置図



校舎および運動場等の配置図-3

○杏林大学学則

制定	昭和45年	3月17日		
	昭和49年	4月23日	昭和50年	8月11日
改正	昭和52年	11月17日	昭和53年	12月25日
	昭和54年	10月25日	昭和57年	4月1日
	昭和59年	4月1日	昭和60年	1月9日
	昭和61年	4月1日	昭和63年	4月1日
	平成2年	12月21日	平成3年	9月25日
	平成4年	9月21日	平成6年	1月24日
	平成7年	7月3日	平成8年	10月23日
	平成9年	3月28日	平成9年	5月30日
	平成10年	3月27日	平成10年	12月11日
	平成11年	2月15日	平成11年	6月21日
	平成11年	9月20日	平成11年	12月10日
	平成12年	6月19日	平成12年	9月18日
	平成13年	5月30日	平成14年	2月26日
	平成14年	7月15日	平成14年	9月13日
	平成14年	12月6日	平成15年	2月17日
	平成15年	9月8日	平成15年	12月5日
	平成16年	5月28日	平成17年	5月27日
	平成17年	7月25日	平成17年	10月26日
	平成18年	3月29日	平成18年	12月8日
	平成19年	3月29日	平成19年	12月7日
	平成20年	5月29日	平成20年	9月8日
	平成20年	10月20日	平成21年	3月26日
	平成21年	5月29日	平成21年	10月26日
	平成21年	12月3日	平成22年	5月28日
	平成22年	10月27日	平成22年	12月3日
	平成23年	5月27日	平成23年	9月12日
	平成23年	12月2日	平成24年	3月30日
	平成24年	5月25日	平成24年	12月7日
	平成25年	5月24日	平成26年	2月17日
	平成26年	7月28日	平成26年	9月8日
	平成27年	3月27日	平成27年	5月29日
	平成27年	10月19日	平成28年	3月25日
	平成28年	5月27日	平成29年	3月24日
	平成29年	5月26日	平成30年	3月28日
	平成31年	3月29日	令和元年	5月31日
	令和元年	10月11日	令和2年	3月16日
	令和2年	5月29日	令和2年	12月4日
	令和3年	3月26日	令和3年	5月28日
	令和3年	9月6日	令和3年	12月3日

第1章 目的、使命及び自己評価等

(目的)

第1条 本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、かつ建学の精神に基づいて、崇高な人類愛と高度の科学精神を基盤とするすぐれた人材の育成を目的とし、もって広く人類の福祉に貢献することを使命とする。

(自己評価等)

第3類（杏林大学学則）

第1条の2 本学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

- 2 前項の点検及び評価の項目並びにその実施体制については、別に定める。
- 3 本学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その職員に必要な知識及び技能を修得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修の機会を設けることその他必要な取組を行うものとする。

第2章 学部、大学院等

（学部、学科）

第2条 本学に次の学部及び学科を置く。

医 学 部	医学科
保 健 学 部	臨床検査技術学科、健康福祉学科、看護学科（看護学専攻、看護養護教育学専攻）、臨床工学科、救急救命学科、理学療法学科、作業療法学科、診療放射線技術学科及び臨床心理学科
総合政策学部	総合政策学科及び企業経営学科
外国語学部	英語学科、中国語学科及び観光交流文化学科

（学部又は学科の目的）

第2条の2 学部又は学科ごとの人材の養成その他の教育研究上の目的については、次のとおりとする。

- 2 医学部は、豊かな人間性の涵養と、医学の発展に対応しうる基礎的及び専門的知識の修得と臨床的技能の修練を通じて、良き医師を養成することを目的とする。
- 3 保健学部
 - （1）臨床検査技術学科は、保健及び医療に携わる者として高い倫理観と、強い使命感を持ち、臨床検査に対する卓越した専門知識と技術、総合的な判断力を持つ人材を養成することを目的とする。
 - （2）健康福祉学科は、保健、医療、福祉、養護及び保育の専門知識と技術をもち、高い倫理観と情熱をもって人の健康と生活の支援を実践する人材を養成することを目的とする。
 - （3）看護学科看護学専攻は、看護を必要とする様々な人々に対して対処できるよう、的確な問題解決能力と技術をもち、人への思いやりを有し、高い倫理観を持ち、かつリーダーシップを発揮できる人材を養成することを目的とし、看護養護教育学専攻は、健康増進の実現に寄与しうる創造力と実践力を有し、特に国の将来を担う子どもたちの成長過程において、指導力を発揮できる人材を養成することを目的とする。
 - （4）臨床工学科は、生命維持管理装置の操作運用に関する医用生体工学の分野で、その専門的知識と技術を活かし、高い倫理観と使命感を持った実践的な臨床工学技士を養成することを目的とする。
 - （5）救急救命学科は、高い倫理観を持ち、救急救命の最前線で求められる迅速かつ的確な状況判断能力と傷病者の状況観察に基づく適切な処置技術を有する人材を

第3類（杏林大学学則）

養成することを目的とする。

- (6) 理学療法学科は、医療人としての倫理観に裏付けされた豊かな人間性と理学療法に関する高度な知識、技術を備え、障害の機能回復だけでなく、地域医療や福祉の場における健康の維持増進など幅広い領域において貢献できる人材を養成することを目的とする。
- (7) 作業療法学科は、豊かな人間性と倫理観を備え、心身に障害をもつ人々の QOL（生活の質）の維持・向上を支援するために必要な、科学的根拠に基づいた作業療法に関する幅広い専門知識と技術を身につけた人材を育成することを目的とする。
- (8) 診療放射線技術学科では、診療放射線技術分野における高い専門性と確かな技術力を身につけ、豊かな人間性と高い倫理観を併せ持つ、将来にわたって医療に貢献できる人材を養成することを目的とする。
- (9) 臨床心理学科は、豊かな人間性と倫理観を備え、質の高いコミュニケーションを通じて心理的な援助を必要とする人々の QOL（生活の質）の維持・向上を支援するために必要な、科学的根拠に基づいた臨床心理学を基軸とする幅広い心理学の専門知識と技術を身につけた人材を養成することを目的とする。

4 総合政策学部

- (1) 総合政策学科は、社会をマクロの視点から捉え、政治、経済、法律、国際関係、福祉の各専門分野を総合的かつ学際的に学ぶことにより、グローバル社会における様々な問題を多面的に把握分析し、実践的に解決するための知識と能力を備えた人材を養成することを目的とする。
- (2) 企業経営学科は、企業活動というミクロの視点に立ち、経営及び会計の各専門分野における知識の修得はもとより他の関連分野にも通曉し、グローバル社会において企業が求める幅広い知識と実務遂行のための能力、技能を備えた人材を養成することを目的とする。

5 外国語学部

- (1) 英語学科は、英語の高度な運用能力と広範な背景的知識の獲得、ならびに非言語的表現も含めたコミュニケーション能力の開発に取り組み、これらを通じて、将来の予測が難しい時代を生き抜く力と専門的知識を備えた国際的な職業人を養成することを目的とする。
- (2) 中国語学科は、グローバル化の進展と中国語圏を中心とするアジア地域の発展に伴い、求められる実践的な中国語運用能力の開発と地域の社会・文化に関する知識の修得により、高度な中国語コミュニケーション能力を有するとともに、国際社会における相互理解を促進し、新たな協力の創造に寄与できる人材を養成することを目的とする。
- (3) 観光交流文化学科は、豊かで健全な社会生活に欠かすことのできない楽しみのための移動と滞在、それにともなうホスピタリティと人びとの交流について、観光学の学びを通じて多様な視点からその価値を捉え、持続的な観光の発展と交流文化の創造を先導する人材を養成することを目的とする。

第3類（杏林大学学則）

（学生定員）

第3条 学生定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員
医 学 部	医 学 科	105名	—	630名
保 健 学 部	臨床検査技術学科	120名	—	480名
	健康福祉学科	50名	—	200名
	看護学科	150名	—	600名
	（看護学専攻）	（100名）	（—）	（400名）
	（看護養護教育学専攻）	（50名）	（—）	（200名）
	臨床工学科	60名	—	240名
	救急救命学科	50名	—	200名
	理学療法学科	56名	—	224名
	作業療法学科	54名	—	216名
	診療放射線技術学科	66名	—	264名
	臨床心理学科	80名	—	320名
総合政策学部	総合政策学科	150名	3名	606名
	企業経営学科	80名	3名	326名
外国語学部	英語学科	130名	4名	528名
	中国語学科	30名	5名	130名
	観光交流文化学科	90名	3名	366名

（大学院）

第4条 本学に大学院を置く。

2 大学院学則は別に定める。

（附属施設）

第5条 本学に付属図書館、付属図書館分館、医学部附属病院、入学センター、キャリアサポートセンター、国際交流センター、学生支援センター、保健センター、研究推進センター、総合情報センター、地域交流推進室及び高大接続推進室を置く。これらに関する規程は別に定める。

第3章 教職員組織

（教員組織）

第3類（杏林大学学則）

第6条 本学に学園長、学長、副学長、付属病院長、付属図書館長、付属図書分館長、入学センター長、キャリアサポートセンター長、国際交流センター長、学生支援センター長、保健センター長、研究推進センター長、総合情報センター長、地域交流推進室長及び高大接続推進室長を置く。

- 2 各学部に学部長、教務部長及び学生部長を置く。
- 3 事務組織については、別に定める。

第7条 本学に教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員その他の職員を置く。

- 2 本学に客員教員又は特任教員を置くことができる。
- 3 教職員は専任、兼担及び兼任に区分する。
- 4 教職員の定員、資格、任免、勤務等に関しては、別に定める。

（学園長の任務）

第8条 学園長は、学園が設置する教育機関の教学に関する事項を総理し、教学面の諸式を司る。

（学長の任務）

第9条 学長は、本学並びに本学付属教育機関の教育及び研究に関する事項を統括する。

（副学長の任務）

第10条 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

- 2 副学長は、学長に事故があり学園長の指名を受けたときは、学長の任務を代行する。

（学部長の任務）

第11条 学部長は、当該学部の校務を掌理し、所属教職員を指揮監督して、教育及び研究の責に任ずる。

第4章 教授会

（教授会）

第12条 各学部に教授会を置く。

- 2 各学部の教授会（以下「各教授会」という。）は、それぞれの学部長が招集しその議長となる。
- 3 各教授会は、それぞれの学部の専任教授をもって組織する。
- 4 各教授会は、必要に応じ准教授その他の教職員の意見を聴くことができる。
- 5 各教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
 - (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
 - (2) 学位の授与
 - (3) 第1号及び第2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 6 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる次の事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、

第3類（杏林大学学則）

意見を述べることができる。

- (1) 教育に関する事項
 - (2) 教員人事に関する事項
 - (3) 学生に関する事項
 - (4) 研究に関する事項
 - (5) その他各号に関連し、学長等が必要と認めた事項
- 7 前項第2号の事項中教授の選考に関する事項の審議については、別に定める教授選考委員会において予め審議するものとする。
- 8 学園長、学長、副学長は各教授会に出席し意見を述べるができる。
- 9 教授会運営に関する細則は、別に定める。
(大学評議会)

第12条の2 本学に杏林大学評議会（以下「評議会」という。）を置く。

- 2 評議会は、学長が招集しその議長となる。
- 3 評議会は、次に掲げる評議会委員（以下「委員」という。）をもって組織する。
 - (1) 学園長
 - (2) 学長
 - (3) 副学長
 - (4) 学部長
 - (5) 附属図書館長
 - (6) 各教授会構成員の中から教授会により選任された者、各2名
- 4 前項6号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の途中で委員の交替のあったときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 評議会は、必要に応じ委員以外の者を会議に出席させ、その意見を聴くことができる。
- 6 評議会においては、次の事項を審議し議決する。
 - (1) 学則及びこれに基づく諸規程の制定、改廃並びにこれらの解釈に関する事項
 - (2) 大学の自己評価に関する事項
 - (3) その他大学全般の教学に関し、学長が必要と認める事項
- 7 評議会運営に関する規程は別に定める。

第5章 学年、学期及び休業日

(学年)

第13条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。ただし、秋入学者は9月15日に始まり、翌年9月14日に終る。

(学期)

第14条 学年を分けて前期又は春学期、後期又は秋学期の2学期とする。

- 2 前項の学期の呼称及び期間は、各学部において定める。

(休業日)

第15条 休業日は次のとおりとする。ただし、第4号から第6号の休業期間の始期及び終期は、年度ごとに学長が定める。

第3類（杏林大学学則）

- (1) 日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
 - (3) 杏林学園創立記念日 11月11日
 - (4) 春季休業
 - (5) 夏季休業
 - (6) 冬季休業
- 2 学長は、必要により臨時に休業日を設け、又は休業日を授業日に変更することができる。

第6章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第16条 修業年限は次のとおりとする。

医 学 部	6年
保 健 学 部	4年
総合政策学部	4年
外国語学部	4年

- 2 3年次に総合政策学部及び外国語学部編入学した者は、2年とする。

(在学年限)

第17条 卒業までの在学年限は、原則として各学部とも前条の修業年限の2倍を超えることができない。ただし、医学部においては、同一学年の在学年限を2年以内とする。

第7章 入 学

(入学の時期)

第18条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第19条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程における12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験（旧大学入学資格検定）に合格した者
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの

第3類（杏林大学学則）

（入学志願）

第20条 入学を志願する者は、所定の入学願書に別に定める入学検定料を添えて、提出しなければならない。

（入学手続）

第21条 入学選考試験に合格した者は、所定の期日までに所定の入学料その他の学納金を添えて、誓約書を提出しなければならない。

2 入学選考試験合格の通知を受け、前項の手続を完了した者は、入学を許可する。

（転入学）

第22条 次の各号の一に該当する者で、本学への転入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に転入学を許可することがある。

（1）大学を卒業した者又は退学した者

（2）他の大学に在学している者

（編入学）

第22条の2 短期大学、高等専門学校を卒業した者及び第19条の各号の一に該当しその後専修学校の専門課程を卒業し文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者又はその他法令で定めるところにより資格があるとされている者は、選考の上、相当年次に編入学を許可する。

（転入学、編入学の入学志願等）

第22条の3 転入学、編入学の志願及び入学手続きについては、第20条及び第21条の規定を準用する。

（単位の認定等）

第22条の4 転入学、編入学又は再入学を許可された者の修得した単位の認定及び修業年限について、当該学部教授会にて審議する。

第8章 教育課程、履修方法、授業期間、授業の方法、単位の計算方法等

（教育課程の編成及び履修方法）

第23条 教育課程は各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次に配当して編成する。ただし、履修方法の細部については、各学部において定める。

（教育課程）

第23条の2 授業科目の種類並びにその単位数は、次に定めるとおりとする。

医 学 部 別表1

保 健 学 部 別表2

総合政策学部 別表3

外国語学部 別表4

（1年間の授業期間）

第24条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

（各授業科目の授業期間）

第24条の2 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。

第3類（杏林大学学則）

る。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りではない。

（授業の方法）

第25条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 本学は、文部科学大臣が別に定めるところ（平成13年文部科学省告示第51号）により、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 本学は、第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても同様とする。

4 本学は、文部科学大臣が別に定めるところ（平成15年文部科学省告示第43号）により、第1項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

（単位の計算方法）

第26条 授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

（1）講義及び演習については、毎週1時間から2時間15週の授業をもって1単位とする。

（2）実験、実習及び実技については、毎週2時間から3時間15週の授業をもって1単位とする。

（3）授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合の単位数を計算するに当たっては、その組み合わせに応じ、前各号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

（単位の授与）

第26条の2 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

ただし、第26条第2項の授業科目については、論文審査等の適切な方法により学修の成果を評価して所定の単位を与える。

（試験及び進級の認定）

第27条 試験は各授業科目ごとに行う。

2 試験は、口頭又は筆記により行う。ただし、科目の性質によりあらかじめ定めたものについては、他の方法によることができる。

3 試験の成績は、S（90点以上～100点）、A（80点以上～90点未満）、B（70点以上～80点未満）、C（60点以上～70点未満）、D（60点未満）の5種とし、SABCを合格、Dを不合格とする。合格した授業科目については所定の単位を与える。

第3類（杏林大学学則）

4 進級の認定については、各学部の学修規程又は履修規程に定める。

（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第27条の2 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するもの（平成16年文部科学省告示第176号）の当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

（大学以外の教育施設等における学修）

第27条の3 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修、その他文部科学大臣が定める学修（平成3年文部省告示第68号）を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、第27条の2第1項及び第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

（入学前の既修得単位等の認定）

第27条の4 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が本学入学前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学入学後に本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が本学入学前に行った第27条の3第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

3 前項及び前々項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第27条の2第1項（同条第2項において準用する場合を含む。）及び第27条の3第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

（成績評価基準等の明示等）

第27条の5 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学は、学生に対して、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

（教育内容等の改善のための組織的研修等）

第3類（杏林大学学則）

第27条の6 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

（単位互換）

第28条 単位の互換に関する規程は別に定める。

第29条 削除

第9章 休学、転学、留学、退学等

（休学）

第30条 疾病その他やむを得ない事由のため、3か月以上修学できないときは、学長に願い出て休学することができる。この場合その事由が病気であるときは、医師の診断書を添付しなければならない。

2 休学の期間は、1年を超えることはできない。ただし、特にやむを得ない事情があると認められるときは、さらに1年を限り延長することができる。

第31条 疾病のため修学することが適当でないと認められる者に対しては、学長は当該学部長の申請により休学を命ずることができる。

（復学）

第32条 休学の期間中であっても、その事由が消滅したときは、当該学部長を経て、学長に願い出て復学することができる。この場合、休学の事由が病気である場合には、本学付属病院の医師の診断書を添付しなければならない。

第33条 休学の期間は、第16条の修業年限及び第17条の在学年限に算入しない。

2 休学の期間は、通算して3年を超えることはできない。

（転学・転学部等）

第34条 本学から他の大学に転学しようとする者は、理由書を添えて、当該学部長を経て学長に願い出て、許可を得なければならない。

2 本学内で他学部の学科又は同一学部内の他学科へ転学部又は転学科を志願した者は選考の上、これを許可することができる。転学部又は転学科した者の在学年数には、元の学部学科の在学年数の全部又は一部を通算することができる。

（留学）

第35条 本学は在学中に外国の大学等に留学することを認める。

2 留学に関する事項については、杏林大学学生国際交流規程に定める。

（退学）

第36条 疾病その他の事由により、退学しようとする者は、理由書を添え、保証人連署のうえ当該学部長を経て学長に願い出て、許可を受けなければならない。この場合、退学の事由が疾病によるときは、医師の診断書を添付しなければならない。ただし、死亡の場合は、死亡診断書等の確認により、死亡した日をもって退学とする。

2 退学願の提出と退学の許可については、本学則に定めるところによるほか、医学部においては、学修規程に定めるところによる。

（再入学）

第37条 前条により退学した者で、2年以内に退学の事由が消滅し、再び入学を願

第3類（杏林大学学則）

い出る者があるときは、学長は当該学部長の申請により、相当年次に再入学を認めることができる。

（除籍）

第38条 次の各号の一に該当する者は、当該教授会の議を経て学長がこれを除籍する。

- （1）故なくして、3ヵ月以上授業料その他の学納金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- （2）第30条第2項に定める休学期間を超えて、なお修学できない者
- （3）第17条に定める在学年限を超える者
- （4）行方不明で失踪の届出があった者

第10章 卒業

（卒業の要件）

第39条 医学部においては、別表1-1の適用を受ける者は、6年以上在学し255単位を修得しなければならない。別表1-2の適用を受ける者は、6年以上在学し252単位を修得しなければならない。別表1-3の適用を受ける者は、6年以上在学し252単位を修得しなければならない。別表1-4の適用を受ける者は、6年以上在学し249単位を修得しなければならない。別表1-5の適用を受ける者は、6年以上在学し205単位を修得しなければならない。別表1-6の適用を受ける者は、6年以上在学し210単位を修得しなければならない。

- 2 保健学部臨床検査技術学科、健康福祉学科、臨床工学科、救急救命学科及び臨床心理学科においては4年以上在学し124単位以上を、看護学科看護学専攻においては4年以上在学し137単位以上を、看護学科看護養護教育学専攻においては4年以上在学し133単位以上を、診療放射線技術学科においては4年以上在学し132単位以上を、理学療法学科及び作業療法学科においては4年以上在学し125単位以上を修得しなければならない。
- 3 総合政策学部においては、4年以上在学し124単位以上を修得しなければならない。
- 4 外国語学部においては、4年以上在学し124単位以上を修得しなければならない。
- 5 各学部とも自由科目については、その履修により修得した単位は卒業の単位に算入しない。
- 6 本学の学生が、その所属する学科以外の学科（一学部に二学科以上の場合）、又は本学他学部の設置する授業科目のうち、在学する学部・学科に設置されていない授業科目については、関係学部長の許可を受けて履修することができる。
- 7 前項により修得した単位は、卒業に必要な単位として認定することができる。

（卒業の認定）

第40条 前条に定める卒業の要件をみたした者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

（学位）

第3類（杏林大学学則）

第41条 卒業の認定をうけた者に次に定める学士の学位を授与する。

医学部	学士（医学）
保健学部	
臨床検査技術学科	学士（保健衛生学）
健康福祉学科	学士（保健衛生学）
看護学科	学士（看護学）
臨床工学科	学士（臨床工学）
救急救命学科	学士（救急救命学）
理学療法学科	学士（理学療法学）
作業療法学科	学士（作業療法学）
診療放射線技術学科	学士（診療放射線学）
臨床心理学科	学士（臨床心理学）
総合政策学部	
総合政策学科	学士（総合政策学）
企業経営学科	学士（企業経営学）
外国語学部	
英語学科	学士（文学）
中国語学科	学士（中国語コミュニケーション学）
観光交流文化学科	学士（観光交流文化学）

（教育職員免許状）

第41条の2 本学に教職課程を置く。

2 教職に関する専門科目の種類及び単位数は、別表5-1のとおりとする。

（教育職員免許取得に必要な科目及び単位数）

第41条の3 教育職員免許を得ようとする者は、別に定める本学教職課程履修に関する規程及び教育職員免許法並びに同法施行規則の定めるところに従い、それぞれ所定の科目及び単位を修得しなければならない。

（免許状の種類及び履修学部・学科）

第41条の4 前条に規定する単位を修得することによって得られる免許状の種類並びに履修する学部・学科・専攻は次のとおりとする。

履修する学部・学科・専攻	免許状の種類	
保健学部健康福祉学科	養護教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	養護 保健 保健
保健学部看護学科 看護養護教育学専攻	養護教諭一種免許状	養護
総合政策学部総合政策学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社会 公民

第3類（杏林大学学則）

総合政策学部企業経営学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社 会 公 民
外国語学部英語学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英 語 英 語

第11章 賞罰

（表彰）

第42条 学業その他が特にすぐれ、他の学生の範となる者があるときは、学長は教授会の議を経て、適当な方法でこれを表彰することができる。

（懲戒）

第43条 本学の建学精神、教育方針に違背し、又は学生としての本分に反した行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒は、その軽重に応じ、譴責、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

（1）性行不良で、改善の見込みのないと認められる者

（2）学力劣等で、成業の見込みがないと認められた者

（3）正当の理由がなくて、出席常でない者

（4）本学の定める諸規程に反し、又は学内の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第12章 委託学生、聴講生、科目等履修生及び外国人留学生

（委託学生）

第44条 公共又は民間の諸機関等から、委託学生の受入れについて申し入れがあったときは、欠員があり、教育上支障のない限り教授会の議を経て受入れることができる。

2 委託学生には本学則を準用する。ただし、委託学生として在学した期間及びその修得単位は、第39条に定める在学期間及び単位として換算することはできない。

（聴講生）

第45条 本学学生にあらざる者で、本学の授業科目の一部を聴講することを希望する者があるときは、教育研究上支障のない限り、聴講生としてこれを許すことができる。

2 聴講生となることが出来る者は、聴講する科目を理解するに足る学力があると教授会が認めた者に限るものとする。

3 聴講生には本学則を準用する。ただし、聴講生として在学した期間は、第39条に定める在学期間に通算しない。また、単位は授与しない。

（科目等履修生）

第46条 本学学生にあらざる者で本学の授業科目の一部を履修することを希望する者がいるときは、教育研究上支障のない限り、科目等履修生としてこれを許可することができる。

2 科目等履修生となることが出来る者は、履修する科目を理解するに足る学力があ

第3類（杏林大学学則）

ると教授会が認めた者に限るものとする。

- 3 科目等履修生には本学則を準用する。
- 4 本学科目等履修生として単位を修得した後に本学に入学した場合、当該単位の修得により当該学部の教育課程の一部を履修したと当該学部が認めたときは、その単位数等に応じて、相当期間を当該学部の修業年限の2分の1を超えない範囲で第39条に定める在学期間として通算することができる。
- 5 科目等履修生には第26条の2の定めにより履修した科目の単位を授与する。
(外国人留学生)

第47条 外国人であって、本学学生としての教育を受けることを希望する者があるときは、外国人留学生として入学させることができる。

- 2 外国人留学生の入学者選抜に関しては、必要ある場合は日本語の能力に関する試験を加える。

第13章 学納金

(入学検定料、入学料等の納入)

第48条 本学に入学を志願する者は、別に定める入学検定料を納入しなければならない。

- 2 入学選考試験に合格した者は、別表6-1及び別表6-2に定める入学料、授業料その他の学納金を納入しなければならない。
- 3 前項の納入金の納入時期、納入方法等必要な事項は、別に定める。
(授業料等の納入)

第49条 本学学生は別表6-1及び別表6-2に定める授業料等その他の学納金を納入しなければならない。

- 2 前項の納入金の納入時期、納入方法等必要な事項は、別に定める。
- 3 休学又は停学中であっても、授業料等は徴収する。ただし、休学の期間が6か月以上にわたる者の授業料その他の学納金については別に定めるところにより、減免することがある。
- 4 海外留学する場合、本学に納入すべき費用については別に定める。
- 5 除籍の場合における授業料は、その納期に属する分はこれを徴収する。
- 6 授業料、実験実習費・施設設備費等を所定の期日までに納入しない者には、授業への出席、図書閲覧、その他施設の利用を認めない。

第50条 入学料、授業料その他既納の学納金は、如何なる理由があってもこれを還付しない。

第14章 名誉学長・名誉教授

(名誉学長)

第51条 本学は、名誉学長の称号を与えることができる。

- 2 名誉学長の詳細については、別に定める。
(名誉教授)

第52条 本学は、名誉教授の称号を与えることができる。

- 2 名誉教授の詳細については、別に定める。

第3類（杏林大学学則）

第15章 雑則

（改正）

第53条 この学則を改正しようとするときは、杏林学園運営審議会の議を経たうえ、改正事項が単一の学部に係る場合は当該学部の教授会に、2つ以上の学部に関連する場合は、関連する学部の教授会に諮り、教授会構成員の3分の2以上が出席し出席者の3分の2以上の賛成を得たうえ、評議会及び理事会の承認を得なければならない。

附 則

- 1 本学則は、昭和45年 4月 1日から施行する。
- 2 この学則を改正しようとするときは、教授の3分の2以上が出席した医学部教授会において、出席者の3分の2以上の賛成を得なければならない。
- 3 前項の学則の改正については、理事会の承認を要するものとする。

附 則

本学則は、昭和49年 4月26日から施行する。

附 則

本学則は、昭和51年 4月1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和53年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、昭和54年 4月 1日から施行する。
- 2 この学則を改正しようとするときは、杏林学園運営審議会の議を経たうえ、両学部に関連する事項については、各学部の教授会に、医学部に関連する事項については、医学部教授会に、保健学部に関連する事項については、保健学部教授会に諮り、それぞれの賛成を得なければならない。各学部教授会は、所定の構成員たる教授の3分の2以上が出席し、出席者の3分の2以上の賛成をもって議決する。

附 則

- 1 本学則は、昭和55年 4月1日から施行する。
- 2 第3条の規定に拘らず保健学部の総定員は、次のとおりとする。

学科	年度			
	54年度	55年度	56年度	57年度以降
臨床検査技術学科	50名	100名	150名	200名
保健学科	50名	100名	150名	200名

附 則

本学則は、昭和57年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、昭和59年 4月 1日から施行する。
- 2 この学則を改正しようとするときは、杏林学園運営審議会の議を経たうえ、改正事項が単一の学部に係る場合は当該学部の教授会に、2つ以上の学部に関連する場

第3類（杏林大学学則）

合は関連する学部の教授会に諮り、教授会構成員の3分の2以上が出席し、出席者の3分の2以上の賛成をもって議決するものとする。

附 則

本学則は、昭和60年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和61年 4月 1日から施行する。ただし、第3条の規定にかかわらず、昭和61年度から昭和74年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員
医 学 部	医 学 科	100名
保 健 学 部	臨床検査技術学科	50名
	保 健 学 科	50名
社会科学部	社 会 学 科	300名

附 則

- 1 本学則は、昭和63年 4月 1日から施行する。ただし、別表2-2（第24条関連）の適用については次の各号による。
 - (1) 昭和60年度入学生については適用しない。
 - (2) 昭和61年度入学生については、臨床検査技師、衛生検査技師に関する法律施行令第12条第3号の規定に基づく指定科目に限りこの表の該当科目を適用する。
 - (3) 昭和62年度入学生については、この表を適用する。

附 則

本学則は、平成 3年 4月 1日から施行する。ただし、第3条の規定にかかわらず、平成3年度から平成11年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員
医 学 部	医 学 科	90名
保 健 学 部	臨床検査技術学科	65名
	保 健 学 科	65名
社 会 学 部	社 会 学 科	330名
外 国 語 学 部	英 米 語 学 科	160名
	中 国 語 学 科	70名
	日 本 語 学 科	70名

附 則

- 1 本学則は、平成 3年10月 1日から施行する。
- 2 学則第24条別表3は、平成 4年 4月 1日在籍の学生から適用する。

附 則

- 1 本学則は、平成 5年 4月 1日から施行する。
- 2 別表1-2は平成5年度入学生から適用する。
- 3 平成4年度以前の入学生は別表1-1を適用する。ただし、平成5年度以降の入学生の学年進行に組み入れる平成4年度以前の入学生は別表1-2を適用する。

第3類（杏林大学学則）

附 則

- 1 本学則は、平成 6年 4月 1日から施行する。
- 2 別表1－2は平成6年度入学生から適用する。
- 3 平成5年度の別表1－2の適用者は、平成6年度の別表1－2に読みかえる。
- 4 別表1－1の時間数は、別表1－2の同名科目単位数を時間数に換算して読みかえる。
- 5 別表1－1を適用する学生に別表1－2で開講する科目を受講させることができるものとする。ただし、その履修により修得した単位は、卒業の単位に算入しない。
- 6 保健学部臨床検査技術学科及び保健学科において、平成6年度以降の入学生の学年進行に組み入れる平成5年度以前の入学生は、保健学部履修規程に定める授業科目対応表により、別表2－2の授業科目を受講するものとする。ただし、単位認定については、別表2－1 A及び2－1 Bの授業科目で行う。
- 7 この学則を改正しようとするときは、杏林学園運営審議会の議を経たうえ、改正事項が単一の学部に係る場合は当該学部の教授会に、2つ以上の学部に関連する場合は、関連する学部の教授会に諮り、教授会構成員の3分の2以上が出席し出席者の3分の2以上の賛成を得たうえ、評議会の承認を得なければならない。

附 則

- 1 本学則は、平成 8年 4月 1日から施行する。
- 2 別表2－3及び別表6－2は平成8年度入学生から適用する。
- 3 保健学部臨床検査技術学科、保健学科及び看護学科において、平成8年度以降の入学生の学年進行に組み入れる平成6年度及び平成7年度の入学生は保健学部履修規程に定める授業科目対応表により、別表2－3の授業科目を受講するものとする。ただし、単位認定については、別表2－2の授業科目で行う。

附 則

本学則は、平成 9年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成10年 4月 1日から施行する。ただし、第3条の規定にかかわらず、平成10年度から平成11年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員
医 学 部	医 学 科	90名
保 健 学 部	臨床検査技術学科	65名
	保 健 学 科	65名
	看 護 学 科	80名
社会科学部	社 会 学 科	330名
外国語学部	英 米 語 学 科	160名
	中 国 語 学 科	70名
	日 本 語 学 科	100名

第3類（杏林大学学則）

附 則

- 1 本学則は、平成11年 4月 1日から施行する。
- 2 別表2-3は平成11年度入学生から適用する。
- 3 保健学部臨床検査技術学科、保健学科及び看護学科において、平成11年度以降の入学生の学年進行に組み入れる平成6年度から平成10年度までの入学生は保健学部履修規程に定める授業科目対応表により別表2-3の授業科目を受講するものとする。ただし、単位認定については、平成6年度及び平成7年度入学生は、別表2-1の授業科目で行い、平成8年度から平成10年度までの入学生は別表2-2の授業科目で行う。

附 則

- 1 本学則は、平成11年 7月 1日から施行する。
- 2 第48条第1項は、平成12年度入学志願者から適用する。

附 則

- 1 本学則は、平成12年 4月 1日から施行する。
- 2 第3条の規定にかかわらず、平成12年度から平成16年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員				
		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
医 学 部	医 学 科	90名	90名	90名	90名	90名
保 健 学 部	臨床検査技術学科	55名	55名	55名	55名	55名
	保 健 学 科	55名	55名	55名	55名	55名
	看 護 学 科	80名	80名	80名	80名	80名
社会科学部	社 会 学 科	330名	330名	330名	310名	290名
外国語学部	英 米 語 学 科	160名	160名	160名	160名	160名
	中 国 語 学 科	70名	50名	50名	50名	50名
	日 本 語 学 科	100名	100名	80名	80名	80名

- 3 別表1-1は、削除する。
- 4 別表1-4は、平成12年度入学生から適用する。
- 5 平成8年度以前の入学生は、別表1-2、及び平成11年度以前の入学生は、別表1-3を適用する。ただし平成12年度以降の学年進行に組み入れる平成11年度以前の入学生は、別表1-4を適用する。

附 則

- 1 本学則は、平成13年 4月 1日から施行する。ただし、第6条の規定は、平成12年 7月 1日から施行する。
- 2 第2条の規定にかかわらず、平成13年 3月31日までに外国語学部英米語学科、中国語学科及び日本語学科に在籍する学生は、改正前の学則を適用するものと

第3類（杏林大学学則）

する。

- 3 第3条の規定にかかわらず、平成13年度から平成16年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員			
		平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
医 学 部	医 学 科	90名	90名	90名	90名
保 健 学 部	臨 床 検 査 技 術 学 科	55名	55名	55名	55名
	保 健 学 科	55名	55名	55名	55名
	看 護 学 科	80名	80名	80名	80名
社 会 学 部	社 会 学 科	330名	330名	310名	290名
外 国 語 学 部	外 国 語 学 科	310名	290名	290名	290名

附 則

本学則は、平成13年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成14年 4月 1日から施行する。
- 2 第2条の規定にかかわらず、平成14年 3月31日までに社会科学部社会科学科に在籍する学生は、平成14年 4月 1日以降、社会科学部社会科学科に在籍する学生の当該学年に、編入若しくは転学部等によって入学する学生についても、改正前の学則を適用するものとする。
- 3 第3条の規定にかかわらず、平成14年度から平成16年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員		
		平成14年度	平成15年度	平成16年度
医 学 部	医 学 科	90名	90名	90名
保 健 学 部	臨 床 検 査 技 術 学 科	55名	55名	55名
	保 健 学 科	55名	55名	55名
	看 護 学 科	80名	80名	80名
総 合 政 策 学 部	総 合 政 策 学 科	330名	310名	290名
外 国 語 学 部	外 国 語 学 科	290名	290名	290名

附 則

本学則は、平成14年 4月 1日から施行する。

附 則

第3類（杏林大学学則）

本学則は、平成15年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成14年10月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成16年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成15年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成16年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成16年 4月 1日から施行する。
- 2 第19条第1項第7号の規定は、平成16年度入学生から適用する。
- 3 別表1-3は、平成16年度入学生から適用する。

附 則

本学則は、平成17年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成18年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第2条、第3条、第41条、第41条の3及び第41条の4は、平成18年4月1日以降の入学生に適用し、平成17年10月1日以前の入学生及び平成19年10月1日以前の編入学生については、改正前の学則を適用する。なお、第3条に定める総合政策学部企業経営学科及び外国語学部の編入学定員は、平成20年4月1日以降の編入学生から適用する。また、学校図書館司書教諭講習修了証書の取得に関する専門科目の種類及び単位数は、別表5-2のとおりとする。ただし、別表5-2は、平成17年10月1日以前の入学生に適用する。
- 3 この学則による別表2-1保健学科の項中「社会福祉援助技術論Ⅰ」「社会福祉援助技術論Ⅱ」「社会福祉援助技術演習Ⅰ」「社会福祉援助技術演習Ⅱ」「社会福祉援助技術演習Ⅲ」「社会福祉援助技術演習Ⅳ」「社会福祉援助技術演習Ⅴ」「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術現場実習指導」については、平成18年4月1日以降の履修者に適用し、平成17年4月1日以前の「社会福祉援助技術Ⅰ」「社会福祉援助技術Ⅱ」「社会福祉援助技術演習」「社会福祉援助技術実習Ⅰ」「社会福祉援助技術実習Ⅱ」の履修者については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成17年 8月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成18年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成18年 4月 1日から施行する。

第3類（杏林大学学則）

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成19年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第2条、第3条、第39条第2項、第41条、第41条の4及び別表2-2の規定は、平成19年4月1日以降の入学生に適用し、平成18年10月1日以前の入学生並びに平成19年10月1日以前の2年次編入学生及び平成20年10月1日以前の3年次編入学生については、改正前の学則を適用する。なお、第3条に定める編入学定員は、平成20年4月1日以降の2年次編入学生並びに平成21年4月1日以降の3年次編入学生から適用する。
- 3 前項の規定にかかわらず、保健学部臨床工学科については、別表2-1を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成19年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の別表4-2の規定は、平成18年4月1日以降の入学生に適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成20年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第2条、第3条及び第41条の規定は、平成20年4月1日以降の入学生に適用し、平成19年10月1日以前の入学生並びに平成21年10月1日以前の編入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成20年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 別表3-2、別表3-3の改正は当該別表に定める入学生より適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成21年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第39条、第41条の4及び別表2-3の規定は、平成21年4月1日以降の入学生に適用し、平成20年10月1日以前の入学生及び平成21年10月1日以前の2年次編入学生並びに平成22年10月1日以前の3年次編入学生については、改正前の学則を適用する。
- 3 前項の規定にかかわらず、保健学部臨床工学科については別表2-1を、救急救

第3類（杏林大学学則）

命学科については別表2-2を適用する。

- 別表3-1、別表5-1-1及び別表6-1は、適用学生が平成20年3月31日付けで卒業したことに伴い、それぞれ削除することとし、以降順次繰り上げ、改正後の別表3-1、別表3-2、別表5-1-1、別表5-1-2、別表5-1-3、別表6-1、別表6-2、別表6-3及び別表6-4は、平成20年4月1日から適用する。

附 則

本学則は、平成21年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成21年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 本学則は、平成22年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- この学則による改正後の第2条、第2条の2、第3条及び第41条の規定は、平成22年4月1日以降の入学生に適用し、平成21年10月1日以前の入学生並びに平成23年10月1日以前の編入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

- 本学則は、平成22年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- この学則による改正後の別表3-3及び別表5-1-4は、平成22年4月1日以降の入学生に適用し、平成21年10月1日以前の入学生及び平成22年10月1日以前の2年次編入学生並びに平成23年10月1日以前の3年次編入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成22年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 本学則は、平成22年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- この学則改正による改正後の別表2-4は、平成22年4月1日以降の入学生から適用し、平成21年4月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

- 本学則は、平成23年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- この学則による改正後の第2条、第2条の2、第3条、第41条、別表2-5及び別表4-5の規定は、平成23年4月1日以降の入学生に適用し、平成22年1

第3類（杏林大学学則）

0月1日以前の入学生並びに平成24年10月1日以前の編入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成23年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

1 本学則は、平成23年 4月 1日から施行する。

（経過措置）

2 この学則による改正後の第2条、第2条の2、第3条、第39条、第41条、別表2-5及び別表4-5の規定は、平成23年4月1日以降の入学生に適用し、平成22年10月1日以前の入学生並びに平成24年10月1日以前の編入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

1 本学則は、平成24年 4月 1日から施行する。

（経過措置）

2 この学則による改正後の第39条及び別表2-6、別表5-1-5は、平成24年4月1日以降の入学生に適用し、平成23年10月1日以前の入学生及び平成24年10月1日以前の2年次編入学生並びに平成25年10月1日以前の3年次編入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成23年10月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

1 本学則は、平成24年 4月 1日から施行する。

（経過措置）

2 この学則による改正後の別表1-5は、平成24年4月1日以降の入学生から適用し、平成23年4月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成24年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成25年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

1 本学則は、平成25年 4月 1日から施行する。

（経過措置）

2 この学則による改正後の別表1-6は、平成25年4月1日以降の入学生から適用し、平成24年4月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

第3類（杏林大学学則）

本学則は、平成26年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成26年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の別表1－7は、平成26年4月1日以降の入学生から適用し、平成25年4月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。
- 3 この学則による改正後の別表3－3は、平成26年4月1日以降の入学生に適用し、別表3－2は、平成22年4月1日より平成25年9月15日までの入学生並びに平成24年4月1日より平成27年9月15日以前の編入学生に適用し、別表3－1は、平成18年4月1日より平成21年10月1日以前の入学生並びに平成20年4月1日より平成23年10月1日以前の編入学生に適用する。
- 4 この学則による改正後の別表4－4は、平成26年4月1日以降の入学生に適用し、平成25年9月15日以前の入学生並びに平成27年9月15日以前の編入学生については、改正前の学則（改正前の別表4－3、4－4、4－5）を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成27年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第48条、第49条、別表2－8及び別表6－5は、平成27年4月1日以降の入学生に適用し、平成26年4月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成26年11月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成27年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成28年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第39条及び別表2－8は、平成28年4月1日以降の入学生に適用し、平成27年4月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成28年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の別表1－8及び別表2－9は、平成28年4月1日以降の入学生に適用し、平成27年4月1日以前の入学生については、改正前の学則を

第3類（杏林大学学則）

適用する。別表3-4及び別表4-5は、平成28年4月1日以降の入学生に適用し、平成27年9月15日以前の入学生並びに平成29年9月15日以前の編入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成28年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

1 本学則は、平成29年 4月 1日から施行する。

（経過措置）

2 この学則による改正後の第2条の2及び別表2-10は、平成29年4月1日以降の入学生から適用し、平成28年4月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

1 本学則は、平成29年 4月 1日から施行する。

2 第3条の規定にかかわらず、平成30年 4月 1日からの入学者は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
医 学 部	医 学 科	117名	—	702名
保 健 学 部	臨 床 検 査 技 術 学 科	120名	—	480名
	健 康 福 祉 学 科	50名	—	200名
	看 護 学 科	150名	—	600名
	（看護学専攻）	（100名）	（—）	（400名）
	（看護養護教育学専攻）	（50名）	（—）	（200名）
	臨 床 工 学 科	60名	—	240名
	救 急 救 命 学 科	50名	—	200名
	理 学 療 法 学 科	56名	—	224名
	作 業 療 法 学 科	54名	—	216名
診 療 放 射 線 技 術 学 科	66名	—	264名	
総 合 政 策 学 部	総 合 政 策 学 科	150名	3名	606名
	企 業 経 営 学 科	80名	3名	326名
外 国 語 学 部	英 語 学 科	130名	4名	528名
	中 国 語 学 科	30名	5名	130名
	観 光 交 流 文 化 学 科	90名	3名	366名

附 則

（施行期日）

1 第2条の規定にかかわらず、平成30年 4月 1日から学部、学科は、次のとおりとする。

（学部、学科）

第2条 本学に次の学部及び学科を置く。

医 学 部 医 学 科

第3類（杏林大学学則）

保健学部	臨床検査技術学科、健康福祉学科、看護学科（看護学専攻、看護養護教育学専攻）、臨床工学科、救急救命学科、理学療法学科、作業療法学科、診療放射線技術学科及び臨床心理学科
総合政策学部	総合政策学科及び企業経営学科
外国語学部	英語学科、中国語学科及び観光交流文化学科

2 第2条の2の規定にかかわらず、平成30年 4月 1日から学部又は学科の目的は、次のとおりとする。

（学部又は学科の目的）

第2条の2 学部又は学科ごとの人材の養成その他の教育研究上の目的については、次のとおりとする。

2 医学部は、豊かな人間性の涵養と、医学の発展に対応しうる基礎的及び専門的知識の修得と臨床的技能の修練を通じて、良き医師を養成することを目的とする。

3 保健学部

（1）臨床検査技術学科は、保健及び医療に携わる者として高い倫理観と、強い使命感を持ち、臨床検査に対する卓越した専門知識と技術、総合的な判断力を持つ人材を養成することを目的とする。

（2）健康福祉学科は、保健、医療、福祉、養護及び保育の専門知識と技術をもち、高い倫理観と情熱をもって人の健康と生活の支援を実践する人材を養成することを目的とする。

（3）看護学科看護学専攻は、看護を必要とする様々な人々に対して対処できるよう、的確な問題解決能力と技術をもち、人への思いやりを有し、高い倫理観を持ち、かつリーダーシップを発揮できる人材を養成することを目的とし、看護養護教育学専攻は、健康増進の実現に寄与しうる創造力と実践力を有し、特に国の将来を担う子どもたちの成長過程において、指導力を発揮できる人材を養成することを目的とする。

（4）臨床工学科は、生命維持管理装置の操作運用に関する医用生体工学の分野で、その専門的知識と技術を活かし、高い倫理観と使命感を持った実践的な臨床工学技士を養成することを目的とする。

（5）救急救命学科は、高い倫理観を持ち、救急救命の最前線で求められる迅速かつ的確な状況判断能力と傷病者の状況観察に基づく適切な処置技術を有する人材を養成することを目的とする。

（6）理学療法学科は、医療人としての倫理観に裏付けされた豊かな人間性と理学療法に関する高度な知識、技術を備え、障害の機能回復だけでなく、地域医療や福祉の場における健康の維持増進など幅広い領域において貢献できる人材を養成することを目的とする。

（7）作業療法学科は、豊かな人間性と倫理観を備え、心身に障害をもつ人々のQOL（生活の質）の維持・向上を支援するために必要な、科学的根拠に基づいた作業療法に関する幅広い専門知識と技術を身につけた人材を育成すること

第3類（杏林大学学則）

を目的とする。

(8) 診療放射線技術学科では、診療放射線技術分野における高い専門性と確かな技術力を身につけ、豊かな人間性と高い倫理観を併せ持つ、将来にわたって医療に貢献できる人材を養成することを目的とする。

(9) 臨床心理学科は、豊かな人間性と倫理観を備え、質の高いコミュニケーションを通じて心理的な援助を必要とする人々のQOL(生活の質)の維持・向上を支援するために必要な、科学的根拠に基づいた臨床心理学を基軸とする幅広い心理学の専門知識と技術を身につけた人材を養成することを目的とする。

4 総合政策学部

(1) 総合政策学科は、社会をマクロの視点から捉え、政治、経済、法律、国際関係、福祉の各専門分野を総合的かつ学際的に学ぶことにより、グローバル社会における様々な問題を多面的に把握分析し、実践的に解決するための知識と能力を備えた人材を養成することを目的とする。

(2) 企業経営学科は、企業活動というミクロの視点に立ち、経営及び会計の各専門分野における知識の修得はもとより他の関連分野にも通暁し、グローバル社会において企業が求める幅広い知識と実務遂行のための能力、技能を備えた人材を養成することを目的とする。

5 外国語学部

(1) 英語学科は、異文化の垣根を越えて相互に理解し共存できる人間性そのものを陶冶し、実践的な英語運用能力の開発を通じて、実社会の中で必要な専門的知識を備えた国際的な職業人を養成することを目的とする。

(2) 中国語学科は、社会のニーズに対応できる実践的な中国語運用能力を開発し、高度な知見と技能の修得により、日中間の交流を担う、中国語の高度なコミュニケーション能力を具備した人材を養成することを目的とする。

(3) 観光交流文化学科は、観光産業の現場における有益な人材を輩出するため、十分な外国語運用能力に基づいたコミュニケーション力を修得した上で、正しい異文化理解、さらには産業の現状把握を通じて「ホスピタリティ」を学習し、実践的に応用できる人材を養成することを目的とする。

3 第3条の規定及び上記附則2の入学定員にかかわらず、平成30年 4月 1日からの入学定員は、下記のとおりとする。

(学生定員)

第3条 学生定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員
医 学 部	医 学 科	117名	—	702名
保 健 学 部	臨 床 検 査 技 術 学 科	120名	—	480名
	健 康 福 祉 学 科	50名	—	200名
	看 護 学 科	150名	—	600名
	(看護学専攻)	(100名)	(—)	(400名)
	(看護養護教育学専攻)	(50名)	(—)	(200名)

第3類（杏林大学学則）

	臨床工学科	60名	—	240名
	救急救命学科	50名	—	200名
	理学療法学科	56名	—	224名
	作業療法学科	54名	—	216名
	診療放射線技術学科	66名	—	264名
	臨床心理学科	80名	—	320名
総合政策学部	総合政策学科	150名	3名	606名
	企業経営学科	80名	3名	326名
外国語学部	英語学科	130名	4名	528名
	中国語学科	30名	5名	130名
	観光交流文化学科	90名	3名	366名

4 第39条の規定にかかわらず、平成30年 4月 1日から卒業の要件は、次のとおりとする。

（卒業の要件）

第39条 医学部においては、別表1-1の適用を受ける者は、6年以上在学し255単位を修得しなければならない。別表1-2の適用を受ける者は、6年以上在学し252単位を修得しなければならない。別表1-3の適用を受ける者は、6年以上在学し252単位を修得しなければならない。別表1-4の適用を受ける者は、6年以上在学し249単位を修得しなければならない。別表1-5の適用を受ける者は、6年以上在学し205単位を修得しなければならない。

2 保健学部臨床検査技術学科、健康福祉学科、臨床工学科、救急救命学科及び臨床心理学科においては4年以上在学し124単位以上を、看護学科及び診療放射線技術学科においては4年以上在学し133単位以上を、理学療法学科及び作業療法学科においては4年以上在学し125単位以上を修得しなければならない。

3 総合政策学部においては、4年以上在学し124単位以上を修得しなければならない。

4 外国語学部においては、4年以上在学し124単位以上を修得しなければならない。

5 各学部とも自由科目については、その履修により修得した単位は卒業の単位に算入しない。

6 本学の学生が、その所属する学科以外の学科（一学部に二学科以上の場合）、又は本学他学部の設置する授業科目のうち、在学する学部・学科に設置されていない授業科目については、関係学部長の許可を受けて履修することができる。

7 前項により修得した単位は、卒業に必要な単位として認定することができる。

5 第41条の規定にかかわらず、平成30年 4月 1日から学位は、次のとおりとする。

第3類（杏林大学学則）

（学位）

第41条 卒業の認定をうけた者に次に定める学士の学位を授与する。

医学部	学士（医学）
保健学部	
臨床検査技術学科	学士（保健衛生学）
健康福祉学科	学士（保健衛生学）
看護学科	学士（看護学）
臨床工学科	学士（臨床工学）
救急救命学科	学士（救急救命学）
理学療法学科	学士（理学療法学）
作業療法学科	学士（作業療法学）
診療放射線技術学科	学士（診療放射線学）
臨床心理学科	学士（臨床心理学）
総合政策学部	
総合政策学科	学士（総合政策学）
企業経営学科	学士（企業経営学）
外国語学部	
英語学科	学士（文学）
中国語学科	学士（中国語コミュニケーション学）
観光交流文化学科	学士（観光交流文化学）

6 平成30年 4月 1日から別表2-11を追加する。

附 則

- 1 本学則は、平成30年 4月 1日から施行する。
- 2 この学則による改正後の別表5-1-3は、平成28年4月1日以降の入学生に適用する。
- 3 この学則による改正後の別表2-11は、平成30年4月1日以降の入学生に適用する。
- 4 この学則による改正後の第41条の4、別表3-5、別表4-4及び別表5-1-4は、平成31年4月1日以降の入学生及び平成33年4月1日以降の編入学生から適用する。

附 則

本学則は、平成31年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、令和 2年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、令和 2年 4月 1日から施行する。
- 2 第3条の規定にかかわらず、令和2年度から令和8年度までの間の医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

第3類（杏林大学学則）

年度	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員
令和2年度	115名	—	700名
令和3年度	115名	—	698名
令和4年度	105名	—	686名
令和5年度	105名	—	674名
令和6年度	105名	—	662名
令和7年度	105名	—	650名
令和8年度	105名	—	640名

附 則

本学則は、令和 2年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、令和 3年 4月 1日から施行する。ただし、第5条及び第6条の規定は、令和 2年 6月 1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この学則による改正後の別表2-14は、令和 3年 4月 1日以降の入学生から適用し、令和 2年 4月 1日以前の学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、令和 3年 4月 1日から施行する。

（経過措置）

- 2 第3条の規定にかかわらず、令和 4年 4月 1日からの入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員
医 学 部	医 学 科	105名	—	630名
保 健 学 部	臨床検査技術学科	120名	—	480名
	健康福祉学科	120名	—	480名
	看護学科	150名	—	600名
	（看護学専攻）	（100名）	（—）	（400名）
	（看護養護教育学専攻）	（50名）	（—）	（200名）
	臨床工学科	60名	—	240名
	救急救命学科	50名	—	200名

第3類（杏林大学学則）

	理学療法学科	56名	—	224名
	作業療法学科	54名	—	216名
	診療放射線技術学科	66名	—	264名
	臨床心理学科	80名	—	320名
総合政策学部	総合政策学科	150名	4名	608名
	企業経営学科	80名	2名	324名
外国語学部	英語学科	130名	4名	528名
	中国語学科	32名	2名	132名
	観光交流文化学科	90名	2名	364名

- 3 第3条の規定及び上記附則2にかかわらず、令和2年度から令和8年度までの間の医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
令和2年度	115名	—	700名
令和3年度	115名	—	698名
令和4年度	105名	—	686名
令和5年度	105名	—	674名
令和6年度	105名	—	662名
令和7年度	105名	—	650名
令和8年度	105名	—	640名

- 4 この学則による改正後の別表4-5及び5-1-5は、令和3年4月1日以降の入学生から適用し、令和2年9月15日以前の学生については、改正前の学則を適用する。
- 5 この学則による改正後の別表2-15は、令和4年4月1日以降の入学生から適用する。

附 則

本学則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 第3条の規定にかかわらず、令和4年度から令和9年度までの間の医学部医学科

第3類（杏林大学学則）

の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員
令和4年度	117名	—	698名
令和5年度	105名	—	686名
令和6年度	105名	—	674名
令和7年度	105名	—	662名
令和8年度	105名	—	652名
令和9年度	105名	—	642名

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、令和 4年 4月 1日より施行する。
- 2 第2条の規定にかかわらず、令和 5年 4月 1日から学部、学科は、次のとおりとする。

（学部、学科）

第2条 本学に次の学部及び学科を置く。

医 学 部	医学科
保健学部	臨床検査技術学科、健康福祉学科、看護学科（看護学専攻、看護養護教育学専攻）、臨床工学科、救急救命学科、診療放射線技術学科、臨床心理学科及びリハビリテーション学科（理学療法学専攻、作業療法学専攻、言語聴覚療法学専攻）
総合政策学部	総合政策学科及び企業経営学科
外国語学部	英語学科、中国語学科及び観光交流文化学科

- 3 第2条の2の規定にかかわらず、令和 5年 4月 1日から学部又は学科の目的は、次のとおりとする。

（学部又は学科の目的）

第2条の2 学部又は学科ごとの人材の養成その他の教育研究上の目的については、次のとおりとする。

- 2 医学部は、豊かな人間性の涵養と、医学の発展に対応しうる基礎的及び専門的知識の修得と臨床的技能の修練を通じて、良き医師を養成することを目的とする。
- 3 保健学部
 - （1）臨床検査技術学科は、保健及び医療に携わる者として高い倫理観と、強い使命感を持ち、臨床検査に対する卓越した専門知識と技術、総合的な判断力を持つ人材を養成することを目的とする。
 - （2）健康福祉学科は、保健、医療、福祉、養護及び保育の専門知識と技術を持ち、高い倫理観と情熱をもって人の健康と生活の支援を実践する人材を養成

第3類（杏林大学学則）

することを目的とする。

- (3) 看護学科看護学専攻は、看護を必要とする様々な人々に対して対処できるよう、的確な問題解決能力と技術をもち、人への思いやりを有し、高い倫理観を持ち、かつリーダーシップを発揮できる人材を養成することを目的とし、看護養護教育学専攻は、健康増進の実現に寄与しうる創造力と実践力を有し、特に国の将来を担う子どもたちの成長過程において、指導力を発揮できる人材を養成することを目的とする。
- (4) 臨床工学科は、生命維持管理装置の操作運用に関する医用生体工学の分野で、その専門的知識と技術を活かし、高い倫理観と使命感を持った実践的な臨床工学技士を養成することを目的とする。
- (5) 救急救命学科は、高い倫理観を持ち、救急救命の最前線で求められる迅速かつ的確な状況判断能力と傷病者の状況観察に基づく適切な処置技術を有する人材を養成することを目的とする。
- (6) 診療放射線技術学科では、診療放射線技術分野における高い専門性と確かな技術力を身につけ、豊かな人間性と高い倫理観を併せ持つ、将来にわたって医療に貢献できる人材を養成することを目的とする。
- (7) 臨床心理学科は、豊かな人間性と倫理観を備え、質の高いコミュニケーションを通じて心理的な援助を必要とする人々のQOL(生活の質)の維持・向上を支援するために必要な、科学的根拠に基づいた臨床心理学を基軸とする幅広い心理学の専門知識と技術を身につけた人材を養成することを目的とする。
- (8) リハビリテーション学科理学療法学専攻は、医療人としての倫理観に裏付けされた豊かな人間性と理学療法に関する高度な知識、技術を備え、障害の機能回復だけでなく、地域医療や福祉の場における健康の維持増進など幅広い領域において貢献できる人材を養成することを目的とする。
- (9) リハビリテーション学科作業療法学専攻は、豊かな人間性と倫理観を備え、心身に障害をもつ人々のQOL(生活の質)の維持・向上を支援するために必要な、科学的根拠に基づいた作業療法に関する幅広い専門知識と技術を身につけた人材を育成することを目的とする。
- (10) リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻は、他者を思いやれる豊かな人間性と高い倫理観を備え、科学的視点から多角的に分析を行い、医療・保健・福祉の領域において貢献できる人材を養成することを目的とする。

4 総合政策学部

- (1) 総合政策学科は、社会をマクロの視点から捉え、政治、経済、法律、国際関係、福祉の各専門分野を総合的かつ学際的に学ぶことにより、グローバル社会における様々な問題を多面的に把握分析し、実践的に解決するための知識と能力を備えた人材を養成することを目的とする。
- (2) 企業経営学科は、企業活動というミクロの視点に立ち、経営及び会計の各専門分野における知識の修得はもとより他の関連分野にも通曉し、グローバル社会において企業が求める幅広い知識と実務遂行のための能力、技能を備

第3類（杏林大学学則）

えた人材を養成することを目的とする。

5 外国語学部

(1) 英語学科は、英語の高度な運用能力と広範な背景的知識の獲得、ならびに非言語的表現も含めたコミュニケーション能力の開発に取り組み、これらを通じて、将来の予測が難しい時代を生き抜く力と専門的知識を備えた国際的な職業人を養成することを目的とする。

(2) 中国語学科は、グローバル化の進展と中国語圏を中心とするアジア地域の発展に伴い、求められる実践的な中国語運用能力の開発と地域の社会・文化に関する知識の修得により、高度な中国語コミュニケーション能力を有するとともに、国際社会における相互理解を促進し、新たな協力の創造に寄与できる人材を養成することを目的とする。

(3) 観光交流文化学科は、豊かで健全な社会生活に欠かすことのできない楽しみのための移動と滞在、それにとまなうホスピタリティと人びとの交流について、観光学の学びを通じて多様な視点からその価値を捉え、持続的な観光の発展と交流文化の創造を先導する人材を養成することを目的とする。

4 第3条の規定にかかわらず、令和 5年 4月 1日からの入学者は、次のとおりとする。

(学生定員)

第3条 学生定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
医 学 部	医 学 科	105名	—	630名
保 健 学 部	臨 床 検 査 技 術 学 科	120名	—	480名
	健 康 福 祉 学 科	120名	—	480名
	看 護 学 科	150名	—	600名
	(看護学専攻)	(100名)	(—)	(400名)
	(看護養護教育学専攻)	(50名)	(—)	(200名)
	臨 床 工 学 科	60名	—	240名
	救 急 救 命 学 科	50名	—	200名
	診 療 放 射 線 技 術 学 科	66名	—	264名
	臨 床 心 理 学 科	80名	—	320名
	リハビリテーション学科	140名	—	560名
	(理学療法学専攻)	(65名)	—	(260名)
	(作業療法学専攻)	(50名)	—	(200名)
(言語聴覚療法学専攻)	(25名)	—	(100名)	
総 合 政 策 学 部	総 合 政 策 学 科	150名	4名	608名
	企 業 経 営 学 科	80名	2名	324名
外 国 語 学 部	英 語 学 科	130名	4名	528名
	中 国 語 学 科	32名	2名	132名
	観 光 交 流 文 化 学 科	90名	2名	364名

5 第39条の規定にかかわらず、令和 5年 4月 1日からの入学者は、次のと

第3類（杏林大学学則）

おりとする。

（卒業の要件）

- 第39条** 医学部においては、別表1-1の適用を受ける者は、6年以上在学し255単位を修得しなければならない。別表1-2の適用を受ける者は、6年以上在学し252単位を修得しなければならない。別表1-3の適用を受ける者は、6年以上在学し252単位を修得しなければならない。別表1-4の適用を受ける者は、6年以上在学し249単位を修得しなければならない。別表1-5の適用を受ける者は、6年以上在学し205単位を修得しなければならない。別表1-6の適用を受ける者は、6年以上在学し210単位を修得しなければならない。
- 2 保健学部臨床検査技術学科、健康福祉学科、臨床工学科、救急救命学科及び臨床心理学科においては4年以上在学し124単位以上を、看護学科看護学専攻においては、4年以上在学し137単位以上を、看護学科看護養護教育学専攻においては4年以上在学し133単位以上を、診療放射線技術学科においては4年以上在学し132単位以上を、リハビリテーション学科理学療法学専攻、リハビリテーション学科作業療法学専攻及びリハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻においては4年以上在学し125単位以上を修得しなければならない。
 - 3 総合政策学部においては、4年以上在学し124単位以上を修得しなければならない。
 - 4 外国語学部においては、4年以上在学し124単位以上を修得しなければならない。
 - 5 各学部とも自由科目については、その履修により修得した単位は卒業の単位に算入しない。
 - 6 本学の学生が、その所属する学科以外の学科（一学部に二学科以上の場合）、又は本学他学部の設置する授業科目のうち、在学する学部・学科に設置されていない授業科目については、関係学部長の許可を受けて履修することができる。
 - 7 前項により修得した単位は、卒業に必要な単位として認定することができる。
- 6 第41条の規定にかかわらず、令和5年4月1日からの入学者は、次のとおりとする。

（学位）

第41条 卒業の認定をうけた者に次に定める学士の学位を授与する。

医学部	学士（医学）
保健学部	
臨床検査技術学科	学士（保健衛生学）
健康福祉学科	学士（保健衛生学）
看護学科	学士（看護学）

第3類（杏林大学学則）

臨床工学科	学士（臨床工学）
救急救命学科	学士（救急救命学）
診療放射線技術学科	学士（診療放射線学）
臨床心理学科	学士（臨床心理学）
リハビリテーション学科	
理学療法学専攻	学士（理学療法学）
作業療法学専攻	学士（作業療法学）
言語聴覚療法学専攻	学士（言語聴覚療法学）
総合政策学部	
総合政策学科	学士（総合政策学）
企業経営学科	学士（企業経営学）
外国語学部	
英語学科	学士（文学）
中国語学科	学士（中国語コミュニケーション学）
観光交流文化学科	学士（観光交流文化学）

7 令和 5年 4月 1日から別表2-12を追加する。

第3類（杏林大学学則）

別表1-1

医学部授業科目及び単位数

〈平成20年度入学生から適用〉

分野	分科	授 業 科 目	単 位 数			備 考
			必修	選択 必修	自由 選択	
医療と教養	科学と医療	医療科学A	8			
		医療科学B	4			
		医療科学C	3			
		生物学	6			
		生体化学	8			
		医学物理学	8			
		医学統計学	2			
		プレチュートリアル	2			
	外国語	英語A	5			
		英語B	5			
		医学英語A	2			
		医学英語B	1			
		ドイツ語A			5	
		ドイツ語B			5	
		フランス語A			5	
		フランス語B			5	
	中国語A			5		
	中国語B			5		
医学の基礎	人体の構造	肉眼解剖学	8			
		組織解剖学	5			
	人体の機能	分子生物学	6			
		細胞生物学	3			
		代謝生化学A	6			
		代謝生化学B	2			
		生体統御生理学	4			
		細胞生理学	4			
	生との発	薬理学総論	4			
		病理学総論	3			

第3類（杏林大学学則）

		感染と防御	6			
		熱帯病・寄生虫学	2			
		法医学	2			
		衛生学	4			
		公衆衛生学	5			
臨床統合講義	器官の構造・機能とその異常	臨床医学総論	3			
		神経	5			
		呼吸器	4			
		循環器	4			
		消化器	6			
		腎・尿路	4			
		内分泌・代謝	3			
		血液	3			
		精神	2			
		感覚器	3			
		運動器	2			
		皮膚・形成	2			
		女性医学	2			
老化	誕生・成長・	妊娠・分娩	2			
		発育・小児	2			
		老化と老年病	1			
		生活習慣病	1			
系統的異常		感染症	2			
		免疫・アレルギー	2			
		腫瘍	1			
		救命と救急医療	2			
		麻酔・全身管理	1			
臨床実習	グループ実習	臨床診断総論	8			
		内科学Ⅰ実習	6			
		内科学Ⅱ実習	4			
		内科学Ⅲ実習	4			
		高齢医学実習	2			
		精神神経科学実習	2			
		小児科学実習	4			
		外科学実習	4			

第3類（杏林大学学則）

	小児外科学実習	1			
	救急医学実習	2			
	脳神経外科学実習	2			
	心臓血管外科学実習	2			
	整形外科実習	2			
	皮膚科学実習	2			
	形成外科学実習	1			
	泌尿器科学実習	2			
	眼科学実習	1			
	耳鼻咽喉科学実習	1			
	産科婦人科学実習	2			
	放射線医学実習	1			
	麻酔科学実習	1			
	臨床検査医学実習	1			
	病理学実習	1			
応用 実習	チュートリアル	2			
	臨床応用実習	6			
	臨床総合演習	16			
計					255単位

第3類（杏林大学学則）

別表1-2

医学部授業科目及び単位数

〈平成24年度入学生から適用〉

分野	分科	授 業 科 目	単 位 数			備 考
			必修	選択必修	自由選択	
医療と教養	科学と医療	医療科学A	8			
		医療科学B	3			
		総合医療・地域医療学	1			
		和漢医学概論	1			
		生物学	6			
		生体化学	8			
		医学物理学	8			
		医学統計学	2			
		プレチュートリアル	2			
	外国語	英語A	5			
		英語B	5			
		医学英語A	2			
		医学英語B	1			
		ドイツ語A			5	
		ドイツ語B			5	
		フランス語A			5	
		フランス語B			5	
		中国語A			5	
		中国語B			5	
医学の基礎	人体の構造	肉眼解剖学	8			
		組織解剖学	5			
	人体の機能	分子生物学	6			
		細胞生物学	3			
		代謝生化学A	6			
		代謝生化学B	2			
		生体統御生理学	4			
細胞生理学	4					

第3類（杏林大学学則）

	異常の発生と制御	薬理学	4			
		病理学総論	3			
		感染と防御	6			
		熱帯病・寄生虫学	2			
		法医学	2			
		衛生学	4			
		公衆衛生学	4			
臨床医学講義	臨床医学	臨床医学総論	1			
		呼吸器内科学	2			
		腎臓内科学	2			
		リウマチ膠原病学	1			
		神経内科学	2			
		循環器病学A	3			
		循環器病学B	4			
		血液内科学	2			
		内分泌・代謝内科学	2			
		消化器内科学	3			
		高齢医学	1			
		精神神経科学	2			
		小児科学A	1			
		小児科学B	2			
		外科学総論	1			
		消化器外科学	1			
		呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	1			
		小児外科学	1			
		救急医学	2			
		脳神経外科学	1			
		整形外科・リハビリテーション医学	2			
		皮膚科・形成外科学	2			
		泌尿器科学	2			
		眼科学	2			
		耳鼻咽喉科学	2			
		産科婦人科学A	1			
産科婦人科学B	1					
放射線医学	2					

第3類（杏林大学学則）

		麻酔科学	1			
		臨床検査医学・輸血学	1			
		病理学各論A	3			
		病理学各論B	2			
		腫瘍学	1			
		感染症学	2			
		生活習慣病学	1			
臨床実習	グループ実習	臨床診断学	6			
		内科学Ⅰ実習	6			
		内科学Ⅱ実習	4			
		内科学Ⅲ実習	4			
		高齢医学実習	2			
		精神神経科学実習	2			
		小児科学実習	4			
		外科学実習	4			
		小児外科学実習	1			
		救急医学実習	2			
		脳神経外科学実習	2			
		心臓血管外科学実習	2			
		整形外科実習	2			
		皮膚科学実習	2			
		形成外科学実習	1			
		泌尿器科学実習	2			
		眼科学実習	1			
		耳鼻咽喉科学実習	1			
		産科婦人科学実習	2			
		放射線医学実習	1			
	麻酔科学実習	1				
	臨床検査医学実習	1				
	病理学実習	1				
応用実習		チュートリアル	1			
		臨床応用実習	6			
		臨床総合演習	16			
計						252単位

第3類（杏林大学学則）

別表1-3

医学部授業科目及び単位数

〈平成25年度入学生から適用〉

分野	分科	授 業 科 目	単 位 数			備 考
			必修	選択 必修	自由 選択	
医療と教養	科学と医療	医療科学A 医療科学B 総合医療・地域医療学 和漢医学概論 生物学 生体化学 医学物理学 医学統計学 プレチュートリアル	8 3 1 1 6 8 8 2 2			
	外国語	英語A 英語B 医学英語A 医学英語B ドイツ語A ドイツ語B フランス語A フランス語B 中国語A 中国語B	5 5 2 1		5 5 5 5 5 5	
医学の基礎	人体の構造	肉眼解剖学 組織解剖学	8 5			
	人体の機能	分子生物学 細胞生物学 代謝生化学A 代謝生化学B 生体統御生理学 細胞生理学	6 3 6 2 4 4			
	異常の発生と制御	薬理学 病理学総論 感染と防御 熱帯病・寄生虫学 法医学 衛生学 公衆衛生学	4 3 6 2 2 4 4			

第3類 (杏林大学学則)

臨床医学講義	臨床医学	臨床医学総論	1		
		呼吸器内科学	2		
		腎臓内科学	2		
		リウマチ膠原病学	1		
		神経内科学	2		
		循環器病学A	3		
		循環器病学B	4		
		血液内科学	2		
		内分泌・代謝内科学	2		
		消化器内科学	3		
		高齢医学	1		
		精神神経科学	2		
		小児科学A	1		
		小児科学B	2		
		外科学総論	1		
		消化器外科学	1		
		呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	1		
		小児外科学	1		
		救急医学	2		
		脳神経外科学	1		
		整形外科・リハビリテーション医学	2		
		皮膚科・形成外科学	2		
		泌尿器科学	2		
		眼科学	2		
		耳鼻咽喉科学	2		
		産科婦人科学A	1		
		産科婦人科学B	1		
		放射線医学	2		
		麻酔科学	1		
		臨床検査医学・輸血学	1		
		病理学各論A	3		
		病理学各論B	2		
腫瘍学	1				
感染症学	2				
生活習慣病学	1				

第3類（杏林大学学則）

臨床実習	グループ実習	臨床診断学	6			
		呼吸器内科学実習	2			
		腎臓内科・リウマチ膠原病学実習	2			
		神経内科学実習	2			
		循環器病学実習	2			
		血液内科学実習	2			
		内分泌・代謝内科学実習	2			
		消化器内科学実習	2			
		高齢医学実習	2			
		精神神経科学実習	2			
		小児科学実習	4			
		消化器外科学実習	2			
		呼吸器・甲状腺外科学実習	1			
		乳腺外科学実習	1			
		小児外科学実習	1			
		救急医学実習	2			
		脳神経外科学実習	2			
		心臓血管外科学実習	2			
		整形外科実習	2			
		皮膚科学実習	2			
		形成外科学実習	1			
		泌尿器科学実習	2			
		眼科学実習	1			
		耳鼻咽喉科学実習	1			
		産科婦人科学実習	2			
		放射線医学実習	1			
	麻酔科学実習	1				
臨床検査医学実習	1					
病理学実習	1					
応用実習	チュートリアル	1				
	臨床応用実習	6				
	臨床総合演習	16				
計						252単位

第3類（杏林大学学則）

別表1-4

医学部授業科目及び単位数

〈平成26年度入学生から適用〉

分野	分科	授 業 科 目	単 位 数			備 考
			必修	選択 必修	自由 選択	
医療と 教養	科学と医療	医療科学A 医療科学B 総合医療・地域医療学 和漢医学概論 生物学 生体化学 医学物理学 医学統計学 プレチュートリアル	8 3 1 1 6 8 8 2 2			
	外国語	英語・医学英語Ⅰ 英語・医学英語Ⅱ 英語・医学英語Ⅲ 英語・医学英語Ⅳ 英語・医学英語Ⅴ ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	5 2 2 1		1 5 5 5 5 5	
医学の 基礎	人体の 構造	肉眼解剖学 組織解剖学	8 5			
	人体の 機能	分子生物学 細胞生物学 代謝生化学A 代謝生化学B 生体統御生理学 細胞生理学	6 3 6 2 4 4			

第3類（杏林大学学則）

	異常の発生と制御	薬理学	4			
		病理学総論	3			
		感染と防御	6			
		熱帯病・寄生虫学	2			
		法医学	2			
		衛生学	4			
		公衆衛生学	4			
臨床医学講義	臨床医学	臨床医学総論	1			
		呼吸器内科学	2			
		腎臓内科学	2			
		リウマチ膠原病学	1			
		神経内科学	2			
		循環器病学A	3			
		循環器病学B	4			
		血液内科学	2			
		内分泌・代謝内科学	2			
		消化器内科学	3			
		高齢医学	1			
		精神神経科学	2			
		小児科学A	1			
		小児科学B	2			
		外科学総論	1			
		消化器外科学	1			
		呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	1			
		小児外科学	1			
		救急医学	2			
		脳神経外科学	1			
		整形外科・リハビリテーション医学	2			
		皮膚科・形成外科学	2			
		泌尿器科学	2			
		眼科学	2			
		耳鼻咽喉科学	2			
		産科婦人科学A	1			
		産科婦人科学B	1			
		放射線医学	2			
		麻酔科学	1			
		臨床検査医学・輸血学	1			
		病理学各論A	3			
		病理学各論B	2			
腫瘍学	1					
感染症学	2					
生活習慣病学	1					

第3類 (杏林大学学則)

臨床実習	グループ実習	臨床診断学	6			
		呼吸器内科学実習	2			
		腎臓内科・リウマチ膠原病学実習	2			
		神経内科学実習	2			
		循環器病学実習	2			
		血液内科学実習	2			
		内分泌・代謝内科学実習	2			
		消化器内科学実習	2			
		高齢医学実習	2			
		精神神経科学実習	2			
		小児科学実習	4			
		消化器外科学実習	2			
		呼吸器・甲状腺外科学実習	1			
		乳腺外科学実習	1			
		小児外科学実習	1			
		救急医学実習	2			
		脳神経外科学実習	2			
		心臓血管外科学実習	2			
		整形外科実習	2			
		皮膚科学実習	2			
		形成外科学実習	1			
		泌尿器科学実習	2			
		眼科学実習	1			
		耳鼻咽喉科学実習	1			
		産科婦人科学実習	2			
		放射線医学実習	1			
	麻酔科学実習	1				
臨床検査医学実習	1					
病理学実習	1					
応用実習	チュートリアル	1				
	臨床応用実習	6				
	臨床総合演習	16				
計					249 単位	

第3類（杏林大学学則）

別表1-5

医学部授業科目及び単位数

〈平成28年度入学生から適用〉

分野	分科	授 業 科 目	単 位 数			備 考
			必修	選択 必修	自由 選択	
医療と 教養	科学 と 医療	医療科学A	4			
		医療科学B	2			
地域と大学		2				
和漢医学概論		1				
生物学		4				
生体化学		4				
医学物理学		4				
医学統計学		1				
プレチュートリアル		2				
外国 語	英語・医学英語Ⅰ	2				
	英語・医学英語Ⅱ	2				
	英語・医学英語Ⅲ	2				
	英語・医学英語Ⅳ	1				
	英語・医学英語Ⅴ			1		
	ドイツ語Ⅰ			2		
	ドイツ語Ⅱ			2		
	フランス語Ⅰ			2		
	フランス語Ⅱ			2		
	中国語Ⅰ			2		
中国語Ⅱ			2			
医学の 基礎	構人 造体 の	肉眼解剖学Ⅰ	3			
		肉眼解剖学Ⅱ	3			
		組織解剖学	5			
	人 体 の 機 能	分子生物学	3			
		細胞生物学	2			
		代謝生化学	5			
		統合生理学	4			
		細胞生理学	4			
	異 常 の 発 生 と 制 御	薬理学	4			
		病理学A	3			
		病理学B	1			
		感染症・免疫学	5			
		熱帯病・寄生虫学	2			
		法医学	1			
		衛生学	2			
公衆衛生学	3					

第3類 (杏林大学学則)

臨床 医学 講義	臨床 医学	臨床医学入門Ⅰ	1			
		臨床医学入門Ⅱ	1			
		臨床医学総論	1			
		呼吸器内科学	1			
		腎臓内科学	1			
		リウマチ膠原病学	1			
		神経内科学・脳卒中医学	2			
		循環器病学A	2			
		循環器病学B	2			
		血液内科学	1			
		内分泌・代謝内科学	2			
		消化器内科学	2			
		高齢医学	1			
		精神神経科学	1			
		小児科学	2			
		消化器外科学	1			
		呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	1			
		小児外科学	1			
		救急医学	1			
		脳神経外科学・脳卒中医学	1			
		整形外科・リハビリテーション医学	1			
		皮膚科・形成外科学	1			
		泌尿器科学	1			
		眼科学	1			
		耳鼻咽喉科学	1			
		産科婦人科学	2			
		放射線医学	1			
		麻酔科学	1			
		臨床検査医学・輸血学	1			
		腫瘍学	1			
感染症学	1					
生活習慣病学	1					
臨床診断学	4					
臨床 実習	グ ル ー プ 実 習	呼吸器内科学実習	2			
		腎臓内科・リウマチ膠原病学実習	2			
		神経内科学実習	1			
		脳卒中医学実習	1			
		循環器病学実習	2			
		血液内科学実習	1			
		内分泌・代謝内科学実習	2			
		消化器内科学実習	2			
		腫瘍内科学実習	1			
		高齢医学実習	2			
		精神神経科学実習	2			

第3類（杏林大学学則）

	小児科学実習	2			
	消化器外科学実習	2			
	呼吸器・甲状腺外科学実習	1			
	乳腺外科学実習	1			
	小児外科学実習	1			
	救急医学実習	2			
	救急総合医療学実習	1			
	脳神経外科学実習	1			
	心臓血管外科学実習	1			
	整形外科・リハビリテーション医学実習	2			
	皮膚科学実習	1			
	形成外科学実習	1			
	泌尿器科学実習	1			
	眼科学実習	1			
	耳鼻咽喉科学実習	1			
	産科婦人科学実習	2			
	放射線医学実習	1			
	麻酔科学実習	1			
	病理学実習	1			
実 応 習 用	チュートリアル	1			
	臨床応用実習A	1 2			
	臨床応用実習B	1 2			
	臨床総合演習	1 4			
計					205単位

第3類（杏林大学学則）

別表1-6

医学部授業科目及び単位数

〈平成31年度入学生から適用〉

分野	分科	授 業 科 目	単 位 数			備 考
			必修	選択 必修	自由 選択	
医療と 教養	科 学 と 医 療	情報科学	1			
		生命倫理と医療安全	1			
		人文生命科学特論	1			
		行動科学Ⅰ	2			
		行動科学Ⅱ	1			
		地域と大学（早期体験学習Ⅰ）	2			
		早期体験学習Ⅱ	2			
		早期体験学習Ⅲ	1			
		和漢医学概論	1			
		生物学	4			
		生体化学	4			
		医学物理学	4			
		医学統計学	1			
	プレチュートリアル	2				
	外 国 語	英語・医学英語Ⅰ	2			
		英語・医学英語Ⅱ	2			
		英語・医学英語Ⅲ	2			
		英語・医学英語Ⅳ	1			
		英語・医学英語Ⅴ			1	
		実践英語Ⅰ	2			
実践英語Ⅱ				2		
ドイツ語Ⅰ				2		
ドイツ語Ⅱ				2		
フランス語Ⅰ				2		
フランス語Ⅱ			2			
医 学 の 基 礎	構人 造体 の	肉眼解剖学Ⅰ	1			
		肉眼解剖学Ⅱ	5			
		組織解剖学	5			
	人 体 の 機 能 異	分子生物学	3			
		細胞生物学	2			
		代謝生化学	5			
		統合生理学	4			
病態生理学	4					
薬理学	4					

第3類 (杏林大学学則)

礎	常 の 発 生 と 制 御	病理学A	3			
		病理学B	1			
		感染症・免疫学	5			
		熱帯病・寄生虫学	2			
		法医学	1			
		衛生学	2			
		公衆衛生学	3			
臨床 医学 講 義	臨 床 医 学	臨床医学入門Ⅰ	1			
		臨床医学入門Ⅱ	1			
		臨床医学総論	1			
		呼吸器内科学	1			
		腎臓内科学	1			
		リウマチ膠原病学	1			
		神経内科学・脳卒中医学	2			
		循環器病学A	2			
		循環器病学B	2			
		血液内科学	1			
		内分泌・代謝内科学	2			
		消化器内科学	2			
		高齢医学	1			
		精神神経科学	1			
		小児科学	2			
		消化器外科学	1			
		呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	1			
		小児外科学	1			
		救急医学	1			
		脳神経外科学・脳卒中医学	1			
		整形外科・リハビリテーション医学	1			
		皮膚科・形成外科学	1			
		泌尿器科学	1			
		眼科学	1			
		耳鼻咽喉科学	1			
		産科婦人科学	2			
		放射線医学	1			
		麻酔科学	1			
		臨床検査医学・輸血学	1			
		腫瘍学	1			
		感染症学	1			
		生活習慣病学	1			
臨床診断学	4					
臨床総合演習	1 4					
		呼吸器内科学実習	2			
		腎臓内科・リウマチ膠原病学実習	2			
		神経内科学実習	1			

第3類（杏林大学学則）

臨床 実習	基本 実習	脳卒中医学実習	1		
		循環器病学実習	2		
		血液内科学実習	1		
		内分泌・代謝内科学実習	2		
		消化器内科学実習	2		
		腫瘍内科学実習	1		
		高齢医学実習	2		
		精神神経科学実習	2		
		小児科学実習	2		
		消化器外科学実習	2		
		呼吸器・甲状腺外科学実習	1		
		乳腺外科学実習	1		
		小児外科学実習	1		
		救急医学実習	2		
		救急総合医療学実習	1		
		脳神経外科学実習	1		
		心臓血管外科学実習	1		
		整形外科・リハビリテーション医学実習	2		
		皮膚科学実習	1		
		形成外科学実習	1		
		泌尿器科学実習	1		
		眼科学実習	1		
		耳鼻咽喉科学実習	1		
		産科婦人科学実習	2		
		放射線医学実習	1		
		麻酔科学実習	1		
		病理学実習	1		
実応 習用	チュートリアル	1			
	臨床応用実習 A	1 2			
	臨床応用実習 B	1 2			
計					210 単位

第3類（杏林大学学則）

別表2-1

保健学部学科目構成

（平成25年度入学生から適用）

診療放射線技術学科

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
基礎分野				
人文・社会学系				
哲 学		2		必修2単位を含め 4単位以上
心 理 学		2		
生 命 倫 理 学	2			
法 学		2		
日 本 国 憲 法 学		2		
社 会 学 術		2		
数学・物理学系				
基 礎 数 学	2			必修2単位を含め 4単位以上
医 療 情 報 科 学	2			
計 算 機 演 習	1			
統 計 学 演 習	1			
基 礎 物 理 学	2			
化学・生物学系				
基 礎 化 学	1			必修2単位を含め 4単位以上
無 機 化 学		2		
生 物 有 機 化 学		2		
基 礎 生 物 学	1			
生 命 科 学 概 論		2		
遺 伝 学		2		
細 胞 生 物 学		2		
言語系				
英 語 I	2			必修6単位を含め 8単位以上
英 語 II	2			
英 語 III		2		
英 語 IV		2		
英 会 話		2		
日 本 語 表 現 法	2			

第3類（杏林大学学則）

専門基礎分野			
人体の構造と機能および疾病の成り立ち			
解剖学	2		
解剖・組織学実習	1		
臨床生理学	2		
臨床生理学実習	1		
生化学	2		
感染症・免疫学	2		
薬理学		2	
公衆衛生学	2		
疾病の成り立ちⅠ（感覚器系・女性生殖器系）	2		
疾病の成り立ちⅡ（消化器系）	2		
疾病の成り立ちⅢ（呼吸器系）	2		
疾病の成り立ちⅣ（循環器系）	2		
疾病の成り立ちⅤ（神経系・脳血管系）	2		
疾病の成り立ちⅥ（腎・泌尿器系）	2		
保健医療福祉における理工学的基礎 並びに放射線の科学および技術			
医用電気工学	2		
医用電気工学実験	1		
医用電子工学	2		
医用電子工学実験	1		
システム工学	2		
システム工学実験	1		
放射線生物学	2		
放射線生物学演習		1	
放射線物理学Ⅰ	2		
放射線物理学Ⅱ	2		
放射線物理学演習		1	
放射化学	2		
放射化学演習		1	
放射線計測学	2		
放射線計測学演習	1		
放射線計測学実験	1		
放射線取扱技術学演習	1		
専門分野			
診療画像技術学			

第3類（杏林大学学則）

放射線画像検査技術学概論	2			
診療画像検査技術学Ⅰ	2			
診療画像検査技術学Ⅱ	2			
診療画像検査技術学Ⅲ	2			
診療画像検査機器学Ⅰ	2			
診療画像検査機器学Ⅱ	2			
画像解剖学	2			
画像解剖学演習		1		
画像医学	2			
診療画像検査技術学演習	1			
診療画像検査技術学実習	1			
核医学検査技術学				
核医学検査技術学概論	2			
核医学検査技術学各論	2			
核医学検査機器学	2			
放射性医薬品学	1			
核医学検査技術学演習		1		
放射線治療技術学				
放射線治療技術学Ⅰ	2			
放射線治療技術学Ⅱ	2			
放射線腫瘍学	2			
放射線治療機器学	2			
医用画像情報学				
医療画像情報学Ⅰ	2			
医療画像情報学Ⅱ	2			
医療システム情報学	2			
医療画像情報学演習		1		
医療画像情報学実習	1			
放射線安全管理学				
放射線安全管理技術学	2			
放射線安全管理技術学演習		1		
放射線安全管理技術学実習	1			
関係法規	2			
臨床実習				
画像検査技術学実習	6			
核医学検査技術学実習	2			

第3類（杏林大学学則）

放射線治療技術学実習	2			
総合領域				
医療総合演習	2			
医療安全学	2			
千一ム医療論		2		
原書講読		2		
特別講義Ⅰ		1		
特別講義Ⅱ		1		
卒業研究	4			
計	127	43		133単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2-2

保健学部学科目構成

（平成27年度入学生から適用）

健康福祉学科

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
人文・社会学系				10単位以上
哲学		2		
心理学		2		
法学		2		
日本国憲法		2		
社会学		2		
生命倫理学	2			
教育心理学		2		
発達心理学		2		
芸術学		2		
倫理学		2		
地域と大	1			
自然科学系				
基礎数学		1		
情報処理演習	2			
基礎物理学		1		
基礎化学	1			
無機化学		2		
基礎生物学	1			
自然科学実験	1			
言語系				
英語 I	2			
英語 II		2		
英語 III		2		
医学英語	2			
英会話		2		
基礎医学系				

第3類 (杏林大学学則)

医学概論	2		
医学基礎実習	1		
公衆衛生学Ⅰ	2		
公衆衛生学Ⅱ		2	
解剖学	2		
病理学	2		
生理学	2		
生化学	2		
免疫学	2		
微生物学	2		
微生物学実験		1	
薬理学	2		
小児疾患の病態学	2		
内科疾患の病態学Ⅰ	2		
内科疾患の病態学Ⅱ		2	
内科疾患の病態学Ⅲ		2	
外科疾患の病態学	2		
精神医学		1	
救命救助法		1	
保健学系			
保健学概論	2		
健康福祉学	4		
健康福祉学実習	1		
疫学		2	
小児保健学	2		
精神保健学	2		
保健栄養学	2		食品学を含む
健康教育学	2		
健康スポーツ科学		2	
社会福祉学系			
社会福祉学	2		
社会福祉政策論		2	
老人福祉論		2	

第3類 (杏林大学学則)

高 齡 保 健 学	2		
障 害 者 福 祉 論	2		
児 童 福 祉 論	2		
社 会 保 障 論	4		
公 的 扶 助 論	2		
地 域 福 祉 論	4		
社会福祉援助技術総論 I	4		
社会福祉援助技術総論 II	2		
社会福祉援助技術論 I	2		
社会福祉援助技術論 II	2		
社会福祉援助技術演習 I	1	150時間	
社会福祉援助技術演習 II	1		
社会福祉援助技術演習 III	2		
社会福祉援助技術演習 IV	2		
社会福祉援助技術演習 V	2		
社会福祉援助技術演習 VI	2		
社会福祉援助技術実習	6	180時間	
社会福祉援助技術現場実習指導 I	1	30時間 (実習)	
社会福祉援助技術現場実習指導 II	4	60時間 (講義・演習)	
医 療 福 祉 論	2		
社 会 調 査 概 論	1		
福祉行財政と福祉計画概論	1		
社 会 福 祉 経 営 論	1		
就 労 支 援 概 論	1		
権利擁護と成年後見概論	1		
更 生 保 護 概 論	1		
介 護 福 祉 論	2		
学校保健学系			
学 校 保 健 学 I	2	学校安全を含む	
学 校 保 健 学 II	2		
学 校 看 護 学	1		
健 康 相 談 I	2		

第3類 (杏林大学学則)

健康相談Ⅱ		1	
養護学概論		2	
カウンセリング	2		
保健科指導研究Ⅰ		2	
保健科指導研究Ⅱ		2	
保健科教育法－1		2	
保健科教育法－2		2	
看護学Ⅰ		2	
看護学Ⅱ		2	
看護学Ⅲ		2	
看護学実習		2	
救急看護学		2	
環境・食品学系			
産業保健学		2	
環境衛生工学		2	
環境科学		2	
放射線概論		2	
分析化学		2	
分析化学実験		1	
食品栄養学		2	
食品衛生学		2	
食品製造学		2	
職業適性論		2	
労働衛生法規Ⅰ		2	
労働衛生法規Ⅱ		2	
総合			
移植コーディネータ論		2	
特別講義Ⅰ		2	
特別講義Ⅱ		2	
特別演習Ⅰ		1	
特別演習Ⅱ		1	
ボランティア活動		2	

第3類（杏林大学学則）

フィールドスタディ		4		
計	59	164		124単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2-3

保健学部学科目構成

（平成28年度入学生から適用）

看護学科看護学専攻

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
看護師課程				
基礎分野				
人間科学系				
哲 学		2		「人間科学系」より 必修4単位を含めて 10単位以上
生 命 倫 理 学		2		
日 本 国 憲 法		2		
心 理 学		2		
発 達 心 理 学	2			
福 祉 ・ 地 域 と 大 学	2			
現 代 教 育 論		2		
ホ ス ピ タ リ テ ィ 論		2		
国 際 協 力 論		2		
健 康 ス ポ ー ツ 科 学		2		
自然科学系				
統 計 学		2		「自然科学系」より 必修2単位を含めて 6単位以上
人 類 遺 伝 学		2		
物 理 学 概 論		1		
化 学 概 論		1		
生 命 科 学 概 論		2		
情 報 処 理 論	2			
語学系				
英 語 I	2			「語学系」より 必修6単位を含めて 10単位以上
英 語 II	2			
英 語 III		2		
英 会 話		2		
医 学 英 語		2		
日 本 語 表 現 法	2			
専門基礎分野				
人体の構造と機能・疾病の成り立ち 形 態 ・ 機 能 学	2			

第3類（杏林大学学則）

代謝・栄養学	2		
薬理学	2		
感染症・免疫学	2		
病態治療論Ⅰ	2		
病態治療論Ⅱ	2		
病態治療論Ⅲ	2		
病態治療論Ⅳ	1		
病態治療論Ⅴ	1		
健康支援と社会保障制度			
公衆衛生学	1		
健康支援と法律	1		
保健福祉行政論Ⅰ	1		
保健福祉行政論Ⅱ	2		
健康教育学	2		
産業保健学概論		1	保健師課程選択者は必修
学校保健学概論		1	
疫学と統計			
疫学	2		
保健統計	2		
基礎看護学			
基礎看護学系			
看護学概論	2		
看護援助論	1		
生活行動援助技術Ⅰ	2		
生活行動援助技術Ⅱ	2		
ヘルスアセスメント技術	1		
看護過程	1		
治療・処置の技術	2		
基礎看護学実習Ⅰ	1		
基礎看護学実習Ⅱ	2		
専門看護学			
成人看護学系			
成人看護学概論	2		
成人看護学Ⅰ	2		
成人看護学Ⅱ	2		
成人看護学演習	2		

第3類（杏林大学学則）

成人看護学実習Ⅰ	3		
成人看護学実習Ⅱ	3		
高齢者看護学系			
高齢者看護学概論	2		
高齢者看護学	2		
高齢者看護学演習	1		
高齢者看護学実習Ⅰ	2		
高齢者看護学実習Ⅱ	2		
小児看護学系			
小児看護学概論	2		
小児看護学	2		
小児看護学演習	1		
小児看護学実習	2		
母性看護学系			
母性看護学概論	2		
母性看護学	2		
母性看護学演習	1		
母性看護学実習	2		
精神看護学系			
精神看護学概論	2		
精神看護学	2		
精神看護学演習	1		
精神看護学実習	2		
在宅看護学系			
在宅看護学	2		
在宅看護学演習	2		
在宅看護学実習	2		
公衆衛生看護学系			
公衆衛生看護学概論	2		
家族相談支援論	1		
公衆衛生看護学実習Ⅰ	1		
応用看護学			
応用看護学系			
看護研究	4		
看護管理		2	
家族看護		2	
			看護師課程選択者は

第3類（杏林大学学則）

クリティカルケア		2		選択必修4単位以上
がん看護		2		
応用看護学実習	2			
特別講義	2			
保健師課程				
公衆衛生看護学				
公衆衛生看護学系				
公衆衛生看護活動方法論Ⅰ		2		保健師課程選択者は必修
公衆衛生看護活動方法論Ⅱ		1		
公衆衛生看護活動論Ⅰ		2		
公衆衛生看護活動論Ⅱ		2		
地域診断演習		1		
公衆衛生看護管理		1		
公衆衛生看護学実習Ⅱ		2		
公衆衛生看護学実習Ⅲ		3		
助産師課程				
助産学専攻				
助産学系				
助産学概論		2		助産師課程選択者は必修
周産期医学Ⅰ		2		
周産期医学Ⅱ		1		
助産診断・技術学Ⅰ		1		
助産診断・技術学Ⅱ		2		
助産診断・技術学Ⅲ		2		
助産診断・技術学Ⅳ		1		
助産診断・技術学Ⅴ		2		
地域助産活動論		1		
助産管理学		2		
助産学特別講義		1		
助産学実習Ⅰ		1		
助産学実習Ⅱ		7		
助産学実習Ⅲ		2		
助産学実習Ⅳ		1		
計	115	82		

第3類（杏林大学学則）

看護学科看護養護教育学専攻

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
基礎分野				
人間科学系				
日 本 国 憲 法	2			
芸 術		2		
教 育 心 理 学	2			
生 命 倫 理 学		2		
学 校 教 育 環 境 づ くり	1			
健 康 ス ポ ー ツ 科 学	2			
健 康 教 育 学 概 論	2			
ホ ス ピ タ リ テ ィ 論		2		
国 際 協 力 論		2		
日 本 語 学		2		
日 本 人 の 言 語 行 動 学		2		
自然科学系				
基 礎 生 物 学		1		「自然科学系」より 必修2単位を含めて 5単位以上
基 礎 物 理 学		1		
基 礎 化 学		1		
基 礎 数 学		1		
情 報 処 理 論	2			
生 化 学		2		
医 用 機 器 概 論		2		
語学系				
実 用 英 語 I	2			「語学系」より 必修6単位を含めて 8単位以上
実 用 英 語 II	2			
英 会 話	2			
看 護 英 語		2		
日 本 語 表 現 法		2		
専門基礎分野				
人体の構造と機能・疾病の成り立ち				
解剖学(解剖学実習を含む)	2			
生 理 学	2			
病 理 学	2			
薬 理 学	2			

第3類（杏林大学学則）

感染症・免疫学	2		
栄養学（食品学を含む。）	2		
疾病の成り立ちⅠ	2		
疾病の成り立ちⅡ	2		
疾病の成り立ちⅢ	2		
疾病の成り立ちⅣ	2		
疾病の成り立ちⅤ	2		
健康支援と社会保障制度			
公衆衛生学	2		
学校保健学概論	2		
福祉・地域と大学	2		
健康支援と法律	1		
保健統計学	2		
疫学	2		
基礎看護学分野			
基礎看護学系			
看護学概論Ⅰ	1		
看護学概論Ⅱ	2		
看護基本技術Ⅰ	2		
看護基本技術Ⅱ	2		
看護基本技術Ⅲ	1		
アセスメントと援助技術Ⅰ	1		
看護過程	1		
救命救助法	1		
看護基礎実習Ⅰ	1		
看護基礎実習Ⅱ	2		
専門看護学分野			
成人看護学系			
成人看護学概論	1		
成人看護学Ⅰ	2		
成人看護学Ⅱ	2		
アセスメントと援助技術Ⅱ	1		
成人看護学方法	1		
成人看護学実習Ⅰ	3		
成人看護学実習Ⅱ	3		
老年看護学系			
老年看護学概論	1		

第3類（杏林大学学則）

老年看護学	2		
老年看護方法	1		
老年看護学実習Ⅰ	2		
老年看護学実習Ⅱ	2		
小児看護学系			
小児看護学概論	1		
小児看護学	2		
小児看護方法	1		
小児看護学実習	2		
母性看護学系			
母性看護学概論	1		
母性看護学	2		
母性看護方法	1		
母性看護学実習	2		
精神看護学系			
精神看護学概論	2		
精神看護学（演習含む）	2		
精神看護学実習	2		
統合分野			
在宅看護学系			
在宅看護学概論	2		
在宅看護学（演習含む）	2		
在宅看護学実習	2		
公衆衛生看護学系			
公衆衛生看護学概論	2		
ヘルスプロモーション系			
小児保健学	2		
養護実践学Ⅰ	2		
養護実践学Ⅱ	2		
健康相談活動	2		
ボランティア活動		1	
看護の統合と実践			
発達障害と特別支援	2		
統合看護学実習（発達障害）	2		
看護トピックス		1	
医療看護英文読解	1		

第3類（杏林大学学則）

国際看護学実習基礎分野		1		
国際看護学実習応用分野		1		
領域別ゼミナール(看護系)	2			
領域別ゼミナール(養護系)		2		
看護研究	2			
計	128	30		133単位以上

理学療法学科

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
基礎分野				
人間科学系				
心理学		2		「人間科学系」より 必修1単位を含めて 7単位以上
生命倫理学		2		
芸術学		2		
社会福祉学		2		
発達心理学		2		
職業適性論		2		
日本国憲法学		2		
日本語学		2		
日本人の言語行動学		2		
地域と大学	1			
自然科学系				
数学		2		「自然科学系」より 必修2単位を含めて 7単位以上
統計学		2		
情報処理論	2			
基礎物理学		1		
基礎化学		1		
生化学概論		2		
基礎生物学		1		
生命科学概論		2		
語学系				
英語 I	2			「語学系」より 必修4単位を含めて
英語 II	2			
英語 III		2		
英語 IV		2		

第3類 (杏林大学学則)

英 会 話	2		8 単位以上
医 学 英 語	2		
日 本 語 表 現 法	2		
専門基礎分野			
医学系			
解 剖 学	2		
リハビリテーション解剖学	1		
解 剖 学 実 習	1		
リハビリテーション解剖学実習	1		
生 理 学 I	2		
生 理 学 II	1		
生 理 学 実 習	1		
病 理 学 概 論	1		
人 間 発 達 学	2		
リハビリテーション概論	1		
臨 床 心 理 学	1		「医学系」より 必修27単位を 含めて30単位以上
精 神 医 学	2		
内 科 学 I	2		
内 科 学 II	2		
小 児 科 学	1		
神 経 内 科 学	2		
外 科 学	1		
整 形 外 科 学	2		
脳 神 経 外 科 学	1		
リハビリテーション医学	1		
医 療 安 全 論	1		
感 染 症 ・ 免 疫 学	2		
薬 理 学	1		
栄 養 学	1		
保健学・衛生学系			
産 業 保 健 学	2		
公 衆 衛 生 学 I	2		
公 衆 衛 生 学 II	2		「保健学・衛生学系」 より4単位以上
環 境 衛 生 工 学	2		
救 命 救 助 法	1		
労 働 衛 生 法 規 I	2		

第3類（杏林大学学則）

労働衛生法規Ⅱ		2	
専門分野			
基礎理学療法学系			
理学療法概論	1		
理学療法用語論		1	
運動学	1		
運動学実習	1		
病態運動学		1	
運動解剖学		1	
理学療法評価学系			
理学療法評価学概論	1		
理学療法評価学Ⅰ	1		
理学療法評価学Ⅱ	2		
理学療法評価学実習	1		
動作分析学		1	
理学療法治療学系			
理学療法治療学総論		1	
運動療法学	2		
運動療法学実習	1		
物理療法学	2		
物理療法学実習	1		
義肢学	1		
装具学	1		
義肢装具学実習	1		
日常生活技術学	1		
日常生活技術学実習	1		
運動器障害系理学療法学	2		
神経障害系理学療法学	2		
内部障害系理学療法学	2		
小児理学療法学	2		
高次脳機能障害学	1		
高齢者理学療法学		1	
急性期理学療法学		1	
スポーツ障害理学療法学		1	
マニュアルセラピー		1	
プロフェッショナルスキル	2		

「専門分野」より
必修57単位を
含めて69単位以上

第3類（杏林大学学則）

クリニカルリーズニング		1		
地域理学療法学系				
地域理学療法学	2			
理学療法国際事情		1		
臨床実習系				
見学実習	1			
評価実習Ⅰ	2			
評価実習Ⅱ	4			
総合臨床実習	14			
総合領域				
理学療法特論		2		
理学療法研究法		1		
応用理学療法学		1		
基礎ゼミ	2			
特別講義		2		
卒業研究	2			
計	91	75		125単位以上

作業療法学科

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
基礎分野				
人間科学系				
心理学		2		「人間科学系」より 必修1単位を含めて 7単位以上
生命倫理学		2		
芸術学		2		
社会福祉学		2		
発達心理学		2		
職業適性論		2		
日本国憲法学		2		
日本語学		2		
日本人の言語行動学		2		
地域と大学	1			
自然科学系				
数学		2		
統計学		2		

第3類 (杏林大学学則)

情報処理論	2			
基礎物理学		1		
物理学概論		2		
基礎化学		1		
生化学概論		2		
基礎生物学		1		
生命科学概論		2		
分子生物学		2		
人類遺伝学		2		
語学系				
英語 I	2			
英語 II	2			
英語 III		2		
英語 IV		2		
英会話		2		
医学英語		2		
日本語表現法		2		
専門基礎分野				
医学系				
解剖学	2			
リハビリテーション解剖学	1			
解剖学実習	1			
リハビリテーション解剖学実習	1			
生理学 I	2			
生理学 II	1			
生理学実習	1			
運動学	1			
運動学実習	1			
病態運動学実習		1		
病理学	1			
人間発達学	2			
リハビリテーション概論	1			
臨床心理学概論	1			
精神医学	2			
内科学 I	2			
内科学 II		2		
				「自然科学系」より 必修2単位を含めて 7単位以上
				「語学系」より 必修4単位を含めて 8単位以上
				「医学系」より 必修29単位を 含めて30単位以上

第3類（杏林大学学則）

小 児 科 学	1		
神 経 内 科 学	2		
外 科 学	1		
整 形 外 科 学	2		
脳 神 経 外 科 学	1		
リハビリテーション医学	1		
医 療 安 全 論	1		
感 染 症 ・ 免 疫 学		2	
薬 理 学		1	
栄 養 学		1	
保健学・衛生学系			
産 業 保 健 学		2	
公 衆 衛 生 学 I		2	
公 衆 衛 生 学 II		2	「保健学・衛生学系」 より4単位以上
環 境 衛 生 工 学		2	
救 命 救 助 法		1	
労 働 衛 生 法 規 I		2	
労 働 衛 生 法 規 II		2	
専門分野			
基礎作業療法学系			
作 業 療 法 学 概 論	1		
基 礎 作 業 学 概 論	1		
基礎作業学実習Ⅰ（作業活動の基礎）	1		
基礎作業学実習Ⅱ（作業活動の応用）	1		
作業分析学Ⅰ（基本的分析）	1		
作業分析学Ⅱ（応用的分析）	1		
作 業 療 法 管 理 運 営		1	
作 業 療 法 諸 理 論		1	
作業療法評価学系			
作 業 療 法 評 価 学 I（総論）	1		
作 業 療 法 評 価 学 II（疾患別）	1		
作業療法評価学実習Ⅰ（中枢神経障害）	1		
作業療法評価学実習Ⅱ（発達、精神障害）	1		
作業療法評価学実習Ⅲ（老年期障害）	1		
認 知 機 能 評 価 法		1	
作業療法治療学系			

第3類（杏林大学学則）

身体障害作業療法学Ⅰ（内科系疾患）	1			
身体障害作業療法学Ⅱ（運動器系疾患）	1			
身体障害作業療法学Ⅲ（中枢神経系疾患：脳血管）	1			
身体障害作業療法学Ⅳ（中枢神経系疾患：進行性）	1			
身体障害作業療法学演習	1			
高次脳機能障害作業療法学	1			
精神障害作業療法学Ⅰ（総論）	1			
精神障害作業療法学Ⅱ（疾患別）	1			
精神障害作業療法学演習	1			
発達障害作業療法学Ⅰ（総論）	1			
発達障害作業療法学Ⅱ（疾患別）	1			
発達障害作業療法学演習	1			
老年期障害作業療法学	1			
認知障害作業療法学	1			
職業関連作業療法学	1			
身体機能代償学		1		
義肢装具学	1			
義肢装具学実習	1			
福祉用具適応学	1			
日常生活活動学Ⅰ（総論）	1			
日常生活活動学Ⅱ（疾患別）	1			
バリアフリー論		1		
レクリエーション概論		1		
クリニカルリーズニング		1		
ハンドセラピー学	1			
地域作業療法学系				
地域生活作業療法学	1			
地域ケアシステム論	1			
住環境整備論	1			
地域生活作業療法学演習	1			
作業療法国際事情		1		
臨床実習系				
見学実習	1			
評価実習Ⅰ	2			
評価実習Ⅱ	4			
総合臨床実習	14			
総合領域				

「専門分野」より
必修63単位を
含めて69単位以上

第3類（杏林大学学則）

作業療法学特論Ⅰ		1		
作業療法学特論Ⅱ		1		
作業療法研究法		1		
応用作業療法学		1		
基礎ゼミ	2			
特別講義		1		
卒業研究	4			
計	99	78		125単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2-4

保健学部学科目構成

（平成28年度入学生から適用）

臨床検査技術学科

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
人文・社会学系				
心理学		2		必修を含めて 7単位以上
日本国憲法		2		
芸術学		2		
発達心理学		2		
社会福祉学		2		
日本語学		2		
日本人の言語行動学		2		
地域と大	1			
自然科学系				
数学		2		7単位以上
統計学		2		
基礎物理学		1		
物理学		2		
物理実験		1		
基礎化学		1		
化学実験		1		
基礎生物		1		
生物実験		1		
語学系				
日本語表現法		2		必修を含めて 10単位以上
英語 I	2			
英語 II	2			
英語 III		2		
英語 IV		2		
英会話		2		
医学英語	2			
学科基礎系				
医療情報処理演習		2		
生命科学科	2			
遺伝子工学		1		
分子細胞生物学		1		
無機化学		2		
生物有機化学 I		2		
生物有機化学 II		2		
分析化学	2			
分析化学実験	1			
医療情報科	2			

第3類 (杏林大学学則)

医 療 学 概 論	1		
救 命 救 助 法 論		1	
医 用 工 学 概 論	2		
医 用 工 学 実 験 論	1		
放 射 線 概 論	2		
生 命 倫 理 学	1		
基礎医学系			
公 衆 衛 生 学 I	2		
公 衆 衛 生 学 II		2	
解 剖 学	2		
組 織 学	2		
組 織 学 実 習 論	1		
病 理 学 実 験 論	2		
生 理 学 I	2		
生 理 学 II	2		
生 理 化 学	2		
血 液 学	2		
免 疫 学	2		
微 生 物 学	2		
医 動 物 学	2		
薬 理 学		2	
臨床検査学系			
生 理 機 能 検 査 学 I	2		
生 理 機 能 検 査 学 II	2		
生 理 機 能 検 査 学 実 習	2		
生 理 機 能 検 査 学 III	2		
臨 床 化 学 検 査 学	2		
生 体 分 子 検 査 学	2		
臨 床 化 学 検 査 学 実 習	2		
臨 床 遺 伝 学	1		
遺 伝 子 ・ 染 色 体 検 査 学	2		
遺 伝 子 ・ 染 色 体 検 査 学 実 習	1		
病 理 学 各 論	2		
病 理 検 査 学	2		
病 理 検 査 学 実 習	2		
細 胞 診 断 学	2		
細 胞 診 断 学 実 習		1	
血 液 検 査 学	2		
血 液 検 査 学 実 習	2		
医 動 物 検 査 学 実 習	1		
細 菌 検 査 学	2		
真 菌 ・ ウ イ ル ス 検 査 学	2		
細 菌 ・ 真 菌 検 査 学 実 習	2		
免 疫 検 査 学	2		
集中 (実践的防災論を含む)			
放射性同位元素検査学を含む			

第3類 (杏林大学学則)

輸血・移植検査学	2		
免疫検査学実習	1		
輸血検査学実習	1		
一般検査学	2		
一般検査学実習	1		
臨床病態学	2		
臨床検査総合演習		4	
検査管理学	1		
臨床検査機器総論	2		
臨地実習		7	
臨床検査概論	1		
医療安全管理学	1		
精度管理学	1		
臨床検査基礎実習	2		
臨床検査学特論 (アドバンスドクラス)		1	
画像検査技術			
臨床検査学特論 (アドバンスドクラス)		1	
血液検査技術			
臨床検査学特論 (アドバンスドクラス)		1	1 単位以上
病理組織検査技術			
臨床検査学特論 (アドバンスドクラス)		1	
微生物検査技術			
臨床検査学特論 (アドバンスドクラス)		1	
輸血検査技術			
衛生学系			
産業保健学	2		
環境衛生工学	2		
環境科学	2		
食品栄養学	2		
食品衛生学	2		
食品製造学	2		
職業適性論	2		
労働衛生法規 I	2		
労働衛生法規 II	2		
細胞検査士養成課程			
入門細胞診断学演習	1		
婦人科細胞診断学演習	1		
呼吸器細胞診断学演習	1		
乳腺細胞診断学演習	1		
総合細胞診断学演習	1		
			細胞検査士養成課程 選択者は必修

第3類（杏林大学学則）

臨床細胞診断学		4		細胞検査士養成課程選択者以外は必修
自由専攻 特別演習		1		
総合 総合医療演習		1		
卒業 卒業研究		4		
国際医療検査特論		1		
計	1000	1000		124単位以上

臨床工学科

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
人文・社会学系				必修を含めて 6単位以上
心理学		2		
日本国憲法学		2		
発達心理学		2		
芸術学		2		
健康スポーツ科学		2		
職業適性論		2		
生命倫理学	1			
日本語学		2		
日本人の言語行動学		2		
地域と大衆学	1			
数学系				
基礎数学		1		
数学	2			
統計学演習		1		
医療情報科学	2			
計算機演習	2			
応用数学	2			
物理学系				
基礎物理学		1		
基礎電気学	2			
基礎電子回路	2			
医用工学概論	2			
化学系				2単位以上
基礎化学		1		
無機化学		2		
生物有機化学		2		
化学実験		1		
生物学系				1単位以上
基礎生物学		1		
生命科学概論		2		

第3類 (杏林大学学則)

生物学実験		1	
言語系			
日本語表現法	2		
英語 I		2	
英語 II		2	
英語 III		2	
英語 IV		2	
医学英会話	2		
基礎医学系			
医学概論	2		
公衆衛生学 I	2		
公衆衛生学 II		2	
解剖学 I	2		
解剖学 II		2	
病理学 I	2		
病理学 II	2		
生理学実験	1		
生化学 I		2	
生化学 II		2	
免疫学		2	
薬理学		2	
看護学		2	
医学検査系			
生理学検査 I	2		
生理学検査 II	2		
画像診断技術		2	
生理学検査実習		1	
臨床工学系			
医用電気工学	2		
医用電気工学実習		1	
医用電子工学	2		
医用電子工学実習		1	
システム工学		2	
医用情報処理工学	2		
医用情報処理工学実習		1	
医用計測工学	2		
医用計測工学実習		1	
医用機械工学	2		
生体物性学	2		
生体材料工学		2	
医用機器学概論	2		
医用計測機器学	2		

必修2単位を含めて
8単位以上

2単位以上

第3類 (杏林大学学則)

医用計測機器学実習		1		
医用治療機器学	2			
医用治療機器学実習		1		
生体機能代行装置学概論		2		
生体機能代行装置学基礎実習		1		
呼吸関連機器学		2		
呼吸関連機器学実習		1		
血液浄化装置学		2		
応用血液浄化装置学		2		
血液浄化装置学実習		1		
体外循環機器学		2		
体外循環機器学実習		1		
医用機器安全管理学Ⅰ	2			
医用機器安全管理学Ⅱ		2		
安全管理学実習		1		
臨床医学各論Ⅰ	2			
臨床医学各論Ⅱ	2			
臨床医学各論Ⅲ	2			
臨床医学各論Ⅳ	2			
医療関係法規		2		
臨床実習講義		1		
臨床実習		3		
衛生学系				
産業保健学		2		
環境衛生工学		2		
労働衛生法規Ⅰ		2		
労働衛生法規Ⅱ		2		
救命救助法		1		集中(実践的防災論を含む)
総合				
特別講義Ⅰ		2		
特別講義Ⅱ		2		
特別演習Ⅰ		1		
特別演習Ⅱ		1		
総合演習		2		
卒業研究	4			
計	69	106		124単位以上

救急救命学科

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
人文・社会学系				
日本国憲法学		2		
心理理学		2		

第3類 (杏林大学学則)

発達心理学		2		
芸生倫理学	1	2		必修を含めて 10単位以上
日本語学		2		
日本人の言語行動学		2		
地域と大	1			
数学・物理学系				
基礎物理学		1		4単位以上
物理学		2		
医用工学概論		2		
数学統計学		2		
医療情報科学		2		
情報処理演習		2		
化学系				
基礎化学		1		3単位以上
無機化学		2		
生物有機化学Ⅰ		2		
生物有機化学Ⅱ		2		
生物学系				
基礎生物学		1		3単位以上
生命科学概論		2		
細胞生物学		2		
人類遺伝学		2		
言語系				
日本語表現法		2		6単位以上
英語Ⅰ	2			
英語Ⅱ	2			
英会話		2		
プレホスピタル救急英会話Ⅰ		2		
プレホスピタル救急英会話Ⅱ		2		
医学英語		2		
体育学系				
体育実技Ⅰ	2			6単位以上
体育実技Ⅱ	2			
体育実技Ⅲ		2		
体育実技Ⅳ		1		
基礎医学系				
医学概論		2		6単位以上
公衆衛生学Ⅰ	2			
公衆衛生学Ⅱ		2		
解剖学Ⅰ	2			
解剖学Ⅱ		2		
生理学Ⅰ	2			

第3類 (杏林大学学則)

生 理 学	II	2			
生 化 学	学	2			
病 理 学	学	2			
微 生 物 学	学	2			
血 液 学	学		2		
免 疫 学	学		2		
薬 理 学	学	2			
救 命 救 助 法	学	1			集中
救急医学系					
内 科 学	I	2			
内 科 学	II	2			
内 科 学	III	2			
内 科 学	IV		2		
内 科 学	V		2		
内 科 学	VI		2		
医療コミュニケーション学	学		2		
救 急 医 学 概 論	論	2			
救 急 処 置 総 論	論	2			
救 急 処 置 各 論	論	2			
災 害 医 学	学		1		
外 科 学	学		2		
法 医 学	学		1		
外 傷 学	学		2		
環 境 障 害 ・ 急 性 中 毒 学 I	学		2		
環 境 障 害 ・ 急 性 中 毒 学 II	学		2		
救 急 搬 送 論	論		2		
小 児 科 学	学		1		
産 婦 人 科 学	学		1		
整 形 外 科 学	学		2		
脳 外 科 学	学		2		
精 神 医 学	学		2		
放 射 線 概 論	論		2		
シミュレーション I	I	2			
シミュレーション II	II	2			
シミュレーション III	III	2			
シミュレーション IV	IV		3		
シミュレーション V	V		3		
シミュレーション VI	VI		2		
シミュレーション VII	VII		2		
救 急 ・ 防 災 実 習	習	1			見学含む
臨 床 実 習	習		6		
実 践 救 急 症 候 学	学	1			
救 急 車 同 乗 実 習	習		2		
実 践 的 防 災 論	論		1		演習含む

第3類（杏林大学学則）

衛生学系				
産業保健学		2		
環境衛生工学		2		
職業適性論		2		
労働衛生法規Ⅰ		2		
労働衛生法規Ⅱ		2		
総合				
特別講義Ⅰ		2		
特別講義Ⅱ		2		
特別講義Ⅲ		2		
特別講義Ⅳ		2		
卒業研究	4			演習含む
計	51	129		124単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2-5

保健学部学科目構成

（平成29年度入学生から適用）

診療放射線技術学科

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
基礎分野				
人間科学系				
哲 学		2		4単位以上 (必修1単位を含む)
心 理 学		2		
生 命 倫 理 学		2		
日 本 国 憲 法		2		
社 会 学		2		
芸 術 学		2		
日 本 語 学		2		
日 本 人 の 言 語 行 動 学		2		
地 域 と 大 学	1			
自然科学系				
基 礎 数 学		1		14単位以上 (必修12単位を含む)
微 分 積 分 学	1			
応 用 数 学	1			
基 礎 物 理 学 I	1			
基 礎 物 理 学 II	1			
計 算 機 演 習	1			
統 計 学 演 習	1			
基 礎 化 学	1			
無 機 化 学		2		
生 物 有 機 化 学		2		
基 礎 生 物 学	1			
生 命 科 学 概 論		2		
遺 伝 学		2		
基 礎 画 像 工 学	2			
基 礎 科 学 実 験 I	1			
基 礎 科 学 実 験 II	1			
語学系				
英 語 I	2			8単位以上 (必修6単位を含む)
英 語 II	2			
英 語 III		2		
英 語 IV		2		

第3類（杏林大学学則）

英 会 話		2	
医 学 英 語	2		
日 本 語 表 現 法		2	
専門基礎分野			
人体の構造と機能および疾病の成り立ち			
解 剖 学	2		
臨 床 生 理 学	2		
臨 床 生 理 学 実 習	1		
生 化 学		2	
感 染 症 ・ 免 疫 学	2		
薬 理 学		2	
公 衆 衛 生 学	2		
疾病の成り立ちI（感覚器系・脳神経・脳血管系）	2		
疾病の成り立ちII（消化器系・腎泌尿器系）	2		
疾病の成り立ちIII（呼吸器系）	2		
疾病の成り立ちIV（循環器系）	2		
救 命 救 助 法	1		
保健医療福祉における理工学の基礎並びに放射線の科学および技術			
医 用 電 気 工 学	2		
医 用 電 子 工 学	2		
医 用 工 学 実 験	1		
放 射 線 生 物 学	2		
放 射 線 生 物 学 演 習		1	
放 射 線 物 理 学 I	2		
放 射 線 物 理 学 II	2		
放 射 線 物 理 学 演 習		1	
放 射 化 学	2		
放 射 化 学 演 習		1	
放 射 線 計 測 学	2		
放 射 線 計 測 学 演 習		1	
放 射 線 計 測 学 実 験	1		
放 射 線 線 量 測 定 学	1		
専門分野			
診療画像技術学			
放射線画像検査技術学概論	1		
診療画像検査技術学 I	2		
診療画像検査技術学 II	2		

第3類 (杏林大学学則)

診療画像検査技術学Ⅲ	2		
診療画像検査技術学Ⅳ	2		
診療画像検査技術学実習Ⅰ	1		
診療画像検査技術学実習Ⅱ	1		
診療画像検査技術学実習Ⅲ	1		
診療画像検査機器学Ⅰ	2		
診療画像検査機器学Ⅱ	2		
診療画像検査機器学Ⅲ	2		
診療画像検査機器学実習	1		
画像解剖学	2		
画像解剖学演習		1	
画像医学	2		
乳房検査技術学		1	
救急撮影技術学		1	
M R I 検査技術学		1	
核医学検査技術学			
核医学検査技術学Ⅰ	2		
核医学検査技術学Ⅱ	2		
核医学検査機器学	2		
放射性医薬品学		1	
核医学検査技術学実習	1		
放射線治療技術学			
放射線治療技術学Ⅰ	2		
放射線治療技術学Ⅱ	2		
放射線腫瘍学	2		
放射線治療機器学	1		
放射線治療技術学実習	1		
医用画像情報学			
医療画像情報学Ⅰ	2		
医療画像情報学Ⅱ	2		
医療画像工学	2		
医療システム情報学	2		
医療画像情報学実習Ⅰ	1		
医療画像情報学実習Ⅱ	1		
放射線安全管理学			
放射線安全管理技術学	2		
放射線安全管理技術学演習		1	

第3類（杏林大学学則）

放射線安全管理技術学実習	1			
放射線関係法規	2			
医療安全管理学				
医療安全学	2			
医療倫理	1			
臨床実習				
画像検査技術学臨床実習	6			
核医学検査技術学臨床実習	2			
放射線治療技術学臨床実習	2			
総合領域				
医療総合演習	2			
医用統計学演習		1		
原書講読		1		
特別講義		1		
医療の最先端		1		
卒業研究	4			
計	126	51		133単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2-6

保健学部学科目構成

（平成30年度入学生から適用）

臨床心理学科

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
人文・社会学系				
哲学		2		必修を含めて10単位以上
生命倫理学		2		
日本国憲法		2		
社会学		2		
社会学		2		
芸術論		2		
職業適性論		2		
日本語学概論		2		
ことばと社会		2		
地域と大学	1			
自然科学系				
情報処理論	2			必修を含めて12単位以上
基礎生物学		1		
基礎化学		1		
基礎数学		1		
言語系				
日本語表現法	2			
英語 I	2			
英語 II	2			
英語 III	2			
英語 IV		2		
医学英語		2		
英会話		2		
基礎医学系				
公衆衛生学	1			
医学概論	1			
人体の構造と機能及び疾病 （人体の構造と機能Ⅰ）	2			
人体の構造と機能及び疾病 （人体の構造と機能Ⅱ）	2			
人体の構造と機能及び疾病 （疾病）	2			

第3類（杏林大学学則）

病 態 病 理 学		1	
精神疾患とその治療Ⅰ	2		
精神疾患とその治療Ⅱ	2		
緩和医療学(演習を含む)	2		
救 急 医 療		1	
救 命 救 助 法	1		
看護学・精神科リハビリテーション学系			
看 護 学		2	
精神看護学(精神科リハビリテーション学を含む)	2		
精神看護学・精神科リハビリテーション学演習	2		
心理学基礎科目系			
心 理 学 概 論	2		
心 理 学 研 究 法	2		
心 理 学 統 計 法	2		
心 理 学 実 験 Ⅰ	2		
心 理 学 実 験 Ⅱ	2		
心 理 演 習	2		
心理学発展科目系			
臨 床 心 理 学 概 論	2		
知覚・認知心理学入門	2		
知覚・認知心理学	2		
学習・言語心理学	2		
感情・人格心理学	2		
神経・生理心理学	2		
社会・集団・家族心理学Ⅰ	2		
社会・集団・家族心理学Ⅱ	2		
発 達 心 理 学	2		
障害者・障害児心理学	2		
心理的アセスメント	2		
心理学的支援法	2		
健康・医療心理学	2		
福 祉 心 理 学	2		
教育・学校心理学	2		
司法・犯罪心理学	2		
産業・組織心理学	2		
認知行動療法		2	
発達臨床心理学		2	

第3類（杏林大学学則）

乳幼児・児童心理学		2		
思春期・青年期心理学		2		
隣接領域				
社会福祉学		2	14単位以上	
学校教育学		2		
児童福祉学		2		
老人福祉学		2		
高齢保健学		2		
医療福祉学		2		
公的扶助学		2		
障害者福祉学		2		
社会福祉政策学		2		
心理実習系				
公認心理師の職責	2			
関係行政論	2			
心理基礎実習	1			
心理実習Ⅰ	1			
心理実習Ⅱ	3			
総合領域				
総合実習		2	総合実習 インターンシップ ボランティア活動 の中から2単位以上 総合領域以外の選択科目 から5単位以上	
臨床心理学特別講義Ⅰ		2		
臨床心理学特別講義Ⅱ		2		
心理特別演習Ⅰ		1		
心理特別演習Ⅱ		1		
インターンシップ		2		
ボランティア活動		2		
基礎ゼミ	2			
卒業研究	4			
計	91	69		124単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2-7

保健学部学科目構成

（平成31年度入学生から適用）

健康福祉学科

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
人文・社会学系				10単位以上
哲学		2		
心理学		2		
法学		2		
日本国憲法		2		
社会学		2		
生命倫理学	2			
教育心理学		2		
発達心理学		2		
芸術学		2		
倫理学		2		
地域と大	1			
自然科学系				
基礎数学		1		
情報処理演習	2			
基礎物理学		1		
基礎化学	1			
無機化学		2		
基礎生物学	1			
自然科学実験	1			
言語系				
英語 I	2			
英語 II		2		
英語 III		2		
医学英語	2			
英会話		2		
基礎医学系				

第3類 (杏林大学学則)

医学概論	2		
医学基礎実習	1		
公衆衛生学Ⅰ	2		
公衆衛生学Ⅱ		2	
解剖学	2		
病理学	2		
生理学	2		
生化学	2		
免疫学	2		
微生物学	2		
微生物学実験		1	
薬理学	2		
小児疾患の病態学	2		
内科疾患の病態学Ⅰ	2		
内科疾患の病態学Ⅱ		2	
内科疾患の病態学Ⅲ		2	
外科疾患の病態学	2		
精神医学		1	
救命救助法		1	
保健学系			
保健学概論	2		
健康福祉学	4		
健康福祉学実習	1		
疫学		2	
小児保健学	2		
精神保健学	2		
保健栄養学	2		食品学を含む
健康教育学	2		
健康スポーツ科学		2	
社会福祉学系			
社会福祉学	2		
社会福祉政策論		2	
老人福祉論		2	

第3類 (杏林大学学則)

高 齡 保 健 学		2	
障 害 者 福 祉 論		2	
児 童 福 祉 論	2		
社 会 保 障 論		4	
公 的 扶 助 論		2	
地 域 福 祉 論		4	
社会福祉援助技術総論 I		4	
社会福祉援助技術総論 II		2	
社会福祉援助技術論 I		2	
社会福祉援助技術論 II		2	
社会福祉援助技術演習 I		1	150時間
社会福祉援助技術演習 II		1	
社会福祉援助技術演習 III		2	
社会福祉援助技術演習 IV		2	
社会福祉援助技術演習 V		2	
社会福祉援助技術演習 VI		2	
社会福祉援助技術実習		6	180時間
社会福祉援助技術現場実習指導 I		1	30時間 (実習)
社会福祉援助技術現場実習指導 II		4	60時間 (講義・演習)
医 療 福 祉 論		2	
社 会 調 査 概 論	1		
福祉行財政と福祉計画概論		1	
社 会 福 祉 経 営 論		1	
就 労 支 援 概 論		1	
権利擁護と成年後見概論		1	
更 生 保 護 概 論		1	
介 護 福 祉 論		2	
学校保健学系			
学 校 保 健 学 I		2	学校安全を含む
学 校 保 健 学 II		2	
学 校 看 護 学		1	
健 康 相 談 I		2	

第3類 (杏林大学学則)

健康相談Ⅱ		1	
養護学概論		2	
カウンセリング	2		
保健科指導法Ⅰ		2	
保健科指導法Ⅱ		2	
保健科教育法－1		2	
保健科教育法－2		2	
看護学Ⅰ		2	
看護学Ⅱ		2	
看護学Ⅲ		2	
看護学実習		2	
救急看護学		2	
環境・食品学系			
産業保健学		2	
環境衛生工学		2	
環境科学		2	
放射線概論		2	
分析化学		2	
分析化学実験		1	
食品栄養学		2	
食品衛生学		2	
食品製造学		2	
職業適性論		2	
労働衛生法規Ⅰ		2	
労働衛生法規Ⅱ		2	
総合			
移植コーディネータ論		2	
特別講義Ⅰ		2	
特別講義Ⅱ		2	
特別演習Ⅰ		1	
特別演習Ⅱ		1	
ボランティア活動		2	

第3類（杏林大学学則）

フィールドスタディ		4		
計	59	164		124単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2-8

保健学部学科目構成

（令和2年度入学生から適用）

理学療法学科

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
基礎分野				「基礎分野」より 必修9単位を含めて 14単位以上
人間科学系				
心 理 学		2		
生 命 倫 理 学		2		
芸 術 学		2		
社 会 福 祉 学		2		
発 達 心 理 学		2		
職 業 適 性 論		2		
日 本 国 憲 法 学		2		
日 本 語 学		2		
こ と ば と 社 会 学		2		
地 域 と 大 学	1			
自然科学系				
数 学		2		
統 計 学		2		
情 報 処 理 論	2			
基 礎 物 理 学		1		
基 礎 化 学		1		
生 化 学 概 論		2		
基 礎 生 物 学		1		
生 命 科 学 概 論		2		
語学系				
英 語 I	2			
英 語 II	2			
英 語 III		2		
英 語 IV		2		
英 会 話		2		
医 学 英 語		2		
日 本 語 表 現 法	2			
専門基礎分野				
医学系				

第3類（杏林大学学則）

解剖学	2		
リハビリテーション解剖学	1		
解剖学実習	1		
リハビリテーション解剖学実習	1		
生理学Ⅰ	2		
生理学Ⅱ	1		
生理学実習	1		
リハビリテーション基礎医学	2		
リハビリテーション基礎医学演習	1		
病理学概論	1		
人間発達学	2		
臨床心理学	1		
精神医学	2		
内科学Ⅰ	2		
内科学Ⅱ		2	
小児科学	1		
神経内科学	2		
外科学		1	
整形外科学	2		
脳神経外科学	1		
感染症・免疫学		2	
薬理学		1	
栄養学		1	
リハビリテーション概論	1		
リハビリテーション医学	1		
保健学・衛生学系			
公衆衛生学Ⅰ	2		
公衆衛生学Ⅱ		2	
産業保健学		2	
環境衛生工学		2	
救命救助法		1	
労働衛生法規Ⅰ		2	
労働衛生法規Ⅱ		2	
専門分野			
基礎理学療法学系			
理学療法概論	1		
理学療法用語論		1	

「医学系」より
必修28単位を含めて
31単位以上

「保健・衛生学系」より
必修2単位を含めて
4単位以上

「専門分野」より

第3類（杏林大学学則）

運 動 学	2			必修69単位を含めて 76単位以上
運 動 学 演 習	1			
運 動 学 実 習	1			
病 態 運 動 学 演 習		1		
運 動 解 剖 学 演 習	1			
理学療法評価学系				
理 学 療 法 評 価 学 概 論	1			
理 学 療 法 評 価 学 演 習 I	1			
理 学 療 法 評 価 学 演 習 II	1			
理 学 療 法 評 価 学 実 習	1			
動 作 分 析 学 演 習	1			
高 次 脳 機 能 障 害 学	1			
理学療法治療学系				
理 学 療 法 治 療 学 総 論		1		
運 動 療 法 学	1			
運 動 療 法 学 実 習	1			
物 理 療 法 学	1			
物 理 療 法 学 実 習	1			
義 肢 装 具 学	1			
義 肢 装 具 学 実 習	1			
日 常 生 活 技 術 学	1			
日 常 生 活 技 術 学 実 習	1			
運 動 器 障 害 系 理 学 療 法 学	2			
運 動 器 障 害 系 理 学 療 法 学 演 習	1			
神 經 障 害 系 理 学 療 法 学	2			
神 經 障 害 系 理 学 療 法 学 演 習	1			
内 部 障 害 系 理 学 療 法 学	2			
内 部 障 害 系 理 学 療 法 学 演 習	1			
小 児 理 学 療 法 学	2			
小 児 理 学 療 法 学 演 習	1			
高 齡 者 理 学 療 法 学 演 習	1			
急 性 期 理 学 療 法 学		1		
ス ポ ー ツ 障 害 理 学 療 法 学		1		
徒 手 理 学 療 法 学 演 習		1		
臨 床 理 学 療 法 学 実 習	2			
臨 床 理 学 療 法 推 論 学 演 習		1		
理学療法管理学系				

第3類（杏林大学学則）

理学療法管理学	2			
地域理学療法学系				
地域理学療法学	2			
生活環境学	1			
理学療法国際事情		1		
臨床実習系				
見学実習	1			
評価実習Ⅰ	2			
評価実習Ⅱ	4			
地域理学療法実習	1			
総合臨床実習	14			
総合領域				
障害者スポーツ演習		1		
理学療法統計学演習		1		
理学療法研究法		1		
理学療法解析手法演習		1		
応用理学療法学演習	1			
基礎理学療法学演習Ⅰ	2			
基礎理学療法学演習Ⅱ	2			
卒業研究	2			
計	108	67		125単位以上

作業療法学科

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
基礎分野				
人間科学系				
心理学	2			「人間科学系」より 必修3単位を含めて 7単位以上
生命倫理学		2		
芸術		2		
社会福祉学		2		
発達心理学		2		
職業適性論		2		
日本国憲法		2		
日本語学		2		
ことばと社会		2		
地域と大学	1			

第3類 (杏林大学学則)

自然科学系				
数	学	2		「自然科学系」より 必修2単位を含めて 7単位以上
統 計	学	2		
情 報 処 理	論	2		
基 礎 物 理	学	1		
物 理 学 概	論	2		
基 礎 化	学	1		
生 化 学 概	論	2		
基 礎 生 物	学	1		
生 命 科 学 概	論	2		
分 子 生 物	学	2		
人 類 遺 伝	学	2		
語学系				
英 語	I	2		「語学系」より 必修4単位を含めて 8単位以上
英 語	II	2		
英 語	III	2		
英 語	IV	2		
英 会 話		2		
医 学 英 語		2		
日 本 語 表 現 法		2		
専門基礎分野				
医学系				
解 剖 学		2		「医学系」より 必修29単位を含めて 30単位以上
リハビリテーション解剖学		1		
解 剖 学 実 習		1		
リハビリテーション解剖学実習		1		
生 理 学 I		2		
生 理 学 II		1		
生 理 学 実 習		1		
運 動 学		2		
運 動 学 実 習		1		
病 態 運 動 学 実 習			1	
病 理 学		1		
人 間 発 達 学		1		
リハビリテーション概論		1		
臨 床 心 理 学 概 論		1		
精 神 医 学		2		

第3類（杏林大学学則）

内科学 I	2		
内科学 II		2	
小児科学		1	
神経内科学	2		
外科学	1		
整形外科学	2		
脳神経外科学	1		
リハビリテーション医学	1		
感染症・免疫学		2	
薬理学	1		
栄養学	1		
保健学・衛生学系			
産業保健学		2	
公衆衛生学 I	2		「保健学・衛生学系」より 必修3単位を含めて 5単位以上
公衆衛生学 II		2	
環境衛生工学		2	
救命救助法	1		
労働衛生法規 I		2	
労働衛生法規 II		2	
専門分野			
基礎作業療法学系			
作業療法学概論	1		「専門分野」より 必修67単位を含めて 68単位以上
基礎作業学概論	1		
基礎作業学実習	1		
作業分析学	1		
作業分析学演習	1		
作業療法諸理論		1	
作業療法評価学系			
作業療法評価学 I（総論）	1		
作業療法評価学 II（疾患別）	1		
作業療法評価学実習 I（中枢神経障害）	1		
作業療法評価学実習 II（発達、精神障害）	1		
作業療法評価学実習 III（老年期障害）	1		
認知機能評価法		1	
作業療法治療学系			
身体障害作業療法学 I	1		
身体障害作業療法学 II	1		

第3類（杏林大学学則）

身体障害作業療法学演習	1			
高次脳機能障害作業療法学	1			
精神障害作業療法学Ⅰ	1			
精神障害作業療法学Ⅱ	1			
精神障害作業療法学演習	1			
発達障害作業療法学Ⅰ	1			
発達障害作業療法学Ⅱ	1			
発達障害作業療法学演習	1			
老年期障害作業療法学	1			
認知障害作業療法学	1			
職業関連作業療法学	1			
高次機能代償学		1		
義肢装具学	1			
義肢装具学実習	1			
福祉用具適応学	1			
日常生活活動学Ⅰ（総論）	1			
日常生活活動学Ⅱ（疾患別）	1			
バリアフリー概論		1		
レクリエーション概論		1		
クリニカルリーズニング		1		
ハンドセラピー概論	1			
作業療法管理学系				
作業療法管理学	2			
地域作業療法学系				
地域生活作業療法学	1			
地域ケアシステム学	1			
住環境整備学	1			
地域生活作業療法学演習	1			
作業療法国際事情		1		
臨床実習系				
見学実習	1			
評価実習Ⅰ	1			
評価実習Ⅱ	4			
総合臨床実習	16			
地域・訪問実習	1			
総合領域				
作業療法学演習Ⅰ	1			

第3類（杏林大学学則）

作業療法学演習Ⅱ	1			
作業療法学演習Ⅲ	1			
作業療法学演習Ⅳ	2			
卒業研究Ⅰ	1			
卒業研究Ⅱ	3			
計	108	66		125 単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2-9

保健学部学科目構成

（令和3年度入学生から適用）

健康福祉学科

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
人文・社会学系				
哲 学		2		10 単位以上
心 理 学		2		
日 本 国 憲 法 学		2		
社 会 倫 理 学	2	2		
生 命 育 心 理 学		2		
教 育 達 心 理 学		2		
芸 術 学		2		
地 域 と 大 学	1			
自然科学系				
基 礎 数 学		1		6 単位以上
情 報 処 理 演 習 学		2		
基 礎 物 理 学		1		
基 礎 化 学		1		
無 機 化 学		2		
基 礎 生 物 学		1		
言語系				
英 語 I	2			6 単位以上
英 語 II	2			
英 語 III		2		
医 学 英 語		2		
英 会 話		2		
基礎医学系				
医 学 概 論	2			
医 学 基 礎 実 習	1			
公 衆 衛 生 学 I	2			
公 衆 衛 生 学 II		2		
解 剖 学	2			
病 理 学		2		
生 理 学	2			
生 化 学	2			
免 疫 学		2		
微 生 物 学	2			
微 生 物 学 実 験		1		

第3類（杏林大学学則）

薬理学		2	
小児疾患の病態学		2	
内科疾患の病態学Ⅰ	2		
内科疾患の病態学Ⅱ	2		
外科疾患の病態学	2		
精神医学		1	
救命救助法		1	
保健学・福祉学系			
健康福祉学	4		
健康福祉学実習	1		
疫学		2	
小児保健学	2		
精神保健学	2		
高齢保健学		2	
健康スポーツ科学		2	
応用保健学		2	
社会福祉学	2		
社会福祉政策論		2	
高齢者福祉論		2	
障害者福祉論		2	
児童福祉論	2		
社会保障論		4	
公的扶助論		2	
地域福祉論		4	
ソーシャルワーク総論Ⅰ	4		
ソーシャルワーク総論Ⅱ	2		
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1		
社会調査概論	1		
社会福祉学系			
ソーシャルワーク論Ⅰ		2	
ソーシャルワーク論Ⅱ		2	
ソーシャルワーク演習Ⅰ		1	
ソーシャルワーク演習Ⅱ		1	
ソーシャルワーク演習Ⅲ		2	
ソーシャルワーク演習Ⅳ		2	
ソーシャルワーク演習Ⅴ		2	
ソーシャルワーク演習Ⅵ		2	
ソーシャルワーク実習		8	
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		4	
医療福祉論		2	
社会福祉経営論		1	
権利擁護と成年後見概論		1	

第3類 (杏林大学学則)

更生保護概論		2		
介護福祉社論		2		
学校保健学系				
学校保健学 I		2	学校安全を含む	
学校保健学 II		2		
学校看護学		1		
健康相談 I		2		
健康相談 II		1		
健康教育学	2			
保健栄養学		2		食品学を含む
養護学概論		2		
カウシエリシ		2		
保健科指導法 I		2		
保健科指導法 II		2		
保健科教育法 I		2		
保健科教育法 II		2		
看護学 I		2		
看護学 II		2		
看護学 III		2		
看護学実習		2		
救急看護		2		
環境・食品学系				
産業保健学		2		
環境衛生工学		2		
環境科学		2		
放射線概論		2		
分析化学		2		
分析化学実験		1		
食品栄養学		2		
食品衛生学		2		
食品製造学		2		
職業適性論		2		
労働衛生法規 I		2		
労働衛生法規 II		2		
総合				
特別講義 I		2		
特別講義 II		2		
特別演習 I		1		
特別演習 II		1		
ボランティア活動		2		
フィールドスタディ I	3			

第3類（杏林大学学則）

フィールドスタディⅡ		1		
計	52	163		124単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2-10

保健学部学科目構成

（令和4年度入学生から適用）

健康福祉学科

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
人文・社会学系				10 単位以上
哲 学		2		
心 理 学		2		
日 本 国 憲 法 学		2		
社 会 倫 理 学	2	2		
生 命 倫 理 学		2		
教 育 心 理 学		2		
発 達 心 理 学		2		
芸 術 学		2		
保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		
保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅰ		2		
社 会 と 大 学 Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅲ		2		
自然科学系				6 単位以上
基 礎 数 学		1		
情 報 処 理 演 習		2		
基 礎 物 理 学		1		
基 礎 化 学		1		
無 機 化 学		2		
基 礎 生 物 学		1		
言語系				6 単位以上
英 語 Ⅰ	2			
英 語 Ⅱ	2			
英 語 Ⅲ		2		
医 学 英 語		2		
英 会 話		2		
基礎医学系				
医 学 概 論	2			
医 学 基 礎 実 習	1			
公 衆 衛 生 学 Ⅰ	2			
公 衆 衛 生 学 Ⅱ		2		
解 剖 学	2			
病 理 学		2		
生 理 学	2			

第3類（杏林大学学則）

生 化 学	2		
免 疫 学		2	
微 生 物 学	2		
微 生 物 学 实 験		1	
薬 理 学		2	
小 児 疾 患 の 病 態 学		2	
内 科 疾 患 の 病 態 学 I	2		
内 科 疾 患 の 病 態 学 II	2		
外 科 疾 患 の 病 態 学	2		
精 神 医 学		1	
救 命 救 助 法		1	
保健学・福祉学系			
健 康 福 祉 学	4		
健 康 福 祉 学 实 習	1		
疫 学		2	
小 児 保 健 学	2		
精 神 保 健 学	2		
高 齢 保 健 学		2	
健 康 ス ポ ー ツ 科 学		2	
応 用 保 健 学		2	
社 会 福 祉 学	2		
社 会 福 祉 政 策 論		2	
高 齢 者 福 祉 論		2	
障 害 者 福 祉 論		2	
児 童 福 祉 論	2		
社 会 保 障 論		4	
公 的 扶 助 論		2	
地 域 福 祉 論		4	
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 総 論 I	4		
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 総 論 II	2		
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 実 習 指 導 I	1		
社 会 調 査 概 論	1		
社会福祉学系			
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 論 I		2	
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 論 II		2	
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 演 習 I		1	
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 演 習 II		1	
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 演 習 III		2	
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 演 習 IV		2	
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 演 習 V		2	
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 演 習 VI		2	
ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 実 習		8	

第3類 (杏林大学学則)

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	4	
医療福祉論	2	
社会福祉経営論	1	
権利擁護と成年後見概論	1	
更生保護概論	2	
介護福祉論	2	
精神保健福祉学系		
社会福祉調査の基礎	2	
精神疾患とその治療	2	
精神医療	2	
現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2	
現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2	
精神保健福祉の原理Ⅰ	2	
精神保健福祉の原理Ⅱ	2	
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ(精神保健)	2	
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ(精神保健)	2	
精神障害リハビリテーション	2	
精神保健福祉制度論	2	
ソーシャルワーク演習Ⅰ(精神保健)	1	
ソーシャルワーク演習Ⅱ(精神保健)	1	
ソーシャルワーク演習Ⅲ(精神保健)	2	
ソーシャルワーク演習Ⅳ(精神保健)	2	
ソーシャルワーク演習Ⅴ(精神保健)	2	
ソーシャルワーク演習Ⅵ(精神保健)	2	
ソーシャルワーク実習指導(精神保健)	4	
ソーシャルワーク実習(精神保健)	8	
精神保健福祉特論	2	
学校保健学系		
学校保健学Ⅰ	2	学校安全を含む
学校保健学Ⅱ	2	
学校看護学	1	
健康相談Ⅰ	2	
健康相談Ⅱ	1	
健康教育学	2	
保健栄養学	2	食品学を含む
養護学概論	2	
カウンセリング	2	
保健科指導法Ⅰ	2	

第3類 (杏林大学学則)

保健科指導法	Ⅱ	2		
保健科教育法	Ⅰ	2		
保健科教育法	Ⅱ	2		
看護学	Ⅰ	2		
看護学	Ⅱ	2		
看護学	Ⅲ	2		
看護学実習	Ⅲ	2		
救急看護	Ⅲ	2		
環境・食品学系				
産業保健学		2		
環境衛生工学		2		
環境科学		2		
放射線概論		2		
分析化学		2		
分析化学実験		1		
食品栄養学		2		
食品衛生学		2		
食品製造学		2		
職業適性論		2		
労働衛生法規Ⅰ		2		
労働衛生法規Ⅱ		2		
総合				
特別講義Ⅰ		2		
特別講義Ⅱ		2		
特別演習Ⅰ		1		
特別演習Ⅱ		1		
ボランティア活動		2		
フィールドスタディⅠ	3			
フィールドスタディⅡ		1		
計	51	219		124単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2-11

保健学部学科目構成

（令和4年度入学生から適用）

看護学科看護学専攻

授業科目	単位数			備考
	必修	選択	自由	
看護師課程				
基礎分野				
人間科学系				
生命倫理学		2		「人間科学系」より 必修2単位を含めて 10単位以上
日本国憲法		2		
心理学	2			
保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		
保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
社会と大学Ⅰ		2		
社会と大学Ⅱ		2		
社会と大学Ⅲ		2		
キャリア形成論		1		
現代教育論		2		
国際看護学		1		
健康スポーツ科学		2		
自然科学系				
統計学		2		「自然科学系」より 必修2単位を含めて 6単位以上
人類遺伝学		2		
物理学概論		1		
化学概論		1		
生命科学概論		2		
情報処理論	2			
語学系				
英語Ⅰ	2			「語学系」より 必修6単位を含めて 10単位以上
英語Ⅱ	2			
英語Ⅲ		2		
英会話		2		
医学英語		2		
日本語表現法	2			
専門基礎分野				
人体の構造と機能・疾病の成り立ち				

第3類 (杏林大学学則)

形態・機能学 I	2		
形態・機能学 II	2		
代謝・栄養学	2		
薬理学	2		
感染症・免疫学	2		
病態治療論 I	2		
病態治療論 II	2		
病態治療論 III	1		
病態治療論 IV	1		
病態治療論 V	1		
病態治療論 VI	1		
健康支援と社会保障制度			
公衆衛生学	1		
健康支援と法律	1		
保健福祉行政論 I	1		
保健福祉行政論 II	2		
健康教育学	2		
産業保健学概論		1	保健師課程選択者は必修
学校保健学概論		1	
疫学と統計			
疫学	2		
保健統計	2		
基礎看護学			
基礎看護学系			
看護学概論	2		
看護援助論	1		
生活行動援助技術 I	2		
生活行動援助技術 II	2		
ヘルスアセスメント技術	1		
看護過程	1		
治療・処置の技術	2		
基礎看護学実習 I	1		
基礎看護学実習 II	2		
専門看護学			
地域・在宅看護学系			
地域・在宅看護学概論	2		

第3類 (杏林大学学則)

在宅看護学	2		
在宅看護学演習	2		
在宅看護学実習	2		
成人看護学系			
成人看護学概論	2		
成人看護学Ⅰ	2		
成人看護学Ⅱ	2		
成人看護学演習	2		
急性・周術期看護学実習	3		
慢性看護学実習	3		
高齢者看護学系			
高齢者看護学概論	2		
高齢者看護学	2		
高齢者看護学演習	1		
高齢者看護学実習Ⅰ	2		
高齢者看護学実習Ⅱ	2		
小児看護学系			
小児看護学概論	2		
小児看護学	2		
小児看護学演習	1		
小児看護学実習	2		
母性看護学系			
母性看護学概論	2		
母性看護学	2		
母性看護学演習	1		
母性看護学実習	2		
精神看護学系			
精神看護学概論	2		
精神看護学	2		
精神看護学演習	1		
精神看護学実習	2		
公衆衛生看護学系			
公衆衛生看護学概論	2		
家族相談支援論	1		
地域包括ケア実習	1		
応用看護学			

第3類（杏林大学学則）

応用看護学系			
看護研究	4		
看護管理		1	
看護倫理		1	
健康危機管理論		1	
家族看護		2	
クリティカルケア		2	
がん看護		2	
応用看護学実習	2		
特別講義	2		
保健師課程			
公衆衛生看護学			
公衆衛生看護学系			
公衆衛生看護活動方法論Ⅰ		2	
公衆衛生看護活動方法論Ⅱ		2	
公衆衛生看護活動論Ⅰ		2	
公衆衛生看護活動論Ⅱ		2	
地域診断演習		1	
地域活動支援論		1	
公衆衛生看護管理		2	
公衆衛生看護学実習Ⅰ		2	
公衆衛生看護学実習Ⅱ		3	
助産師課程			
助産学専攻			
助産学系			
助産学概論		2	
周産期医学Ⅰ		2	
周産期医学Ⅱ		1	
助産診断・技術学Ⅰ		2	
助産診断・技術学Ⅱ		2	
助産診断・技術学Ⅲ		2	
助産診断・技術学Ⅳ		1	
助産診断・技術学Ⅴ		2	
地域助産活動論		2	
助産管理学		2	
助産学特別講義		1	
			看護師課程選択者は 選択必修4単位以上
			保健師課程選択者 は必修
			助産師課程選択者 は必修

第3類（杏林大学学則）

助産学実習Ⅰ		7		
助産学実習Ⅱ		3		
助産学実習Ⅲ		1		
計	117	92		137単位以上

第3類（杏林大学学則）

（令和4年度入学生から適用）
看護学科看護養護教育学専攻

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
基礎分野				
人間科学系				
日 本 国 憲 法	2			「人間科学系」より必修6単位を含めて 10単位以上
教 育 心 理 学	2			
健 康 ス ポ ー ツ 科 学	2			
保 健 ・ 医 療 の 現 状 と 未 来 I		2		
保 健 ・ 医 療 の 現 状 と 未 来 II		2		
社 会 と 大 学 I		2		
社 会 と 大 学 II		2		
社 会 と 大 学 III		2		
自然科学系				
基 礎 生 物 学		1		「自然科学系」より必修4単位を含めて 5単位以上
情 報 処 理 論	2			
情 報 科 学	2			
生 化 学		1		
医 用 機 器 概 論		2		
語学系				
実 用 英 語 I	2			
実 用 英 語 II	2			
英 会 話	2			
日 本 語 表 現 法	2			
専門基礎分野				
人体の構造と機能・疾病の成り立ち				
解 剖 学（解剖学実習を含む）	2			
生 理 学	2			
薬 理 学	2			
感 染 症 ・ 免 疫 学	2			
栄 養 学（食品学を含む）	2			
疾 病 の 成 り 立 ち I	2			
疾 病 の 成 り 立 ち II	2			
疾 病 の 成 り 立 ち III	1			
疾 病 の 成 り 立 ち IV	1			

第3類（杏林大学学則）

疾病の成り立ち V	1		
疾病の成り立ち VI	1		
小児の疾病の成り立ち	1		
健康支援と社会保障制度			
公衆衛生学	2		
学校保健学概論	2		
健康支援と法律	1		
疫学・保健統計	2		
専門分野			
基礎看護学系			
看護学概論 I	1		
看護学概論 II	2		
看護基本技術 I	2		
看護基本技術 II	2		
看護基本技術 III	1		
フィジカルアセスメント	1		
看護過程	1		
救命救助法	1		
基礎看護学実習 I	1		
基礎看護学実習 II	2		
地域・在宅看護学系			
公衆衛生看護学概論	2		
地域・在宅看護学概論	1		
地域・在宅看護学	2		
地域・在宅看護方法	1		
地域・在宅看護学実習 I	1		
地域・在宅看護学実習 II	2		
成人看護学系			
成人看護学概論	1		
成人看護学 I	2		
成人看護学 II	2		
成人看護方法 I	1		
成人看護方法 II	1		
成人看護学実習 I	3		

第3類（杏林大学学則）

成人看護学実習Ⅱ	3		
老年看護学系			
老年看護学概論	1		
老年看護学	2		
老年看護方法	1		
老年看護学実習Ⅰ	2		
老年看護学実習Ⅱ	2		
小児看護学系			
小児看護学概論	1		
小児看護学	2		
小児看護方法	1		
小児看護学実習	2		
母性看護学系			
母性看護学概論	1		
母性看護学	2		
母性看護方法	1		
母性看護学実習	2		
精神看護学系			
精神看護学概論	2		
精神看護学	2		
精神看護学実習	2		
ヘルスプロモーション系			
子どもの発達	1		
子どもの保健	1		
学校教育環境づくり	1		
健康教育学概論	2		
養護実践学Ⅰ	2		
養護実践学Ⅱ	2		
健康相談活動	2		
ボランティア活動		1	
看護の統合と実践			
発達障害と特別支援	2		
統合看護学実習（発達障害）	2		
看護トピックス	1		
医療看護英文読解		1	
領域別ゼミナール（看護系）	2		

第3類（杏林大学学則）

領域別ゼミナール（養護系）		2		
生 命 倫 理		2		
卒 業 研 究 I	2			
卒 業 研 究 II	2			
計	128	20		133単位以上

第3類（杏林大学学則）

（令和4年度入学生から適用）

臨床検査技術学科

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
基礎分野				
人間と生活				
心 理 学		2		4 単位以上
日 本 国 憲 法		2		
保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		
保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅰ		2		
社 会 と 大 学 Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅲ		2		
科学的思考の基礎				
生 命 科 学 概 論	2			必修 2 単位を含めて 6 単位以上
数 学		2		
統 計 学		2		
物 理 学		2		
物 理 学 実 験		1		
放 射 線 概 論		2		
無 機 化 学		2		
生 物 有 機 化 学		2		
化 学 実 験		1		
生 物 学 実 験		2		
生 物 学 実 験		1		
外国語				
英 語 プレゼンテーション		2		必修 2 単位を含めて 6 単位以上
英 語 読 解		2		
保 健 医 療 英 語		2		
英 会 話		2		
医 学 英 語	2			
専門基礎分野				
公衆衛生学				
医 療 学 概 論	2			
公 衆 衛 生 学 Ⅰ	2			
公 衆 衛 生 学 Ⅱ		2		
医用工学概論				
医 療 情 報 科 学	1			
医 用 工 学 概 論	2			
医 用 工 学 実 習	1			
分 析 化 学	2			
分 析 化 学 実 習	1			

第3類 (杏林大学学則)

病態学				
解剖学	学	2		
解剖学実習	学	2		
生化学	学	2		
生化学実習	学	1		
生理学	学	2		
生理学実習	学	1		
病理学総論	学	2		
微生物学	学	2		
栄養薬理学	学	2		
専門分野				
病態学				
救命救助法	学	1		
病理学各論	学	2		
臨床病態学	学	2		
臨床検査総合演習Ⅰ	学		4	
臨床検査総合演習Ⅱ	学		2	
血液検査学				
血液学	学	2		
血液検査学	学	2		
血液検査学実習	学	2		
病理検査学				
病理検査学	学	2		
病理検査学実習	学	2		
細胞診断学	学	1		
細胞診断学実習	学	1		
尿・糞便等一般検査学				
医動物学(実習含む)	学	2		
一般検査学	学	2		
一般検査学実習	学	1		
生化学検査学				
臨床化学検査学	学	2		
生体分子検査学	学	2		
臨床化学検査学実習	学	2		
免疫検査学				
免疫学	学	2		
免疫検査学	学	2		
免疫検査学実習	学	1		
遺伝子関連・染色体検査学				
遺伝子・染色体検査学	学	2		
遺伝子・染色体検査学実習	学	1		
輸血・移植検査学				
輸血・移植検査学Ⅰ	学	2		
輸血・移植検査学Ⅱ	学	1		

第3類 (杏林大学学則)

輸血・移植検査学実習	1		
微生物検査学			
細菌検査学	2		
細菌・真菌検査学実習	2		
真菌・ウイルス検査学	2		
生理検査学			
生理検査学Ⅰ	2		
生理検査学Ⅱ	2		
生理検査学Ⅲ	2		
生理検査技術	1		
生理機能検査学実習	3		
臨床検査総合管理学			
検査管理学	2		
臨床検査概論	1		
精度管理学	1		
臨床検査基礎実習	1		
医療統計学	1		
医療安全管理学			
医療安全管理学(実習含む)	2		
臨地実習			
臨地実習		1 2	
遺伝子分析・バイオ技術			
臨床遺伝学		1	
遺伝子工学		1	
分子細胞生物学		1	
衛生学			
産業保健学		2	
環境衛生工学		2	
環境科学		2	
食品栄養学		2	
食品衛生学		2	
食品製造学		2	
職業適性論		2	
労働衛生法規Ⅰ		2	
労働衛生法規Ⅱ		2	
データサイエンス			
データサイエンスリテラシー		2	
医用画像AI解析		2	
医療データマイニング		2	
細胞検査士養成課程			
入門細胞診断学演習		1	
細胞診断学演習Ⅰ		1	
細胞診断学演習Ⅱ		1	
細胞診断学演習Ⅲ		1	

細胞検査士養成課程
選択者は必修

第3類（杏林大学学則）

細胞診断学演習Ⅳ		1		
臨床細胞診断学		4		
総合領域				
卒業研究		4		細胞検査士養成課程選択者以外は必修
特別演習		1		
計	95	100		124単位以上

第3類（杏林大学学則）

（令和4年度入学生から適用）

診療放射線技術学科

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
基礎分野				
人間と生活				
心 理 学		2		4 単位以上
日 本 国 憲 法		2		
こ と ば と 社 会		2		
保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		
保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅰ		2		
社 会 と 大 学 Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅲ		2		
科学的思考の基礎				
基 礎 数 学		1		必修12単位を含めて 14単位以上
微 分 積 分 学	1			
応 用 数 学	1			
基 礎 物 理 学 Ⅰ	1			
基 礎 物 理 学 Ⅱ	1			
計 算 機 演 習	1			
統 計 学 演 習	1			
基 礎 化 学	1			
無 機 化 学		2		
生 物 有 機 化 学		2		
基 礎 生 物 学	1			
生 命 科 学 概 論		2		
遺 伝 学		2		
基 礎 画 像 工 学	2			
基 礎 科 学 実 験 Ⅰ	1			
基 礎 科 学 実 験 Ⅱ	1			
外国語				
英語プレゼンテーション		2		必修2単位を含めて 6単位以上
英 語 読 解		2		
保 健 医 療 英 語		2		
英 会 話		2		
医 学 英 語	2			
専門基礎分野				
人体の構造と機能および疾病の成り立ち				
解 剖 学	2			
臨 床 生 理 学	2			
臨 床 生 理 学 実 習	1			
生 化 学		2		
感 染 症 ・ 免 疫 学	2			

第3類 (杏林大学学則)

薬理学	2		
公衆衛生学	2		
疾病の成り立ちⅠ(感覚器系・脳神経・脳血管系)	2		
疾病の成り立ちⅡ(消化器系・腎泌尿器系)	2		
疾病の成り立ちⅢ(呼吸器系)	2		
疾病の成り立ちⅣ(循環器系)	2		
救命救助法	1		
保健医療福祉における理工学の基礎並びに放射線の科学および技術			
医用電気工学	2		
医用電子工学	1		
放射線生物学	2		
放射線生物学演習	1		
放射線物理学Ⅰ	2		
放射線物理学Ⅱ	2		
放射線物理学演習	1		
放射化学	2		
放射化学演習	1		
放射線計測学	2		
放射線計測学演習	1		
放射線計測学実験	1		
放射線線量測定学	1		
専門分野			
診療画像技術学・臨床画像学			
診療画像検査技術学概論	1		
診療画像検査技術学Ⅰ	2		
診療画像検査技術学Ⅱ	2		
診療画像検査技術学Ⅲ	2		
診療画像検査技術学実習Ⅰ	1		
診療画像検査技術学実習Ⅱ	1		
診療画像検査機器学Ⅰ	2		
診療画像検査機器学Ⅱ	2		
診療画像検査機器学Ⅲ	2		
診療画像検査機器学実習	1		
臨床画像学Ⅰ	2		
臨床画像学Ⅱ	2		
臨床画像学演習	1		
乳房検査技術学	1		
救急撮影技術学	1		
MRI検査技術学	1		
マクロ解剖画像診断学	1		
核医学検査技術学			
核医学検査技術学Ⅰ	2		
核医学検査技術学Ⅱ	2		
核医学検査機器学	2		

必修15単位を含めて
18単位以上

第3類 (杏林大学学則)

放射线医薬品学	1			
核医学検査技術学実習	1			
放射線治療技術学				
放射線治療技術学Ⅰ	2			
放射線治療技術学Ⅱ	2			
放射線腫瘍学	2			
放射線治療機器学	1			
放射線治療技術学実習	1			
医療画像情報学				
医療画像情報学Ⅰ	2			
医療画像情報学Ⅱ	2			
医療画像工学	2			
医療画像情報学実習Ⅰ	1			
医療画像情報学実習Ⅱ	1			
放射線安全管理学				
放射線安全管理学	2			
放射線安全管理学演習		1		
放射線安全管理学実習	1			
放射線関係法規	2			
医療安全管理学				
医療安全管理学	2			
実践臨床画像学				
実践臨床画像学	2			
実践臨床画像学実習	1			
臨床実習				
画像検査技術学臨床実習	8			
核医学検査技術学臨床実習	2			
放射線治療技術学臨床実習	2			
総合領域				
医療総合演習	2			
医用統計学演習		1		
原書講読		1		
臨床実習総合演習		1		
診療放射線国際事情		1		
卒業研究	4			
計	119	51		132 単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表2-12

保健学部学科目構成

（令和5年度入学生から適用）
リハビリテーション学科理学療法学専攻

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
基礎分野				「基礎分野」より 必修8単位を含めて 14単位以上
人間科学系				
心 理 学		2		
生 命 倫 理 学		2		
芸 術		2		
社 会 福 祉 学		2		
発 達 心 理 学		2		
職 業 適 性 論		2		
日 本 国 憲 法		2		
日 本 語 学		2		
こ と ば と 社 会		2		
保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		
保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅰ		2		
社 会 と 大 学 Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅲ		2		
自然科学系				
数 学		2		
統 計 学		2		
情 報 処 理 論	2			
基 礎 物 理 学		1		
基 礎 化 学		1		
生 化 学 概 論		2		
基 礎 生 物 学		1		
生 命 科 学 概 論		2		
語学系				
英語プレゼンテーション	2			
英 語 読 解	2			
保 健 医 療 英 語		2		
英 会 話		2		
医 学 英 語		2		

第3類 (杏林大学学則)

日本語表現法	2		
専門基礎分野			
医学系			
解剖学	2		
リハビリテーション解剖学	1		
解剖学実習	1		
リハビリテーション解剖学実習	1		
生理学 I	2		
生理学 II	1		
生理学実習	1		
リハビリテーション基礎医学	2		
リハビリテーション基礎医学演習	1		
病理学概論	1		
人間発達学	2		
臨床心理学	1		
精神医学	2		
内科学 I	2		
内科学 II		2	
小児科学	1		
神経内科学	2		
外科学		1	
整形外科学	2		
脳神経外科学	1		
感染症・免疫学		2	
薬理学		1	
栄養学		1	
リハビリテーション概論	1		
リハビリテーション医学	1		
保健学・衛生学系			
公衆衛生学 I	2		
公衆衛生学 II		2	
産業保健学		2	
環境衛生工学		2	
救命救助法		1	
労働衛生法規 I		2	
労働衛生法規 II		2	
専門分野			

「医学系」より
必修28単位を含めて
31単位以上

「保健・衛生学系」より
必修2単位を含めて
4単位以上

第3類（杏林大学学則）

基礎理学療法学系			
理学療法概論	1		
理学療法用語論		1	
運動学	2		
運動学演習	1		
運動学実習	1		
病態運動学演習		1	
運動解剖学演習	1		
理学療法評価学系			
理学療法評価学概論	1		
理学療法評価学演習Ⅰ	1		
理学療法評価学演習Ⅱ	1		
理学療法評価学実習	1		
動作分析学演習	1		
高次脳機能障害学	1		
理学療法治療学系			
理学療法治療学総論		1	
運動療法学	1		
運動療法学実習	1		
物理療法学	1		
物理療法学実習	1		
義肢装具学	1		
義肢装具学実習	1		
日常生活技術学	1		
日常生活技術学実習	1		
運動器障害系理学療法学	2		
運動器障害系理学療法学演習	1		
神経障害系理学療法学	2		
神経障害系理学療法学演習	1		
内部障害系理学療法学	2		
内部障害系理学療法学演習	1		
小児理学療法学	2		
小児理学療法学演習	1		
高齢者理学療法学演習	1		
急性期理学療法学		1	
スポーツ障害理学療法学		1	
			「専門分野」より 必修69単位を含めて 76単位以上

第3類（杏林大学学則）

徒手理学療法学演習		1		
臨床理学療法学実習	2			
臨床理学療法推論学演習		1		
理学療法管理学系				
理学療法管理学	2			
地域理学療法学系				
地域理学療法学	2			
生活環境学	1			
理学療法国際事情		1		
臨床実習系				
見学実習	1			
評価実習Ⅰ	2			
評価実習Ⅱ	4			
地域理学療法実習	1			
総合臨床実習	14			
総合領域				
障害者スポーツ演習		1		
理学療法統計学演習		1		
理学療法研究法		1		
理学療法解析手法演習		1		
応用理学療法学演習	1			
基礎理学療法学演習Ⅰ	2			
基礎理学療法学演習Ⅱ	2			
卒業研究	2			
計	107	75		125 単位以上

第3類（杏林大学学則）

（令和5年度入学生から適用）

リハビリテーション学科作業療法学専攻

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
基礎分野				
人間科学系				「人間科学系」より 必修2単位を含めて 6単位以上
心理学	2			
生命倫理学		2		
芸術学		2		
社会福祉学		2		
発達心理学		2		
職業適性論		2		
日本国憲法		2		
日本語学		2		
ことばと社会		2		
保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		
保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
社会と大学Ⅰ		2		
社会と大学Ⅱ		2		
社会と大学Ⅲ		2		
自然科学系				「自然科学系」より 必修2単位を含めて 8単位以上
数学		2		
統計学		2		
情報処理論	2			
基礎物理学		1		
物理学概論		2		
基礎化学		1		
生化学概論		2		
基礎生物学		1		
生命科学概論		2		
分子生物学		2		
人類遺伝学		2		
語学系				「語学系」より 必修4単位を含めて 8単位以上
英語プレゼンテーション	2			
英語読解	2			
保健医療英語		2		
英会話		2		

第3類 (杏林大学学則)

医 学 英 語	2	
日 本 語 表 現 法	2	
専門基礎分野		
医学系		
解 剖 学	2	
リハビリテーション解剖学	1	
解 剖 学 実 習	1	
リハビリテーション解剖学実習	1	
生 理 学 I	2	
生 理 学 II	1	
生 理 学 実 習	1	
運 動 学	2	
運 動 学 実 習	1	
病 態 運 動 学 実 習	1	1
病 理 学	1	
人 間 発 達 学	1	
リハビリテーション概論	1	
臨 床 心 理 学 概 論	1	
精 神 医 学	2	「医学系」より
内 科 学 I	2	必修29単位を含めて
内 科 学 II	2	30単位以上
小 児 科 学	1	
神 経 内 科 学	2	
外 科 学	1	
整 形 外 科 学	2	
脳 神 経 外 科 学	1	
リハビリテーション医学	1	
感 染 症 ・ 免 疫 学	2	
薬 理 学	1	
栄 養 学	1	
保健学・衛生学系		
産 業 保 健 学	2	
公 衆 衛 生 学 I	2	「保健学・衛生学系」より
公 衆 衛 生 学 II	2	必修3単位を含めて
環 境 衛 生 工 学	2	5単位以上
救 命 救 助 法	1	
労 働 衛 生 法 規 I	2	

第3類 (杏林大学学則)

労働衛生法規Ⅱ		2	
専門分野			
基礎作業療法学系			
作業療法学概論	1		
基礎作業学概論	1		
基礎作業学実習	1		
作業分析学	1		
作業分析学演習	1		
作業療法諸理論		1	
作業療法評価学系			
作業療法評価学Ⅰ(総論)	1		
作業療法評価学Ⅱ(疾患別)	1		
作業療法評価学実習Ⅰ(中枢神経障害)	1		
作業療法評価学実習Ⅱ(発達、精神障害)	1		
作業療法評価学実習Ⅲ(老年期障害)	1		
認知機能評価法		1	
作業療法治療学系			
身体障害作業療法学Ⅰ	1		
身体障害作業療法学Ⅱ	1		
身体障害作業療法学演習	1		
高次脳機能障害作業療法学	1		
精神障害作業療法学Ⅰ	1		
精神障害作業療法学Ⅱ	1		
精神障害作業療法学演習	1		
発達障害作業療法学Ⅰ	1		
発達障害作業療法学Ⅱ	1		
発達障害作業療法学演習	1		
老年期障害作業療法学	1		
認知障害作業療法学	1		
職業関連作業療法学	1		
高次機能代償学		1	
義肢装具学	1		
義肢装具学実習	1		
福祉用具適応学	1		
日常生活活動学Ⅰ(総論)	1		
日常生活活動学Ⅱ(疾患別)	1		
バリアフリー概論		1	
			「専門分野」より 必修67単位を含めて 68単位以上

第3類（杏林大学学則）

レクリエーション概論		1		
クリニカルリーズニング		1		
ハンドセラピー概論	1			
作業療法管理学系				
作業療法管理学	2			
地域作業療法学系				
地域生活作業療法学	1			
地域ケアシステム学	1			
住環境整備学	1			
地域生活作業療法学演習	1			
作業療法国際事情		1		
臨床実習系				
見学実習	1			
評価実習 I	1			
評価実習 II	4			
総合臨床実習	16			
地域・訪問実習	1			
総合領域				
作業療法学演習 I	1			
作業療法学演習 II	1			
作業療法学演習 III	1			
作業療法学演習 IV	2			
卒業研究 I	1			
卒業研究 II	3			
計	107	74		125 単位以上

第3類（杏林大学学則）

（令和5年度入学生から適用）
リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻

授 業 科 目	単 位 数			備 考
	必 修	選 択	自 由	
基礎分野				「基礎分野」より 必修10単位を含めて 13単位以上
人文・社会科学系				
生 命 倫 理 学		2		
芸 術 学		2		
職 業 適 性 論		2		
こ と ば と 社 会		2		
日 本 国 憲 法		2		
教 育 学	2			
保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		
保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅰ		2		
社 会 と 大 学 Ⅱ		2		
社 会 と 大 学 Ⅲ		2		
自然科学系				
数 学		2		
統 計 学	2			
情 報 処 理 論	2			
基 礎 物 理 学		1		
物 理 学 概 論		2		
基 礎 化 学		1		
生 化 学 概 論		2		
基 礎 生 物 学		1		
生 命 科 学 概 論		2		
人 類 遺 伝 学		2		
語学系				
英 語 プレゼンテーション	2			
英 語 読 解	2			
保 健 医 療 英 語		2		
英 会 話		2		
医 学 英 語		2		
専門基礎分野				
言語聴覚基礎系				
言 語 の 表 現 法	2			
言 語 学	2			

第3類 (杏林大学学則)

音 声 学	2			
音響学・聴覚心理学	2			
言語発達学	2			
心理言語学	2			
基礎医学系				
医学総論	1			
解剖学	2			
解剖学実習	1			
生理学 I	2			
生理学 II		1		
生理学実習		1		
病理学		2		
人間発達学		1		
運動学		2		
運動学実習		1		
病態運動学実習		1		
衛生学 I	2			
衛生学 II		2		
臨床医学系				
精神医学	2			
臨床神経学	1			
内科学 I	2			
内科学 II		2		
小児科学	1			
神経内科学	2			
外科学		1		
耳鼻咽喉科学	2			
形成外科学	1			
臨床歯科医学	1			
口腔外科学	1			
脳神経外科学	1			
リハビリテーション医学	1			
感染症・免疫学		2		
薬理学		1		
栄養学		1		
救命救助法	1			
音声・言語・聴覚医学系				
呼吸発声発語系の構造・機能・病態	1			

「専門基礎分野」より
必修5.1単位を含めて
5.5単位以上

第3類 (杏林大学学則)

聴覚系の構造・機能・病態	1			
神経系の構造・機能・病態	2			
心理系				
臨床心理学概論	2			
学習・言語心理学	2			
生涯発達心理学	2			
心理的アセスメント	2			
地域包括支援・社会福祉・教育系				
社会福祉学	2			
リハビリテーション概論	1			
専門分野				
言語聴覚基礎系				
言語聴覚障害学概論	1			
言語聴覚障害診断学	1			
言語聴覚障害の評価診断・治療				
高次脳機能障害学	2			
失語・高次脳機能障害学Ⅰ	2			
失語・高次脳機能障害学演習Ⅰ	1			
失語・高次脳機能障害学Ⅱ	2			
失語・高次脳機能障害学演習Ⅱ	1			
言語発達障害学Ⅰ	2			
言語発達障害学演習Ⅰ	1			
言語発達障害学Ⅱ	2			
言語発達障害学演習Ⅱ	1			
音声障害学	2			
構音障害学Ⅰ	2			
構音障害学Ⅱ	2			
構音障害学演習	1			
吃音学	1			
摂食嚥下障害学	2			
摂食嚥下障害学演習	1			
聴覚障害学Ⅰ(成人・重複障害含む)	2			
聴覚障害学演習Ⅰ	1			
聴覚障害学Ⅱ(小児)	2			
聴覚障害学演習Ⅱ	1			
聴覚補償論(補聴器・人工内耳)	1			
言語聴覚療法マネジメント				

第3類（杏林大学学則）

言語聴覚療法管理学	2			
臨床実習系				
見学実習	1			
評価実習	4			
総合実習	10			
総合領域				
臨床言語聴覚療法演習	1			
総合言語聴覚療法演習	1			
言語聴覚学研究法	1			
卒業研究	3			
計	118	57		125 単位以上

第3類（杏林大学学則）

別表3-1（平成22年度入学生から適用）

総合政策学部学科目構成

総合政策学科

1 基礎教養科目

授業科目の名称	単位数			備考
	必修	選択	自由	
社会のしくみ I	2			8単位以上
社会のしくみ II	2			
近現代史論		2		
読解力演習		2		
文章力演習		2		
計算力演習		2		
国語力演習		2		

2 専門科目

授業科目の名称	単位数			備考
	必修	選択	自由	
共通科目	国際関係論 I		2	32単位以上
	国際関係論 II		2	
	経済原論 I		2	
	経済原論 II		2	
	憲法 I		2	
	憲法 II		2	
	民法総論 I		2	
	民法総論 II		2	
	日本政治論 I		2	
	日本政治論 II		2	
	社会福祉学 I		2	
	社会福祉学 II		2	
	環境保全論 I		2	
	環境保全論 II		2	
	健康科学 I		2	
	健康科学 II		2	
	財政金融論 I		2	
	財政金融論 II		2	

第3類 (杏林大学学則)

	外交政策論 I	2	
	外交政策論 II	2	
	刑事法概論 I	2	
	刑事法概論 II	2	
	ヒューマンエコロジー I	2	
	ヒューマンエコロジー II	2	
国際政経 コース 基本科目	国際協力論 I	2	16単位以上
	国際協力論 II	2	
	国際政治学 I	2	
	国際政治学 II	2	
	経済政策論 I	2	
	経済政策論 II	2	
	国際貿易論 I	2	
	国際貿易論 II	2	
	国際金融論 I	2	
	国際金融論 II	2	
	日本経済論	2	
	アジア経済論	2	
	アメリカ経済論	2	
	ヨーロッパ経済論	2	
	世界経済論	2	
	国際投資論	2	
	経済開発論	2	
	国際経営論	2	
	環境経済学 I	2	
	環境経済学 II	2	
	環境政策論	2	
	国際法 I	2	
	国際法 II	2	
	国際政治史	2	
	比較政治学	2	
	アジア政治論	2	
	アメリカ政治論	2	
	ロシア政治論	2	
	ヨーロッパ政治論	2	
	資源エネルギー論	2	

第3類 (杏林大学学則)

国際政経 コース 発展科目	経 営 学 総 論 I	2	34 単位以上
	経 営 学 総 論 II	2	
	マ ー ケ テ ィ ン グ 総 論 I	2	
	マ ー ケ テ ィ ン グ 総 論 II	2	
	基 礎 簿 記 I	2	
	基 礎 簿 記 II	2	
	キ ャ リ ア 開 発 論 I	2	
	キ ャ リ ア 開 発 論 II	2	
	憲 法 概 論	2	
	民 法 概 論	2	
	政 治 学 概 論	2	
	経 済 原 論 演 習	2	
	憲 法 演 習	2	
	民 法 演 習	2	
	行 政 法 演 習	2	
	行 政 学 演 習	2	
	政 治 学 演 習	2	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ I	2	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ II	2	
	キ ャ リ ア 開 発 演 習 I	2	
	キ ャ リ ア 開 発 演 習 II	2	
	学 際 演 習 I	2	
	学 際 演 習 II	2	
	学 際 演 習 III	2	
	学 際 演 習 IV	2	
	演 習 究	8	
	卒 業 研 究	4	
法律行政 コース 基本科目	物 権 法 I	2	16 単位以上
	物 権 法 II	2	
	家 族 法 I	2	
	家 族 法 II	2	
	刑 法 I	2	
	刑 法 II	2	
	行 政 学 I	2	
	行 政 学 II	2	
公 共 選 択 論 I	2		

第3類 (杏林大学学則)

	公 共 選 択 論 II		2	
	行 政 法 I		2	
	行 政 法 II		2	
	債 権 法 I		2	
	債 権 法 II		2	
	労 働 法 I		2	
	労 働 法 II		2	
	会 社 法 I		2	
	会 社 法 II		2	
	民 事 訴 訟 法		2	
	刑 事 訴 訟 法		2	
	経 済 刑 法		2	
	医 事 法 総 論		2	
	医 事 法 各 論		2	
	企 業 法 総 論		2	
	企 業 取 引 法		2	
	税 法 I		2	
	税 法 II		2	
	基 礎 簿 記 I		2	
	基 礎 簿 記 II		2	
	国 際 法 I		2	
	国 際 法 II		2	
	環 境 法		2	
	情 報 法 制		2	
法律行政 コース 発展科目	年 金 ・ 労 働 保 険 法		2	
	比 較 政 治 学		2	
	日 本 法 制 史		2	
	日 本 政 治 史		2	
	政 策 過 程 論		2	
	立 法 過 程 論		2	
	地 方 政 府 論		2	
	キ ャ リ ア 開 発 論 I		2	
	キ ャ リ ア 開 発 論 II		2	
	憲 法 概 論		2	
	民 法 概 論		2	
	政 治 学 概 論		2	
				34 単位以上

第3類（杏林大学学則）

	経済原論演習	2	
	憲法演習	2	
	民法演習	2	
	行政法演習	2	
	行政学演習	2	
	政治学演習	2	
	インターンシップⅠ	2	
	インターンシップⅡ	2	
	キャリア開発演習Ⅰ	2	
	キャリア開発演習Ⅱ	2	
	学際演習Ⅰ	2	
	学際演習Ⅱ	2	
	学際演習Ⅲ	2	
	学際演習Ⅳ	2	
	演習	8	
	卒業研究	4	
環境福祉 コース 基本科目	社会保障論Ⅰ	2	16単位以上
	社会保障論Ⅱ	2	
	環境科学概論Ⅰ	2	
	環境科学概論Ⅱ	2	
	保健医療システム論Ⅰ	2	
	保健医療システム論Ⅱ	2	
	障害者・老人福祉論Ⅰ	2	
	障害者・老人福祉論Ⅱ	2	
	環境経済学Ⅰ	2	
	環境経済学Ⅱ	2	
	環境保健学	2	
	カウンセリング論	2	
	社会福祉政策論	2	
	児童福祉論	2	
	社会福祉援助技術総論Ⅰ	2	
	社会福祉援助技術総論Ⅱ	2	
	経済政策論Ⅰ	2	
	経済政策論Ⅱ	2	
	環境政策論	2	
	資源エネルギー論	2	

第3類（杏林大学学則）

環境福祉 コース 発展科目	産 業 社 会 学 I	2	— 34 単位以上
	産 業 社 会 学 II	2	
	経 営 戦 略 論 I	2	
	経 営 戦 略 論 II	2	
	国 際 協 力 論 I	2	
	国 際 協 力 論 II	2	
	医 事 法 総 論	2	
	医 事 法 各 論	2	
	環 境 法	2	
	年 金 ・ 労 働 保 険 法	2	
	労 働 法 I	2	
	労 働 法 II	2	
	経 営 学 総 論 I	2	
	経 営 学 総 論 II	2	
	マ ー ケ テ ィ ン グ 総 論 I	2	
	マ ー ケ テ ィ ン グ 総 論 II	2	
	基 礎 簿 記 I	2	
	基 礎 簿 記 II	2	
	キ ャ リ ア 開 発 論 I	2	
	キ ャ リ ア 開 発 論 II	2	
	憲 法 概 論	2	
	民 法 概 論	2	
	政 治 学 概 論	2	
	経 済 原 論 演 習	2	
	憲 法 演 習	2	
	民 法 演 習	2	
	行 政 法 演 習	2	
	行 政 学 演 習	2	
	政 治 学 演 習	2	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ I	2	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ II	2	
	キ ャ リ ア 開 発 演 習 I	2	
	キ ャ リ ア 開 発 演 習 II	2	
	学 際 演 習 I	2	
学 際 演 習 II	2		
学 際 演 習 III	2		

第3類（杏林大学学則）

学際演習	IV	2	
演習		8	
卒業研究		4	

3 専門関連科目

授業科目の名称		単位数			備考
		必修	選択	自由	
人文科学分野	宗 教 学 A		2		16 単位以上
	宗 教 学 B		2		
	哲 学 A		2		
	哲 学 B		2		
	倫 理 学 A		2		
	倫 理 学 B		2		
	歴 史 学 A		2		
	歴 史 学 B		2		
	文 学 A		2		
	文 学 B		2		
	音 楽 A		2		
	音 楽 B		2		
人 文 科 学 概 論		2			
社会科学分野	社 会 学 A		2		
	社 会 学 B		2		
	法 学 A		2		
	法学B(日本国憲法)		2		
	政 治 学 A		2		
	政 治 学 B		2		
	地 理 学 A		2		
	地 理 学 B		2		
	経 済 学 A		2		
	経 済 学 B		2		
自然科学	数 学 A		2		
	数 学 B		2		
	統 計 学 A		2		
	統 計 学 B		2		
	物 理 学 A		2		
	物 理 学 B		2		

第3類（杏林大学学則）

	分野	化学 A	2		
		化学 B	2		
		生物学 A	2		
		生物学 B	2		
		心理学 A	2		
		心理学 B	2		
		自然科学概論	2		
2類	第1 外国語	英語 I	2		留学生のみ
		英語 II	2		
		日本語 A	2		
		日本語 B	2		
	第2 外国語	発展英語 A	2		最大8単位まで 発展科目に繰り 入れる
		発展英語 B	2		
		ドイツ語 A	2		
		ドイツ語 B	2		
		フランス語 A	2		
		フランス語 B	2		
		スペイン語 A	2		
		スペイン語 B	2		
		中国語 A	2		
		中国語 B	2		
韓国語 A	2				
韓国語 B	2				
3類		プレゼミナール A	2		
		プレゼミナール B	2		
		基礎演習 I	2		
		基礎演習 II	2		
		特別演習 I	2		
		特別演習 II	2		
		特別演習 III	2		
		特別演習 IV	2		
		特別演習 V	2		
		特別演習 VI	2		
		プロジェクト演習 I	2		
		プロジェクト演習 II	2		
		プロジェクト演習 III	2		

第3類（杏林大学学則）

	プロジェクト演習Ⅳ		2		
4 類	体育実技 A		1		
	体育実技 B		1		
	体育理論		2		
自由科目					

4 教職課程教科に関する科目

授業科目の名称	単位数			備考
	必修	選択	自由	
日本史Ⅰ			2	
日本史Ⅱ			2	
外国史Ⅰ			2	
外国史Ⅱ			2	
地誌学Ⅰ			2	
地誌学Ⅱ			2	

企業経営学科

1 基礎教養科目

授業科目の名称	単位数			備考
	必修	選択	自由	
社会のしくみⅠ	2			8単位以上
社会のしくみⅡ	2			
近現代史論		2		
読解力演習		2		
文章力演習		2		
計算力演習		2		
国語力演習		2		

2 専門科目

授業科目の名称	単位数			備考
	必修	選択	自由	
経営学総論Ⅰ		2		
経営学総論Ⅱ		2		
マーケティング総論Ⅰ		2		

第3類（杏林大学学則）

共通科目	マーケティング総論Ⅱ		2	32単位以上
	経営情報論Ⅰ		2	
	経営情報論Ⅱ		2	
	キャリア開発論Ⅰ		2	
	キャリア開発論Ⅱ		2	
	基礎簿記Ⅰ		2	
	基礎簿記Ⅱ		2	
	商業簿記Ⅰ		2	
	商業簿記Ⅱ		2	
	財務会計論Ⅰ		2	
	財務会計論Ⅱ		2	
	会社法Ⅰ		2	
	会社法Ⅱ		2	
	経営管理総論Ⅰ		2	
	経営管理総論Ⅱ		2	
	人材マネジメント論Ⅰ		2	
	人材マネジメント論Ⅱ		2	
	工業簿記Ⅰ		2	
工業簿記Ⅱ		2		
基礎簿記各論Ⅰ		2		
基礎簿記各論Ⅱ		2		
経営戦略 コース 基本科目	経営史Ⅰ		2	16単位以上
	経営史Ⅱ		2	
	経営戦略論Ⅰ		2	
	経営戦略論Ⅱ		2	
	財務管理論Ⅰ		2	
	財務管理論Ⅱ		2	
	流通システム論Ⅰ		2	
	流通システム論Ⅱ		2	
	経営組織論Ⅰ		2	
	経営組織論Ⅱ		2	
	中小企業経営論		2	
	国際経営論		2	
	産業社会学Ⅰ		2	
	産業社会学Ⅱ		2	

第3類 (杏林大学学則)

	財務会計各論 I	2	
	財務会計各論 II	2	
	商業簿記各論 I	2	
	商業簿記各論 II	2	
	工業簿記各論 I	2	
	工業簿記各論 II	2	
	税法 I	2	
	税法 II	2	
	労働法 I	2	
	労働法 II	2	
	企業法総論	2	
	企業取引法	2	
	行政法 I	2	
	行政法 II	2	
	経済刑法	2	
	年金・労働保険法	2	
	国際法 I	2	
	国際法 II	2	
経営戦略	行政学 I	2	
コース	行政学 II	2	— 34単位以上
発展科目	国際政治学 I	2	
	国際政治学 II	2	
	経済原論 I	2	
	経済原論 II	2	
	財政金融論 I	2	
	財政金融論 II	2	
	憲法概論	2	
	民法概論	2	
	政治学概論	2	
	経済原論演習	2	
	憲法演習	2	
	民法演習	2	
	行政法演習	2	
	行政学演習	2	
	政治学演習	2	
	インターンシップ I	2	

第3類 (杏林大学学則)

	インターンシップ II		2		
	キャリア開発演習 I		2		
	キャリア開発演習 II		2		
	学際演習 I		2		
	学際演習 II		2		
	学際演習 III		2		
	学際演習 IV		2		
	演習		8		
	卒業研究		4		
経営会計 コース 基本科目	財務会計各論 I		2	16 単位以上	
	財務会計各論 II		2		
	商業簿記各論 I		2		
	商業簿記各論 II		2		
	工業簿記各論 I		2		
	工業簿記各論 II		2		
	税法 I		2		
	税法 II		2		
	労働法 I		2		
労働法 II		2			
	産業社会学 I		2		
	産業社会学 II		2		
	流通システム論 I		2		
	流通システム論 II		2		
	中小企業経営論		2		
	国際経営論		2		
	経営組織論 I		2		
	経営組織論 II		2		
	経営戦略論 I		2		
	経営戦略論 II		2		
	財務管理論 I		2		
	財務管理論 II		2		
	経営史 I		2		
	経営史 II		2		
	企業法総論		2		
	企業取引法		2		
	家族法 I		2		

第3類 (杏林大学学則)

経営会計 コース 発展科目	家 族 法	II	2	34単位以上
	行 政 法	I	2	
	行 政 法	II	2	
	税 法 各 論	I	2	
	税 法 各 論	II	2	
	経 済 刑 法		2	
	年 金・労 働 保 険 法		2	
	国 際 法	I	2	
	国 際 法	II	2	
	行 政 学	I	2	
	行 政 学	II	2	
	国 際 政 治 学	I	2	
	国 際 政 治 学	II	2	
	経 済 原 論	I	2	
	経 済 原 論	II	2	
	財 政 金 融 論	I	2	
	財 政 金 融 論	II	2	
	憲 法 概 論		2	
	民 法 概 論		2	
	政 治 学 概 論		2	
	経 済 原 論 演 習		2	
	憲 法 演 習		2	
	民 法 演 習		2	
	行 政 法 演 習		2	
	行 政 学 演 習		2	
	政 治 学 演 習		2	
	インターンシップ	I	2	
	インターンシップ	II	2	
	キャリア開発演習	I	2	
	キャリア開発演習	II	2	
	学 際 演 習	I	2	
	学 際 演 習	II	2	
	学 際 演 習	III	2	
	学 際 演 習	IV	2	
演 習		8		
卒 業 研 究		4		

第3類（杏林大学学則）

3 専門関連科目

授業科目の名称		単位数			備考
		必修	選択	自由	
1 類	人文科学 分野	宗 教 学 A		2	16 単位以上
		宗 教 学 B		2	
		哲 学 A		2	
		哲 学 B		2	
		倫 理 学 A		2	
		倫 理 学 B		2	
		歴 史 学 A		2	
		歴 史 学 B		2	
		文 学 A		2	
		文 学 B		2	
		音 楽 A		2	
		音 楽 B		2	
		人 文 科 学 概 論		2	
	社会科学 分野	社 会 学 A		2	
		社 会 学 B		2	
		法 学 A		2	
		法学B(日本国憲法)		2	
		政 治 学 A		2	
		政 治 学 B		2	
		地 理 学 A		2	
		地 理 学 B		2	
		経 済 学 A		2	
		経 済 学 B		2	
	自然科学 分野	数 学 A		2	
		数 学 B		2	
		統 計 学 A		2	
		統 計 学 B		2	
		物 理 学 A		2	
		物 理 学 B		2	
		化 学 A		2	
化 学 B			2		
生 物 学 A			2		
生 物 学 B			2		

第3類（杏林大学学則）

		心理学 A		2		
		心理学 B		2		
		自然科学概論		2		
2類	第1 外国語	英語 I	2			— 留学生のみ
		英語 II	2			
		日本語 A	2			
		日本語 B	2			
	第2 外国語	発展英語 A		2		— 最大8単位まで 発展科目に繰り 入れる
		発展英語 B		2		
		ドイツ語 A		2		
		ドイツ語 B		2		
		フランス語 A		2		
		フランス語 B		2		
		スペイン語 A		2		
		スペイン語 B		2		
		中国語 A		2		
		中国語 B		2		
韓国語 A		2				
韓国語 B		2				
3類	プレゼミナール A	2				
	プレゼミナール B	2				
	基礎演習 I		2			
	基礎演習 II		2			
	特別演習 I		2			
	特別演習 II		2			
	特別演習 III		2			
	特別演習 IV		2			
	特別演習 V		2			
	特別演習 VI		2			
	プロジェクト演習 I		2			
	プロジェクト演習 II		2			
	プロジェクト演習 III		2			
	プロジェクト演習 IV		2			
4類	体育実技 A		1			
	体育実技 B		1			
	体育理論		2			

第3類（杏林大学学則）

自由科目					
------	--	--	--	--	--

4 教職課程教科に関する科目

授業科目の名称	単位数			備考
	必修	選択	自由	
日 本 史 I			2	
日 本 史 II			2	
外 国 史 I			2	
外 国 史 II			2	
地 誌 学 I			2	
地 誌 学 II			2	
職 業 指 導			2	

第3類（杏林大学学則）

別表3-2（平成26年度入学生から適用）

総合政策学部学科目構成

総合政策学科

1 基礎教養科目

授業科目の名称	単位数			備考
	必修	選択	自由	
社会のしくみ I	2			8単位以上
社会のしくみ II	2			
地域と大 学	2			
近現代史論		2		
読解力演習		2		
文章力演習		2		
計算力演習		2		
国語力演習		2		

2 専門科目

授業科目の名称	単位数			備考
	必修	選択	自由	
共通科目	国際関係論 I		2	32単位以上
	国際関係論 II		2	
	経済原論 I		2	
	経済原論 II		2	
	憲法 I		2	
	憲法 II		2	
	民法総論 I		2	
	民法総論 II		2	
	日本政治論 I		2	
	日本政治論 II		2	
	社会福祉学 I		2	
	社会福祉学 II		2	
	環境保全論 I		2	
	環境保全論 II		2	
	健康科学 I		2	
	健康科学 II		2	
	財政金融論 I		2	

第3類 (杏林大学学則)

	財 政 金 融 論 II		2		
	外 交 政 策 論 I		2		
	外 交 政 策 論 II		2		
	刑 事 法 概 論 I		2		
	刑 事 法 概 論 II		2		
	ヒューマンエコロジー I		2		
	ヒューマンエコロジー II		2		
国際政経 コース 基本科目	国 際 協 力 論 I		2	16 単位以上	
	国 際 協 力 論 II		2		
	国 際 政 治 学 I		2		
	国 際 政 治 学 II		2		
	経 済 政 策 論 I		2		
	経 済 政 策 論 II		2		
	国 際 貿 易 論 I		2		
	国 際 貿 易 論 II		2		
	国 際 金 融 論 I		2		
	国 際 金 融 論 II		2		
	日 本 経 済 論		2		
	ア ジ ア 経 済 論		2		
	ア メ リ カ 経 済 論		2		
	ヨ ー ロ ッ パ 経 済 論		2		
	世 界 経 済 論		2		
	国 際 投 資 論		2		
	経 済 開 発 論		2		
	国 際 経 営 論		2		
	環 境 経 済 学 I		2		
	環 境 経 済 学 II		2		
	環 境 政 策 論		2		
	国 際 法 I		2		
	国 際 法 II		2		
	国 際 政 治 史		2		
	比 較 政 治 学		2		
	ア ジ ア 政 治 論		2		
	ア メ リ カ 政 治 論		2		
	ロ シ ア 政 治 論		2		
	ヨ ー ロ ッ パ 政 治 論		2		

第3類（杏林大学学則）

国際政経 コース 発展科目	資源エネルギー論	2	34単位以上
	経営学総論Ⅰ	2	
	経営学総論Ⅱ	2	
	マーケティング総論Ⅰ	2	
	マーケティング総論Ⅱ	2	
	基礎簿記Ⅰ	2	
	基礎簿記Ⅱ	2	
	キャリア開発論Ⅰ	2	
	キャリア開発論Ⅱ	2	
	憲法概論	2	
	民法概論	2	
	政治学概論	2	
	経済原論演習	2	
	憲法演習	2	
	民法演習	2	
	行政法演習	2	
	行政学演習	2	
	政治学演習	2	
	インターンシップⅠ	2	
	インターンシップⅡ	2	
	キャリア開発演習Ⅰ	2	
	キャリア開発演習Ⅱ	2	
	学際演習Ⅰ	2	
	学際演習Ⅱ	2	
	学際演習Ⅲ	2	
	学際演習Ⅳ	2	
演習	8		
卒業研究	4		
法律行政 コース 基本科目	物権法Ⅰ	2	16単位以上
	物権法Ⅱ	2	
	家族法Ⅰ	2	
	家族法Ⅱ	2	
	刑法Ⅰ	2	
	刑法Ⅱ	2	
	行政学Ⅰ	2	
	行政学Ⅱ	2	

第3類 (杏林大学学則)

	公 共 選 択 論 I		2		
	公 共 選 択 論 II		2		
法律行政 コース 発展科目	行 政 法 I		2		
	行 政 法 II		2		
	債 権 法 I		2		
	債 権 法 II		2		
	労 働 法 I		2		
	労 働 法 II		2		
	会 社 法 I		2		
	会 社 法 II		2		
	民 事 訴 訟 法		2		
	刑 事 訴 訟 法		2		
	経 済 刑 法		2		
	医 事 法 総 論		2		
	医 事 法 各 論		2		
	企 業 法 総 論		2		
	企 業 取 引 法		2		
	税 法 I		2		
	税 法 II		2		
	基 礎 簿 記 I		2		
	基 礎 簿 記 II		2		
	国 際 法 I		2		
	国 際 法 II		2		
	環 境 法		2		
	情 報 法 制		2		
	年 金 ・ 労 働 保 険 法		2		
	比 較 政 治 学		2		— 34 単位以上
	日 本 法 制 史		2		
	日 本 政 治 史		2		
	政 策 過 程 論		2		
	立 法 過 程 論		2		
	地 方 政 府 論		2		
	キ ャ リ ア 開 発 論 I		2		
	キ ャ リ ア 開 発 論 II		2		
憲 法 概 論		2			
民 法 概 論		2			

第3類（杏林大学学則）

	政治学概論	2		
	経済原論演習	2		
	憲法演習	2		
	民法演習	2		
	行政法演習	2		
	行政学演習	2		
	政治学演習	2		
	インターンシップⅠ	2		
	インターンシップⅡ	2		
	キャリア開発演習Ⅰ	2		
	キャリア開発演習Ⅱ	2		
	学際演習Ⅰ	2		
	学際演習Ⅱ	2		
	学際演習Ⅲ	2		
	学際演習Ⅳ	2		
	演習	8		
	卒業研究	4		
環境福祉 コース 基本科目	社会保障論Ⅰ	2		— 16単位以上
	社会保障論Ⅱ	2		
	環境科学概論Ⅰ	2		
	環境科学概論Ⅱ	2		
	保健医療システム論Ⅰ	2		
	保健医療システム論Ⅱ	2		
	障害者・老人福祉論Ⅰ	2		
	障害者・老人福祉論Ⅱ	2		
	環境経済学Ⅰ	2		
	環境経済学Ⅱ	2		
	環境保健学	2		
	カウンセリング論	2		
	社会福祉政策論	2		
	児童福祉論	2		
	社会福祉援助技術総論Ⅰ	2		
	社会福祉援助技術総論Ⅱ	2		
	経済政策論Ⅰ	2		
	経済政策論Ⅱ	2		
	環境政策論	2		

第3類 (杏林大学学則)

	資源エネルギー論	2		
	産業社会学Ⅰ	2		
	産業社会学Ⅱ	2		
	経営戦略論Ⅰ	2		
	経営戦略論Ⅱ	2		
	国際協力論Ⅰ	2		
	国際協力論Ⅱ	2		
	医事法総論	2		
	医事法各論	2		
	環境法	2		
	年金・労働保険法	2		
	労働法Ⅰ	2		
	労働法Ⅱ	2		
環境福祉 コース 発展科目	経営学総論Ⅰ	2		
	経営学総論Ⅱ	2		— 34単位以上
	マーケティング総論Ⅰ	2		
	マーケティング総論Ⅱ	2		
	基礎簿記Ⅰ	2		
	基礎簿記Ⅱ	2		
	キャリア開発論Ⅰ	2		
	キャリア開発論Ⅱ	2		
	憲法概論	2		
	民法概論	2		
	政治学概論	2		
	経済原論演習	2		
	憲法演習	2		
	民法演習	2		
	行政法演習	2		
	行政学演習	2		
	政治学演習	2		
	インターンシップⅠ	2		
	インターンシップⅡ	2		
	キャリア開発演習Ⅰ	2		
	キャリア開発演習Ⅱ	2		
	学際演習Ⅰ	2		
	学際演習Ⅱ	2		

第3類（杏林大学学則）

学 際 演 習 III	2	
学 際 演 習 IV	2	
演 習 研 究	8	
卒 業 研 究	4	

3 専門関連科目

授業科目の名称		単位数			備 考
		必 修	選 択	自 由	
1 類	人文科学 分 野	宗 教 学 A		2	16 単位以上
		宗 教 学 B		2	
		哲 学 A		2	
		哲 学 B		2	
		倫 理 学 A		2	
		倫 理 学 B		2	
		歴 史 学 A		2	
		歴 史 学 B		2	
		文 学 A		2	
		文 学 B		2	
		音 楽 A		2	
		音 楽 B		2	
	人 文 科 学 概 論		2		
	社会科学 分 野	社 会 学 A		2	
		社 会 学 B		2	
		法 学 A		2	
		法学B(日本国憲法)		2	
		政 治 学 A		2	
		政 治 学 B		2	
		地 理 学 A		2	
地 理 学 B			2		
	経 済 学 A		2		
	経 済 学 B		2		
	数 学 A		2		
	数 学 B		2		
	統 計 学 A		2		

第3類 (杏林大学学則)

	自然科学分野	統計学 B		2				
		物理学 A		2				
		物理学 B		2				
		化学 A		2				
		化学 B		2				
		生物学 A		2				
		生物学 B		2				
		心理学 A		2				
		心理学 B		2				
		自然科学概論		2				
2類	第1外国語	英語 I	2			— 留学生のみ		
		英語 II	2					
		日本語 A	2					
		日本語 B	2					
	第2外国語	発展英語 A		2		— 最大8単位まで 発展科目に繰り 入れる		
		発展英語 B		2				
		ドイツ語 A		2				
		ドイツ語 B		2				
		フランス語 A		2				
		フランス語 B		2				
		スペイン語 A		2				
		スペイン語 B		2				
		中国語 A		2				
		中国語 B		2				
		韓国語 A		2				
		韓国語 B		2				
		3類	プレゼミナール A	2				
			プレゼミナール B	2				
			基礎演習 I		2			
基礎演習 II			2					
特別演習 I			2					
特別演習 II			2					
特別演習 III			2					
特別演習 IV			2					
特別演習 V			2					
特別演習 VI			2					

第3類（杏林大学学則）

	プロジェクト演習Ⅰ		2		
	プロジェクト演習Ⅱ		2		
	プロジェクト演習Ⅲ		2		
	プロジェクト演習Ⅳ		2		
4 類	体育実技 A		1		
	体育実技 B		1		
	体育理論		2		
自由科目					

4 教職課程教科に関する科目

授業科目の名称				単位数			備考
				必修	選択	自由	
日	本	史	I			2	
日	本	史	II			2	
外	国	史	I			2	
外	国	史	II			2	
地	誌	学	I			2	
地	誌	学	II			2	
職	業	指	導			2	

企業経営学科

1 基礎教養科目

授業科目の名称				単位数			備考		
				必修	選択	自由			
社	会	の	し	く	み	I	2		
社	会	の	し	く	み	II	2		
地	域	と	大	学			2		
近	現	代	史	論			2		
読	解	力	演	習			2		
文	章	力	演	習			2		
計	算	力	演	習			2		
国	語	力	演	習			2		

8 単位以上

第3類（杏林大学学則）

2 専門科目

授業科目の名称		単位数			備考
		必修	選択	自由	
共通科目	経営学総論Ⅰ		2		32単位以上
	経営学総論Ⅱ		2		
	マーケティング総論Ⅰ		2		
	マーケティング総論Ⅱ		2		
	経営情報論Ⅰ		2		
	経営情報論Ⅱ		2		
	キャリア開発論Ⅰ		2		
	キャリア開発論Ⅱ		2		
	基礎簿記Ⅰ		2		
	基礎簿記Ⅱ		2		
	商業簿記Ⅰ		2		
	商業簿記Ⅱ		2		
	財務会計論Ⅰ		2		
	財務会計論Ⅱ		2		
	会社法Ⅰ		2		
	会社法Ⅱ		2		
	経営管理総論Ⅰ		2		
	経営管理総論Ⅱ		2		
	人材マネジメント論Ⅰ		2		
	人材マネジメント論Ⅱ		2		
工業簿記Ⅰ		2			
工業簿記Ⅱ		2			
基礎簿記各論Ⅰ		2			
基礎簿記各論Ⅱ		2			
経営戦略 コース 基本科目	経営史Ⅰ		2		16単位以上
	経営史Ⅱ		2		
	経営戦略論Ⅰ		2		
	経営戦略論Ⅱ		2		
	財務管理論Ⅰ		2		
	財務管理論Ⅱ		2		
	流通システム論Ⅰ		2		
	流通システム論Ⅱ		2		
	経営組織論Ⅰ		2		

第3類 (杏林大学学則)

	経営組織論 II	2	
	中小企業経営論	2	
	国際経営論	2	
	産業社会学 I	2	
	産業社会学 II	2	
	財務会計各論 I	2	
	財務会計各論 II	2	
	商業簿記各論 I	2	
	商業簿記各論 II	2	
	工業簿記各論 I	2	
	工業簿記各論 II	2	
	税法 I	2	
	税法 II	2	
	労働法 I	2	
	労働法 II	2	
	企業法総論	2	
	企業取引法	2	
	行政法 I	2	
	行政法 II	2	
	経済刑法	2	
	年金・労働保険法	2	
	国際法 I	2	
	国際法 II	2	
経営戦略	行政学 I	2	— 34単位以上
コース	行政学 II	2	
発展科目	国際政治学 I	2	
	国際政治学 II	2	
	経済原論 I	2	
	経済原論 II	2	
	財政金融論 I	2	
	財政金融論 II	2	
	憲法概論	2	
	民法概論	2	
	政治学概論	2	
	経済原論演習	2	

第3類 (杏林大学学則)

	憲法演習	2	
	民法演習	2	
	行政法演習	2	
	行政学演習	2	
	政治学演習	2	
	インターンシップⅠ	2	
	インターンシップⅡ	2	
	キャリア開発演習Ⅰ	2	
	キャリア開発演習Ⅱ	2	
	学際演習Ⅰ	2	
	学際演習Ⅱ	2	
	学際演習Ⅲ	2	
	学際演習Ⅳ	2	
	演習	8	
	卒業研究	4	
経営会計 コース 基本科目	財務会計各論Ⅰ	2	16単位以上
	財務会計各論Ⅱ	2	
	商業簿記各論Ⅰ	2	
	商業簿記各論Ⅱ	2	
	工業簿記各論Ⅰ	2	
	工業簿記各論Ⅱ	2	
	税法Ⅰ	2	
	税法Ⅱ	2	
	労働法Ⅰ	2	
	労働法Ⅱ	2	
	産業社会学Ⅰ	2	
	産業社会学Ⅱ	2	
	流通システム論Ⅰ	2	
	流通システム論Ⅱ	2	
	中小企業経営論	2	
	国際経営論	2	
	経営組織論Ⅰ	2	
	経営組織論Ⅱ	2	
	経営戦略論Ⅰ	2	
	経営戦略論Ⅱ	2	
	財務管理論Ⅰ	2	

第3類 (杏林大学学則)

経営会計 コース 発展科目	財 務 管 理 論	Ⅱ	2	— 34単位以上
	經 営 史	Ⅰ	2	
	經 営 史	Ⅱ	2	
	企 業 法 総 論		2	
	企 業 取 引 法		2	
	家 族 法	Ⅰ	2	
	家 族 法	Ⅱ	2	
	行 政 法	Ⅰ	2	
	行 政 法	Ⅱ	2	
	税 法 各 論	Ⅰ	2	
	税 法 各 論	Ⅱ	2	
	經 済 刑 法		2	
	年 金 ・ 労 働 保 険 法		2	
	国 際 法	Ⅰ	2	
	国 際 法	Ⅱ	2	
	行 政 学	Ⅰ	2	
	行 政 学	Ⅱ	2	
	国 際 政 治 学	Ⅰ	2	
	国 際 政 治 学	Ⅱ	2	
	經 済 原 論	Ⅰ	2	
	經 済 原 論	Ⅱ	2	
	財 政 金 融 論	Ⅰ	2	
	財 政 金 融 論	Ⅱ	2	
	憲 法 概 論		2	
	民 法 概 論		2	
	政 治 学 概 論		2	
	經 済 原 論 演 習		2	
	憲 法 演 習		2	
	民 法 演 習		2	
	行 政 法 演 習		2	
	行 政 学 演 習		2	
	政 治 学 演 習		2	
イ ン タ ー シ ッ プ	Ⅰ	2		
イ ン タ ー シ ッ プ	Ⅱ	2		
キ ャ リ ア 開 発 演 習	Ⅰ	2		
キ ャ リ ア 開 発 演 習	Ⅱ	2		

第3類（杏林大学学則）

学 際 演 習 I	2		
学 際 演 習 II	2		
学 際 演 習 III	2		
学 際 演 習 IV	2		
演 習 研 究	8		
卒 業 研 究	4		

3 専門関連科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必 修	選 択	自 由	
1 類	人文科学 分 野	宗 教 学 A		2	16 単位以上
		宗 教 学 B		2	
		哲 学 A		2	
		哲 学 B		2	
		倫 理 学 A		2	
		倫 理 学 B		2	
		歴 史 学 A		2	
		歴 史 学 B		2	
		文 学 A		2	
		文 学 B		2	
		音 楽 A		2	
	音 楽 B		2		
	人 文 科 学 概 論		2		
	社会科学 分 野	社 会 学 A		2	
社 会 学 B			2		
法 学 A			2		
法学B(日本国憲法)			2		
政 治 学 A			2		
政 治 学 B			2		
地 理 学 A			2		
地 理 学 B			2		
経 済 学 A			2		
経 済 学 B			2		
	数 学 A		2		
	数 学 B		2		

第3類 (杏林大学学則)

	自然科学分野	統計学 A		2			
		統計学 B		2			
		物理学 A		2			
		物理学 B		2			
		化学 A		2			
		化学 B		2			
		生物学 A		2			
		生物学 B		2			
		心理学 A		2			
		心理学 B		2			
		自然科学概論		2			
2類	第1外国語	英語 I	2				
		英語 II	2				
		日本語 A	2			留学生のみ	
		日本語 B	2				
	第2外国語	発展英語 A		2			最大8単位まで 発展科目に繰り 入れる
		発展英語 B		2			
		ドイツ語 A		2			
		ドイツ語 B		2			
		フランス語 A		2			
		フランス語 B		2			
		スペイン語 A		2			
		スペイン語 B		2			
		中国語 A		2			
		中国語 B		2			
3類		プレゼミナール A	2				
		プレゼミナール B	2				
		基礎演習 I		2			
		基礎演習 II		2			
		特別演習 I		2			
		特別演習 II		2			
		特別演習 III		2			
		特別演習 IV		2			

第3類（杏林大学学則）

	特別演習 V		2		
	特別演習 VI		2		
	プロジェクト演習 I		2		
	プロジェクト演習 II		2		
	プロジェクト演習 III		2		
	プロジェクト演習 IV		2		
4	類	体育実技 A		1	
		体育実技 B		1	
		体育理論		2	
自由科目					

4 教職課程教科に関する科目

授業科目の名称	単位数			備考
	必修	選択	自由	
日本史 I			2	
日本史 II			2	
外国史 I			2	
外国史 II			2	
地誌学 I			2	
地誌学 II			2	
職業指導			2	

第3類（杏林大学学則）

別表3-3（平成28年度入学生から適用）

総合政策学部学科目構成

総合政策学科

ベーシック科目

授業科目の名称	単位数			備考
	必修	選択	自由	
ベーシック科目				10単位以上
ベーシック政治		2		
ベーシック経済		2		
ベーシック法律		2		
ベーシック国際関係		2		
ベーシック福祉政策		2		
ベーシック経営		2		
ベーシック会計		2		

地域と大学

授業科目の名称	単位数			備考
	必修	選択	自由	
地域と大学	2			

コース別専門科目（政治）

授業科目の名称	単位数			備考	
	必修	選択	自由		
専 門 科 目	コ ア 課 目	政治心理学	2		16単位以上
		政治コミュニケーション論	2		
		現代日本政治A	2		
		現代日本政治B	2		
		現代行政学A	2		
		現代行政学B	2		
		立法過程論	2		
		政策過程論	2		
		ローカル・ガバメント論A	2		
		ローカル・ガバメント論B	2		
政治史	2				
法制史	2				
応 用 科 目	専 門 科 目	比較政治学	2		
		外交政策論A	2		
		外交政策論B	2		
		国際政治経済学	2		

第3類（杏林大学学則）

	国際政治学 A	2	
	国際政治学 B	2	
	アメリカ政治論	2	
	アジア政治論	2	
	ヨーロッパ政治論	2	
	国際政治史	2	
	憲法 I（統治機構）	2	
	憲法 II（人権）	2	
	行政法 I	2	
	行政法 II	2	
	地方自治と法	2	

コース別専門科目（経済）

授業科目の名称		単位数			備考
		必修	選択	自由	
専門科目 コア科目 応用科目	マクロ経済学		2		16単位以上
	ミクロ経済学		2		
	国際経済学 A（貿易）		2		
	国際経済学 B（金融）		2		
	国際政治経済学		2		
	開発経済学		2		
	公共経済学		2		
	経済政策論		2		
	金融論		2		
	財政論		2		
	日本経済論		2		
	経済統計		2		
	行動経済学		2		
	環境経済学		2		
	医療経済学		2		
	人口学		2		
アメリカ経済論		2			
ヨーロッパ経済論		2			
アジア経済論		2			
中東・アフリカの政治・経済		2			
社会福祉政策論		2			
日本の貿易政策		2			

第3類（杏林大学学則）

	法と経済		2	
	経済学説史		2	
	ゲーム理論		2	

コース別専門科目（法律）

授業科目の名称		単位数			備考	
		必修	選択	自由		
コア科目	法情報調査		2		16単位以上	
	法学の現代的課題		2			
	会社法Ⅰ（ガバナンス）		2			
	会社法Ⅱ（ファイナンス）		2			
	民法総論		2			
	物権法		2			
	契約法		2			
	家族法		2			
	憲法Ⅰ（統治機構）		2			
	憲法Ⅱ（人権）		2			
	刑法Ⅰ（総論）		2			
	刑法Ⅱ（各論）		2			
	専門科目 応用科目	行政法Ⅰ		2		
		行政法Ⅱ		2		
		民事訴訟法		2		
		刑事訴訟法		2		
租税法Ⅰ			2			
租税法Ⅱ			2			
企業法総論			2			
企業取引法			2			
国際法Ⅰ			2			
国際法Ⅱ			2			
環境法			2			
労働法			2			
社会保障法			2			
医事法			2			
法と経済			2			
法制史			2			
比較法文化論		2				
メディア・コンテンツと法		2				

第3類（杏林大学学則）

	地方自治と法	2	
	倒産処理と法	2	
	不動産取引と法Ⅰ	2	
	不動産取引と法Ⅱ	2	

コース別専門科目（国際関係）

授業科目の名称	単位数			備考
	必修	選択	自由	
コア科目	国際政治学 A		2	16単位以上
	国際政治学 B		2	
	国際政治経済学		2	
	比較政治学		2	
	マクロ経済学		2	
	外交政策論 A		2	
	外交政策論 B		2	
	国際機構論		2	
	政策過程論		2	
	国際政治史		2	
専門科目	国際法Ⅰ		2	
	国際法Ⅱ		2	
	開発経済学		2	
	現代行政学 A		2	
	政治心理学		2	
	アジア経済論		2	
	アジア政治論		2	
	アメリカ経済論		2	
	アメリカ政治論		2	
	国際関係論演習		2	
	国際協力論		2	
	国際経営論		2	
	国際経済学 A（貿易）		2	
	政治コミュニケーション論		2	
	中東・アフリカの政治・経済		2	
ヨーロッパ経済論		2		
ヨーロッパ政治論		2		
経済統計		2		

第3類（杏林大学学則）

コース別専門科目（福祉政策）

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考		
		必修	選択	自由			
コ ア 科 目	社 会 福 祉 学		2		16単位 以上		
	健 康 社 会 学		2				
	健 康 科 学		2				
	人 口 学		2				
	児 童 福 祉 論		2				
	障 害 者 福 祉 論		2				
	老 人 福 祉 論		2				
	社 会 福 祉 政 策 論		2				
	社 会 保 障 論 I		2				
	社 会 保 障 論 II		2				
	環 境 保 全 論 I		2				
	環 境 保 全 論 II		2				
	専 門 科 目	応 用 科 目	医 療 経 済 学			2	
			環 境 経 済 学			2	
公 共 経 済 学				2			
介 護 政 策 論				2			
社 会 福 祉 援 助 技 術 総 論 I				2			
社 会 福 祉 援 助 技 術 総 論 II				2			
カ ウ ン セ リ ン グ 論				2			
環 境 政 策 論				2			
ロ ー カ ル ・ ガ バ メ ン ト 論 A				2			
ロ ー カ ル ・ ガ バ メ ン ト 論 B				2			
日 本 経 済 論				2			
経 済 政 策 論				2			
財 政 論				2			
民 法 総 論				2			
ヒ ュ ー マ ン エ コ ロ ジ ー				2			
現 代 日 本 政 治 A				2			
現 代 日 本 政 治 B				2			
政 策 過 程 論				2			
憲 法 I（統 治 機 構）		2					
憲 法 II（人 権）		2					
家 族 法		2					
租 税 法 I		2					

第3類（杏林大学学則）

	労働法	2	
	医事法	2	
	環境法	2	

演習

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考
				必修	選択	自由	
専 門 演 習 科 目		演 習 I		2			
		演 習 II		2			
		演 習 III		2			
		演 習 IV		2			
		演 習 V		2			
		演 習 VI		2			
		卒 業 研 究 I		2			
		卒 業 研 究 II		2			
	学 際 演 習	学 際 演 習 I		2	4 単 位 以上		
		学 際 演 習 II		2			
		学 際 演 習 III		2			
		学 際 演 習 IV		2			
		学 際 演 習 V		2			
		学 際 演 習 VI		2			
		学 際 演 習 VII		2			
		学 際 演 習 VIII		2			
	特 別 演 習	特 別 演 習 I		2			
		特 別 演 習 II		2			
		特 別 演 習 III		2			
		特 別 演 習 IV		2			
プ ロ ジ ェ ク ト 演 習	プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 I		2				
	プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 II		2				
	プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 III		2				
	プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 IV		2				

プレゼミナール

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
プレゼミナール	プレゼミナール A	2			
	プレゼミナール B	2			

第3類（杏林大学学則）

一般教養科目

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考		
				必修	選択	自由			
一 般 教 養 科 目	生	活	と	法		2	10単位 以上		
	日	本	国	憲	法	2			
	基	礎	簿	記	I	2			
	基	礎	簿	記	II	2			
	人	文	地	理	学	2			
	自	然	地	理	学	2			
	社		会	計	学	2			
	統		計	教	学	2			
	宗		教		学	2			
	哲		理		学	2			
	倫		理		学	2			
	心		理		学	2			
	歴		史		学	2			
	文				学	2			
音				楽	2				
ダ	イ	バ	ー	シ	テ	ィ	入	門	2
人	文	科	学	概	論			2	
自	然	科	学	概	論			2	

外国語科目

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考		
				必修	選択	自由			
外 国 語 科 目	必 修 外 国 語	英	語	I	2		4単位 以上		
		英	語	II	2				
		英	語	III	2				
		英	語	IV	2				
	選 択 外 国 語	発	展	英	語	I		2	
		発	展	英	語	II		2	
		中	国	語	A	2			
		中	国	語	B	2			
		韓	国	語	A	2			
		韓	国	語	B	2			
		フ	ラ	ン	ス	語		A	2

第3類（杏林大学学則）

		フランス語	B		2		
		ドイツ語	A		2		
		ドイツ語	B		2		
		スペイン語	A		2		
		スペイン語	B		2		

キャリア関連科目

授業科目の名称				単位数			備考
				必修	選択	自由	
キャリア関連科目	基礎 教養 分野	時事問題研究	A	2			
		時事問題研究	B	2			
		ライティング演習	I	2			
		ライティング演習	II	2			
		計算力演習	I	2			
		計算力演習	II	2			
		情報処理演習	A		2		
		情報処理演習	B		2		
	ライフデザイン分野	ライフ・プランニング	I	2			
		ライフ・プランニング	II	2			
		キャリア開発論	I	2			
		キャリア開発論	II	2			
		キャリア開発演習	I	2			
		キャリア開発演習	II	2			
	インターンシップ	I		2			
	インターンシップ	II		2			

グローバルキャリア・プログラム

授業科目の名称				単位数			備考
				必修	選択	自由	
英語科目	Oral Communication 1		2				
	Oral Communication 2		2				
	Academic Writing 1		2				
	Academic Writing 2		2				
	Academic Writing 3		2				
	Recent Topics in English		2				
	Business Communication 1		2				

第3類（杏林大学学則）

		Business Communication 2		2		
関 連 科 目		Critical Thinking		2		
		Global Career Development		2		
		Communication for Business		2		
		Japan Studies		2		
		Public Speaking		2		
グ ロ ー バ ル 専 門 科 目	Introductory	Introduction to Business		2		
		Introduction to Economics		2		
		Introduction to Global Health Issues		2		
		Introduction to International Relations		2		
	Progressive	Monetary Policy and Financial System		2		
		Fiscal Policy and Tax System in Japan		2		
		Culture and Business		2		
		Global Health and Social Justice		2		
		Marketing		2		
		History of Innovation and Science		2		
		Interdisciplinary Seminar 1		2		
		Interdisciplinary Seminar 2		2		

教職課程教科に関する科目

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数			備 考
	必修	選択	自由	
教 職 課 程 科 目	日 本 史 I		2	
	日 本 史 II		2	
	外 国 史 I		2	
	外 国 史 II		2	
	地 誌 学 I		2	
	地 誌 学 II		2	
	職 業 指 導		2	
	体 育 理 論		1	
	体 育 実 技		1	

第3類（杏林大学学則）

企業経営学科

ベーシック科目

授業科目の名称		単位数			備考
		必修	選択	自由	
ベーシック科目	ベーシック政治		2		10単位以上
	ベーシック経済		2		
	ベーシック法律		2		
	ベーシック国際関係		2		
	ベーシック福祉政策		2		
	ベーシック経営		2		
	ベーシック会計		2		

地域と大学

授業科目の名称		単位数			備考
		必修	選択	自由	
地域	と大学	2			

コース別専門科目（経営）

授業科目の名称		単位数			備考
		必修	選択	自由	
コア科目	経営学総論Ⅰ		2		16単位以上
	経営学総論Ⅱ		2		
	経営管理論		2		
	経営組織論		2		
	現代企業論		2		
	経営戦略論		2		
	マーケティング総論		2		
	流通論		2		
	経営史		2		
	ミクロ経済学		2		
財務会計論		2			
管理会計論		2			
専門科目	応用科目	国際経営論		2	
		ベンチャー企業論		2	
		イノベーション論		2	
		経営情報論		2	
		財務管理論		2	

第3類 (杏林大学学則)

		人 的 資 源 管 理		2		
		出 店 戦 略		2		
		販 売 戦 略		2		
		原 価 計 算		2		
		会 社 法 I (ガバナンス)		2		
		企 業 取 引 法		2		
		労 働 法		2		
		租 税 法 I		2		
		現 代 ビ ジ ネ ス 演 習		2		
		経 営 特 殊 講 義		2		
		国 際 政 治 学 A		2		
		国 際 政 治 学 B		2		
		国 際 経 済 学 A (貿 易)		2		
		国 際 経 済 学 B (金 融)		2		
		社 会 福 祉 学		2		
		社 会 福 祉 政 策 論		2		
		行 動 経 済 学		2		
		ゲ ー ム 理 論		2		

コース別専門科目 (会計)

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア 科 目	財 務 会 計 論		2	16 単位 以上
		国 際 会 計 論		2	
		監 査 論		2	
		管 理 会 計 論		2	
		商 業 簿 記 I		2	
		商 業 簿 記 II		2	
		工 業 簿 記		2	
		原 価 計 算		2	
		会 社 法 I (ガバナンス)		2	
		会 社 法 II (ファイナンス)		2	
		租 税 法 I		2	
		租 税 法 II		2	
		会 計 史		2	
	税 務 会 計 論		2		
基 礎 簿 記 演 習		2			

第3類 (杏林大学学則)

応用科目	財務諸表作成演習	2	
	会計特殊講義	2	
	企業法総論	2	
	企業取引法	2	
	経営学総論 I	2	
	経営学総論 II	2	
	経営管理論	2	
	経営組織論	2	
	現代企業論	2	
	経営戦略論	2	
	マーケティング総論	2	
	流通論	2	
	財務管理論	2	
	出店戦略	2	
	販売戦略	2	
	労働法	2	
	契約法	2	
	民法総論	2	
	国際法 I	2	
	国際法 II	2	
環境経済学	2		
マクロ経済学	2		
ミクロ経済学	2		

演習

授業科目の名称	単位数			備考	
	必修	選択	自由		
専門演習科目	演習 I	2			
	演習 II	2			
	演習 III	2			
	演習 IV	2			
	演習 V	2			
	演習 VI	2			
	卒業研究 I	2			
	卒業研究 II	2			
	学際演習 I	2			4単位
	学際演習 II	2			

第3類（杏林大学学則）

学 際 演 習	学	際	演	習	Ⅲ	2		以上			
	学	際	演	習	Ⅳ	2					
	学	際	演	習	Ⅴ	2					
	学	際	演	習	Ⅵ	2					
	学	際	演	習	Ⅶ	2					
	学	際	演	習	Ⅷ	2					
	特 別 演 習	特	別	演	習	Ⅰ			2		
		特	別	演	習	Ⅱ			2		
特		別	演	習	Ⅲ	2					
特		別	演	習	Ⅳ	2					
プ ロ ジ エ ク ト 演 習	プ	ロ	ジ	エ	ク	ト	演	習	Ⅰ	2	
	プ	ロ	ジ	エ	ク	ト	演	習	Ⅱ	2	
	プ	ロ	ジ	エ	ク	ト	演	習	Ⅲ	2	
	プ	ロ	ジ	エ	ク	ト	演	習	Ⅳ	2	

プレゼミナール

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数			備 考
	必修	選択	自由	
プレゼミナール	2			
プレゼミナール	2			

一般教養科目

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数			備 考			
	必修	選択	自由				
一 般 教 養 科 目	生	活	と	法	2	10単位 以上	
	日	本	国	憲	法		2
	基	礎	簿	記	Ⅰ		2
	基	礎	簿	記	Ⅱ		2
	人	文	地	理	学		2
	自	然	地	理	学		2
	社		会		学		2
	統		計		学		2
	宗		教		学		2
	哲				学		2
	倫		理		学		2
	心		理		学		2

第3類（杏林大学学則）

	歴史学	2	
	文学	2	
	音楽	2	
	人文科学概論	2	
	自然科学概論	2	

外国語科目

授業科目の名称				単位数			備考
				必修	選択	自由	
外国語科目	必修外国語	英語 I	2			4単位以上	
		英語 II	2				
		英語 III	2				
		英語 IV	2				
	選択外国語	発展英語 I		2			
		発展英語 II		2			
		中国語 A		2			
		中国語 B		2			
		韓国語 A		2			
		韓国語 B		2			
		フランス語 A		2			
		フランス語 B		2			
		ドイツ語 A		2			
		ドイツ語 B		2			
スペイン語 A		2					
スペイン語 B		2					

キャリア関連科目

授業科目の名称				単位数			備考
				必修	選択	自由	
キャリア関連科目	基礎教養分野	時事問題研究 A	2				
		時事問題研究 B	2				
		ライティング演習 I	2				
		ライティング演習 II	2				
		計算力演習 I	2				
		計算力演習 II	2				
		情報処理演習 A		2			

第3類（杏林大学学則）

		情報処理演習 B		2		
ライフデザイン分野		ライフ・プランニング I	2			
		ライフ・プランニング II	2			
		キャリア開発論 I	2			
		キャリア開発論 II	2			
		キャリア開発演習 I	2			
		キャリア開発演習 II	2			
		インターンシップ I		2		
		インターンシップ II		2		

グローバルキャリア・プログラム

授業科目の名称		単位数			備考
		必修	選択	自由	
英語科目		Oral Communication 1		2	
		Oral Communication 2		2	
		Academic Writing 1		2	
		Academic Writing 2		2	
		Academic Writing 3		2	
		Recent Topics in English		2	
		Business Communication 1		2	
		Business Communication 2		2	
関連科目		Critical Thinking		2	
		Global Career Development		2	
		Communication for Business		2	
		Japan Studies		2	
		Public Speaking		2	
グローバル専門科目	Introductory	Introduction to Business		2	
		Introduction to Economics		2	
		Introduction to Global Health Issues		2	
		Introduction to International Relations		2	
	Progressive	Monetary Policy and Financial System		2	
		Fiscal Policy and Tax System in Japan		2	
		Culture and Business		2	
		Global Health and Social Justice		2	
		Marketing		2	
		History of Innovation & Science		2	

第3類（杏林大学学則）

	Interdisciplinary Seminar 1	2	
	Interdisciplinary Seminar 2	2	

教職課程教科に関する科目

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数			備 考
	必修	選択	自由	
教 職 課 程 科 目	日 本 史 I		2	
	日 本 史 II		2	
	外 国 史 I		2	
	外 国 史 II		2	
	地 誌 学 I		2	
	地 誌 学 II		2	
	職 業 指 導		2	
	体 育 理 論		1	
	体 育 実 技		1	

第3類（杏林大学学則）

別表3-4（平成31年度入学生から適用）

総合政策学部学科目構成

総合政策学科

ベーシック科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
ベーシック科目	ベーシック政治		2		10単位以上
	ベーシック経済		2		
	ベーシック法律		2		
	ベーシック国際関係		2		
	ベーシック福祉政策		2		
	ベーシック経営		2		
	ベーシック会計		2		

地域と大学

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
地	域 と 大 学	2			

コース別専門科目（政治）

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
コア科目	政治心理学		2		16単位以上
	政治コミュニケーション論		2		
	現代日本政治 A		2		
	現代日本政治 B		2		
	現代行政学 A		2		
	現代行政学 B		2		
	立法過程論		2		
	政策過程論		2		
	ローカル・ガバメント論 A		2		
	ローカル・ガバメント論 B		2		
	政治史		2		
	法制史		2		
専門科目	応用科目	比較政治学		2	
		外交政策論 A		2	
		外交政策論 B		2	
		国際政治経済学		2	
		国際政治学 A		2	

第3類（杏林大学学則）

	国際政治学 B	2	
	アメリカ政治論	2	
	アジア政治論	2	
	ヨーロッパ政治論	2	
	国際政治史	2	
	憲法 I（統治機構）	2	
	憲法 II（人権）	2	
	行政法 I	2	
	行政法 II	2	
	地方自治と法	2	

コース別専門科目（経済）

授業科目の名称	単位数			備考
	必修	選択	自由	
専門科目	マクロ経済学		2	16単位以上
	ミクロ経済学		2	
	国際経済学 A（貿易）		2	
	国際経済学 B（金融）		2	
	国際政治経済学		2	
	開発経済学		2	
	公共経済学		2	
	経済政策論		2	
	金融論		2	
	財政論		2	
日本経済論		2		
経済統計		2		
応用科目	行動経済学		2	
	環境経済学		2	
	医療経済学		2	
	人口学		2	
	アメリカ経済論		2	
	ヨーロッパ経済論		2	
	アジア経済論		2	
	中東・アフリカの政治・経済		2	
	社会福祉政策論		2	
	日本の貿易政策		2	
法と経済		2		

第3類（杏林大学学則）

	経済学説史	2	
	ゲーム理論	2	

コース別専門科目（法律）

授業科目の名称		単位数			備考		
		必修	選択	自由			
コア科目	法情報調査		2		16単位以上		
	法学の現代的課題		2				
	会社法Ⅰ（ガバナンス）		2				
	会社法Ⅱ（ファイナンス）		2				
	民法総論		2				
	物権法		2				
	契約法		2				
	家族法		2				
	憲法Ⅰ（統治機構）		2				
	憲法Ⅱ（人権）		2				
	刑法Ⅰ（総論）		2				
	刑法Ⅱ（各論）		2				
	専門科目	応用科目	行政法Ⅰ			2	
			行政法Ⅱ			2	
民事訴訟法				2			
刑事訴訟法				2			
租税法Ⅰ				2			
租税法Ⅱ				2			
企業法総論				2			
企業取引法				2			
国際法Ⅰ			2				
国際法Ⅱ			2				
環境法			2				
労働法			2				
社会保障法			2				
医事法			2				
法と経済			2				
法制史			2				
比較法文化論		2					
メディア・コンテンツと法		2					
地方自治と法		2					

第3類（杏林大学学則）

	倒産処理と法	2	
	不動産取引と法Ⅰ	2	
	不動産取引と法Ⅱ	2	

コース別専門科目（国際関係）

授業科目の名称		単位数			備考		
		必修	選択	自由			
専門科目	コア科目	国際政治学 A		2	16 単位以上		
		国際政治学 B		2			
		国際政治経済学		2			
		比較政治学		2			
		マクロ経済学		2			
		外交政策論 A		2			
		外交政策論 B		2			
		国際機構論		2			
		政策過程論		2			
		国際政治史		2			
		国際法Ⅰ		2			
		国際法Ⅱ		2			
		応用科目		開発経済学			2
				現代行政学 A			2
政治心理学				2			
アジア経済論				2			
アジア政治論				2			
アメリカ経済論				2			
アメリカ政治論				2			
国際関係論演習				2			
国際協力論				2			
国際経営論				2			
国際経済学 A（貿易）				2			
政治コミュニケーション論				2			
中東・アフリカの政治・経済				2			
ヨーロッパ経済論				2			
ヨーロッパ政治論		2					
経済統計		2					

第3類（杏林大学学則）

コース別専門科目（福祉政策）

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア 科 目	社 会 福 祉 学		2	16 単位 以上
		健 康 社 会 学		2	
		健 康 科 学		2	
		人 口 学		2	
		児 童 福 祉 論		2	
		障 害 者 福 祉 論		2	
		老 人 福 祉 論		2	
		社 会 福 祉 政 策 論		2	
		社 会 保 障 論 I		2	
		社 会 保 障 論 II		2	
		環 境 保 全 論 I		2	
		環 境 保 全 論 II		2	
応 用 科 目		医 療 経 済 学		2	
		環 境 経 済 学		2	
		公 共 経 済 学		2	
		介 護 政 策 論		2	
		社 会 福 祉 援 助 技 術 総 論 I		2	
		社 会 福 祉 援 助 技 術 総 論 II		2	
		カ ウ ン セ リ ン グ 論		2	
		環 境 政 策 論		2	
		ロ ー カ ル ・ ガ バ メ ン ト 論 A		2	
		ロ ー カ ル ・ ガ バ メ ン ト 論 B		2	
		日 本 経 済 論		2	
		経 済 政 策 論		2	
		財 政 論		2	
		民 法 総 論		2	
		ヒ ュ ー マ ン エ コ ロ ジ ー		2	
		現 代 日 本 政 治 A		2	
		現 代 日 本 政 治 B		2	
		政 策 過 程 論		2	
		憲 法 I (統 治 機 構)		2	
		憲 法 II (人 権)		2	
家 族 法		2			
租 税 法 I		2			

第3類（杏林大学学則）

	労働法	2	
	医事法	2	
	環境法	2	

演習

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考
				必修	選択	自由	
専門演習科目		演習 I		2			
		演習 II		2			
		演習 III		2			
		演習 IV		2			
		演習 V		2			
		演習 VI		2			
		卒業研究 I		2			
		卒業研究 II		2			
		学際演習 I		2	4 単位 以上		
		学際演習 II		2			
		学際演習 III		2			
		学際演習 IV		2			
		学際演習 V		2			
		学際演習 VI		2			
		学際演習 VII		2			
		学際演習 VIII		2			
		特別演習 I		2			
		特別演習 II		2			
		特別演習 III		2			
		特別演習 IV		2			
	プロジェクト演習 I		2				
	プロジェクト演習 II		2				
	プロジェクト演習 III		2				
	プロジェクト演習 IV		2				

プレゼミナール

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
プレゼミ	プレゼミナール A	2			
ナール	プレゼミナール B	2			

第3類（杏林大学学則）

一般教養科目

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考			
				必修	選択	自由				
一 般 教 養 科 目	生	活	と	法	2		10 単位 以上			
	日	本	国	憲	2					
	基	礎	簿	記	2					
	基	礎	簿	記	2					
	人	文	地	理	2					
	自	然	地	理	2					
	社		会	学	2					
	統		計	学	2					
	宗		教	学	2					
	哲			学	2					
	倫		理	学	2					
	心		理	学	2					
	歴		史	学	2					
	文			学	2					
音			楽	2						
ダ	イ	バ	ー	シ	テ	ィ	入	門	2	
人	文	科	学	概	論			2		
自	然	科	学	概	論			2		

外国語科目

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数			備 考			
				必修	選択	自由				
外 国 語 科 目	必 修 外 国 語	英	語	I	2		4 単位 以上			
		英	語	II	2					
		英	語	III	2					
		英	語	IV	2					
	選 択 外 国 語	発	展	英	語	I		2		
		発	展	英	語	II		2		
		中	国	語	A	2				
		中	国	語	B	2				
		韓	国	語	A	2				
		韓	国	語	B	2				
		フ	ラ	ン	ス	語		A		2

第3類（杏林大学学則）

		フ	ラ	ン	ス	語	B		2		
		ド	イ	ツ	語	A			2		
		ド	イ	ツ	語	B			2		
		ス	ペ	イ	ン	語	A		2		
		ス	ペ	イ	ン	語	B		2		

キャリア関連科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
キ ャ リ ア 関 連 科 目	基 礎 教 養 分 野	時 事 問 題 研 究 A	2		
		時 事 問 題 研 究 B	2		
		ラ イ テ ィ ン グ 演 習 I	2		
		ラ イ テ ィ ン グ 演 習 II	2		
		計 算 力 演 習 I	2		
		計 算 力 演 習 II	2		
		情 報 処 理 演 習 A		2	
		情 報 処 理 演 習 B		2	
	ラ イ フ デ ザ イ ン 分 野	ラ イ フ ・ プ ラ ン ニ ン グ I	2		
		ラ イ フ ・ プ ラ ン ニ ン グ II	2		
		キ ャ リ ア 開 発 論 I	2		
		キ ャ リ ア 開 発 論 II	2		
		キ ャ リ ア 開 発 演 習 I	2		
		キ ャ リ ア 開 発 演 習 II	2		
イ ン タ ー ン シ ッ プ I		2			
イ ン タ ー ン シ ッ プ II		2			

グローバルキャリア・プログラム

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
英 語 科 目	Oral Communication 1		2		
	Oral Communication 2		2		
	Academic Writing 1		2		
	Academic Writing 2		2		
	Academic Writing 3		2		
	Recent Topics in English		2		
	Business Communication 1		2		

第3類（杏林大学学則）

		Business Communication 2		2		
関 連 科 目		Critical Thinking		2		
		Global Career Development		2		
		Communication for Business		2		
		Japan Studies		2		
		Public Speaking		2		
グ ロ ー バ ル	Introductory	Introduction to Business		2		
		Introduction to Economics		2		
		Introduction to Global Health Issues		2		
		Introduction to International Relations		2		
専 門 科 目	Progressive	Monetary Policy and Financial System		2		
		Fiscal Policy and Tax System in Japan		2		
		Culture and Business		2		
		Global Health and Social Justice		2		
		Marketing		2		
		History of Innovation and Science		2		
		Interdisciplinary Seminar 1		2		
		Interdisciplinary Seminar 2		2		

教職課程科目

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数			備 考
	必修	選択	自由	
教 職 課 程 科 目	日 本 史 I		2	
	日 本 史 II		2	
	外 国 史 I		2	
	外 国 史 II		2	
	地 誌 学 I		2	
	地 誌 学 II		2	
	体 育 理 論		1	
	体 育 実 技		1	

第3類（杏林大学学則）

企業経営学科

ベーシック科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
ベーシック科目	ベーシック政治		2		10単位 以上
	ベーシック経済		2		
	ベーシック法律		2		
	ベーシック国際関係		2		
	ベーシック福祉政策		2		
	ベーシック経営		2		
	ベーシック会計		2		

地域と大学

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
地	域 と 大 学	2			

コース別専門科目（経営）

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア 科 目	経営学総論Ⅰ		2	16単位 以上
		経営学総論Ⅱ		2	
		経営管理論		2	
		経営組織論		2	
		現代企業論		2	
		経営戦略論		2	
		マーケティング総論		2	
		流通論		2	
		経営史		2	
		ミクロ経済学		2	
	財務会計論		2		
	管理会計論		2		
		国際経営論		2	
		ベンチャー企業論		2	
		イノベーション論		2	
		経営情報論		2	

第3類 (杏林大学学則)

	財 務 管 理 論	2	
	人 的 資 源 管 理	2	
	現 代 ビ ジ ネ ス 演 習	2	
	経 営 特 殊 講 義	2	
	出 店 戦 略	2	
	販 売 戦 略	2	
	原 価 計 算	2	
応 用 科 目	会 社 法 I (ガバナンス)	2	
	企 業 取 引 法	2	
	不 動 産 取 引 と 法 I	2	
	不 動 産 取 引 と 法 II	2	
	労 働 法	2	
	憲 法 I (統 治 機 構)	2	
	憲 法 II (人 権)	2	
	租 税 法 I	2	
	法 と 経 済	2	
	国 際 経 済 学 A (貿 易)	2	
	国 際 経 済 学 B (金 融)	2	
	行 動 経 済 学	2	
	ゲ ー ム 理 論	2	
	経 済 政 策 論	2	
	日 本 の 貿 易 政 策	2	
	社 会 福 祉 学	2	
	社 会 福 祉 政 策 論	2	
	国 際 政 治 学 A	2	
	国 際 政 治 学 B	2	
	現 代 日 本 政 治 A	2	
	現 代 日 本 政 治 B	2	

コース別専門科目 (会計)

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数			備 考
	必修	選択	自由	
財 務 会 計 論		2		
国 際 会 計 論		2		
監 査 論		2		
管 理 会 計 論		2		
商 業 簿 記 I		2		

第3類 (杏林大学学則)

専 門 科 目	コ	商 業 簿 記 II	2	16 単位 以上
	ア	工 業 簿 記	2	
	科	原 価 計 算	2	
	目	会 社 法 I (ガバナンス)	2	
		会 社 法 II (ファイナンス)	2	
		租 税 法 I	2	
		租 税 法 II	2	
応 用 科 目		会 計 史	2	
		税 務 会 計 論	2	
		基 礎 簿 記 演 習	2	
		財 務 諸 表 作 成 演 習	2	
		会 計 特 殊 講 義	2	
		企 業 法 総 論	2	
		企 業 取 引 法	2	
		経 営 学 総 論 I	2	
		経 営 学 総 論 II	2	
		経 営 管 理 論	2	
		経 営 組 織 論	2	
		現 代 企 業 論	2	
		経 営 戦 略 論	2	
		マ ー ケ テ ィ ン グ 総 論	2	
		流 通 論	2	
		財 務 管 理 論	2	
		出 店 戦 略	2	
		販 売 戦 略	2	
		民 法 総 論	2	
		契 約 法	2	
		物 権 法	2	
		家 族 法	2	
		法 学 の 現 代 的 課 題	2	
		国 際 法 I	2	
		国 際 法 II	2	
		労 働 法	2	
		社 会 保 障 法	2	
	社 会 保 障 論 I	2		
	社 会 保 障 論 II	2		
	マ ク ロ 経 済 学	2		

第3類（杏林大学学則）

	ミ	ク	ロ	経	济	学		2		
	金			融		論		2		
	財			政		論		2		
	環	境	経	济	学	論		2		
	環	境	政	策	論			2		

演習

授 業 科 目 の 名 称						単 位 数			備 考
						必修	選択	自由	
専 門 演 習 科 目	演 習	I					2		
		II					2		
		III					2		
		IV					2		
		V					2		
		VI					2		
		卒 業 研 究 I					2		
		卒 業 研 究 II					2		
	学 際 演 習	学 際 演 習 I					2	4 単 位 以 上	
		学 際 演 習 II					2		
		学 際 演 習 III					2		
		学 際 演 習 IV					2		
		学 際 演 習 V					2		
		学 際 演 習 VI					2		
		学 際 演 習 VII					2		
		学 際 演 習 VIII					2		
	特 別 演 習	特 別 演 習 I					2		
		特 別 演 習 II					2		
		特 別 演 習 III					2		
		特 別 演 習 IV					2		
プ ロ ジ ェ ク ト 演 習	プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 I					2			
	プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 II					2			
	プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 III					2			
	プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 IV					2			

第3類（杏林大学学則）

プレゼミナール

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
プレゼミ ナール	プレゼミナール A	2			
	プレゼミナール B	2			

一般教養科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
一般教養科目	生 活 と 法		2		10 単位 以上
	日 本 国 憲 法		2		
	基 礎 簿 記 I		2		
	基 礎 簿 記 II		2		
	人 文 地 理 学		2		
	自 然 地 理 学		2		
	社 会 計 学		2		
	統 計 学		2		
	宗 教 学		2		
	哲 学		2		
	倫 理 学		2		
	心 理 学		2		
	歴 史 学		2		
	文 学		2		
音 楽 論		2			
人 文 科 学 概 論		2			
自 然 科 学 概 論		2			

外国語科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
外国語科目	必 修 外 国 語	英 語 I	2		
	英 語 II	2			
	英 語 III	2			
	英 語 IV	2			

第3類（杏林大学学則）

選択外国語	発展英語 I	2	4単位以上
	発展英語 II	2	
	中国語 A	2	
	中国語 B	2	
	韓国語 A	2	
	韓国語 B	2	
	フランス語 A	2	
	フランス語 B	2	
	ドイツ語 A	2	
	ドイツ語 B	2	
	スペイン語 A	2	
	スペイン語 B	2	

キャリア関連科目

授業科目の名称		単位数			備考	
		必修	選択	自由		
キャリア関連科目	基礎教養分野	時事問題研究 A	2			
		時事問題研究 B	2			
		ライティング演習 I	2			
		ライティング演習 II	2			
		計算力演習 I	2			
		計算力演習 II	2			
		情報処理演習 A		2		
		情報処理演習 B		2		
	ライフデザイン分野	ライフ・プランニング I	2			
		ライフ・プランニング II	2			
		キャリア開発論 I	2			
		キャリア開発論 II	2			
		キャリア開発演習 I	2			
		キャリア開発演習 II	2			
	インターンシップ I		2			
	インターンシップ II		2			

第3類（杏林大学学則）

グローバルキャリア・プログラム

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考	
		必修	選択	自由		
英 語 科 目	Oral Communication 1		2			
	Oral Communication 2		2			
	Academic Writing 1		2			
	Academic Writing 2		2			
	Academic Writing 3		2			
	Recent Topics in English		2			
	Business Communication 1		2			
	Business Communication 2		2			
関 連 科 目	Critical Thinking		2			
	Global Career Development		2			
	Communication for Business		2			
	Japan Studies		2			
	Public Speaking		2			
グ ロ ー バ ル 専 門 科 目	Introductory	Introduction to Business		2		
		Introduction to Economics		2		
		Introduction to Global Health Issues		2		
		Introduction to International Relations		2		
	Progressive	Monetary Policy and Financial System		2		
		Fiscal Policy and Tax System in Japan		2		
		Culture and Business		2		
		Global Health and Social Justice		2		
		Marketing		2		
		History of Innovation & Science		2		
		Interdisciplinary Seminar 1		2		
		Interdisciplinary Seminar 2		2		

教職課程科目

授 業 科 目 の 名 称					単 位 数			備 考
					必修	選択	自由	
教 職 課 程	日 本 史	I			2			
	日 本 史	II			2			
	外 国 史	I			2			
	外 国 史	II			2			
	地 誌 学	I			2			

第 3 類 (杏林大学学則)

科 目	地 体 体	誌 育 育	学 理 実	Ⅱ 論 技		2 1 1	
--------	-------------	-------------	-------------	-------------	--	-------------	--

第3類（杏林大学学則）

別表3-5

総合政策学部学科目構成

（令和4年度入学生から適用）

総合政策学科

ベーシック科目

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数			備 考
	必修	選択	自由	
ベーシック科目		1		4単位 以上
	ベ ー シ ッ ク 政 治	1		
	ベ ー シ ッ ク 経 済	1		
	ベ ー シ ッ ク 法 律	1		
	ベ ー シ ッ ク 国 際 関 係	1		
	ベ ー シ ッ ク 福 祉 政 策	1		
	ベ ー シ ッ ク 経 営	1		
ベ ー シ ッ ク 会 計	1			

第3類（杏林大学学則）

コース別専門科目(政治)

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考	
		必修	選択	自由		
専 門 科 目	コ ア 科 目	政 治 心 理 学		2	12 単位 以上	
		政 治 コミュニケーション論		2		
		現 代 日 本 政 治 A (政 治)		2		
		現 代 日 本 政 治 B (行 政)		2		
		現 代 行 政 学 A		2		
		現 代 行 政 学 B		2		
		立 法 過 程 論		2		
		政 策 過 程 論		2		
		ロ ー カ ル ・ ガ バ メ ン ト 論 A		2		
		ロ ー カ ル ・ ガ バ メ ン ト 論 B		2		
	日 本 政 治 史 A		2			
	日 本 政 治 史 B		2			
	応 用 科 目	比 較 政 治 学		2		8 単位 以上
		国 際 政 治 学 A		2		
		国 際 政 治 学 B		2		
		外 交 政 策 論 A		2		
		外 交 政 策 論 B		2		
		国 際 政 治 経 済 学		2		
		ア メ リ カ 政 治 論		2		
ア ジ ア 政 治 論			2			
ヨ ー ロ ッ パ 政 治 論			2			
国 際 政 治 史		2				
社 会 保 障 史		2				
憲 法 I (統 治 機 構)		2				
憲 法 II (人 権)		2				
行 政 法 I (総 論)		2				
行 政 法 II (救 済 法)		2				
社 会 学		2				

第3類（杏林大学学則）

コース別専門科目（経済）

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア 課 目	ミ ク ロ 経 済 学		2	12 単位 以上
		マ ク ロ 経 済 学		2	
		経 済 統 計		2	
		国 際 経 済 学 A (貿 易)		2	
		国 際 経 済 学 B (金 融)		2	
		国 際 政 治 経 済 学		2	
		開 発 経 済 学		2	
		公 共 経 済 学		2	
		経 済 政 策 論		2	
		金 融 論		2	
財 政 論		2			
日 本 経 済 論		2			
応 用 科 目		行 動 経 済 学		2	8 単位 以上
		環 境 経 済 学		2	
		医 療 経 済 学		2	
		ア メ リ カ 経 済 論		2	
		ヨ ー ロ ッ パ 経 済 論		2	
		ア ジ ア 経 済 論		2	
		中 東・アフリカの政治・経済		2	
		社 会 福 祉 政 策 論		2	
		法 と 経 済 学		2	
		経 済 学 説 史		2	
ゲ ー ム 理 論		2			
産 業 社 会 学		2			

第3類（杏林大学学則）

コース別専門科目（法律）

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア 科 目	憲 法 I（統 治 機 構）		2	12 単位 以上
		憲 法 II（人 権）		2	
		民 法 I（民 法 入 門・総 則）		2	
		民 法 II（物 権・担 保 物 権）		2	
		民 法 III（債 権 総 論・各 論）		2	
		民 法 IV（家 族）		2	
		刑 法 I（総 論）		2	
		刑 法 II（各 論）		2	
		会 社 法 I（ガ バ ナ ン ス）		2	
		会 社 法 II（フ ェ イ ナ ン ス）		2	
		情 報 法 I（総 論）		2	
		情 報 法 II（各 論）		2	
		応 用 科 目		法 学 の 現 代 的 課 題 I	
法 学 の 現 代 的 課 題 II				2	
行 政 法 I（総 論）				2	
行 政 法 II（救 済 法）				2	
不 動 産 取 引 と 法				2	
企 業 法 総 論				2	
企 業 取 引 法				2	
労 働 法				2	
医 事 法				2	
倒 産 処 理 と 法				2	
民 事 訴 訟 法				2	
刑 事 訴 訟 法				2	
租 税 法 I				2	
租 税 法 II				2	
国 際 法 I				2	
国 際 法 II		2			
法 と 経 済		2			

第3類（杏林大学学則）

コース別専門科目(国際関係)

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア 課 目	国 際 法 I		2	12 単位 以上
		国 際 法 II		2	
		国 際 機 構 論		2	
		国 際 協 力 論		2	
		国 際 政 治 学 A		2	
		国 際 政 治 学 B		2	
		外 交 政 策 論 A		2	
		外 交 政 策 論 B		2	
		比 較 政 治 学		2	
		国 際 政 治 史		2	
マ ク ロ 経 済 学		2			
応 用 科 目		開 発 経 済 学		2	8 単位 以上
		現 代 行 政 学 A		2	
		政 策 過 程 論		2	
		ア ジ ア 経 済 論		2	
		ア メ リ カ 経 済 論		2	
		国 際 経 営 論		2	
		国 際 経 済 学 A (貿 易)		2	
		政 治 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論		2	
		中 東 ・ ア フ リ カ の 政 治 ・ 経 済		2	
		ヨ ー ロ ッ パ 経 済 論		2	
		経 済 統 計		2	
		ア ジ ア 政 治 論		2	
		ア メ リ カ 政 治 論		2	
		環 境 経 済 学		2	
ヨ ー ロ ッ パ 政 治 論		2			

第3類（杏林大学学則）

コース別専門科目（福祉政策）

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
専 門 科 目	コ ア 課 目	健 康 社 会 学		2	12 単位 以上
		医 療 経 済 学		2	
		児 童 福 祉 論		2	
		障 害 者 福 祉 論		2	
		老 人 福 祉 論		2	
		社 会 福 祉 政 策 論		2	
		社 会 保 障 論		2	
		環 境 保 全 論		2	
		環 境 経 済 学		2	
		医 事 法		2	
	ロ ー カ ル ・ ガ バ メ ン ト 論 A		2		
	ロ ー カ ル ・ ガ バ メ ン ト 論 B		2		
応 用 科 目		経 済 政 策 論		2	8 単位 以上
		財 政 論		2	
		公 共 経 済 学		2	
		憲 法 II (人 権)		2	
		民 法 I (民 法 入 門 ・ 総 則)		2	
		労 働 法		2	
		ヒ ュ ー マ ン エ コ ロ ジ ー		2	
		カ ウ ン セ リ ン グ 論		2	
		政 治 心 理 学		2	
		経 営 管 理 論		2	
		基 礎 簿 記 I		2	
基 礎 簿 記 II		2			

演習

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
専 門 演 習 科 目	演 習 ・ 卒 業 研 究	演 習 I		2	
		演 習 II		2	
		演 習 III		2	
		演 習 IV		2	
		演 習 V		2	

第3類（杏林大学学則）

		演 習 VI		2		
		卒 業 研 究 I		2		
		卒 業 研 究 II		2		
学 際 演 習		学 際 演 習 I		2	2 単位 以上	
		学 際 演 習 II		2		
		学 際 演 習 III		2		
		学 際 演 習 IV		2		
		学 際 演 習 V		2		
		学 際 演 習 VI		2		
特 別 演 習		特 別 演 習 I		2		
		特 別 演 習 II		2		
		特 別 演 習 III		2		
		特 別 演 習 IV		2		
プ ロ ジ ェ ク ト 演 習		プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 I		2		
		プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 II		2		
		プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 III		2		
		プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 IV		2		
コ ミ ュ ニ ティ ・ ベー ス ド ・ ラー ニング		コ ミ ュ ニ ティ ・ ベー ス ド ・ ラー ニング 概 論		2		
		コ ミ ュ ニ ティ ・ ベー ス ド ・ ラー ニング 基 礎 I		2		
		コ ミ ュ ニ ティ ・ ベー ス ド ・ ラー ニング 基 礎 II		2		
		コ ミ ュ ニ ティ ・ ベー ス ド ・ ラー ニング 応 用 I		2		
		コ ミ ュ ニ ティ ・ ベー ス ド ・ ラー ニング 応 用 II		2		

導入教育

授 業 科 目 の 名 称	単 位 数			備 考
	必修	選択	自由	
導入教育	プ レ ゼ ミ ナ ー ル A	2		
	プ レ ゼ ミ ナ ー ル B	2		
	時 事 問 題 研 究 A	2		
	時 事 問 題 研 究 B	2		

第3類（杏林大学学則）

一般教養科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
一 般 教 養 科 目	保健・医療の現状と未来Ⅰ		2		6単位 以上
	保健・医療の現状と未来Ⅱ		2		
	社会と大学Ⅰ		2		
	社会と大学Ⅱ（SDGs）		2		
	社会と大学Ⅲ		2		
	心 理 学		2		
	歴 史 学		2		
	文 学		2		
	音 楽		2		
	J a p a n S t u d i e s		2		
	M e d i a L i t e r a c y		2		
C r i t i c a l T h i n k i n g		2			

第3類（杏林大学学則）

外国語科目

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
外国語科目	必修外国語	英語Ⅰ Focus on Forms Ⅰ	2			
		英語Ⅱ Focus on Speaking Ⅰ	2			
		英語Ⅲ Focus on Forms Ⅱ	2			
		英語Ⅳ Focus on Speaking Ⅱ	2			
	選択外国語	発展英語Ⅰ Themes in English Ⅰ		2		
		発展英語Ⅱ Themes in English Ⅱ		2		
		中 国 語 Ⅰ		2		
		中 国 語 Ⅱ		2		
		フ ラ ン ス 語 Ⅰ		2		
		フ ラ ン ス 語 Ⅱ		2		
		ド イ ツ 語 Ⅰ		2		
		ド イ ツ 語 Ⅱ		2		
		ス ペ イ ン 語 Ⅰ		2		
		ス ペ イ ン 語 Ⅱ		2		
		韓 国 語 Ⅰ		2		
		韓 国 語 Ⅱ		2		

キャリア関連科目

授 業 科 目 の 名 称			単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
キ ャ リ ア 関 連 科 目	ライフ・プランニングⅠ	2				
	ライフ・プランニングⅡ	2				
	キャリア開発論Ⅰ	2				
	キャリア開発論Ⅱ	2				
	キャリア開発演習Ⅰ	2				
	キャリア開発演習Ⅱ	2				
	計算力演習Ⅰ		2			
	計算力演習Ⅱ		2			
	インターンシップⅠ		2			
	インターンシップⅡ		2			

第3類（杏林大学学則）

グローバルキャリア・プログラム

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考	
		必修	選択	自由		
アカデミックス スキル科目	Academic Writing I		2			
	Academic Writing II		2			
	Oral Communication I		2			
	Oral Communication II		2			
	Business Communication I		2			
	Business Communication II		2			
キャリア関 連科目	Organization Culture and Communication		2			
	Global Career Development		2			
ブリッジ 科目	Recent Topic in English		2			
	Writing for the Business World		2			
	Speaking in Professional Contexts		2			
	Writing for Social Sciences I		1			
	Writing for Social Sciences II		1			
	Writing for Social Sciences III		1			
	Writing for Social Sciences IV		1			
	Social Sciences Discussion I		1			
	Social Sciences Discussion II		1			
	Social Sciences Discussion III		1			
Social Sciences Discussion IV		1				
海外演習	海外演習基礎 I		2			
	海外演習基礎 II		2			
	海外演習応用 I		2			
	海外演習応用 II		2			
	海外演習発展 I		2			
	海外演習発展 II		2			
	海外演習実践		2			
グローバル 専門科目	Introductory	Economics		2		
		International Relations		2		
		Law		2		
		Business & Management		2		
		Governance and Social Policy		2		
		Culture in Context		2		
	Progressive	Marketing Strategy		2		
		Business Strategy		2		
		Monetary Policy and Financial System		2		
		Fiscal Policy		2		
		Bioethics and Welfare Policy		2		
		Global Health Issues		2		
		History of Innovation & Science		2		

第3類（杏林大学学則）

データ・デザイン・プログラム科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
データ・デザイン・プログラム	情 報 社 会 論	2			
	I C T ビ ジ ネ ス 論		2		
	情 報 リ テ ラ シ ー A	1			
	情 報 リ テ ラ シ ー B	1			
	デ ー タ デ ザ イ ナ ー 概 論		2		
	プ ロ グ ラ ミ ン グ 基 礎		2		
	プ ロ グ ラ ミ ン グ 応 用		2		
	デ ー タ サ イ エ ン ス 基 礎		2		
デ ー タ サ イ エ ン ス 応 用		2			

教職課程科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
教職課程科目	日 本 国 憲 法			2	
	日 本 史			2	
	外 国 史			2	
	地 理 学			2	
	地 誌 学			2	
	哲 学			2	
	倫 理 学			2	
体 育	健 康 と 体 育			2	

企業経営学科

ベーシック科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
ベーシック科目	ベ ー シ ッ ク 政 治		1		4 単位 以上
	ベ ー シ ッ ク 経 済		1		
	ベ ー シ ッ ク 法 律		1		
	ベ ー シ ッ ク 国 際 関 係		1		
	ベ ー シ ッ ク 福 祉 政 策		1		
	ベ ー シ ッ ク 経 営		1		
	ベ ー シ ッ ク 会 計		1		

第3類（杏林大学学則）

コース別専門科目(経営)

授業科目の名称		単位数			備考	
		必修	選択	自由		
専 門 科 目	コ ア 科 目	経営学総論		2	12単位 以上	
		経営管理論		2		
		経営組織論		2		
		経営戦略論		2		
		イノベーション論		2		
		社会学		2		
		ミクロ経済学		2		
		マーケティング総論		2		
		流通論		2		
		経営情報論		2		
	財務会計論		2			
	財務管理論		2			
	応 用 科 目	経営史		2		8単位 以上
		産業社会学		2		
		現代企業論		2		
		国際経営論		2		
		ベンチャー企業論		2		
		管理会計論		2		
		会計データ分析論		2		
出店戦略			2			
販売戦略			2			
原価計算			2			
会社法Ⅰ(ガバナンス)		2				
会社法Ⅱ(ファイナンス)		2				
企業取引法		2				
行動経済学		2				
ゲーム理論		2				
国際政治学A		2				
国際政治学B		2				
現代日本政治A(政治)		2				
現代日本政治B(行政)		2				
民法Ⅰ(民法入門・総則)		2				

コース別専門科目(会計)

授業科目の名称		単位数			備考
		必修	選択	自由	
コ	財務会計論		2		
	国際会計基準論		2		

第3類 (杏林大学学則)

専門科目	ア	基礎簿記 I	2	12 単位 以上
		基礎簿記 II	2	
		監査論	2	
		管理会計論	2	
		財務諸表論	2	
		商業簿記	2	
		原価計算	2	
		税務会計論	2	
		会社法 I (ガバナンス)	2	
		会社法 II (ファイナンス)	2	
応用科目		会計の歴史と課題	2	8 単位 以上
		財務諸表作成演習 I	2	
		財務諸表作成演習 II	2	
		会計データ分析	2	
		会計データ分析演習	2	
		企業法総論	2	
		企業取引法	2	
		租税法 I	2	
		租税法 II	2	
		経営学総論	2	
		経営管理論	2	
		経営組織論	2	
		マーケティング総論	2	
		財務管理論	2	
		労働法	2	
		国際法 I	2	
	国際法 II	2		
	マクロ経済学	2		

第3類（杏林大学学則）

演習

授 業 科 目 の 名 称					単 位 数			備 考
					必修	選択	自由	
専 門 演 習 科 目	演 習 ・ 卒 業 研 究	演 習 I		2				
		演 習 II		2				
		演 習 III		2				
		演 習 IV		2				
		演 習 V		2				
		演 習 VI		2				
		卒 業 研 究 I		2				
		卒 業 研 究 II		2				
	学 際 演 習	学 際 演 習 I		2	2 単 位 以 上			
		学 際 演 習 II		2				
		学 際 演 習 III		2				
		学 際 演 習 IV		2				
		学 際 演 習 V		2				
		学 際 演 習 VI		2				
	特 別 演 習	特 別 演 習 I		2				
		特 別 演 習 II		2				
		特 別 演 習 III		2				
		特 別 演 習 IV		2				
	プ ロ ジ ェ ク ト 演 習	プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 I		2				
		プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 II		2				
プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 III			2					
プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 IV			2					
コ ミ ュ ニ テ ィ ・ ベ ー ス ド ・ ラ ー ニ ン グ	コ ミ ュ ニ テ ィ ・ ベ ー ス ド ・ ラ ー ニ ン グ 概 論		2					
	コ ミ ュ ニ テ ィ ・ ベ ー ス ド ・ ラ ー ニ ン グ 基 礎 I		2					
	コ ミ ュ ニ テ ィ ・ ベ ー ス ド ・ ラ ー ニ ン グ 基 礎 II		2					
	コ ミ ュ ニ テ ィ ・ ベ ー ス ド ・ ラ ー ニ ン グ 応 用 I		2					
	コ ミ ュ ニ テ ィ ・ ベ ー ス ド ・ ラ ー ニ ン グ 応 用 II		2					

第3類（杏林大学学則）

導入教育

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
導入教育	プレゼミナール A	2			
	プレゼミナール B	2			
	時事問題研究 A	2			
	時事問題研究 B	2			

一般教養科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
一 般 教 養 科 目	保健・医療の現状と未来 I		2		6単位 以上
	保健・医療の現状と未来 II		2		
	社会と大学 I		2		
	社会と大学 II (SDGs)		2		
	社会と大学 III		2		
	心 理 学		2		
	歴 史 学		2		
	文 学		2		
	音 楽		2		
	J a p a n S t u d i e s		2		
	M e d i a L i t e r a c y		2		
C r i t i c a l T h i n k i n g		2			

第3類（杏林大学学則）

外国語科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
外国語科目	必修外国語	英語Ⅰ Focus on FormsⅠ	2		
		英語Ⅱ Focus on SpeakingⅠ	2		
		英語Ⅲ Focus on FormsⅡ	2		
		英語Ⅳ Focus on SpeakingⅡ	2		
	選択外国語	発展英語Ⅰ Themes in EnglishⅠ		2	
		発展英語Ⅱ Themes in EnglishⅡ		2	
		中 国 語Ⅰ		2	
		中 国 語Ⅱ		2	
		フ ラ ン ス 語Ⅰ		2	
		フ ラ ン ス 語Ⅱ		2	
		ド イ ツ 語Ⅰ		2	
		ド イ ツ 語Ⅱ		2	
		ス ペ イ ン 語Ⅰ		2	
		ス ペ イ ン 語Ⅱ		2	
		韓 国 語Ⅰ		2	
		韓 国 語Ⅱ		2	

キャリア関連科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
キ ャ リ ア 関 連 科 目	ライフ・プランニングⅠ	2			
	ライフ・プランニングⅡ	2			
	キャリア開発論Ⅰ	2			
	キャリア開発論Ⅱ	2			
	キャリア開発演習Ⅰ	2			
	キャリア開発演習Ⅱ	2			
	計算力演習Ⅰ		2		
	計算力演習Ⅱ		2		
	インターンシップⅠ		2		
	インターンシップⅡ		2		

第3類（杏林大学学則）

グローバルキャリア・プログラム

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考	
		必修	選択	自由		
アカデミックス 科目	Academic Writing I		2			
	Academic Writing II		2			
	Oral Communication I		2			
	Oral Communication II		2			
	Business Communication I		2			
	Business Communication II		2			
キャリア関 連科目	Organization Culture and Communication		2			
	Global Career Development		2			
ブリッジ 科目	Recent Topic in English		2			
	Writing for the Business World		2			
	Speaking in Professional Contexts		2			
	Writing for Social Sciences I		1			
	Writing for Social Sciences II		1			
	Writing for Social Sciences III		1			
	Writing for Social Sciences IV		1			
	Social Sciences Discussion I		1			
	Social Sciences Discussion II		1			
	Social Sciences Discussion III		1			
Social Sciences Discussion IV		1				
海外演習	海外演習基礎 I		2			
	海外演習基礎 II		2			
	海外演習応用 I		2			
	海外演習応用 II		2			
	海外演習発展 I		2			
	海外演習発展 II		2			
	海外演習実践		2			
グローバル専 門科目	Introductory	Economics		2		
		International Relations		2		
		Law		2		
		Business & Management		2		
		Governance and Social Policy		2		
		Culture in Context		2		
	Progressive	Marketing Strategy		2		
		Business Strategy		2		
		Monetary Policy and Financial System		2		
		Fiscal Policy		2		
		Bioethics and Welfare Policy		2		
		Global Health Issues		2		
		History of Innovation & Science		2		

第3類（杏林大学学則）

データ・デザイン・プログラム科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
データ・デザイン・プログラム	情 報 社 会 論	2			
	I C T ビ ジ ネ ス 論		2		
	情 報 リ テ ラ シ ー A	1			
	情 報 リ テ ラ シ ー B	1			
	デ ー タ デ ザ イ ナ ー 概 論		2		
	プ ロ グ ラ ミ ン グ 基 礎		2		
	プ ロ グ ラ ミ ン グ 応 用		2		
	デ ー タ サ イ エ ン ス 基 礎		2		
デ ー タ サ イ エ ン ス 応 用		2			

教職課程科目

授 業 科 目 の 名 称		単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
教職課程科目	日 本 国 憲 法			2	
	日 本 史			2	
	外 国 史			2	
	地 理 学			2	
	地 誌 学			2	
	哲 学			2	
	倫 理 学			2	
体 育	健 康 と 体 育			2	

第3類（杏林大学学則）

別表4-1（平成23年度入学生から適用）

外国語学部学科目構成

英語学科

授業科目の名称					単位数		備考
					必修	選択	
専門外国語科目	英語	I	—	1	1	英語及び中国語（留学生は日本語から4単位選択） 必修12単位	
	英語	I	—	2	1		
	英語	II	—	1	1		
	英語	II	—	2	1		
	英語	III	—	1	1		
	英語	III	—	2	1		
	英語	IV	—	1	1		
	英語	IV	—	2	1		
	中国語	I	—	1	1		
	中国語	I	—	2	1		
	中国語	II	—	1	1		
	中国語	II	—	2	1		
	中国語	III	—	1	1		
	中国語	III	—	2	1		
	中国語	IV	—	1	1		
	中国語	IV	—	2	1		
	日本語	I	—	1	1		
	日本語	I	—	2	1		
	日本語	II	—	1	1		
	日本語	II	—	2	1		
日本語	III	—	1	1			
日本語	III	—	2	1			
日本語	IV	—	1	1			
日本語	IV	—	2	1			
専門科	英語学	—	1	2			
	英語学	—	2	2			
	英語音声学	—	1	2			
	英語音声学	—	2	2			
	英語史	—	1		2		

第3類 (杏林大学学則)

目	英語史	—	2		2
A	日米比較文化概論				2
	英語の文化誌				2
	ヨーロッパの社会と文化				2
	英米文化論				2
	英米文学				2
	児童文学論				2
	社会言語学	—	1		2
	社会言語学	—	2		2
	対照言語学	—	1		2
	対照言語学	—	2		2
	認知言語学	—	1		2
	認知言語学	—	2		2
	言語獲得のメカニズム	—	1		2
	言語獲得のメカニズム	—	2		2
	アメリカ近現代史概説				2
	ヨーロッパ近現代史概説				2
	英語文法	I —	1	1	
	英語文法	I —	2	1	
	英語文法	II —	1		1
	英語文法	II —	2		1
	英語会話	—	1	1	
	英語会話	—	2	1	
	実用英語	I			1
	実用英語	II			1
	実用英語	III			1
	実用英語	IV			1
	ITイングリッシュ		1		
	英語作文	—	1	1	
	英語作文	—	2	1	
	現代英語購読	I —	1	1	
	現代英語購読	I —	2	1	
	現代英語購読	II —	1		1
	現代英語購読	II —	2		1
	実用英語演習	I	1		
	実用英語演習	II	1		
	実用英語演習	III	1		

第3類 (杏林大学学則)

	実用英語演習Ⅳ	1		
	ゼミナール－1	2		
	ゼミナール－2	2		
	ゼミナール－3	2		
	卒業論文・課題指導		4	
専 門 科 目 B	国際コミュニケーション論	2		英語ビジネスコミュニ ケーションコース
	グローバルビジネス論－1	2		
	グローバルビジネス論－2	2		
	現代北米ビジネス事情		2	
	現代ヨーロッパビジネス事情		2	
	マーケティング総論		2	
	アメリカ経済論		2	
	アメリカ政治外交論		2	
	ヨーロッパ経済論		2	
	ヨーロッパ政治外交論		2	
	ビジネスイングリッシュⅠ	1		
	ビジネスイングリッシュⅡ	1		
	ビジネスイングリッシュⅢ	1		
	ビジネスイングリッシュⅣ	1		
	ビジネスコミュニケーション演習Ⅰ	1		
	ビジネスコミュニケーション演習Ⅱ		1	
専 門 科 目 C	英語教育論－1	2		英語教育コース
	英語教育論－2	2		
	英語音声学特論－1	2		
	英語音声学特論－2	2		
	英語学特論－1		2	
	英語学特論－2		2	
	英語科教育法－1		2	
	英語科教育法－2		2	
	児童英語教育論－1		2	
	児童英語教育論－2		2	
	児童英語教育教材研究		1	
	児童英語教育実習		1	
	英語発音聴取	1		
	英語文章表現法－1	1		
	英語文章表現法－2	1		

第3類 (杏林大学学則)

	英語聴解・討論－1		1	
	英語聴解・討論－2		1	
専門 関連 科目 A	比較文化論 I－1		2	
	比較文化論 I－2		2	
	比較文化論 II－1		2	
	比較文化論 II－2		2	
	地域圏研究 I－1		2	
	地域圏研究 I－2		2	
	地域圏研究 II－1		2	
	地域圏研究 II－2		2	
	地域圏研究 III－1		2	
	地域圏研究 III－2		2	
	地域圏研究 IV－1		2	
	地域圏研究 IV－2		2	
	地域圏研究 V－1		2	
	地域圏研究 V－2		2	
	地域圏研究 VI－1		2	
	地域圏研究 VI－2		2	
	国際関係論 I		2	
	国際関係論 II		2	
	経済原論 I		2	
	経済原論 II		2	
	西洋史－1		2	
	西洋史－2		2	
	中国史－1		2	
	中国史－2		2	
	日本史－1		2	
	日本史－2		2	
	言語学－1		2	
	言語学－2		2	
	言語と文化－1		2	
	言語と文化－2		2	
	神話学－1		2	
	神話学－2		2	
	クリエイティブ・コミュニケーション論－1		2	
	クリエイティブ・コミュニケーション論－2		2	

第3類 (杏林大学学則)

	英語総合講座－1		2	
	英語総合講座－2		2	
	英語特論－1		2	
	英語特論－2		2	
	コミュニケーション概論－1	2		
	コミュニケーション概論－2	2		
	基礎演習－1	1		
	基礎演習－2	1		
	キャリア指導Ⅰ－1	1		
	キャリア指導Ⅰ－2	1		
	キャリア指導Ⅱ－1	1		
	キャリア指導Ⅱ－2	1		
	ホスピタリティ実習－1	1		
	ホスピタリティ実習－2	1		
	インターンシップⅠ		1	
	インターンシップⅡ		1	
	インターンシップⅢ		1	
	インターンシップⅣ		1	
専門 関連 科目 B	ドイツ語Ⅰ－1		1	
	ドイツ語Ⅰ－2		1	
	ドイツ語Ⅱ－1		1	
	ドイツ語Ⅱ－2		1	
	ドイツ語Ⅲ－1		1	
	ドイツ語Ⅲ－2		1	
	フランス語Ⅰ－1		1	
	フランス語Ⅰ－2		1	
	フランス語Ⅱ－1		1	
	フランス語Ⅱ－2		1	
	フランス語Ⅲ－1		1	
	フランス語Ⅲ－2		1	
	スペイン語Ⅰ－1		1	
	スペイン語Ⅰ－2		1	
	スペイン語Ⅱ－1		1	
	スペイン語Ⅱ－2		1	
	スペイン語Ⅲ－1		1	
	スペイン語Ⅲ－2		1	

第3類 (杏林大学学則)

	インドネシア語 I - 1	1	
	インドネシア語 I - 2	1	
	インドネシア語 II - 1	1	
	インドネシア語 II - 2	1	
	インドネシア語 III - 1	1	
	インドネシア語 III - 2	1	
	韓国語 I - 1	1	
	韓国語 I - 2	1	
	韓国語 II - 1	1	
	韓国語 II - 2	1	
	韓国語 III - 1	1	
	韓国語 III - 2	1	
	口語英語 I - 1	1	
	口語英語 I - 2	1	
	口語英語 II - 1	1	
	口語英語 II - 2	1	
	口語英語 III - 1	1	
	口語英語 III - 2	1	
	口語英語 IV - 1	1	
	口語英語 IV - 2	1	
	口語中国語 I - 1	1	
	口語中国語 I - 2	1	
	口語中国語 II - 1	1	
	口語中国語 II - 2	1	
	口語中国語 III - 1	1	
	口語中国語 III - 2	1	
	口語中国語 IV - 1	1	
	口語中国語 IV - 2	1	
専門 関連 科目 C	哲学 - 1	2	
	哲学 - 2	2	
	宗教学 - 1	2	
	宗教学 - 2	2	
	歴史学 - 1	2	
	歴史学 - 2	2	
	文学 - 1	2	
文学 - 2	2		

第3類 (杏林大学学則)

	音 楽	—	1	2
	音 楽	—	2	2
	日 本 国 憲 法 学			2
	政 治 学	—	1	2
	政 治 学	—	2	2
	地 理 学	—	1	2
	地 理 学	—	2	2
	経 済 学	—	1	2
	経 済 学	—	2	2
	数 学	—	1	2
	数 学	—	2	2
	物 理 学	—	1	2
	物 理 学	—	2	2
	化 学	—	1	2
	化 学	—	2	2
	生 物 学	—	1	2
	生 物 学	—	2	2
	健 康 科 学			2
	食 と 健 康 の エ コ ロ ジ ー			2
	心 理 学	—	1	2
	心 理 学	—	2	2
	統 計 学	—	1	2
	統 計 学	—	2	2
	情 報 処 理 論			2
	体 育 理 論			2
	体 育 実 技	—	1	1
	体 育 実 技	—	2	1
専 門 関 連 科 目 D	日 本 語 教 育 概 説			2
	日 本 語 教 授 法 概 論			2
	日 本 語 学 概 論			2
	日 本 語 音 声 学			2
	日 本 語 文 法 論			2
	日 本 語 意 味 論			2
	日 本 語 教 材 教 具 論			2
	日 本 語 教 材 教 具 論			2
	試 験 と 評 価			2

第3類 (杏林大学学則)

	日本語語彙論	2	
	日本語文字表記概説	2	
	日本語史	2	
	日本人の言語行動	2	
	異文化理解とコミュニケーション	2	
	日本語教授法演習	1	
	日本語教育実習	1	
	日本語学演習	1	
	日本語教育演習	1	
専科 門目 関連 E	他学部設置科目		
自科 自由 目			

中国語学科

授業科目の名称					単位数		備考
					必修	選択	
専 門 外 国 語 科 目	英語	I	—	1	1	英語及び中国語 (留学生は日本語から8単位選択) 必修16単位	
	英語	I	—	2	1		
	英語	II	—	1	1		
	英語	II	—	2	1		
	英語	III	—	1	1		
	英語	III	—	2	1		
	英語	IV	—	1	1		
	英語	IV	—	2	1		
	中国語	I	—	1	1		
	中国語	I	—	2	1		
	中国語	II	—	1	1		
	中国語	II	—	2	1		
	中国語	III	—	1	1		
	中国語	III	—	2	1		
中国語	IV	—	1	1			
中国語	IV	—	2	1			

第3類 (杏林大学学則)

	日 本 語 I - 1		1	
	日 本 語 I - 2		1	
	日 本 語 II - 1		1	
	日 本 語 II - 2		1	
	日 本 語 III - 1		1	
	日 本 語 III - 2		1	
	日 本 語 IV - 1		1	
	日 本 語 IV - 2		1	
	日 本 語 V - 1		1	
	日 本 語 V - 2		1	
	日 本 語 VI - 1		1	
	日 本 語 VI - 2		1	
	日 本 語 VII - 1		1	
	日 本 語 VII - 2		1	
専 門 科 目 A	異文化コミュニケーション	2		
	日 本 文 化 論		2	
	インテンシブ中国語 I - 1	1		
	インテンシブ中国語 I - 2	1		
	インテンシブ中国語 II - 1	1		
	インテンシブ中国語 II - 2	1		
	インテンシブ中国語 III - 1	1		
	インテンシブ中国語 III - 2	1		
	インテンシブ中国語 IV - 1	1		
	インテンシブ中国語 IV - 2	1		
	実用中国語演習 I		1	
	実用中国語演習 II		1	
	実用中国語演習 III		1	
	実用中国語演習 IV		1	
	発展英語 - 1		1	
	発展英語 - 2		1	
	中国語文章表現法 - 1		1	
	中国語文章表現法 - 2		1	
	中国語聴解・討論 - 1		1	
	中国語聴解・討論 - 2		1	
ゼミナール - 1	2			

第3類 (杏林大学学則)

	ゼミナール - 2	2		
	ゼミナール - 3	2		
	卒業論文・課題指導		4	
専 門 科 目 B	中国語学概論 - 1	2		
	中国語学概論 - 2	2		
	中国語音声学 - 1	2		
	中国語音声学 - 2	2		
	中国語コミュニケーション論 - 1	2		
	中国語コミュニケーション論 - 2	2		
	中国語通訳概論 - 1	2		
	中国語通訳概論 - 2	2		
	中国語翻訳概論 - 1	2		
	中国語翻訳概論 - 2	2		
	中国文学史 - 1		2	
	中国文学史 - 2		2	
	中国古典概説 - 1		2	
	中国古典概説 - 2		2	
	日中比較文化論 I - 1		2	
	日中比較文化論 I - 2		2	
	日中コミュニケーション研究 - 1		2	
	日中コミュニケーション研究 - 2		2	
	中国経済概論 - 1		2	
	中国経済概論 - 2		2	
	アジア経済論		2	
	中国政治外交論		2	
	実践中国語演習 I - 1		1	
	実践中国語演習 I - 2		1	
	実践中国語演習 II - 1		1	
	実践中国語演習 II - 2		1	
	実践中国語演習 III - 1		1	
	実践中国語演習 III - 2		1	
	実践中国語演習 IV - 1		1	
	実践中国語演習 IV - 2		1	
時事中国語 - 1		1		
時事中国語 - 2		1		

第3類 (杏林大学学則)

	商業中国語 - 1	1	
	商業中国語 - 2	1	
専門 関 連 科 目 A	比較文化論 I - 1	2	
	比較文化論 I - 2	2	
	比較文化論 II - 1	2	
	比較文化論 II - 2	2	
	地域圏研究 I - 1	2	
	地域圏研究 I - 2	2	
	地域圏研究 II - 1	2	
	地域圏研究 II - 2	2	
	地域圏研究 III - 1	2	
	地域圏研究 III - 2	2	
	地域圏研究 IV - 1	2	
	地域圏研究 IV - 2	2	
	地域圏研究 V - 1	2	
	地域圏研究 V - 2	2	
	地域圏研究 VI - 1	2	
	地域圏研究 VI - 2	2	
	国際関係論 I	2	
	国際関係論 II	2	
	経済原論 I	2	
	経済原論 II	2	
	西洋史 - 1	2	
	西洋史 - 2	2	
	中国史 - 1	2	
	中国史 - 2	2	
	日本史 - 1	2	
	日本史 - 2	2	
	言語学 - 1	2	
	言語学 - 2	2	
	言語と文化 - 1	2	
	言語と文化 - 2	2	
	神話学 - 1	2	
	神話学 - 2	2	
	クリエイティブ・コミュニケーション論-1	2	

第3類 (杏林大学学則)

	クリエイティブ・コミュニケーション論-2		2	
	英語総合講座-1		2	
	英語総合講座-2		2	
	英語特論-1		2	
	英語特論-2		2	
	コミュニケーション概論-1	2		
	コミュニケーション概論-2	2		
	基礎演習-1	1		
	基礎演習-2	1		
	キャリア指導I-1	1		
	キャリア指導I-2	1		
	キャリア指導II-1	1		
	キャリア指導II-2	1		
	ホスピタリティ実習-1	1		
	ホスピタリティ実習-2	1		
	インターンシップI		1	
	インターンシップII		1	
	インターンシップIII		1	
	インターンシップIV		1	
専門 関 連 科 目 B	ドイツ語I-1		1	
	ドイツ語I-2		1	
	ドイツ語II-1		1	
	ドイツ語II-2		1	
	ドイツ語III-1		1	
	ドイツ語III-2		1	
	フランス語I-1		1	
	フランス語I-2		1	
	フランス語II-1		1	
	フランス語II-2		1	
	フランス語III-1		1	
	フランス語III-2		1	
	スペイン語I-1		1	
	スペイン語I-2		1	
スペイン語II-1		1		
スペイン語II-2		1		

第3類 (杏林大学学則)

	スペイン語 III - 1	1	
	スペイン語 III - 2	1	
	インドネシア語 I - 1	1	
	インドネシア語 I - 2	1	
	インドネシア語 II - 1	1	
	インドネシア語 II - 2	1	
	インドネシア語 III - 1	1	
	インドネシア語 III - 2	1	
	韓国語 I - 1	1	
	韓国語 I - 2	1	
	韓国語 II - 1	1	
	韓国語 II - 2	1	
	韓国語 III - 1	1	
	韓国語 III - 2	1	
	口語英語 I - 1	1	
	口語英語 I - 2	1	
	口語英語 II - 1	1	
	口語英語 II - 2	1	
	口語英語 III - 1	1	
	口語英語 III - 2	1	
	口語英語 IV - 1	1	
	口語英語 IV - 2	1	
	口語中国語 I - 1	1	
	口語中国語 I - 2	1	
	口語中国語 II - 1	1	
	口語中国語 II - 2	1	
	口語中国語 III - 1	1	
	口語中国語 III - 2	1	
	口語中国語 IV - 1	1	
	口語中国語 IV - 2	1	
専門 関連	哲学 - 1	2	
	哲学 - 2	2	
	宗教学 - 1	2	
	宗教学 - 2	2	
	歴史学 - 1	2	
	歴史学 - 2	2	

第3類 (杏林大学学則)

科目C	文 学	-	1	2
	文 学	-	2	2
	音 楽	-	1	2
	音 楽	-	2	2
	日 本 国 憲 法 学			2
	政 治 学	-	1	2
	政 治 学	-	2	2
	地 理 学	-	1	2
	地 理 学	-	2	2
	経 済 学	-	1	2
	経 済 学	-	2	2
	数 学	-	1	2
	数 学	-	2	2
	物 理 学	-	1	2
	物 理 学	-	2	2
	化 学	-	1	2
	化 学	-	2	2
	生 物 学	-	1	2
	生 物 学	-	2	2
	健 康 科 学			2
	食 と 健 康 の エ コ ロ ジ ー			2
	心 理 学	-	1	2
	心 理 学	-	2	2
	統 計 学	-	1	2
	統 計 学	-	2	2
	情 報 処 理 学			2
	体 育 理 論			2
	体 育 実 技	-	1	1
	体 育 実 技	-	2	1
	専 門	日 本 語 教 育 概 説		
日 本 語 教 授 法 概 論				2
日 本 語 学 概 論				2
日 本 語 音 声 学				2
日 本 語 文 法 論				2

第3類 (杏林大学学則)

関連科目 D	日本語意味論		2	
	日本語教材教具論		2	
	試験と評価		2	
	日本語語彙論		2	
	日本語文字表記概説		2	
	日本語史		2	
	日本人の言語行動		2	
	異文化理解とコミュニケーション		2	
	日本語教授法演習		1	
	日本語教育実習		1	
	日本語学演習		1	
	日本語教育演習		1	
専科 門目 関連 E	他学部 の 設置 科目			
自科 由目				

観光交流文化学科

授業科目の名称					単位数		備考
					必修	選択	
専 門 外 国 語 科 目	英語	I	—	1	1		英語及び中国語8単位、又は 英語及び韓国語8単位(留学 生は日本語8単位) 必修16単位
	英語	I	—	2	1		
	英語	II	—	1	1		
	英語	II	—	2	1		
	英語	III	—	1	1		
	英語	III	—	2	1		
	英語	IV	—	1	1		
	英語	IV	—	2	1		
	中国語	I	—	1		1	
	中国語	I	—	2		1	
	中国語	II	—	1		1	
	中国語	II	—	2		1	
	中国語	III	—	1		1	

第3類 (杏林大学学則)

中国語 III - 2	1
中国語 IV - 1	1
中国語 IV - 2	1
韓国語 I - 1	1
韓国語 I - 2	1
韓国語 II - 1	1
韓国語 II - 2	1
韓国語 III - 1	1
韓国語 III - 2	1
韓国語 IV - 1	1
韓国語 IV - 2	1
日本語 I - 1	1
日本語 I - 2	1
日本語 II - 1	1
日本語 II - 2	1
日本語 III - 1	1
日本語 III - 2	1
日本語 IV - 1	1
日本語 IV - 2	1
日本語 V - 1	1
日本語 V - 2	1
日本語 VI - 1	1
日本語 VI - 2	1
日本語 VII - 1	1
日本語 VII - 2	1
インテンシブ中国語 I - 1	1
インテンシブ中国語 I - 2	1
インテンシブ中国語 II - 1	1
インテンシブ中国語 II - 2	1
インテンシブ中国語 III - 1	1
インテンシブ中国語 III - 2	1
インテンシブ中国語 IV - 1	1
インテンシブ中国語 IV - 2	1
観光交流文化論	2
ホスピタリティ論	2

第3類 (杏林大学学則)

専 門 科 目 A	国 際 観 光 論	2		
	交 流 文 化 論	2		
	異文化コミュニケーション論	2		
	サ ー ビ ス 文 化 論	2		
	サ ー ビ ス 日 本 語	2		
	紀 行 文 学 論		2	
	観 光 メ デ ィ ア 論		2	
	観 光 心 理 学		2	
	観 光 人 類 学		2	
	観 光 地 理 学		2	
	観 光 保 健 論		2	
	福 祉 観 光 論		2	
	観 光 マ ー ケ テ ィ ン グ 論		2	
	キ ャ リ ア デ ザ イン I	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン II	2		
	基 礎 英 語 I - 1	1		
	基 礎 英 語 I - 2	1		
	基 礎 英 語 II - 1	1		
	基 礎 英 語 II - 2	1		
	観 光 英 語 I - 1	1		
	観 光 英 語 I - 2	1		
	観 光 英 語 II - 1	1		
	観 光 英 語 II - 2	1		
	観 光 中 国 語 - 1		1	観光中国語-1・2(各1単位)又は観光韓国語-1・2(各1単位)のどちらかを選択必修
	観 光 中 国 語 - 2		1	
	観 光 韓 国 語 - 1		1	
	観 光 韓 国 語 - 2		1	
	観 光 手 話 基 礎		1	
	観 光 手 話		1	
	実 用 英 語 - 1	1		
	実 用 英 語 - 2	1		
	観 光 基 礎 演 習 - 1	1		
	観 光 基 礎 演 習 - 2	1		
ゼ ミ ナ ー ル - 1	2			
ゼ ミ ナ ー ル - 2	2			
ゼ ミ ナ ー ル - 3	2			

8単位以上

第3類 (杏林大学学則)

	卒業論文・課題指導		4	
専 門 科 目 B	サービス産業論	2		
	ファシリテーション論	2		
	ファシリテーション実習	1		
	航空産業論		2	
	航空サービス論		2	
	宿泊産業論		2	
	宿泊サービス論		2	
	外食産業論		2	
	外食サービス論		2	
	旅行産業論		2	
	旅行サービス論		2	
	ホスピタリティマネジメント論		2	
	観光政策・行政論		2	
	風景・景観論		2	
	イベント・コンベンション論		2	
	エンターテインメント産業論		2	
	ツアーガイド論		2	
	ブライダルコーディネート論		2	
	多摩八王子観光論		2	
	世界遺産観光論		2	
	旅行医学概論		2	
	サービス衛生論		2	
	観光交流文化特論Ⅰ		2	
	観光交流文化特論Ⅱ		2	
観光交流文化特論Ⅲ		2		
観光交流文化特論Ⅳ		2		
観光交流文化特論Ⅴ		2		
観光交流文化特論Ⅵ		2		
専 門 関 連	比較文化論Ⅰ－1		2	
	比較文化論Ⅰ－2		2	
	比較文化論Ⅱ－1		2	
	比較文化論Ⅱ－2		2	
	アメリカ社会論－1		2	
	アメリカ社会論－2		2	

第3類 (杏林大学学則)

科目 A	中国事情	2
	韓国事情	2
	地域圏研究Ⅰ－1	2
	地域圏研究Ⅰ－2	2
	地域圏研究Ⅱ－1	2
	地域圏研究Ⅱ－2	2
	地域圏研究Ⅲ－1	2
	地域圏研究Ⅲ－2	2
	地域圏研究Ⅳ－1	2
	地域圏研究Ⅳ－2	2
	地域圏研究Ⅴ－1	2
	地域圏研究Ⅴ－2	2
	地域圏研究Ⅵ－1	2
	地域圏研究Ⅵ－2	2
	国際関係論Ⅰ	2
	国際関係論Ⅱ	2
	経済原論Ⅰ	2
	経済原論Ⅱ	2
	西洋史－1	2
	西洋史－2	2
	中国史－1	2
	中国史－2	2
	日本史－1	2
	日本史－2	2
	言語学－1	2
	言語学－2	2
	言語と文化－1	2
	言語と文化－2	2
	日中文化交流史－1	2
	日中文化交流史－2	2
	日韓文化交流史－1	2
	日韓文化交流史－2	2
	神話学	2
文化人類学	2	
クリエイティブ・コミュニケーション論－1	2	

第3類 (杏林大学学則)

	クリエイティブ・コミュニケーション論-2		2	
	英語総合講座-1		2	
	英語総合講座-2		2	
	英語特論-1		2	
	英語特論-2		2	
	コミュニケーション概論	2		
	基礎演習-1	1		
	基礎演習-2	1		
	キャリア指導I-1	1		
	キャリア指導I-2	1		
	キャリア指導II-1	1		
	キャリア指導II-2	1		
	ホスピタリティ実習-1	1		
	ホスピタリティ実習-2	1		
	インターンシップI		1	インターンシップI～IV のうち1科目選択必修
	インターンシップII		1	
	インターンシップIII		1	
	インターンシップIV		1	
専門 関連 科目 B	ドイツ語I-1		1	
	ドイツ語I-2		1	
	ドイツ語II-1		1	
	ドイツ語II-2		1	
	ドイツ語III-1		1	
	ドイツ語III-2		1	
	フランス語I-1		1	
	フランス語I-2		1	
	フランス語II-1		1	
	フランス語II-2		1	
	フランス語III-1		1	
	フランス語III-2		1	
	スペイン語I-1		1	
	スペイン語I-2		1	
スペイン語II-1		1		
スペイン語II-2		1		
	スペイン語III-1		1	

第3類 (杏林大学学則)

スペイン語Ⅲ－2	1	
インドネシア語Ⅰ－1	1	
インドネシア語Ⅰ－2	1	
インドネシア語Ⅱ－1	1	
インドネシア語Ⅱ－2	1	
インドネシア語Ⅲ－1	1	
インドネシア語Ⅲ－2	1	
情報英語Ⅰ	1	
情報英語Ⅱ	1	
情報中国語Ⅰ	1	
情報中国語Ⅱ	1	
情報日本語	1	
口語英語Ⅰ－1	1	
口語英語Ⅰ－2	1	
口語英語Ⅱ－1	1	
口語英語Ⅱ－2	1	
口語英語Ⅲ－1	1	
口語英語Ⅲ－2	1	
口語英語Ⅳ－1	1	
口語英語Ⅳ－2	1	
口語英語Ⅴ－1	1	
口語英語Ⅴ－2	1	
中国語演習Ⅰ－1	2	
中国語演習Ⅰ－2	2	
中国語演習Ⅱ－1	2	
中国語演習Ⅱ－2	2	
中国語演習Ⅲ－1	2	
中国語演習Ⅲ－2	2	
中国語実習Ⅰ－1	1	
中国語実習Ⅰ－2	1	
中国語実習Ⅱ－1	1	
中国語実習Ⅱ－2	1	
中国語実習Ⅲ－1	1	
中国語実習Ⅲ－2	1	
哲学－1	2	
哲学－2	2	

第3類 (杏林大学学則)

専門 関連 科目 C	宗 教 学	—	1	2
	宗 教 学	—	2	2
	歴 史 学	—	1	2
	歴 史 学	—	2	2
	文 学	—	1	2
	文 学	—	2	2
	音 楽	—	1	2
	音 楽	—	2	2
	日 本 国 憲 法 学			2
	法 学			2
	政 治 学	—	1	2
	政 治 学	—	2	2
	地 理 学	—	1	2
	地 理 学	—	2	2
	経 済 学	—	1	2
	経 済 学	—	2	2
	数 学	—	1	2
	数 学	—	2	2
	物 理 学	—	1	2
	物 理 学	—	2	2
	化 学	—	1	2
	化 学	—	2	2
	生 物 学	—	1	2
	生 物 学	—	2	2
	健 康 科 学			2
	食 と 健 康 の エ コ ロ ジ ー			2
	心 理 学	—	1	2
	心 理 学	—	2	2
	統 計 学	—	1	2
	統 計 学	—	2	2
	情 報 処 理			2
体 育 理 論			1	
体 育 実 技	—	1	1	
体 育 実 技	—	2	1	
	日 本 語 教 育 概 説			2

第3類 (杏林大学学則)

専 門 関 連 科 目 D	日 本 語 教 授 法 概 論	2		
	日 本 語 学 概 論	2		
	日 本 語 音 声 学	2		
	日 本 語 文 法 論	2		
	日 本 語 意 味 論	2		
	日 本 語 教 材 教 具 論	2		
	試 験 と 評 価	2		
	日 本 語 語 彙 論	2		
	日 本 語 文 字 表 記 概 説	2		
	日 本 語 史	2		
	日 本 人 の 言 語 行 動	2		
	異文化理解とコミュニケーション	2		
	日 本 語 教 授 法 演 習	1		
	日 本 語 教 育 実 習	1		
日 本 語 学 演 習	1			
日 本 語 教 育 演 習	1			
専 門 関 連 E	他学部 の 設 置 科 目			
自 由 目				

第3類（杏林大学学則）

別表4-2（平成26年度入学生から適用）

外国語学部学科目構成

英語学科

授業科目の名称					単位数		備考
					必修	選択	
専門外国語科目	英語	I	—	1	1	英語及び中国語（留学生は日本語から4単位選択） 必修12単位	
	英語	I	—	2	1		
	英語	II	—	1	1		
	英語	II	—	2	1		
	英語	III	—	1	1		
	英語	III	—	2	1		
	英語	IV	—	1	1		
	英語	IV	—	2	1		
	中国語	I	—	1	1		
	中国語	I	—	2	1		
	中国語	II	—	1	1		
	中国語	II	—	2	1		
	中国語	III	—	1	1		
	中国語	III	—	2	1		
	中国語	IV	—	1	1		
	中国語	IV	—	2	1		
	日本語	I	—	1	1		
	日本語	I	—	2	1		
	日本語	II	—	1	1		
	日本語	II	—	2	1		
日本語	III	—	1	1			
日本語	III	—	2	1			
日本語	IV	—	1	1			
日本語	IV	—	2	1			
専門科	英語学	—	1	2			
	英語学	—	2	2			
	英語史	—	1		2		
	英語史	—	2		2		
	日米比較文化概論					2	

第3類 (杏林大学学則)

目	ヨーロッパの社会と文化			2
A	英米文化論			2
	英米文学			2
	児童文学論			2
	社会言語学 - 1			2
	社会言語学 - 2			2
	対照言語学 - 1			2
	対照言語学 - 2			2
	認知言語学 - 1			2
	認知言語学 - 2			2
	アメリカ近現代史概説			2
	ヨーロッパ近現代史概説			2
	グローバル人材論			2
	グローバルシチズンシップ論			2
	アジアン・ホスピタリティ論			2
	交流フィールドワーク			1
	英語文法 I - 1	1		
	英語文法 I - 2	1		
	英語文法 II - 1		1	
	英語文法 II - 2		1	
	英語会話 - 1	1		
	英語会話 - 2	1		
	実用英語 I			1
	実用英語 II			1
	英語作文 - 1	1		
	英語作文 - 2	1		
	現代英語購読 I - 1	1		
	現代英語購読 I - 2	1		
	現代英語購読 II - 1		1	
	現代英語購読 II - 2		1	
	実用英語演習 I	1		
	実用英語演習 II	1		
	実用英語演習 III	1		
	実用英語演習 IV	1		
	ゼミナール - 1	2		
	ゼミナール - 2	2		
	ゼミナール - 3	2		

第3類 (杏林大学学則)

	卒業論文・課題指導		4	
専 門 科 目 B	国際コミュニケーション論	2		英語ビジネスコミュニ ケーションコース
	グローバルビジネス論-1	2		
	グローバルビジネス論-2	2		
	現代北米ビジネス事情		2	
	現代ヨーロッパビジネス事情		2	
	マーケティング総論		2	
	アメリカ経済論		2	
	アメリカ政治外交論		2	
	ヨーロッパ経済論		2	
	ヨーロッパ政治外交論		2	
	ビジネスイングリッシュⅠ	1		
	ビジネスイングリッシュⅡ	1		
	ビジネスイングリッシュⅢ	1		
	ビジネスイングリッシュⅣ	1		
	ビジネスコミュニケーション演習Ⅰ	1		
ビジネスコミュニケーション演習Ⅱ		1		
専 門 科 目 C	英語教育論-1	2		英語教育コース
	英語教育論-2	2		
	英語音声学-1	2		
	英語音声学-2	2		
	英語音声学特論-1	2		
	英語音声学特論-2	2		
	英語学特論Ⅰ-1		2	
	英語学特論Ⅰ-2		2	
	英語学特論Ⅱ-1		2	
	英語学特論Ⅱ-2		2	
	英語科教育法-1		2	
	英語科教育法-2		2	
	児童英語教育論-1		2	
	児童英語教育論-2		2	
	児童英語教育教材研究		1	
	児童英語教育実習		1	
	英語発音聴取	1		
英語文章表現法-1	1			
英語文章表現法-2	1			

第3類 (杏林大学学則)

	英語聴解・討論－1		1	
	英語聴解・討論－2		1	
専門 関連 科目 A	比較文化論Ⅰ－1		2	
	比較文化論Ⅰ－2		2	
	比較文化論Ⅱ－1		2	
	比較文化論Ⅱ－2		2	
	地域圏研究Ⅰ－1		2	
	地域圏研究Ⅰ－2		2	
	地域圏研究Ⅱ－1		2	
	地域圏研究Ⅱ－2		2	
	地域圏研究Ⅲ－1		2	
	地域圏研究Ⅲ－2		2	
	地域圏研究Ⅳ－1		2	
	地域圏研究Ⅳ－2		2	
	地域圏研究Ⅴ－1		2	
	地域圏研究Ⅴ－2		2	
	地域圏研究Ⅵ－1		2	
	地域圏研究Ⅵ－2		2	
	国際関係論Ⅰ		2	
	国際関係論Ⅱ		2	
	経済原論Ⅰ		2	
	経済原論Ⅱ		2	
	西洋史－1		2	
	西洋史－2		2	
	中国史－1		2	
	中国史－2		2	
	日本史－1		2	
	日本史－2		2	
	言語学－1		2	
	言語学－2		2	
	言語と文化－1		2	
	言語と文化－2		2	
	神話学－1		2	
	神話学－2		2	
	クリエイティブ・コミュニケーション論－1		2	
	クリエイティブ・コミュニケーション論－2		2	

第3類 (杏林大学学則)

	英語総合講座－1		2	
	英語総合講座－2		2	
	英語特論－1		2	
	英語特論－2		2	
	コミュニケーション概論－1	2		
	コミュニケーション概論－2	2		
	地域と大学	2		
	基礎演習－1	1		
	基礎演習－2	1		
	キャリア指導Ⅰ－1	1		
	キャリア指導Ⅰ－2	1		
	キャリア指導Ⅱ－1	1		
	キャリア指導Ⅱ－2	1		
	ホスピタリティ実習	1		
	プロジェクト演習Ⅰ		1	
	プロジェクト演習Ⅱ		1	
	インターンシップⅠ		1	
	インターンシップⅡ		1	
	インターンシップⅢ		1	
	インターンシップⅣ		1	
専門 関連 科目 B	ドイツ語Ⅰ－1		1	
	ドイツ語Ⅰ－2		1	
	ドイツ語Ⅱ－1		1	
	ドイツ語Ⅱ－2		1	
	ドイツ語Ⅲ－1		1	
	ドイツ語Ⅲ－2		1	
	フランス語Ⅰ－1		1	
	フランス語Ⅰ－2		1	
	フランス語Ⅱ－1		1	
	フランス語Ⅱ－2		1	
	フランス語Ⅲ－1		1	
	フランス語Ⅲ－2		1	
	スペイン語Ⅰ－1		1	
	スペイン語Ⅰ－2		1	
	スペイン語Ⅱ－1		1	
	スペイン語Ⅱ－2		1	

第3類 (杏林大学学則)

	スペイン語 III - 1	1	
	スペイン語 III - 2	1	
	インドネシア語 I - 1	1	
	インドネシア語 I - 2	1	
	インドネシア語 II - 1	1	
	インドネシア語 II - 2	1	
	インドネシア語 III - 1	1	
	インドネシア語 III - 2	1	
	韓国語 I - 1	1	
	韓国語 I - 2	1	
	韓国語 II - 1	1	
	韓国語 II - 2	1	
	韓国語 III - 1	1	
	韓国語 III - 2	1	
	口語英語 I - 1	1	
	口語英語 I - 2	1	
	口語英語 II - 1	1	
	口語英語 II - 2	1	
	口語英語 III - 1	1	
	口語英語 III - 2	1	
	口語英語 IV - 1	1	
	口語英語 IV - 2	1	
	口語中国語 I - 1	1	
	口語中国語 I - 2	1	
	口語中国語 II - 1	1	
	口語中国語 II - 2	1	
	口語中国語 III - 1	1	
	口語中国語 III - 2	1	
	口語中国語 IV - 1	1	
	口語中国語 IV - 2	1	
専門 関連	哲学 - 1	2	
	哲学 - 2	2	
	宗教学 - 1	2	
	宗教学 - 2	2	
	歴史学 - 1	2	
	歴史学 - 2	2	

第3類 (杏林大学学則)

科目C	文	学	-	1	2	
	文	学	-	2	2	
	音	楽	-	1	2	
	音	楽	-	2	2	
	日	本	国	憲	法	2
	法				学	2
	政	治	学	-	1	2
	政	治	学	-	2	2
	地	理	学	-	1	2
	地	理	学	-	2	2
	経	济	学	-	1	2
	経	济	学	-	2	2
	数	学	-	1	2	
	数	学	-	2	2	
	物	理	学	-	1	2
	物	理	学	-	2	2
	化	学	-	1	2	
	化	学	-	2	2	
	生	物	学	-	1	2
	生	物	学	-	2	2
	健	康	科		学	2
	食	と	健	康	の	エ
	心	理	学	-	1	2
	心	理	学	-	2	2
	統	計	学	-	1	2
	統	計	学	-	2	2
	情	報	処		理	2
	体	育	理		論	2
	体	育	実	技	-	1
	体	育	実	技	-	2
専門 関連	日	本	語	教	育	
	日	本	語	教	授	
	日	本	語	学	概	
	日	本	語	音	声	
	日	本	語	文	法	
日	本	語	意	味		
				説	2	
				論	2	
				論	2	
				論	2	
				論	2	
				論	2	

第3類 (杏林大学学則)

科目 D	日本語教材教具論	2	
	試験と評価	2	
	日本語語彙論	2	
	日本語文字表記概説	2	
	日本語史	2	
	日本人の言語行動	2	
	異文化理解とコミュニケーション	2	
	日本文化論	2	
	日本語教授法演習	1	
	日本語教育実習	1	
	日本語学演習	1	
	日本語教育演習	1	
	日本文化演習Ⅰ	1	
	日本文化演習Ⅱ	1	
	日本文化演習Ⅲ	1	
	日本語表現演習	1	
専科 門 関 連 目 E	他学部 の 設置 科目		
自科 由 目			

中国語学科

授業科目の名称					単位数		備 考
					必修	選択	
専 門 外 国 語 科 目	英語	I	—	1	1	英語及び中国語 (留学生 は日本語から8単位選択) 必修16単位	
	英語	I	—	2	1		
	英語	II	—	1	1		
	英語	II	—	2	1		
	英語	III	—	1	1		
	英語	III	—	2	1		
	英語	IV	—	1	1		
	英語	IV	—	2	1		
	中国語	I	—	1	1		

第3類 (杏林大学学則)

	中国語 I - 2	1	
	中国語 II - 1	1	
	中国語 II - 2	1	
	中国語 III - 1	1	
	中国語 III - 2	1	
	中国語 IV - 1	1	
	中国語 IV - 2	1	
	日本語 I - 1		1
	日本語 I - 2		1
	日本語 II - 1		1
	日本語 II - 2		1
	日本語 III - 1		1
	日本語 III - 2		1
	日本語 IV - 1		1
	日本語 IV - 2		1
	日本語 V - 1		1
	日本語 V - 2		1
	日本語 VI - 1		1
	日本語 VI - 2		1
	日本語 VII - 1		1
	日本語 VII - 2		1
専 門 科 目 A	異文化コミュニケーション	2	
	日本文化論		2
	インテンシブ中国語 I - 1	1	
	インテンシブ中国語 I - 2	1	
	インテンシブ中国語 II - 1	1	
	インテンシブ中国語 II - 2	1	
	インテンシブ中国語 III - 1	1	
	インテンシブ中国語 III - 2	1	
	インテンシブ中国語 IV - 1	1	
	インテンシブ中国語 IV - 2	1	
	実用中国語演習 I		1
	実用中国語演習 II		1
	実用中国語演習 III		1
実用中国語演習 IV		1	

第3類 (杏林大学学則)

	発展英語－1		1	
	発展英語－2		1	
	中国語文章表現法－1		1	
	中国語文章表現法－2		1	
	中国語聴解・討論－1		1	
	中国語聴解・討論－2		1	
	グローバル人材論		2	
	グローバルシチズンシップ論		2	
	アジアン・ホスピタリティ論		2	
	交流フィールドワーク		1	
	ゼミナール－1	2		
	ゼミナール－2	2		
	ゼミナール－3	2		
	卒業論文・課題指導		4	
専 門 科 目 B	中国語学概論－1	2		
	中国語学概論－2	2		
	中国語音声学－1	2		
	中国語音声学－2	2		
	中国語コミュニケーション論－1	2		
	中国語コミュニケーション論－2	2		
	中国語通訳概論－1	2		
	中国語通訳概論－2	2		
	中国語翻訳概論－1	2		
	中国語翻訳概論－2	2		
	中国文学史－1		2	
	中国文学史－2		2	
	中国古典概説－1		2	
	中国古典概説－2		2	
	日中比較文化論I－1		2	
	日中比較文化論I－2		2	
	日中コミュニケーション研究－1		2	
	日中コミュニケーション研究－2		2	
	中国経済概論－1		2	
	中国経済概論－2		2	

第3類 (杏林大学学則)

	ア ジ ア 経 済 論	2	
	中 国 政 治 外 交 論	2	
	実 践 中 国 語 演 習 I - 1	1	
	実 践 中 国 語 演 習 I - 2	1	
	実 践 中 国 語 演 習 II - 1	1	
	実 践 中 国 語 演 習 II - 2	1	
	実 践 中 国 語 演 習 III - 1	1	
	実 践 中 国 語 演 習 III - 2	1	
	実 践 中 国 語 演 習 IV - 1	1	
	実 践 中 国 語 演 習 IV - 2	1	
	時 事 中 国 語 - 1	1	
	時 事 中 国 語 - 2	1	
	商 業 中 国 語 - 1	1	
	商 業 中 国 語 - 2	1	
専 門 関 連 科 目 A	比 較 文 化 論 I - 1	2	
	比 較 文 化 論 I - 2	2	
	比 較 文 化 論 II - 1	2	
	比 較 文 化 論 II - 2	2	
	地 域 圏 研 究 I - 1	2	
	地 域 圏 研 究 I - 2	2	
	地 域 圏 研 究 II - 1	2	
	地 域 圏 研 究 II - 2	2	
	地 域 圏 研 究 III - 1	2	
	地 域 圏 研 究 III - 2	2	
	地 域 圏 研 究 IV - 1	2	
	地 域 圏 研 究 IV - 2	2	
	地 域 圏 研 究 V - 1	2	
	地 域 圏 研 究 V - 2	2	
	地 域 圏 研 究 VI - 1	2	
	地 域 圏 研 究 VI - 2	2	
	国 際 関 係 論 I	2	
	国 際 関 係 論 II	2	
	経 済 原 論 I	2	
経 済 原 論 II	2		
西 洋 史 - 1	2		

第3類 (杏林大学学則)

西 洋 史	—	2		2
中 国 史	—	1		2
中 国 史	—	2		2
日 本 史	—	1		2
日 本 史	—	2		2
言 語 学	—	1		2
言 語 学	—	2		2
言 語 と 文 化	—	1		2
言 語 と 文 化	—	2		2
神 話 学	—	1		2
神 話 学	—	2		2
クリエイティブ・コミュニケーション論-1				2
クリエイティブ・コミュニケーション論-2				2
英 語 総 合 講 座	—	1		2
英 語 総 合 講 座	—	2		2
英 語 特 論	—	1		2
英 語 特 論	—	2		2
コミュニケーション概論-1		2		
コミュニケーション概論-2		2		
地 域 と 大 学			2	
基 礎 演 習	—	1	1	
基 礎 演 習	—	2	1	
キ ャ リ ア 指 導 I	—	1	1	
キ ャ リ ア 指 導 I	—	2	1	
キ ャ リ ア 指 導 II	—	1	1	
キ ャ リ ア 指 導 II	—	2	1	
ホスピタリティ実習-1			1	
ホスピタリティ実習-2			1	
プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 I				1
プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 II				1
イ ン タ ー ン シ ッ プ I				1
イ ン タ ー ン シ ッ プ II				1
イ ン タ ー ン シ ッ プ III				1
イ ン タ ー ン シ ッ プ IV				1

第3類 (杏林大学学則)

専門 関連 科目 B	ドイツ語 I - 1	1
	ドイツ語 I - 2	1
	ドイツ語 II - 1	1
	ドイツ語 II - 2	1
	ドイツ語 III - 1	1
	ドイツ語 III - 2	1
	フランス語 I - 1	1
	フランス語 I - 2	1
	フランス語 II - 1	1
	フランス語 II - 2	1
	フランス語 III - 1	1
	フランス語 III - 2	1
	スペイン語 I - 1	1
	スペイン語 I - 2	1
	スペイン語 II - 1	1
	スペイン語 II - 2	1
	スペイン語 III - 1	1
	スペイン語 III - 2	1
	インドネシア語 I - 1	1
	インドネシア語 I - 2	1
	インドネシア語 II - 1	1
	インドネシア語 II - 2	1
	インドネシア語 III - 1	1
	インドネシア語 III - 2	1
	韓国語 I - 1	1
	韓国語 I - 2	1
	韓国語 II - 1	1
	韓国語 II - 2	1
	韓国語 III - 1	1
	韓国語 III - 2	1
	口語英語 I - 1	1
	口語英語 I - 2	1
口語英語 II - 1	1	
口語英語 II - 2	1	

第 3 類 (杏林大学学則)

	口 語 英 語 III - 1	1	
	口 語 英 語 III - 2	1	
	口 語 英 語 IV - 1	1	
	口 語 英 語 IV - 2	1	
	口 語 中 国 語 I - 1	1	
	口 語 中 国 語 I - 2	1	
	口 語 中 国 語 II - 1	1	
	口 語 中 国 語 II - 2	1	
	口 語 中 国 語 III - 1	1	
	口 語 中 国 語 III - 2	1	
	口 語 中 国 語 IV - 1	1	
	口 語 中 国 語 IV - 2	1	
專 門 関 連 科 目 C	哲 学 - 1	2	
	哲 学 - 2	2	
	宗 教 学 - 1	2	
	宗 教 学 - 2	2	
	歴 史 学 - 1	2	
	歴 史 学 - 2	2	
	文 学 - 1	2	
	文 学 - 2	2	
	音 楽 - 1	2	
	音 楽 - 2	2	
	日 本 国 憲 法 学	2	
	法 学	2	
	政 治 学 - 1	2	
	政 治 学 - 2	2	
	地 理 学 - 1	2	
	地 理 学 - 2	2	
	経 済 学 - 1	2	
	経 済 学 - 2	2	
	数 学 - 1	2	
	数 学 - 2	2	
物 理 学 - 1	2		
物 理 学 - 2	2		
化 学 - 1	2		
化 学 - 2	2		

第3類 (杏林大学学則)

	生 物 学 - 1		2	
	生 物 学 - 2		2	
	健 康 科 学		2	
	食と健康のエコロジー		2	
	心 理 学 - 1		2	
	心 理 学 - 2		2	
	統 計 学 - 1		2	
	統 計 学 - 2		2	
	情 報 処 理		2	
	体 育 理 論		2	
	体 育 実 技 - 1		1	
	体 育 実 技 - 2		1	
専 門 関 連 科 目 D	日 本 語 教 育 概 説		2	
	日 本 語 教 授 法 概 論		2	
	日 本 語 学 概 論		2	
	日 本 語 音 声 学		2	
	日 本 語 文 法 論		2	
	日 本 語 意 味 論		2	
	日 本 語 教 材 教 具 論		2	
	試 験 と 評 価		2	
	日 本 語 語 彙 論		2	
	日 本 語 文 字 表 記 概 説		2	
	日 本 語 史		2	
	日 本 人 の 言 語 行 動		2	
	異文化理解とコミュニケーション		2	
	日 本 語 教 授 法 演 習		1	
	日 本 語 教 育 実 習		1	
	日 本 語 学 演 習		1	
	日 本 語 教 育 演 習		1	
	日 本 文 化 演 習 I		1	
	日 本 文 化 演 習 II		1	
	日 本 文 化 演 習 III		1	
	日 本 語 表 現 演 習		1	
専 門 関 連 科 目 E	他 学 部 の 設 置 科 目			

第3類 (杏林大学学則)

自科 由目				
----------	--	--	--	--

観光交流文化学科

授業科目の名称					単位数		備考	
					必修	選択		
専門 外国 語科 目	英	語	I	—	1	1	英語及び中国語8単位、又は 英語及び韓国語8単位(留学 生は日本語8単位) 必修16単位	
	英	語	I	—	2	1		
	英	語	II	—	1	1		
	英	語	II	—	2	1		
	英	語	III	—	1	1		
	英	語	III	—	2	1		
	英	語	IV	—	1	1		
	英	語	IV	—	2	1		
	中	国	語	I	—	1		1
	中	国	語	I	—	2		1
	中	国	語	II	—	1		1
	中	国	語	II	—	2		1
	中	国	語	III	—	1		1
	中	国	語	III	—	2		1
	中	国	語	IV	—	1		1
	中	国	語	IV	—	2		1
	韓	国	語	I	—	1		1
	韓	国	語	I	—	2		1
	韓	国	語	II	—	1		1
	韓	国	語	II	—	2		1
	韓	国	語	III	—	1		1
	韓	国	語	III	—	2		1
	韓	国	語	IV	—	1		1
	韓	国	語	IV	—	2		1
	日	本	語	I	—	1		1
	日	本	語	I	—	2		1
日	本	語	II	—	1	1		
日	本	語	II	—	2	1		
日	本	語	III	—	1	1		

第3類 (杏林大学学則)

	日 本 語 III - 2		1	
	日 本 語 IV - 1		1	
	日 本 語 IV - 2		1	
	日 本 語 V - 1		1	
	日 本 語 V - 2		1	
	日 本 語 VI - 1		1	
	日 本 語 VI - 2		1	
	日 本 語 VII - 1		1	
	日 本 語 VII - 2		1	
専 門 科 目 A	観 光 学 入 門	2		
	ホ ス ピ タ リ テ ィ 論	2		
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ ー I		1	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ ー I ~ IV、お よ び 交 流 フ ィ ー ル ド ワ ー ク の う ち 1 科 目 選 択 必 修
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ ー II		1	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ ー III		1	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ ー IV		1	
	交 流 フ ィ ー ル ド ワ ー ク		1	
	国 際 観 光 論	2		
	交 流 文 化 論	2		
	日 本 語 表 現 論	2		
	文 章 表 現 法	2		
	異文化コミュニケーション論		2	8 単 位 以 上
	サ ー ビ ス 文 化 論		2	
	観 光 心 理 学		2	
	観 光 人 類 学		2	
	観 光 地 理 学		2	
	観 光 保 健 論		2	
	福 祉 観 光 論		2	
	観 光 マ ー ケ テ ィ ン グ 論		2	
	キ ャ リ ア デ ザ イン I	2		
キ ャ リ ア デ ザ イン II	2			
英 語 文 法 I - 1	1			
英 語 文 法 I - 2	1			
英 語 文 法 II - 1		1		
英 語 文 法 II - 2		1		
英 語 会 話 - 1	1			
英 語 会 話 - 2	1			

第3類 (杏林大学学則)

	英語作文－1	1		
	英語作文－2	1		
	観光英語－1	1		
	観光英語－2	1		
	観光中国語－1		1	観光中国語－1・2(各1単位)又は観光韓国語－1・2(各1単位)のどちらかを選択必修
	観光中国語－2		1	
	観光韓国語－1		1	
	観光韓国語－2		1	
	観光手話基礎		1	
	観光手話		1	
	実用英語－1	1		
	実用英語－2	1		
	グローバル人材論		2	
	グローバルシチズンシップ論		2	
	アジアン・ホスピタリティ論		2	
	観光基礎演習－1	1		
	観光基礎演習－2	1		
	ゼミナール－1	2		
	ゼミナール－2	2		
	ゼミナール－3	2		
	卒業論文・課題指導		4	
専 門 科 目 B	サービス産業論	2		
	ファシリテーション論	2		
	ファシリテーション実習	1		
	航空産業論		2	
	航空サービス論		2	
	宿泊産業論		2	
	宿泊サービス論		2	
	外食産業論		2	
	外食サービス論		2	
	旅行産業論		2	
	旅行サービス論		2	
	ホスピタリティマネジメント論		2	
	観光政策・行政論		2	
風景・景観論		2		
イベント・コンベンション論		2		

第3類 (杏林大学学則)

	エンターテインメント産業論	2	
	ブライダルコーディネート論	2	
	世界遺産観光論	2	
	旅行医学概論	2	
	サービス衛生論	2	
	リスクマネジメント論	2	
	観光交流文化特論Ⅰ	2	
	観光交流文化特論Ⅱ	2	
	観光交流文化特論Ⅲ	2	
	観光交流文化特論Ⅳ	2	
専門 関 連 科 目 A	比較文化論Ⅰ－1	2	
	比較文化論Ⅰ－2	2	
	比較文化論Ⅱ－1	2	
	比較文化論Ⅱ－2	2	
	地域圏研究Ⅰ－1	2	
	地域圏研究Ⅰ－2	2	
	地域圏研究Ⅱ－1	2	
	地域圏研究Ⅱ－2	2	
	地域圏研究Ⅲ－1	2	
	地域圏研究Ⅲ－2	2	
	地域圏研究Ⅳ－1	2	
	地域圏研究Ⅳ－2	2	
	地域圏研究Ⅴ－1	2	
	地域圏研究Ⅴ－2	2	
	地域圏研究Ⅵ－1	2	
	地域圏研究Ⅵ－2	2	
	国際関係論Ⅰ	2	
	国際関係論Ⅱ	2	
	経済原論Ⅰ	2	
	経済原論Ⅱ	2	
	西洋史－1	2	
	西洋史－2	2	
中国史－1	2		
中国史－2	2		
日本史－1	2		

第3類 (杏林大学学則)

	日 本 史	—	2		2	
	言 語 学	—	1		2	
	言 語 学	—	2		2	
	言 語 と 文 化	—	1		2	
	言 語 と 文 化	—	2		2	
	神 話 学	—	1		2	
	神 話 学	—	2		2	
	クリエイティブ・コミュニケーション論	—	1		2	
	クリエイティブ・コミュニケーション論	—	2		2	
	英 語 総 合 講 座	—	1		2	
	英 語 総 合 講 座	—	2		2	
	英 語 特 論	—	1		2	
	英 語 特 論	—	2		2	
	コミュニケーション概論	—	1	2		
	コミュニケーション概論	—	2	2		
	地 域 と 大 学			2		
	基 礎 演 習	—	1	1		
	基 礎 演 習	—	2	1		
	キ ャ リ ア 指 導 I	—	1	1		
	キ ャ リ ア 指 導 I	—	2	1		
	キ ャ リ ア 指 導 II	—	1	1		
	キ ャ リ ア 指 導 II	—	2	1		
	ホスピタリティ実習			1		
	プロジェクト演習 I			1		
	プロジェクト演習 II			1		
	インターンシップ I				1	インターンシップ I～IV のうち1科目選択必修
	インターンシップ II				1	
	インターンシップ III				1	
	インターンシップ IV				1	
専 門 関 連	ド イ ツ 語 I	—	1		1	
	ド イ ツ 語 I	—	2		1	
	ド イ ツ 語 II	—	1		1	
	ド イ ツ 語 II	—	2		1	
	ド イ ツ 語 III	—	1		1	
	ド イ ツ 語 III	—	2		1	

第3類 (杏林大学学則)

科目 B	フランス語 I - 1	1	
	フランス語 I - 2	1	
	フランス語 II - 1	1	
	フランス語 II - 2	1	
	フランス語 III - 1	1	
	フランス語 III - 2	1	
	スペイン語 I - 1	1	
	スペイン語 I - 2	1	
	スペイン語 II - 1	1	
	スペイン語 II - 2	1	
	スペイン語 III - 1	1	
	スペイン語 III - 2	1	
	インドネシア語 I - 1	1	
	インドネシア語 I - 2	1	
	インドネシア語 II - 1	1	
	インドネシア語 II - 2	1	
	インドネシア語 III - 1	1	
	インドネシア語 III - 2	1	
	口語英語 I - 1	1	
	口語英語 I - 2	1	
	口語英語 II - 1	1	
	口語英語 II - 2	1	
	口語英語 III - 1	1	
	口語英語 III - 2	1	
	口語英語 IV - 1	1	
	口語英語 IV - 2	1	
	口語中国語 I - 1	1	
	口語中国語 I - 2	1	
	口語中国語 II - 1	1	
	口語中国語 II - 2	1	
	口語中国語 III - 1	1	
	口語中国語 III - 2	1	
	口語中国語 IV - 1	1	
口語中国語 IV - 2	1		
	哲学 - 1	2	
	哲学 - 2	2	

第3類 (杏林大学学則)

専門 関連 科目 C	宗 教 学	—	1	2
	宗 教 学	—	2	2
	歴 史 学	—	1	2
	歴 史 学	—	2	2
	文 学	—	1	2
	文 学	—	2	2
	音 楽	—	1	2
	音 楽	—	2	2
	日 本 国 憲 法 学			2
	法 学			2
	政 治 学	—	1	2
	政 治 学	—	2	2
	地 理 学	—	1	2
	地 理 学	—	2	2
	経 済 学	—	1	2
	経 済 学	—	2	2
	数 学	—	1	2
	数 学	—	2	2
	物 理 学	—	1	2
	物 理 学	—	2	2
	化 学	—	1	2
	化 学	—	2	2
	生 物 学	—	1	2
	生 物 学	—	2	2
	健 康 科 学			2
	食 と 健 康 の エ コ ロ ジ ー			2
	心 理 学	—	1	2
	心 理 学	—	2	2
	統 計 学	—	1	2
	統 計 学	—	2	2
	情 報 処 理			2
体 育 理 論			2	
体 育 実 技	—	1	1	
体 育 実 技	—	2	1	
	日 本 語 教 育 概 説			2

第3類 (杏林大学学則)

専 門 関 連 科 目 D	日 本 語 教 授 法 概 論	2		
	日 本 語 学 概 論	2		
	日 本 語 音 声 学	2		
	日 本 語 文 法 論	2		
	日 本 語 意 味 論	2		
	日 本 語 教 材 教 具 論	2		
	試 験 と 評 価	2		
	日 本 語 語 彙 論	2		
	日 本 語 文 字 表 記 概 説	2		
	日 本 語 史	2		
	日 本 人 の 言 語 行 動	2		
	異文化理解とコミュニケーション	2		
	日 本 文 化 論	2		
	日 本 語 教 授 法 演 習	1		
	日 本 語 教 育 実 習	1		
	日 本 語 学 演 習	1		
	日 本 語 教 育 演 習	1		
	日 本 文 化 演 習 I	1		
	日 本 文 化 演 習 II	1		
	日 本 文 化 演 習 III	1		
日 本 語 表 現 演 習	1			
専 科 関 連 目 録 E	他 学 部 の 設 置 科 目			
自 科 由 目				

第3類（杏林大学学則）

別表4-3（平成28年度入学生から適用）

外国語学部学科目構成

英語学科

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数		備 考	
				必修	選択		
外 国 語 科 目 A	英	語	I	1		留学生等本学が指定する 学生は日本語6単位選択 必修	
	英	語	II	1			
	英	語	III	1			
	英	語	IV	1			
	英	語	V	1			
	英	語	VI	1			
	英	語	VII	1			
	英	語	VIII	1			
	英	語	文 法	I	1		
	英	語	文 法	II	1		
	英	語	作 文	I	1		
	英	語	作 文	II	1		
	実	用	英 語	I	1		
	実	用	英 語	II	1		
	実	用	英 語	III	1		
	実	用	英 語	IV	1		
	実	用	英 語 演 習	I	1		
	実	用	英 語 演 習	II	1		
	中	国	語	I	1		
	中	国	語	II	1		
中	国	語	III	1			
中	国	語	IV	1			
中	国	語	V	1			
中	国	語	VI	1			
日	本	語	I		1		
日	本	語	II		1		
日	本	語	III		1		
日	本	語	IV		1		
日	本	語	V		1		
日	本	語	VI		1		
日	本	語	VII		1		
日	本	語	VIII		1		

第3類 (杏林大学学則)

外国語科目B	目的別英語演習 I	2	
	目的別英語演習 II	2	
	目的別英語演習 III	2	
	目的別英語演習 IV	2	
	目的別英語演習 V	2	
	目的別英語演習 VI	2	
	目的別英語演習 VII	2	
	目的別中国語演習 I	2	
	目的別中国語演習 II	2	
	目的別中国語演習 III	2	
	目的別中国語演習 IV	2	
	目的別中国語演習 V	2	
	韓国語 I	2	
	韓国語 II	2	
	韓国語 III	2	
	韓国語 IV	2	
	ドイツ語 I	2	
	ドイツ語 II	2	
	ドイツ語 III	2	
	ドイツ語 IV	2	
	フランス語 I	2	
	フランス語 II	2	
	フランス語 III	2	
	フランス語 IV	2	
	スペイン語 I	2	
	スペイン語 II	2	
	スペイン語 III	2	
	スペイン語 IV	2	
	口語英語 I	1	
	口語英語 II	1	
	口語英語 III	1	
	口語英語 IV	1	
口語英語 V	1		
口語英語 VI	1		
口語英語 VII	1		
口語英語 VIII	1		

第3類 (杏林大学学則)

		口 語 中 国 語 I		1	
		口 語 中 国 語 II		1	
		口 語 中 国 語 III		1	
		口 語 中 国 語 IV		1	
		口 語 中 国 語 V		1	
		口 語 中 国 語 VI		1	
		口 語 中 国 語 VII		1	
		口 語 中 国 語 VIII		1	
基 盤 教 育 科 目		大 学 入 門 I	1		
		大 学 入 門 II	1		
		日 本 語 表 現 実 習 I	1		
		日 本 語 表 現 実 習 II	1		
		グ ローバルコミュニケーション論	2		
		グ ローバル人材論	2		
		日 本 文 化 論	2		
		ホスピタリティ・コミュニケーション	1		
		地 域 と 大 学	2		
		キ ャ リ ア デ ザ イン I	2		
		キ ャ リ ア デ ザ イン II	2		
		キ ャ リ ア デ ザ イン III	2		
		キ ャ リ ア デ ザ イン IV	2		
		キ ャ リ ア デ ザ イン V	2		
		キ ャ リ ア デ ザ イン VI	2		
		キ ャ リ ア デ ザ イン 演 習		2	
		フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ I		2	
		フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ II		2	
		フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ III		2	
		フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ IV		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ V		2		
	イ ン タ ー ン シ ッ プ I		1		
	イ ン タ ー ン シ ッ プ II		1		
	イ ン タ ー ン シ ッ プ III		1		
教 養	こ と	異文化コミュニケーション		2	
		こ と ば と 文 化		2	
		こ と ば と 社 会		2	
		言 語 の 歴 史 (英)		2	

第3類 (杏林大学学則)

科目	ば	言語の歴史(中)	2	
	と	言語の歴史(日)	2	
	文	英米文学	2	
	化	児童文学	2	
		アジアの文学・文化(日)	2	
		アジアの文学・文化(中)	2	
		アジアの文学・文化(韓)	2	
グローバル社会と地域	グ	グローバル社会と国際協力	2	
		ダイバーシティ入門	2	
	ロ	日本と世界の近現代史	2	
	ー	生活と法	2	
	バ	日本国憲法	2	
	ル	社会学	2	
	社	ミクロ経済学	2	
	会	マクロ経済学	2	
	と	統計学	2	
	地	観光学入門	2	
	域	マーケティング入門	2	
		ホスピタリティ入門	2	
		アジアン・ホスピタリティ	2	
		人文地理学	2	
	自然地理学	2		
	地域圏研究Ⅰ	2		
	地域圏研究Ⅱ	2		
	地域圏研究Ⅲ	2		
	地域圏研究Ⅳ	2		
	地域圏研究Ⅴ	2		
	地域圏研究Ⅵ	2		
人間と健康	哲	哲学	2	
	倫	理学	2	
	心	心理学	2	
	宗	教理学	2	
	健	健康科学Ⅰ	2	
	康	健康科学Ⅱ	2	
		体育理論	1	
	体育実技	1		

第3類 (杏林大学学則)

日 本 語 教 育	ファシリテーション論		2	
	日本語学概論		2	
	日本語教育概論		2	
	日本語学特論Ⅰ		2	
	日本語学特論Ⅱ		2	
	日本語学特論Ⅲ		2	
	日本語学特論Ⅳ		2	
	日本語教育学特論Ⅰ		2	
	日本語教育学特論Ⅱ		2	
	日本語教育学特論Ⅲ		2	
	日本語教育学特論Ⅳ		2	
	日本語授業の実際Ⅰ		2	
	日本語授業の実際Ⅱ		2	
	日本語教育実習Ⅰ		1	
	日本語教育実習Ⅱ		1	
	日本文化演習Ⅰ		2	
日本文化演習Ⅱ		2		
専 門 科 目 へ 英 語 ビ ジ ネ ス コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	発展英文法		2	
	発展英語読解		2	
	発展英作文		2	
	発展英語聴解		2	
	ビジネスイングリッシュⅠ	2		
	ビジネスイングリッシュⅡ	2		
	グローバルビジネス論Ⅰ	2		
	グローバルビジネス論Ⅱ	2		
	ビジネスコミュニケーション論Ⅰ		2	
	ビジネスコミュニケーション論Ⅱ		2	
	ビジネスコミュニケーション演習Ⅰ		2	
	ビジネスコミュニケーション演習Ⅱ		2	
	Introduction to Business		2	
	Introduction to Economics		2	
	Business Cycle and Monetary Policy		2	
	現代企業論		2	
経営戦略論		2		
人材マネジメント論		2		
国際会計論		2		

第3類 (杏林大学学則)

シ ョ ン コ ー ス)	国 際 経 済 学 I		2	
	国 際 経 済 学 II		2	
	ア メ リ カ 政 治 論		2	
	ア メ リ カ 経 済 論		2	
	ヨ ー ロ ッ パ 政 治 論		2	
	ヨ ー ロ ッ パ 経 済 論		2	
	ア ジ ア 政 治 論		2	
	ア ジ ア 経 済 論		2	
	ゼ ミ ナ ー ル I	2		
	ゼ ミ ナ ー ル II	2		
ゼ ミ ナ ー ル III	2			
卒 業 論 文 ・ 課 題 指 導		4		
専 門 科 目 (英 語 教 育 コ ー ス)	発 展 英 文 法		2	4 単位以上
	発 展 英 語 読 解		2	
	発 展 英 作 文		2	
	発 展 英 語 聴 解		2	
	英 語 発 音 聴 取	2		
	英 語 翻 訳 論		2	
	英 語 翻 訳 ワ ー ク シ ョ ッ プ		2	
	比 較 文 化 と 異 文 化 理 解		2	
	英 語 学 特 論 I		2	
	英 語 学 特 論 II		2	
	英 語 学 特 論 III		2	
	英 語 学 特 論 IV		2	
	英 語 学 演 習 I		2	
	英 語 学 演 習 II		2	
	英 語 学 演 習 III		2	
	英 語 学 演 習 IV		2	
	英 語 音 声 学	2		
	社 会 言 語 学		2	
	認 知 言 語 学		2	
	英 語 教 育 論 I	2		
英 語 教 育 論 II	2			
英 語 科 教 育 法 I		2		
英 語 科 教 育 法 II		2		
児 童 英 語 教 育 論 I		2		

第3類 (杏林大学学則)

	児童英語教育論Ⅱ		2	
	児童英語教育教材研究		2	
	児童英語教育実習		1	
	英語教育演習Ⅰ		2	
	英語教育演習Ⅱ		2	
	情報処理		2	
	ゼミナールⅠ	2		
	ゼミナールⅡ	2		
	ゼミナールⅢ	2		
	卒業論文・課題指導		4	
関連科目	他学部 の 設置科目			
自由科目				

中国語学科

授業科目の名称	単位数		備考
	必修	選択	
外国語科目A	英語Ⅰ	1	留学生等本学が指定する 学生は日本語8単位必修
	英語Ⅱ	1	
	英語Ⅲ	1	
	英語Ⅳ	1	
	英語Ⅴ	1	
	英語Ⅵ	1	
	中国語Ⅰ	1	
	中国語Ⅱ	1	
	中国語Ⅲ	1	
	中国語Ⅳ	1	
	中国語Ⅴ	1	
	中国語Ⅵ	1	
	中国語Ⅶ	1	
	中国語Ⅷ	1	
	日本語Ⅰ		1
	日本語Ⅱ		1
	日本語Ⅲ		1
	日本語Ⅳ		1
	日本語Ⅴ		1

第3類 (杏林大学学則)

	日 本 語 VI		1	
	日 本 語 VII		1	
	日 本 語 VIII		1	
外国語科目B	目的別英語演習 I		2	
	目的別英語演習 II		2	
	目的別英語演習 III		2	
	目的別英語演習 IV		2	
	目的別英語演習 V		2	
	目的別英語演習 VI		2	
	目的別英語演習 VII		2	
	目的別中国語演習 I		2	
	目的別中国語演習 II		2	
	目的別中国語演習 III		2	
	目的別中国語演習 IV		2	
	目的別中国語演習 V		2	
	韓 国 語 I		2	
	韓 国 語 II		2	
	韓 国 語 III		2	
	韓 国 語 IV		2	
	ド イ ツ 語 I		2	
	ド イ ツ 語 II		2	
	ド イ ツ 語 III		2	
	ド イ ツ 語 IV		2	
	フ ラ ン ス 語 I		2	
	フ ラ ン ス 語 II		2	
	フ ラ ン ス 語 III		2	
	フ ラ ン ス 語 IV		2	
	ス ペ イ ン 語 I		2	
	ス ペ イ ン 語 II		2	
	ス ペ イ ン 語 III		2	
	ス ペ イ ン 語 IV		2	
	口 語 英 語 I		1	
	口 語 英 語 II		1	
口 語 英 語 III		1		
口 語 英 語 IV		1		
口 語 英 語 V		1		

第3類 (杏林大学学則)

	口 語 英 語 VI		1	
	口 語 英 語 VII		1	
	口 語 英 語 VIII		1	
	口 語 中 国 語 I		1	
	口 語 中 国 語 II		1	
	口 語 中 国 語 III		1	
	口 語 中 国 語 IV		1	
	口 語 中 国 語 V		1	
	口 語 中 国 語 VI		1	
	口 語 中 国 語 VII		1	
	口 語 中 国 語 VIII		1	
基 盤 教 育 科 目	大 学 入 門 I	1		
	大 学 入 門 II	1		
	日 本 語 表 現 実 習 I	1		
	日 本 語 表 現 実 習 II	1		
	グロ ー バ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	2		
	グ ロ ー バ ル 人 材 論	2		
	日 本 文 化 論	2		
	ホ ス ピ タ リ テ ィ ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	1		
	地 域 と 大 学	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン I	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン II	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン III	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン IV	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン V	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン VI	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン 演 習		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ I		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ II		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ III		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ IV		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ V		2	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ I		1	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ II		1	
イ ン タ ー ン シ ッ プ III		1		
	異文化コミュニケーション		2	

第3類 (杏林大学学則)

教 養 科 目	こ と ば と 文 化	2	
	こ と ば と 社 会	2	
	言 語 の 歴 史 (英)	2	
	言 語 の 歴 史 (中)	2	
	言 語 の 歴 史 (日)	2	
	英 米 文 学	2	
	児 童 文 学	2	
	アジアの文学・文化(日)	2	
	アジアの文学・文化(中)	2	
	アジアの文学・文化(韓)	2	
グ ロ ー バ ル 社 会 と 地 域	グローバル社会と国際協力	2	
	ダイバーシティ入門	2	
	日本と世界の近現代史	2	
	生 活 と 法	2	
	日 本 国 憲 法	2	
	社 会 学	2	
	ミ ク ロ 経 済 学	2	
	マ ク ロ 経 済 学	2	
	統 計 学	2	
	観 光 学 入 門	2	
	マ ー ケ テ ィ ン グ 入 門	2	
	ホ ス ピ タ リ テ ィ 入 門	2	
	ア ジ ア ン ・ ホ ス ピ タ リ テ ィ	2	
	人 文 地 理 学	2	
	自 然 地 理 学	2	
	地 域 圏 研 究 I	2	
	地 域 圏 研 究 II	2	
地 域 圏 研 究 III	2		
地 域 圏 研 究 IV	2		
地 域 圏 研 究 V	2		
地 域 圏 研 究 VI	2		
人 間 と	哲 学	2	
	倫 理 学	2	
	心 理 学	2	
	宗 教 学	2	
	健 康 科 学 I	2	

第3類 (杏林大学学則)

健康	健康科学Ⅱ	2	
	体育理論	1	
	体育実技	1	
日本語教育	ファッション論	2	
	日本語学概論	2	
	日本語教育概論	2	
	日本語学特論Ⅰ	2	
	日本語学特論Ⅱ	2	
	日本語学特論Ⅲ	2	
	日本語学特論Ⅳ	2	
	日本語教育学特論Ⅰ	2	
	日本語教育学特論Ⅱ	2	
	日本語教育学特論Ⅲ	2	
	日本語教育学特論Ⅳ	2	
	日本語授業の実際Ⅰ	2	
	日本語授業の実際Ⅱ	2	
	日本語教育実習Ⅰ	1	
	日本語教育実習Ⅱ	1	
専門科目	日本語文化演習Ⅰ	2	4単位以上
	日本語文化演習Ⅱ	2	
	インテンシブ中国語Ⅰ	1	
	インテンシブ中国語Ⅱ	1	
	インテンシブ中国語Ⅲ	1	
	インテンシブ中国語Ⅳ	1	
	インテンシブ中国語Ⅴ	1	
	インテンシブ中国語Ⅵ	1	
	インテンシブ中国語Ⅶ	1	
	インテンシブ中国語Ⅷ	1	
	インテンシブ中国語Ⅷ	1	
	中国語発音実習Ⅰ	1	
	中国語発音実習Ⅱ	1	
	ビジネス中国語Ⅰ	2	
	ビジネス中国語Ⅱ	2	
中国語通訳法Ⅰ	2		
中国語通訳法Ⅱ	2		
中国語翻訳法Ⅰ	2		
中国語翻訳法Ⅱ	2		

第3類 (杏林大学学則)

	中国語演習Ⅰ		2	
	中国語演習Ⅱ		2	
	中国語演習Ⅲ		2	
	中国語演習Ⅳ		2	
	日中通訳・翻訳演習Ⅰ		2	
	日中通訳・翻訳演習Ⅱ		2	
	日中通訳・翻訳演習Ⅲ		2	
	日中通訳・翻訳演習Ⅳ		2	
	中国語学概論	2		
	中国語文法論	2		
	中国語音声学		2	
	中国文学史Ⅰ		2	
	中国文学史Ⅱ		2	
	日中比較文化論Ⅰ	2		
	日中比較文化論Ⅱ	2		
	アジア政治論		2	
	アジア経済論		2	
	中国経済概論		2	
	中国語翻訳ワークショップ		2	
	認知言語学		2	
	中国語ビジネスコミュニケーション演習Ⅰ		2	
	中国語ビジネスコミュニケーション演習Ⅱ		2	
	ゼミナールⅠ	2		
	ゼミナールⅡ	2		
	ゼミナールⅢ	2		
	卒業論文・課題指導		4	
関連科目	他学部設置科目			
自由科目				

観光交流文化学科

授業科目の名称	単位数		備考
	必修	選択	
英語Ⅰ	1		留学生等本学が指定する 学生は日本語6単位選択 必修
英語Ⅱ	1		
英語Ⅲ	1		

第3類 (杏林大学学則)

外国語科目 A	英語	IV	1		
	英語	V	1		
	英語	VI	1		
	英語	VII	1		
	英語	VIII	1		
	英語 文 法	I		1	
	英語 文 法	II		1	
	英語 文 作 文	I		1	
	英語 文 作 文	II		1	
	実用 英語	I	1		
	実用 英語	II	1		
	実用 英語	III	1		
	実用 英語	IV	1		
	実用 英語 演習	I	1		
	実用 英語 演習	II	1		
	中国語	I	1		
	中国語	II	1		
	中国語	III	1		
	中国語	IV	1		
	中国語	V	1		
	中国語	VI	1		
	日本語	I		1	
	日本語	II		1	
日本語	III		1		
日本語	IV		1		
日本語	V		1		
日本語	VI		1		
日本語	VII		1		
日本語	VIII		1		
外国語科目 B	目的別 英語 演習	I		2	
	目的別 英語 演習	II		2	
	目的別 英語 演習	III		2	
	目的別 英語 演習	IV		2	
	目的別 英語 演習	V		2	
	目的別 英語 演習	VI		2	
	目的別 英語 演習	VII		2	

第3類 (杏林大学学則)

目的別中国語演習 I	2
目的別中国語演習 II	2
目的別中国語演習 III	2
目的別中国語演習 IV	2
目的別中国語演習 V	2
韓国語 I	2
韓国語 II	2
韓国語 III	2
韓国語 IV	2
ドイツ語 I	2
ドイツ語 II	2
ドイツ語 III	2
ドイツ語 IV	2
フランス語 I	2
フランス語 II	2
フランス語 III	2
フランス語 IV	2
スペイン語 I	2
スペイン語 II	2
スペイン語 III	2
スペイン語 IV	2
英語 I	1
英語 II	1
英語 III	1
英語 IV	1
英語 V	1
英語 VI	1
英語 VII	1
英語 VIII	1
中国語 I	1
中国語 II	1
中国語 III	1
中国語 IV	1
中国語 V	1
中国語 VI	1
中国語 VII	1

第3類 (杏林大学学則)

		口 語 中 国 語 VIII		1	
基 盤 教 育 科 目		大 学 入 門 I	1		2 単位以上
		大 学 入 門 II	1		
		日 本 語 表 現 実 習 I	1		
		日 本 語 表 現 実 習 II	1		
		グローバルコミュニケーション論	2		
		グ ロ ー バ ル 人 材 論	2		
		日 本 文 化 論	2		
		ホスピタリティ・コミュニケーション	1		
		地 域 と 大 学	2		
		キ ャ リ ア デ ザ イン I	2		
		キ ャ リ ア デ ザ イン II	2		
		キ ャ リ ア デ ザ イン III	2		
		キ ャ リ ア デ ザ イン IV	2		
		キ ャ リ ア デ ザ イン V	2		
		キ ャ リ ア デ ザ イン VI	2		
		キ ャ リ ア デ ザ イン 演 習		2	
		フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ I		2	
		フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ II		2	
		フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ III		2	
		フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ IV		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ V		2		
	イ ン タ ー ン シ ッ プ I		1		
	イ ン タ ー ン シ ッ プ II		1		
	イ ン タ ー ン シ ッ プ III		1		
教 養 科 目		異文化コミュニケーション		2	
		こ と ば と 文 化		2	
		こ と ば と 社 会		2	
		こ と ば と 言 語 の 歴 史 (英)		2	
		こ と ば と 言 語 の 歴 史 (中)		2	
		こ と ば と 言 語 の 歴 史 (日)		2	
		文 化 英 米 文 学		2	
		文 化 児 童 文 学		2	
		ア ジ ア の 文 学 ・ 文 化 (日)		2	
		ア ジ ア の 文 学 ・ 文 化 (中)		2	
	ア ジ ア の 文 学 ・ 文 化 (韓)		2		

第3類 (杏林大学学則)

グローバル社会と地域	グローバル社会と国際協力		2	
	ダイバーシティ入門		2	
	日本と世界の近現代史		2	
	生活と法		2	
	日本国憲法学		2	
	社会		2	
	ミクロ経済学		2	
	マクロ経済学		2	
	統計学		2	
	観光学入門	2		
	マーケティング入門		2	
	ホスピタリティ入門	2		
	アジアン・ホスピタリティ		2	
	人文地理学		2	
	自然地理学		2	
	地域圏研究 I		2	
地域圏研究 II		2		
地域圏研究 III		2		
地域圏研究 IV		2		
地域圏研究 V		2		
地域圏研究 VI		2		
人間と健康	哲学		2	
	倫理学		2	
	心理学		2	
	宗教学		2	
	健康科学 I		2	
	健康科学 II		2	
	体育理論		1	
体育実技		1		
日本語教育	ファシリテーション論		2	
	日本語学概論		2	
	日本語教育概論		2	
	日本語学特論 I		2	
	日本語学特論 II		2	
	日本語学特論 III		2	
日本語学特論 IV		2		

第3類 (杏林大学学則)

	日本語教育学特論 I		2	
	日本語教育学特論 II		2	
	日本語教育学特論 III		2	
	日本語教育学特論 IV		2	
	日本語授業の実際 I		2	
	日本語授業の実際 II		2	
	日本語教育実習 I		1	
	日本語教育実習 II		1	
	日本文化演習 I		2	
	日本文化演習 II		2	
専門科目 A	国際観光論		2	
	交流文化論		2	
	サービス文化論		2	
	観光心理学		2	
	観光人類学		2	
	観光地理学		2	
	観光保健論		2	
	福祉観光論		2	
	観光マーケティング論		2	
	観光英語 I	2		
	観光英語 II	2		
	観光英語 III		2	
	観光英語 IV		2	
	観光中国語 I		2	
	観光中国語 II		2	
	観光手話基礎		2	
	観光手話		2	
	プロジェクト演習 I	2		
	プロジェクト演習 II		2	
	観光基礎演習 I	2		
	観光基礎演習 II	2		
	ゼミナール I	2		
	ゼミナール II	2		
ゼミナール III	2			
卒業論文・課題指導		4		
	サービス産業論		2	

第3類 (杏林大学学則)

専 門 科 目 B	基 礎 簿 記 I	2		
	基 礎 簿 記 II	2		
	旅 行 産 業 論	2		
	旅 行 サ ー ビ ス 論	2		
	ホスピタリティマネジメント論	2		
	航 空 産 業 論	2		
	航 空 サ ー ビ ス 論	2		
	宿 泊 産 業 論	2		
	宿 泊 サ ー ビ ス 論	2		
	フ ー ド ビ ジ ネ ス 論	2		
	フ ー ド ビ ジ ネ ス サ ー ビ ス 論	2		
	観 光 政 策 ・ 行 政 論	2		
	風 景 ・ 景 観 論	2		
	イベント・コンベンション論	2		
	エンターテインメント産業論	2		
	ブライダルコーディネート論	2		
	世 界 遺 産 観 光 論	2		
	旅 行 医 学 概 論	2		
	観光リスクマネジメント論	2		
	観 光 交 流 文 化 特 論 I	2		
観 光 交 流 文 化 特 論 II	2			
観 光 交 流 文 化 特 論 III	2			
観 光 交 流 文 化 特 論 IV	2			
関 連 科 目	他 学 部 の 設 置 科 目			
自 由 科 目				

第3類（杏林大学学則）

別表4-4（平成31年度入学生から適用）

外国語学部学科目構成

英語学科

授業科目の名称	単位数		備考	
	必修	選択		
外国語科目A	英語 I	1	留学生等本学が指定する 学生は日本語6単位選択 必修	
	英語 II	1		
	英語 III	1		
	英語 IV	1		
	英語 V	1		
	英語 VI	1		
	英語 VII	1		
	英語 VIII	1		
	英語文法 I	1		
	英語文法 II	1		
	英語作文 I	1		
	英語作文 II	1		
	実用英語 I	1		
	実用英語 II	1		
	実用英語 III	1		
	実用英語 IV	1		
	実用英語演習 I	1		
	実用英語演習 II	1		
	中国語 I	1		
	中国語 II	1		
中国語 III	1			
中国語 IV	1			
中国語 V	1			
中国語 VI	1			
日本語 I		1		
日本語 II		1		
日本語 III		1		
日本語 IV		1		
日本語 V		1		
日本語 VI		1		
日本語 VII		1		
日本語 VIII		1		

第3類 (杏林大学学則)

外国語科目B	目的別英語演習 I	2	
	目的別英語演習 II	2	
	目的別英語演習 III	2	
	目的別英語演習 IV	2	
	目的別英語演習 V	2	
	目的別英語演習 VI	2	
	目的別英語演習 VII	2	
	目的別中国語演習 I	2	
	目的別中国語演習 II	2	
	目的別中国語演習 III	2	
	目的別中国語演習 IV	2	
	目的別中国語演習 V	2	
	韓国語 I	2	
	韓国語 II	2	
	韓国語 III	2	
	韓国語 IV	2	
	ドイツ語 I	2	
	ドイツ語 II	2	
	ドイツ語 III	2	
	ドイツ語 IV	2	
	フランス語 I	2	
	フランス語 II	2	
	フランス語 III	2	
	フランス語 IV	2	
	スペイン語 I	2	
	スペイン語 II	2	
	スペイン語 III	2	
	スペイン語 IV	2	
口語英語 I	1		
口語英語 II	1		
口語英語 III	1		
口語英語 IV	1		
口語英語 V	1		
口語英語 VI	1		
口語英語 VII	1		
口語英語 VIII	1		

第3類 (杏林大学学則)

	口 語 中 国 語 I		1	
	口 語 中 国 語 II		1	
	口 語 中 国 語 III		1	
	口 語 中 国 語 IV		1	
	口 語 中 国 語 V		1	
	口 語 中 国 語 VI		1	
	口 語 中 国 語 VII		1	
	口 語 中 国 語 VIII		1	
基 盤 教 育 科 目	大 学 入 門 I	1		
	大 学 入 門 II	1		
	日 本 語 表 現 実 習 I	1		
	日 本 語 表 現 実 習 II	1		
	グ ローバルコミュニケーション論	2		
	グ ローバル人材論	2		
	日 本 文 化 論	2		
	ホスピタリティ・コミュニケーション	1		
	地 域 と 大 学	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン I	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン II	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン III	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン IV	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン V	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン VI	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン 演 習		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ I		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ II		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ III		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ IV		2	
フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ V		2		
イ ン タ ー ン シ ッ プ I		1		
イ ン タ ー ン シ ッ プ II		1		
イ ン タ ー ン シ ッ プ III		1		
	異文化コミュニケーション		2	
	こ と ば と 文 化		2	
	こ と ば と 社 会		2	
	言 語 の 歴 史 (英)		2	

第3類 (杏林大学学則)

教 養 科 目	こ	言 語 の 歴 史 (中)		2	
	と	言 語 の 歴 史 (日)		2	
	ば	英 語 文 学 I		2	
	と	英 語 文 学 II		2	
	文	アジアの文学・文化(日)		2	
	化	アジアの文学・文化(中)		2	
		アジアの文学・文化(韓)		2	
グ ロ ー バ ル 社 会 と 地 域		グローバル社会と国際協力		2	
		ダイバーシティ入門		2	
		日本と世界の近現代史		2	
		生 活 と 法		2	
		日 本 国 憲 法		2	
		社 会 学		2	
		ミ ク ロ 経 済 学		2	
		マ ク ロ 経 済 学		2	
		統 計 学		2	
		観 光 学 入 門		2	
		マ ー ケ テ ィ ン グ 入 門		2	
		ホ ス ピ タ リ テ ィ 入 門		2	
		ア ジ ア ン ・ ホ ス ピ タ リ テ ィ		2	
		人 文 地 理 学		2	
		自 然 地 理 学		2	
	地 域 圏 研 究 I		2		
	地 域 圏 研 究 II		2		
	地 域 圏 研 究 III		2		
	地 域 圏 研 究 IV		2		
	地 域 圏 研 究 V		2		
	地 域 圏 研 究 VI		2		
人 間 と 健 康		哲 学		2	
		倫 理 学		2	
		心 理 学		2	
		宗 教 学		2	
		健 康 科 学 I		2	
		健 康 科 学 II		2	
	体 育 理 論		1		
	体 育 実 技		1		

第3類 (杏林大学学則)

日 本 語 教 育	ファシリテーション論		2	
	日本語学概論		2	
	日本語教育概論		2	
	日本語学特論Ⅰ		2	
	日本語学特論Ⅱ		2	
	日本語学特論Ⅲ		2	
	日本語学特論Ⅳ		2	
	日本語教育学特論Ⅰ		2	
	日本語教育学特論Ⅱ		2	
	日本語教育学特論Ⅲ		2	
	日本語教育学特論Ⅳ		2	
	日本語授業の実際Ⅰ		2	
	日本語授業の実際Ⅱ		2	
	日本語教育実習Ⅰ		1	
	日本語教育実習Ⅱ		1	
	日本文化演習Ⅰ		2	
日本文化演習Ⅱ		2		
専 門 科 目 へ 英 語 ビ ジ ネ ス コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	Writing Strategies		2	
	Communication Strategies		2	
	Integrated EnglishⅠ		2	
	Integrated EnglishⅡ		2	
	ビジネスイングリッシュⅠ	2		
	ビジネスイングリッシュⅡ	2		
	グローバルビジネス論Ⅰ	2		
	グローバルビジネス論Ⅱ	2		
	ビジネスコミュニケーション論Ⅰ		2	
	ビジネスコミュニケーション論Ⅱ		2	
	ビジネスコミュニケーション演習Ⅰ		2	
	ビジネスコミュニケーション演習Ⅱ		2	
	Introduction to Business		2	
	Introduction to Economics		2	
	Business Cycle and Monetary Policy		2	
	現代企業論		2	
経営戦略論		2		
人材マネジメント論		2		
国際会計論		2		

第3類 (杏林大学学則)

シ ョ ン コ ー ス)	国 際 経 済 学 I		2	
	国 際 経 済 学 II		2	
	ア メ リ カ 政 治 論		2	
	ア メ リ カ 経 済 論		2	
	ヨ ー ロ ッ パ 政 治 論		2	
	ヨ ー ロ ッ パ 経 済 論		2	
	ア ジ ア 政 治 論		2	
	ア ジ ア 経 済 論		2	
	ゼ ミ ナ ー ル I	2		
	ゼ ミ ナ ー ル II	2		
	ゼ ミ ナ ー ル III	2		
	卒 業 論 文 ・ 課 題 指 導		4	
	専 門 科 目 (英 語 教 育 コ ー ス)	Writing Strategies		
Communication Strategies			2	
Integrated English I			2	
Integrated English II			2	
英 語 発 音 聴 取		2		
英 語 翻 訳 論			2	
英 語 翻 訳 ワ ー ク シ ョ ッ プ			2	
異 文 化 交 流			2	
英 語 学 特 論 I			2	
英 語 学 特 論 II			2	
英 語 学 特 論 III			2	
英 語 学 特 論 IV			2	
英 語 学 演 習 I			2	
英 語 学 演 習 II			2	
英 語 学 演 習 III			2	
英 語 学 演 習 IV			2	
英 語 音 声 学		2		
社 会 言 語 学			2	
認 知 言 語 学			2	
英 語 教 育 論 I	2			
英 語 教 育 論 II	2			
英 語 科 教 育 法 I		2		
英 語 科 教 育 法 II		2		
児 童 英 語 教 育 論 I		2		

第3類 (杏林大学学則)

	児童英語教育論Ⅱ		2	
	児童英語教育教材研究		2	
	児童英語教育実習		1	
	英語教育演習Ⅰ		2	
	英語教育演習Ⅱ		2	
	情報処理		2	
	ゼミナールⅠ	2		
	ゼミナールⅡ	2		
	ゼミナールⅢ	2		
	卒業論文・課題指導		4	
関連科目	他学部 の 設置科目			
自由科目				

中国語学科

授 業 科 目 の 名 称				単 位 数		備 考	
				必修	選択		
外国語科目A	英	語	Ⅰ	1		留学生等本学が指定する 学生は日本語8単位必修	
	英	語	Ⅱ	1			
	英	語	Ⅲ	1			
	英	語	Ⅳ	1			
	英	語	Ⅴ	1			
	英	語	Ⅵ	1			
	中	国	語	Ⅰ	1		
	中	国	語	Ⅱ	1		
	中	国	語	Ⅲ	1		
	中	国	語	Ⅳ	1		
	中	国	語	Ⅴ	1		
	中	国	語	Ⅵ	1		
	中	国	語	Ⅶ	1		
	中	国	語	Ⅷ	1		
	日	本	語	Ⅰ			1
	日	本	語	Ⅱ			1
日	本	語	Ⅲ		1		
日	本	語	Ⅳ		1		
日	本	語	Ⅴ		1		
日	本	語	Ⅵ		1		

第3類 (杏林大学学則)

	日 本 語 VII		1	
	日 本 語 VIII		1	
外国語科目B	目的別英語演習 I		2	
	目的別英語演習 II		2	
	目的別英語演習 III		2	
	目的別英語演習 IV		2	
	目的別英語演習 V		2	
	目的別英語演習 VI		2	
	目的別英語演習 VII		2	
	目的別中国語演習 I		2	
	目的別中国語演習 II		2	
	目的別中国語演習 III		2	
	目的別中国語演習 IV		2	
	目的別中国語演習 V		2	
	韓 国 語 I		2	
	韓 国 語 II		2	
	韓 国 語 III		2	
	韓 国 語 IV		2	
	ド イ ツ 語 I		2	
	ド イ ツ 語 II		2	
	ド イ ツ 語 III		2	
	ド イ ツ 語 IV		2	
	フ ラ ン ス 語 I		2	
	フ ラ ン ス 語 II		2	
	フ ラ ン ス 語 III		2	
	フ ラ ン ス 語 IV		2	
	ス ペ イ ン 語 I		2	
	ス ペ イ ン 語 II		2	
	ス ペ イ ン 語 III		2	
	ス ペ イ ン 語 IV		2	
	口 語 英 語 I		1	
	口 語 英 語 II		1	
口 語 英 語 III		1		
口 語 英 語 IV		1		
口 語 英 語 V		1		
口 語 英 語 VI		1		

第3類 (杏林大学学則)

	口 語 英 語 VII		1	
	口 語 英 語 VIII		1	
	口 語 中 国 語 I		1	
	口 語 中 国 語 II		1	
	口 語 中 国 語 III		1	
	口 語 中 国 語 IV		1	
	口 語 中 国 語 V		1	
	口 語 中 国 語 VI		1	
	口 語 中 国 語 VII		1	
	口 語 中 国 語 VIII		1	
基 盤 教 育 科 目	大 学 入 門 I	1		
	大 学 入 門 II	1		
	日 本 語 表 現 実 習 I	1		
	日 本 語 表 現 実 習 II	1		
	グ ローバルコミュニケーション論	2		
	グ ローバル人材論	2		
	日 本 文 化 論	2		
	ホスピタリティ・コミュニケーション	1		
	地 域 と 大 学	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン I	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン II	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン III	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン IV	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン V	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン VI	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン 演 習		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ I		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ II		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ III		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ IV		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ V		2	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ I		1	
	イ ン タ ー ン シ ッ プ II		1	
イ ン タ ー ン シ ッ プ III		1		
	異文化コミュニケーション		2	
	こ と ば と 文 化		2	

第3類 (杏林大学学則)

教 養 科 目	こ	こ と ば と 社 会		2	
	と	言 語 の 歴 史 (英)		2	
	ば	言 語 の 歴 史 (中)		2	
	と	言 語 の 歴 史 (日)		2	
	文	英 語 文 学 I		2	
	化	英 語 文 学 II		2	
		アジアの文学・文化(日)		2	
		アジアの文学・文化(中)		2	
		アジアの文学・文化(韓)		2	
グ ロ ー バ ル 社 会 と 地 域	グ	グローバル社会と国際協力		2	
	ロ	ダイバーシティ入門		2	
	ー	日本と世界の近現代史		2	
	バ	生 活 と 法		2	
	ル	日 本 国 憲 法		2	
	社	社 会 学		2	
	会	ミ ク ロ 経 済 学		2	
	と	マ ク ロ 経 済 学		2	
	地	統 計 学		2	
	域	観 光 学 入 門		2	
		マ ー ケ テ ィ ン グ 入 門		2	
		ホ ス ピ タ リ テ ィ 入 門		2	
		ア ジ ア ン ・ ホ ス ピ タ リ テ ィ		2	
		人 文 地 理 学		2	
		自 然 地 理 学		2	
		地 域 圏 研 究 I		2	
	地 域 圏 研 究 II		2		
	地 域 圏 研 究 III		2		
	地 域 圏 研 究 IV		2		
	地 域 圏 研 究 V		2		
	地 域 圏 研 究 VI		2		
人 間 と 健 康	哲	学		2	
	倫	理 学		2	
	心	理 学		2	
	宗	教 学		2	
	健	康 科 学 I		2	
康	健 康 科 学 II		2		

第3類 (杏林大学学則)

	体 育 理 論		1	
	体 育 実 技		1	
日 本 語 教 育	フ ァ シ リ テ ー シ ョ ン 論		2	4 単 位 以 上
	日 本 語 学 概 論		2	
	日 本 語 教 育 概 論		2	
	日 本 語 学 特 論 I		2	
	日 本 語 学 特 論 II		2	
	日 本 語 学 特 論 III		2	
	日 本 語 学 特 論 IV		2	
	日 本 語 教 育 学 特 論 I		2	
	日 本 語 教 育 学 特 論 II		2	
	日 本 語 教 育 学 特 論 III		2	
	日 本 語 教 育 学 特 論 IV		2	
	日 本 語 授 業 の 実 際 I		2	
	日 本 語 授 業 の 実 際 II		2	
	日 本 語 教 育 実 習 I		1	
	日 本 語 教 育 実 習 II		1	
	専 門 科 目	イ ン テ ン シ ブ 中 国 語 I		
イ ン テ ン シ ブ 中 国 語 II			1	
イ ン テ ン シ ブ 中 国 語 III			1	
イ ン テ ン シ ブ 中 国 語 IV			1	
イ ン テ ン シ ブ 中 国 語 V			1	
イ ン テ ン シ ブ 中 国 語 VI			1	
イ ン テ ン シ ブ 中 国 語 VII			1	
イ ン テ ン シ ブ 中 国 語 VIII			1	
中 国 語 発 音 実 習 I			1	
中 国 語 発 音 実 習 II			1	
ビ ジ ネ ス 中 国 語 I			2	
ビ ジ ネ ス 中 国 語 II			2	
中 国 語 通 訳 法 I			2	
中 国 語 通 訳 法 II			2	
中 国 語 翻 訳 法 I			2	
中 国 語 翻 訳 法 II			2	
中 国 語 演 習 I		2		

第3類 (杏林大学学則)

	中国語演習Ⅱ		2	
	中国語演習Ⅲ		2	
	中国語演習Ⅳ		2	
	日中通訳・翻訳演習Ⅰ		2	
	日中通訳・翻訳演習Ⅱ		2	
	日中通訳・翻訳演習Ⅲ		2	
	日中通訳・翻訳演習Ⅳ		2	
	中国語学概論	2		
	中国語文法論	2		
	中国語音声学		2	
	中国文学史Ⅰ		2	
	中国文学史Ⅱ		2	
	日中比較文化論Ⅰ	2		
	日中比較文化論Ⅱ	2		
	アジア政治論		2	
	アジア経済論		2	
	中国経済概論		2	
	中国語翻訳ワークショップ		2	
	認知言語学		2	
	中国語ビジネスコミュニケーション演習Ⅰ		2	
	中国語ビジネスコミュニケーション演習Ⅱ		2	
	ゼミナールⅠ	2		
	ゼミナールⅡ	2		
	ゼミナールⅢ	2		
	卒業論文・課題指導		4	
関連科目	他学部設置科目			
自由科目				

観光交流文化学科

授業科目の名称	単位数		備考
	必修	選択	
外国語Ⅰ	1		留学生等本学が指定する 学生は日本語6単位選択 必修
外国語Ⅱ	1		
外国語Ⅲ	1		
外国語Ⅳ	1		

第 3 類 (杏林大学学則)

語 科 目 A	英	語	V	1		
	英	語	VI	1		
	英	語	VII	1		
	英	語	VIII	1		
	英	語	文 法 I		1	
	英	語	文 法 II		1	
	英	語	作 文 I		1	
	英	語	作 文 II		1	
	実	用	英 語 I	1		
	実	用	英 語 II	1		
	実	用	英 語 III	1		
	実	用	英 語 IV	1		
	実	用	英 語 演 習 I	1		
	実	用	英 語 演 習 II	1		
	中	国	語 I	1		
	中	国	語 II	1		
	中	国	語 III	1		
	中	国	語 IV	1		
	中	国	語 V	1		
	中	国	語 VI	1		
日	本	語 I		1		
日	本	語 II		1		
日	本	語 III		1		
日	本	語 IV		1		
日	本	語 V		1		
日	本	語 VI		1		
日	本	語 VII		1		
日	本	語 VIII		1		
外 国 語 科 目 B	目 的 別	英 語 演 習 I			2	
	目 的 別	英 語 演 習 II			2	
	目 的 別	英 語 演 習 III			2	
	目 的 別	英 語 演 習 IV			2	
	目 的 別	英 語 演 習 V			2	
	目 的 別	英 語 演 習 VI			2	
	目 的 別	英 語 演 習 VII			2	
	目 的 別	中 国 語 演 習 I			2	

第3類 (杏林大学学則)

目的別中国語演習Ⅱ		2
目的別中国語演習Ⅲ		2
目的別中国語演習Ⅳ		2
目的別中国語演習Ⅴ		2
韓国語Ⅰ		2
韓国語Ⅱ		2
韓国語Ⅲ		2
韓国語Ⅳ		2
ドイツ語Ⅰ		2
ドイツ語Ⅱ		2
ドイツ語Ⅲ		2
ドイツ語Ⅳ		2
フランス語Ⅰ		2
フランス語Ⅱ		2
フランス語Ⅲ		2
フランス語Ⅳ		2
スペイン語Ⅰ		2
スペイン語Ⅱ		2
スペイン語Ⅲ		2
スペイン語Ⅳ		2
口語英会話Ⅰ		1
口語英会話Ⅱ		1
口語英会話Ⅲ		1
口語英会話Ⅳ		1
口語英会話Ⅴ		1
口語英会話Ⅵ		1
口語英会話Ⅶ		1
口語英会話Ⅷ		1
口語中国語Ⅰ		1
口語中国語Ⅱ		1
口語中国語Ⅲ		1
口語中国語Ⅳ		1
口語中国語Ⅴ		1
口語中国語Ⅵ		1
口語中国語Ⅶ		1
口語中国語Ⅷ		1

第3類 (杏林大学学則)

基 盤 教 育 科 目	大 学 入 門 I	1		2 単位以上
	大 学 入 門 II	1		
	日 本 語 表 現 実 習 I	1		
	日 本 語 表 現 実 習 II	1		
	グローバルコミュニケーション論	2		
	グ ロ ー バ ル 人 材 論	2		
	日 本 文 化 論	2		
	ホスピタリティ・コミュニケーション	1		
	地 域 と 大 学	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン I	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン II	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン III	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン IV	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン V	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン VI	2		
	キ ャ リ ア デ ザ イン 演 習		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ I		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ II		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ III		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ IV		2	
	フ ィ ー ル ド ス タ デ ィ V		2	
イ ン タ ー ン シ ッ プ I		1		
イ ン タ ー ン シ ッ プ II		1		
イ ン タ ー ン シ ッ プ III		1		
教 養 科 目	異文化コミュニケーション		2	
	こ と ば と 文 化		2	
	こ と ば と 社 会		2	
	言 語 の 歴 史 (英)		2	
	言 語 の 歴 史 (中)		2	
	言 語 の 歴 史 (日)		2	
	英 語 文 学 I		2	
	英 語 文 学 II		2	
	ア ジ ア の 文 学 ・ 文 化 (日)		2	
	ア ジ ア の 文 学 ・ 文 化 (中)		2	
	ア ジ ア の 文 学 ・ 文 化 (韓)		2	
	グ ロ ー バ ル 社 会 と 国 際 協 力		2	

第3類 (杏林大学学則)

グローバル 社会と 地域	ダイバーシティ入門	2	
	日本と世界の近現代史	2	
	生活と法	2	
	日本国憲法	2	
	社会学	2	
	ミクロ経済学	2	
	マクロ経済学	2	
	統計学	2	
	観光学入門	2	
	マーケティング入門	2	
	ホスピタリティ入門	2	
	アジアン・ホスピタリティ	2	
	人文地理学	2	
	自然地理学	2	
	地域圏研究 I	2	
	地域圏研究 II	2	
地域圏研究 III	2		
地域圏研究 IV	2		
地域圏研究 V	2		
地域圏研究 VI	2		
人間と 健康	哲学	2	
	心理学	2	
	心理学	2	
	宗教学	2	
	健康科学 I	2	
	健康科学 II	2	
	体育理論	1	
	体育実技	1	
日本語 教育	ファシリテーション論	2	
	日本語学概論	2	
	日本語教育概論	2	
	日本語学特論 I	2	
	日本語学特論 II	2	
	日本語学特論 III	2	
	日本語学特論 IV	2	
日本語教育学特論 I	2		

第3類 (杏林大学学則)

	日本語教育学特論Ⅱ		2	
	日本語教育学特論Ⅲ		2	
	日本語教育学特論Ⅳ		2	
	日本語授業の実際Ⅰ		2	
	日本語授業の実際Ⅱ		2	
	日本語教育実習Ⅰ		1	
	日本語教育実習Ⅱ		1	
	日本文化演習Ⅰ		2	
	日本文化演習Ⅱ		2	
専 門 科 目 A	国際観光論		2	
	交流文化論		2	
	サービス文化論		2	
	観光心理学		2	
	観光人類学		2	
	観光地理学		2	
	観光保健論		2	
	福祉観光論		2	
	観光マーケティング論		2	
	観光英語Ⅰ	2		
	観光英語Ⅱ	2		
	観光英語Ⅲ		2	
	観光英語Ⅳ		2	
	観光中国語Ⅰ		2	
	観光中国語Ⅱ		2	
	観光手話基礎		2	
	観光手話		2	
	プロジェクト演習Ⅰ	2		
	プロジェクト演習Ⅱ		2	
	観光基礎演習Ⅰ	2		
	観光基礎演習Ⅱ	2		
	ゼミナールⅠ	2		
	ゼミナールⅡ	2		
ゼミナールⅢ	2			
卒業論文・課題指導		4		
	サービス産業論		2	
	基礎簿記Ⅰ		2	

第3類 (杏林大学学則)

専 門 科 目 B	基 礎 簿 記 II		2	
	旅 行 産 業 論		2	
	旅 行 サ ー ビ ス 論		2	
	ホスピタリティマネジメント論		2	
	航 空 産 業 論		2	
	航 空 サ ー ビ ス 論		2	
	宿 泊 産 業 論		2	
	宿 泊 サ ー ビ ス 論		2	
	フ ー ド ビ ジ ネ ス 論		2	
	フードビジネスサービス論		2	
	観 光 政 策 ・ 行 政 論		2	
	風 景 ・ 景 観 論		2	
	イベント・コンベンション論		2	
	エンターテインメント産業論		2	
	ブライダルコーディネート論		2	
	世 界 遺 産 観 光 論		2	
	旅 行 医 学 概 論		2	
	観光リスクマネジメント論		2	
	観 光 交 流 文 化 特 論 I		2	
	観 光 交 流 文 化 特 論 II		2	
観 光 交 流 文 化 特 論 III		2		
観 光 交 流 文 化 特 論 IV		2		
関 連 科 目	他 学 部 の 設 置 科 目			
自 由 科 目				

第3類（杏林大学学則）

別表4-5（令和3年度入学生から適用）

外国語学部学科目構成

英語学科

授業科目の名称	単位数		備考
	必修	選択	
外国語科目A	英語 I	2	
	英語 II	2	
	英語 III	2	
	英語 IV	2	
	実用英語演習 I		2
	実用英語演習 II		2
	中国語 I		2
	中国語 II		2
	韓国語 I		2
	韓国語 II		2
	ドイツ語 I		2
	ドイツ語 II		2
	フランス語 I		2
	フランス語 II		2
	スペイン語 I		2
	スペイン語 II		2
	日本語 I		2
	日本語 II		2
	日本語 III		2
	日本語 IV		2
日本語 V		2	
日本語 VI		2	
外国語科目B	英語特別演習 I		2
	英語特別演習 II		2
	中国語 III		2
	中国語 IV		2
	中国語特別演習 I		2
	中国語特別演習 II		2
	中国語特別演習 III		2
	中国語特別演習 IV		2
韓国語 III		2	
韓国語 IV		2	

第3類 (杏林大学学則)

	実用韓国語		2	
	ドイツ語Ⅲ		2	
	ドイツ語Ⅳ		2	
	フランス語Ⅲ		2	
	フランス語Ⅳ		2	
	スペイン語Ⅲ		2	
	スペイン語Ⅳ		2	
基盤教育科目	大学入門	2		2単位以上
	アカデミックライティング	2		
	コミュニケーション概論		2	
	テーマで学ぶ現代社会Ⅰ		2	
	テーマで学ぶ現代社会Ⅱ		2	
	テーマで学ぶ現代社会Ⅲ		2	
	サービスラーニングⅠ		2	
	サービスラーニングⅡ		2	
	データサイエンス	2		
	データリテラシー	2		
	統計学		2	
	情報処理		2	
	異文化コミュニケーション		2	
	地域圏研究Ⅰ		2	
	地域圏研究Ⅱ		2	
	地域圏研究Ⅲ		2	
	ダイバーシティ論		2	
	フィールドスタディⅠ		2	
	フィールドスタディⅡ		2	
	フィールドスタディⅢ		2	
	フィールドスタディⅣ		2	
	キャリアデザインⅠ	2		
	キャリアデザインⅡ	2		
	キャリアデザインⅢ		2	
	キャリアデザインⅣ		2	
	インターンシップⅠ		2	
インターンシップⅡ		2		
インターンシップⅢ		2		
日本語学概論		2		

第3類 (杏林大学学則)

	日本語学特論 I	2	
	日本語学特論 II	2	
	日本語学特論 III	2	
	日本語教育学概論	2	
	日本語教育実習 I	2	
	日本語教育実習 II	2	
	日本語教育実習 III	2	
	日本語教育学特論 I	2	
	日本語教育学特論 II	2	
	日本語教育学特論 III	2	
	日本文化演習	2	
	海外語学実習 I	1	
	海外語学実習 II	1	
	海外語学実習 III	1	
	海外語学実習 IV	1	
	国内語学実習 I	1	
	国内語学実習 II	1	
教養科目	文学	2	
	社会学	2	
	地理学	2	
	経営学	2	
	哲学	2	
	倫理学	2	
	心理学	2	
	ホスピタリティ・コミュニケーション	2	
	歴史学	2	
	日本国憲法	2	
	健康と体育	2	
	社会と大学 I	2	
	社会と大学 II	2	
	社会と大学 III	2	
	保健・医療の現状と未来 I	2	
保健・医療の現状と未来 II	2		
	英語の世界	2	専門科目から 66単位以上
	コミュニケーションと人間	2	
	英語文法 I	2	

第3類 (杏林大学学則)

専門科目	英語文法Ⅱ	2	2単位以上
	目的別英語演習Ⅰ	2	
	目的別英語演習Ⅱ	2	
	目的別英語演習Ⅲ	2	
	目的別英語演習Ⅳ	2	
	目的別英語演習Ⅴ	2	
	目的別英語演習Ⅵ	2	
	目的別英語演習・上級Ⅰ	2	
	目的別英語演習・上級Ⅱ	2	
	目的別英語演習・上級Ⅲ	2	
	目的別英語演習・上級Ⅳ	2	
	英語文献講読Ⅰ	2	
	英語文献講読Ⅱ	2	
	英語音声学	2	
	英語発音聴取	2	
	英語翻訳論	2	
	英語翻訳演習	2	
	Writing Strategies	2	
	Communication Strategies	2	
	Integrated EnglishⅠ	2	
	Integrated EnglishⅡ	2	
	英語学演習Ⅰ	2	
	英語学演習Ⅱ	2	
	英語学演習Ⅲ	2	
	英語学演習Ⅳ	2	
	英語学演習Ⅴ	2	
	英語学特論Ⅰ	2	
	英語学特論Ⅱ	2	
	英語学特論Ⅲ	2	
	英語学特論Ⅳ	2	
	英語学特論Ⅴ	2	
	表象文化論Ⅰ	2	
表象文化論Ⅱ	2		
異文化コミュニケーション特論	2		
異文化交流	2		
西洋的思考と哲学	2		

第3類 (杏林大学学則)

	Global Issues I		2	
	Global Issues II		2	
	英文学特論 I		2	
	英文学特論 II		2	
	米文学特論 I		2	
	米文学特論 II		2	
	英語文		2	
	社会言語学		2	
	認知言語学		2	
	英語教育論 I		2	
	英語教育論 II		2	
	英語科教育法 I		2	
	英語科教育法 II		2	
	ゼミナール I	2		
	ゼミナール II	2		
	ゼミナール III	2		
	卒業論文・課題指導	4		
関連科目	他学部 の 設置科目			
自由科目				

中国語学科

授業科目の名称	単位数		備考
	必修	選択	
英語 I	2		
英語 II	2		
外国語科目 A 実用英語演習 I		2	
実用英語演習 II		2	
韓国語 I		2	
韓国語 II		2	
ドイツ語 I		2	
ドイツ語 II		2	
フランス語 I		2	
フランス語 II		2	
スペイン語 I		2	
スペイン語 II		2	

第3類 (杏林大学学則)

	日 本 語 I		2	
	日 本 語 II		2	
	日 本 語 III		2	
	日 本 語 IV		2	
	日 本 語 V		2	
	日 本 語 VI		2	
外国語科目B	英語コミュニケーション I	2		
	英語コミュニケーション II	2		
	英語特別演習 I		2	
	英語特別演習 II		2	
	中国語特別演習 I		2	
	中国語特別演習 II		2	
	中国語特別演習 III		2	
	中国語特別演習 IV		2	
	韓国語 III		2	
	韓国語 IV		2	
	実用韓国語		2	
	ドイツ語 III		2	
	ドイツ語 IV		2	
	フランス語 III		2	
	フランス語 IV		2	
スペイン語 III		2		
スペイン語 IV		2		
基盤教育科目	大 学 入 門	2		
	アカデミックライティング	2		
	コミュニケーション概論		2	2単位以上
	テーマで学ぶ現代社会 I		2	
	テーマで学ぶ現代社会 II		2	
	テーマで学ぶ現代社会 III		2	
	サービスラーニング I		2	
	サービスラーニング II		2	
	データサイエンス	2		
	データリテラシー	2		
	統 計 学		2	
	情 報 処 理		2	
異文化コミュニケーション		2		

第3類 (杏林大学学則)

地域圏研究 I		2
地域圏研究 II		2
地域圏研究 III		2
ダイバーシティ論		2
フィールドスタディ I		2
フィールドスタディ II		2
フィールドスタディ III		2
フィールドスタディ IV		2
キャリアデザイン I	2	
キャリアデザイン II	2	
キャリアデザイン III		2
キャリアデザイン IV		2
インターンシップ I		2
インターンシップ II		2
インターンシップ III		2
日本語学概論		2
日本語学特論 I		2
日本語学特論 II		2
日本語学特論 III		2
日本語教育学概論		2
日本語教育実習 I		2
日本語教育実習 II		2
日本語教育実習 III		2
日本語教育学特論 I		2
日本語教育学特論 II		2
日本語教育学特論 III		2
日本文化演習		2
海外語学実習 I		1
海外語学実習 II		1
海外語学実習 III		1
海外語学実習 IV		1
国内語学実習 I		1
国内語学実習 II		1
文	学	2
社	会	2
地	理	2

第3類 (杏林大学学則)

教養科目	経営学	2		
	哲学	2		
	倫理学	2		
	心理学	2		
	ホスピタリティ・コミュニケーション	2		
	歴史学	2		
	日本国憲法	2		
	健康と体育	2		
	社会と大学 I	2		
	社会と大学 II	2		
	社会と大学 III	2		
	保健・医療の現状と未来 I	2		
	保健・医療の現状と未来 II	2		
	専門科目	インテンシブ中国語 I	2	専門科目から 66単位以上
		インテンシブ中国語 II	2	
インテンシブ中国語 III		2		
インテンシブ中国語 IV		2		
インテンシブ中国語 V		2		
インテンシブ中国語 VI		2		
インテンシブ中国語 VII		2		
インテンシブ中国語 VIII		2		
インテンシブ中国語 IX		2		
インテンシブ中国語 X		2		
インテンシブ中国語 X I		2		
インテンシブ中国語 X II		2		
インテンシブ中国語 X III		2		
インテンシブ中国語 X IV		2		
インテンシブ中国語 X V		2		
インテンシブ中国語 X VI		2		
中国語発音矯正 I		2		
中国語発音矯正 II		2		
中国語学概論		2		
中国語の文法		2		
中国語の音声		2		
デジタル時代の中国語		2		
地域研究入門		2		

第3類 (杏林大学学則)

	中国の地誌		2
	中国語圏研究	2	
	韓国語圏研究		2
	韓国の文学・文化		2
	中国文学史 I		2
	中国文学史 II		2
	日中比較文化論 I		2
	日中比較文化論 II		2
	アジア政治論		2
	アジア経済論		2
	中国の政治・経済		2
	中国の思想		2
	中国の歴史		2
	近代中国と日本 I		2
	近代中国と日本 II		2
	中国語プレゼンテーション		2
	中国語ビジネスコミュニケーション演習 I		2
	中国語ビジネスコミュニケーション演習 II		2
	中国語演習 I		2
	中国語演習 II		2
	中国語演習 III		2
	中国語演習 IV		2
	中国語通訳法 I	2	
	中国語通訳法 II	2	
	中国語翻訳法 I		2
	中国語翻訳法 II		2
	中日通訳・翻訳 I		2
	中日通訳・翻訳 II		2
	日中通訳・翻訳 I		2
	日中通訳・翻訳 II		2
	ゼミナール I	2	
	ゼミナール II	2	
	ゼミナール III	2	
	卒業論文・課題指導		4
関連科目	他学部 の 設置科目		

第3類 (杏林大学学則)

自 科 目					
観光交流文化学科					
授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		備 考		
	必修	選択			
外 国 語 科 目 A	英 語	I	2		
	英 語	II	2		
	英 語	III	2		
	英 語	IV	2		
	実 用 英 語 演 習	I		2	
	実 用 英 語 演 習	II		2	
	中 国 語	I		2	
	中 国 語	II		2	
	韓 国 語	I		2	
	韓 国 語	II		2	
	ド イ ツ 語	I		2	
	ド イ ツ 語	II		2	
	フ ラ ン ス 語	I		2	
	フ ラ ン ス 語	II		2	
	ス ペ イ ン 語	I		2	
	ス ペ イ ン 語	II		2	
	日 本 語	I		2	
	日 本 語	II		2	
日 本 語	III		2		
日 本 語	IV		2		
日 本 語	V		2		
日 本 語	VI		2		
外 国 語 科 目 B	英 語	V	2		
	英 語	VI	2		
	英 語	VII	2		
	英 語	VIII	2		
	英 語 特 別 演 習	I		2	
	英 語 特 別 演 習	II		2	
	中 国 語	III		2	
	中 国 語	IV		2	
中 国 語 特 別 演 習	I		2		
中 国 語 特 別 演 習	II		2		

第3類 (杏林大学学則)

	中国語特別演習Ⅲ		2	
	中国語特別演習Ⅳ		2	
	韓国語Ⅲ		2	
	韓国語Ⅳ		2	
	実用韓国語		2	
	ドイツ語Ⅲ		2	
	ドイツ語Ⅳ		2	
	フランス語Ⅲ		2	
	フランス語Ⅳ		2	
	スペイン語Ⅲ		2	
	スペイン語Ⅳ		2	
基盤教育科目	大学入門	2		2単位以上
	アカデミックライティング	2		
	コミュニケーション概論		2	
	テーマで学ぶ現代社会Ⅰ		2	
	テーマで学ぶ現代社会Ⅱ		2	
	テーマで学ぶ現代社会Ⅲ		2	
	サービスラーニングⅠ		2	
	サービスラーニングⅡ		2	
	データサイエンス	2		
	データリテラシー	2		
	統計学		2	
	情報処理		2	
	異文化コミュニケーション		2	
	地域圏研究Ⅰ		2	
	地域圏研究Ⅱ		2	
	地域圏研究Ⅲ		2	
	ダイバーシティ論		2	
	フィールドスタディⅠ		2	
	フィールドスタディⅡ		2	
	フィールドスタディⅢ		2	
フィールドスタディⅣ		2		
キャリアディベロップメントⅠ	2			
キャリアディベロップメントⅡ	2			
キャリアデザインⅢ	2			
キャリアデザインⅣ	2			

第3類 (杏林大学学則)

	インターンシップ I		2	
	日本語学概論		2	
	日本語学特論 I		2	
	日本語学特論 II		2	
	日本語学特論 III		2	
	日本語教育学概論		2	
	日本語教育実習 I		2	
	日本語教育実習 II		2	
	日本語教育実習 III		2	
	日本語教育学特論 I		2	
	日本語教育学特論 II		2	
	日本語教育学特論 III		2	
	日本文化演習		2	
	海外語学実習 I		1	
	海外語学実習 II		1	
	海外語学実習 III		1	
	海外語学実習 IV		1	
	国内語学実習 I		1	
	国内語学実習 II		1	
教養科目	文学		2	
	社会学		2	
	地理学		2	
	経営学		2	
	哲学		2	
	倫理学		2	
	心理学		2	
	ホスピタリティ・コミュニケーション		2	
	歴史学		2	
	日本国憲法		2	
	健康と体育		2	
	社会と大学 I		2	
	社会と大学 II		2	
	社会と大学 III		2	
	保健・医療の現状と未来 I		2	
保健・医療の現状と未来 II		2		
	ホスピタリティ入門	2		専門科目から

第3類 (杏林大学学則)

専 門 科 目	観 光 学 入 門	2	66単位以上
	現代社会と観光ホスピタリティ	2	
	観 光 基 礎 演 習	2	
	観 光 調 査 法	2	
	交 流 文 化 論	2	
	観 光 心 理 学	2	
	観 光 地 理 学	2	
	観 光 政 策 論	2	
	観 光 マ ー ケ テ ィ ン グ 論	2	
	人 的 資 源 管 理 論	2	
	フ ァ シ リ テ ー シ ョ ン 実 習	2	
	ホ ス ピ タ リ テ ィ 財 務 会 計 論	2	
	観 光 リ ス ク マ ネ ジ メ ン ト 論	2	
	観 光 メ デ ィ ア 論	2	
	観 光 資 源 論 I	2	
	観 光 資 源 論 II	2	
	観 光 コ ン テ ン ツ デ ザ イン 実 習	2	
	Tourism English I	2	
	Tourism English II	2	
	観 光 実 用 英 語 イン テ ン シ ブ I	2	
	観 光 実 用 英 語 イン テ ン シ ブ II	2	
	健 康 科 学 の 基 礎	2	
	ウ ェ ル ネ ス ツ ー リ ズ ム 論	2	
	温 泉 観 光 学	2	
	観 光 衛 生 論	2	
	福 祉 観 光 論	2	
	観 光 手 話 I	2	
	観 光 手 話 II	2	
	ウ ェ ル ネ ス ツ ー リ ズ ム 実 習	2	
	温 泉 療 養 学	2	
	旅 行 医 学 概 論	2	
	疾 病 地 域 論	2	
	観 光 交 通 論	2	
	航 空 産 業 論	2	
	航 空 サ ー ビ ス 論	2	
	ホ テ ル オ ペ レ ー シ ョ ン	2	

第3類 (杏林大学学則)

	宿 泊 産 業 論		2	
	フ ー ド ビ ジ ネ ス 論		2	
	旅 行 産 業 論		2	
	ホスピタリティ・ビジネスインターンシップ		2	
	ホスピタリティ・ビジネス演習		2	
	ホスピタリティ・ビジネス特論Ⅰ		2	
	ホスピタリティ・ビジネス特論Ⅱ		2	
	観 光 ま ち づ くり 論		2	
	国 際 協 力 と 観 光		2	
	地 域 創 造 イ ン タ ー ン シ ッ プ		2	
	コ ン テ ン ツ ・ ツ ー リ ズ ム 論		2	
	エ コ ツ ー リ ズ ム 論		2	
	地 域 リ ー ダ ー シ ッ プ 論		2	
	N P O ・ N G O 論		2	
	地 域 型 プ ロ ジ ェ ク ト 演 習		2	
	地 域 創 造 特 論 Ⅰ		2	
	地 域 創 造 特 論 Ⅱ		2	
	ゼ ミ ナ ー ル Ⅰ	2		
	ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ	2		
	ゼ ミ ナ ー ル Ⅲ	2		
	卒 業 論 文 ・ プ ロ ジ ェ ク ト 指 導		6	
関 連 科 目	他 学 部 の 設 置 科 目			
自 由 科 目				

第3類（杏林大学学則）

別表5-1-1

教職に関する科目構成

（平成22年度入学生から適用）

授業科目の名称	単位	備考
教職総論	2	
教育原理	2	
教育心理学	2	
教育社会学	2	
保健科教育法－1	2	
保健科教育法－2	2	
社会科教育法	2	
社会科・公民科教育法	2	
商業科教育法－1	2	
商業科教育法－2	2	
英語科教育法－1	2	
英語科教育法－2	2	
保健科指導研究Ⅰ	2	
保健科指導研究Ⅱ	2	
社会科指導研究	2	
社会科・公民科指導研究	2	
英語科指導研究Ⅰ	2	
英語科指導研究Ⅱ	2	
道徳教育の研究	2	
特別活動の研究	2	
教育の方法・技術	2	
生徒指導の研究	2	
進路指導の研究	1	
教育相談（カウンセリングを含む）	2	
教職実践演習（中・高）	2	
教職実践演習（養護教諭）	2	
教育実習Ⅰ	1	
教育実習Ⅱ	2	
教育実習Ⅲ	2	
養護実習Ⅰ	1	
養護実習Ⅱ	4	

表の科目は、中学校並びに高等学校の教育職員免許状又は養護教諭免許状を得ようとする場合、別に定めるところにより選択履修する教職に関する科目である。

ただし、別表2から別表4により開設されている科目を除き、自由科目とし卒業の単位に算入しない。

第3類（杏林大学学則）

別表5-1-2

教職に関する科目構成

（平成24年度入学生から適用）

授業科目の名称	単位	備考
教職総論	2	
教育原理	2	
教育心理学	2	
教育社会学	2	
保健科教育法-1	2	
保健科教育法-2	2	
社会科教育法	2	
社会科・公民科教育法	2	
商業科教育法-1	2	
商業科教育法-2	2	
英語科教育法-1	2	
英語科教育法-2	2	
保健科指導研究Ⅰ	2	
保健科指導研究Ⅱ	2	
社会科指導研究	2	
社会科・公民科指導研究	2	
英語科指導研究Ⅰ	2	
英語科指導研究Ⅱ	2	
道徳教育指導論	2	
特別活動指導論	2	
教育の方法・技術	2	
生徒指導論	2	
進路指導論	1	
教育相談（カウンセリングを含む）	2	
教育実習Ⅰ	1	
教育実習Ⅱ	2	
教育実習Ⅲ	2	
養護実習Ⅰ	1	
養護実習Ⅱ	4	
教職実践演習（中・高）	2	
教職実践演習（養護教諭）	2	

表の科目は、中学校並びに高等学校の教育職員免許状又は養護教諭免許状を得ようとする場合、別に定めるところにより選択履修する教職に関する科目である。

ただし、別表2から別表4により開設されている科目を除き、自由科目とし卒業の単位に算入しない。

第3類（杏林大学学則）

別表5-1-3

教職に関する科目構成
（平成28年度入学生から適用）

授業科目の名称	単位	備考
教職総論	2	
教育原理	2	
教育心理学	2	
教育社会学	2	
保健科教育法Ⅰ	2	
保健科教育法Ⅱ	2	
社会科教育法	2	
社会科・公民科教育法	2	
商業科教育法Ⅰ	2	
商業科教育法Ⅱ	2	
英語科教育法Ⅰ	2	
英語科教育法Ⅱ	2	
保健科指導研究Ⅰ	2	
保健科指導研究Ⅱ	2	
社会科指導研究	2	
社会科・公民科指導研究	2	
英語科指導研究Ⅰ	2	
英語科指導研究Ⅱ	2	
道徳教育指導論	2	
特別活動指導論	2	
教育の方法・技術	2	
生徒指導論	2	
進路指導論	1	
教育相談(カウンセリングを含む)	2	
教育実習Ⅰ	1	
教育実習Ⅱ	2	
教育実習Ⅲ	2	
養護実習Ⅰ	1	
養護実習Ⅱ	4	
教職実践演習(中・高)	2	
教職実践演習(養護教諭)	2	

表の科目は、中学校並びに高等学校の教育職員免許状又は養護教諭免許状を得ようとする場合、別に定めるところにより選択履修する教職に関する科目である。
ただし、別表2から別表4により開設されている科目を除き、自由科目として卒業の単位に算入しない。

第3類（杏林大学学則）

別表5-1-4

教職に関する科目構成
（平成31年度入学生から適用）

授業科目の名称	単位	備考
教職総論	2	
教育原理（教育課程を含む）	2	
教育心理学	2	
教育社会学	2	
特別支援教育論	2	
保健科教育法Ⅰ	2	
保健科教育法Ⅱ	2	
社会科教育法	2	
社会科・公民科教育法	2	
英語科教育法Ⅰ	2	
英語科教育法Ⅱ	2	
保健科指導法Ⅰ	2	
保健科指導法Ⅱ	2	
社会科指導法	2	
社会科・公民科指導法	2	
英語科指導法Ⅰ	2	
英語科指導法Ⅱ	2	
道徳教育指導論	2	
総合的な学習の時間の指導法	1	
特別活動指導論	1	
教育の方法・技術	2	
生徒指導論	1	
進路指導論	1	
教育相談（カウンセリングを含む）	2	
教育実習Ⅰ	1	
教育実習Ⅱ	2	
教育実習Ⅲ	2	
養護実習Ⅰ	1	
養護実習Ⅱ	4	
教職実践演習（中・高）	2	
教職実践演習（養護教諭）	2	

表の科目は、中学校並びに高等学校の教育職員免許状又は養護教諭免許状を得ようとする場合、別に定めるところにより選択履修する教職に関する科目である。
ただし、別表2から別表4により開設されている科目を除き、自由科目として卒業の単位に算入しない。

第3類（杏林大学学則）

別表5-1-5

教職に関する科目構成
（令和3年度入学生から適用）

授業科目の名称	単位	備考
教職総論	2	
教育原理（教育課程を含む）	2	
教育心理学	2	
教育社会学	2	
特別支援教育論	2	
保健科教育法Ⅰ	2	
保健科教育法Ⅱ	2	
社会科教育法	2	
社会科・公民科教育法	2	
英語科教育法Ⅰ	2	
英語科教育法Ⅱ	2	
保健科指導法Ⅰ	2	
保健科指導法Ⅱ	2	
社会科指導研究	2	
社会科・公民科指導研究	2	
英語科指導研究Ⅰ	2	
英語科指導研究Ⅱ	2	
道徳教育指導論	2	
総合的な学習の時間の指導法	1	
特別活動指導論	1	
教育の方法・技術	2	
生徒指導論	1	
進路指導論	1	
教育相談（カウンセリングを含む）	2	
教育実習Ⅰ	1	
教育実習Ⅱ	2	
教育実習Ⅲ	2	
養護実習Ⅰ	1	
養護実習Ⅱ	4	
教職実践演習（中・高）	2	
教職実践演習（養護教諭）	2	

表の科目は、中学校並びに高等学校の教育職員免許状又は養護教諭免許状を得ようとする場合、別に定めるところにより選択履修する教職に関する科目である。
ただし、別表2から別表4により開設されている科目を除き、自由科目として卒業の単位に算入しない。

第3類（杏林大学学則）

別表5-1-6

教職に関する科目構成

（令和4年度入学生から適用）

授 業 科 目 の 名 称	単 位	備 考
教 職 総 論	2	
教 育 原 理（教 育 課 程 を 含 む）	2	
教 育 心 理 学	2	
教 育 社 会 学	2	
特 別 支 援 教 育 論	2	
保 健 科 教 育 法 一 I	2	
保 健 科 教 育 法 一 II	2	
社 会 科 教 育 法	2	
社 会 科 ・ 公 民 科 教 育 法	2	
英 語 科 教 育 法 I	2	
英 語 科 教 育 法 II	2	
保 健 科 指 導 法 I	2	
保 健 科 指 導 法 II	2	
社 会 科 指 導 法	2	
社 会 科 ・ 公 民 科 指 導 法	2	
英 語 科 指 導 法 I	2	
英 語 科 指 導 法 II	2	
道 徳 教 育 指 導 論	2	
総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 指 導 法	1	
特 別 活 動 指 導 論	1	
教 育 の 方 法 ・ 技 術	1	
I C T 活 用 の 理 論 と 実 践	1	
生 徒 指 導 論	1	
進 路 指 導 論	1	
教 育 相 談（カ ウ ン セ リ ン グ を 含 む）	2	
教 育 実 習 I	1	
教 育 実 習 II	2	
教 育 実 習 III	2	
養 護 実 習 I	1	
養 護 実 習 II	4	
教 職 実 践 演 習（中 ・ 高）	2	
教 職 実 践 演 習（養 護 教 諭）	2	

表の科目は、中学校並びに高等学校の教育職員免許状又は養護教諭免許状を得ようとする場合、別に定めるところにより選択履修する教職に関する科目である。

ただし、別表2から別表4により開設されている科目を除き、自由科目として卒業の単位に算入しない。

第3類（杏林大学学則）

別表6-1

入学料・授業料等の額

	医学部	保健学部	総合政策学部	外国語学部
入 学 料	1,500,000円	250,000円	250,000円	250,000円
授 業 料	3,000,000円 (年額)	1,150,000円 (年額)	720,000円 (年額)	720,000円 (年額)
実 験 実 習 費	1,000,000円 (年額)	300,000円 (年額)		
施 設 設 備 費	4,000,000円 (初年度) 1,500,000円 (2年次以降)	200,000円 (年額)	200,000円 (年額)	200,000円 (年額)

- 1 平成20年度入学生から適用する。
- 2 各学部において、学習指導資料費及び特定科目の履修費を別に定めるところにより徴収する。

第3類（杏林大学学則）

別表6-2

入学料・授業料等の額

	医学部	保健学部	総合政策学部	外国語学部
入 学 料	1,500,000円	250,000円	250,000円	250,000円
授 業 料	3,000,000円 (年額)	1,150,000円 (年額)	720,000円 (年額)	720,000円 (年額)
実 験 実 習 費	1,000,000円 (年額)	健康福祉学科、 臨床心理学科 50,000円 (年額)		
		上記を除く 全学科 300,000円 (年額)		
施 設 設 備 費	4,000,000円 (初年度) 1,500,000円 (2年次以降)	200,000円 (年額)	200,000円 (年額)	200,000円 (年額)

- 1 平成27年度入学生から適用する。ただし、臨床心理学科については平成30年度入学生から適用する。
- 2 各学部において、学習指導資料費及び特定科目の履修費を別に定めるところにより徴収する。

杏林大学教授会規程

制定 昭和49年12月 6日
改正 昭和54年 4月 1日

第1条 杏林大学学則（以下「学則」という。）第12条に規定する本学の各学部教授会（以下「教授会」という。）の運営に関し、同条第8項の規定に基づき、この規程を定める。

第2条 学則第12条第2項の規定に関し、当該学部の学部長に事故あるときは、教務部長たる教授又は学部長の指名する教授が、その職務を代行する。

第3条 教授会は原則として毎月1回定例にこれを開く。ただし、議長が必要と認めるときは臨時にこれを開くことができる。

第4条 教授会は、構成員の過半数の出席がなければ成立しない。

2 教授会の議事は、出席者の過半数をもって決する。議事の表決が可否同数となった場合は、議長の決するところによる。

第5条 教授会の庶務は、各学部の事務部が、それぞれ担当する。

附 則

この規程は、昭和54年 4月 1日から施行する。

リハビリテーション学科設置の趣旨

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 本学の教育理念

本学の建学の精神は「真・善・美の探究」であり、

「真」の意味するところは、真理を追求する素直で謙虚な姿勢

「善」の意味するところは、他者をいたわり思いやる善き人間性・人格

「美」の意味するところは、優れた感性・風格である。

すなわち、建学の精神は「本学での勉学、学習により、「真」を真摯に追求し、他者をいたわり思いやる善い人間性を備え、優れた感性や風格を身に付けることのできる人材の養成を目指す。」ことである。

(2) 設置の母体と経緯

杏林大学は、学校法人杏林学園が1966(昭和41)年に臨床検査技師を養成することを目的に三鷹キャンパスに「杏林学園短期大学(後に保健学部へ改組)」を設立したことに始まる。「真・善・美の探究」を建学の精神に掲げ、1970(昭和45)年に杏林大学として医学部医学科ならびに付属病院を設置した。その後も発展を続け、1979(昭和54)年には八王子キャンパスに保健学部、1984(昭和59)年に社会科学部(後に総合政策学部へ名称変更)、1988(昭和63)年に外国語学部を設置した。また、大学院として、医学研究科、保健学研究科、国際協力研究科を相次いで開設し、2022(令和4)年4月1日現在では、4学部3研究科を擁する総合大学となっている。また、創立50周年となる2016(平成28)年4月、三鷹市に位置する井の頭キャンパスを開設し、これからの50年に向け、新たなスタートを切り5年が経過したところである。

このような沿革の中で、本学は「医学」「保健学」「社会科学」「外国語学」の分野において、地域特性や時代の要請に応じて必要な人材の養成を行ってきた。特に医療保健分野ではチーム医療の一員として活躍できる臨床検査技師、看護師、保健師、助産師、救急救命士、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士、診療放射線技師、公認心理師の養成、更に健康教育の専門家である養護教諭の養成、福祉の専門家である社会福祉士の養成を通して、広く国民の健康増進に努め、現在に至っている。

リハビリテーションに着目すると、現在、急性期医療から地域におけるリハビリテーションまでの様々な病期、領域にわたり複雑化、高度化している中、大学病院や地域の中核病院では理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がチームを組み、早期の社会復帰や地域包括ケアシステムの構築に貢献することを目指している。こうした社会的要請に応え、本学では多くの理学療法士および作業療法士を養成してきたが、言語聴覚士の養成は行ってこなかった。

そこで今回、杏林大学保健学部では、既存の理学療法士養成および作業療法士養成に加え、新たに言語聴覚士を養成することとし、リハビリテーションの充実に貢献することとした。更に、大学病院や地域の中核病院における多職種連携に対するニーズの急激

な増加と、地域包括ケアシステムにおいて活躍できる力の必要性に鑑み、高度な専門性に加え、チームとしての連携力の育成も重視することとした。本学の言語聴覚士養成においては、初期の教育段階から理学療法士、作業療法士とのチーム意識を育むと同時に円滑なコミュニケーション力の基礎を築くこと、更に、本学が位置する多摩地区におけるリハビリテーション専門職の供給を担うことを目的に設置計画をするものである。

(3) 設置の必要性

リハビリテーション専門職である理学療法士、作業療法士および言語聴覚士の我が国における有資格者数は職種による人数の差が生じている。日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会の集計によると2021年3月末のそれぞれの国家資格の有資格者数は、理学療法士192,327名、作業療法士98,765名、言語聴覚士36,255名であり、理学療法士や作業療法士と比べて言語聴覚士は極端に少ない状況である。

杏林大学保健学部では、地域に根差したリハビリテーション専門職の養成を目的に2009年4月に理学療法学科、2011年4月に作業療法学科を開設し、多摩地域を中心に多くの理学療法士および作業療法士を輩出してきた。その成果を判定する一つの指標として、東京都福祉保健局の調査結果があるが、2011年の多摩地区の理学療法士数は人口10万人あたり30名、作業療法士は22名であったが、2017年では理学療法士数は42名、作業療法士数は27名と増加しており、本学の卒業生が多摩地域の様々な医療機関に就職し活躍していることも貢献していると考えられる。一方で、言語聴覚士の養成に着手できずにきていた反省がある。

リハビリテーションの一翼を担っている言語聴覚士は失語症、構音障害、摂食・嚥下障害、高次脳機能障害などに対するリハビリテーションのほか、急速な超高齢社会を迎えて、摂食・嚥下障害に起因する誤嚥性肺炎の予防や低栄養状態に関する対策に重要な役割を担っている。また2020年以降、重篤な新型コロナウイルス感染症患者において人工呼吸器離脱後嚥下障害、嘔声、気管切開などによるコミュニケーション障害が生じることがあり、言語聴覚士の需要が増加してきている。しかしながら、民間病院を中心とした病院団体の協議会である四病院団体協議会での「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士需要調査」によると、言語聴覚士については、「募集しても応募がない」との回答の割合が58.5%と高く、現時点では言語聴覚士不足が懸念されている。

前述したように、杏林大学保健学部では、理学療法士および作業療法士の養成においては一定の成果を収めていることから、この実績を基礎として今回新たに言語聴覚士の養成に着手することとした。更に、今日の地域中核病院におけるチーム医療に対するニーズに応えるべく、各々の分野における専門性に加え、チームとしての連携力の育成も重視することとした。保健学部の中にリハビリテーション学科を設置し、その中に理学療法専攻、作業療法専攻、言語聴覚療法学専攻の3専攻を配置し、各専攻で専門教育を行うと同時に、共通して学ぶべき基礎科目については専攻をまたがるプログラムを構成することで、チーム意識を育むだけでなく効率的に教育を進めることができる

考えられる。

以上より、リハビリテーション学科の中に理学療法学専攻、作業療法学専攻そして言語聴覚療法学専攻の3専攻を配し、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を同一学科において養成することは、高度な専門知識、技術とコミュニケーション能力を身に付け、急性期リハビリテーション医療から超高齢社会に対応できるリハビリテーションまで、社会の要請に応えることのできるリハビリテーション専門職を養成する上で教育的に高い効果が期待できると考えられるため、本学においてリハビリテーション学科を設置する。

(4) 人材養成の理念・目的および就職

<保健学部の理念・目的>

本学の建学の精神である「真・善・美の探究」に基づいて、「保健、医療、看護および福祉の分野で、専門知識と技術を教授し、科学的な物の見方と、人に対する思いやりの心を涵養し、将来広い視野から物事をとらえ、人々がより健康に生きることをサポートできる人材を養成する。」ことである。この理念・目的を基に、リハビリテーション学科理学療法学専攻における人材養成と教育目的を、「医療人としての倫理観に裏付けされた豊かな人間性と理学療法に関する高度な知識、技術を備え、障害の機能回復だけでなく、地域医療や福祉の場における健康の維持増進など幅広い領域において貢献できる人材を養成する」と設定し、リハビリテーション学科作業療法学専攻では、「豊かな人間性と倫理観を備え、心身に障害をもつ人々のQOL（生活の質）の維持・向上を支援するために必要な、科学的根拠に基づいた作業療法に関する幅広い専門知識と技術を身につけた人材を育成する」と設定し、リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻では、「医療従事者としての倫理観と豊かな人間性、言語聴覚療法に関する高度な知識と技術を備え、人が生きて行くために必要な言語や聴覚、音声、呼吸、認知、発達、摂食・嚥下に関わる障害に対して機能回復だけでなく、地域医療や福祉の場における健康の維持増進など幅広い領域において貢献できる人材を養成する」と設定している。

これら教育目的を達成するため、各専攻の卒業時点までに到達すべき教育上の目標（ディプロマポリシー）を以下のように定めている。

1) リハビリテーション学科理学療法学専攻

①高い倫理観

人間性が豊かで、高い倫理観を持ち、科学的手法を運用できる。

②高度な知識と専門技術

高度で先進的医療技術を理解すると共に、理学療法技術を身につけて実施できる。

③コミュニケーション能力

チーム医療の担い手として、多職種との円滑なコミュニケーションができる。

④問題解決能力

知識と技術を融合させ、問題を解決できる。

- ⑤国際的視野を持って地域で活動する力
地域社会のみならず、グローバル社会へ貢献できる。

2) リハビリテーション学科作業療法学専攻

- ①高い倫理観
他者を尊重し、自己を律し、作業療法対象者や地域社会のために寄与することができる。
- ②豊かな創造性
柔軟な発想を基にした新たな知識・技術・システムを作り上げることができる。
- ③確かな専門知識と実務能力
作業療法学に関する豊富な専門知識を持ち、それを対象者に活用することができる。
- ④幅広いコミュニケーション能力を生かし、チーム医療へ貢献する能力
他者（他職種、作業療法対象者など）の立場や意見を理解した上で、自らの考えを表現することができる。
- ⑤問題解決能力
自ら問題に気付き、客観的な分析と高い意欲を持って問題を解決することができる。
- ⑥国際的視野を持って活動できる資質
多様な価値観や異文化を理解し、国際社会における日本の作業療法士の役割を考え活動できる。

3) リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻

- ①高い倫理観
他者を思いやり、高い倫理観のもと幅広い人間理解ができる。
- ②高度な専門知識と確実な実践能力
言語、聴覚、コミュニケーション、摂食・嚥下に関する高度な専門知識を持ち、それらに障害を持つ対象者に対し効果的な言語聴覚療法を実践することができる。
- ③幅広いコミュニケーション能力
言語聴覚士として、医療のみならず保健福祉・教育においてもチームの一員として主体的に活動でき、対象者とも良好な関係を築くことができる。
- ④問題解決能力
自ら問題を発見し、科学的視点に立って多角的に分析を行い解決することができる。
- ⑤国際的視野を持って活動できる力
国際的視野を持ち多様性を理解し、グローバル社会において言語聴覚士としての役割を考え活動し社会貢献できる。

<就職>

このような理学療法士、作業療法士、言語聴覚士は、チーム医療を実践することのできるリハビリテーション専門職として、各医療機関をはじめ、多くの分野に活躍の場が広がるものと考えられる。就職先については、大学病院、一般病院、精神病院、診療所、福祉施設および教育機関などが考えられる。

2. 本学のリハビリテーション学科の特色

(1) リハビリテーション学科理学療法学専攻

理学療法学専攻の教育カリキュラムには、本学保健学部の既存学科との共通科目を配置し、保健医療分野における幅広い知識と見識を身に付けさせる。これらを基に、疾病や障害の早期リハビリテーションはもとより、循環器疾患や糖尿病などの生活習慣病と高齢者の転倒などによる高齢者「寝たきり予備軍」の予防とその指導法、運動療法、またスポーツ障害への対応に関連した多彩な教育を行い、特に重度の障害者に対して欠かさない在宅ケアを含むリハビリテーションに重点を置いた教育プログラムを構築・実践する。

- 1) 患者の急性期、慢性期をとおして地域におけるリハビリテーションに重点をおいた教育・研究・臨床を行い、特に大学としての高度専門職業人養成機能と社会貢献機能を重視する。
- 2) 応用力と問題解決能力を高めるため、常に対象者を意識しながら高度で実践的な専門知識を確実に習得させ、多くの実習を体験させる。1年次に「見学実習」、2年次に「評価実習Ⅰ」、3年次に「評価実習Ⅱ」および「地域理学療法実習」そして4年次に「総合臨床実習」を行い、リハビリテーション実習を早期の段階から設定する。
- 3) 国際的に活躍できる人材養成として、国際的視野とコミュニケーション能力を持った理学療法士を養成する。そのため、1学年から4学年までの4年間を通して実用的な語学関連科目である「英語プレゼンテーション」「英語読解」「保健医療英語」「英会話」「医学英語」を開講する。幸いなことに、本学に国際的なコミュニケーション能力を養うことが可能な、外国語学部英語学科が併設されていることから、そのスタッフと教育手法を生かし、語学教育を充実させることが可能である。
- 4) 多様な健康障害に対応し、適切な行動がとれる理学療法士を養成するために、「応用理学療法学演習」を開講し、産前・産後ならびに高齢者に多い尿失禁に対する理学療法介入や産業分野における理学療法士の役割等のトピックス的なテーマについて学習する。
- 5) 「マニュアルセラピー」など先端的な理学療法手技を盛り込むことにより、国際的な技術を習得する。さらに、「理学療法国際事情」、「理学療法研究法」、「理学療法解析手法演習Ⅰ、Ⅱ」における研究指導を通して国際的な視野を有する理学療法士の養成を図る。
- 6) 学部教育の集大成として卒業研究を必修科目とした。卒業研究は問題解決能力を発展させる絶好の機会であり、研究の立案、実施、結果のまとめ、結果の解釈と考察、研究の総括と論文作成といった研究の流れを理解させることができる。

(2) リハビリテーション学科作業療法学専攻

作業療法学専攻の教育カリキュラムには、本学保健学部の既存学科との共通科目を配置し、保健医療分野における幅広い知識と見識を身に付けさせる。これらを基に、理学療法学専攻と同様に疾病や障害の早期リハビリテーションはもとより、循環器疾患や糖

尿病などの生活習慣病と高齢者の転倒などによる「高齢者寝たきり予備軍」の予防とその指導法に対応した多彩な教育を行い、特に重度の心身障害者に対して欠かせない在宅ケアを含むリハビリテーションを重点に置いた教育プログラムを構築・実践する。

- 1) 患者の急性期、慢性期をとおして、地域におけるリハビリテーションに重点をおいた教育・研究・臨床を行い、特に大学としての高度専門職業人養成機能と社会貢献機能を重視する。
- 2) 応用力と問題解決能力を高めるため、常に対象者を意識しながら高度で実践的な専門知識を確実に修得させ、多くの実習を体験させる。1年次に「見学実習」、2年次に「評価実習Ⅰ」、3年次に「評価実習Ⅱ」そして4年次に「総合臨床実習」および「地域・訪問実習」を行い、リハビリテーション実習を早期の段階から設定する。
- 3) 国際的に活躍できる人材養成として、国際的視野とコミュニケーション能力を持った作業療法士を養成する。そのため、1学年から4学年までの4年間を通して実用的な語学関連科目である「英語プレゼンテーション」「英語読解」「保健医療英語」「英会話」「医学英語」を開講する。本学には、国際的なコミュニケーション能力を養うことが可能な外国語学部英語学科が併設されていることから、そのスタッフと教育手法を生かし語学教育を充実させることが可能である。
- 4) 多様な健康障害に対応し、適切な行動がとれる作業療法士を養成するために、「作業療法処理論」を開講し、産業、職業関連分野における作業療法士の役割等のトピックス的なテーマについて学習する。
- 5) 「作業療法国際事情」「作業療法学演習Ⅰ～Ⅳ」における研究指導を通して国際的な視野を有する作業療法士の養成を図る。
- 6) 学部教育の集大成として卒業研究を必修科目とした。卒業研究は問題解決能力を発展させる絶好の機会であり、研究の立案、実施、結果のまとめ、結果の解釈と考察、研究の総括と論文作成といった研究の流れを理解させることができる。

(3) リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻

言語聴覚療法学専攻の教育カリキュラムには、本学保健学部の既存学科およびリハビリテーション学科理学療法学専攻、作業療法学専攻との共通科目を配置し、保健医療分野における幅広い知識と見識を身に付けさせる。これらを基に、疾病や障害の早期リハビリテーションはもとより、高齢者における誤嚥性肺炎や加齢性難聴への対応と予防、小児における各種の発達障害に対する対応等に関連した多彩な教育を行い、医学的リハビリテーションのみならず、特に重度の障害者に対して欠かせない在宅ケア、介護・福祉施設におけるサービスや学校教育、その他の各種社会的資源との連携を含む幅広いリハビリテーションを重点に置いた教育プログラムを構築・実践する。

- 1) 患者の急性期、慢性期をとおして地域におけるリハビリテーションに重点をおいた教育・研究・臨床を行い、特に大学としての高度専門職業人養成機能と社会貢献機能を重視する。
- 2) 応用力と問題解決能力を高めるため、常に対象者を意識しながら高度で実践的な専門知識を確実に習得させ、多くの実習を体験させる。1年次に「見学実習」、3年次に「評

価実習」そして4年次に「総合実習」を行い、リハビリテーション実習を早期の段階から設定する。

- 3) 国際的に活躍できる人材養成として、国際的視野とコミュニケーション能力を持った言語聴覚士を養成する。そのため、1学年から4学年までの4年間を通して実用的な語学関連科目である「英語プレゼンテーション」、その他に「英語読解」「保健医療英語」「医学英語」および「英会話」を開講する。本学には、国際的なコミュニケーション能力を養うことが可能な外国語学部英語学科が併設されていることから、そのスタッフと教育手法を生かし、語学教育を充実させることが可能である。
- 4) 多様な言語、発声・発語、聴覚および摂食・嚥下障害に対応し、適切な行動がとれる言語聴覚士を養成するために、「総合言語聴覚療法演習」を開講し、疾病予防や健康増進、教育および産業分野における言語聴覚士の役割等のトピックス的なテーマについて学習する。
- 5) 「言語聴覚障害の評価診断・治療系」科目において先端的な言語聴覚療法手技を盛り込むことにより、国際的な技術を習得する。さらに、「言語聴覚学研究法」「卒業研究」における研究指導を通して国際的な視野を有する言語聴覚士の養成を図る。
- 6) 学部教育の集大成として卒業研究を必修科目とした。卒業研究は問題解決能力を発展させる絶好の機会であり、研究の立案、実施、結果のまとめ、結果の解釈と考察、研究の総括と論文作成といった研究の流れを理解させることができる。

3. 学科の名称及び学位の名称

(1) 学科の名称

リハビリテーション学科 [Department of Rehabilitation]

リハビリテーションは、心身に障害をもつ人の能力低下やその状態の改善を目指し、障害者の社会的統合を達成するため医学的・社会的・職業的手段をはじめ、あらゆる手段を含むものである。本学科は単に保健医療および福祉活動における専門的知識・素養のみならず、社会や地域のニーズに対応しうる高度な市民的教養と倫理性を持つとともに、新しい課題に適切に対応できる問題解決能力を有する、専門職業人としてのリハビリテーション専門職である理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を養成することを目的としていることから学科名をリハビリテーション学科とした。

また、それぞれの専攻を理学療法士の国家試験受験資格を取得可能であることから、理学療法学専攻、作業療法士の国家試験受験資格を取得可能であることから、作業療法学、言語聴覚士の国家試験受験資格を取得可能であることから、言語聴覚療法学専攻とした。

英訳名称は国際的な通用性について熟考検討した結果、教育課程等から適切な名称であると考えられるので学科の英訳名称を **Department of Rehabilitation** とし、各専攻の英訳名称は **Physical Therapy Major**、**Occupational Therapy Major**、**Speech-Language- Hearing Therapy Major** とした。

(2) 学位の名称

1) リハビリテーション学科理学療法学専攻

学士（理学療法学）

本学科理学療法学専攻の卒業要件を満たしたものには学士の学位を授与するが、本学科で教授する理学療法の領域は、疾病あるいは障害に応じて理学療法の観点から観察・評価し、治療計画の立案および治療を行うために必要な知識・技術力に関する領域であり、また保健医療および福祉活動の中で、リハビリテーションを担う専門職として、他職種や関連機関との連携を適切に行う能力を有することを必要とする領域であるなど多岐にわたっており、これらを教育・研究する専攻分野としては既存の学問領域に限定しうるものではなく、したがってその専攻分野は総じて理学療法学と称すべきものと考えられる。それゆえに本学が授与する学位の専攻分野の名称を学士（理学療法学）とした。

2) リハビリテーション学科作業療法学専攻

学士（作業療法学）

本学科作業療法学専攻の卒業要件を満たしたものには学士の学位を授与するが、本学科で教授する作業療法の領域は、疾病あるいは障害に応じて作業療法の観点から観察・評価し、治療計画の立案および治療を行うために必要な知識・技術力に関する領域であり、また保健医療および福祉活動の中で、リハビリテーションを担う専門職として、他職種や関連機関との連携を適切に行う能力を有することを必要とする領域であるなど多岐にわたっており、これらを教育・研究する専攻分野としては既存の学問領域に限定しうるものではなく、したがってその専攻分野は総じて作業療法学と称すべきものと考えられる。それゆえに本学が授与する学位の専攻分野の名称を学士（作業療法学）とした。

3) リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻

学士（言語聴覚療法学）

本学科言語聴覚療法学専攻の卒業要件を満たしたものには学士の学位を授与するが、本学科で教授する言語聴覚療法の領域は、疾病あるいは障害に応じて言語聴覚療法の観点から観察・評価し、治療計画の立案および治療を行うために必要な知識・技術力に関する領域であり、また保健医療および福祉活動の中で、リハビリテーションを担う専門職として、他職種や関連機関との連携を適切に行う能力を有することを必要とする領域であるなど多岐にわたっており、これらを教育・研究する専攻分野としては既存の学問領域に限定しうるものではなく、したがってその専攻分野は総じて言語聴覚療法学と称すべきものと考えられる。それゆえに本学が授与する学位の専攻分野の名称を学士（言語聴覚療法学）とした。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 各学年の到達目標について

1) リハビリテーション学科理学療法学専攻

カリキュラムは、教育理念に基づく教育目標の達成を目指し、学年毎の教育到達目標に従って、1年次から4年次までそれぞれ次のような方針で進める。

- 1 年次：リハビリテーションと理学療法の概論および地域の医療福祉施設の見学を通して、理学療法への導入としての基礎的理解を深める。教養科目では生物学的、社会学的および心理学的、発達学的理解を深め、幅広い教養と知識を持った全人的資質を養う。
- 2 年次：1年次の教育方針を継続するとともに、人体の構造および機能に関する基礎医学や、主要疾患に関する原因・病態・診断・治療等の臨床医学的知識と、理学療法の専門的な基礎知識・技術を教授し、理学療法士としての基礎的能力を養う。
- 3 年次：主として理学療法の臨床的専門領域について、その理論と実際を講義・実習および地域保健医療・福祉施設での臨床実習の両面から教授し、理学療法の専門職業人としての基礎能力を養うとともに、チーム医療としての役割について理解を深める。また、将来の理学療法教育および研究のための基礎的能力を養う。
- 4 年次：リハビリテーション関連施設における総合臨床実習を中心として、実際に障害をもつ人々に対する専門的な関わりの中で、卒業時の教育到達目標である専門的知識・技術の臨床応用能力を習得させ、人間的資質を養う。また、研究セミナーや卒業論文の作成を通じて、指導者、教育者および研究者としての基礎的能力を養う。

2) リハビリテーション学科作業療法学専攻

理学療法学専攻と同様にカリキュラムは、教育理念に基づく教育目標の達成を目指し、学年毎の教育到達目標に従って、1年次から4年次までそれぞれ次のような方針で進める。

- 1 年次：リハビリテーション概論、作業療法学概論、基礎作業学概論および地域の医療福祉施設の見学（見学実習）を通して、作業療法への導入としての基礎的理解を深める。教養科目では生物学的、社会学的および心理学的、発達学的理解を深め、幅広い教養と知識を持った全人的資質を養う。
- 2 年次：1年次の教育方針を継続するとともに、人体の構造および機能に関する基礎医学や、主要疾患に関する原因・病態・診断・治療等の臨床医学的知識と、作業療法の専門的な基礎知識・技術を教授し、作業療法士としての基礎的能力を養う。
- 3 年次：主として作業療法の臨床的専門領域について、その理論と実際を講義・実習および地域保健医療・福祉施設での臨床実習（評価実習）の両面から教授し、作業療法の専門職業人としての基礎能力を養うとともに、チーム医療としての役割について理解を深める。また、将来の作業療法教育および研究のための基礎的能力を養う。
- 4 年次：リハビリテーション関連施設における総合臨床実習を中心として、実際に障

害をもつ人々に対する専門的な関わりの中で、卒業時の教育到達目標である専門的知識・技術の臨床応用能力を修得させ、人間的資質を養う。また、研究セミナーや卒業論文の作成を通じて、指導者、教育者および研究者としての基礎的能力を養う。

3) リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻

理学療法学専攻、作業療法学専攻と同様にカリキュラムは、教育理念に基づく教育目標の達成を目指し、学年毎の教育到達目標に従って、1年次から4年次までそれぞれ次のような方針で進める。

- 1年次：医学、リハビリテーションおよび言語聴覚障害学の概論、音声、言語、聴覚および摂食・嚥下機能に関連する人体の構造と機能、および本学附属病院または地域の医療・福祉施設の見学を通して、言語聴覚療法への導入としての基礎的理解を深める。基礎分野では生物学的、社会学的および心理学的、発達学的理解を深め、幅広い教養と知識を持った全人的資質を養う。
- 2年次：1年次の教育方針を継続するとともに、主要疾患に関する原因・病態・診断・治療等の臨床医学的知識と、言語聴覚療法の専門的な基礎知識・技術を教授し、言語聴覚士としての基礎的能力を養う。
- 3年次：主として言語聴覚学の臨床的専門領域について、その理論と実際を講義・実習および地域保健医療・福祉施設での臨床実習の両面から教授し、言語聴覚士の専門職業人としての基礎能力を養うとともに、チーム医療における役割について理解を深める。また、将来の言語聴覚療法教育および研究のための基礎的能力を養う。
- 4年次：リハビリテーション関連施設における総合臨床実習を中心として、実際に障害をもつ人々に対する専門的な関わりの中で、卒業時の教育到達目標である専門的知識・技術の臨床応用能力を習得させ、人間的資質を養う。また、研究セミナーや卒業論文の作成を通じて、指導者、教育者および研究者としての基礎的能力を養う。

(2) 教育課程の編成について

1) リハビリテーション学科理学療法学専攻

本学部の設置の趣旨・目的を実現する観点から、授業科目を「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」の各科目区分によって体系的に構成する。

「基礎分野」は豊かな人間性と社会性を育むこと、また国際化、情報化社会に対応できることを念頭に置き、一般教養と専門教育への基礎を兼ねた科目を学習する。

「基礎分野」では、「人間科学系」「自然科学系」「語学系」の3部門を教育内容として位置づける。

「人間科学系」および「自然科学系」の部門においては、科学的思考の基盤を培うとともに、人間としての尊厳を倫理面のみならず、制度・経済・文化等多角的な視点から理解する。また、国際化社会に対応するため「外国語」については外国語学部を併設することの利点を生かし、実践に即した「英語」の科目である「英語プレゼンテーション」

「英語読解」「保健医療英語」「医学英語」および「英会話」を開講して充実させた。

「専門基礎科目」は、「専門科目」における知識や技術を習得するための基盤となるものであり、理学療法士という専門職種を目指す動機付けにつながることをねらいとし、「医学系」科目および「保健学・衛生学系」科目を教育内容として位置づけた。

「医学系」科目では、主として人体の構造や機能を系統的に理解するとともに、実習科目を多く配当することで基本的な解剖・生理学的知識の習得を図る。また、主要疾患の原因、病態、診断、治療法を理解するとともに、リハビリテーションの概念を包括的に理解する。「保健学・衛生学系」では、現代社会における社会保障の理念や意義を体系的に学ぶとともに、リハビリテーションの概念を包括的に理解し、公衆衛生の基本的な考え方を理解する。なお、希望者には第一種衛生管理者の資格も取得可能な科目構成となっている。

「専門分野」については、理学療法士としての専門性を高めるために必要とされる「基礎理学療法学系」、「理学療法評価学系」、「理学療法治療学系」、「地域理学療法学系」、「臨床実習系」、「総合領域」を教育内容として位置づけた。将来、「地域」、「教育・研究」「スポーツ」など様々な分野に進むことができるよう、その基礎となる開講科目を設けている。

「基礎理学療法学系」では、理学療法の概要と基本を学ぶとともに、理学療法士として問題解決のための基本的な能力を養う。「理学療法評価学系」では、理学療法の現場で必要とされる評価内容や評価技術を学ぶ。「理学療法治療学系」では各種疾患に対する理学療法の理論と実際を修得するとともに、チーム医療の一員として医療に当たることの重要性を学ぶ。「地域理学療法学」では、障害者、高齢者、患者を取り巻く制度的環境や生活環境、地域における社会資源について修得し、地域社会に根ざした理学療法士としてのあり方を学ぶ。さらに最新の医学・医療・理学療法に関する知見と科学的なものの見方を養うために、「総合領域」で「応用理学療法演習」や「基礎理学療法学演習Ⅰ、Ⅱ」を設けて、統合的な演習を展開する。また、「卒業研究」では科学的根拠に基づいた理学療法の実践を学ぶとともに、リサーチマインドをもった理学療法士を育成する。医療専門職の教育では、早期臨床体験（Early Patient Exposure）の重要性が強く認識されていることから、学習進度に応じて1年次から臨床施設における実習を配置している。「臨床実習系」では社会人としての基本的な遵守事項を身につけるとともに、理学療法の展開に必要な情報収集能力の習得、その統合と解釈の仕方、治療計画立案、基本的な理学療法の実施ができるように教育する。

2) リハビリテーション学科作業療法学専攻

本学部の設置の趣旨・目的を実現する観点から、授業科目を「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」の各科目区分によって体系的に構成する。

「基礎分野」は豊かな人間性と社会性を育むこと、また国際化、情報化社会に対応できることを念頭に置き、一般教養と専門教育への基礎を兼ねた科目を学習する。

「基礎分野」では、「人間科学系」「自然科学系」「語学系」の3部門を教育内容として位置づける。

「人間科学系」および「自然科学系」の部門においては、科学的思考の基盤を培うとともに、人間としての尊厳を倫理面のみならず、制度・経済・文化等多角的な視点から理解する。また、国際化社会に対応するため「外国語」については外国語学部を併設することの利点を生かし、実践に即した「英語」の科目である「英語プレゼンテーション」「英語読解」「保健医療英語」「医学英語」および「英会話」を開講して充実させた。

「専門基礎科目」は、「専門科目」における知識や技術を修得するための基盤となるものであり、作業療法士という専門職種を目指す動機付けにつながることをねらいとし、「医学系」科目および「保健学・衛生学系」科目を教育内容として位置づけた。

「医学系」科目では、主として人体の構造や機能を系統的に理解するとともに、実習科目を多く配当することで基本的な解剖・生理学的知識の修得を図る。また、主要疾患の原因、病態、診断、治療法を理解するとともに、リハビリテーションの概念を包括的に理解する。「保健学・衛生学系」では、現代社会における社会保障の理念や意義を体系的に学ぶとともに、リハビリテーションの概念を包括的に理解し、公衆衛生の基本的な考え方を理解する。なお、希望者には第一種衛生管理者の資格も取得可能な科目構成となっている。

「専門分野」については、作業療法士としての専門性を高めるために必要とされる「基礎作業療法学系」、「作業療法評価学系」、「作業療法治療学系」、「地域作業療法学系」、「臨床実習系」、「総合領域」を教育内容として位置づけた。将来、「地域」、「教育・研究」など様々な分野に進むことができるよう、その基礎となる開講科目を設けている。

「基礎作業療法学系」では、作業療法の概要と基本を学ぶとともに、作業療法士として問題解決のための基本的な能力を養う。「作業療法評価学系」では、作業療法の現場で必要とされる評価内容や評価技術を学ぶ。「作業療法治療学系」では各種疾患に対する作業療法の理論と実際を修得するとともに、チーム医療の一員として医療に当たることの重要性を学ぶ。「地域作業療法学系」では、障害者、高齢者、患者を取り巻く制度的環境や生活環境、地域における社会資源について修得し、地域社会に根ざした作業療法士としてのあり方を学ぶ。さらに最新の医学・医療・作業療法に関する知見と科学的なものの見方を養うために、「総合領域」で「作業療法学演習Ⅰ～Ⅳ」を設けて、統合的な演習を展開する。また、「卒業研究Ⅰ、Ⅱ」では科学的根拠に基づいた作業療法の実践を学ぶとともに、リサーチマインドをもった作業療法士を育成する。医療専門職の教育では、早期臨床体験（Early Patient Exposure）の重要性が強く認識されていることから、学習進度に応じて1年次から臨床施設における実習を配置している。「臨床実習系」では社会人としての基本的な遵守事項を身につけるとともに、作業療法の展開に必要な情報収集能力の修得、その統合と解釈の仕方、治療計画立案、基本的な作業療法の実施ができるように教育する。

3) リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻

本学部の設置の趣旨・目的を実現する観点から、授業科目を「基礎分野」「専門

基礎分野」「専門分野」の各科目区分によって体系的に構成する。

「基礎分野」は豊かな人間性と社会性を育むこと、また国際化、情報化社会に対応できることを念頭に置き、一般教養と専門教育への基礎を兼ねた科目を学習する。「基礎分野」では、「人文・社会科学系」「自然科学系」「語学系」の3部門を教育内容として位置づける。

「人文・社会科学系」および「自然科学系」の部門においては、科学的思考の基盤を培うとともに、人間としての尊厳を倫理面のみならず、制度・経済・文化等多角的な視点から理解する。また、国際化社会に対応するため「語学系」については外国語学部を併設することの利点を生かし、実践に即した「英語プレゼンテーション」「英語読解」「保健医療英語」「医学英語」および「英会話」を開講して充実させた。

「専門基礎科目」は、「専門科目」における知識や技術を習得するための基盤となるものであり、言語聴覚学という学際的領域を幅広く学修できるよう「言語聴覚基礎系」「基礎医学系」「臨床医学系」「音声・言語・聴覚医学」「心理系」「地域包括支援・社会福祉・教育系」科目を教育内容として位置づけた。

「言語聴覚基礎系」では言語コミュニケーションあるいは聴覚を理解する基盤となる「言語学」「音声学」「音響学・聴覚心理学」「言語発達学」および「心理言語学」について学ぶ。

「基礎医学系」「臨床医学系」ではリハビリテーションに関連する各臨床医学領域の基礎的知識を学び、「音声・言語・聴覚医学」では音声、言語、聴覚および摂食・嚥下機能に関連する人体の構造、機能、および主要な病態について学ぶ。「心理系」では言語コミュニケーションや対人援助に重要な「臨床心理学概論」「学習・言語心理学」「生涯発達心理学」とともに、科学的根拠に基づく言語聴覚療法に不可欠な心理測定について「心理的アセスメント」で学ぶ。「地域包括支援・社会福祉・教育系」では、地域包括ケアシステムをはじめとする在宅ケア、在宅リハビリテーション、社会福祉制度および社会資源、各種の教育的支援について学ぶ。

「専門分野」については、言語聴覚士の専門分野としての専門性を高めるために必要とされる「言語聴覚障害の評価診断・治療」「言語聴覚療法マネジメント」「臨床実習系」、「総合領域」を教育内容として位置づけた。将来、「医療」のみならず「介護・福祉」「地域」、「教育」「研究」など様々な分野に進むことができるよう、その基礎となる開講科目を設けている。

「言語聴覚障害の評価診断・治療」では、言語聴覚療法の概要と基本を学ぶとともに、言語聴覚士としての基本的な問題解決を養い言語聴覚療法の現場で必要とされる評価内容や評価技術を学ぶ。さらに、各種疾患に対する言語聴覚療法の理論と実際を修得するとともに、チーム医療の一員として医療に当たることの重要性を学ぶ。「言語聴覚療法マネジメント」では、職業倫理、生涯教育、法的責任、多職種連携、労務・安全・精神衛生管理について学ぶ。更にさらに最新の医学・医療・言語聴覚療法に関する知見と科学的なものの見方を養うために、「総合領域」で「臨床言語聴覚療法演習」や「総合言語聴覚療法演習」を設けて、統合的な演習を展開する。また、「言語聴覚学研究法」と「卒業研究」では科学的根拠に基づいた言語聴覚療法の実践を学ぶとともに、リサーチマインドをもった言語聴覚士を育成する。医療専門職の教育では、早期臨床体験（Early Patient Exposure）の

重要性が強く認識されていることから、学習進度に応じて1年次から臨床施設における実習を配置している。「臨床実習系」では社会人としての基本的な遵守事項を身につけるとともに、言語聴覚療法の展開に必要な情報収集能力の習得、その統合と解釈の仕方、治療計画立案、基本的な言語聴覚療法の実施ができるように教育する。

(3) 教養教育の実施方針、教育課程編成上の工夫について

教養教育課程（基礎分野）は、3 専攻共通に人間科学系（言語聴覚療法学専攻は人文・社会学系）、自然科学系、語学系から構成され、様々な学問分野に触れ、いろいろな現象のとらえ方、価値観および多様性を認識することを第一の目的としている。

人間科学系（言語聴覚療法学専攻は人文・社会学系）科目では、哲学、倫理学、生命倫理学、心理学、発達心理学、芸術、日本国憲法、社会学等を配置して、幅広い分野にわたって教養を養い、生命の尊厳と人権の尊重を基盤とする医療職者としての倫理観を養うことを目的とする。

自然科学系では、高等学校において、「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」のいずれかを未履修の者および受講を強く希望する者を対象に、高校レベルの授業「基礎物理学」「基礎化学」「基礎生物学」を開講する。また、1年生には、「数学」、「情報処理論」、「物理学概論」、「生化学概論」、「生命科学概論」等の自然科学系基礎科目を配置し、専門科目へ移行しやすいようにしている。

語学系については、保健学分野における英語の重要性に鑑み、英語の教育に力を入れている。また、現在、他言語の重要性も増してきており、同じキャンパス内の外国語学部において開講されている中国語、ドイツ語、朝鮮語等を積極的に履修するように指導する。医療系分野における知識技術は日進月歩であり、英語の文献を読みこなすことのできる学力は不可欠であるので「医学英語」を設置する。また、TOEIC、TOFEL、実用英語技能検定試験等においては、スコアに応じて、英語の科目の単位認定を行う。

(4) カリキュラム編成における必修科目・選択科目の量的配分の適切性、妥当性について

1) リハビリテーション学科理学療法学専攻

必修科目の卒業要件単位に占める割合は 86%とかなり高い値を示している。これは、「理学療法士作業療法士学校養成所指定規則」の定める条件を満たす必要があるためであるが、専門分野、総合領域には各教員の専門領域に関する科目を選択科目として設置しており、学生はより専門的あるいは最新の知識や技能を学ぶことができるように配慮している。また、特に基礎分野においては選択必修科目制をとっている、すなわち、各分野の指定された科目から一定以上の単位数を履修させて、低学年のうちに基礎学力の養成と幅広い教養知識を習得できるように配慮している。

2) リハビリテーション学科作業療法学専攻

必修科目の卒業要件単位に占める割合は 86%とかなり高い値を示している。これは、

「理学療法士作業療法士学校養成所指定規則」の定める条件を満たす必要があるためであるが、専門分野、総合領域には各教員の専門領域に関する科目を選択科目として設置しており、学生はより専門的あるいは最新の知識や技能を学ぶことができるように配慮している。また、特に基礎分野においては選択必修科目制をとっている、すなわち、各分野の指定された科目から一定以上の単位数を履修させて、低学年のうちに基礎学力の養成と幅広い教養知識を修得できるように配慮している。

3) リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻

必修科目の卒業要件単位に占める割合は 94%とかなり高い値を示している。これは、「言語聴覚士学校養成所指定規則」の定める条件を満たす必要があるためであるが、専門基礎分野には医学部を併設する本学の特徴を生かし、多数の「基礎医学系」および「臨床医学系」科目を配置し、学生が自らの興味と将来の方向性に従って専門的あるいは最新の医学的知識を学ぶことができるように配慮している。また、特に基礎分野においては選択必修科目制をとっている、すなわち、各分野の指定された科目から一定以上の単位数を履修させて、低学年のうちに基礎学力の養成と幅広い教養知識を習得できるように配慮している。

5. 教員組織の編成の考え方及び特色

(1) 教員組織の編成について

リハビリテーション学科理学療法学専攻は既設の理学療法学科から専任教員 16 名（教授 4 名、准教授 7 名、講師 3 名、助教 2 名）移動させ組織する。作業療法学専攻は既設の作業療法学科から専任教員 16 名（教授 5 名、准教授 2 名、講師 1 名、助教 8 名）から移動させ組織する。言語聴覚療法学専攻は、初年度（令和 5 年度）、専任教員 9 名（教授 4 名、准教授 3 名、講師 1 名、助教 1 名）をもって組織し、そのうち 5 名（教授 3 名、准教授 2 名）は既設の作業療法学科から異動させ、1 名（教授）を既設の臨床心理学科から移動させ、3 名（准教 1 名、講師 1 名、助教 1 名）を新規で採用する。異動元の臨床心理学科の教員数（異動後 18 名）は大学設置基準で定められた数を大幅に上回っているため、教育水準の維持に問題はない。

理学療法学専攻の専任教員 16 名のうち理学療法士の資格を有する教員は 15 名、医師の資格を有する教員が 1 名である。また、専任教員のうち 14 名が博士の学位を、2 名が修士の学位を有し、教育研究上の十分な資質を有している。作業療法学専攻の専任教員 15 名は 15 名全員が作業療法士の資格を有している。また、専任教員のうち、11 名が博士の学位を、4 名が修士の学位を有し、教育研究上の十分な資質を有している。言語聴覚療法学専攻の専任教員 9 名のうち言語聴覚士の資格を有する教員は 4 名、作業療法士の資格を有する教員は 1 名、医師の資格を有する教員が 2 名である。また、専任教員のうち 7 名が博士の学位を、2 名が修士の学位を有し、教育研究上の十分な資質を有している。

(2) 主要科目と教員配置について

リハビリテーション学科理学療法学専攻、作業療法学専攻、言語聴覚療法学専攻において基礎分野では、言語系として国際的視野を持った社会人育成のため、併設する外国語学部教員が「英語プレゼンテーション」「英語読解」「保健医療英語」「英会話」「医学英語」を兼担して、専門科目の専任教員と連携をとりやすくした。基礎医学系では特に医療従事者として患者理解を深める知識として必要性が高い「解剖学」「生理学」「運動学」「リハビリテーション医学」「神経内科学」「精神医学」などの保健医学系の分野を中心に、教育研究上の実績を有する保健学部所属の教員を配した。

また、各専攻における専門分野では、臨床実践、臨床研究、実験研究において実績のある理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の教員を配置し、科学的根拠に基づいた実践教育が行えるよう配慮した。専門職業人の養成の観点および実学重視という本学の独自性の観点から、臨床現場の経験が豊富な実践に長けた教員を専門科目に配置することで、臨床に直結した教育に反映することが可能となっている。同時に、大学という高度な専門的知識の教育と研究の場としての役割を果たすべく、教育実績および研究実績の豊富な教員を配置することで、教育および最新の研究と臨床の現場をオーバーラップできるように工夫した。

さらに「基礎ゼミ」や「卒業研究」では専任教員が全員担当することで、理学療法学、作業療法学、言語聴覚学に関して統合的なものの見方ができるように配慮した。

(3) 教員の年齢構成について

リハビリテーション学科設立時の理学療法学専攻 16名の専任教員のうち、60歳代は教授 1名、50歳代は教授 3名、准教授 3名、40歳代は准教授 4名、常勤講師 2名、30歳代は常勤講師 1名、助教 2名であり、作業療法学専攻 16名の専任教員のうち、60歳代は教授 2名、50歳代は教授 3名、助教 1名、40歳代は准教授 2名、常勤講師 1名、助教 5名、30歳代は助教 2名であり、言語聴覚療法学専攻の 8名の専任教員のうち、60歳代は教授 2名、50歳代は教授 1名、准教授 1名、40歳代は教授 1名、准教授 1名、30歳代は常勤講師 1名、助教 1名であり、教育研究水準の維持向上および教育研究の活性化に支障のない構成になっている。

杏林学園職員就業規則【資料 1】

6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 教育方法

1) リハビリテーション学科理学療法学専攻および作業療法学専攻

カリキュラムの具体的な展開は、教育理念に基づく教育目標の達成を目指し、教育方針にそって周到に準備された教授方法に則り、講義と演習、学内実習および本学医学部付属病院を始め地域の各種医療施設などでの臨床実習を通して教授する。学内での視聴覚教材の活用と実習室でのデモンストレーション等により、臨床実習との一貫した教育内容や、グループ学習、セミナー方式による学生の自主的な参加と研究態度を重視した教育方法を採用する。

授業の規模は、学部共通科目として開設する人間科学系、自然科学系、医学系、保健学・衛生学系においては120名から130名程度を想定しているが、100名を上回る場合は分割して開講する。その他の理学療法学専攻および作業療法学専攻の科目は各専攻の定員以内（理学療法学専攻：65名、作業療法学専攻：50名）の規模での授業となる。

カリキュラムの内容は、理学療法学専攻および作業療法学専攻共通で主に次の3つの柱で構成する。

1. 人間を全人的に理解するために、人間科学系の科目を通して、社会学および倫理的などの観点から学習する。
2. 理学療法学専攻および作業療法学専攻の共通の基盤となる医学系は広範な学問であるが、理学療法士・作業療法士は医学的基礎知識を基盤とした知識の修得を目指すため、専門基礎分野では人体の構造と機能、疾病の理解の基礎となるべく基礎的な保健医学教育の充実を計り、そのうえで、基礎から応用へと体系的に履修できるよう配置している。
3. 理学療法学専攻および作業療法学専攻の専門領域では、両専攻ともに講義、演習、実習を通して効果的に学習する。専門基礎科目の公衆衛生学や地域保健学等は座学において、また、両専攻の専門科目における評価学や治療学等は演習、実習を通して、専門知識と技術のみならず専門職業人としての役割と他職種との関連や連携についても学習する。

2) リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻

カリキュラムの具体的な展開は、教育理念に基づく教育目標の達成を目指し、教育方針にそって周到に準備された教授方法によって実現される。それには、講義と演習、学内実習および地域の各種医療施設等での臨床実習を通して教授する。学内での視聴覚教材の活用と実習室でのデモンストレーション等により、臨床実習との一貫した教育内容や、グループ学習、セミナー方式による学生の自主的な参加と研究態度を重視した教育方法を採用する。

授業の規模は、学部共通科目として開設する人文・社会科学系、自然科学系および基礎医学系、臨床医学系の科目においては一部科目で120名から130名程度を想定しているが、100名を上回る場合は分割して開講する。その他の科目、基礎分野語学系、専門分野の科目は25名規模での授業となる。

カリキュラムの内容は、主に次の4つの柱で構成する。

1. 人間を全人的に理解するために、人文・社会科学系の科目や人間発達学等を通して、社会学、心理学的、行動学的な観点から学習する。
2. 専門各領域の急性期および慢性期の各種疾患に対応した講義と実習を通して効果的に学習する。1年次から言語聴覚障害学概論や専門科目の一部を取り入れ、また大学付属病院における見学実習を設けるなど、早期から言語聴覚士としての資質や能力の養成に重点を置いた教育を行う。
3. チーム医療については、音声、言語、聴覚および摂食・嚥下機能の障害の多様

性から医療、教育、福祉、介護の領域における多職種によるチーム編成を想定し、専門科目の「言語聴覚障害の評価診断・治療」各科目の中で学習する。更に、専門科目の「言語聴覚療法管理学」「臨床言語聴覚療法演習」「総合言語聴覚療法演習」等を通して専門職業人としての役割と他の職種との関連や連携について学習する。

4. 指導者、教育者および研究者としての基礎的な能力を養成するために、教養科目の中での基礎的な知識の習得、「言語聴覚障害の評価診断・治療」中の演習科目における小グループでの討議や、「言語聴覚学研究法」の学習、ならびに教員の個人指導による卒業論文作成等によって学習する。

(2) 履修指導方法

新入生に対する履修指導は、ガイダンス期間を4日間設定し、その期間に新入生の担任、教務委員、教務課職員によって、単位、時間割の立て方、資格関連科目の履修方法、履修登録手続き、図書館の利用方法などについての説明をし、さらに履修方法を徹底するために少人数単位でも履修指導などを行う。「履修案内」「学生ハンドブック」「時間割表」など履修に必要な冊子・書類を全学生に配布するとともに、平成18年度から導入されたWEB履修システム「Universal Passport」でいつでも関連する情報を確認できるようにしている。また、後期が始まる9月にも担任、教務委員会委員、教務課職員によるガイダンスを行っている。

(3) 卒業要件

1) リハビリテーション学科理学療法学専攻

以下の区分に従い、4年以上在学し125単位以上を修得することを卒業の要件にする。

科目区分の名称		単位数		
		必修	選択	計
基礎分野	人間科学系	0	6	14
	自然科学系	2		
	語学系	6		
	小計 (28科目)	8	6	14
専門基礎分野	医学系	28	3	31
	保健学・衛生系	2	2	4
	小計 (32科目)	30	5	35
専門分野	基礎理学療法学系	6	7	76
	理学療法評価学系	6		
	理学療法治療学系	23		
	理学療法管理学系	2		
	地域理学療法学系	3		

	臨床実習系	22		
	総合領域	7		
	小計 (52 科目)	69	7	76
合 計	合計 (113 科目)	107	18	125

2) リハビリテーション学科作業療法学専攻

以下の区分に従い、4年以上在学し125単位以上を修得することを卒業の要件にする。

科目区分の名称		単位数		
		必修	選択	計
基礎分野	人間科学系	2	4	6
	自然科学系	2	6	8
	語学系	4	4	8
	小計 (31 科目)	8	14	22
専門基礎分野	医学系	29	1	30
	保健学・衛生系	3	2	5
	小計 (33 科目)	32	3	35
専門分野	基礎作業療法学系	5	1	68
	作業療法評価学系	5		
	作業療法治療学系	19		
	作業療法管理学系	2		
	地域作業療法学系	4		
	臨床実習系	23		
	総合領域	9		
	小計 (52 科目)	67		
合 計	合計 (116 科目)	107	18	125

3) リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻

以下の区分に従い、4年以上在学し125単位以上を修得することを卒業の要件にする。

科目区分の名称		単位数		
		必修	選択	計
基礎分野	人文・社会科学系	2	3	3
	自然科学系	4		
	語学系	4		
	小計 (26 科目)	10		
専門基礎分野	言語聴覚基礎系	12	4	4

	基礎医学系	8	4	55
	臨床医学系	16		
	音声・言語・聴覚医学	4		
	心理系	8		
	地域包括支援・社会福祉・教育系	3		
	小計（45科目）	51		
専門分野	言語聴覚基礎系	2	0	57
	言語聴覚障害の評価診断・治療	32		
	言語聴覚療法マネジメント	2		
	臨床実習系	15		
	総合領域	6		
	小計（31科目）	57		
合計	合計（102科目）	118	28	125

(4) 履修モデルについて

比較的希望が多いと思われる一般病院の理学療法士を目指す学生の履修モデルを以下に示す。

【リハビリテーション学科作業療法学専攻履修モデル】 一般病院の作業療法士を希望する学生の履修例										
・専門基礎分野は、「内科学Ⅱ」、「小児科学」、「公衆衛生学Ⅱ」などを選択する。 ・「作業療法学演習Ⅰ～Ⅳ」は、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の知識の整理・復習等を通して、作業療法について総合的に学習する。 ・「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」は、研究計画、データの収集と解析、結果のまとめ、考察という一連の研究の流れを学習し、研究論文を作成する。										
*は選択科目										
卒業要件(125単位)										
分野	1年次	2年次	3年次	4年次	計					
基礎分野	人間科学系	心理学	2				8			
		保健・医療の現状と未来Ⅰ	2							
		* 社会福祉学	2							
	自然科学系	* 職業適性論	2				8			
		情報処理論	2							
		* 統計学	2							
		* 生命科学概論	2							
	語学系	* 人間遠征学	2				8			
		英語プレゼンテーション	2							
英語読解		2								
	* 英会話	2	* 医学英語	2						
小計		22	2	0	0	24				
専門基礎分野	医学系	解剖学	2	生理学実習	1		32			
		リハビリテーション解剖学	1	運動学	2					
		解剖学実習	1	運動学実習	1					
		リハビリテーション解剖学実習	1	病理学	1					
		生理学Ⅰ	2	臨床心理学概論	1					
		生理学Ⅱ	1	精神医学	2					
		人間発達学	1	内科学Ⅰ	2					
		リハビリテーション概論	1	神経内科学	2					
		薬理学	1	外科学	1					
		栄養学	1	整形外科学	2					
				脳神経外科学	1					
			リハビリテーション医学	1						
			* 内科学Ⅱ	2						
			* 小児科学	1						
保健学・衛生学系	救命救急法	1	公衆衛生学Ⅰ	2		5				
		* 公衆衛生学Ⅱ	2							
小計		13	24	0	0	37				
専門分野	基礎作業療法学系	作業療法学概論	1				5			
		基礎作業学概論	1							
		基礎作業学実習	1							
		作業分析学	1							
		作業分析学実習	1							
	作業療法評価学系	作業療法評価学Ⅰ(総論)	1	作業療法評価学Ⅱ(症魚別)	1	* 高次機能代償学	1	7		
				作業療法評価学実習Ⅰ(中枢神経障害)	1					
				作業療法評価学実習Ⅱ(発達・精神障害)	1					
				作業療法評価学実習Ⅲ(老年期障害)	1					
				* 認知機能評価法	1					
		作業療法治療学系			高次脳機能障害作業療法学	1	身体障害作業療法学Ⅰ		1	22
					福祉用品適応学	1	身体障害作業療法学Ⅱ		1	
					日常生活活動学Ⅰ(総論)	1	身体障害作業療法学演習		1	
					日常生活活動学Ⅱ(症魚別)	1	精神障害作業療法学Ⅰ		1	
							精神障害作業療法学Ⅱ		1	
						精神障害作業療法学演習	1			
						発達障害作業療法学Ⅰ	1			
						発達障害作業療法学Ⅱ	1			
						発達障害作業療法学演習	1			
						老年期障害作業療法学	1			
						認知障害作業療法学	1			
						職業関連作業療法学	1			
				福祉用具学	1					
				福祉用具学実習	1					
				ハンドセラピー概論	1					
				* ハリアフリー概論	1					
				* レクリエーション概論	1					
				* クリニカルリソースニング	1					
作業療法管理学系					作業療法管理学	2	2			
地域作業療法学系					地域生活作業療法学	1	5			
					地域ケアシステム学	1				
					住環境整備学	1				
					地域生活作業療法学演習	1				
				* 作業療法国際事情	1					
臨床実習系	見学実習	1	評価実習Ⅰ	2	評価実習Ⅱ	4	総合臨床実習	16		
							地壇・訪問実習	1		
総合領域			作業療法学演習Ⅰ	1	作業療法学演習Ⅱ	1	作業療法学演習Ⅳ	2		
					作業療法学演習Ⅲ	1	卒業研究Ⅱ	3		
					卒業研究Ⅰ	1		9		
小計		7	12		31		24	74		
合計		42	38		31		24	135		

比較的希望が多いと思われる一般病院の作業療法士を目指す学生の履修モデルを以下に示す。

【リハビリテーション学科作業療法学専攻履修モデル】 一般病院の作業療法士を希望する学生の履修例								
・専門基礎分野は、「内科学Ⅱ」、「小児科学」、「公衆衛生学Ⅱ」などを選択する。 ・「作業療法学演習Ⅰ～Ⅳ」は、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の知識の整理・復習等を通して、作業療法について総合的に学習する。 ・「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」は、研究計画、データの収集と解析、結果のまとめ、考察という一連の研究の流れを学習し、研究論文を作成する。								
*は選択科目								
卒業要件(125単位)								
分野	1年次	2年次	3年次	4年次	計			
基礎分野	人間科学系	心理学	2				8	
		保健・医療の現状と未来Ⅰ	2					
		* 社会福祉学	2					
	自然科学系	* 職業適性論	2				8	
		情報処理論	2					
		* 統計学	2					
		* 生命科学概論	2					
	語学系	* 人類遺伝学	2				8	
		英語プレゼンテーション	2					
		英語読解	2					
		* 英会話	2	* 医学英語	2			
	小計	22	2	0	0	0	24	
専門基礎分野	医学系	解剖学	2	生理学実習	1		32	
		リハビリテーション解剖学	1	運動学	2			
		解剖学実習	1	運動学実習	1			
		リハビリテーション解剖学実習	1	病理学	1			
		生理学Ⅰ	2	臨床心理学概論	1			
		生理学Ⅱ	1	精神医学	2			
		人間発達学	1	内科学Ⅰ	2			
		リハビリテーション概論	1	神経内科学	2			
		薬理学	1	外科学	1			
		栄養学	1	整形外科	2			
				脳神経外科学	1			
				リハビリテーション医学	1			
			* 内科学Ⅱ	2				
			* 小児科学	1				
	保健学・衛生学系	救命救急法	1	公衆衛生学Ⅰ	2		5	
		* 公衆衛生学Ⅱ	2					
小計	13	24	0	0	0	37		
専門分野	基礎作業療法学系	作業療法学概論	1				5	
		基礎作業学概論	1					
		基礎作業学実習	1					
		作業分析学	1					
		作業分析学演習	1					
	作業療法評価学系	作業療法評価学Ⅰ(総論)	1	作業療法評価学Ⅱ(疾患別)	1	* 高次脳機能代償学	1	7
				作業療法評価学実習Ⅰ(中枢神経障害)	1			
				作業療法評価学実習Ⅱ(発達、精神障害)	1			
				作業療法評価学実習Ⅲ(老年期障害)	1			
	作業療法治療学系			* 認知機能評価法	1			22
				高次脳機能障害作業療法学	1	身体障害作業療法学Ⅰ	1	
				福祉用具適応学	1	身体障害作業療法学Ⅱ	1	
				日常生活活動学Ⅰ(総論)	1	身体障害作業療法学演習	1	
				日常生活活動学Ⅱ(疾患別)	1	精神障害作業療法学Ⅰ	1	
						精神障害作業療法学Ⅱ	1	
					精神障害作業療法学演習	1		
					発達障害作業療法学Ⅰ	1		
					発達障害作業療法学Ⅱ	1		
					発達障害作業療法学演習	1		
					老年期障害作業療法学	1		
					認知障害作業療法学	1		
					職業関連作業療法学	1		
					福祉器具学	1		
					福祉器具学実習	1		
				ハンドセラピー概論	1			
				* バリアフリー概論	1			
				* レクリエーション概論	1			
				* クリニカルリスニング	1			
作業療法管理学系				作業療法管理学	2	2		
地域作業療法学系				地域生活作業療法学	1	5		
				地域ケアシステム学	1			
				住環境整備学	1			
				地域生活作業療法学演習	1			
臨床実習系	見学実習	1	評価実習Ⅰ	2	評価実習Ⅱ	4	16	
総合領域			作業療法学演習Ⅰ	1	作業療法学演習Ⅱ	1	9	
					作業療法学演習Ⅲ	1		
					卒業研究Ⅰ	1		
小計	7	12	81	24	74	74		
合計	42	38	81	24	185	185		

比較的希望が多いと思われる回復期リハビリテーション病院の言語聴覚士を目指す学生の履修モデルを以下に示す。

【リハビリテーション学科言語聴覚療法専攻履修モデル】回復期リハビリテーション医療の言語聴覚士を希望する学生の履修例										
・専門基礎分野では必修科目に加え、「実理学」、「感染症・免疫学」等履修し、病態の背景に関連する内容を理解する。 ・専門分野では必修科目を履修し、言語聴覚療法に必要な内容を理解する。 ・「卒業研究」は、各専門領域(失語・高次脳機能障害系、言語発達障害系、発声発語・嚥下障害系、聴覚障害系)から研究テーマを選択し、研究論文を作成する。										
※は選択科目										
卒業要件(125単位)										
分野	1年次		2年次		3年次		4年次		計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
基礎分野	人文・社会科学系	教育学	2						6	
		* ことばと社会	2							
		* 医療・医療の歴史と未来 I	2							
	自然科学系	情報処理論	2						4	
		統計学	2							
	語学系	英語プレゼンテーション	2						4	
英語読解		2								
小計		14		0		0		0	14	
専門基礎分野	言語聴覚基礎系	言語の表現法	2	音響学・聴覚心理学	2					57
		言語学	2							
		音声学	2							
		言語発達学	2							
		心理言語学	2							
	基礎医学系	医学概論	1	衛生学 I	2					57
		解剖学	2							
		解剖学実習	1							
		生理学 I	2							
	臨床基礎医学	救命救助法	1	精神医学	2	臨床神経学	1			57
		* 薬理学	1	内科学 I	2	耳鼻咽喉科学	2			
		* 栄養学	1	* 内科学 II	2	形成外科学	1			
				小児科学	1	臨床歯科医学	1			
				神経内科学	2	口腔外科学	1			
				脳神経外科学	1					
	音声・言語・聴覚医学	呼吸器系疾患の病態・診断・治療	1							57
		聴覚系の病態・診断・治療	1							
		呼吸系の病態・診断・治療	2							
心理系	学習・言語心理学	2	臨床心理学概論	2	心理的アセスメント	2			57	
	生涯発達心理学	2								
地域包括支援・社会福祉・教育系	社会福祉学	2							57	
	リハビリテーション概論	1								
小計		30		19		8		0	57	
専門分野	言語聴覚基礎系	言語聴覚障害学概論	1			言語聴覚障害学診断学	1		2	
	言語聴覚障害の 評価診断・治療	高次脳機能障害学	2	失語・高次脳機能障害学 I	2	失語・高次脳機能障害学実習 I	1		32	
				失語・高次脳機能障害学 II	2	失語・高次脳機能障害学実習 II	1			
				言語発達障害学 I	2	言語発達障害学実習 I	1			
				言語発達障害学実習 I	1	音声障害学	2			
				言語発達障害学 II	2	構音障害学実習	1			
				構音障害学 I	2	摂食嚥下障害学	2			
				構音障害学 II	2	摂食嚥下障害学実習	1			
				聴音学	1	聴覚障害学実習 II	1			
				聴覚障害学 (成人・高齢者対象)	2	聴覚障害学 (聴覚器・人工耳蜗)	1			
				聴覚障害学実習 I	1					
			聴覚障害学 II (小児)	2						
言語聴覚療法 マネジメント					言語聴覚療法管理学	2		2		
臨床実習系	見学実習	1			評価実習	4	総合実習	10	15	
総合領域					臨床言語聴覚療法実習	1	総合言語聴覚療法実習	1	6	
					言語聴覚学研究法	1	卒業研究	3		
小計		4		19		20		14	57	
合計		48		38		28		14	128	

(5) 学生の習熟度および質的保証への対応

国家試験の受験資格を取得することが重要であるので、国家試験合格を目標として履修・学習する指導を基本とする。習熟度のバラツキに対して、各科目において学生の理解度、学習到達度に応じて Remedial（補習）教育を実施することで対応する。しかし、上記の指導の結果、一定の学習到達点に達しない学生については、履修規定に基づき留年とする。

(6) 履修科目の年間登録上限および他大学における授業科目の履修について

学生が履修登録した授業の学習効果を高めるために、1年間の履修登録単位数の上限を49単位とする。他大学との単位互換制度については、本学部では現在実施していない。将来の検討課題とする。

7. 施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

本学は、井の頭キャンパス（34,568.1 m²）に保健学部、総合政策学部、外国語学部、図書館および管理棟等を、近接する三鷹キャンパスには体育館（5,148.20 m²）を配置し、学生が教育・課外活動を受けるにふさわしい広さを有しており、リハビリテーション学科を設置する十分なスペースがある。

(2) 校舎等施設の整備計画

実習室と教員の研究室は次の通りである。

- 1) 学部専用教室 15 室（205.26 m²、187 人）、（209.12 m²、176 人）、（149.61 m²、130 人）、（137.36 m²、118 人）、（108.40 m²、86 人）、（108.40 m²、86 人）、（149.42 m²、126 人）、（104.33 m²、90 人）、（81.94 m²、60 人）、（155.06 m²、141 人）、（159.49 m²、180 人）、（148.73 m²、159 人）、（81.60 m²、69 人）、（78.57 m²、69 人）、（70.11 m²、62 人）
他学部との共用教室 5 室（243.19 m²、243 人）、（53.17 m²、28 人）、（79.26 m²、42 人）、（174.84 m²、153 人）
- 2) 学科専用研究室 9 室（18 m²×3、19 m²、21 m²、22 m²、24 m²、48 m²、63 m²）
- 3) 実習室・演習室 専用演習室 2 室（208.35 m²、110 人）、（109.17 m²、94 人） 共用実習室 6 室（203.28 m²、64 人）、（203.28 m²、86 人）、（194.3 m²、90 人）、（218.21 m²、80 人）、（272.95 m²、33 人）、（39.50 m²、30 人）
- 4) 学生専用ロッカー室（48.41 m²、58.78 m²、55.22 m²、55.15 m²、45.11 m²、25.25 m²、30.24 m²、29.45 m²）
- 5) コンピュータ室（107.27 m²、63 人）、（101.51 m²、60 人）、（105.35 m²、42 人）

(3) 機械器具の整備計画

リハビリテーション学に関連する科目の教育に使用するため、理学療法学専攻では機

械器具 1992 点を購入し、作業療法学専攻では機械器具 1757 点を購入し、言語聴覚療法学専攻では機械器具 140 種類を購入し新たに設置する実習室等に配置する。主な機械器具の整備計画は資料 2 の通りである。

また、保健学部の既存学科で所有する機械器具、標本模型について、教育上支障がない範囲において共用する。

整備する主要な機器備品 【資料 2】

(4) 図書等の資料および図書館の整備計画

井の頭図書館および医学図書館の蔵書冊数はおよそ 436,000 冊（和書 276,000 冊、洋書 160,000 冊）、継続雑誌は 1,481 種（和雑誌 1,324 種、洋雑誌 157 種）、オンラインジャーナル 8,624 種（国内 1,133 種、外国 7,491 種）を整備している。また、井の頭図書館と医学図書館それぞれの蔵書は現物貸借、あるいは FAX による送信で利用可能となっている。さらに、リハビリテーション学科を設置するにあたり、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士成のためのカリキュラムにそった図書 1,000 冊（和書 900 冊、洋書 100 冊）、雑誌 15 誌（和雑誌 8 誌、洋雑誌 7 誌）を整備する。とりわけ専門基礎分野および専門分野に配慮して 3 年間で整備充実を図る。

現在のところ主要なデータベース（MEDLINE、医中誌 Web、CINAHL、AIDE、Cochrane Library、CiNii、Scopus、Westlaw Japan、PsycINFO、判例タイムズ(DVD)、聞蔵Ⅱ、PubMed、JCR、金融商事判例(DVD)、労働判例(DVD)、日経テレコン 21、金融法務事情(DVD)、OECD iLibrary、東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー、EBSCOhost Business Source Premier、EBSCOhost Hospitality & Tourism Complete、D1-Law.com、ブリタニカオンライン、今日の診療 Web、Upto Date、日経 B P 記事検索サービス、官報検索サービスなど）が利用に供されている。平成 18 年度にシステム更新が行なわれ、iLiswave-J（富士通製）が導入された。本システムにより学外的には国立情報学研究所が運用する目録所在情報システムのオンライン分担目録の入力を担い、学内的には貸出・返却をはじめとした処理の一層の迅速化が実現された。

図書館の機能が学習・教育研究活動に効果的に働くよう様々な図書館利用ガイダンスを企画している。目的の雑誌論文や新聞記事を効率的に探す手法の一環として図書館 OPAC の使い方ガイダンスや図書館ツアー、データベースガイダンスを計画的に行うとともに利用者の質問にいつでも対応、回答できる体制を整備していく方針である。

また、図書館総合管理システムを導入、NCSIS-CAT/ILL に参加し大学図書館間の相互協力をはじめ、学生証や身分証を提示するだけで直接閲覧および貸し出しサービスが受けられる「大学図書館相互利用サービス」に加盟し近郊の大学図書館とも相互協力を進めている。今後、一層の学習・教育研究支援機能の整備拡充を計り、最新情報の発信機能を重視した図書館サービスの充実を図る。

整備するリハビリテーション学関連の学術雑誌 【資料 3】

8. 入学者選抜の概要

(1) 学生受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

保健学部は「保健・医療・福祉の分野で、専門的知識と技術を教授し、科学的なものの方と思いやりの心を涵養して、広い視野から物事をとらえ、人々がより健康に生きることをサポートできる人材を育成すること」を教育の目的としている。この目的が確実に達成されるために、次のような資質をもつ人を求めている。

- ① 健康に関心をもち、保健・医療・福祉に貢献する意志をもつ人。
- ② 人に対する深い思いやりの心をもつ人。
- ③ 幅広い多角的な視野をもつ人
- ④ 保健、医療、看護および福祉に関する学習意欲を備えている人。

この保健学部のアドミッションポリシーに基づき、各専攻のアドミッションポリシーを以下に設定している。

1) リハビリテーション学科理学療法学専攻

- ① モラルと倫理観を持ち、自分の行動規範を持っている人
- ② 障害者・児に対する関心と理解がある人
- ③ 自分の周囲の問題だけでなく、社会的な観点から問題に関して、解決しようと努力
- ④ グローバルに保健・医療・看護・福祉に関する積極的な学習意欲がある人

2) リハビリテーション学科作業療法学専攻

- ① 保健・医療・福祉に貢献したいという意欲を持ち、さらにその意欲を向上させたいという熱意を持つ人
- ② 保健・医療・福祉に寄与するために基本となる豊かな人間性（他者への関心を持っていること、他者の気持ちをわかろうとする心があること、他者とコミュニケーションを取りたいという心があること、幅の広い関心や興味・視野があることなど）を持つ人
- ③ 高い倫理観と職業意識を持ち、さらにそれを向上させたいという熱意を持つ人
- ④ 自然科学や人文・社会科学を問わず、幅広く学問に興味があり、また、学びたいという意欲を持ち、さらにその意欲を向上させたいという熱意を持つ人
- ⑤ 作業療法に関する幅広い専門知識と技術を学ぶ意欲を持ち、さらにその意欲を向上させたいという熱意を持つ人
- ⑥ 創造性に優れ、新たな作業療法に関する知識や技術・システムを自らの手で創りたいという意欲を持ち、さらにその意欲を向上させたいという熱意を持つ人

3) リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻

- ① 高い倫理観と道徳観を持ち、自分の行動に責任を持てる人
- ② 常に探求心を持ち、幅広い学問領域において向学心の強い人
- ③ 他者とのコミュニケーションにおいて受容と共感ができる人
- ④ 生きていくうえで生じる様々な問題に対して、個人の視点から、社会的な視点まで

- 幅広い視点から分析して、問題解決しようと努力できる人
- ⑤グローバル社会における保健・医療・看護・福祉の現状と未来について熱意を持って学習できる人

(2) 入試区分、入学試験科目、入学者選抜方法について

①入試区分

学校推薦型選抜、総合型選抜（AO入試）、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜、外国人留学生選抜を行う。

②募集人員

各入試区分の募集人員は、下表の通りとする。

③入学試験科目

表に示したように、リハビリテーション学科理学療法学専攻および作業療法学専攻の一般選抜の入学試験科目は、英語を必修科目として、国語、数学、物理、化学、生物から1科目選択とし、かつ他学科の併願を可能とする。言語聴覚療法学専攻の一般選抜の入学試験科目は、英語を必修科目として、国語、数学、物理、化学、生物から1科目選択とし、かつ他学科の併願を可能とする。学校推薦型選抜および総合選抜（AO入試）においては、3専攻とも適性検査に加えて、多様な受験生に応じた面接試験を行う。

④入学者選抜方法

一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜においては、総合点の高い者から正規合格とし、入学率を審議し、補欠者を繰り上げて、補欠合格者とする。なお、補欠者については、補欠順位を明記して発表する。また、学校推薦型選抜、総合型選抜（AO入試）、外国人留学生入試では調査書、適性検査の成績、面接の成績を総合して合格者を決定する。

リハビリテーション学科理学療法学専攻

入試区分	募集人員	入学試験科目
一般選抜	38名	[必修科目] 英語 [選択科目] 国語、数学、物理、化学、生物の中から問題配布後に2科目選択（理科から2科目選択可）
大学入学共通テスト利用選抜	3名	[必修科目] 英語 [選択科目] 以下の3教科4科目から、2科目を選択 ◆国語（近代以降の文章）◆数学「数学Ⅰ、数学A」◆「物理」、「化学」、「生物」、「物理基礎・物理基礎・生物基礎」から2科目を選択
学校推薦型選抜	15名	適性検査、面接
総合選抜（AO入試）	8名	適性検査、面接
外国人留学生入試	1名	適性検査、面接

リハビリテーション学科作業療法学専攻

入試区分	募集人員	入学試験科目
一般選抜	15名	[必修科目] 英語 [選択科目] 国語、数学、物理、化学、生物から、問題配布後に2科目選択（理科から2科目選択可）
大学入学共通テスト利用選抜	3名	[必修科目] 英語 [選択科目] 以下の3教科4科目から、2科目を選択 ◆国語（近代以降の文章）◆数学「数学Ⅰ、数学A」◆「物理」、「化学」、「生物」、「物理基礎・物理基礎・生物基礎」から2科目を選択
学校推薦型選抜	16名	適性検査、面接
総合選抜 (AO入試)	15名	適性検査、面接
外国人留学生入試	1名	適性検査、面接

リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻

入試区分	募集人員	入学試験科目
一般選抜	10名	[必修科目] 英語 [選択科目] 国語、数学、物理、化学、生物の中から問題配布後に1科目選択
大学入学共通テスト利用選抜	3名	[必修科目] 英語 [選択科目] 以下の3教科4科目から、1科目を選択 ◆国語（近代以降の文章）◆数学「数学Ⅰ、数学A」◆「物理」、「化学」、「生物」、「物理基礎・物理基礎・生物基礎」から2科目を選択
学校推薦型選抜	5名	適性検査、面接
総合選抜 (AO入試)	6名	適性検査、面接
外国人留学生入試	1名	適性検査、面接

(3) 入学試験実施体制について

保健学部の入学試験は、学部長を委員長とし教務部長、学生部長、その他数名の教授会代表者からなる入試審議委員会のもとで実施される。審議委員会は、採用する入試区分、実施時期、募集人員、試験科目などを検討する。さらに入試実施後に合格者ならびに補欠の決定、試験方法や試験問題の反省、次年度の試験方法を検討する。入試審議委

員会の下で、入試作業委員会が、出題の依頼、試験問題のチェック、問題の印刷、試験監督の依頼、試験の実施等を担当し、出題に関わる出題委員、採点に関わる採点委員などの委員が任命される。

入学者選抜基準の透明性については、各試験区分の受験資格、試験科目、試験時間、科目別配点、等の基本事項は募集要項に公表する。また、前年度の入試について、受験者数、合格者数、合格最低点などをホームページ上に公表して透明性を高めている。

9. 取得可能な資格

本学科においては、卒業時に理学療法士国家試験、作業療法士国家試験または言語聴覚士国家試験の受験資格を与えることとし、本年7月に理学療法士学校、作業療法士学校、言語聴覚士学校の指定申請を文部科学大臣に行う予定である。

また、理学療法学専攻および作業療法学専攻においては、指定の選択科目履修により、卒業時に第一種衛生管理者免許が取得できる。

10. 実習の具体的計画

(1) 実習先の確保の状況

現在までに確保した実習先は、本学科の実習目標を達成するために必要な条件および協力体制を備えていることを条件とし、大学付属病院をはじめ、医療、福祉等の分野の病院、施設である。

臨床実習先（施設名、所在地、住所など） 【資料4】

(2) 実習先との契約内容

個人情報保護については、実習中知り得た情報については、法令・条例を遵守し、一切漏洩しない旨の誓約書を実習に先立って実習指導者に提出する。また、感染等の事故についても、災害、感染などの事故および故意、または過失による実習施設への損害については、一切の責任を負い弁償、処理する旨の誓約書を事前に実習指導者に提出する。

事故予防および感染予防については、十分な事前指導を行った上、実習指導者に対しても事前指導をお願いする。学生には、実習における万が一の事故に備えて、「学生教育研究災害傷害保険および学生教育研究賠償責任保険」に加入することを義務づける。

万が一、事故が起こった場合は、実習担当者および学生から速やかに連絡を受け、実習担当教員が実習先へ出向き、対応を協議する。

実習中の感染予防および感染発生時、事故発生時の対応について 【資料5】

(3) 臨床実習の内容および事前・事後の指導

1) リハビリテーション学科理学療法学専攻

臨床実習は必修5科目22単位からなり、その5科目の組み立てや繋がりをきめ細

かく計画することは、着実に力をつけていくために不可欠となる。そのためには、実習時間のみならず、実習の事前事後の学内における指導や実習受入れ先の施設との連携を密にする。

臨床実習の内容は、「見学実習」(1年後期1週間:40時間、実習前後の指導5時間)、「評価実習Ⅰ」(2年後期1週間:40時間、実習前後の指導5時間)、「評価実習Ⅱ」(3年前期3週間:120時間、実習前後の学内演習および指導15時間)、「地域理学療法実習」(3年後期1週間:40時間、実習前後の指導5時間)、「総合臨床実習」(4年前期各8週間:640時間、各実習前後の学内演習および指導各80時間)から構成される。

以下に各臨床実習の内容および事前・事後の指導について述べる。

① 見学実習

2名の学生を1グループとして本学医学部附属病院において、リハビリテーション医学および理学療法の実態を見学する。実習に先立って、臨地で行われる実習への心構えや見学実習の在り方について、受入れ先施設の実習指導者の講義も組み込むなど、実際に踏まえた事前指導を徹底する。事後指導として、全体の討議と意見交換の場として実習報告会等を行い、臨床実習のスタートの授業から臨床実習の組み立てを強固にして行く。

② 評価実習Ⅰ

1施設 1～2名の学生で、本学医学部附属病院および近隣のリハビリテーション病院において、講義・実習で学んだ評価の手技の臨床応用を試みる。事前指導については1年時の「見学実習」と同様に受入れ先施設の実習指導者の講義も組み込むなど、実際に踏まえた事前指導を実施する。講義・実習で学んだ理学療法の過程を実際に照らし合わせ、「評価実習Ⅱ」の課題を見つけることができるように深める。事後指導としては、全体で実習中の手技施行の問題点や疑問点について討議を行い、知識・技術の理解を深める。また、全体で実習報告会を行う。

③ 評価実習Ⅱ

1施設 1～2名の学生で、本学医学部附属病院および総合病院あるいはリハビリテーション病院において、評価手技の実施を通して、障害の問題点およびニーズについて学習する。「評価実習Ⅰ」の実習経験を生かし、「評価実習Ⅰ」同様に事後指導を行い、障害の評価の意義を理解するとともに、問題点およびニーズを含む系統的な評価法について理解を深める。

④ 地域理学療法実習

1施設 1～2名の学生で、入所・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション施設において利用者(個別, 集団)に対する理学療法を見学・体験して生活リハビリテーションの実際と、理学療法士としての役割を理解する。

⑤ 総合臨床実習

総合臨床実習は前半の総合臨床実習Ⅰ（8週間）と後半の総合臨床実習Ⅱ（8週間）から成っている。

1 施設 1～2名の学生で、本学医学部附属病院および総合病院、リハビリテーション病院、老人専門病院ならびに小児医療施設の中から、2施設において主要な障害について一貫した理学療法を体験する。変化に対する適切な治療内容の変更、経過および治療結果に対する考察など患者と接する中でしか体得できない実践能力を養う。実習期間が各8週間と長期になるため、総合臨床実習の目的を明確にし、綿密な事前指導を行い、実習期間の中ごろに担当教員が巡回指導を行うことで実習の進行具合や実態を把握するとともに、学生の臨床上の問題解決に対して指導する。ただし、実習指導者の要請があれば、実習施設にいつでも出向けるようにする。事後指導としては、全体での実習報告会を実施するとともに各領域および個別の討議の時間を設ける。

臨床実習指導体制 【資料 6-1】

2) リハビリテーション学科作業療法学専攻

臨床実習は必修5科目22単位からなり、その5科目の組み立てや繋がりをきめ細かく計画することは、着実に力をつけていくために不可欠となる。そのためには、実習時間のみならず、実習の事前事後の学内における指導や実習受入れ先の施設との連携を密にする。

臨床実習の内容は、「見学実習」（1年後期1週間：40時間、実習前後の指導5時間）、「評価実習Ⅰ」（2年後期1週間：40時間、実習前後の指導5時間）、「評価実習Ⅱ」（3年前期3週間：120時間、実習前後の学内演習および指導15時間）、「総合臨床実習」（4年前期 各8週間：640時間、各実習前後の学内演習および指導各80時間）、「地域・訪問実習」（4年後期1週間：40時間、実習前後の指導5時間）から構成される。以下に各臨床実習の内容および事前・事後の指導について述べる。

① 見学実習

2名の学生を1グループとして本学医学部附属病院において、リハビリテーション医学および作業療法の実態を見学する。実習に先立って、臨地で行われる実習への心構えや見学実習の在り方について、受入れ先施設の実習指導者の講義も組み込むなど、実際に踏まえた事前指導を徹底する。事後指導として、全体の討議と意見交換の場として実習報告会等を行い、臨床実習のスタートの授業から臨床実習の組み立てを強固にして行く。

② 評価実習Ⅰ

1施設 1～2名の学生で、本学医学部附属病院および近隣のリハビリテーション病院において、講義・実習で学んだ評価の手技の臨床応用を試みる。事前指導について

は1年時の「見学実習」と同様に受入れ先施設の実習指導者の講義も組み込むなど、実際に踏まえた事前指導を実施する。講義・実習で学んだ作業療法の過程を実際に照らし合わせ、「評価実習Ⅱ」の課題を見つけることができるように深める。事後指導としては、全体で実習中の手技施行の問題点や疑問点について討議を行い、知識・技術の理解を深める。また、全体で実習報告会を行う。

③ 評価実習Ⅱ

1 施設 1～2名の学生で、総合病院あるいはリハビリテーション病院において、評価手技の実施を通して、障害の問題点およびニーズについて学習する。「評価実習Ⅰ」の実習経験を生かし、「評価実習Ⅰ」同様に事後指導を行い、障害の評価の意義を理解するとともに、問題点およびニーズを含む系統的な評価法について理解を深める。

④ 総合臨床実習

総合臨床実習は前半の総合臨床実習Ⅰ（8週間）と後半の総合臨床実習Ⅱ（8週間）から成っている。

1 施設 1～2名の学生で、総合病院、リハビリテーション病院、老人専門病院および小児医療施設の中から、2施設において主要な障害について一貫した作業療法を体験する。変化に対する適切な治療内容の変更、経過および治療結果に対する考察など患者と接する中でしか体得できない実践能力を養う。実習期間が各8週間と長期になるため、総合臨床実習の目的を明確にし、綿密な事前指導を行い、実習期間の中ごろに担当教員が巡回指導を行うことで実習の進行具合や実態を把握するとともに、学生の臨床上的問題解決に対して指導する。ただし、実習指導者の要請があれば、実習施設にいつでも出向けるようにする。事後指導としては、全体での実習報告会を実施するとともに各領域および個別の討議の時間を設ける。

⑤ 地域・訪問実習

1 施設 1～2名の学生で、入所・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション施設において利用者（個別、集団）に対する作業療法を見学・体験して生活リハビリテーションの実際と、作業療法士としての役割を理解する。

臨床実習指導体制 【資料 6-2】

3) リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻

臨床実習は必修3科目15単位からなり、その3科目の組み立てや繋がりをきめ細かく計画することは、着実に力をつけていくために不可欠となる。そのためには、実習時間のみならず、実習の事前事後の学内における指導や実習受入れ先の施設との連携を密にする。

臨床実習の内容は、「見学実習」（1年前期1週間：40時間、実習前後の指導5時間）、

「評価実習」(3年後期4週間:160時間、実習前後の学内演習および指導20時間)、
「総合臨床実習」(4年前期:10各週間:400時間、各実習前後の学内演習および指導50時間)から構成される。

以下に各臨床実習の内容および事前・事後の指導について述べる。

① 見学実習

2名の学生を1グループとして本学医学部附属病院において、リハビリテーション医学および言語聴覚療法の実態を見学する。実習に先立って、臨地で行われる実習への心構えや見学実習の在り方について、受入れ先施設の実習指導者の講義も組み込むなど、実際に踏まえた事前指導を徹底する。事後指導として、全体の討議と意見交換の場として実習報告会等を行い、臨床実習のスタートの授業から臨床実習の組み立てを強固にして行く。

② 評価実習

1施設1もしくは2名の学生で、本学医学部附属病院および近隣のリハビリテーション病院、総合病院、小児医療施設、介護・福祉施設等において、講義・実習で学んだ評価の手技の臨床応用を試みる。事前指導については1年時の「見学実習」と同様に受入れ先施設の実習指導者の講義も組み込むなど、実際に踏まえた事前指導を実施する。講義・実習で学んだ言語聴覚療法の過程を実際に照らし合わせ、「総合実習」の課題を見つけることができるように深める。事後指導としては、全体で実習中の手技施行の問題点や疑問点について討議を行い、知識・技術の理解を深める。また、全体で実習報告会を行う。

③ 総合実習

1施設1~2名の学生で、本学医学部附属病院および総合病院、リハビリテーション病院、小児医療施設等において、主要な障害について一貫した言語聴覚療法を体験する。変化に対する適切な治療内容の変更、経過および治療結果に対する考察など患者と接する中でしか体得できない実践能力を養う。実習期間が10週間と長期になるため、総合臨床実習の目的を明確にし、綿密な事前指導を行い、実習期間の中ごろに担当教員が巡回指導を行うことで実習の進行具合や実態を把握するとともに、学生の臨床上の問題解決に対して指導する。ただし、実習指導者の要請があれば、実習施設にいつでも出向けるようにする。事後指導としては、全体での実習報告会を実施するとともに各領域および個別の討議の時間を設ける

臨床実習指導体制 【資料 6-3】

(4) 実習水準の確保の方策

本学の臨床実習の多くは学外の医療施設・福祉施設で実施する。臨床実習は、学内における座学の体験学習であるので、本学の教育水準と同レベルに保つことは大変重要となる。実習水準の確保の方策として、以下のことを実施する。

臨床実習を開始する前に各施設の臨床実習指導者に対して、本学で使用している教科書を配布するとともに教育内容を説明し、実習指導方法について本学教員と実習指導者間で十分に調整する。また、各施設の実習指導者と本学との連携を深くするために、各実習施設の担当教員を決める。

各臨床実習終了時には、実習報告会を行う。特に総合臨床実習終了時に行われる実習報告会では、評価実習Ⅰ、Ⅱ（言語聴覚療法学専攻は評価実習）で学んだ知識、技術を再確認するとともに、各施設の実習指導内容が本学の教育水準を確保できている事を確認する。なお、実習水準が本学の教育水準より低い場合や教育内容が合わない場合は、再度本学の教育内容を指導することで実習水準を確保する。

(5) 臨床実習指導者と教員の役割について

臨床実習における教育計画の立案および遂行については大学の責任のもとに行い、臨床実習指導者と教員は次のような教育の役割を分担し、円滑で効率的な運営を図る。

- ・ 教員の役割
 - ①臨床実習の内容および方法の計画
 - ②実習依頼とその調整、配置先の決定
 - ③実習行動計画の指導（事前指導）
 - ④実習に関連する問題の調整
 - ⑤実習期間の巡回指導や電話連絡による状況把握および施設訪問
 - ⑥実習終了後の報告会などの計画（事後指導）

- ・ 臨床実習指導者の役割
 - ①指導者は、施設の中でも臨床経験豊富な者が担当
 - ②臨床上のオリエンテーションの実施
 - ③学生の実習内容と方法に関して教員あるいは施設長との連絡調整
 - ④学生の課題学習や生活適応側面での指導
 - ⑤一定の様式による実習の評価

(6) 実習先との連携体制

臨床実習を行う上で、臨床実習施設と本学との連携体制を強化することは重要である。そこで、臨床実習指導者と本学の連絡を深くするために、臨床実習施設の担当教員を決め、臨床実習施設との連絡は基本的には担当教員が行うこととする。

(7) 教員の配置ならびに巡回指導計画

臨床実習では、臨床実習の目的を明確にし、綿密な事前指導を行い、それぞれの実習期間中に1回以上の巡回指導または電話連絡を行うことで、実習の進行具合や実態を把握するとともに、学生の臨床上の問題解決に対して指導をする。ただし、実習指導者の要請があれば、実習施設にいつでも出向けるようにする。事後指導としては、全体での実習報告会を実施するとともに各領域および個別の討議の時間を設ける。

臨床実習巡回指導計画 【資料 7-1～3】

(8) 実習施設における指導者の配置計画

臨床実習では学生1名に対して、1名以上の実務経験5年以上の精神科医または臨床心理技術者等、心理の支援に関する業務を行っている者が臨床実習指導および評価を行う。

(9) 成績評価体制および単位認定方法

成績評価は、臨床実習指導者と担当教員が学生の実習に対する取り組み方や実習での成果を総合的に判断して決定する。臨床実習合格基準（60点）は、臨床実習の規定日数以上の出席、レポート課題が提出されていることとする。合格基準に達した学生は実習内容、レポート、実習サマリーの内容等に基づく臨床実習指導者の評価を踏まえ、事前準備、実習報告会等の様子を加味して、担当教員と臨床実習指導者が協議のうえ満点を100点として点数で評価する。

11. 管理運営

学部の最高意思決定機関は、教授会である。教授会は学部長が議長となって8月を除く毎月1回開き、入試時期など必要時には臨時教授会も開く。教授会は過半数の出席をもって成立し、教育、教員人事、学生、研究などに関する事項を審議する。学部には、教務委員会をはじめとする各種委員会を設置し、審議事項を学部長に報告している。

大学の最高意思決定機関である大学評議会は、学園長、学長、学部長、図書館長、各教授会構成員から選任された各2名で構成される。学則や諸規程改正の必要が生じたときに召集される（杏林大学学則第12条）。

12. 自己点検・評価

(1) 自己点検・評価への取り組み

本学では、毎年自己点検・自己評価のためのデータブックを「杏林大学の現況」として作成し、冊子体で公開している。これには学部および大学院についての現況が記載されている。学部に「自己点検・評価委員会」、研究科に「研究科自己点検・評価委員会」が大学活動組織として存在し、これらの委員会が中心となり、上記の「杏林大学の現況」を毎年作成している。また、大学基準協会による認証評価を平成27年に受審し、「大学基準協会の大学基準に適合している」との評価を受けている。なお、大学に対する提言の中で、特記すべき事項に関しては本学の特色となるように積極的に取り組み、助言と

して挙げられた事項については、真摯に受け止めて、改革と改善を推進し、建学の精神に基づく教育研究活動の更なる充実に努め、教育の質の保証に取り組んでいる。

平成 23 年度に、杏林大学自己点検・評価規程を改定し、自己点検・評価を毎年行うこと、および自己点検・評価の妥当性と客観性を高めるため、外部評価委員会を設置し、この委員会からの評価結果を付して自己点検・評価報告書を学内外に公表することなど、新たな評価体制を整備した。

(2) 実施体制と方法

本学の教育研究活動等の状況については、自ら行う点検・評価（「自己点検・評価」という。）を行う自己点検・評価委員会（以下、「全学委員会」という。）を置いている。

(2-1) 全学委員会の組織について

全学委員会は次に掲げる委員をもって組織する。また、全学委員会の委員長は学長が指名する者をもって充て、副委員長は全学委員会委員のうちから委員長が指名する。

(a) 各学部長、(b) 各研究科長、(c) 付属病院長、(d) 各学部教授会から推薦された専任教員各 1 名、(e) 理事長が指名する事務管理職 若干名院長、(f) 各学部教授会から推薦された専任教員各 1 名、(g) 理事長が指名する事務管理職 若干名

(2-2) 全学委員会が行う事項について

- (a) 自己点検・評価の基本方針および実施要領の策定に関すること。
- (b) 点検・評価（外部評価を含む）の実施に関すること。
- (c) 自己点検・評価に関する報告書の作成。
- (d) 評価結果に基づく改善状況の検証。
- (e) 自己点検・評価結果の公表に関すること。
- (f) 学校教育法に定める認証評価に関すること。
- (g) 前各号の他、自己点検・評価に関し、全学委員会が必要と認めた事項。

(2-3) 自己点検・評価の実施について

自己点検・評価は、原則として毎年行い、自己点検・評価項目は、次の通りとする。

(a) 理念・目的 (b) 教育研究組織 (c) 教員・教員組織 (d) 教育内容・方法・成果 (e) 学生の受け入れ (f) 学生支援 (g) 教育研究等環境 (h) 社会連携・社会貢献 (i) 管理運営・財務 (j) 内部質保証

各学部および大学院各研究科並びに点検・評価項目に関連する教学および法人の各部門にそれぞれ学部等自己点検・評価委員会（以下「学部等委員会」という。）を置き、全学委員会における決定事項に基づき、当該部門の自己点検・評価を主体的に実施し、自己点検・評価の結果に基づき、当該部門の自己点検・評価報告書を作成し、全学委員会に提出する。

(3) 外部評価委員会について

自己点検・評価の妥当性と客観性を高めるため、外部評価を行う機関として外部評価委員会を置き、学長が推薦する有識者若干名をもって構成する。外部委員会は、自己点検・評価について検証および評価を行い、本学の教育研究の向上に資する提言を行う。

(4) 結果の活用および公表

自己点検・評価の結果については、全学委員会が外部評価委員会からの評価結果を伏して自己点検・評価書を学内外に公表するものとする。

また、理事長および学長は自己点検・評価を実施した結果、改善が必要であると認めた事項について、当該部門の長にその改善の実施を求め、実現を図らなければならない。

13. 情報の公表

平成 22 年 6 月 16 日付けの「学校教育法施行規則等を改正する省令の施行について」に則り以下に掲げる情報等を大学のホームページ上で、公表している。

- ①理事長・学長のメッセージ
- ②建学・教育理念・沿革
- ③学園組織（学部・学科・研究科の名称、教員組織、各種委員会、事務局組織）
- ④入学者数、収容定員、在学者数、卒業・修了者数、進学者数、就職者数
- ⑤校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境
- ⑥授業料
- ⑦教員数、年齢別・男女別構成
- ⑧各教員が有する学位および業績等
- ⑨各学部・研究科の理念・教育研究上の目的、教育目標
- ⑩アドミッションポリシー
- ⑪授業科目、授業の方法および内容並びに年間の授業計画
- ⑫必修・選択・自由科目別の必要単位取得数および取得可能単位
- ⑬学生が取得すべき知識および能力に関する情報
- ⑭学生の修学、進路選択、学生生活一般に関わる支援
- ⑮国際交流・社会貢献等の概要

また、教員の研究活動の成果は、独立行政法人科学技術振興機構の ReaD および学術雑誌「杏林医学会雑誌」で公表され、この雑誌は電子化されており、ホームページ上でも閲覧できるようになっている。また、杏林学園の広報誌『あんず』や保護者会報『杏会報』により、入学式や卒業式における学長の式辞、学部長の所信表明等、さまざまな記事の形で伝えられている。

設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況報告書については、ホームページ上で個人情報に関する部分を除いて閲覧できる。

また、本学の特色を生かして、医療・健康・社会問題・ことばや文学に関する公開講演会や公開講座を実施し、開かれた大学として受け入れられるよう市民との交流に努めている。

る。

14. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学部には、「FD 実施委員会」が設置されており、本委員会の目的は、学部全体の教育を活性化し、教員の教育力向上に向けた全学的な FD 活動の支援を行うことである。

(1) 学生による授業評価制度

学生による授業評価を専任教員および非常勤講師のすべての講義科目において前期・後期に計 2 回実施しており、その結果を教員にフィードバックして授業改善の資料とするように要請している。自由記載欄を除いた授業評価結果については、本学ホームページ上にも公開しており、学外からも閲覧可能である。

(2) 教員に対する顕彰制度 (Teacher of the Year)

学生による授業評価で高い評価を得た教員を学部長から表彰している。

(3) FD 講演会およびシンポジウムの開催

学外の著名人を招聘し、FD に関するシンポジウムや講演会を実施し教員の参加を義務づけている。さらに、学生対応の諸問題を踏まえ、全教員、特に学生担任を対象に、「学生の相談に対応するための研修会」を開催している。

学外で開催される研修会等は全教員に告知し、その費用は学園が負担している。

(4) 相互授業参観

学生による授業評価最も高い評価を得た講義を学科ごとに指定し、公開講義として全教員に授業聴講を求め、その後、授業担当教員と聴講した教員との間で討論をおこなっている。

(5) 教員評価制度

FD の一環として教員評価制度が導入されており、全教員に、「教員評価シート」の提出を義務づけている。自己評価項目は各教員の教育業績、研究業績、管理運営、社会貢献、情意考課に関する事項である。

(6) 新任教員のガイダンス

新任教員に対しては 4 月はじめにガイダンスを企画し、本学部について担当部署から説明をおこなうと共に、学生が参加するガイダンス週間の催しに積極的な参加を促し、教育の授受に関する双方の視点から教育のあり方を捉える機会としている。

これらの実施により、教員の資質の向上に努め、教員の教育力・研究力を向上させている。

15. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 基本的な考え方

本学の建学の精神である「真・善・美の探究」に基づいて学び得た学問的専門知識・知的思考力・専門技術を通して自らの職業観・勤労観を培い、個々の学生がキャリア形成に成功できるよう教育課程内・外にわたって、履修指導、キャリア相談、就職ガイダンス、情報提供などの具体的活動を学生の状況、ニーズに応じて、行っていくシステムを整備することが重要と考えている。

(2) 教育課程内での取り組み

(2-1) 一般教養科目

一般教養科目のうち、次の挙げたものをキャリア教育につながる主な科目と位置づけている。

(a) 生命倫理学、 (b) 日本国憲法、 (c) 社会福祉学、 (d) 情報処理論、 (e) 日本語表現法、 (f) 職業適性論

これらの科目中には実用的な知識や技術を修得出来る科目の他に、そのことを通して、活躍できる人間関係能力を育成できる科目も含まれている。

(2-2) 専門基礎・専門科目

リハビリテーション学科では理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の基礎知識お専門的治療技術を学ぶと共に、社会的役割、専門職業人としての責任、倫理観を学び、講義と臨床実習を通して、自己の職業観を深めていくようにカリキュラムが作成されている。したがって、実践しているカリキュラムの履修がキャリア教育を兼ね備えていると考えている。

キャリア形成の最重要科目として、各専攻の臨床実習では、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の職務、責任、倫理、関連行政といった実践に必須のテーマについての基本的理解を得る。更に、チーム医療の一員として、医師をはじめとする関連職種専門性や役割について理解を深め、職種間の連携についての重要性を認識させる。また、各専攻の臨床実習では、実践の中で、多職種連携の基礎となるコミュニケーション能力、観察力、分析力、問題解決能力を養うと共に、チーム医療の一員としての役割について確認し、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士としての求められる職業意識を育成していく。

(3) 教育課程外の取り組み

リハビリテーション学科3専攻の教育内容、特に専門科目はキャリア教育と重複する部分が多いが、これだけでは、実際のキャリアデザインや持続的な就業力を得るためには不十分である。そこで、次のキャリア支援を行っていく。

「初年次からの就業意識醸成・キャリアスキルアッププログラム」(平成21年度 文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」学生支援プログラム採択) この取り組みでは、社会に有用な人材を輩出するという、社会のニーズに応え得る実践的能力を身に付けた学生を育てることを主たる目的においてプログラムを推進していく。そのための施策として就業意識の向上と就業実務能力向上をめざしたキャリア教育

の充実を図ることを中軸に据え、知識教育だけにとどまらない体験学習を織り込んだ総合的な学習プログラムをプランし、最終的には就職率の向上につなげることに狙いを置いて展開する。本取り組みの目的である就業意識の涵養並びに就業基礎力の習熟度が1年次から4年次と段階的に図れるようにプログラム構成を考慮して実施を進める。具体的には、就職ガイダンス、就職対策講座、就職専門模擬試験等のプログラムを実施して就職マインドの醸成を図り、一方ではパソコンを用いたネットワーク活用によるスキル研修により就職基礎力向上に取り組んでいる。

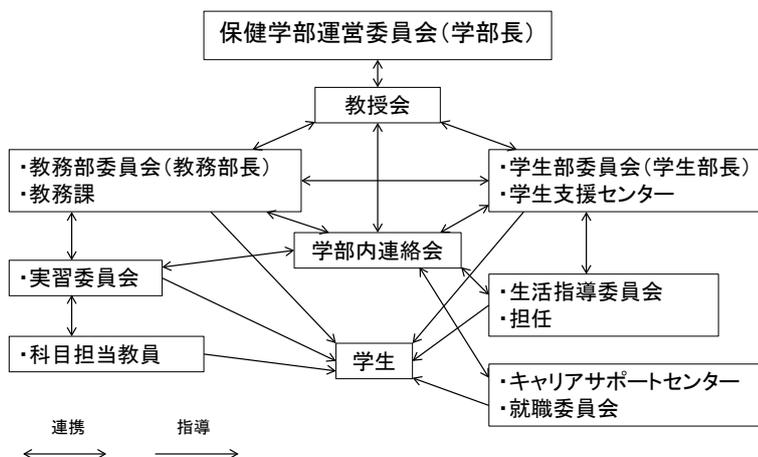
(4) 組織体制(図参照)

- ①教育課程内の取り組みを実施するにあたっては、教務委員会が履修方法、時間割設定、教員配置等の実務を行う。
- ②教育課程外の取り組みではキャリアサポートセンターと就職委員会が実務的な中心的役割を担う。
- ③就職委員会の委員は就職アドバイザーとして、キャリアサポートセンターと連携をとりながら、学生個々のニーズに合った進路支援を行う。

社会的・職業的自立に関する指導体制(組織図)

教育課程内の取り組みにおける組織体制

教育課程外の取り組みにおける組織体制



学生確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生確保の見通し

ア) 定員充足の見込み

杏林大学保健学部では既存の理学療法学科および作業療法学科を基盤学科として、「リハビリテーション学科」（入学定員を 140 名：理学療法学専攻 65 名、作業療法学専攻 50 名、言語聴覚療法学専攻 25 名、収容定員を 560 名）の新設を立案し申請する。

我が国におけるリハビリテーションは、急性期医療から地域におけるリハビリテーションまでの様々な病期、領域で実施され、複雑化、高度化している。その中において大学病院や地域の中核病院では主に理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がチームを組み、早期の社会復帰や地域包括ケアシステムの構築を目指す方向に進んでいる。

2021 年度版内閣府高齢社会白書では、我が国の高齢化率は 28.8%と報告され、その率は年々増加していることから、高齢化対策を講じることが急務とされている。高齢化対策としては、厚生労働省の健康日本 21（第二次）において「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」を掲げて以来、高齢期の健康づくりの中でも特に高齢者リハビリテーションに関する需要がますます高まっている。

高齢者リハビリテーションは地域包括ケアシステムの中で取り込まれ、医療、介護、介護予防の各方面で様々な関わりが求められることから、リハビリテーション専門職の十分な数と、地域における数の格差の解消が求められている。

日本リハビリテーション医学会の実態調査によると、現時点において需要に見合う十分な数のリハビリテーション専門職が輩出されているとは言い難く、中でも急性期病院は回復期慢性期病院に比べ病床あたりの療法士数は少なく、逆に急性期患者数は多いのが現状である。リハビリテーション 3 職種の中でも特に言語聴覚士が顕著に不足しており、リハビリテーションチームを組む上でもアンバランスが生じている（別添資料 1）。

言語聴覚士は、高齢者の摂食・嚥下障害に起因する誤嚥性肺炎の予防や低栄養状態に関する対策に重要な役割を担っている。また 2020 年以降は、重篤な新型コロナウイルス感染症患者において人工呼吸器離脱後嚥下障害、嘔声、気管切開などによるコミュニケーション障害への対策として言語聴覚士の需要が増加してきている。

しかしながら、民間病院を中心とした病院団体の協議会である四病院団体協議会での「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士需要調査」によると、言語聴覚士については、「募集しても応募がない」との回答の割合が 58.5%（別添資料 2）と高く、現時点では言語聴覚士不足が問題となっている。

そこで今回、杏林大学保健学部では、既存の理学療法士養成および作業療法士養成に加

え、新たに言語聴覚士を養成することとし、リハビリテーションの充実に貢献することとした。更に、大学病院や地域の中核病院における多職種連携に対するニーズの急激な増加と、地域包括ケアシステムにおいて活躍できる力の必要性に鑑み、高度な専門性に加え、チームとしての連携力の育成も重視することとした。本学の言語聴覚士養成においては、初期の教育段階から理学療法士、作業療法士とのチーム意識を育むと同時に円滑なコミュニケーション力の基礎を築くこと、更に、本学が位置する多摩地区におけるリハビリテーション専門職の供給を担うことを目的とする。

杏林大学保健学部では、開設以来、保健医療領域における社会ニーズに適応した学部編成を行ってきた。現在、臨床検査技術学科、健康福祉学科、看護学科(看護学専攻、看護養護教育学専攻)、臨床工学科、救急救命学科、理学療法学科、作業療法学科、診療放射線技術学科、臨床心理学科より構成され、保健医療分野をほぼ網羅する 9 学科 2 専攻を設置している。これらの学科は乳幼児から高齢者までを対象に、保健衛生の面から心身の健康づくり、機能回復訓練、生活支援と幅広い学問領域を網羅しており、「リハビリテーション学科」申請に関わる学問的基盤は充分にあると考えられる。

以上より、既存の理学療法士養成および作業療法士養成に加え、新たに言語聴覚士を養成することとし、急性期の医学的リハビリテーションから地域リハビリテーションまで専門職としてチーム医療に貢献できる人材を養成することにした。また、3 職種の連携力を育むことにも重点を置き「リハビリテーション学科」を新設することとした。以下に定員充足の見込みについて説明する。

イ) 定員充足の根拠となる客観的データの概要

① 主な学部別志願者・入学者動向（日本私立学校振興・共催事業団）より

近年、増加する生活習慣病や超高齢社会における高齢化対策に対応するための人員養成が急務となっている。これを反映して、私学保健系分野の大学入学志望動向は高い水準が維持されている。日本私立学校振興・共催事業団が報告している「2021（令和 3）年度私立大学・短期大学等入学志願動向」の「主な学部別志願者・入学者動向（大学）」（別添資料 3）によれば、私立大学保健系学部の入学定員は、2017（平成 29）年度が、32,850 名、2018（平成 30）年度が、34,307 名、2019（令和元）年度が、35,781 名、2020（令和 2）年度が 37,221 名、2021（令和 3）年度が 38,143 名であり、志願者数については、2017（平成 29）年度が、179,961 名、2018（平成 30）年度が、185,322 名、2019（令和元）年度が 188,352 名、2020（令和 2）年度が 200,366 名、2021（令和 3）年度は 188,155 名であり、その志願倍率はおおよそ 5 倍で維持され安定している。また、入学定員充足率も 2017（平成 29）年度が、102.16%、2018（平成 30）年度が、101.06%、2019（令和元）年度が 100.81%、2020（令和 2）年度は 101.34%、2021（令和 3）年度は 99.97%と微減はしているが安定して

いる。したがって、保健系分野は、依然、高いニーズがあり学生確保の見通しは充分であると判断される。

②2020年度文部科学省学校基本調査を基にしたリクルート進学総研のデータより

次に杏林大学保健学部に通学する学生の約7割が南関東出身者であることから、定員充足の根拠を南関東1都3県（東京、神奈川、埼玉、千葉）のデータを主に用いて説明する。

2020（令和2）年度文部科学省学校基本調査を基にしたリクルート進学総研がまとめた報告によると、全国と同様に南関東1都3県の18歳人口が減少する中で、南関東の18歳の現役高校生の大学への進学者数は、2016（平成28）年が158,134人、2017（平成29）年が160,276人、2018（平成30）年が158,255人、2019（令和元）年が158,870人、そして2020（令和2）年が159,675人と、過去5年間において、およそ15.8万～16万人で安定して推移している。また、大学進学率は58.6%で前年度より1.1ポイント上昇し、過去最高となっている（別添資料4）。したがって、南関東には約15万人の大学受験生が安定して控えていると言える。

③本学入学者データより

新設を申請する杏林大学保健学部リハビリテーション学科は、既存の理学療法学科および作業療法学科を基盤学科とするため、これらの学科の過去5年間と最新の入学試験状況（別添資料5）から定員充足の根拠を説明する。

既存の理学療法学科の2017（平成29）年度から2020（令和2）年度の入学試験状況において、志願倍率は、18.2～26.9倍と高倍率を維持し多くの志願者を獲得していた。しかしながら、2021（令和3）年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、志願者は前年と比べ314名減少し、志願倍率は13.3倍であった。2022（令和4）年度の入学試験では、新型コロナウイルス感染が続いている状況下であっても志願者は869名と前年と比較して127名増加し、志願倍率は15.5倍となり回復の兆候が見られる。今回、入学定員9名の増員を行ったとしても、新設する「リハビリテーション学科理学療法学専攻」において安定した収容定員を確保できると判断した。

また、既存の作業療法学科の2017（平成29）年から2019（令和元）年の入学試験状況において、志願倍率は、6.5～8.2倍となっており、確実に志願者を獲得していたが、2020年（令和2）年度以降は、志願者は前年度より減少してきている。2021（令和3）年度の志願者数は253名であり、志願倍率は4.7倍であった。2022（令和4）年度の入学試験では、新型コロナウイルス感染が続いている状況下であったが志願者は202名で、志願倍率は3.7倍となっている。

2020（令和2）年度以降3年間志願者数が減少している状況に鑑み、今回新設する「リハビリテーション学科作業療法学専攻」では、既存の作業療法学科入学定員54名を4名減

らし 50 名とすることとした。2022（令和 4）年度の入学試験志願者は 202 名であったが、50 名の定員とした場合、志願倍率は 4 倍を超しているため、安定した収容人数を確保できると判断した。

④他大学の入試状況より

新設する「リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻」の定員充足について、競合する関東近郊における言語聴覚士を養成する大学の入試状況から考察する。**別添資料 6** に各大学の昨年 2021 年（令和 3 年）度の入学定員、志願者数、志願倍率を示す。各大学の志願倍率は 2.2～4.1 倍となっており、全ての大学で入学定員の 2 倍以上の志願者数を獲得している。仮にこの 5 つ大学の志願者数を合算し、入学定員を合算したもので除してみると、全体の志願倍率は 2.9 倍となり、関東近郊における言語聴覚士を養成する大学の志願規模は充分であることから、今回新設する「リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻」の 25 名の学生確保は十分にできるものと考えられる。

⑤「進学ブランド力調査 2021」より

株式会社リクルートマーケティングパートナーズが行った「進学ブランド力調査 2021」（**別添資料 7**）における「分野別志願度ランキング」のうち「看護・医療・保健・衛生」の関東圏で、杏林大学は 2 位となっている。杏林大学保健学部は 2016 年 4 月に井の頭キャンパスへ移転しており、新キャンパスで学ぶことができること、また、学生に人気の街である吉祥寺が最寄りであり、学問以外の学生生活の充実も見込まれることから学生の注目を集めている。その中でリハビリテーション専門職を目指す学生の獲得に関しても好条件であり、安定的に学生確保の条件がそろっていると言える。

⑥高校生および高校教諭へのアンケート結果より

次に客観的なデータに基づき学生確保の見通しを検討するため、リハビリテーション学科および言語聴覚療法学専攻について、市場調査会社と共同で質問紙調査を行った。

具体的には東京都内および東京近郊の高校生および高校教諭に対し以下の質問紙調査を行った。質問紙調査の概要および結果は以下のとおりである。

《リハビリテーションに関する質問紙調査》

[1]調査期間：2021 年 12 月 10 日～2022 年 1 月 14 日

[2]調査対象：本学受験実績のある東京都内および東京近郊の高校に在籍中の 2 年生
2、021 名および高校教諭 35 名

[3]調査目的：本学保健学部リハビリテーション学科設置計画の検討のため、高校生の進学需要等を把握し、設置計画の基礎資料とする。

[4]調査方法：対象者にリハビリテーション専門職に関する質問紙を配布し自記式調

査（Web および書面）により実施。

[5] 質問紙調査結果（別添資料 8-1～3）

(1) 生徒の質問内容に対する結果

1-1) 回収状況

855名の回答を得た。回収率は42.3%であった。

1-2) 高校生のリハビリテーション専門職への関心

「大変興味がある」と「やや興味がある」を「興味がある」とし、「あまり興味がない」と「全く興味が無い」を「興味がない」とすると次のようになった。

理学療法士：「興味がある」32%（271名）、「興味がない」68%（584名）、
作業療法士：「興味がある」21%（183名）、「興味がない」79%（672名）、
言語聴覚士：「興味がある」17%（134名）、「興味がない」83%（721名）

であった。概ね20～30%の高校生がリハビリテーション専門職の資格に関心を持っており、言語聴覚士は作業療法士よりもやや低い、興味を持つ生徒が15～20%いることが分かった。

1-3) 進学して取得したいリハビリテーション専門職資格について

現時点で取得したい資格が決まっており、1つの資格だけを希望する生徒は、理学療法士が168名、作業療法士が27名、言語聴覚士が27名であった。言語聴覚士を希望する生徒数は、作業療法士を希望する生徒数と同数であり、作業療法士希望者と同様な志願者を確保できると思われた。

一方、いずれかの資格に興味はあるが、現時点では一つには絞り切れていない生徒は100名おり、今後、資格の内容や就職等を調べた上でいずれかの資格を目指すものと思われた。

(2) 高校教諭の質問に対する結果

2-1) 回収状況

20名の回答を得た。回収率は57.1%であった。

2-2) 生徒のリハビリテーション専門職資格の認知度について

高校教諭から見た生徒のリハビリテーション専門職資格について、「よく知っている」と「知っている」を「知っている」、「あまり知らない」と「全く知らない」を「知らない」とし、「勧める」と「まあ勧める」を「勧める」、「あまり勧めない」と「勧めない」を「勧めない」として結果処理を行った。

理学療法士を「知っていると思う」45%（9名）、「知らないと思う」55%（11

名)、作業療法士を「知っていると思う」20% (4名)、「知らないと思う」80% (16名)、言語療法士を「知っていると思う」5% (1名)、「知らないと思う」95% (19名)であり、認知度は言語聴覚士の低さが目立つ結果であった。また、生徒に対するリハビリテーション専門職資格取得の推奨について、理学療法士は、「勧める」80% (16名)、「勧めない」20% (4名)、作業療法士は、「勧める」75% (15名)、「勧めない」25% (5名)、言語聴覚士は、「勧める」70% (14名)、「勧めない」30% (6名)と70~80%の教員がリハビリテーション専門職資格取得を推奨していた。資格取得の推奨については、各資格とも同様であることから、今後、教師の勧めによる言語聴覚士資格の認知度や資格取得希望者数が向上することが期待される結果であった。

2-3) 高校教諭から見た各資格を希望する生徒数について

理学療法士は、「7人以上」4名、「5から6人」9名、「3から4人」4名、「数人」2名「0人」1名、作業療法士は、「7人以上」1名、「5から6人」3名、「3から4人」7名、「数人」9名、「0人」0名、言語聴覚士は、「7人以上」0名、「5から6人」0名、「3から4人」3名、「数人」11名、「0人」6名であった。生徒の回答からの結果からすると、言語聴覚士資格の希望者数は作業療法士資格と同程度と推定されるが、教師が推測する希望者数とは乖離が見られた。

2-4) 自由回答について

様々な自由回答が寄せられたが、概ね次のように要約できる。

- ① 高校生にとって理学療法士は身近な存在で理解されている。
- ② 作業療法士や言語聴覚士についてはほとんど理解されていない。
- ③ これから必要とされる分野なので、認知度を高める必要がある。
- ④ 各高校でリハビリテーション専門職に特化したガイダンスも必要。

理学療法士の知名度や関心が高いことが示されているが、今後、作業療法士や言語聴覚士を含めたリハビリテーション専門職資格の認知度を向上させる必要性が明らかとなった。高校生向けの進学情報を提供している数社の現状分析によると、現在の高校生はインターネットを駆使して現状の把握に長けており、自分の将来について多くの情報を収集していると指摘しており、大学からの積極的な情報発信が重要であるとの認識であるが、今回の調査からも情報発信の必要性を再確認する結果であった。

以上の調査結果と前述の本学既存の理学療法学科および作業療法学科の入試状況から、新設する「リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻」の志願者数を推定すると次のようになる。

- ① 生徒への調査結果において「リハビリへの関心」、「進学して取得したいリハビリ資格」における回答から、作業療法士志望者数と言語聴覚士志望者数は同等であると言える。したがって、作業療法学科の2022年度入学試験志願者数は202名であったことより、言語聴覚療法学専攻の志願者数は200名程度と推定される。
- ② 「進学して取得したいリハビリ資格」の結果において、言語聴覚士希望者数と理学療法士希望者数の比率は1:6であったことから、2022年の理学療法学科の入学試験における志願者数869名を基に推定すると $869 \div 6 = 144.8$ 名で140名程度となる。

したがって、①②より新設する「リハビリテーション学科言語聴覚療法専攻」の入学試験において140～200名程度の志願者が期待できると考えられ、入学定員25名に対して安定的に学生の確保が可能であると判断した。

また、高校教諭への調査結果から、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の3職種の資格取得を同程度に推奨していることが明らかになり、今後リハビリテーション専門職全体の認知度を上げることに繋がるものと期待される。

ウ) 学生納付金の設定の考え方

学生納付金に関しては、保健医療領域の学部に設置されリハビリテーション学科として3専攻がそろっている競合校と比較すると、「北里大学 医療衛生学部 リハビリテーション学科」の1年次1,800,000円、2～4年次以降1,750,000円（別添資料9）、「東京工科大 医療保健学部 リハビリテーション学科」の1年次1,923,300円、2年次1,590,000円、3年次・4年次1,662,000円（別添資料10）を参考にし、既存の理学療法学科および作業療法学科と同額とし杏林大学の校舎等教育施設の規模、経営状況等を熟慮して決定した。

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

杏林大学では、全学部の学生確保に向けた取組として、入学センターおよび各学部の入試委員会が主体となって、全教職員協働による入試制度の改善と学生募集広報活動の強化を図っている。

入学試験形態については、各学部の入学者受入れの方針に基づき、大学共通テスト利用選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を基本とし、外国人留学生選抜、総合型選抜（AO 入試）等の受験者のニーズに配慮した適切かつ多様な形態の入学試験を実施している

学生募集については、入学者受入れの方針に基づき、大学ホームページ、受験雑誌、新聞、電車の車内広告、オープンキャンパス、高校教員への説明会、進学相談会、高校訪問等により広く告知しているが、その効果はオープンキャンパスの参加者数の増加や入学試験志願者の増加等に現れている。

また、質問紙調査結果にあったように、リハビリテーション専門職全体の認知度を向上させることで、言語聴覚士の志願者数を獲得できることが見込まれるため、リハビリテーション専門職に特化した説明会も計画している。

<入試に関する説明会等の取組状況>

ア) オープンキャンパス

保健学部における過去 5 年間のオープンキャンパス参加者数を次に示した。2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大により中止、2021 年度はオンライン開催であったが、それまでは、毎年 4,000 名以上の参加者を得ており、高校生が大学の校風や雰囲気、入試情報を得るために訪れている。

年度別実施回数・来場者数(2016 年度～2021 年度)

	実施回数	来場者数
2016（平成 28）年度	2 回	4,398
2017（平成 29）年度	2 回	4,195
2018（平成 30）年度	2 回	4,635
2019（令和元）年度	2 回	5,064
2020（令和 2）年度	コロナにより中止	-
2021（令和 3）年度 （オンライン開催）	2 回	3,384

イ) 高校教諭への説明会

多摩地区を中心に高校教諭へも大学情報を発信している。

年度別実施回数・参加者校数(2017年度～2021年度)

	実施回数	参加者校
2017(平成29)年度	2回	122校
2018(平成30)年度	2回	133校
2019(令和元)年度	2回	141校
2020(令和2)年度	コロナにより中止	-
2021(令和3)年度 (オンライン開催)	1回	73校

ウ) 進学相談会

予備校、進学塾や受験産業が開催し、受験生と直接接することができる「進学相談会」を重要なものと位置づけて、可能な限り積極的に参加している。

年度別実施回数・来場者数(2017年度～2021年度)

	実施回数	来場者数
2017(平成29)年度	247回	4,025
2018(平成30)年度	133回	4,102
2019(令和元)年度	180回	2,289
2020(令和2)年度	164回	3,732
2021(令和3)年度	204回	4,252

エ) 高校訪問

教職員全員で関東圏を中心に高校訪問を実施してきたが、近年はその数を減らし、代わりに模擬授業等での訪問を増やしている。

高校訪問 年度別訪問校数(2017年度～2021年度)

	訪問校数	
2017(平成29)年度	167	
2018(平成30)年度	211	
2019(令和元)年度	355	
2020(令和2)年度	314	
2021(令和3)年度	63	

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

杏林大学の理念・目的は、「教育基本法および学校教育法に則り、かつ建学の精神に基づいて、崇高な人類愛と高度の科学精神を基盤とするすぐれた人材の育成を目的とし、以て広く人類の福祉に貢献することを使命とする」と杏林大学学則に明記されている。

これらの理念・目的の基本となる建学の精神は、「眞・善・美の探究」である。この建学の精神を通じて、優れた人格を持ち、人のために尽くすことの出来る国際的な人材を育成することが、本学の教育理念である。「眞」は真実・真理を究めるための学問をすることであり、真実・真理に対して謙虚であるとともに、自ら進んで学び、研究することを意味している。「善」は倫理観を持ったよき人間性・人格を形成することであり、他人に対してやさしく、思いやる心を持った人格を自ら築き上げて、人のために尽くすことである。「美」は真理に対し謙虚に学ぶ姿勢を持ち、他人を尊重し、自らの身を持するのに厳しく、美しいものを美しいと感じる感性を磨くよう努めれば、自然に美しい立派な風格のある人間に成長していくことを意味している。

杏林大学保健学部では、開設以来、保健医療領域における社会ニーズに適応した学部編成を行ってきた。現在、保健学部は、臨床検査技術学科、看護学科(看護学専攻、看護看護教育学専攻)、臨床工学科、救急救命学科、健康福祉学科、理学療法学科、作業療法学科、診療放射線技術学科、臨床心理学より構成され、保健医療分野をほぼ網羅する9学科2専攻を設置しているが、リハビリテーション専門職のうち言語聴覚士の養成には着手しておらず、リハビリテーション専門職において地域の要請にできていない現状であり、チーム医療についての教育についても充分であるとは言えない状態であった。

リハビリテーションの対象者は、子供から高齢者まで全ての年代にわたり、様々なニーズへの対応が求められる。中でも超高齢社会を迎えた現在、厚生労働省の健康日本 21（第二次）では、「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」を第一に挙げており、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間を延ばし、かつ地域や社会経済状況の違いによる集団間の健康状態の差を縮小し国全体の健康レベルを底上げすることを目標に掲げ、国策として高齢者リハビリテーション支援に関することが示されている。

そこで今回、杏林大学保健学部では、既存の理学療法士養成および作業療法士養成に加え、新たに言語聴覚士を養成することとした。更に、今日の大学病院や地域の中核病院における多職種連携に対するニーズの急激な増加に鑑み、各々の分野における専門性に加え、チームとしての連携力の育成も重視することとした。保健学部の中にリハビリテーション学科を設置し、その中に理学療法学専攻、作業療法学専攻、言語聴覚療法学専攻の3専攻を配置し、各専攻で連携しながら専門教育を行うことで、急性期の医学的リハビリテーションから地域リハビリテーションまで専門職としてチーム医療に貢献できる人材を養成することを目的とした。

(2) 上記 (1) が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

2022（令和4）年1月26日の第513回中央社会保険医療協議会総会において2022（令和4）年の診療報酬改定の個別改定項目が示された。その項目の中には「早期離床・リハビリテーション加算における職種要件の見直し」（別添資料11-1）があり、「特定集中治療室等に入室後早期から実施する離床に向けた取組を更に推進するため、早期離床・リハビリテーションに関わる職種に言語聴覚士を追加する」という改定案が出されている。このことによって、急性期のリハビリテーション医療における言語聴覚士の必要性がより明確に示され、言語聴覚士に対する需要が更に高まるものと考えられる。

また、「特定機能病院においてリハビリテーションを担う病棟の評価の新設」（別添資料11-2）の中では、「当該病棟に専従の常勤の理学療法士が3名以上、専従の常勤の作業療法士が2名以上、専従の常勤の言語聴覚士が1名以上、専従の常勤の管理栄養士が1名以上、在宅復帰支援を担当する専従の常勤の社会福祉士等が1名以上配置されていること」となっており、専従かつ常勤のリハビリテーション関連有資格者の配置が条件づけられている。特にリハビリテーション専門3職種における人数比率が明確化されチーム医療を積極的に行うこと、質の高いリハビリテーションを提供することが示されている。この評価の算定条件における理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の人員配置要件の比率は3:2:1であり、本学が新設する「リハビリテーション学科」における3専攻の入学定員比率である2.6:2:1は、これと近似しており、現状の社会的要請および需要に適ったものであると考えられる。

更に内閣府の2021年度版内閣府高齢社会白書によれば、我が国の総人口は、2020（令和2）年10月1日現在、1億2,571万人となっており、65歳以上人口は3,619万人、高齢化率は28.8%となった。また、65歳以上人口のうち、前期高齢者である「65～74歳人口」は1,747万人で総人口に占める割合は13.9%、後期高齢者である「75歳以上人口」は1,872万人で、総人口に占める割合は14.9%であり、後期高齢者数が前期高齢者数を上回っており益々高齢化が進んでいる状況である。

また、高齢者人口の増加と共に認知症高齢者の増加も見られ、認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）では、2012（平成24）年で462万人、2025（令和7）年には約700万人となり、65歳以上の高齢者の約5人に1人に達すると推計されている。東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県で見ても、厚生労働省「介護保険事業状況報告 都道府県別 要介護認定者数」によると、要介護（要支援）認定数は増加傾向にある。

このように高齢者の増加によって、認知症や生活習慣病だけでなく、さまざまな疾患を持つ患者の増加が見られ、医療分野だけでなく、福祉・介護分野においてもリハビリテーション専門職の人材確保の必要性に迫られている。

別添資料 12 は、3 年ごとに行っている厚生労働省「患者調査」の結果である。これは、これまでの 2011（平成 23）年、2014（平成 26）年、2017（平成 29）年の主な疾病分類別にみる全国の患者数を示したものである。この 3 回の調査における患者数推移をみると、認知症を含む神経系の疾患、生活習慣病である循環器系の疾患のうち心疾患は増加し、他の疾患は横ばい状況であることが分かる。超高齢社会の中にあって、リハビリテーション対象疾患が増加しており、急性期医療におけるリハビリテーションから地域リハビリテーションを担当する理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を中心としたコメディカルスタッフの更なる需要が見込まれる。

以上より、リハビリテーション専門 3 職種は、急性期医療から地域リハビリテーションはもちろんのこととして、介護・福祉サービスの分野においても活躍が期待されている。現時点で、既にこれらの分野への就職をしている学生は多数おり、既存の理学療法学科および作業療法学科における最近 5 年の求人件数（**別添資料 13**）でもわかるように就職希望者に対して毎年 15 倍以上の求人数があり、また例年就職率は 100%を維持しており、リハビリテーション学科を新設し収容定員を変更した場合においても卒業後の進路の確保が見込めるものと考えられる。

以上のように、これまでの就職実績から新設するリハビリテーション学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は社会的・地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであり、今後の学生の就職先の確保は十分に可能であると考えられる。

参考文献

- ・ **別添資料 1** : 2014 年日本リハビリテーション医学会研修施設における療法士数の実態調査資料より引用
- ・ **別添資料 2** : 平成 28 年度医療従事者の需給に関する検討会第 2 回 理学療法士・作業療法士需給分科会資料より引用
- ・ **別添資料 3** : 2021 (令和 3) 年度私立大学・短期大学等入学志願動向より引用
- ・ **別添資料 4** : 株式会社リクルート進学総研の「【都道府県別：南関東】18 歳人口・進学率・残留率の推移 2020 年」より引用
- ・ **別添資料 6** : 北里大学 (<https://www.kitasato-u.ac.jp/jp/index.html>)、
東京工科大学 (<https://www.teu.ac.jp/>)
帝京平成大学 (<https://www.thu.ac.jp/>)
国際医療福祉大学 (<https://www.iuhw.ac.jp/>)
* 上記各大学のホームページにて発表された入試結果を参照
- ・ **別添資料 7** : 株式会社リクルートマーケティングパートナーズ「進学ブランド力調査 2021」より引用
- ・ **別添資料 9** : 北里大学 学納金掲載ページより引用
https://www.kitasato-u.ac.jp/jp/goukaku/undergraduate_ad/fees/fees.html
- ・ **別添資料 10** : 東京工科大学 学納金掲載ページより引用
<https://www.teu.ac.jp/entrance/006272.html>
- ・ **別添資料 11-1** : 2022 (令和 4) 年 1 月 26 日の第 513 回中央社会保険医療協議会総会資料より引用
- ・ **別添資料 11-2** : 2022 (令和 4) 年 1 月 26 日の第 513 回中央社会保険医療協議会総会資料より引用
- ・ **別添資料 12** : 厚生労働省「患者調査」より引用

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	ワタベ タシ 渡邊 卓 <令和4年4月>		博士 (医学)		杏林大学学長 (令和4年4月)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等 （杏林大学保健学部リハビリテーション学科理学療法専攻）												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大学等の職 務に従事する 週当たり平均日数
1	専	教授 (学科 長)	アトミ トモアキ 跡見 友章 <令和5年4月>		博士 (健康科 学)		リハビリテーション解剖学 運動解剖学演習 理学療法評価学演習Ⅱ 高次脳機能障害学 運動器障害系理学療法 運動器障害系理学療法 演習 臨床理学療法実習 臨床理学療法推論学演習 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 地域理学療法実習 総合臨床実習 基礎理学療法演習Ⅰ 基礎理学療法演習Ⅱ 卒業研究	1後 2後 2後 3後 3前 3後 3通 4後 1前 2後 3後 3後 4前 3通 4後 4通	1.0 1.0 1.0 0.7 2.0 1.0 2.0 1.0 1.0 1.0 2.0 4.0 1.0 14.0 2.0 2.0 2.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 理学療法学科 教授 (平成30年4月)	5日
2	専	教授	イシイ ヒロユキ 石井 博之 <令和5年4月>		博士 (保健医 療学)		運動学実習 理学療法評価学演習Ⅱ 運動療法実習 義肢装具学 義肢装具学実習 神経障害系理学療法 小児理学療法 神経障害系理学療法演習 理学療法国際事情 障害者スポーツ演習 臨床理学療法実習 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 地域理学療法実習 総合臨床実習 応用理学療法演習 基礎理学療法演習Ⅰ 卒業研究	2前 2後 3前 3前 3後 3前 3後 3通 4後 1前 3通 1前 2後 3後 3後 4前 4後 3通 4通	1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.1 1.0 2.0 0.4 1.0 2.0 1.0 2.0 4.0 1.0 14.0 1.0 2.0 2.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 理学療法学科 教授 (平成30年4月)	5日
3	専	教授	シバタ シゲキ 柴田 茂貴 <令和5年4月>		博士(医 学)		内科学Ⅰ リハビリテーション基礎 医学 リハビリテーション基礎 医学演習 人間発達学 理学療法概論 病態運動学演習 高齢者理学療法演習 臨床理学療法実習 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 地域理学療法実習 総合臨床実習 基礎理学療法演習Ⅰ 卒業研究	2前 1後 2前 2後 1前 3前 3後 3通 1前 2後 3後 3後 4前 3通 4通	0.8 2.0 1.0 0.1 0.3 1.0 1.0 2.0 1.0 2.0 4.0 1.0 14.0 2.0 2.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 理学療法学科 教授 (平成30年4月)	5日
4	専	教授	ヤツナミ ミツノブ 八並 光信 <令和5年4月>		博士(リ ハビリ テー ション 学)		理学療法評価学概論 運動療法 内部障害系理学療法 内部障害系理学療法演習 臨床理学療法実習 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 地域理学療法実習 総合臨床実習 理学療法統計学演習 理学療法研究法 基礎理学療法演習Ⅰ 卒業研究	1前 2後 3前 3後 3通 1前 2後 3後 3後 4前 3前 4後 3通 4通	0.5 0.5 0.8 1.0 2.0 1.0 2.0 4.0 1.0 14.0 1.0 1.0 2.0 2.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 理学療法学科 教授 (平成21年4月)	5日
5	専	准教授	イチバ トモミ 一場 友実 <令和5年4月>		博士(理 学療法 学)		運動学 運動学実習 理学療法評価学実習 日常生活技術学実習 臨床理学療法実習 理学療法国際事情 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 地域理学療法実習 総合臨床実習 障害者スポーツ演習 応用理学療法演習 基礎理学療法演習Ⅰ 卒業研究	1前後 1後 2後 3前 3通 4後 1前 2後 3後 3後 4前 1前 1後 3通 4通	2.0 1.0 1.0 1.0 2.0 0.6 1.0 2.0 4.0 1.0 14.0 1.0 1.0 2.0 2.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 理学療法学科 准教授 (平成30年4月)	5日

6	専	准教授	エノモト ユキエ 榎本 雪絵 <令和5年4月>	博士(医療福祉学)	理学療法概論 理学療法評価学実習 高次脳機能障害学 物理療法学実習 日常生活技術学 日常生活技術学実習 臨床理学療法学実習 地域理学療法学 生活環境学 臨床理学療法学実習 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 地域理学療法学実習 総合臨床実習 基礎理学療法学演習Ⅰ 卒業研究	1前 2後 3後 2前 2後 3前 3通 3後 3前 3通 1前 2後 3後 3後 4前 3通 4通	0.3 1.0 0.3 1.0 1.0 1.0 2.0 2.0 1.0 1.0 2.0 1.0 1.0 4.0 1.0 14.0 2.0 2.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 理学療法学科 准教授 (平成21年4月)	5日
7	専	准教授	カラスヤアキ 鳥山 亜紀 <令和5年4月>	博士(保健学)	理学療法概論 人間発達学 理学療法評価学演習Ⅱ 運動療法学実習 小児理学療法学 小児理学療法学演習 臨床理学療法学実習 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 地域理学療法学実習 総合臨床実習 応用理学療法学演習 基礎理学療法学演習Ⅰ 卒業研究	1前 2後 2後 3前 3前 3後 3通 1前 2後 3後 3後 4前 4後 3通 4通	0.3 1.9 1.0 1.0 1.9 1.0 2.0 1.0 2.0 4.0 1.0 14.0 1.0 2.0 2.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 理学療法学科 准教授 (令和4年4月)	5日
8	専	准教授	キムラ マサヒコ 木村 雅彦 <令和5年4月>	博士(保健科学)	理学療法用語論 運動学実習 理学療法評価学演習Ⅱ 理学療法治療学総論 運動療法学実習 内部障害系理学療法学 内部障害系理学療法学演習 急性期理学療法学 臨床理学療法学実習 理学療法管理学 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 地域理学療法学実習 総合臨床実習 応用理学療法学演習 基礎理学療法学演習Ⅰ 卒業研究	2前 2前 2後 3前 3前 3前 3後 3後 3通 4後 1前 2後 3後 3後 4前 4後 3通 4通	0.5 1.0 1.0 0.1 1.0 1.2 1.0 1.0 2.0 2.0 1.0 2.0 4.0 1.0 14.0 1.0 2.0 2.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 理学療法学科 准教授 (平成29年4月)	5日
9	専	准教授	クラバヤシジュン 倉林 準 <令和5年4月>	博士(保健学)	病態運動学演習 理学療法評価学演習Ⅱ 理学療法評価学実習 物理療法学実習 日常生活技術学実習 運動器障害系理学療法学演習 スポーツ障害理学療法学 臨床理学療法学実習 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 地域理学療法学実習 総合臨床実習 理学療法解析手法演習 応用理学療法学演習 基礎理学療法学演習Ⅰ 卒業研究	3前 2後 2後 2前 3前 3後 3前 3通 1前 2後 3後 3後 4前 4後 3通 4通	1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 2.0 1.0 2.0 4.0 1.0 14.0 1.0 1.0 2.0 2.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 理学療法学科 准教授 (令和2年4月)	5日
10	専	准教授	ハンダテ ヒロユキ 橋立 博幸 <令和5年4月>	博士(保健学)	リハビリテーション概論 理学療法評価学概論 理学療法評価学演習Ⅰ 理学療法評価学演習Ⅱ 理学療法評価学実習 物理療法学実習 日常生活技術学実習 神経障害系理学療法学 神経障害系理学療法学演習 高齢者理学療法学演習 臨床理学療法学実習 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 地域理学療法学実習 総合臨床実習 応用理学療法学演習 基礎理学療法学演習Ⅰ 卒業研究	1後 1後 2前 2後 2後 2前 3前 3前 3後 3後 3通 1前 2後 3後 3後 4前 4後 3通 4通	1.0 0.5 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 0.9 1.0 1.0 2.0 1.0 2.0 4.0 1.0 14.0 1.0 2.0 2.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 理学療法学科 准教授 (平成29年4月)	5日

11	専	准教授	ムラマツ ケン 村松 憲 ＜令和5年4月＞	博士(保健学)	理学療法用語論 理学療法評価学演習Ⅱ 運動療法学 運動療法学実習 物理療法学 物理療法学実習 義肢装具学実習 臨床理学療法学実習 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 地域理学療法学実習 総合臨床実習 応用理学療法学演習 基礎理学療法学演習Ⅰ 卒業研究	2前 2後 2後 3前 1後 2前 3後 3通 1前 2後 3後 3後 4前 4後 3通 4通	0.5 1.0 0.5 1.0 1.0 1.0 1.0 2.0 1.0 2.0 4.0 1.0 14.0 1.0 2.0 2.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 理学療法学科 准教授 (平成30年4月)	5日
12	専	講師	フジサワ ユウキ 藤澤 祐基 ＜令和5年4月＞	博士(保健学)	リハビリテーション解剖学実習 動作分析学演習 臨床理学療法学実習 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 地域理学療法学実習 総合臨床実習 基礎理学療法学演習Ⅰ 卒業研究	2前 2後 3通 1前 2後 3後 3後 4前 3通 4通	1.0 1.0 2.0 1.0 2.0 4.0 1.0 14.0 2.0 2.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 理学療法学科 講師 (令和2年4月)	5日
13	専	講師	マツムラ マサシ 松村 将司 ＜令和5年4月＞	博士(保健学)	運動解剖学演習 理学療法評価学演習Ⅱ 理学療法治療学総論 運動器障害系理学療法学演習 徒手理学療法学演習 臨床理学療法学実習 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 地域理学療法学実習 総合臨床実習 応用理学療法学演習 基礎理学療法学演習Ⅰ 卒業研究	2後 2後 3前 3後 4後 3通 1前 2後 3後 3後 4前 4後 3通 4通	1.0 1.0 0.1 1.0 1.0 2.0 1.0 2.0 4.0 1.0 14.0 1.0 2.0 2.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 理学療法学科 講師 (令和2年4月)	5日
14	専	講師	モンマ ヒロシ 門馬 博 ＜令和5年4月＞	博士(保健学)	職業適性論 情報処理論 理学療法概論 運動学演習 運動学実習 理学療法評価学演習Ⅱ 理学療法治療学総論 運動療法学実習 臨床理学療法学実習 障害者スポーツ演習 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 地域理学療法学実習 総合臨床実習 基礎理学療法学演習Ⅰ 卒業研究	1後 1前 1前 1後 2前 2後 3前 3前 3通 1前 1前 2後 3後 3後 4前 3通 4通	0.1 2.0 0.3 2.0 1.0 1.0 0.8 1.0 2.0 1.0 1.0 2.0 4.0 1.0 14.0 2.0 2.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 理学療法学科 講師 (平成30年4月)	5日
15	専	助教	アイハラ ケイタ 相原 圭太 ＜令和5年4月＞	修士(保健学)	動作分析学演習 義肢装具学実習 臨床理学療法学実習 障害者スポーツ演習 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 地域理学療法学実習 総合臨床実習 基礎理学療法学演習Ⅰ 卒業研究	2後 3後 3通 1前 1前 2後 3後 3後 4前 3通 4通	1.0 1.0 2.0 1.0 1.0 2.0 4.0 1.0 14.0 2.0 2.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 理学療法学科 助教 (平成27年3月)	5日
16	専	助教	ハナフサ キョウスケ 花房 京佑 ＜令和5年4月＞	大学卒	運動解剖学演習 理学療法評価学実習 臨床理学療法学実習 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 地域理学療法学実習 総合臨床実習 応用理学療法学演習 基礎理学療法学演習Ⅰ 卒業研究	2後 2後 3通 1前 2後 3後 3後 4前 4後 3通 4通	1.0 1.0 2.0 1.0 2.0 4.0 1.0 14.0 1.0 2.0 2.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 理学療法学科 助教 (平成31年4月)	5日
17	兼任	教授	アイソ トシコ 相磯 聡子 ＜令和5年4月＞	博士(理学)	生命科学概論	1前	2.0	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 教授 (平成28年4月)	
18	兼任	教授	アベ ノブツグ 阿部 展次 ＜令和5年4月＞	博士(医学)	保健・医療の現状と未来Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成11年4月)	
19	兼任	教授	イシイ ハルユキ 石井 晴之 ＜令和5年4月＞	博士(医学)	保健・医療の現状と未来Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成16年5月)	

20	兼担	教授	イチムラ ショウイ 市村 正一 ＜令和5年4月＞	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 II	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成15年4月)
21	兼担	教授	イトウ アツシ 伊藤 敦司 ＜令和5年4月＞	法学修 士		社会と大学 I	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 教授 (平成28年4月)
22	兼担	教授	イノウエ マコト 井上 真 ＜令和5年4月＞	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 II	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成19年4月)
23	兼担	教授	イモト シゲル 井本 滋 ＜令和5年4月＞	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 I	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成19年4月)
24	兼担	教授	イワダテ サクラコ 岩楯 桜子 ＜令和5年4月＞	博士(医 学)		内科学 I	2前	0.5	1	杏林大学保健学部 臨床工学科 教授 (令和2年4月)
25	兼担	教授	イワモトカズヨシ 岩本 和良 ＜令和5年4月＞	Doctor of Philosophy		社会と大学III	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 英語学科 教授 (平成28年4月)
26	兼担	教授	オオヤママナブ 大山 学 ＜令和5年4月＞	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 I	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成27年4月)
27	兼担	教授	オオミネ トモコ 大嶺 智子 ＜令和5年4月＞	博士 (医学)		職業適性論	1後	0.1	1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 教授 (平成19年4月)
28	兼担	教授 (学部 長)	オカジマ ヤストモ 岡島 康友 ＜令和5年4月＞	医学博 士		保健・医療の現状と未来 I リハビリテーション医学	1前 2後	0.1 0.8	1 1	杏林大学保健学部 理学療法学科 教授 (令和2年4月)
29	兼担	教授	オカムラヒロシ 岡村 裕 ＜令和5年4月＞	博士 (保健 学)		社会と大学 I	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成29年4月)
30	兼担	教授	オダ ノブユキ 小田 信之 ＜令和5年4月＞	修士 (経営 学)		社会と大学 II	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成27年4月)
31	兼担	教授	オカダ ヨウジ 岡田 洋二 ＜令和5年4月＞	博士 (保健 学)		職業適性論	1後	0.3	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 教授 (平成31年4月)
32	兼担	教授	カタギリ トモミ 片桐 朝美 ＜令和5年4月＞	博士 (医学)		社会福祉学	1後	0.4	1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 教授 (令和4年4月)
33	兼担	教授	カトウ マサエ 加藤 雅江 ＜令和5年4月＞	文学士		保健・医療の現状と未来 II	1前	0.1	1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 教授 (令和2年7月)
34	兼担	教授	カナメ シンヤ 要 伸也 ＜令和5年4月＞	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 II	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成19年2月)
35	兼担	教授	カワムラマリ 川村 真理 ＜令和5年4月＞	博士 (法学)		社会と大学 I	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成30年4月)
36	兼担	教授	キンノ トモノリ 岸野 智則 ＜令和5年4月＞	博士 (医学)		内科学 I	2前	0.7	1	杏林大学保健学部 臨床工学科 教授 (平成26年4月)
37	兼担	教授	キタジマツトム 北島 勉 ＜令和5年4月＞	博士 (保健 学)		社会と大学 II	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成21年4月)

38	兼担	教授	クボタ ヒロシ 窪田 博 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 II	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成14年4月)
39	兼担	教授	クラバヤヒデオ 倉林 秀男 ＜令和5年4月＞		博士 (英語学)		社会と大学III	1前	0.1	1	杏林大学 外国語学部 英語学科 教授 (令和2年4月)
40	兼担	教授	コウザキ コウイチ 神崎 恒一 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 II	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成17年1月)
41	兼担	教授	コグレ ケンタロウ 木暮 健太郎 ＜令和5年4月＞		修士 (政治学)		社会と大学 I	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (令和2年4月)
42	兼担	教授	コバヤシヨウイチ 小林 陽一 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 I	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成22年7月)
43	兼担	教授	コンドウ ハルヒロ 近藤 晴彦 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 I	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成24年4月)
44	兼担	教授	サイトウコウイチロウ 齋藤 康一郎 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 I	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成27年4月)
45	兼担	教授	サイトウタカシ 斎藤 崇 ＜令和5年4月＞		博士 (経済学)		社会と大学 II	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成28年4月)
46	兼担	教授	サカモト 坂本 ロビン ＜令和5年4月＞		博士 (教育学)		社会と大学III	1前	0.1	1	杏林大学 外国語学部 英語学科 教授 (平成22年4月)
47	兼担	教授	シオカワ ヨシアキ 塩川 芳昭 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 I	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成4年6月)
48	兼担	教授	シマダ アンヨシ 島田 厚良 ＜令和5年4月＞		医学博士		病理学概論	2前	0.5	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 教授 (平成29年4月)
49	兼担	教授	シムラ ヨシヒロ 志村 良浩 ＜令和5年4月＞		社会科学士		社会と大学III	1前	0.1	1	杏林大学 外国語学部 観光交流文化学科 教授 (平成26年5月)
50	兼担	教授	シモジマ ユミ 下島 裕美 ＜令和5年4月＞		博士 (心理学)		発達心理学	1後	2.0	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 教授 (令和3年4月)
51	兼担	教授	シンボウテツオ 進邦 徹夫 ＜令和5年4月＞		修士 (法学)		社会と大学 I	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成24年4月)
52	兼担	教授	ソエジマ キョウコ 副島 京子 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 I	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成23年10月)
53	兼担	教授	タクシマ アキヒコ 多久嶋 亮彦 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 II	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成15年4月)
54	兼担	教授	タキ トモヒコ 滝 智彦 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		小児科学	2後	1.0	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 教授 (平成30年4月)
55	兼担	教授	タナカ コウスケ 田中 浩輔 ＜令和5年4月＞		理学博士		職業適性論 基礎生物学	1後 1前	0.4 1.0	1 1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 教授 (平成27年4月)

56	兼担	教授	タナカ ノブヒロ 田中 信弘 ＜令和5年4月＞	商学修士		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 教授 (平成16年4月)
57	兼担	教授	タライ タケヒロ 樽井 武彦 ＜令和5年4月＞	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学保健学部 救急救命学科 教授 (令和2年4月)
58	兼担	教授	チノ マリコ 千野 万里子 ＜令和5年4月＞	博士 (学術)		社会と大学Ⅲ	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 中国語学科 教授 (令和4年4月)
59	兼担	教授	デジマ ヤスシ 出嶋 靖志 ＜令和5年4月＞	博士(保健学)		公衆衛生学Ⅰ	2前	2.0	1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 教授 (平成27年4月)
60	兼担	教授	テルヤ コウジ 照屋 浩司 ＜令和5年4月＞	医学博士		公衆衛生学Ⅱ	2後	0.5	1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 教授 (平成19年4月)
61	兼担	教授	ナイトウタカオ 内藤 高雄 ＜令和5年4月＞	博士 (経済学)		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 教授 (平成17年4月)
62	兼担	教授	ニシ タカシ 西 孝 ＜令和5年4月＞	経済学 修士		社会と大学Ⅱ	1前	0.3	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成13年4月)
63	兼担	教授	ハラダ ナナコ 原田 奈々子 ＜令和5年4月＞	商学修士		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 教授 (平成18年4月)
64	兼担	教授	ヒサマツ タダカズ 久松 理一 ＜令和5年4月＞	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成27年4月)
65	兼担	教授	ヒラカタ アキト 平形 明人 ＜令和5年4月＞	医学博士		保健・医療の現状と未来Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成4年10月)
66	兼担	教授	ヒラノ テルユキ 平野 照之 ＜令和5年4月＞	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成26年9月)
67	兼担	教授	フクナガ カズヨシ 福長 一義 ＜令和5年4月＞	博士 (工学)		職業適性論 保健・医療の現状と未来Ⅱ	1後 1前	0.1 0.1	1 1	杏林大学保健学部 臨床工学科 教授 (平成30年4月)
68	兼担	教授	フクハラ ヒロシ 福原 浩 ＜令和5年4月＞	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成30年4月)
69	兼担	教授	フルセ ジュンジ 古瀬 純司 ＜令和5年4月＞	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成20年3月)
70	兼担	教授	フルモトヤスユキ 古本 泰之 ＜令和5年4月＞	修士 (観光学)		社会と大学Ⅲ	1前	0.3	1	杏林大学外国語学部 観光交流文化学科 教授 (令和3年4月)
71	兼担	教授	ミヤビ ヒロコ 宮首 弘子 ＜令和5年4月＞	博士 (学術)		社会と大学Ⅲ	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 中国語学科 教授 (平成28年4月)
72	兼担	教授	ヤマグチ ヨシヒロ 山口 芳裕 ＜令和5年4月＞	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成8年9月)
73	兼担	教授	ヤマダ シン 山田 深 ＜令和5年4月＞	博士(医学)		リハビリテーション医学	2後	0.3	1	杏林大学医学部 教授 (令和2年4月)

74	兼担	教授	ヤマダ マコト 山田 慎 <令和5年4月>		博士(学術)		基礎物理学	1前	1.0	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 教授 (令和2年4月)
75	兼担	教授	ヨコヤマ ケンイチ 横山 健一 <令和5年4月>		博士(医学)		保健・医療の現状と未来II	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成7年4月)
76	兼担	教授	ヨロズ トモコ 萬 知子 <令和5年4月>		医学博士		保健・医療の現状と未来I	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成15年4月)
77	兼担	教授	リュウテキ 劉 迪 <令和5年4月>		博士(法学)		社会と大学 I	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成26年4月)
78	兼担	教授	ワタナベ コウイチロウ 渡邊 衡一郎 <令和5年4月>		博士(医学)		保健・医療の現状と未来I	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成24年4月)
79	兼担	教授	ワタナベタクシ 渡辺 剛 <令和5年4月>		修士(法学)		社会と大学 I	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成29年4月)
80	兼担	特任教授	ミヤノ オサム 宮野 收 <令和5年4月>		大学卒		救命救助法	1前後	1.0	1	杏林大学保健学部 救急救命学科 特任教授 (平成29年4月)
81	兼担	准教授	イケダ カズマ 池田 一磨 <令和5年4月>		博士(数学)		数学	1前	2.0	1	杏林大学 保健学部 作業療法学科 准教授 (令和4年4月)
82	兼担	准教授	イシイ サナエ 石井 さなえ <令和5年4月>		博士(医学)		生化学概論	1後	0.7	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (平成29年10月)
83	兼担	准教授	オオニシケンジ 大西 健司 <令和5年4月>		博士(法学)		社会と大学 I	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 准教授 (令和4年4月)
84	兼担	准教授	オオヒサ トモコ 大久 朋子 <令和5年4月>		修士(障害科学)		保健・医療の現状と未来II 栄養学	1前 2前	0.1 1.0	1 1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 准教授 (平成30年4月)
85	兼担	准教授	オカモト ヒロテル 岡本 博照 <令和5年4月>		博士(医学)		職業適性論 内科学II 産業保健学 労働衛生法規 I	1後 2後 2前 2前	0.3 2.0 0.9 1.0	1 1 1 1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 准教授 (平成26年4月)
86	兼担	准教授	カスヤ タカシ 糟谷 崇 <令和5年4月>		博士(商学)		社会と大学 II	1前	0.3	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 准教授 (平成29年4月)
87	兼担	准教授	キタダ マリ 北田 真理 <令和5年4月>		博士(法学)		社会と大学 I	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 准教授 (平成31年4月)
88	兼担	准教授	クラタ サトシ 藏田 訓 <令和5年4月>		博士(医学)		職業適性論	1後	0.1	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (令和2年4月)
89	兼担	准教授	コテラ マサズミ 小寺 正純 <令和5年4月>		博士(医学)		整形外科学	2前	0.7	1	杏林大学医学部 医学科 准教授 (令和2年4月)
90	兼担	准教授	コバヤシ ヒロコ 小林 博子 <令和5年4月>		博士(医学)		生理学 I 生理学 II 生理学実習	1前 1後 2前	0.9 0.3 1.0	1 1 1	杏林大学保健学部 臨床工学科 准教授 (平成18年4月)
91	兼担	准教授	シマムラナオユキ 島村 直幸 <令和5年4月>		博士(法学)		社会と大学 I	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 准教授 (令和2年4月)
92	兼担	准教授	スミタ マスミ 角田 ますみ <令和5年4月>		修士(人間科学)		生命倫理学	1後	2.0	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (平成31年4月)
93	兼担	准教授	セキ ケンスケ 関 健介 <令和5年4月>		博士(保健学)		職業適性論 産業保健学 環境衛生工学 労働衛生法規 I	1後 2前 2前 2前	0.3 1.1 2.0 0.9	1 1 1 1	杏林大学保健学部 診療放射線技術学科 准教授 (令和4年4月)

94	兼担	准教授	タカフ ヒロカツ 高津 博勝 ＜令和5年4月＞		博士(工学)		基礎化学	1前	1.0	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (平成31年4月)
95	兼担	准教授	タカタ キョウコ 高田 京子 ＜令和5年4月＞		修士 (商学)		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 准教授 (平成22年4月)
96	兼担	准教授	タキガミ シュウ 瀧上 周 ＜令和5年4月＞		博士(獣 医学)		解剖学 解剖学実習	1前 1後	0.5 1.0	1 1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (平成25年4月)
97	兼担	准教授	ナカムラ ミナコ 中村 美奈子 ＜令和5年4月＞		博士(社 会福祉 学)		心理学	1前	2.0	1	杏林大学保健学部 臨床心理学科 准教授 (平成31年4月)
98	兼担	准教授	ニシヤマケイコ 西山 桂子 ＜令和5年4月＞		博士 (観光 学)		社会と大学Ⅲ	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 観光交流文化学科 准教授 (平成30年4月)
99	兼担	准教授	ハセベ ヒロミチ 長谷部 弘道 ＜令和5年4月＞		博士 (社会 学)		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 准教授 (令和2年4月)
100	兼担	准教授	ハヤサカ トモナリ 早坂 友成 ＜令和5年4月＞		博士 (保健医 療学)		職業適性論	1後	0.1	1	杏林大学保健学部 作業療法学科 准教授 (令和4年4月)
101	兼担	准教授	ハンダ ヒデトシ 半田 英俊 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 准教授 (平成28年4月)
102	兼担	准教授	フジワラキワム 藤原 究 ＜令和5年4月＞		博士 (法学)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学総合政策学 部 総合政策学科 准教授 (平成27年4月)
103	兼担	准教授	ホリグチ コウタロウ 堀口 幸太郎 ＜令和5年4月＞		博士(農 学)		解剖学 解剖学実習	1前 1後	0.4 1.0	1 1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 准教授 (令和3年4月)
104	兼担	准教授	マツイ コウタ 松井 孝太 ＜令和5年4月＞		修士 (法学)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 准教授 (令和4年4月)
105	兼担	准教授	ミウラ ヒデユキ 三浦 秀之 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学総合政策学 部 総合政策学科 准教授 (平成29年4月)
106	兼担	准教授	ミズタニ ナツコ 水谷 奈津子 ＜令和5年4月＞		博士(医 学)		病理学概論	2前	0.5	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (平成31年4月)
107	兼担	准教授	ヤギハシ ヒロシ 八木橋 宏勇 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		社会と大学Ⅲ	1前	0.3	1	杏林大学外国語学部 英語学科 准教授 (平成25年4月)
108	兼担	准教授	ヤスエ エリコ 安江 枝里子 ＜令和5年4月＞		博士 (人文 地理学)		社会と大学Ⅲ	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 観光交流文化学科 准教授 (平成28年4月)
109	兼担	准教授	ヤマキ アキコ 八巻 明子 ＜令和5年4月＞		博士(保 健学)		生化学概論	1後	0.7	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (平成24年4月)
110	兼担	准教授	ヨシダ キョウカ 吉田 清隆 ＜令和5年4月＞		博士 (物理 学)		統計学	1後	2.0	1	杏林大学 保健学部 臨床検査技術学科准 教授 (平成31年4月)
111	兼担	講師	イケダ ナオヒロ 池田 尚広 ＜令和5年4月＞		修士 (学術)		社会と大学Ⅲ	1前	0.3	1	杏林大学外国語学部 中国語学科 講師 (平成29年4月)
112	兼担	講師	イシノ アキコ 石野 晶子 ＜令和5年4月＞		修士(保 健学)		公衆衛生学Ⅱ	2後	0.1	1	杏林大学保健学部 看護学科 看護養護教育学専攻 講師 (平成28年4月)

113	兼担	講師	オザキ アイミ 尾崎 愛美 ＜令和5年4月＞		法務博士 (専門職)		日本国憲法 日本語学 社会と大学Ⅰ	1後 1前後 1前	2.0 4.0 0.1	1 2 1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 講師 (平成31年4月)	
114	兼担	講師	カトウ タク 加藤 拓 ＜令和5年4月＞		修士 (学術)		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 講師 (平成22年4月)	
115	兼担	講師	スダ ケンジ 須田 健二 ＜令和5年4月＞		修士 (工学)		職業適性論	1後	0.1	1	杏林大学保健学部 臨床工学科 講師 (平成25年10月)	
116	兼担	講師	セキザワ コウイチ 関澤 浩一 ＜令和5年4月＞		博士 (保健学)		公衆衛生学Ⅱ	2後	0.1	1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 講師 (平成26年4月)	
117	兼担	講師	セノ シンイチロウ 瀬野 晋一郎 ＜令和5年4月＞		博士 (保健学)		生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習	1前 1後 2前	1.1 0.7 1.0	1 1 1	杏林大学保健学部 臨床工学科 講師 (平成26年4月)	
118	兼担	講師	ハセガワ ルミ 長谷川 瑠美 ＜令和5年4月＞		博士(保健学)		解剖学 解剖学実習	1前 1後	0.3 1.0	1 1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 講師 (令和3年4月)	
119	兼担	講師	フジタ ユカリ 藤田 由香利 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		社会と大学Ⅲ	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 中国語学科 講師 (平成29年4月)	
120	兼担	講師	ムラタ マキコ 村田 麻喜子 ＜令和5年4月＞		博士(保健学)		生化学概論	1後	0.7	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 講師 (平成17年4月)	
121	兼担	講師	モリ カズミ 森 数美 ＜令和5年4月＞		博士 (保健学)		精神医学 外科学 脳神経外科学	2前 2後 2後	2.0 1.0 1.0	1 1 1	杏林大学保健学部 救急救命学科 講師 (平成30年4月)	
122	兼担	講師	ワタナベ アツシ 渡辺 篤志 ＜令和5年4月＞		博士(保健学)		生理学実習	2前	1.0	1	杏林大学保健学部 臨床工学科 講師 (平成25年10月)	
123	兼担	講師	ワタナベ ノボル 渡辺 登 ＜令和5年4月＞		博士(保健学)		感染症・免疫学	2後	2	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 講師 (平成17年4月)	
124	兼担	助教	イナダ ナリサク 稲田 成作 ＜令和5年4月＞		大学卒		整形外科学	2前	0.7	1	杏林大学医学部 医学科 助教 (平成27年4月)	
125	兼担	助教	イノウエ アツシ 井上 敦 ＜令和5年4月＞		修士 (健康福祉学)		社会福祉学	1後	1.2	1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 助教 (平成24年4月)	
126	兼担	助教	イノウエ コウザブロウ 井上 功三朗 ＜令和5年4月＞		大学卒		整形外科学	2前	0.7	1	杏林大学医学部 医学科 助教 (平成27年4月)	
127	兼担	助教	オハラ アキ 小原 映 ＜令和5年4月＞		大学卒		薬理学	2前	1.0	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 助教 (平成28年4月)	
128	兼担	助教	クスダ ミナ 楠田 美奈 ＜令和5年4月＞		修士(保健学)		公衆衛生学Ⅱ	2後	0.1	1	杏林大学保健学部 看護学科 看護養護教育学専攻 助教 (平成24年4月)	
129	兼担	助教	ヨグレ エイキ 木暮 英輝 ＜令和5年4月＞		博士(保健学)		生理学実習	2前	1.0	1	杏林大学保健学部 臨床工学科 助教 (平成27年4月)	
130	兼担	助教	サカクラ ケンゴ 坂倉 健吾 ＜令和5年4月＞		大学卒		整形外科学	2前	0.7	1	杏林大学医学部 医学科 助教 (平成27年4月)	
131	兼担	助教	サトウ ユキノリ 佐藤 行紀 ＜令和5年4月＞		博士(医学)		整形外科学	2前	0.7	1	杏林大学医学部 医学科 助教 (平成26年4月)	
132	兼担	助教	トウミヤ シゲト 東宮 繁人 ＜令和5年4月＞		大学卒		社会福祉学	1後	0.4	1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 助教 (平成29年4月)	
133	兼担	助教	ヒラサワ アイ 平澤 愛 ＜令和5年4月＞		博士(工学)		公衆衛生学Ⅱ 保健・医療の現状と未来Ⅱ	2後 1前	0.1 0.1	1 1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 助教 (平成28年4月)	
134	兼任	客員教授	チハラ ノブヨシ 知原 信良 ＜令和5年4月＞		経済学 士		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 客員教授 (令和4年4月)	

135	兼任	客員教授	ワタベ カズヒロ 渡部 和彦 <令和5年4月>		医学博士		神経内科学	2後	2.0	1	杏林大学保健学部 客員教授 (令和4年4月)
136	兼任	講師	イワクマ ミチヒロ 岩隈 道洋 <令和5年4月>		修士(法学)		労働衛生法規Ⅱ	2前	2.0	1	杏林大学 総合政策学部 非常勤講師 (平成31年4月)
137	兼任	講師	エリック ユージン Eric Eugene トラウトマン Trautman <令和5年4月>		大学卒		英会話	1前後	2.0	1	杏林大学 保健学部 非常勤講師 (平成29年4月)
138	兼任	講師	オオイシ ユカ 大石 有香 <令和5年4月>		修士(学術)		ことばと社会	1前後	4.0	2	杏林大学 保健学部 非常勤講師 (令和2年4月)
139	兼任	講師	オザキ モエコ 尾崎 萌子 <令和5年4月>		修士(文学)		医学英語	2後	2.0	1	杏林大学 保健学部 非常勤講師 (令和3年4月)
140	兼任	講師	ジェームス ドナルド James Donald ボルドウィン Baldwin <令和5年4月>		大学卒		英会話	1前後	2.0	1	杏林大学 保健学部 非常勤講師 (平成27年4月)
141	兼任	講師	タナカ イシキ 田中 伊式 <令和5年4月>		大学卒		日本語表現法	1後	2.0	1	杏林大学 保健学部 非常勤講師 (平成24年4月)
142	兼任	講師	ヒロタ ナオミ 廣田 尚美 <令和5年4月>		修士(文学)		英語プレゼンテーション 英語読解 保健医療英語	1前 1後 2前	2.0 2.0 2.0	1 1 1	杏林大学 保健学部 非常勤講師 (平成28年4月)
143	兼任	講師	フルカワ ヨシコ 古川 佳子 <令和5年4月>		修士(人間科学)		臨床心理学	2前	1.0	1	杏林大学保健学部 非常勤講師 (令和4年4月)
144	兼任	講師	ヨシエ ヒデカズ 吉江 秀和 <令和5年4月>		修士(文学)		芸術	1前後	4.0	2	杏林大学 総合政策学部 非常勤講師 (平成22年4月)

教 員 の 氏 名 等 (杏林大学保健学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職 務に 従 事 する 週 当 たり 平 均 日 数
1	専	教授	コンドウ トモコ 近藤 知子 <令和5年4月>		博士(作 業科学)		作業分析学 作業分析学演習 作業療法諸理論 身体障害作業療法学Ⅰ 義肢装具学 義肢装具学実習 作業療法国際事情 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合臨床実習 地域・訪問実習 作業療法学演習Ⅰ 作業療法学演習Ⅱ 作業療法学演習Ⅲ 作業療法学演習Ⅳ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後 1後 1後 3前 3後 3後 3後 1前 2後 3後 4前 4後 2後 3前 3後 4後 3後 3後 4通	1.0 1.0 1.0 0.3 0.5 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 16.0 1.0 1.0 1.0 1.0 2.0 1.0 1.0 3.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 作業療法学 教授 (平成28年9月)	5日
2	専	教授	タグチ ハルヒコ 田口 晴彦 <令和5年4月>		医学博 士		見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合臨床実習 地域・訪問実習 作業療法学演習Ⅰ 作業療法学演習Ⅱ 作業療法学演習Ⅲ 作業療法学演習Ⅳ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前 2後 3後 4前 4後 2後 3前 3後 4後 3後 4通	1.0 1.0 4.0 16.0 1.0 1.0 1.0 1.0 2.0 1.0 1.0 3.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 作業療法学 教授 (令和4年4月)	5日
3	専	教授 (学科 長)	ニワ マサトシ 丹羽 正利 <令和5年4月>		博士(医 学)		リハビリテーション解剖学実習 運動学 運動学実習 病態運動学実習 作業療法評価学実習Ⅰ (中枢神経障害) 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合臨床実習 地域・訪問実習 作業療法学演習Ⅰ 作業療法学演習Ⅱ 作業療法学演習Ⅲ 作業療法学演習Ⅳ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後 2前 2後 3前 2後 1前 2後 3後 4前 4後 2後 3前 3後 4後 3後 4通	1.0 2.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 16.0 1.0 1.0 1.0 1.0 2.0 1.0 1.0 1.0 3.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 作業療法学 教授 (平成23年4月)	5日
4	専	教授	ハセガワ トシオ 長谷川 利夫 <令和5年4月>		博士(保 健学)		リハビリテーション概論 作業療法学概論 基礎作業学概論 作業療法評価学Ⅰ(総論) 作業療法評価学Ⅱ(疾患別) 精神障害作業療法学Ⅰ 精神障害作業療法学Ⅱ 職業関連作業療法学 レクリエーション概論 作業療法管理学 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合臨床実習 地域・訪問実習 作業療法学演習Ⅰ 作業療法学演習Ⅱ 作業療法学演習Ⅲ 作業療法学演習Ⅳ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後 1前 1後 1後 2前 3前 3前 3後 3前 4後 1前 2後 3後 4前 4後 2後 3前 3後 4後 3後 4通	1.0 0.3 1.0 0.5 0.3 1.0 1.0 0.3 1.0 2.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 2.0 1.0 1.0 3.0	1 1	杏林大学保健学部 作業療法学 教授 (平成23年4月)	5日
5	専	教授	モチヅキ ヒデアキ 望月 秀樹 <令和5年4月>		博士(作 業療法 学)		情報処理論 作業療法学概論 作業療法評価学実習Ⅲ (老年期障害) 身体障害作業療法学Ⅰ 老年期障害作業療法学 地域生活作業療法学 地域ケアシステム学 地域生活作業療法学演習 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合臨床実習 地域・訪問実習 作業療法学演習Ⅰ 作業療法学演習Ⅱ 作業療法学演習Ⅲ 作業療法学演習Ⅳ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前 1前 2後 3前 3前 3前 3前 3後 1前 2後 3後 4前 4後 2後 3前 3後 4後 3後 4通	2.0 0.5 1.0 0.3 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 4.0 16.0 1.0 1.0 1.0 1.0 2.0 1.0 1.0 1.0 3.0	1 1	杏林大学保健学部 作業療法学 教授 (平成28年4月)	5日

6	専	准教授	イワサキ ヤオコ 岩崎 也生子 <令和5年4月>	博士(教育学)	作業分析学演習 身体障害作業療法学Ⅰ 身体障害作業療法学演習 高次脳機能障害作業療法学 高次機能代償学 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合臨床実習 地域・訪問実習 作業療法学演習Ⅰ 作業療法学演習Ⅱ 作業療法学演習Ⅲ 作業療法学演習Ⅳ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後 3前 3前 2後 3前 1前 2後 3後 4前 4後 2後 3前 3後 4後 3後 4通	1.0 0.2 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 4.0 16.0 1.0 1.0 1.0 1.0 2.0 1.0 3.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 作業療法学科 准教授 (令和2年4月)	5日
7	専	准教授	ハヤサカ トモナリ 早坂 友成 <令和5年4月>	博士(保健医療学)	職業適性論 作業療法学概論 基礎作業学実習 作業療法評価学実習Ⅱ (発達、精神障害) 認知機能評価法 精神障害作業療法学演習 クリニカルリーズニング 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合臨床実習 地域・訪問実習 作業療法学演習Ⅰ 作業療法学演習Ⅱ 作業療法学演習Ⅲ 作業療法学演習Ⅳ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後 1前 1後 2後 2前 3後 3前 1前 2後 3後 4前 4後 2後 3前 3後 4後 3後 4通	0.1 0.1 1.0 1.0 0.6 1.0 0.5 1.0 1.0 4.0 16.0 1.0 1.0 1.0 1.0 2.0 1.0 3.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 作業療法学科 准教授 (令和4年4月)	5日
8	専	講師	スズキ ケンタロウ 鈴木 健太郎 <令和5年4月>	博士(作業療法学)	人間発達学 基礎作業学実習 作業療法評価学Ⅱ(疾患別) 作業療法評価学実習Ⅱ (発達、精神障害) 発達障害作業療法学Ⅰ 発達障害作業療法学Ⅱ 発達障害作業療法学演習 職業関連作業療法学 バリアフリー概論 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合臨床実習 地域・訪問実習 作業療法学演習Ⅰ 作業療法学演習Ⅱ 作業療法学演習Ⅲ 作業療法学演習Ⅳ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後 1後 2前 2後 3前 3前 3後 3後 3前 1前 2後 3後 4前 4後 2後 3前 3後 4後 3後 4通	2.0 1.0 0.3 1.0 1.0 1.0 0.3 1.0 1.0 1.0 4.0 16.0 1.0 1.0 1.0 1.0 2.0 1.0 3.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 作業療法学科 講師 (平成23年4月)	5日
9	専	助教	オオシロ ナオミ 大城 直美 <令和5年4月>	博士(保健学)	リハビリテーション解剖学 リハビリテーション解剖学実習 運動学実習 病態運動学実習 作業療法評価学Ⅰ(総論) 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合臨床実習 地域・訪問実習 作業療法学演習Ⅰ 作業療法学演習Ⅱ 作業療法学演習Ⅲ 作業療法学演習Ⅳ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前 1後 2後 3前 1後 1前 2後 3後 4前 4後 2後 3前 3後 4後 3後 4通	1.0 1.0 1.0 1.0 0.5 1.0 1.0 4.0 16.0 1.0 1.0 1.0 1.0 2.0 1.0 3.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 作業療法学科 助教 (平成24年10月)	5日
10	専	助教	シライシ 白石 めぐみ <令和5年4月>	修士(リハビリテーション)	日常生活活動学Ⅱ(疾患別) 職業関連作業療法学 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合臨床実習 地域・訪問実習 作業療法学演習Ⅰ 作業療法学演習Ⅱ 作業療法学演習Ⅲ 作業療法学演習Ⅳ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前 3後 1前 2後 3後 4前 4後 2後 3前 3後 4後 3後 4通	0.5 0.3 1.0 1.0 4.0 16.0 1.0 1.0 1.0 1.0 2.0 1.0 3.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 作業療法学科 助教 (令和3年4月)	5日

11	専	助教	スズキ ユキコ 鈴木 優喜子 <令和5年4月>	博士(保健学)	作業療法評価学実習Ⅰ (中枢神経障害) 作業療法評価学実習Ⅲ (老年期障害) 身体障害作業療法Ⅱ 身体障害作業療法演習 日常生活活動学Ⅱ(疾患別) クリニカルリーズニング 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合臨床実習 地域・訪問実習 作業療法演習Ⅰ 作業療法演習Ⅱ 作業療法演習Ⅲ 作業療法演習Ⅳ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2後 2後 3前 3後 2前 3前 1前 2後 3後 4前 4後 2後 3前 3後 4後 3後 4通	1.0 1.0 0.5 1.0 1.0 0.3 1.0 1.0 4.0 16.0 1.0 1.0 1.0 1.0 2.0 1.0 3.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 作業療法学科 助教 (平成28年1月)	5日
12	専	助教	ツマガリ ニュウコ 津曲 優子 <令和5年4月>	修士(保健学)	リハビリテーション解剖 学実習 認知機能評価法 認知障害作業療法 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合臨床実習 地域・訪問実習 作業療法演習Ⅰ 作業療法演習Ⅱ 作業療法演習Ⅲ 作業療法演習Ⅳ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後 2前 3前 1前 2後 3後 4前 4後 2後 3前 3後 4後 3後 4通	1.0 0.4 1.0 1.0 1.0 4.0 16.0 1.0 1.0 1.0 1.0 2.0 1.0 3.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 作業療法学科 助教 (令和3年4月)	5日
13	専	助教	ナガシマ イズミ 長島 泉 <令和5年4月>	博士(保健学)	基礎作業学実習 作業療法評価学実習Ⅱ (発達、精神障害) 福祉用具適応学 クリニカルリーズニング 住環境整備学 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合臨床実習 地域・訪問実習 作業療法演習Ⅰ 作業療法演習Ⅱ 作業療法演習Ⅲ 作業療法演習Ⅳ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後 2後 2後 3前 3後 1前 2後 3後 4前 4後 2後 3前 3後 4後 3後 4通	1.0 1.0 1.0 0.3 1.0 1.0 1.0 4.0 16.0 1.0 1.0 1.0 1.0 2.0 1.0 3.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 作業療法学科 助教 (平成25年4月)	5日
14	専	助教	ハラダ ヌウスケ 原田 祐輔 <令和5年4月>	博士(保健学)	作業療法概論 作業療法評価学実習Ⅰ (中枢神経障害) 作業療法評価学実習Ⅲ (老年期障害) 身体障害作業療法Ⅰ 身体障害作業療法Ⅱ 身体障害作業療法演習 日常生活活動学Ⅰ(総論) 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合臨床実習 地域・訪問実習 作業療法演習Ⅰ 作業療法演習Ⅱ 作業療法演習Ⅲ 作業療法演習Ⅳ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前 2後 2後 3前 3前 3前 2前 1前 2後 3後 4前 4後 2後 3前 3後 4後 3後 4通	0.1 1.0 1.0 0.3 0.5 1.0 1.0 1.0 1.0 4.0 16.0 1.0 1.0 1.0 1.0 2.0 1.0 3.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 作業療法学科 助教 (平成23年4月)	5日
15	専	助教	ヒトミ タイチ 人見 太一 <令和5年4月>	修士(健康心理学)	情報処理論 日常生活活動学Ⅰ(総論) 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合臨床実習 地域・訪問実習 作業療法演習Ⅰ 作業療法演習Ⅱ 作業療法演習Ⅲ 作業療法演習Ⅳ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前 2前 1前 2後 3後 4前 4後 2後 3前 3後 4後 3後 4通	2.0 0.4 1.0 1.0 4.0 16.0 1.0 1.0 1.0 1.0 2.0 1.0 3.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 作業療法学科 助教 (令和3年4月)	5日

16	専	助教	マエダ スナオ 前田 直 <令和5年4月>	修士(保健学)	作業療法評価学Ⅱ(疾患別) 身体障害作業療法学演習 義肢装具学 義肢装具学実習 ハンドセラピー概論 見学実習 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合臨床実習 地域・訪問実習 作業療法学演習Ⅰ 作業療法学演習Ⅱ 作業療法学演習Ⅲ 作業療法学演習Ⅳ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前 3前 3後 3後 3前 1前 2後 3後 4前 4後 2後 3前 3後 4後 3後 4通	0.3 1.0 0.5 1.0 1.0 1.0 1.0 4.0 16.0 1.0 1.0 1.0 1.0 2.0 1.0 3.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 作業療法学科 助教 (平成25年4月)	5日
17	兼任	教授	アイン トシコ 相磯 聡子 <令和5年4月>	博士(理学)	生命科学概論	1前	2.0	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 教授 (平成28年4月)	
18	兼任	教授	アベ ノブツグ 阿部 展次 <令和5年4月>	博士(医学)	保健・医療の現状と未来Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成11年4月)	
19	兼任	教授	イシイ ハルユキ 石井 晴之 <令和5年4月>	博士(医学)	保健・医療の現状と未来Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成16年5月)	
20	兼任	教授	イチムラ ショウイ 市村 正一 <令和5年4月>	博士(医学)	保健・医療の現状と未来Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成15年4月)	
21	兼任	教授	イトウ アツシ 伊藤 敦司 <令和5年4月>	法学修士	社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 教授 (平成28年4月)	
22	兼任	教授	イノウエ マコト 井上 真 <令和5年4月>	博士(医学)	保健・医療の現状と未来Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成19年4月)	
23	兼任	教授	イモト シゲル 井本 滋 <令和5年4月>	博士(医学)	保健・医療の現状と未来Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成19年4月)	
24	兼任	教授	イワダ サクラコ 岩橋 桜子 <令和5年4月>	博士(医学)	内科学Ⅰ	2前	0.5	1	杏林大学保健学部 臨床工学科 教授 (令和2年4月)	
25	兼任	教授	イワモトカズヨシ 岩本 和良 <令和5年4月>	Doctor of Philosophy	社会と大学Ⅲ	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 英語学科 教授 (平成28年4月)	
26	兼任	教授	オオヤママナブ 大山 学 <令和5年4月>	博士(医学)	保健・医療の現状と未来Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成27年4月)	
27	兼任	教授	オオミネ トモコ 大嶺 智子 <令和5年4月>	博士(医学)	職業適性論	1後	0.1	1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 教授 (平成19年4月)	
28	兼任	教授(学部長)	オカジマ ヤストモ 岡島 康友 <令和5年4月>	医学博士	保健・医療の現状と未来Ⅰ リハビリテーション医学	1前 2後	0.1 0.8	1 1	杏林大学保健学部 作業療法学科 教授 (令和4年4月)	
29	兼任	教授	オカムラヒロシ 岡村 裕 <令和5年4月>	博士(保健学)	社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成29年4月)	
30	兼任	教授	オダ ノブユキ 小田 信之 <令和5年4月>	修士(経営学)	社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成27年4月)	
31	兼任	教授	オカダ ヨウジ 岡田 洋二 <令和5年4月>	博士(保健学)	職業適性論	1後	0.3	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 教授 (平成31年4月)	

32	兼担	教授	カタギリ トモミ 片桐 朝美 <令和5年4月>	博士 (医学)		社会福祉学	1後	0.4	1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 教授 (令和4年4月)
33	兼担	教授	カトウ マサエ 加藤 雅江 <令和5年4月>	文学士		保健・医療の現状と未来 II	1前	0.1	1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 教授 (令和2年7月)
34	兼担	教授	カナメ シンヤ 要 伸也 <令和5年4月>	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 II	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成19年2月)
35	兼担	教授	カワムラマリ 川村 真理 <令和5年4月>	博士 (法学)		社会と大学 I	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成30年4月)
36	兼担	教授	キシノ トモノリ 岸野 智則 <令和5年4月>	博士 (医学)		内科学 I	2前	0.7	1	杏林大学保健学部 臨床工学科 教授 (平成26年4月)
37	兼担	教授	キタジマツトム 北島 勉 <令和5年4月>	博士 (保健学)		社会と大学 II	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成21年4月)
38	兼担	教授	クボタ ヒロシ 窪田 博 <令和5年4月>	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 II	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成14年4月)
39	兼担	教授	クラバヤヒデオ 倉林 秀男 <令和5年4月>	博士 (英語学)		社会と大学 III	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 英語学科 教授 (令和2年4月)
40	兼担	教授	コウザキ コウイチ 神崎 恒一 <令和5年4月>	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 II	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成17年1月)
41	兼担	教授	コグレ ケンタロウ 木暮 健太郎 <令和5年4月>	修士 (政治学)		社会と大学 I	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (令和2年4月)
42	兼担	教授	コバヤシヨウイチ 小林 陽一 <令和5年4月>	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 I	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成22年7月)
43	兼担	教授	コンドウ ハルヒコ 近藤 晴彦 <令和5年4月>	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 I	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成24年4月)
44	兼担	教授	サイトウコウイチロウ 齋藤 康一郎 <令和5年4月>	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 I	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成27年4月)
45	兼担	教授	サイトウタカン 斎藤 崇 <令和5年4月>	博士 (経済学)		社会と大学 II	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成28年4月)
46	兼担	教授	サカモト 坂本 ロビン <令和5年4月>	博士 (教育学)		社会と大学 III	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 英語学科 教授 (平成22年4月)
47	兼担	教授	シオカワ ヨシアキ 塩川 芳昭 <令和5年4月>	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 I	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成4年6月)
48	兼担	教授	シバタ シゲキ 柴田 茂貴 <令和5年4月>	博士(医学)		内科学 I	2前	0.8	1	杏林大学保健学部 理学療法学科 教授 (平成30年4月)

49	兼担	教授	シマダ アツヨシ 島田 厚良 〈令和5年4月〉		医学博士		病理学	2前	0.5	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 教授 (平成29年4月)
50	兼担	教授	シムラ ヨシヒロ 志村 良浩 〈令和5年4月〉		社会科学士		社会と大学Ⅲ	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 観光交流文化学科 教授 (平成26年5月)
51	兼担	教授	シモジマ ユミ 下島 裕美 〈令和5年4月〉		博士 (心理学)		発達心理学	1後	2.0	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 教授 (令和3年4月)
52	兼担	教授	シンボウテツオ 進邦 徹夫 〈令和5年4月〉		修士 (法学)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成24年4月)
53	兼担	教授	ソエジマ キョウコ 副島 京子 〈令和5年4月〉		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成23年10月)
54	兼担	教授	タクシマ アキヒコ 多久嶋 亮彦 〈令和5年4月〉		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成15年4月)
55	兼担	教授	タキ トモヒコ 滝 智彦 〈令和5年4月〉		博士 (医学)		小児科学	2後	1.0	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 教授 (平成30年4月)
56	兼担	教授	タナカ コウスケ 田中 浩輔 〈令和5年4月〉		理学博士		職業適性論 基礎生物学	1後 1前	0.4 1.0	1 1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 教授 (平成27年4月)
57	兼担	教授	タナカ ノブヒロ 田中 信弘 〈令和5年4月〉		商学修士		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 教授 (平成16年4月)
58	兼担	教授	タルイ タケヒコ 樽井 武彦 〈令和5年4月〉		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学保健学部 救急救命学科 教授 (令和2年4月)
59	兼担	教授	チノ マリコ 千野 万里子 〈令和5年4月〉		博士 (学術)		社会と大学Ⅲ	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 中国語学科 教授 (令和4年4月)
60	兼担	教授	デジマ ケンシ 出嶋 靖志 〈令和5年4月〉		博士(保健学)		公衆衛生学Ⅰ	2前	2.0	1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 教授 (平成27年4月)
61	兼担	教授	テルヤ コウジ 照屋 浩司 〈令和5年4月〉		医学博士		公衆衛生学Ⅱ	2後	0.5	1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 教授 (平成19年4月)
62	兼担	教授	ナイトウタカオ 内藤 高雄 〈令和5年4月〉		博士 (経済学)		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 教授 (平成17年4月)
63	兼担	教授	ニシ タカシ 西 孝 〈令和5年4月〉		経済学 修士		社会と大学Ⅱ	1前	0.3	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成13年4月)
64	兼担	教授	ハラダ ナナコ 原田 奈々子 〈令和5年4月〉		商学修士		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 教授 (平成18年4月)
65	兼担	教授	ヒサマツ タダカズ 久松 理一 〈令和5年4月〉		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成27年4月)
66	兼担	教授	ヒラカタ アキト 平形 明人 〈令和5年4月〉		医学博士		保健・医療の現状と未来Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成4年10月)
67	兼担	教授	ヒラノ テルユキ 平野 照之 〈令和5年4月〉		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成26年9月)

68	兼担	教授	フクナガ カズヨシ 福長 一義 ＜令和5年4月＞		博士 (工学)		職業適性論 保健・医療の現状と未来 Ⅱ	1後 1前	0.1 0.1	1 1	杏林大学保健学部 臨床工学科 教授 (平成30年4月)
69	兼担	教授	フクハラ ヒロシ 福原 浩 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成30年4月)
70	兼担	教授	フルセ ジュンジ 古瀬 純司 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成20年3月)
71	兼担	教授	フルモトヤスユキ 古本 泰之 ＜令和5年4月＞		修士 (観光 学)		社会と大学Ⅲ	1前	0.3	1	杏林大学外国語学部 観光交流文化学科 教授 (令和3年4月)
72	兼担	教授	ミヤビ ヒロコ 宮首 弘子 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		社会と大学Ⅲ	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 中国語学科 教授 (平成28年4月)
73	兼担	教授	ヤマグチ ヨシヒロ 山口 芳裕 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成8年9月)
74	兼担	教授	ヤマダ シン 山田 深 ＜令和5年4月＞		博士(医学)		リハビリテーション医学	2後	0.3	1	杏林大学医学部 教授 (令和2年4月)
75	兼担	教授	ヤマダ マコト 山田 慎 ＜令和5年4月＞		博士(学術)		基礎物理学 物理学概論	1前 1後	1.0 2.0	1 1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 教授 (令和2年4月)
76	兼担	教授	ヨコヤマ ケンイチ 横山 健一 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成7年4月)
77	兼担	教授	ヨロズ トモコ 萬 知子 ＜令和5年4月＞		医学博士		保健・医療の現状と未来 Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成15年4月)
78	兼担	教授	リュウテキ 劉 迪 ＜令和5年4月＞		博士 (法学)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成26年4月)
79	兼担	教授	ワタナベ コウイチロ 渡邊 衡一郎 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成24年4月)
80	兼担	教授	ワタナベタクシ 渡辺 剛 ＜令和5年4月＞		修士 (法学)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成13年4月)
81	兼担	特任 教授	ミヤノ オサム 宮野 收 ＜令和5年4月＞		大学卒		救命救助法	1前後	1.0	1	杏林大学保健学部 救急救命学科 特任教授 (平成29年4月)
82	兼担	准教授	イケダ カズマ 池田 一磨 ＜令和5年4月＞		博士 (数学)		数学	1前	2.0	1	杏林大学 保健学部 作業療法学科 准教授 (令和4年4月)
83	兼担	准教授	イシイ サナエ 石井 さなえ ＜令和5年4月＞		博士(医学)		生化学概論	1後	0.7	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (平成29年10月)
84	兼担	准教授	オオニシケンジ 大西 健司 ＜令和5年4月＞		博士 (法学)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 准教授 (令和4年4月)
85	兼担	准教授	オオヒサ トモコ 大久 朋子 ＜令和5年4月＞		修士(障 害科学)		保健・医療の現状と未来 Ⅱ 栄養学	1前 2前	0.1 1.0	1 1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 准教授 (平成30年4月)
86	兼担	准教授	オカモト ヒロテル 岡本 博照 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		職業適性論 内科学Ⅱ 産業保健学 労働衛生法規Ⅰ	1後 2後 2前 2前	0.3 2.0 0.9 1.0	1 1 1 1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 准教授 (平成26年4月)

87	兼担	准教授	カスヤ タカン 糟谷 崇 ＜令和5年4月＞		博士 (商学)		社会と大学Ⅱ	1前	0.3	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 准教授 (平成29年4月)
88	兼担	准教授	キタダ マリ 北田 真理 ＜令和5年4月＞		博士 (法学)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学総合政策学部 総合政策学科 准教授 (平成31年4月)
89	兼担	准教授	クラタ サトシ 藏田 訓 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		職業適性論	1後	0.1	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (令和2年4月)
90	兼担	准教授	コハラ マサズミ 小寺 正純 ＜令和5年4月＞		博士(医学)		整形外科学	2前	0.7	1	杏林大学医学部 准教授 (令和2年4月)
91	兼担	准教授	コバヤシ ヒロコ 小林 博子 ＜令和5年4月＞		博士(医学)		生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習	1前 1後 2前	0.9 0.3 1.0	1 1 1	杏林大学保健学部 臨床工学科 准教授 (平成18年4月)
92	兼担	准教授	シマムラナオユキ 島村 直幸 ＜令和5年4月＞		博士 (法学)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 准教授 (令和2年4月)
93	兼担	准教授	スミタ 角田 ますみ ＜令和5年4月＞		修士(人間科学)		人類遺伝学 生命倫理学	1前 1後	2.0 2.0	1 1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (平成31年4月)
94	兼担	准教授	セキ ケンスケ 関 健介 ＜令和5年4月＞		博士 (保健学)		職業適性論 産業保健学 環境衛生工学 労働衛生法規Ⅰ	1後 2前 2前 2前	0.3 1.1 2.0 0.9	1 1 1 1	杏林大学保健学部 診療放射線技術学科 准教授 (令和4年4月)
95	兼担	准教授	タカフ ヒロカツ 高津 博勝 ＜令和5年4月＞		博士(工学)		基礎化学	1前	1.0	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (平成31年4月)
96	兼担	准教授	タカタ キョウコ 高田 京子 ＜令和5年4月＞		修士 (商学)		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 准教授 (平成22年4月)
97	兼担	准教授	タキガミ シュウ 瀧上 周 ＜令和5年4月＞		博士(獣医学)		解剖学 解剖学実習	1前 1後	0.5 1.0	1 1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (平成25年4月)
98	兼担	准教授	ナカムラ ミナコ 中村 美奈子 ＜令和5年4月＞		博士(社会福祉学)		心理学	1前	2.0	1	杏林大学保健学部 臨床心理学科 准教授 (平成31年4月)
99	兼担	准教授	ニシヤマケイコ 西山 桂子 ＜令和5年4月＞		博士 (観光学)		社会と大学Ⅲ	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 観光交流文化学科 准教授 (平成30年4月)
100	兼担	准教授	ハセベ ヒロミチ 長谷部 弘道 ＜令和5年4月＞		博士 (社会学)		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 准教授 (令和2年4月)
101	兼担	准教授	ハンダ ヒデトシ 半田 英俊 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 准教授 (平成28年4月)
102	兼担	准教授	フジワラキヨム 藤原 究 ＜令和5年4月＞		博士 (法学)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学総合政策学部 総合政策学科 准教授 (平成27年4月)
103	兼担	准教授	ホリグチ コウタロウ 堀口 幸太郎 ＜令和5年4月＞		博士(農学)		解剖学 解剖学実習	1前 1後	0.4 1.0	1 1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 准教授 (令和3年4月)
104	兼担	准教授	マツイ コウタ 松井 孝太 ＜令和5年4月＞		修士 (法学)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学総合政策学部 総合政策学科 准教授 (令和4年4月)
105	兼担	准教授	ミウラ ヒデユキ 三浦 秀之 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学総合政策学部 総合政策学科 准教授 (平成29年4月)
106	兼担	准教授	ミズタニ ナツコ 水谷 奈津子 ＜令和5年4月＞		博士(医学)		病理学	2前	0.5	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (平成31年4月)

107	兼担	准教授	ヤギハシ ヒロシ 八木橋 宏勇 ＜令和5年4月＞	修士 (文学)	社会と大学Ⅲ	1前	0.3	1	杏林大学外国語学部 英語学科 准教授 (平成25年4月)
108	兼担	准教授	ヤスエ エリコ 安江 枝里子 ＜令和5年4月＞	博士 (人文 地理学)	社会と大学Ⅲ	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 観光交流文化学科 准教授 (平成28年4月)
109	兼担	准教授	ヤマキ アキコ 八巻 明子 ＜令和5年4月＞	博士(保 健学)	生化学概論	1後	0.7	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (平成24年4月)
110	兼担	准教授	ヨシダ キョウカ 吉田 清隆 ＜令和5年4月＞	博士 (物理 学)	統計学	1後	2.0	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (平成31年4月)
111	兼担	講師	イケダ ナオヒロ 池田 尚広 ＜令和5年4月＞	修士 (学術)	社会と大学Ⅲ	1前	0.3	1	杏林大学外国語学部 中国語学科 講師 (平成29年4月)
112	兼担	講師	イシノ アキコ 石野 晶子 ＜令和5年4月＞	修士(保 健学)	公衆衛生学Ⅱ	2後	0.1	1	杏林大学保健学部 看護学科 看護養護教育学専攻 講師 (平成28年4月)
113	兼担	講師	オザキ アイミ 尾崎 愛美 ＜令和5年4月＞	法務博 士 (専門 職)	日本国憲法 日本語学 社会と大学Ⅰ	1後 1前後 1前	2.0 4.0 0.1	1 2 1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 講師 (平成31年4月)
114	兼担	講師	カトウ タク 加藤 拓 ＜令和5年4月＞	博士 (学術)	社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 講師 (平成22年4月)
115	兼担	講師	スダ ケンジ 須田 健二 ＜令和5年4月＞	修士 (工学)	職業適性論	1後	0.1	1	杏林大学保健学部 臨床工学科 講師 (平成25年10月)
116	兼担	講師	セキザワ コウイチ 関澤 浩一 ＜令和5年4月＞	博士 (保健 学)	公衆衛生学Ⅱ	2後	0.1	1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 講師 (平成26年4月)
117	兼担	講師	セノ シンイチロウ 瀬野 晋一郎 ＜令和5年4月＞	博士 (保健 学)	生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習	1前 1後 2前	1.1 0.7 1.0	1 1 1	杏林大学保健学部 臨床工学科 講師 (平成26年4月)
118	兼担	講師	ハセガワ ルミ 長谷川 瑠美 ＜令和5年4月＞	博士(保 健学)	解剖学 解剖学実習	1前 1後	0.3 1.0	1 1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 講師 (令和3年4月)
119	兼担	講師	フジタ ユカリ 藤田 由香利 ＜令和5年4月＞	博士 (学術)	社会と大学Ⅲ	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 中国語学科 講師 (平成29年4月)
120	兼担	講師	ムラタ マキコ 村田 麻喜子 ＜令和5年4月＞	博士(保 健学)	生化学概論 分子生物学	1後 1後	0.7 2.0	1 1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 講師 (平成17年4月)
121	兼担	講師	モリ カズミ 森 数美 ＜令和5年4月＞	博士 (保健 学)	精神医学 外科学 脳神経外科学	2前 2後 2後	2.0 1.0 1.0	1 1 1	杏林大学保健学部 救急救命学科 講師 (平成30年4月)
122	兼担	講師	モンマ ヒロシ 門馬 博 ＜令和5年4月＞	博士(保 健学)	職業適性論	1後	0.1	1	杏林大学保健学部 理学療法学科 講師 (平成30年4月)
123	兼担	講師	ワタナベ アツシ 渡辺 篤志 ＜令和5年4月＞	博士(保 健学)	生理学実習	2前	1.0	1	杏林大学保健学部 臨床工学科 講師 (平成25年10月)
124	兼担	講師	ワタナベ ノボル 渡辺 登 ＜令和5年4月＞	博士(保 健学)	感染症・免疫学	2後	2	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 講師 (平成17年4月)
125	兼担	助教	イナダ ナリサク 稲田 成作 ＜令和5年4月＞	大学卒	整形外科学	2前	0.7	1	杏林大学医学部 助教 (平成27年4月)
126	兼担	助教	イノウエ アツシ 井上 敦 ＜令和5年4月＞	修士 (保健福 祉学)	社会福祉学	1後	1.2	1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 助教 (平成24年4月)
127	兼担	助教	イノウエ コウザブロウ 井上 功三朗 ＜令和5年4月＞	大学卒	整形外科学	2前	0.7	1	杏林大学医学部 助教 (平成27年4月)

128	兼任	助教	オハラ アキ 小原 映 ＜令和5年4月＞		大学卒		薬理学	2前	1.0	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 助教 (平成28年4月)
129	兼任	助教	クスダ ミナ 楠田 美奈 ＜令和5年4月＞		修士(保健学)		公衆衛生学Ⅱ	2後	0.1	1	杏林大学保健学部 看護学科 看護養護教育学専攻 助教 (平成24年4月)
130	兼任	助教	コグレ エイキ 木暮 英輝 ＜令和5年4月＞		博士(保健学)		生理学実習	2前	1.0	1	杏林大学保健学部 臨床工学科 助教 (平成27年4月)
131	兼任	助教	サカクラ ケンゴ 坂倉 健吾 ＜令和5年4月＞		大学卒		整形外科学	2前	0.7	1	杏林大学医学部 助教 (平成27年4月)
132	兼任	助教	サトウ ユキノリ 佐藤 行紀 ＜令和5年4月＞		博士(医学)		整形外科学	2前	0.7	1	杏林大学医学部 助教 (平成26年4月)
133	兼任	助教	トウミヤ シゲ 東宮 繁人 ＜令和5年4月＞		大学卒		社会福祉学	1後	0.4	1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 助教 (平成29年4月)
134	兼任	助教	ヒラサワ アイ 平澤 愛 ＜令和5年4月＞		博士(工学)		公衆衛生学Ⅱ 保健・医療の現状と未来Ⅱ	2後 1前	0.1 0.1	1 1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 助教 (平成28年4月)
135	兼任	客員教授	チハラ ノブヨシ 知原 信良 ＜令和5年4月＞		経済学 士		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 客員教授 (令和4年4月)
136	兼任	客員教授	ワタベ カズヒコ 渡部 和彦 ＜令和5年4月＞		医学博 士		神経内科学	2後	2.0	1	杏林大学保健学部 客員教授 (令和4年4月)
137	兼任	講師	イワタマ ミチヒロ 岩隈 道洋 ＜令和5年4月＞		修士(邦 楽)		労働衛生法規Ⅱ	2前	2.0	1	杏林大学 総合政策学部 非常勤講師 (平成31年4月)
138	兼任	講師	エリック ユージン Eric Eugene トラウトマン Trautman ＜令和5年4月＞		大学卒		英会話	1前後	2.0	1	杏林大学 保健学部 非常勤講師 (平成29年4月)
139	兼任	講師	オオイシ ユカ 大石 有香 ＜令和5年4月＞		修士(学 術)		ことばと社会	1前後	4.0	2	杏林大学 保健学部 非常勤講師 (令和2年4月)
140	兼任	講師	オザキ モエコ 尾崎 萌子 ＜令和5年4月＞		修士(文 学)		医学英語	2後	2.0	1	杏林大学 保健学部 非常勤講師 (令和3年4月)
141	兼任	講師	ジェームス ドナルド James Donald ボルドウィン Baldwin ＜令和5年4月＞		大学卒		英会話	1前後	2.0	1	杏林大学 保健学部 非常勤講師 (平成27年4月)
142	兼任	講師	タナカ イシキ 田中 伊式 ＜令和5年4月＞		大学卒		日本語表現法	1後	2.0	1	杏林大学 保健学部 非常勤講師 (平成24年4月)
143	兼任	講師	ヒロタ ナオミ 廣田 尚美 ＜令和5年4月＞		修士(文 学)		英語プレゼンテーション 英語読解 保健医療英語	1前 1後 2前	2.0 2.0 2.0	1 1 1	杏林大学保健学部 非常勤講師 (平成28年4月)
144	兼任	講師	フルカワ ヨシコ 古川 佳子 ＜令和5年4月＞		修士(人 間科学)		臨床心理学概論	2前	1.0	1	杏林大学保健学部 非常勤講師 (令和4年4月)
145	兼任	講師	ヨシエ ヒデカズ 吉江 秀和 ＜令和5年4月＞		修士(文 学)		芸術	1前後	4.0	2	杏林大学 総合政策学部 非常勤講師 (平成22年4月)

教 員 の 氏 名 等												
(保健学部リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職 務 に 従 事 す る 週 当 たり 平 均 日 数
1	専	教授	イケダ カズマ 池田 一磨 <令和5年4月>		博士 (数学)		数学 見学実習 評価実習 総合実習 卒業研究	1前 1前 3後 4前 4通	2.0 1.0 4.0 10.0 3.0	1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 作業療法学科 准教授 (令和4年4月)	5日
2	専	教授 (学科 長)	イシダ ミヨコ 石毛 美代子 <令和5年4月>		博士(医学)		言語聴覚障害学概論 言語聴覚障害診断学 音声障害学 吃音学 構音障害学Ⅱ 構音障害学演習 聴覚障害学演習Ⅰ 聴覚障害学演習Ⅱ 見学実習 評価実習 総合実習 臨床言語聴覚療法演習 総合言語聴覚療法演習 言語聴覚学研究法 卒業研究	1前 3後 3前 2前 2後 3前 2後 3前 1前 3後 4前 3後 4後 3後 4通	1.0 1.0 2.0 2.0 2.0 1.0 1.0 1.0 1.0 4.0 10.0 1.0 1.0 1.0 3.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 作業療法学科 教授 (令和4年4月)	5日
3	専	教授 (学部長)	オカジマ ケストモ 岡島 康友 <令和5年4月>		医学博士		保健・医療の現状と未来Ⅰ リハビリテーション医学 見学実習 評価実習 総合実習 卒業研究	1前 2後 1前 3後 4前 4通	0.1 0.8 1.0 4.0 10.0 3.0	1 1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 作業療法学科 教授 (令和4年4月)	5日
4	専	教授	タケダ サト 竹田 里江 <令和5年4月>		博士 (作業療法学)		見学実習 評価実習 総合実習 卒業研究	1前 3後 4前 4通	1.0 4.0 10.0 3.0	1 1 1 1	杏林大学保健学部 臨床心理学科 教授 (平成30年4月)	5日
5	専	准教授	イシイ ユキ 石井 由起 <令和5年4月>		博士(行動科 学)		心理言語学 高次脳機能障害学 失語・高次脳機能障害学Ⅰ 失語・高次脳機能障害学演 習Ⅰ 失語・高次脳機能障害学Ⅱ 失語・高次脳機能障害学演 習Ⅱ 聴覚障害学Ⅰ(成人・重複 障害含む) 聴覚障害学演習Ⅰ 聴覚障害学演習Ⅱ 言語聴覚療法管理学 見学実習 評価実習 総合実習 臨床言語聴覚療法演習 総合言語聴覚療法演習 言語聴覚学研究法 卒業研究	1後 1後 2前 3前 2後 3後 2前 2後 3前 3後 1前 3後 4前 3後 4後 3後 4通	2.0 2.0 2.0 1.0 2.0 1.0 2.0 1.0 1.0 2.0 1.0 4.0 10.0 1.0 1.0 1.0 3.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北文化学園大学医 療福祉学部リハビリ テーション学科言語 聴覚学専攻 講師 (令和2年4月)	5日
6	専	准教授	コバヤシ テツコ 小林 賢子 <令和5年4月>		修士(保健学)		小児科学 見学実習 評価実習 総合実習 卒業研究	2後 1前 3後 4前 4通	1.0 1.0 4.0 10.0 3.0	1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 作業療法学科 准教授 (令和4年4月)	5日
7	専	講師	オオモリ フサ 大森 露恵 <令和5年4月>		博士(小児発 達学)		言語発達学 言語発達障害学Ⅰ 言語発達障害学演習Ⅰ 言語発達障害学Ⅱ 言語発達障害学演習Ⅱ 聴覚障害学Ⅱ(小児) 聴覚障害学演習Ⅰ 聴覚障害学演習Ⅱ 見学実習 評価実習 総合実習 臨床言語聴覚療法演習 総合言語聴覚療法演習 言語聴覚学研究法 卒業研究	1後 2前 2後 2後 3前 2後 2後 3前 1前 3後 4前 3後 4後 3後 4通	2.0 2.0 1.0 2.0 1.0 2.0 1.0 1.0 1.0 4.0 10.0 1.0 1.0 1.0 3.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	帝京大学ちば総合医 療センター 耳鼻咽 喉科 言語聴覚士 (平成19年6月)	5日

25	兼担	教授	カナメ シンヤ 要 伸也 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成19年2月)
26	兼担	教授	カワムラマリ 川村 真理 ＜令和5年4月＞		博士 (法学)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成30年4月)
27	兼担	教授	キシノ トモノリ 岸野 智則 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		内科学Ⅰ	2前	0.7	1	杏林大学保健学部 臨床工学科 教授 (平成26年4月)
28	兼担	教授	キタジマツトム 北島 勉 ＜令和5年4月＞		博士 (保健学)		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成21年4月)
29	兼担	教授	クボタ ヒロシ 窪田 博 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成14年4月)
30	兼担	教授	クラバヤヒデオ 倉林 秀男 ＜令和5年4月＞		博士 (英語学)		社会と大学Ⅲ	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 英語学科 教授 (令和2年4月)
31	兼担	教授	コウザキ コウイチ 神崎 恒一 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成17年1月)
32	兼担	教授	コグレ ケンタロウ 木暮 健太郎 ＜令和5年4月＞		修士 (政治学)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (令和2年4月)
33	兼担	教授	コバヤシヨウイチ 小林 陽一 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成22年7月)
34	兼担	教授	コンドウ ハルヒコ 近藤 晴彦 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成24年4月)
35	兼担	教授	サイトウコウイチロウ 齋藤 康一郎 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成27年4月)
36	兼担	教授	サイトウ サトシ 齋藤 智志 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		教育学	1後	2.0	1	杏林大学外国語学部 英語学科 教授 (平成24年4月)
37	兼担	教授	サイトウカシ 斎藤 崇 ＜令和5年4月＞		博士 (経済学)		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成28年4月)
38	兼担	教授	サカモト 坂本 ロビン ＜令和5年4月＞		博士 (教育学)		社会と大学Ⅲ	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 英語学科 教授 (平成22年4月)
39	兼担	教授	シオカワ ヨシアキ 塩川 芳昭 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成4年6月)
40	兼担	教授	シバタ シゲキ 柴田 茂貴 ＜令和5年4月＞		博士(医学)		内科学Ⅰ	2前	0.8	1	杏林大学保健学部 理学療法学科 教授 (平成30年4月)
41	兼担	教授	シマダ アツヨシ 島田 厚良 ＜令和5年4月＞		医学博士		病理学	2前	0.5	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 教授 (平成29年4月)
42	兼担	教授	シムラ ヨシヒロ 志村 良浩 ＜令和5年4月＞		社会科学士		社会と大学Ⅲ	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 観光交流文化学科 教授 (平成26年4月)
43	兼担	教授	シモジマ ユミ 下島 裕美 ＜令和5年4月＞		博士 (心理学)		学習・言語心理学	1後	2.0	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 教授 (令和3年4月)

44	兼担	教授	シンボウテツオ 進邦 徹夫 <令和5年4月>	修士 (法学)		社会と大学 I	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成24年4月)
45	兼担	教授	ソエジマ キョウコ 副島 京子 <令和5年4月>	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 I	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成23年10月)
46	兼担	教授	タクシマ アキヒコ 多久嶋 亮彦 <令和5年4月>	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 II	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成15年4月)
47	兼担	教授	タナカ コウスケ 田中 浩輔 <令和5年4月>	理学博士		職業適性論 基礎生物学	1後 1前	0.4 1.0	1 1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 教授 (平成27年4月)
48	兼担	教授	タナカ ノブヒロ 田中 信弘 <令和5年4月>	商学修士		社会と大学 II	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 教授 (平成16年4月)
49	兼担	教授	タルイ タケヒコ 樽井 武彦 <令和5年4月>	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 II	1前	0.1	1	杏林大学保健学部 救急救命学科 教授 (令和2年4月)
50	兼担	教授	チノ マリコ 千野 万里子 <令和5年4月>	博士 (学術)		社会と大学 III	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 中国語学科 教授 (令和4年4月)
51	兼担	教授	デジマ ヤスシ 出嶋 靖志 <令和5年4月>	博士(保健学)		医学総論 衛生学 I	1前 2前	2.0 2.0	1 1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 教授 (平成27年4月)
52	兼担	教授	テルヤ ヨウジ 照屋 浩司 <令和5年4月>	医学博士		衛生学 II	2後	0.5	1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 教授 (平成19年4月)
53	兼担	教授	ナイトウタカオ 内藤 高雄 <令和5年4月>	博士 (経済学)		社会と大学 II	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 教授 (平成17年4月)
54	兼担	教授	ニシ タカシ 西 孝 <令和5年4月>	経済学 修士		社会と大学 II	1前	0.3	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成13年4月)
55	兼担	教授	ハラダ ナナコ 原田 奈々子 <令和5年4月>	商学修士		社会と大学 II	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 教授 (平成18年4月)
56	兼担	教授	ヒサマツ タダカズ 久松 理一 <令和5年4月>	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 I	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成27年4月)
57	兼担	教授	ヒラカタ アキト 平形 明人 <令和5年4月>	医学博士		保健・医療の現状と未来 I	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成4年10月)
58	兼担	教授	ヒラノ テルユキ 平野 照之 <令和5年4月>	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 I	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成26年9月)
59	兼担	教授	フナガ カズヨシ 福長 一義 <令和5年4月>	博士 (工学)		職業適性論 保健・医療の現状と未来 II	1後 1前	0.1 0.1	1 1	杏林大学保健学部 臨床工学科 教授 (平成30年4月)
60	兼担	教授	フクハラ ヒロシ 福原 浩 <令和5年4月>	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 I	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成30年4月)
61	兼担	教授	フルセ ジュンジ 古瀬 純司 <令和5年4月>	博士 (医学)		保健・医療の現状と未来 II	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成20年3月)
62	兼担	教授	フルモトヤスユキ 古本 泰之 <令和5年4月>	修士 (観光学)		社会と大学 III	1前	0.3	1	杏林大学外国語学部 観光交流文化学科 教授 (令和3年4月)

63	兼担	教授	ミヤビ ヒロコ 宮首 弘子 <令和5年4月>		博士 (学術)		社会と大学Ⅲ	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 中国語学科 教授 (平成28年4月)
64	兼担	教授	ムラベ タモミ 村部 妙美 <令和5年4月>		社会学修士		心理的アセスメント	3前	2.0	1	杏林大学保健学部 臨床心理学科 教授 (令和30年4月)
65	兼担	教授	ヤマグチ ヨシヒロ 山口 芳裕 <令和5年4月>		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成8年9月)
66	兼担	教授	ヤマダ シン 山田 深 <令和5年4月>		博士(医学)		リハビリテーション医学	2後	0.3	1	杏林大学医学部 教授 (令和2年4月)
67	兼担	教授	ヤマダ マコト 山田 慎 <令和5年4月>		博士(学術)		基礎物理学 物理学概論	1前 1後	1.0 2.0	1 1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 教授 (令和2年4月)
68	兼担	教授	ヨコヤマ ケンイチ 横山 健一 <令和5年4月>		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成7年4月)
69	兼担	教授	ヨロズ トモコ 萬 知子 <令和5年4月>		医学博士		保健・医療の現状と未来Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成15年4月)
70	兼担	教授	リュウケキ 劉 迪 <令和5年4月>		博士 (法学)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成26年4月)
71	兼担	教授	ワタナベ コウイチロ 渡邊 衡一郎 <令和5年4月>		博士 (医学)		保健・医療の現状と未来Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学医学部 教授 (平成24年4月)
72	兼担	教授	ワタナベタクシ 渡辺 剛 <令和5年4月>		修士 (法学)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 教授 (平成29年4月)
73	兼担	特任教授	ミヤノ オサム 宮野 收 <令和5年4月>		大学卒		救命救助法	1前後	1.0	1	杏林大学保健学部 救急救命学科 特任教授 (平成29年4月)
74	兼担	准教授	イシイ サナエ 石井 さなえ <令和5年4月>		博士(医学)		生化学概論	1後	0.7	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (平成29年10月)
75	兼担	准教授	イチバ トモミ 一場 友実 <令和5年4月>		博士(理学療法 学)		運動学 運動学実習	2前 2後	2.0 1.0	1 1	杏林大学保健学部 理学療法学科 准教授 (平成30年4月)
76	兼担	准教授	オオニシケンジ 大西 健司 <令和5年4月>		博士 (法学)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 准教授 (令和4年4月)
77	兼担	准教授	オオヒサ トモコ 大久 朋子 <令和5年4月>		修士(障害科 学)		保健・医療の現状と未来Ⅱ 栄養学	1前 2前	0.1 1.0	1 1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 准教授 (平成30年4月)
78	兼担	准教授	オカモト ヒロテル 岡本 博照 <令和5年4月>		博士 (医学)		職業適性論 内科学Ⅱ	1後 2後	0.3 2.0	1 1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 准教授 (平成26年4月)
79	兼担	准教授	カスヤ タカン 糟谷 崇 <令和5年4月>		博士 (商学)		社会と大学Ⅱ	1前	0.3	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 准教授 (平成29年4月)
80	兼担	准教授	キタダ マリ 北田 真理 <令和5年4月>		博士 (法学)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 准教授 (平成31年4月)
81	兼担	准教授	クラタ サトシ 藏田 訓 <令和5年4月>		博士 (医学)		職業適性論	1後	0.1	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (令和2年4月)
82	兼担	准教授	コバヤシ ヒロコ 小林 博子 <令和5年4月>		博士(医学)		生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習	1前 1後 2前	0.9 0.3 1.0	1 1 1	杏林大学保健学部 臨床工学科 准教授 (平成18年4月)

83	兼担	准教授	シマムラナオユキ 島村 直幸 ＜令和5年4月＞		博士 (法学)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 准教授 (令和2年4月)
84	兼担	准教授	スミタ 角田 ますみ ＜令和5年4月＞		修士(人間科学)		人類遺伝学 生命倫理学	1前 1後	2.0 2.0	1 1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (平成31年4月)
85	兼担	准教授	セキ ケンスケ 関 健介 ＜令和5年4月＞		博士 (保健学)		職業適性論	1後	0.3	1	杏林大学保健学部 診療放射線技術学科 准教授 (令和4年4月)
86	兼担	准教授	タカハシ ヒロカズ 高津 博勝 ＜令和5年4月＞		博士(工学)		基礎化学	1前	1.0	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (平成31年4月)
87	兼担	准教授	タカタ キョウコ 高田 京子 ＜令和5年4月＞		修士 (商学)		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 准教授 (平成22年4月)
88	兼担	准教授	タキガミ シュウ 瀧上 周 ＜令和5年4月＞		博士(獣医学)		解剖学 解剖学実習	1前 1後	0.5 1.0	1 1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (平成25年4月)
89	兼担	准教授	ニシヤマケイコ 西山 桂子 ＜令和5年4月＞		博士 (観光学)		社会と大学Ⅲ	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 観光交流文化学科 准教授 (平成30年4月)
90	兼担	准教授	ハセベ ヒロミチ 長谷部 弘道 ＜令和5年4月＞		博士 (社会学)		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 准教授 (令和2年4月)
91	兼担	准教授	ハヤサカ トモナリ 早坂 友成 ＜令和5年4月＞		博士 (保健医療学)		職業適性論 リハビリテーション概論	1後 1後	0.1 1.0	1 1	杏林大学保健学部 作業療法学科 准教授 (令和4年4月)
92	兼担	准教授	ハンダ ヒデトシ 半田 英俊 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 准教授 (平成28年4月)
93	兼担	准教授	フジワラキワム 藤原 究 ＜令和5年4月＞		博士 (法学)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 准教授 (平成27年4月)
94	兼担	准教授	ホリグチ コウタロウ 堀口 幸太郎 ＜令和5年4月＞		博士(農学)		解剖学 解剖学実習	1前 1後	0.4 1.0	1 1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 准教授 (令和3年4月)
95	兼担	准教授	マツイ コウタ 松井 孝太 ＜令和5年4月＞		修士 (法学)		社会と大学Ⅰ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 准教授 (令和4年4月)
96	兼担	准教授	ミウラ ヒデオキ 三浦 秀之 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 准教授 (平成29年4月)
97	兼担	准教授	ミズタニ ナツコ 水谷 奈津子 ＜令和5年4月＞		博士(医学)		病理学	2前	0.5	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (平成31年4月)
98	兼担	准教授	ヤギハシ ヒロシ 八木橋 宏勇 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		社会と大学Ⅲ	1前	0.3	1	杏林大学外国語学部 英語学科 准教授 (平成25年4月)
99	兼担	准教授	ヤスエ エリコ 安江 枝里子 ＜令和5年4月＞		博士 (人文地理学)		社会と大学Ⅲ	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 観光交流文化学科 准教授 (平成28年4月)
100	兼担	准教授	ヤマキ アキコ 八巻 明子 ＜令和5年4月＞		博士(保健学)		生化学概論	1後	0.7	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (平成24年4月)
101	兼担	准教授	ヨシダ キョウカ 吉田 清隆 ＜令和5年4月＞		博士 (物理学)		統計学 情報処理論	1後 1前	2.0 2.0	1 1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 准教授 (平成31年4月)
102	兼担	講師	イケダ ナオヒロ 池田 尚広 ＜令和5年4月＞		修士 (学術)		社会と大学Ⅲ	1前	0.3	1	杏林大学外国語学部 中国語学科 講師 (平成29年4月)

103	兼担	講師	イシノ アキコ 石野 晶子 <令和5年4月>	修士(保健学)		衛生学Ⅱ	2後	0.1	1	杏林大学保健学部 看護学科 看護養護教育学専攻 講師 (平成28年4月)
104	兼担	講師	オザキ アイミ 尾崎 愛美 <令和5年4月>	法務博士 (専門職)		日本国憲法 社会と大学Ⅰ	1後 1前	2.0 0.1	1 1	杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 講師 (平成31年4月)
105	兼担	講師	カトウ タク 加藤 拓 <令和5年4月>	博士 (学術)		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 講師 (平成22年4月)
106	兼担	講師	スズキ ケンタロウ 鈴木 健太郎 <令和5年4月>	博士(作業療法 学)		人間発達学	1後	1.0	1	杏林大学保健学部 作業療法学科 講師 (平成23年4月)
107	兼担	講師	スダ ケンジ 須田 健二 <令和5年4月>	修士 (工学)		職業適性論	1後	0.1	1	杏林大学保健学部 臨床工学科 講師 (平成25年10月)
108	兼担	講師	セキザワ コウイチ 関澤 浩一 <令和5年4月>	博士 (保健学)		衛生学Ⅱ	2後	0.1	1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 講師 (平成26年4月)
109	兼担	講師	セノ シンイチロウ 瀬野 晋一郎 <令和5年4月>	博士 (保健学)		生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習	1前 1後 2前	1.1 0.7 1.0	1 1 1	杏林大学保健学部 臨床工学科 講師 (平成26年4月)
110	兼担	講師	ハセガワ ルミ 長谷川 瑠美 <令和5年4月>	博士(保健学)		解剖学 解剖学実習	1前 1後	0.3 1.0	1 1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 講師 (令和3年4月)
111	兼担	講師	フルカワ アヤコ 古川 綾子 <令和5年4月>	修士(人間科 学)		臨床心理学概論 言語の表現法 言語学 音声学 音響学・聴覚心理学	2前 1前 1後 1前 2前	2.0 2.0 2.0 2.0 2.0	1 1 1 1 1	杏林大学保健学部 臨床心理学科 講師 (令和3年4月)
112	兼担	講師	フジタ ユカリ 藤田 由香利 <令和5年4月>	博士 (学術)		社会と大学Ⅲ	1前	0.1	1	杏林大学外国語学部 中国語学科 講師 (平成29年4月)
113	兼担	講師	ミウラ タイシ 三浦 大志 <令和5年4月>	博士(心理学)		生涯発達心理学	1前	2.0	1	杏林大学保健学部 臨床心理学科 講師 (平成29年4月)
114	兼担	講師	ムラタ マキコ 村田 麻喜子 <令和5年4月>	博士(保健学)		生化学概論	1後	0.7	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 講師 (平成17年4月)
115	兼担	講師	モリ カズミ 森 数美 <令和5年4月>	博士 (保健学)		精神医学 外科学 脳神経外科学	2前 2後 2後	2.0 1.0 1.0	1 1 1	杏林大学保健学部 救急救命学科 講師 (平成30年4月)
116	兼担	講師	モンマ ヒロシ 門馬 博 <令和5年4月>	博士(保健学)		職業適性論	1後	0.1	1	杏林大学保健学部 理学療法学科 講師 (平成30年4月)
117	兼担	講師	ワタナベ アツシ 渡辺 篤志 <令和5年4月>	博士(保健学)		生理学実習	2前	1.0	1	杏林大学保健学部 臨床工学科 講師 (平成25年10月)
118	兼担	講師	ワタナベノボル 渡辺 登 <令和5年4月>	博士 (保健学)		感染症・免疫学	2後	2.0	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 講師 (平成17年4月)
119	兼担	講師	イケダ テツキ 池田 哲也 <令和5年4月>	博士 (医学)		臨床歯科医学 口腔外科学	3前 3前	1.0 1.0	1 1	杏林大学医学部 講師 (平成25年4月)
120	兼担	講師	オザキ ミネ 尾崎 峰 <令和5年4月>	博士 (医学)		形成外科学	3前	2.0	1	杏林大学医学部 准教授 (平成26年4月)
121	兼担	講師	マスダ マサツグ 増田 正次 <令和5年4月>	博士 (医学)		耳鼻咽喉科学	3前	2.0	1	杏林大学医学部 准教授 (令和2年4月1日)
122	兼担	助教	イノウエ アツシ 井上 敦 <令和5年4月>	修士 (保健福祉学)		社会福祉学	1後	1.2	1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 助教 (平成24年4月)
123	兼担	助教	オオシロ ナオミ 大城 直美 <令和5年4月>	博士(保健学)		病態運動学実習	3前	1.0	1	杏林大学保健学部 作業療法学科 助教 (平成24年10月)
124	兼担	助教	オハラ アキ 小原 映 <令和5年4月>	大学卒		薬理学	2前	1.0	1	杏林大学保健学部 臨床検査技術学科 助教 (平成28年4月)

125	兼担	助教	クスダ ミナ 楠田 美奈 <令和5年4月>		修士(保健学)		衛生学Ⅱ	2後	0.1	1	杏林大学保健学部 看護学科 看護養護教育学専攻 助教 (平成24年4月)
126	兼担	助教	コグレ エイキ 木暮 英輝 <令和5年4月>		博士(保健学)		生理学実習	2前	1.0	1	杏林大学保健学部 臨床工学科 助教 (平成27年4月)
127	兼担	助教	トウミヤ シグト 東宮 繁人 <令和5年4月>		大学卒		社会福祉学	1後	0.4	1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 助教 (平成29年4月)
128	兼担	助教	ヒラサワ アイ 平澤 愛 <令和5年4月>		博士(工学)		衛生学Ⅱ 保健・医療の現状と未来Ⅱ	2後 1前	0.1 0.1	1 1	杏林大学保健学部 健康福祉学科 助教 (平成28年4月)
129	兼任	客員 教授	チハラ ノブヨシ 知原 信良 <令和5年4月>		経済学士		社会と大学Ⅱ	1前	0.1	1	杏林大学 総合政策学部 客員教授 (令和4年4月)
130	兼任	客員 教授	ワタベ カズヒコ 渡部 和彦 <令和5年4月>		医学博士		臨床神経学 神経内科学	3前 2後	1.0 2.0	1 1	杏林大学保健学部 客員教授 (令和4年4月)
131	兼任	講師	エリック ユージン Eric Eugene トラウトマン Trautman <令和5年4月>		大学卒		英会話	1前後	2.0	1	杏林大学 保健学部 非常勤講師 (平成29年4月)
132	兼任	講師	オオイシ ユカ 大石 有香 <令和5年4月>		修士(学術)		ことばと社会	1前後	4.0	2	杏林大学 保健学部 非常勤講師 (令和2年4月)
133	兼任	講師	オザキ モエコ 尾崎 萌子 <令和5年4月>		修士(文学)		医学英語	2後	2.0	1	杏林大学 保健学部 非常勤講師 (令和3年4月)
134	兼任	講師	ジェームス ドナルド James Donald ドボルドウィン Baldwin <令和5年4月>		大学卒		英会話	1前後	2.0	1	杏林大学 保健学部 非常勤講師 (平成27年4月)
135	兼任	講師	タナカ イシキ 田中 伊式 <令和5年4月>		大学卒		日本語表現法	1後	2.0	1	杏林大学 保健学部 非常勤講師 (平成24年4月)
136	兼任	講師	ヒロタ ナオミ 廣田 尚美 <令和5年4月>		修士(文学)		英語プレゼンテーション 英語読解 保健医療英語	1前 1後 2前	2.0 2.0 2.0	1 1 1	杏林大学 保健学部 非常勤講師 (平成28年4月)
137	兼任	講師	ヨシエ ヒデカズ 吉江 秀和 <令和5年4月>		修士(文学)		芸術	1前後	4.0	2	杏林大学 総合政策学部 非常勤講師 (平成22年4月)

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
リハビリテーション学科理学療法学専攻										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	3人	人	1人	人	4人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	3人	4人	人	人	人	7人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	3人	人	人	人	人	3人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	1人	6人	7人	人	1人	人	14人	
	修 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
リハビリテーション学科作業療法学専攻										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	人	3人	2人	人	5人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	1人	1人	人	人	人	2人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	2人	2人	人	人	人	4人	
	修 士	人	1人	3人	人	人	人	人	4人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	3人	4人	3人	2人	人	12人	
	修 士	人	1人	3人	人	人	人	人	4人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	1人	2人	人	1人	4人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	1人	2人	2人	人	1人	6人	
	修 士	人	1人	人	1人	人	人	人	2人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。